桜庭＆藤田＆石沢、決戦5秒前！ 新生ノアに火種あり！

紙のプロレス RADICAL

30
2000

燃えよ！闘魂の火種!!

村上、佐竹を喰えるか!? オーちゃん、ヒクソン戦へ

8·27『PRIDE.10』決戦超直前大特集！

UFOの核弾頭飛来！
小川直也も援護射撃！
村上一成

桜庭和志の前に立ちはだかる
ヘンゾ・グレイシーはこんな奴！

"最凶のグレイシー"ハイアン戦に出撃！
石沢常光(ケンドー・カシン)**徹底研究！**

"大和魂"を"オスマン・トルコ魂"が直撃！
エンセン井上を
あのユセフ・トルコが大激励

マット界にハリケーン級の問題提起！

問題爆破座談会敢行！
「長州vs大仁田戦」
をブッタ斬る!!

禁断の『レスリング・ウィズ・シャドウズ』
をB・ロビンソン、宮戸優光が一刀両断！

やれんのかーッ！ どうなる『ReMix』？
渦中の桜庭あつこが独占告白!!

大注目！ノアにも"闘魂の火種"!!

"怒り"の矛先はどこへ？
秋山準

解禁＆禁断！大番頭
大いに語りまくる!! **永源遥**

デストロイヤー、全日分裂を語る！

KOK2000間近のリングス総特集

リングス世界進出の可能性を占う！
髙阪"TK"剛
金原弘光／滑川康仁

そして、リングスUSA大会で凄玉発掘！
トム・サワー／トゥーリー・クリハーパイ
バレット・ヨシダ／え？ブライアン・ジョンストン

紙のプロレス RADICAL NO.30
UFO、マット界の最前線を襲撃！

発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188

燃えよ！闘魂の火種!!

「闘魂」とは、日本プロレスの祖・力道山が好んで使い、その後、アントニオ猪木が代名詞とした言葉だ。

その猪木が引退するリング上に向かって、猪木の語り部である古館伊知郎はこう叫んだ。

「猪木は、すべての人間が内包している闘う魂をリング上で体現する宿命にあった。我々は猪木が闘いの果てに見せる表情に己自身を投影させてきたのだ！」

いま、"闘魂の火種"が各所で大きな炎を上げつつある。

ならば、いまのマット界に己自身を投影させることのできる、闘う魂をリング上で体現する宿命にあるものとは誰なのか？

小川直也、桜庭和志、田村潔司、秋山準、村上一成、藤田和之、そして石沢常光……。

ここに挙げた者たちを始めとする多くの選手に、そのカケラが燃え上がろうとしている。

今度は彼らが旅に出る番だ！

今こそ、燃えよ！

闘魂の火種!!

「（小川にも）いろいろなのがチョロチョロ言ってきてるから踏み潰せばいいんじゃねえの。ハエでも蚊でもさ、ブンブンきたら叩き潰さないとうるさいよ。ンムフフフ。」

（アントン総師）

格闘 SOUL FIRE

イラスト／キャプテン名倉

「なんで『紙プロ』は小川ばっか載せるんですか！（怒）。最近、試合もしてないし、今は芸能人じゃないですか！ 俺は試合レポートが見たいんですよ！ FMWとか」

この怒れる読者（17歳）からの電話をたまたま受けた吉田豪が、「試合レポートを月刊誌でやらない意味。なぜ小川がTV等に出演し知名度を上げようとしているのか」等を親切に伝えて差し上げると、「わ、わかりました」と多少腑に落ちない感はありながらも、納得してくれた様子。

確かにその気持ちもわからないでもない。『紙プロ』だってオーちゃんには試合をしてもらいたい。もっと傲慢な言い方をすれば『紙プロ』では、オーちゃんに試合をさせるように追い込んでいるつもりでもある。

だからといって、よく言われがちな「巡業に参加しろ！」ということを望んでいるわけではない。ズバリ言ってそんなオーちゃんは見たくねえんです！ いかに商品価値を保ち続けヒクソン戦を手中に収めるために飛び続けるオーちゃんの、ここ最近の動向を紹介しよう。まずは8月13日に渋谷のロックウエストでファンクラブを対象としたイベントを行った小川。村上一成と一緒ということもあってか軽いタッチの発言に終始したが、今後のスケジュールを聞かれると、「400戦無敗の男が日本で荒稼ぎしてるらしいんで、今度………」

なにっ、打倒ヒクソン宣言か？

「食事したいなぁと（笑）」

ズコッ！ やっぱり脱力発言のオーちゃん。しかし、今はまだ言えないのだが（シッシー風）、その裏での極秘特訓は日増しに激化しているのだ。

UFO本格始動

小川直也かく語りき

オーちゃん

「400戦無敗の男が日本で荒稼ぎしてるらしいんで今度……………食事したいなぁと」

そんな小川は、『紙プロ』と並び現在の主戦場（?）の『東スポ』紙上（8／19付）で、マット界に無差別襲撃を敢行！「自分だけの問題じゃないんだから安っぽい復活で、あの試合の価値を落としてほしくないね」とバッサリ橋本を切り捨てると、意外にも「勝敗と理屈を抜きに長州をリングに上げたっていう、大仁田サンの有言実行ぶりに『戦わずして負けた…』と思った。オレも大仁田サンに負けないぐらい、大きな仕掛けを考えなければいけないと肝に銘じたよ」と大仁田を認める発言。

しかしながら、ヒクソン戦を賭け小川との対戦をブチ上げたパンクラスの近藤が、一転UFCミドル級のタイトルマッチに専念するとの報道に対しては怒りの様子で「何だよソレ。人を勝手に名指ししてて、勝手に棚上げするなんて失礼なヤツだな。コンドウ君、君には怒りの感情がないのか?」との発言。このように小川の絶口調ぶりはうかがい知ることができるだろう。

この勢いを後押しするように、ここにきて前田総帥も「ヒクソンは小川とはやらないだろうね。もしやったとしたら、『こいつは勘違いしやがったな』と思うよ。何だかんだ言っても講道館柔道でトップまで行ってるんだから、今までのような試合にならないことだけは確かだよ」（Bang）マガジンと小川を評価する発言をしている。

闘魂の火種を携えたオーちゃんは聖火ランナーとしてサザンの茅ヶ崎ライブ襲撃（?）パフォーマンスも完了した。

オーちゃんの次の襲撃場所は『PRIDE』か?『コロシアム2000』か?それとも……

UFOのテロリスト満を持して『PRIDE.10』出撃!!

一成

Kazunari Murakami

vs UFO
世紀末異次元大戦、勃発!!

怪獣王国・国王を
喰ってみろ!!
UFO!
"マット界の首都"
上空に突如飛来!!
8・27村上VS佐竹戦は
ズバリ言って非常に
重要な一戦というか

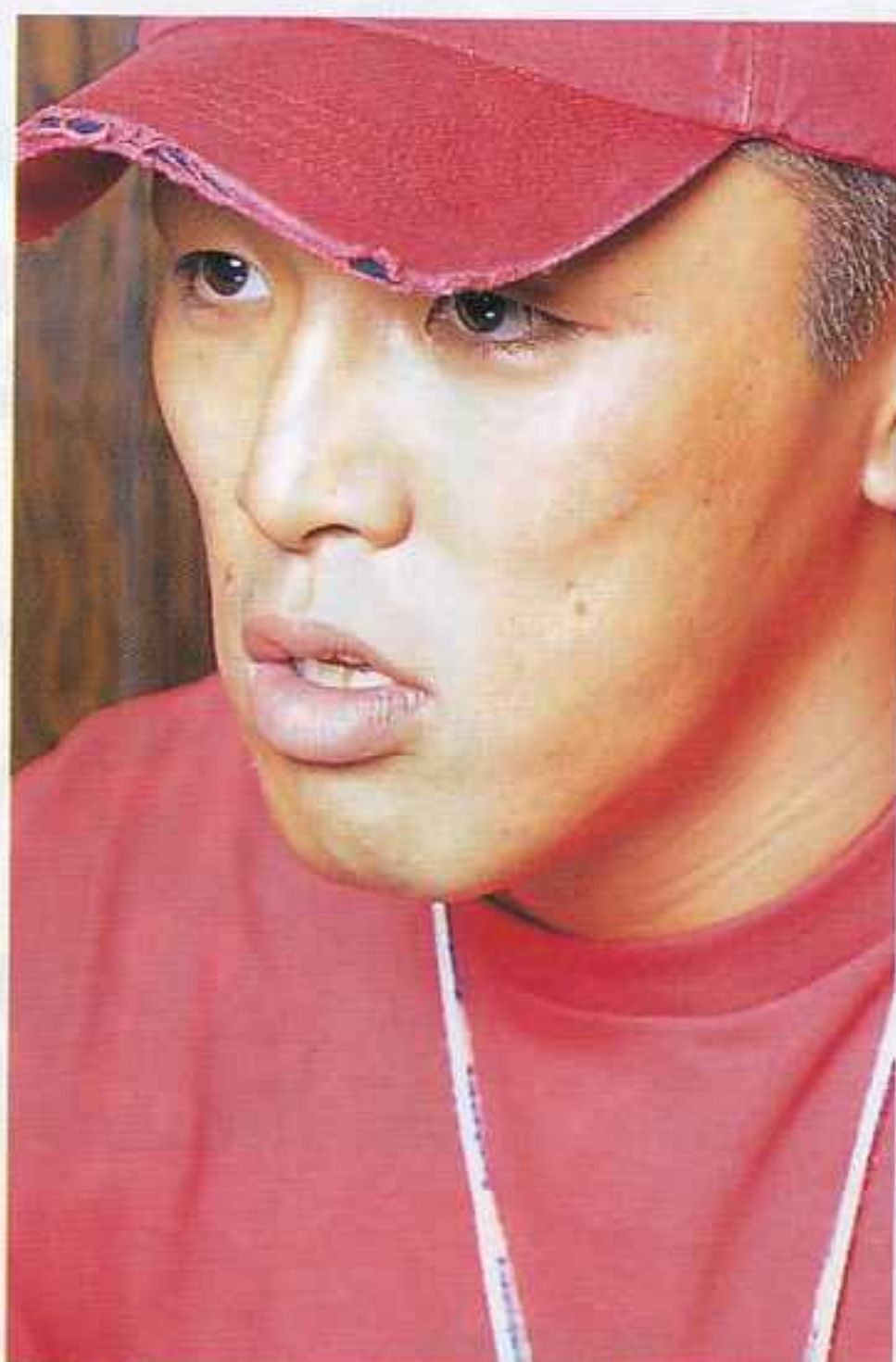
村上

格闘 SOUL FIRE

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／坂井ノブ
text by Sumo Nobu
試合写真／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

元気ですかーッ!?
えー、このたび、
UFOが再襲撃します!
『PRIDE』のリングを
村上一成が、
『PRIDE』という
真っ白いキャンバスの上で、
K—1出身の怪獣王国国王
佐竹雅昭を相手に
一体どんな絵を描くのか!?
ヒクソン戦へ向けて、
突っ走る兄貴分・小川直也と共に
世紀末マット界を熱く燃え上がらせる!
そしてUFO総帥アントニオ猪木も
この一戦を見守っている
テロリストとして、喧嘩番長として、
プロレスラーとして、
村上は一体どんな闘いを
突き刺してくれるのだろう?
それではみなさん、
いきますかーッ!?
イチ、
ニッ、
サンッ、
ヨイショッ!!
ダーッ!!

——今日はなんのインタビューかわかってますか?
村上　わかってますよ！　飯塚戦についてですよね。
——は？（笑）。
村上　ワハハハ！　間違えた、安田戦だった。
——ガハハハ！　違うっつーの。そういうわけで、8・27西武ドームで佐竹雅昭戦が正式決定しましたが、こないだの記者会見ではジャイアント落合選手と絡んでましたね。
村上　絡んだっていうか、カラまれたんですよ。「アレッ？」と思ったらどっか行っちゃってたんですよ、あのデブ。
——ジャイ落は途中で帰っちゃったらしいですね。
村上　「小川君が〜」とか言ってるから「小川君って、誰に言ってんだよ、コノヤロー！」って言ったら「小川さん」って言い直してるんですよ。
——ガハハハハ！　いいヤツじゃないですか（笑）。
村上　「ケンカ売っといて、言い直してんじゃねーよ！　終わってんな、こいつ」と思って。そう言った矢先に席を立って「イェーイ」とか言ってて。もう怒るとか、そういう次元じゃないですよ。
——バカ負けしましたか。
村上　つまんない！　もっと面白いことすればいいのに。
——ガハハハ！　佐竹選手は会見に来なかったですね。
村上　そうですね。「練習してたほうがいい」とか、訳のわからんこと言ってたらしいじゃないですか。「試合する」って言ったの自分でしょ？
——心理戦術かもしれないですね。
村上　そんなのしてる場合じゃないっつーの。
——佐竹選手って、どういうイメージだったんですか？
村上　K—1のイメージが凄い強かったですけど、こないだ『PRIDE』での試合を見て、違うジャンルに上がった選手だなあとは思いました。
——まだバーリ・トゥードでは2戦ししていないですよね。

小川さんには「思いっきり行けよ、好きなように暴れろ」と言われています

村上　3戦目で、ましてやネームバリューでいったら全然下の僕とやるんだし、日本人同士だし、違った戦略で挑んでくるんじゃないですかね？　思いっきり。「日本人に強い佐竹」ってK—1じゃ言われてましたからね。
——よく知ってますね（笑）。プロレスのことはほとんど知らないのに。
村上　K—1は見てましたから。
——じゃあ、バーリ・トゥードの選手っていうよりも……。
村上　K—1のイメージですね。
——佐竹選手は「今度はケンカファイトになる」って言ってましたけど。
村上　僕とやったらケンカファイトになるでしょ。ケンカファイトしかできないですもん。
——ガハハハ！　いつ、何時でもケンカファイト（笑）。
村上　そうですよ！　必然的にケンカファイトにならざるを得ないですよ。僕のキャッチフレーズを勝手に使わないでって感じですよ。
——「ケンカファイターは俺だぜ！」ってアピールしたいですね。
村上　お前はゴジラみたいに火でも吹いてろ！　怪獣王子っていうぐらいだったらねぇ。
——ガハハハ！　うまいっ！　佐竹選手、34歳ですけど、年齢的な開きとかは気になりますか？
村上　あ、34歳なんですか？　もっと若いと思ってた（笑）。
——立ち技では向こうのほうが上だっていう認識は、当然あるんですよね。
村上　もちろん、それはありますよ。あれだけの地位を獲得して、あれだけの実力とネームバリューがあったわけですからね。それは認めますし。でも、それを総合の中にどう持ってくるかの問題だと思うし。今回、そういう立ち技の本当の選手ってモーリスと痛い二人目でしょ。それを考えると「一発は怖いな」って思いますね。捕らえるのは凄いうまいと思うんで。
——モーリスにエクストリームでああいう形で負けてるんで、逆にKO負けが怖いとか、そういう意識はないでしょ。
村上　あ、ないですよ、全然。やっぱり、

負けるんだったら派手に負けたいじゃないですか。
――ガハハハ！
村上　判定でどうのこうのとかショボいこと言わないで、やるかやられるか、どっちかでいいじゃないですか。
――気持ちいいですね（笑）。ここでもUFOの精神が息づいているわけですね。
村上　負けたら、負けたで納得できないと思いますけど、それはまた次のステップってことで。
――「やる前から負けることを考えるバカがいるか」と。
村上　そう、それだったらリングに上がってんじゃねぇということです。「ションベンして寝てろ」って感じ。
――ガハハハ！　口悪いですね。この試合に関しては「膠着はしないだろうな」って気はしますけどね。勝つにしても、負けるにしても派手に行ってくれるだろうという期待だけは持てます。
村上　やっぱりドーンと行かないと。
――じつは、佐竹選手の若い頃って、ストレートで、明るく元気だったからいまの村上選手とキャラが被ってる部分もあるんですよ。
村上　でも、僕はマニアじゃないですよ（口を尖らせて）。
――あっ、怪獣マニアじゃない（笑）。なんか、マニアックな部分はないんですか？
村上　かなり下ネタは掘り下げてるつもりなんですけどねぇ。
――どんなマニアックだ（笑）。
村上　あとはバカが好き！
――「バカ」という概念に対してマニアック、と（笑）。
村上　マニアック！　尊敬しますよ、バカって凄いじゃないですか。
――なるほど（笑）。で、佐竹戦が決まって、小川選手からは何かメッセージはもらったんですか？
村上　「いままで通りに一生懸命やって、メンタル面とかはしっかりしとけよ。あんまり戦略とか考えると、どうしても縮こまっちゃうから。とりあえず、思いっ切り行けよ、好きなように暴れろ」って。たぶん会長もそう言ってくれるんじゃないかな？
――特に「ここを注意しろ」とか、「こういう戦略を立てろ」とか、細かいことはいつものようにナシと。
村上　「とりあえず行け」っていうこと以外は何もないですね。
――いまは小川選手とともに秘密特訓してるそうですけど、成果はいかがですか？
村上　……じつはいままで黙ってましたけど、いま立ってるのがやっとの状態なんです。
――ガハハハ！　やっぱり。顔が疲れてますもん。

Kazunari Murakami

村上　そこの人たちを「全部倒せ」って言われるわけです、150キロぐらいある人とかを。中には、どんなヤツとやっても絶対負けない人っていうのもいるんですよ。それを「倒せ」って言うんですからねぇ。
――でも、それは膠着する相手の対策としてはいいんじゃないですか？
村上　でもね、今回っていままでにない気持ちなんですよね。確かに、勝たなきゃいけないっていう気持ちはあるんですけど、それを超えてるものっていうのが「ガンガン行って楽しくやろうぜ」っていうのが自分の中にあって。
――勝負を意識しながらも面白くガンガン行けるっていう感じですか。
村上　これって、UFOに入って2年近くなりますけど、そこで積み上げられてきたものなのかなって思います。新日本プロレスという舞台とか、いろんな舞台に上がってますけど、今回『PRIDE』って元の鞘に帰るようなもんじゃないですか。そう考えると「緊張しなきゃいけないのかな？」って思うんですけど、恐怖感もないし。逆に「こんなんでいいのかな？」って。
――いや、いいと思いますよ。プロとして成長してるっていう部分でしょうし。
村上　全然なんとも思わないんですよね。
――だって『PRIDE.1』の第一試合に出た頃は、猪木さんに「お前はキャンバスにどんな絵を書くんだ」って言われて「勝ち負けです」って言ってた頃ですもんね。
村上　言ってましたねぇ。
――当然、今度は勝ちを狙っていかなきゃいけない勝負ですけどね。
村上　そうですね。ガンガン行きますよ。
――その上で、どれだけ自分も楽しめて、お客さんも楽しめるかっていう。
村上　いかに怪獣王国を滅ぼすかっていうことですね。
――なるほど（笑）。怪獣王国で思い出しましたけど、ジャイアント落合が記者会見のときに「ウチの国王とやるのは10年早い」って言ってましたけど。
村上　「早い」っていうか、国王がこの

格闘 SOUL FIRE

佐竹vs村上戦への流れ①
佐竹国王がアントン総師へ橋本・安田戦を直訴！

7月29日、帝国ホテル「牡丹の間」にて、ケンドー・カシンの『PRIDE』参戦の発表記者会見が開催された。森下社長、アントン、石沢が出席し、会見途中には、前日アメリカ合宿から帰国していた藤田も姿を現すなど、まさに"闘魂の火種"の行く先に期待を抱かせる会見となったが、会見終了間際に佐竹雅昭が登場。アントンに対して「新日本の選手と闘わせて下さい！」と直訴！あまりに唐突な対戦表明であった。

新日勢との対戦を直訴した佐竹と向き合うアントン。一瞬、報道陣の間に緊張感が走ったのだが、「やれんのかーッ！」と叫ぶこともなく、「返事はできないけど」と解答。

佐竹vs村上戦への流れ②
村上とジャイアンが一触即発!!

佐竹対新日勢の対戦は実現することなく、急転直下で村上との対戦が決定！　佐竹対村上の対戦発表記者会見が8月10日、新宿京王プラザホテルにて開催の予定だったが、よっぽど新日の選手と闘いたかったのか、佐竹が無断欠席！　ジャイ落と村上の2人による会見となった。　村上の「当日も尻尾まいて逃げられたら困る」という発言に、「お前が国王とやるなんて10年早いんだよ！」とジャイ落が突如暴発！

当初は冷静に話を聞いていた村上だったが、ジャイ落の「小川クンはどうしたんだよ！」という小川をクン付け発言には「このボケカス！」と激怒。

最初にコメントを求められても、犬のマネなのか「ワン！」としか話さなかったジャイ落。佐竹国王の欠席理由は「ボクはただのしもべなんで」とのこと。

カードを飲んだんだから、いいじゃねえかよ。なにをガタガタ言ってんだろ？　カードの発表だって言ってんのに。発表の前だったらわかるけど。

――ガハハハ！　決まってから「10年早い」って言われても。

村上　「お前は俺に口聞くの、100年早い！　ボリショイサーカス行って鍛えてもらえ、バカヤロー！」あの顔はないだろうって思いますけどね。あの、紙風船付いてる笛「ピーッ」てやってるの見て、「こいつ、頭大丈夫かな？」って思いましたもんねぇ。

――おちゃらけにも一流から五流まであると。話を国王に戻しましょう（笑）。佐竹選手の立ち技については、恐怖感はないんですか？

村上　いや、待ってらんないでしょ。合わせるつもりはないですし、チャンスがあれば殴りますし。それは流れでどうなるか、わかんないですけどね。

――試合の決定が、急と言えば急だったじゃないですか。そのへんに関しては？

村上　このほうがいいですね。

――そうですか！　頼もしいなぁ。

村上　2ヶ月前から発表とかだと、どっか行かなきゃいけないじゃないですか。そういう面倒くさいし。

――「どっか行かなきゃ」って、どこ行くんだ（笑）。

村上　記者会見とか、なんだかんだって長いじゃないですか、スパンが。面倒くさいですからね。そういうことよりも、パッと行って集中してやって、「はい、終わり！」っていうのが。

会長（＝A・猪木）と出会って感じてきたことを出して行かなきゃいけない!!

――そういう選手、珍しいですね。猪木さんも「急に決まったって、いつ何時でも行けるんだから」って言ってましたけどね。

村上　「なにも考えてない」みたいなことも言われてましたからね（笑）。確かにそうなんですけどね。「見透かされてるよ」と思いましたけどね。

――ガハハハ！　最近猪木さんとは話しました？

村上　いや、全然。今度の試合前になんて言われるか。

――また脳味噌にグサッと来るようなことを言ってくれますよ、きっと。

村上　それが刺さったまま、僕は歩き出しますよ。

――ガハハハ！　『PRIDE』のほかの試合は意識しないですか？

村上　あ、全然しないです。

――さっきも言ってた『PRIDE』に戻るっていう部分ですけど、『PRIDE．1』の頃と、いまの『PRIDE』と、全然違いますよね。

村上　違いますねぇ。

――『PRIDE』っていうものに対しては、どう思ってるんですか？

村上　僕はただの一つの箱だと思ってますけどね。『PRIDE』っていうネーミングがどうのこうのとか、思いとか、そういうのはないですね。闘える場所を提供してくれてるとしか思ってないんで。

――大きいとか、小さいとかは？

村上　関係ないですね、深いとか、浅いとかも関係ないです（笑）。みんな『PRIDE』に出たい」とか、「これに出たい、あれに出たい」っていいますけど、「それに出たからって、なんなの？」って思いますけどね。どこに上がったって、一生懸命やれば一緒だと思いますよ。「お前は出てるから、そう言えるんだよ」って言われるかもしれないですけど。

――一回目の第一試合で出てるし。

村上　「新日本のドームに上がってゴールデンタイムで流れてんだろ、そういうのやってるから、言えるんだよ」って言われても、しょうがない面もあるんでしょうけど、それは一概に言えないんじゃないの？　僕はどこでも一緒の気持ちで上がってますし。

――8月7日には新宿プロレスという300人のキャパでやってますからね。

村上　奥歯は折れるは、大変でしたよ、もう。

――あの試合はオモロかったなぁ、ホンットに。島田裕二レフェリーが会場のうしろのほうで見てて「これ、プロレスじゃないですよねぇ！」って興奮して言ってましたもん（笑）。

村上　見に来てる人たちもそうなんですけど、内側にいる人たちが興奮する試合をしたいなっていうのは、あるんですよ。やっぱり試合をやるにも、お客さんはもちろんそうなんですけど、それを支えるスタッフの力っていうか、いかに興奮するかっていう。

――それによって熱の量が違いますから

ね。

村上　シビれかたも違うと思うんで。地下に眠ってるマグマの力が違うと思うんですよ。それに火を点けるのはお客さんですから。逆に、それに負けずに乗っていかないといけないと思うんですけど。

—俗に言う求心力ですよね。

村上　こないだは、それがあったのかなって。

—ボク、新宿プロレスってストリップもあるし、コントもあるし、芸人さんの出し物もあるし、わけわかんない空間だなっていうのもあったんですけど、こないだみたいにメインでビシッと見せられると、「こういうのも、プロレスのひとつだな」って思いますね。

村上　締めるとこっていうか、みんなが自分の持ち場をいかにしっかり出していけるかで、違うと思うんですよね。そういうときに「この会場は小っちゃいから」とか、消化試合の気持ちで上がってたら、そこで終わりなんじゃないかと思いますけどね。

—でも、周りからは「あんなとこ、出ないほうがいい」とか言われたんじゃないですか？

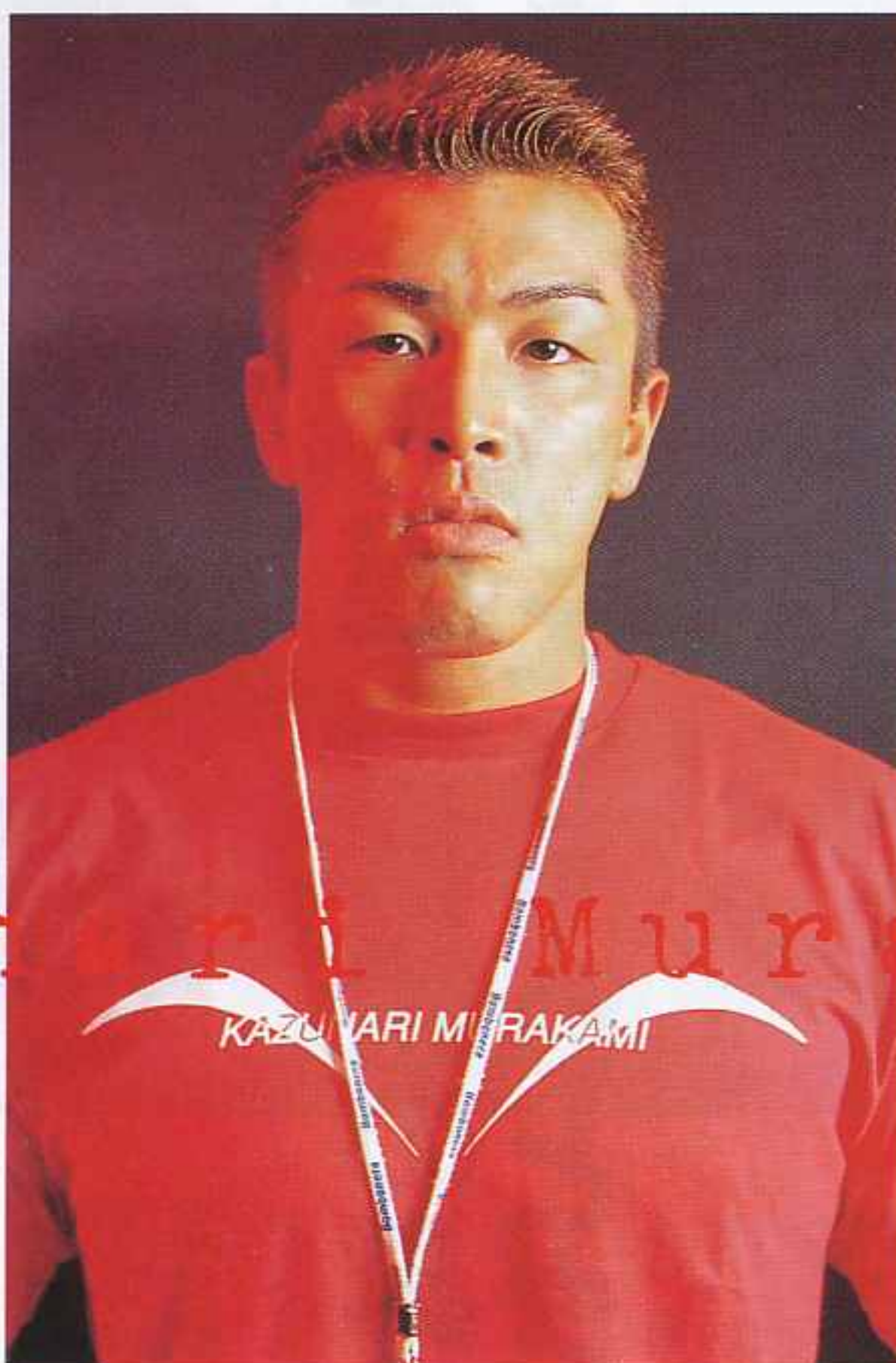
村上　「なんであんなとこ出んの？」って言われましたよ。「あんなとこって言うけどね、逆に出れないよ」って言ってやりましたけど。

—ガハハハ！　あそこは確かに出れないですね（笑）。あれは選ばれし者の恍惚の場ですよ。

村上　僕、結構好きですけどね。ドームとかでやらしてもらう試合も凄いですけど、それ以外にああいうキャパの小っちゃいところでできるっていう、両方行ったり来たりできるのは、なかなかないと思うんで。いろんな見かたができるから、面白いと思うんですけどね。

—小川選手が言う「プロレスを知らない人にも届かせたい」っていう遠心力と、さっきの「内側にいる人に熱を持って見てもらいたい」っていう求心力の二つを持つということですよね。

村上　確かにそうですね。

—それは〝猪木プロレス〟ですからね。

村上　それがうまく擦りあっていかないと、一方通行になって、肩透かしみたいになっちゃうんですよね。ファンの人にも「絶対今度も行く！　チケット予約しようぜ」っていうぐらいの勢いにさせて帰らせてあげないと。次にもっといい会場作りっていうか、「みんなで選手を盛り上げよう」っていう気持ちにスタッフの人がなるような試合を、僕ら選手が与えてあげなきゃいけないっていう面もあるんで。選手はお客さんじゃないんだから、ただ試合やるんじゃなくて、それを提供してくれてる人たちに応えるためにもって思ってるんですけどね。

—やってる選手にそういう意識がないと、スタッフにもなかなか熱は生まれないですからね。

村上　そのへんは、僕もホントに最近気付いたことですから。会長と小川さんと会ってよかったと思いますよ。

—オトナだなぁ。村上一成とは思えないですねぇ（笑）。

村上　ワハハハ！　たまにはこういうこともあるんですよ！

—ある人が言ってましたけどね、「猪木さんに会う前の村上一成と、いまの村上一成とは全然違う」って。

村上　へぇ〜っ。

—「猪木さんに会う前は、ストレート過ぎるというか、そのストレートさで墓穴を掘るというか、周りが全然見えてない部分もあったけど、いまはキャンバスにどうやって絵を描くかという部分も含めて、よく周りが見えてる部分もあるんじゃないかな」と言ってましたけどね。

村上　人の気持ちっていうか、一人じゃ試合できないわけですから。まず相手がいて、初めて試合できるわけで。あとは周りに支えられて、周りに見てくれてる人がいて、僕らの気持ちを昂ぶらせてくれて、引き立たせてくれるんですから、ヒートさせてもらったぶん、ヒートさせてあげないといけないから。それはみんながいろんな意味で熱くなれれば。そうなったときに、一つの球となって飛ぶんじゃないかなと思うんですよ。

—熱いと言えば、西武ドーム、暑いですよ。冷房が効かないらしいという話もありますし。

村上　なんでそんなの作ったんですかねぇ？

—ガハハハ！　球場事情に詳しくないんで、ちょっとわかんないですけど。

村上　なんなんだろう？

—天気的にも、リングの闘い的にも、灼熱の闘いになりそうじゃないですか。

村上　面白いんじゃないですか？

—面白いですよ。ボクもね、熱を生みましたよ『PRIDE.10』に対して。冷めてたんですけどね（笑）。UFOの選手として出ていくって気持ちはありますか？

村上　それはありますね。それが植え付けられてるっていうか、会長と出会って感じてきたことを出していかなきゃいけないっていうか。その気持ちでリングに上がる以上は、UFOを背負って出てるっていうか。UFOで学んだことですから、UFOとして出なきゃいけないなっていうのはありますよ。小川さんたちにもこれまで協力してもらった以上は、それに応えるべきだと思いますし。

—UFO vs怪獣王国ですからね（笑）。

村上　この世の存在しないもんばっかりじゃないですか！

—プロレスラーとして出ていくという意識はないんですか？

村上　それはありますよ。前みたいに「俺は総合格闘技だけだぜ」っていうのは全くないですよ。いま「プロレスラー」って言われるのか、「格闘家」って言われるのか、どう取られてもいいですけど、UFOにいる以上は、レスラー村上一成

Kazunari Murakami

として出て行きたいっていうのはありますね。

—プロとしてなにを見せるかっていう部分でですよね。レスラーであれ、格闘家であれ。

村上　はい。「僕はここが成長しました」っていうのを見せたいですね。「人間変わりました」っていうのを。向かう姿勢が違うから、顔つきとか、相当変わってくると思うんですよね。

—いつと比べてですか？

村上　『PRIDE．1』に比べて。気持ちが違いますからね。肩に力が入ってないというか。

—ボク、『PRIDE．1』の第一試合を見たときに「この選手はプロ向きだな」と思ったんだけども、裏を返せば「なんか勘違いしてるな」っていう部分もあったんですよ、正直言って。

村上　かなり勘違いしてましたよ、いま思えば。「勘違いしすぎだよ、お前」ってぐらい。

—プロ向きであるのと同時に、「この勘違いのまま行っちゃったらヤバいぞ」っていう雰囲気もあったんですよね。

村上　僕も確かに「これじゃダメだろ」って思った時期が多かったからかもしれないですけどね。

—そのあとUFOに入ったりとか、新日本での闘いとか見てたら、凄いいい感じですからね。

村上　そして新宿プロレス（笑）。

—あれもバツグン！　あの振り幅は凄いですよ。だって前が福岡ドームですからね。福岡ドームから新宿プロレス（笑）。

村上　しかも東京大飯店でいうね、メシ食ってんですからね、周りは。

—そのメシ食ってる人のテーブル席行って場外乱闘してるし（笑）。

村上　関係ないですから。あんなとこでメシなんか食わせない（笑）。

—小川選手はグッドリッジ戦が終わったあとに「バーリ・トゥードという言いかたはあまり好きじゃない、あれもひとつのプロレスだ」って言いかたをしたんですけど、バーリ・トゥードってものに対してはどういう意識があるんですか？

村上　ルールの違いだけじゃないですか？

—ガハハハ！　簡単ですねぇ。

村上　3カウントとロープがないだけじゃないの？

—バーリ・トゥードとPRIDEルールじゃ、また細かいとこが違うんですけどね、そんな細かいことはどうってことねぇよってとこですか？

村上　ブチのめるしかないですからね。

—「ブチのめる」ってわかんないですけど（笑）。「ブチのめす」んだか、「ブチのめされる」んだか。

村上　ブチのめすんですよ！　方言です、多分。

—はぁ。勢いとしてはわかりますけどね。佐竹選手も「ブチのめす」というつもりで来ると思うんですよ。

村上　来てもらわないと困りますよ！

—頼もしいなぁ。

村上　絵描けないじゃないですか、筆と絵の具がないと。僕は筆、彼は絵の具。それを入れ替えちゃうとダメなんですよ。

—向こうが筆になったらマズいと。ボキャブラリーもかなり増えてますねぇ、なんかいいことあったのかなぁ（笑）。

村上　ワ〜オォ〜ッ！

僕は筆。佐竹選手は絵の具。それを入れ替えちゃうとダメなんです

ンムフフフ。アントン総師の言葉を読みこみますかーッ！

7月30日に行われた長州vs大仁田の電流爆破マッチの余韻さめやらぬ8月3日、アントニオ猪木がロスに旅立っていった。その直前に成田空港で行われた記者との質疑応答では、久々に猪木節が全開となった。“闘魂”を失った新日本プロレスや選手たちへの提言＆苦言がポンポン飛び出し、片っ端から切り捨てるという怒涛の会見となったのだった。

—安田選手の方から、会社がOKだったら是非（『PRIDE』で試合を）やりたいというコメントが出てるんですけど。

猪木　知らないね、そんなの（笑）。（中略）会社が指示したからって、会社が指示するわけねぇんだから、そんなことは。俺なんかの発想は、人と違うのかもしんないけど、みんな可能性があるわけだから、それに自分自身が気付いて、それに出来るなら私が世話しましょうかというね。（中略）何か、日本全体も含めて、一言で判断すれば、自分のことなのに他人事みたいな。本当にやりたけりゃ、俺の所に来ればいいわけだし、強権発動じゃなくて、いい方法として知恵を授けてあげられるから。（中略）

—猪木さんは、石沢選手にどんなファイトを期待されてるんですか？

猪木　出たとこ勝負で、それこそ相手が、喧嘩売ってくれば喧嘩で、どちらかと言えば、性格的には真面目な性格だけど、真面目な部分で、目には目を、歯には歯をという、そういう怒りというか、そういう展開になれば、ファンが今望んでいるというか、怒りをどう表現するか、本当の怒りを自分の中で目一杯吐き出せれば面白い。

—聞きづらいんですけど、みんな聞きたいと思ってるんで、長州対大仁田戦をご覧になってたら、そ

—今度、佐竹選手を食ったら、そのあとの目標とか、そういうものは描いてますか？

村上 う～ん……、ちょっと最近考えたんですけど、『PRIDE』のリングに新日本の選手を上げて、僕と遺恨マッチやったら面白いんじゃないかと思いますけどね。PRIDEルールと言われるものでやったらどうなんだろうと思って。あとは『PRIDE』のリングでPRIDEルールでタッグ戦！

—ガハハハ！ 危ないっちゅーの。

村上 これ、どうですか！

—面白いですよ、それは。

村上 エグいと思いますよ！

—乱入はナシでしょ？

村上 カットプレーやったらヤバいですからねぇ。

—大変なことになりますからね。

村上 もし僕がやられたら、もちろんカットプレーやりますよ！

—PRIDEルールのタッグマッチっていうのは、可能性としては、あっていいと思いますよ。

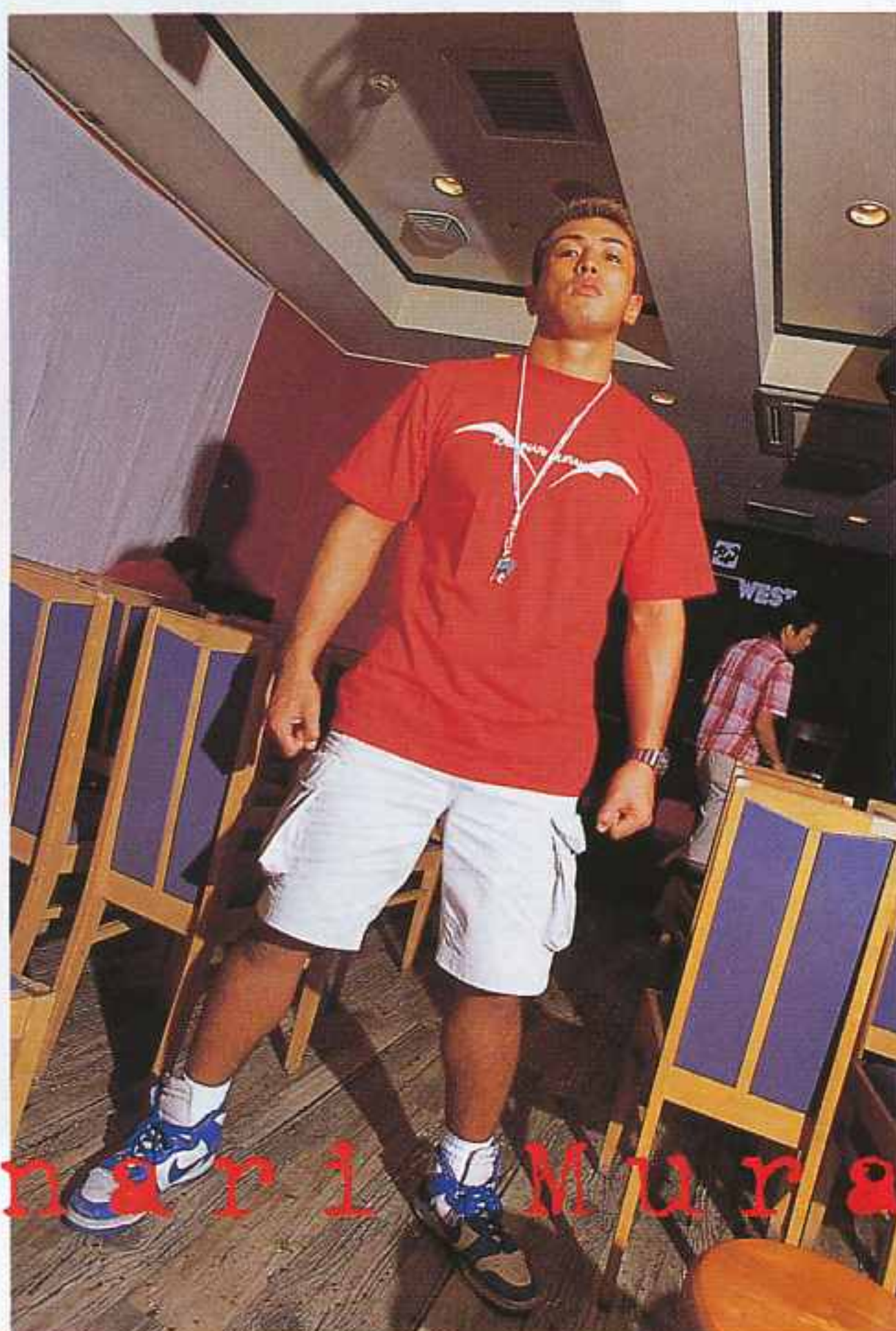
村上 面白いと思いますよ。いままで、そんなのないですよね。

—昔、アマレスでタッグマッチとか、やってましたからね。アマレスを普及させようとしてるときに、実験でやってましたからね。

村上 そうなんですか。でも『PRIDE』でやるの、凄い面白いと思いますよ。

—小川、村上組vs佐竹、ジャイアント落合組とかね（笑）。

村上 そんなの組み合わせによっちゃ、3秒もかからずに終わっちゃうじゃないですか。二人とも出て来ないっていうのも面白いですね。

—藤田選手は新日本を飛び出た形でいま『PRIDE』に上がってて、今度、石沢（常光）選手も上がって来て、そういった新日本のプロレスラーに対する対抗心はないですか？

村上 逆にですね、「ひとつの竜巻を僕らで起こしましょうよ」っていう感覚のほうが強いですね。そうなったとき、いまプロレスを否定してる人と、その境を作った人間に「どうだ！」っていう。今回プロレスラーって言われる人間、何人出ます？

—松井（大二郎）、桜庭（和志）、藤田（和之）、石沢、村上ですかね？

Kazunari Murakami

村上 それで桜庭さんと藤田さんがメインとセミを張るってことは、プロレスラーを看板にしてるわけじゃないですか。そう考えると、みんな勘違いしてるのは、桜庭さんていうのはプロレスラーなんですよ。自分でさんざん言ってるのに、みんなは「プロレスラーじゃない」って言ってますけど、そうじゃなくて、境は違うんだよっていうのを、違った形で僕が見せてもらってるような気がするんですよ、桜庭さんには。

—桜庭さんは格闘技側からは「格闘家だ」って言われ、プロレス側から「あれはプロレスラーじゃない」とか言われ（笑）、結構辛いポジションにはいますよね。でも、要は線引きがあってもなくても、面白い試合ができるかどうかですからね。

村上 そうですね。だから、「なんで藤田さんの試合見て面白いの？ なんで主催者もカードを上に持ってくの？ そこを見ろよ。全体を見たときに、君たちはなにに感動してんのか、わかってんの？」っていうね、興奮が冷めたときに、そういう目で見てほしいですね。逆にプロレス側からしてみれば、プロレスから見て総合格闘技と言われてるものを批判してる人にも見てほしいですね。そういうところの行き来って、いま普通になってきてるわけじゃないですか。その行き来が自由になってきてる中を、みんながどう見てるかっていう。全体を捉えた

—ホントにこれからだと思いますよね。

『PRIDE』もあって、純プロレスと言われるものもあって。佐竹選手なんかは、プロレスにも出たいという意識もあるわけだし。みんなボーダレスで、境界線がなくなってきてるじゃないですか。

の感想を聞かせてもらいたいんですけど。

猪木 インターネットで出てるじゃない、感想が。俺に聞かないで。見てないのに批評は出来ない。でも言ったじゃない、やる前から結果は解ってるって。言った通りだよ、インターネットで出てるじゃない。（中略）新日本に関しては、全く知らない。不安もないし、意見もないし。まあ、活かそうと、潰そうと自由な立場にみなさんいるわけですから。

—新日本に関しては、もう何も言わないんですか？

猪木 辞めた俺が、ブツブツ言う筋合いのもんじゃねえだろうな……。どちらにしても、プロレスから育ってきた人間ですから、無関心だと言うのは嘘になりますけど、まあ、その方向性として、徐々にではあるけど動いてるからね。まあ、みなさんが、今日来た以上は、俺もサービス精神旺盛だから（笑）。

—藤波さんと長州さんが組んで、橋本さんと小川さんとタッグでやりたいという発言があるんですけど。

猪木 どうでしょうかねえ。まあ、そういうことであれば面白いかなとは思いますけど、小川の興味がどうだか解らないですからね。まあ、何遍も言うように、先のことばかり俺は言ってるんで、ピントがずれてるかも知れないんですが、年内に中国（での興行）が、ほぼ決定したんで、最終契約をたぶんタヒチで、その辺りで契約をしに行かなければならないんですけど、その場合に新日本で出ていくのか、UFOで出ていくのか、『PRIDE』も含めて、団体ということじゃなくて、ある意味で、新しい興行スタイルになる可能性もありますね。（中略）

—安田選手が『PRIDE』に参戦するという話は進んでるんですか？

猪木 さっきも話したじゃない。知らないっての、俺は。（中略）ようするに、俺達はリングを通じて生き様を見せてるわけだから、策と言うと小さくなっちゃうけど、会社がオーケーしたらやりますという言葉の裏が見える気がしてね。それじゃあ、面白くねえじゃんというか、飛び出してでもやりたいというパワーが観たいよな、若者の中には。この道を行けばという気持ちが見たいな。そういう意味でみんなやりたいと思ってることが出来ない世の中であったり、そういう世の中だからこそ、俺はこれをやりたいんだという位の。反則行為はやってはいいとは言わないけど、プロレスでは反則行為が5つまで許されるというのが、どういう意味なのか、やってはいいとは言わないけど、そういう部分では、知恵を使えば自分の夢は可能になるよと。（中略）まあ、安田だなんだって、いちいち、いちいち面倒くせえよ！ 藤田はまあ結構素直だったから、石沢もそういう意

村上　それでいいと思いますよ。みんなが楽しく、興奮して、美味しい酒が飲めればいいんじゃないですか？

――ガハハハ！　ナイトクラビングに行くわけじゃないんだから。

村上　でも、そのぐらいの勢いでいいと思いますよ。ジャイアンツ見て、テレビの前でメガホン持ってドンチャン騒ぎしてる、あぁいう感覚でいいと思うんですよ、ホントに。それでジャイアンツ勝ったから、明日も頑張るぞっていう、そういう簡単な気持ちでいいと思うんですけどね。

――基本はそれですからね。どっちを応援して、どっちに熱を持って見るかですからね。

村上　それで「ジャイアンツ勝ってよかったなぁ」って言っても、ジャイアンツの中で嫌いなヤツもいるんですよ。でもそいつが打っても嬉しいわけですよ。それがツマミになっていくわけですから。『PRIDE』っていう食事があったとして、その中でもいろいろあるわけで。

――『PRIDE．10』がいまひとつ、いままでの『PRIDE』よりも熱を持ってないっていうのは、対グレイシーというのも一段落してるじゃないですか。桜庭選手がホイスを破ったことによって。そういう中で、プロレスラーが中心の興行になると。いままではプロレスファンとしてみれば、敵地に乗り込んでって「頼むぜ、プロレスラーの凄さを見せてくれよ！」ってとこがあったんですよ。でもいまはプロレスラー中心に動いてますから。

村上　腰を下ろしちゃってる部分があるんでしょうね、やっぱり。「見てみろよ、プロレスラーは強いんだよ！」って言いたいんですよね。

――今度はプロレスvs格闘技じゃない部分で、対立概念を作っていかなきゃいけないだろうし。

村上　だから、選手一個人がどんなことを訴えかけてるのかっていう、それで自分がなにを感じるのかを味わってほしいですね。

勝つ自身？ 189パーセント!!
ガンガン行って「お客ぁさ～ん、どーですか!」ぐらいの勢いで行きます!

――だから、個性がより大事になってきますよね、これからの時代は。どんな色を明確に出せるか。

村上　そうですね。自分というものをいかに見せていけるかっていうのは、凄いあると思うんですよ。僕も自分なりに持っていきたいなっていうのはありますね。いま言ってるのは、全部自分がそうありたいことでもあるんで。

――そういう意味では佐竹選手もK―1を飛び出てから、自分の色を持ちたいと思って、そうしてると思うんですよね。ズバリ言って勝つ自信は？

村上　189パーセント！

――ガハハハ！　刻みますねぇ。とにかくガンガン行くということですね。

村上　負けることなんか考えてないし、ガンガン行って、ガンガン行って「お客さぁ～ん、どーですか！」ぐらいの勢いで行きますよ、僕は。

――師匠のように（笑）。でも格闘技しか見ない人で、『PRIDE．1』の第一試合の村上っていうイメージを持ってる人にとってはビックリするような試合をしてほしいですね。

村上　あ～～、ビックリどころじゃないですねぇ、たぶん失禁しますよ。

――ガハハハ！　なんでビックリが失禁になるんですか！

村上　失神でした、ごめんなさい（笑）。

味ではアドバイスしたことは、刃向かうんじゃなくて、飛び出すだけの腹を括ってやらないと。1つ1つが勝負だよと、必ず阻止されるに決まってるんだから、それをもぶち破れるパワーというか、駆け引きというか。そういう腹を括っていけば自分の夢は実現できるんじゃないかと。昔だったら造反して、離脱だとかスキャンダルになっちゃうけど、もうそういう時代じゃないんだから。要するに違う世界で自分の強さを証明したいというか、強いて言えば、新日本というものを、もう一回、闘うプロレス団体を復活させたいというか、そういう思いを彼らは持ってるわけですよ。（中略）

――佐竹選手の相手が決まらなければ、非公式ですけど村上選手を押すという可能性はあるんですか？

猪木　まあ、彼ならいつでもね、今からでも充分間に合いますよね。

――武藤の格闘技系のセンスっていうのは？

猪木　まあ、一番3羽ガラス（＝三銃士）の中でもセンスはありましたけどね。ただ、時代が過ぎちゃってねぇ、唯一、正統派の部分で、あるいはプロフェッショナル的な部分も両方出来る要素を持ってたけど、俺からすると、何か違っちゃったな。まあ、プロレスとは何ですか？　と言うけれど、彼らはそういう答えが、まだ見つけられずにウロウロしている最中ですかね。レスラーなんだから、プロレスラーはこうなんだって、普通は人に聞かれたら答えるのが当たり前なんだけど、答えられないレスラーがほとんどじゃないかな、今は。

――そこがポイントなんですね。

猪木　俺らが言うように、仕掛けてこられたらブッ殺せばいいんだから、簡単なことなんだから。まあ、そういう意味では、大仁田が一番素晴らしいと思うよ…。大仁田と長州と永島が会社を作るっていう話はどうなったの？

――ハハハ、それは……。

猪木　何だよ、一番『東スポ』的なニュースじゃない。アハハハ、楽しいねえ（笑）。ダハハハハハ！ムフフフフ、絶対に楽しいな。まあ、小川も試合がなくて、だいぶ批判を受けてるんで、まあこれから凄いのが出てくるけど、それの前に肩慣らしじゃないけど、いろんなのがゾロゾロ言ってきてるんだから、踏みつぶせばいいんじゃないの。理由を付けて、あぁだ、こうだ言う前に、そういう理屈はもういらねぇから、まあ、蚊でもハエでもやっぱりブンブンしたらうるさいからさあ、叩き潰さないとうるさいよ、という。ということでよろしいですか。（と、ロスに向けて旅立っていった）

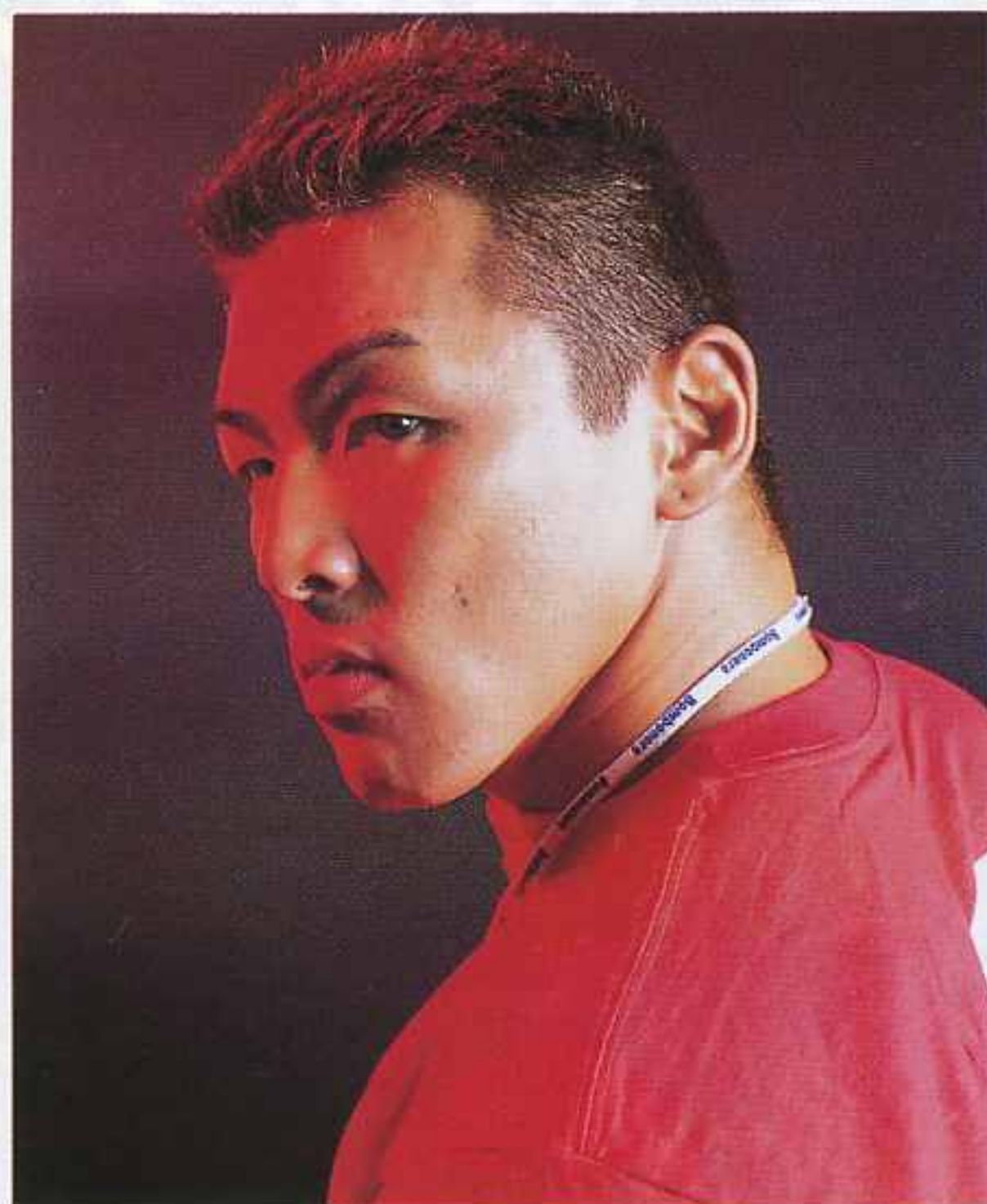
格闘 SOUL FIRE

―ガハハハ！　ボキャブラリー、増えてますからね。ところで、これはプロレスファンのみんなが気になってることなんですけど、身近にいる村上選手から見て、どうなんでしょう？　小川選手はヒクソンとやる気ですかね？

村上　やる気満々ですよ！　その話が浮上した以上は、小川さんも興味あるんだと思いますね。だってヒクソンの名前は覚えてますからね。どんな有名人の名前すら知らない人なのに（笑）。

―ガハハハ！　新日本の選手の名前も、パンクラスの近藤選手の名前も覚えないですからねぇ。

村上　いっつも「あれ、誰だっけ？」って（笑）。ボクもそんなにわかんないんですけどね。

―そこらへんも猪木イズムだなぁ。村上選手はこれから『PRIDE』に上がるということで、また一つ引き出しが増えたわけですけど、「次はパンクラスに上がろう」とか、「リングスに上がろう」とか、そういう形の増やしかたはしていこうとは思ってるんですか？

村上　別にリングにはこだわってないですけど、僕が思ってる気持ちを相手も持ってくれてるのかっていう。

―本気でやる気があるのかどうか。

村上　そうですね、それを作り上げてくれんのかっていう。僕と違った形でもいいから、それぐらいの気持ちを持ってくれてるんであれば、誰でも一緒にやればいいんじゃないのっていう。いま全日本も分裂して、三沢さんたちやってますけど、そういうの考えると面白いんじゃないかなって思いますしね。

―村上選手にとっては、いかにモチベーションを上げて闘いに挑むかっていうのが重要なわけですね。

村上　一回、一回、どんな箱であれ、なにかを残していきたいっていうのは凄くありますから。どんな形であれ気持ちとか、姿勢とかを受け取ってもらいたいんで。その中で僕は勝負しなきゃいけないっていう。

―プロレスファンと格闘技ファンに違いがあるとすれば、なんだかんだ言っても最後は勝ち負けだって思うのは格闘技ファンだと思うんですよ。プロレスファンは勝ち負けを超えたところで見てくれますけど。今度は格闘技ファンも多いでしょうから、勝ち負けも相当重要になってくると思うんですよ。

村上　だから勝って、プラス見てるみんなが「やられた」って言うぐらいの試合をしたいですね。

Kazunari Murakami

―気持ちいいですね。もうわかりました。最後にビシッと佐竹戦に向けて一言どうぞ。

村上　佐竹選手のファンには悪いですけど、キッチリ勝たせてもらって、格闘技ファンのみなさんにも、プロレスファンのみなさんにも違った僕を見せて、いろんな妄想というか、そういうものを残して次のステップにつなげたいなと思いますね。とりあえず僕は今回は一つの通過点としか考えてないし、これからもっともっと飛躍していかなきゃいけないと思ってるんで、とりあえずはガンガン行きますんで。

―対怪獣王国っていう点については？

村上　怪獣だかなんだか知らねぇけど、壊滅！　「ガオーッ」だか怪獣だか知らないですけどね……。

―「ガオーッ」は擬音です（笑）。

【8月13日、渋谷・ロックウエストにて収録】

8・27『PRIDE.10』
西武ドーム　試合開始16:00

追加カード試合順決定！

ヴァンダレイ・シウバ vs ガイ・メッツァー

最後の最後で飛び込んできた「PRIDE」常連外人対決。キックボクシングを基調にした非常にアグレッシブなシウバの攻撃は、メッツァーの鉄壁ガードを崩せるのか？　興味深いカードが実現だ！

8月最後の日曜日を西武ドームで燃やし尽くしてみないか？　その他の対戦カードは以下の通り！　プロレスファンなら行くしかない！　声が枯れるまで応援しよう！

桜庭和志vsヘンゾ・グレイシー
石沢常光vsハイアン・グレイシー
藤田和之vsケン・シャムロック
エンセン井上vsイゴール・ボブチャンチン
松井大二郎vsビクトー・ベウフォート
その他、全10試合。

当日券は昼12時より発売!!

【西武ドームへのアクセス】※池袋、新宿、国分寺駅を起点に西武線、JR中央線によるアクセスが可能。
大会当日は、西武池袋駅から西武球場前駅まで約45分の直通電車を増発運行。

【全てに関するお問い合せ】
株式会社ドリームステージエンターテインメント　03・3552・6300

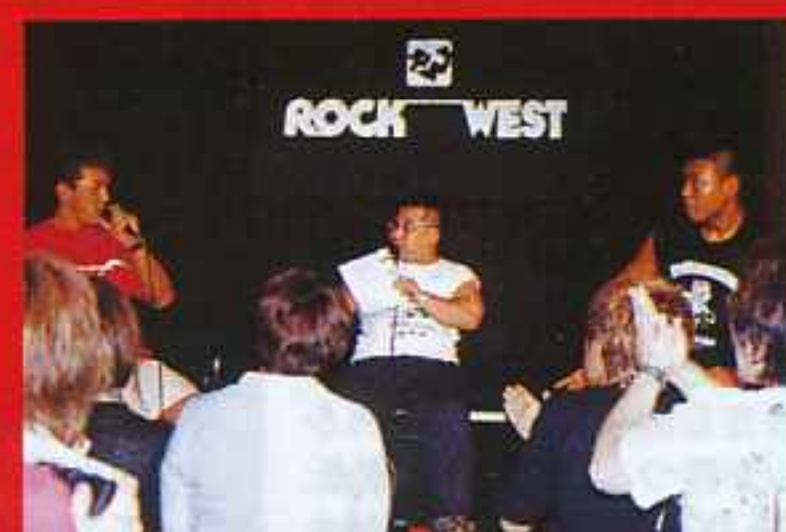
8.13 UFOがファンと共に決起集会！

8月13日、渋谷ロックウエストにて、オーちゃんファンクラブ結成記念イベント「オーちゃんだよ！　全員集合!!」が開催された。この日の3日前にPRIDEでの佐竹戦が発表された村上と、ヒクソン戦に向けて準備中のオーちゃんが揃って出演するだけに、UFOが東京都心部に来襲！　と思いきや、ドリフのテーマで入場！　しかもドリフのテーマが途中からチューブに！　「夜もヒッパレ」さながらに2人で熱唱しながら入場してくる衝撃の入場シーンを見せてくれたのだった。ヒクソン戦や、パンクラスに対する発言等、『紙プロ』的にオーケーな話題よりも、ファン主体のイベントとなったが、もちろん大盛況！　次回もオーちゃんの元へ全員集合！

初心者⇔マニアのための、ズバリ言って……

徹底大予想&大分析!!

格闘 SOUL FIRE

毎回ビッグマッチ前には恒例となっている勝敗予想&見どころ大解剖。今回は『PRIDE』初進出の西武ドームということで、まさにオールスター級のビッグマッチが勢揃い！　締切間際に急遽決定したヴァンダレイ・シウバ対ガイ・メッツアー戦がビックかどうかは別にして、それ以外の全9試合、己のプライドをルールに徹底予想！　さあ、みんなも一緒に考えよ〜う！

等身大の『プロレスラーvsグレイシー』最強決定戦!

桜庭和志 VS ヘンゾ・グレイシー

両者がお互いを認め合っているためか、これまでのサクの“グレイシー討伐”にあった緊張感とは一線を画したムードが漂うものの、実に贅沢なミドル級史上最大の技術戦が実現。全世界注目のビッグマッチだ。不慣れなＫＯＫルール&判定で田村潔司に敗れたとはいえ、ヘンゾの真の実力はＶＴでこそ発揮されるという声も多く、サクの“負け方”にも当然視線は注がれている。しかし、サク人気が過熱&インフレ気味のいまこそ、ここはサクに、ファンの細胞にもう一段階上の“凄み&深み”を叩きつけてくれる「新プロレス」を期待したい。またやっちゃっていいぞ、サク！

水戸泉（仮）

➡ヘンゾ・グレイシー 判定勝ち

ヘンゾはグレイシー系ですけど、サクがホイラーやホイスの時ほどのモチベーションじゃないと思うんですよ。だから純粋に技術の交流戦になると思うんですけど、サクは取材ラッシュで練習も充分にできてなさそうだし、微妙な判定でヘンゾが勝つんじゃないですか。「あれっ、桜庭負けちゃったよ」みたいなノリで。注目は、今まで見せることのなかったヘンゾのズルさが見られればいいですよね。サクの入場は今回は普通だと思います。

堀江ガンツ

➡桜庭和志 判定勝ち

１ラウンドはお互い距離を取るんで単発になると思うんです。動きだして桜庭のローが効き出すのが2ラウンドでしょうね。今回はグラウンドで桜庭は久しぶりにタックルに行きますね。それでヘンゾの下からの寝技を凌ぐ展開になると思います。桜庭は上から色々やって、一回でもパスガードでもしたら盛り上がりますよ。時間も短いし、ヘンゾの下からの攻撃は何とか極めさせないと思います。

松澤チョロ

➡桜庭和志 判定勝ち

オイ、この試合はお互いアグレッシブに攻め合ういい試合となるだろう。しかし、残念ながら最後はタイムアップ邪！　結果は打撃でポイントを奪った桜庭の勝利！　そして、西武ドームには100万人の大サクラバコールが鳴り響くん邪！

スモーノブ

➡桜庭和志 ヒザ十字固め

サクはジャンボ鶴田の後輩だから強いでごわす！　まあ1ラウンドはどっちの笑顔が凄いかの勝負。2ラウンド目は格闘技の勝負。3ラウンドは入退場でアメリカン・プロレスみたいなのが見れるはずばい。桜庭の入場は前回はマシンできたでごわすな……次はきっとアンドレですタイ！　まあ桜庭が勝って会場は大盛り上がり。「お兄さん出てきて下さい！」って言えば、ますますヒクソンが引っ込みつかないような状況に追い込まれるのは必至でごわす！

吉田豪

➡ヘンゾ・グレイシー 一本勝ち

暑さがプライド！　というわけで、今回の『PRIDE.10』の一番のキーポイントは天候だね。西武ドームには冷房がないから、洒落にならない暑さになるはずだよ。だからブラジル人が圧倒的に有利！　青森出身のサクは暑さには弱いだろうから、ブラジル出身のいヘンゾが有利でしょ。まあ、順当にいったらヘンゾの勝ち。他の試合が長引いてメインの頃に涼しくなったらサクの完勝、と。あとはサクの腹が試合当日、どの程度引っ込んでいるのかも注目だね。

山口日昇

➡桜庭和志 キーロック

ヘンゾも打撃が出来るんで、かなり両者ともアグレッシブに行くと思うな。多くの格闘家が「サクはストライカーだ」と言ってるように、立ち技のスペシャリストと立ち技のみで闘ったら通用しないかもしれないけど、ＶＴの中での打撃っていう部分で言えば、サクはもの凄いレベルを持ってるからね。その打撃を突破口にしながら、1Rでヘンゾのツボを見抜いたサクが、2Rにアッと驚く技で一本取ると思うよ。取れるといいなぁ。

8・27西武ドーム！　猪木も小川も来るというか

本誌編集部による『PRIDE.10』

『PRIDE』の顔となるのは誰だ!?

初期UFCのド迫力が格闘テーマパークに降臨！

藤田和之 VS ケン・シャムロック

藤田がケアーに続いて知名度抜群のシャムロックまで撃破！　となればアメリカでのブレイクは必至！　初期ＵＦＣの第一人者でありながら、ＷＷＦ仕込みのマイクパフォーマンスまで披露できてしまう初代パンクラシスト、シャムロックのキャリアを彷彿とさせる巧みな攻撃に、またしても人間離れしたパワーと脅威的な打たれ強さを藤田が見せつけてくれれば文句ナシ！　元祖ハイブリットレスラーであるシャムロックに対して、正統派レスリングのいじめ技である袈裟固めを決め技にしてくれれば最高である。

水戸泉（仮）

藤田和之 判定勝ち

見所は、アメリカでバス・ルッテンから殴られる練習を積んできたという藤田の打たれ強さが存分に見られればいいなと。藤田は何発か殴られながらも、最終的にはスタミナとパワーで圧倒して印象点で判定勝ちになると思います。ケン・シャムはもう世代交替しなきゃいけない時期でしょう。もし藤田がタップを奪うとしたら、ナイマン戦のように、またケサ固めじゃないですかね。まあ、どっちに転んでも藤田の勝ちは動かないと思いますね。

堀江ガンツ

ケン・シャムロック 判定勝ち

ブライアン・ジョンストンが言ってたんですけど、藤田はルッテンのとことか、いろんな所で練習してるけど、キャリアが少ない中で一気に詰め込むと攻め方が一貫しないんじゃないかって。それに藤田は顔面を蹴られても痛みを感じないじゃないですか？　アレは悪魔将軍と同じで痛みを感じなくてもダメージは残るんですよ。なんで２ラウンドで力つきるんじゃないかと。あと、ケンはメッツアーの師匠なんで、つまらなくても勝ちにくるんじゃないかなぁ～。

松澤チョロ

藤田和之 レフェリーストップ

オイ、この試合は、西武ドームのてっぺんまで届き渡るド迫力の打撃戦となるじゃろう。最後は藤田がケンシャムを上から殴りまくりでフィニッシュ邪！　それでもケンシャムは意地でもタップはしないん邪！　それがアイツなりのプライドじゃろ。

スモーノブ

藤田和之 レフェリーストップ

どすこ～い！　シャムロック相手だったら、藤田もタックルは入れるでごわす！藤田は勝つための最短距離を知ってる人でごわす。タックルでふっ飛ばして上になってケサ固めでも極めてくれるばい。さすがにシャムロックも簡単にタップしてたら道場生いなくなっちゃうでごわしょうからなぁ。ワシ的にはケンシャムにはＷＷＦに戻ってきて欲しいけん、けじめを付けさせる様試合をしてほしいでごわす！

吉田豪

藤田和之 判定勝ち

俺はデビュー前から藤田には目を付けてたからね。新日の道場に取材で行った時、まだデビュー前だったんだけど態度が異常にデカかったし、バックボーンもあるし、それに猪木さんがかわいがってたから、これは強いに決まってるだろ、と。必ずトップにいくはずだと思ってたよ。それに比べてシャムロックは全日時代、あの鶴見五郎と一勝一敗だったんだよ！　アマレスでの実績は藤田の方が鶴見より上なんだから、藤田の勝ちは動かないね。

山口日昇

藤田和之 KO勝ち

ズバリ言ってケンシャムが今どのくらい強いのかわかんねえんですよ！　パワーも経験もあるからかなり手強い相手であることは間違いないんだけど、マーク・ケアー戦を見るかぎり、藤田のモチベーションっていうのは、ファンや関係者が予想出来ないぐらいのモノを持っていると思うんで、ここはやっぱり藤田にケンシャムに勝ってもらって、全世界にタックルを仕掛けてほしいなと（笑）。最後は初期UFCのように殴り勝ってくれたりしても素敵だね。

西武ドームに四番バッターが集結!

これぞ『PRIDE』オールスター!!

格闘 SOUL FIRE

“闘魂の火種”を持つプロレスラーの底力を見せてくれ!!

石沢常光 VS ハイアン・グレイシー

「新日本プロレス」の看板を背負って出陣する石沢の相手は、こちらも問題児の、“最凶のグレイシー”こと、ハイアン。その実力は未知数だが、ＶＴをよく知る関係者の間からは「ハイアンの秒殺勝ち」というありがたくない予想も多く上がっている。が、ここは新日所属というより、“闘魂の火種”を持つプロレスラーとしての“底力”を存分に発揮してほしいものだ。マスクマンのカシンはリング上やコメントで本音をチラリと垣間みせるのが魅力だが、素顔でもその“本性”を見せることができるか。ズバリ言って遠慮すっこあたぁねえよ、イッシー！（アントン調）。

水戸泉（仮）

➡石沢常光 ビクトル式腕十字

この試合は結構早く終わっちゃうと思いますよ。石沢の秒殺で、その後乱闘とか、そういうのがいいですね。試合展開は、ハイアンが何かしてくる前にビクトル式逆十字ですね。やっぱり見所は石沢のビクトル式が出るか出ないか、その一点ですね。入場はカシンのマスクにワールドプロレスリングのテーマで出てきたら面白いでしょうね。まあ絶対ないでしょうけど、それくらいはやって欲しいです。

堀江ガンツ

➡ハイアン・グレイシー 腕十字か三角絞め

この試合は１ラウンドで決まると思います。こういう試合はまだ石沢は弱いと思いますよ。カシンは強いけど。まあグラウンド・コントロールには長けてるんでしょうけど。それにパワーがあったら上からずっと抑えこめると思うんですけど、パワーはあまりないんで、ハイアンの勝ちです。逆十字、もしくは三角絞めでもいいですね。以上です！

松澤チョロ

➡石沢常光 レフェリーストップ

オイ、確かにハイアンは強敵かもしれん！　だがこの試合では、本能のおもむくままに闘うキラー石沢の姿が見られるはずじゃ！　最後は関節に行くまでもなくマウントパンチでフィニッシュ邪！　しかし、これで終わりじゃない！　これからが始まりなんじゃあ！　キラー石沢、続行するん邪！

スモーノブ

➡石沢常光 飛び付き腕十字固め

正直いって、どっちともよく知らないんでごわす！　強い者と強い者が闘ったときは膠着するっていうのが世の常ばい。水入りもないばい。その膠着の隙をついて石沢がクルッと飛び付き十字を極めると思うタイ！　でも石沢にはマスク被って来て欲しいばい。それでハイアンはナイフをカチャカチャやりながら出てくると。あとは石沢の気の利いたコメントに期待するでごわす！

吉田豪

➡石沢常光 三角絞めかなんか

この試合も、やっぱり重要なのは気温になってくるんだけど、そうなると青森生まれの石沢はつらいね。まあ、順当にいけば石沢の勝ちなんだろうけど。それよりゴング前のファーストコンタクトが楽しみだね。握手のふりをして頭突きを入れて傷害沙汰を起こしたハイアンの握手を、石沢はいつものようにスカすのか？　ハイアンが掟破りの凶器攻撃に出るのか？　とにかく石沢はプロレス技を出そうとか余計なことは考えず、勝ちに行って欲しいね。

山口日昇

➡石沢常光 ヒザ十字固め

カシンが「石沢常光」というマスクマンに変身し、「新プロレス」の旗手になる。しかも相手は“最凶のグレイシー”。実に夢があるねぇ。ハイアンはそんなに体重も重くもないし、石沢がビビる要素はあんまりないと思うんだよね。まあ一番見たいのは猪木さんが言うように、石沢のケンカマッチだよね。プロレス技なんて見せる必要ないから、とにかく勝て！下からの三角絞めとか、チョークとか秒殺負けも有り得るけど、ここは願望込みで石沢の一本勝ち！

侵略者をゴジラが迎え討つ!
闘魂の火種が燃えあがる注目の一戦!

佐竹雅昭 VS 村上一成

当初、新日本の安田との一戦が噂された怪獣王国国王（国民はジャイアント落合のみ）佐竹だったが、「会社がオーケーなら出場してもいい」などと煮えきらない発言に終始していた安田を尻目に急転直下で村上との対戦が大決定！　村上のセコンドには、もしかしてオーちゃんが!?　ＵＦＯ対怪獣王国の布石となる可能性を秘めたカードだが、佐竹は、この対戦発表の記者会見を無断欠席するなど、このマッチメイクには不満があるらしいが、飯塚戦の時のようなテンパッた村上が見られれば、佐竹も新日本の選手など気にしてられない状況になることは確実である。

水戸泉（仮）
➡佐竹雅昭 KO勝ち

村上は佐竹の持ち味を殺すような闘いはしないと思うんで、シバキ合いになると思います。それで最後は佐竹のパンチが当たってＫＯ勝ちすると思います。ポイントはオーちゃんが村上のセコンドに来るか来ないかですね。それで、オーちゃんが挑発したり、次の展開が見られればいいですね。

堀江ガンツ
➡佐竹雅昭 KO勝ち

この試合は佐竹が打撃でダウンを奪って、そこでレフェリーにとめられちゃって、「何だよ！　まだやれるじゃねえかよ、オイオイオイ！冗談じゃねえゾ！」となって、村上がＫＯ負けになるような気がする（笑）。なんとなく消化不良の試合になりそうな気がしますね。

松澤チョロ
➡佐竹雅昭 清めの風

オイ、オイ、オイ、オイ、オイ、村上のセコンドにはオーちゃんが付くじゃろ。立会人はアントニオ猪木じゃあ！　となると、佐竹のセコンドには佐山に付いてほしいものよのぉ。この試合は佐竹の新必殺技が飛び出すはずじゃ！　その名は“清めの風”じゃ！　どんな技かはわかんねえけどな。

スモーノブ
➡佐竹国王 ハイキックでKO勝ち

国王は打撃はもともと凄いモノを持ってるわけだし、掣圏道に出たときに、「気持ちでも絶対負けねえ！」っていう試合でごわしたからな。気持ちだけだったら、当然村上も負けんでごわしょう。襲撃とかガンガンしてほしいでごわす。ただ、最後はハイキックで１ラウンドＫＯでごわす！

吉田豪
➡佐竹雅昭 ロシアンフックでKO勝ち

佐竹が勝って新日参戦とかに繋がっていきそうな気がするね。どうせなら一発目は村上対ジャイ落にして欲しかったんだけど。まあでも、村上は負けても光ると思うし、ただでさえ暑い会場をさらにヒートアップさせてくれるだろうね。個人的には、最後にオーちゃんと佐竹の絡みが見られれば十分！

山口日昇
➡村上一成 腕ひしぎ逆十字固め

村上は『ＰＲＩＤＥ.１』の第一試合で勝ったでしょ。１と10というキリのいい数字に巡り会えるのも村上の運だろうし、ここは占い風に村上の勝ち（笑）。まあ村上はＵＦＯに入って、いい意味でのケレン味も身につけてるし、最後は寝技のキャリアの差で金星をものにするんじゃねえかなと。

大和魂を不発弾にするな!
世界の拳とのドツキ合いにエンセン出陣!

エンセン井上 VS イゴール・ボブチャンチン

１月30日、『ＰＲＩＤＥ．ＧＰ』１回戦でのvsマーク・ケアー戦を「大和魂、不発」と本誌が書いたら、激怒してボクの携帯に「アナタ、ボコボコにするよ！」と電話してきたエンセン井上。前回は、ケアーの消極作戦の犠牲になったが、今回相手・ボブチャンチンは全力で相手を叩きのめしにくるので、エンセンも大和魂を完全燃焼させるはず。お互いの魂を拳に込めて、どちらかが倒れるまで果てしなく続くラストマン・スタンディング・マッチが繰り広げられるだろう。ＫＯ決着は必至！　超ヘビーなパンチを食らえば必死！　２人の気持ちはヒシヒシと伝わる一戦になるだろう。

水戸泉（仮）
➡イゴール・ボブチャンチン KO勝ち

ボクは２ラウンドで決着が付くと思いますよ。エンセンは今回は大和魂を見せてくれると思うんで、打ち合いになるでしょう。凄くいい試合になると思うんですけど、最後はボブチャンチンがエンセンの打撃をうまくかわしてパンチでＫＯするでしょうね。寝技にはならないと思います。

堀江ガンツ
➡イゴール・ボブチャンチン 判定勝ち

エンセンはタックルはもう行けないとわかってるんで、打ちあってクリンチみたいな体勢から引き込みとかを狙ってくると思いますね。下からの十字とかを狙うんですけど、ボブチャンチンはパンチがあるんで……ボブチャンチンの判定勝ち。でもエンセンが仕掛ける回数は凄く多いと思いますよ。

松澤チョロ
➡イゴール・ボブチャンチン 判定勝ち

オイ、この試合は、ＫＯ決着こそないが、ロシアンフックとハワイアンフックのド派手なシバキ合いが見られるはずじゃ！　結果は判定でボブチャンチンの勝利邪！

スモーノブ
➡エンセン井上 KO勝ち

エンセンは初めて打撃で打ち合える相手と闘えるということで、シバキ合いになるでごわす。必ずエンセンの心が見れる試合になるでごわすよ！　打撃特訓もしっかり積んでるんで大丈夫ばい。大和魂大爆発で、ワシにも怖い電話がかかってこない……安心して眠れそうでごわすな。

吉田豪
➡イゴール・ボブチャンチン ＫＯ勝ち

今回のポイントでもある天候で考えると、エンセンが圧倒的に有利なんだけどね。なんてったってハワイ出身だから。ロシア出身のボブチャンチンは、今回ちょっと厳しいと思うよ。それにエンセンはトルコに大和魂を注入されたから、ロシア人征伐には期待できるね。でも、やっぱりボブチャンチンの勝ちかな。

山口日昇
➡イゴール・ボブチャンチン ＴＫＯ勝ち

エンセンが今度こそ大和魂を不発弾にせずに、爆発させてくれることだろうけど、逆に負けっぷりも見てみたい気がする。ここは世界の壁というものを、ボブチャンチンがエンセンに見せつけてほしいなと。それでエンセンが一皮剥けて、またトップグループに食い込んでくることを期待したいね。

まだまだいるぜ!

『PRIDE』vs掣圏道が舞台を移して決着戦!
第3次世界大戦勃発!!

マーク・ケアー vs ボリショフ・イゴリ

藤田戦での敗北で「霊長類ヒト化最強」というイメージも薄れてきたケアー。それだけに今回は汚名返上を賭け万全の体調でリングへ向かうはず。そんなケアーと対するのが、サンボそして掣圏道の超実力者ボリショフ・イゴリ。6月のジャイアン戦では、得意の寝技をあえて封印し打撃だけで殴り勝っている。イゴリはケアーも倒し全国区のスターとなれるのか？　それとも怖いケアーが帰ってくるか？

水戸泉（仮）
➡ボリショフ・イゴリ 腕ひしぎ逆十字

『PRIDE.10』で、ボクが一番注目しているのがこのカードなんです。イゴリはサンボで強かったらしいんで、ケアーがタックルしてきても簡単に極めちゃうと思いますよ。でも、この試合は玄人好みの試合で、あまり会場受けはしないと思いますけどね。

堀江ガンツ
➡マーク・ケアー レフェリーストップ

ケアーってホントに強いんですかね？　まあイゴリも年なんで、いわゆるコピィロフ対ノゲイラ状態になるんじゃないかと。イゴリは最初殴ってくるんですけど、ケアーにタックル取られると思います。サンボは下からの攻撃はないんで上からの殴りでケアーの勝ちですね。

松澤チョロ
➡ボリショフ・イゴリ KO勝ち

オイ、オイ、オイ、オイ、イゴリはグレート・センセイから内藤恒仁までプロレスルールで勝ってるんじゃあ！　ケアーに負けるはずがないじゃろ。最後はニープレスからのパンチでフィニッシュ邪！　オイ、オイ、オイ、イゴリさんよぉ、次は大仁田興行に出てくれんかのぉ？

スモーノブ
➡ボリショフ・イゴリ アキレス腱固め

ケアーは体調の良いとき悪いときの落差が激しいからよくわかんないばい。さすが注●の影響でごわすかね？　イゴリは相撲も強いでごわしょう。グラウンドもサンボの世界王者ばい。コピィロフ級の凄い奴の可能性があるかもしれないばい？　ギターも上手いらしいでごわすよ

吉田豪
➡ボリショフ・イゴリ 一本勝ちかKO

だいたい、ボリショフ・イゴリってよく知らないんだけどね。でも顔がいいからきっと強いよ。それに、試合時間が長引けばケアーは糖分がなくなっちゃうんでしょ？　イゴリは掣圏道でプロレスやってスタミナは十分だから。イゴリが勝てばプロレスの勝利だよ！

山口日昇
➡ボリショフ・イゴリ KO勝ち（ソバットで怯ませてからのパンチ）

イゴリは掣圏道でプロレスもやってるし、芯の部分で観客に見せるっていう感覚をわかりかけてるだろうから、つまんない試合にはならないと思う。ただ、ケアーは試合運びが意外としょっぱいんで、噛み合うかどうかはわからない（笑）。俺はトイレには行きません！

暴走ハリケーンvs暴走タイフーン!
アイブル、本領発揮なるか?

ギルバート・アイブル vs ゲーリー・グッドリッジ

残暑極まりない西武ドームで、ハリケーン級の一戦が実現。どう考えても寝技決着はありえないが（あったら面白い）、ド迫力の乱打戦による熱さ十暑さでドームの温度計は急上昇すること間違いなし！　6月の『PRIDE.9』でビクトー・ベウフォートに完封されたアイブル。ここは、KOKルールでは田村、TKを下した暴れっぷりを、“PRIDEの番人”グッドリッジ相手に存分に発揮したいところだ。

水戸泉（仮）
➡ギルバート・アイブル KO勝ち

大打撃戦になって、パンチとヒザのハリケーンパワー炸裂でアイブルのKO勝ち。秒殺までいかなくても、早く終わっちゃうと思います。最初は互角の打ち合いなんだけど、徐々にアイブルがって感じじゃないですかね。最後はマウントパンチで決まりでしょう。

堀江ガンツ
➡ギルバート・アイブル KO勝ち

真剣に予想するとアイブルの負け！　グッドリッジのパンチが一発でも当たったら倒れちゃいますから。でも、アイブルはスタミナもあるし、願望も込めてアイブルの勝ち！　2ラウンドでグットリッジ戦意喪失。何とかアイブルの商品価値を保ってほしいです（笑）。

松澤チョロ
➡ギルバート・アイブル 腕ひしぎ逆十字固め

オイ、オイ、オイ、オイ、オイ、オイ、オイ、オイ、この試合が最後まで大乱打戦になると思ったら大間違いじゃ。フィニッシュはグッドリッジの剛力を捕らえてアイブルの腕十字が極まるん邪！　アイブルだけに前回の敗戦ショックを倍にして返してくれるはずじゃ！

スモーノブ
➡ゲーリー・グッドリッジ エルヌド

打撃系の2人がお互いにグラウンドを取り入れようとしてるそうでごわすな？　急には身につかんでごわすよねぇ？　タチ関？　打撃に関してはお互い警戒してるから近付けないが、グランド勝負なら意外な技でケリが付くはずばい。エルヌドとか「あっ？」と驚くような

吉田豪
➡ギルバート・アイブル KOかレフェリーストップ

ポイントは天候なんだけど、ふたりとも太陽を吸収するからね。まあ同じようなスタイルだから、よりダーティーなモノを持ってるアイブルが有利でしょ。グッドリッジは門番キャラが確立されたからいいけど、アイブル負けられないしね。契約もまだ長いから（笑）。

山口日昇
➡ギルバート・アイブル KO勝ち

ズバリ言って、グッドリッジの打撃は大振りなんで、アイブルにはそんなに有効ではないと思うよ。TKや田村に勝った、その辺の野性戦法が活かせる展開になればアイブルの勝ちは動かないでしょう。“PRIDEの番人”相手に“懲りない奴ぶり”を存分に発揮してほしいね。

【西武ドームへのアクセス】※池袋、新宿、国分寺を起点に西武線、JR中央線によるアクセスが可能。
大会当日は、西武池袋駅から西武球場前駅まで約45分の直通電車を増発運行。【全てに関するお問い合せ】株式会社ドリームステージエンターテインメント ☎03・3552・6300

『PRIDE』の顔は

桜庭へのリベンジに動いた"黒い柔術師"に特攻隊長が待ったをかける!

松井大二郎 vs ビクトー・ベウフォート

松井にとって最大のチャンス到来である。『PRIDE.9』、アメリカの『KING OF THE CAGE』と不本意な闘いが続いているが、松井にとってはいい経験になっているはず。対するビクトーは、vs桜庭戦への足がかりとしたいだけにキッチリと勝ちを狙いに来るだろう。そのスキを突けば、松井の勝利も見えてくる!

水戸泉(仮)
➡ビクトー・ベウフォート TKO勝ち

松井は結構打たれ強いし、特攻魂でガンガンいって、いい試合になると思うんですけど、現段階ではまだビクトーの方がパワーもテクニックも上だと思うんですよ。最後は松井のカットなり、やられっぷりの凄さで、レフェリーがとめちゃうんじゃないですかね。

堀江ガンツ
➡ビクトー・ベウフォート 判定勝ち

松井がカットしてレフェリーストップかなぁ?……やっぱり判定でビクトー! 小路対松井戦みたいな試合になると思いますね。松井は粘りは見せてくれるんでしょうけど、スタンドでパンチを結構受けて、ビクトーの判定勝ち! 以上!

松澤チョロ
➡ビクトー・ベウフォート チョークスリーパー

oi、oi、oi、oi、oi、oi、oi、oi、oi、oi、ビクトーは桜庭へのリベンジを狙ってるらしいが、その前に立ちはだかる松井の底力に驚くことになるじゃろ。しかしながら、最後はビクトーの強烈なパンチからのチョークスリーパーでフィニッシュ邪!

スモーノブ
➡松井大二郎 判定勝ち

そろそろ松井が勝ってくれるはずばい。サクがビクトー戦の秘策を授けたはずでごわす。以前は、サクに負けたニュートンともいい試合してるし、今回もきっといい試合になるはずばい。まあビクトーもかなりの強敵だから、結果は判定になると思うけど、勝つばい!

吉田豪
➡ビクトー・ベウフォート KOか一本勝ち

何度も言うけど、ビクトーはタダでさえ強いのにブラジル出身だからね(笑)。悔しいけど夏場はいつも以上に力を発揮するビクトーの勝ちは動かないよ。まあ、松井がいつも通りスラッシュでスキンヘッドな熱いハートと気迫を見せてくれれば、ボクは満足だね。

山口日昇
➡ビクトー・ベウフォート 判定勝ち

松井の打たれ強さや、顔がボコボコになっても向かっていく気迫は一流のものがあるんで、ビクトーにも気後れなしで向かって行ってくれるでしょう。でも今回は真面目に予想すると、ビクトーが判定で逃げ切りそうな気がするね。この予想を松井に裏切ってほしい。

格闘界の四番バッターを狙う落合vsアメリカの伊達男の超異次元対決!

ジャイアント落合 vs リコ・ロドリゲス

ジャイアント落合。その名前と風貌だけはすでに誰もが知るところだが、実際そのファイトを目撃した人は極々少数であろう。キャラクター先行型のジャイアンが万人にその名を刻み込むには、この試合は非常に重要な一戦となる。ジャイアンはアメリカの伊達男リコ・ロドリゲスを相手に大暴れできるのか? 落合よ、西武ドームをジャイアンリサイタルショーに変えてみせろ! オ~イェ~イ!

水戸泉(仮)
➡リコ・ロドリゲス 判定勝ち

ジャイ落はガンガン攻めるんですけど、それをリコは封じ込めて終わっちゃうんじゃないかなと。ジャイ落がどれくらい強いのかまだわからないんで、それにもよると思うんですけどね。ジャイ落には入場とか、エンターテイメントの方面で期待したいですね。

堀江ガンツ
➡リコ・ロドリゲス 腕ひしぎ逆十字固め

TKに聞くと、ジャイ落は、あの体であの動きをするのは凄いらしいんですけど……リコが秒殺! リコがマウントとって上からコツコツやって、そこから一気に逆十字! ジャイアント落合何も出来ず! 以上!

松澤チョロ
➡ジャイアント落合 ジャイアントスイング

オイ、オイ、確かにリコは強いじゃろ。なんてったって名前はロドリゲスじゃからのぉ。しかし、この試合はジャイアンの晴れ舞台となる。最後はジャイアントバックブリーカーからのジャイアントスイングでフィニッシュ邪! まわしてまわしてまわしまくるん邪!

スモーノブ
➡ジャイアント落合 パンチでKO

これは普通に考えるとリコだろうって気がするんでごわすが、ワシはリコをよく知らんばい。ジャイ落もデカいから、パンチでKO勝ち! その直後にジャイアンリサイタル開催でごわす! ワシはそこまで予想するばい! 今号のピンナップ参照!

吉田豪
➡リコ・ロドリゲス ヒザ十字固め

ジャイ落のキャラは佐竹プロデュースだと思うんだけど、俺は佐竹のギャグセンスが苦手なんだよね。糸井さんの言葉でいうと"おもつらい"って感じで。強豪外人を当てるより、ジャイ落は大刀光とか佐野とやった方がいいと思うけどね。だからリコ!

山口日昇
➡リコ・ロドリゲス なんか関節技

ジャイ落がリコに勝って世界に名前を売ってほしいのは山々なんだけど、いかんせん落合は体系はひと目でわかるんだけど実力は未知数なんだよね(笑)。ここはVTのセオリーをよく知っているリコに分があるんじゃないかなぁ……なんてまともな予想じゃダメ?

 残暑にも負けず、行きますか――ッ!『PRIDE.10』当日券は西武ドーム近辺で正午より発売!

プロレス界NO.1愉快犯をあらゆる角度から検証せよ

ケンドー・カシン 石沢常光とは何者だ!?

カシン周辺の人々及びカシン本人の爆裂語録から稀代のじょっぱり（意地っぱり）男の正体を探れ！

今回、『PRIDE.10』出場するにあたりケンドー・カシンは、一切の取材を断っているという。聞きたいことは山ほどあるのが、どうにもならない。というわけで、本誌はカシン周辺の人々や過去のカシンの発言の中から、掴みどころのない人物像を無理矢理掴んでみた。やはりこの男、何か爆発的なものが埋蔵されている雰囲気がビンビンだ！　早速、デビュー以来、8年間タメ続けた男の心の中をのぞいてみよう。

格闘 SOUL FIRE

構成／坂井ノブ
text by Sakai Nobu
撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

知られざる素顔のカシン

新日道場幻想、アマレスの輝かしい戦績、そして猪木イズムの遺伝子……

ほとんどコメントを出さず、ひたすら自身のこだわりを格闘スタイルのレスリングに求めていたヤングライオン時代の石沢常光。ムチャクチャな毒舌を吐きまくって報道陣を煙に巻いた新日ジュニア戦線の仕事師ケンドー・カシン。極端な2つの顔を持つ石沢／カシンはなぜ、バーリ・トゥードの大会に出場するのだろうか？

7月28日に行われた出場会見の席では、参戦の動機を聞かれても「話があったから」「思い浮かばないですね」と語っていた石沢であったが、その飄々とした素顔の下には飽くなき格闘志向が渦巻いているのである。

「技術的な対応力も持ってるし、それを超えてあいつの根性は、ちょっと常識離れしてるからね」

『Lapoo』誌上で、新日道場でコーチを務めた馳浩は、石沢のことをこう評している。

「常識離れした根性」――石沢という男はモチベーションが低そうに見えて、潜在的には非常に高いのである。新日という巨大な組織の中で、流されることなく自分を貫いてこれた原動力は、まさしくその「根性」だろう。

だが、新日本プロレスという大きな組織の中ではそのマイペースぶりも災いして、ブレイクするまでに随分と遠回りしてしまった。

ただ、カシン本人にとっては遠回りでも何でもなく、むしろ必要なことだったのかもしれない。自分の意志で参戦した藤原組の大会で、藤原組長と30分時間切れ引き分け（なぜか組長は一切攻めず）の試合をやってのけている。さらにUWFインターナショナルとの対抗戦では、現在の総合格闘技界を引っ張っている桜庭和志、金原弘光らと激突している。石沢は他団体と交わりながら、腕に磨きを掛け続けてきた。

'96年、ヨーロッパに遠征してケンドー・カシンに変身してからは、もっぱらジュニア戦線で活躍、飄々としたキャラクターと毒舌でカシン人気はブレイクした。

同じ東北出身のザ・グレート・サスケは、カシンをこう語る。

「んー、カシン選手ですか？　腕ひしぎ一発で『PRIDE』行って来い！みたいな感じだね。まあ、ボクはそれで一本取られちゃったんですけどね、ガハハハハ！　東北の期待を一身に背負って、じょっぱりだからこそバーリトゥードでも頑張ってほしいね」

サスケも認める津軽のじょっぱり（意地っぱり）は、カシンとして凱旋帰国する直前、3ヶ月間ブラジルに滞在して、グレイシーとルタ・リーブリの道場をかけ持ちしながら技術を吸収している。

新日の試合ではチラリ、チラリとそのナイフを見せるものの、その格闘センスが全開になったことはなかった。小川直也やドン・フライが参戦してくれれば、写真のようにリングでのスパーリングにも積極的に参加しているのだ。

そして、藤波社長が就任してからは状況が一変する。藤田和之が新日本を離れて、『PRIDE』に参戦。素晴らしすぎる内容で、ケアーを破った試合は石沢にも大きな刺激を与えたに違いない。そして、猪木が『PRIDE』と新日本の橋渡しをしたことによって、遂に石沢も動いたのだった。

『PRIDE』のルール・ディレクターであり、石沢の藤原組参戦時のこともよく知る島田裕二レフェリーは、石沢のバーリ・トゥード初挑戦をこう予想する。

「グレイシーは、そんなにタックル上手くないから、レスリングで実績のある石沢選手の上になることは不可能だと思うね。実際、藤原組長と当たったときも上には乗られなかったらしいからね。問題は、石沢選手が下からの攻撃にどう対処出来るかだろうね」

現在、石沢は、どこかでVT用秘密特訓を積んでいるという。それがどこなのかは、一切明らかにされていない。レスリングというバーリ・トゥードの必須科目は既に習得済みなだけに、グレイシー対策を十分に積んでくるはずだ。

小川、村上、藤田に続く、闘魂の遺伝子は、きっと8・27西武ドームで開花する！

撮影/平工幸雄

撮影/平工幸雄

95年10月9日、新日vsUインター全面対抗戦の初戦が石沢＆永田vs桜庭＆金原だった。猪木も絶賛した殺気溢れる闘いとなった。

改めて聞くとトンデモない爆弾発言連発!!

ケンドー・カシンの暴言ファイル

「めざすスタイルはスタイナー兄弟のスープレックスと、ライガーさんのような動きと、馳さんのようなお客さんの心をつかむ力と、あと佐々木さんの気迫を混ぜたものだと思いますけどね」

↓平成5年週プロNo.537　ヤングライオンインタビュー

●一見最近のヒネた発言のようだが実は本音。結局誰も手本にならなかったようだが、アマレス第一主義とカシン以降の発言は馳イズムの香りも。

「マスコミの要望通り、足を攻めましたよ」

↓平成5年　vs藤原喜明戦敗北後コメント

●30分時間切れとなった最初の藤原戦を「若手はもっと攻めていい」と各誌で書かれた事に対する反発か。既に対マスコミには敏感に反応。

「（控え室に）帰ってもいいですか？」

↓平成6年

6／1仙台新日組vsみちのく組勝利するも観客に手を挙げるのを拒否

●当時みちプロ勢は完全拒否、欽ちゃんジャンプでもしようものなら嫌悪感丸出しの表情。金本に代わる「インディー潰し」キャラが定着していく。

「目標はスタイナー兄弟みたいなどこからでも相手を投げれるようなレスラー」

↓平成4年　vs金本浩二戦（デビュー戦）後コメント

●意外にも初期得意技は水車落し、途中から投げっぱなしジャーマンといかにもアマレス出身。I Vニーロックが無ければ小・中西と思うとホッ。

「ぼくなんか顔じゃないし、出る幕じゃないと思うんですよね僕は飛ばないしジュニアにふさわしい人はいっぱいいるじゃないですかいつもどおりのプロレスをやるだけだし、目標もそれです。ただグラウンドじゃ絶対負けないです。そりゃそうですよ、ボクはアマレスで全日本チャンピオンになったんですよ。学生プロレスとは違います」

↓平成6年週プロNo.612　スーパーJr.に向けてコメント

●明らかにテリーボーイ（現MEN'Sテイオー）に向けた発言でみちプロは激怒。この頃からツーショルダータイツに変更、格闘技色が強くなっていく。

格闘 SOUL FIRE

普通の会社ならとっくにクビ!!
カシンのタブーなき毒舌芸術に酔え!!

取材嫌いで有名な石沢の言葉は非常に貴重である。というわけで、試合後のコメントや様々な媒体に登場したときの発言を拾い集めてみた。すると、尋常ではない暴言の数々！　ときには辛辣に、ときには不条理に、センス抜群のアナーキーなコメントを数多く残しているのだった。普通のレスラーなら、まず口に出来ないような毒舌も、キャラクターにして押し通してしまうクレバーさ。さすがは早稲田大学卒業だ。これらの発言から、ケンドー・カシンの素顔に迫ってみたい……っていうか、発言だけでも十分過ぎるほどエンターテインメントしてるから、とにかく必読！　構成／大坪ケムタ

「関節技の技術を追求する団体なら、体力的にも技術的にも鍛え直してから来い！」

平成6年　タッグリーグvs石川&船木組に勝利後コメント
●ディーン・マレンコと組み藤原組タッグに完勝。相手の弱さというより石沢の関節技に対するプライドと、石川らに対する落胆が伝わる一言。

「もしホイスグレイシーが出るんだったらボクも出たかった」

平成6年週プロNo.633　アルティメット観戦時のインタビュー
●当時から「ヒクソン似」と言われてた石沢だがグレイシーには早くから興味あり。それを考えると今回は6年越しのグレイシー挑戦とも言える。

「こっちは三流でも一応プロですから」

平成6年　タッグリーグvsSPWF『神風』&茂木組に勝利後コメント
●SPWFが謳った「社会人プロレス」は石沢にとっては学生プロレスと同レベルか。壮絶な「かわいがり」を見せたキラーイッシー全開の一戦。

「Uインターという団体には興味はないです。出てこない選手で興味のある人はいますが」

平成7年週プロNO.693　U対抗戦直前
●出てこない人＝田村との対戦も噂されたが水の泡。それがあればUインター対抗戦が石沢のブレイクのきっかけになってたのかもしれない。

「三年ほど前から同じ練習じゃダメだと思っていた。新しいものを誰かが取り入れていかないとどんどん遅れていく」

平成9年　凱旋試合、vs山崎一夫戦敗北後コメント
●カシン国内初試合、マウント掌底などVTスタイルを見せるも場内の反応は冷ややか。その忌まわしい記憶なのか、いつのまにか掌底は見なくなった。

「日大と早稲田じゃ（オツムを指さして）ここが違うから」

平成10年　藤田・福田（共に日大）と対戦後コメント
●中卒だらけのプロレス界では禁句とも言える学歴差別も軽々。その藤田にアマレスでアンタ負けてんじゃん！　なんて事はもちろん言わせない。

「優勝したらコソボの人たちに給付金をやる」

平成11年　スーパージュニア6　vs田中稔勝利後コメント
●ちなみにシリーズ優勝後、実際100万円を寄付。この冗談とも本気ともつかない行動こそカシンを単なるヒールと言わせない理由のひとつ。

「オレはべつに、いつ辞めたっていいしね、全然プロレス界に必要な人間じゃないしね」

平成9年　vs金本浩二　敗北後コメント
●デビュー戦での絶望感からか、一切味方を作らず自暴自棄発言を連発。あたかも親に構われない優等生の転落パターンを見るような変身ぶり。

「遊ばなきゃこんなモンだ」

平成10年
猪木UFO勧誘発言直後のvs金本戦に3分13秒で勝利後コメント
●UFOやG—eggs勧誘など、自分が話題の時は思わせぶりな行動を示しといて結局動かなかった。逆に否定した『PRIDE』はゴーサインだったのか？

「（記者：おめでとうございます）うん、余計なお世話だ」

平成11年　vs高岩竜一戦防衛後コメント　この時、マイベルト持参で登場
●理不尽な暴言と言えば冬木だが、このマスコミへのあしらい方を見せられるのはカシン以外無し。大仁田無き今、真鍋アナはカシン劇場を作るべき！

「ベルト獲ったらオレ自身が新しいベルト作ってやる。あんなカッコ悪いベルトはプロレスショップに売ってやる」

平成10年
ライガーへのIWGP王座挑戦直前のコメント
●孤高ながら「プロレスショップ」という俗な言葉を使うのがいかにもカシン節。ちなみに後に作ったのは自分の顔が入った毒々しいベルトだった。

「今日の勝利は二瓶組長に捧げるよ」

平成11年　スーパージュニア6 vs折原昌夫戦勝利後コメント
●二瓶組長からの折原暴行事件に引っ掛けた一言。「ネタは朝刊を見て考える」というだけにコソボ問題から東スポ一面までチェックは欠かさない。

「（大谷は）親父と組んで出たほうがいい。組まないんだったら、俺が（オヤジさんと）組んでやる」

平成10年　vs大谷戦勝利後コメント
●リングスに高坂おかんがいるように新日には大谷パパが。他にも「妹と父ちゃん母ちゃん連れて来い！」など大谷一家シリーズは数多い。

「（パンクラスについて）あれはあれで、やる分には面白いと思う。やってる本人は」

平成10年『Number』453号　本人インタビュー
●船木がスカウトしたい一人、本人もやりたがってると噂のあったパンクラス。「早稲田と青森の中卒じゃ違う！」と船木に言う姿は見てみたかった。

好きな有名人：太田章

平成11年週プロNo.894　名鑑より
●大学時代の恩師・大田氏へのリスペクトぶりは有名。氏もプロレスに対する厳しい発言は有名だけに、この師匠にしてこの弟子あり、という感も。

ケンドー！カシンの暴言ファイル

「オレもこれから試合をボイコットしてやる。ネコさん（ブラックキャット）と組んで猫軍団結成だ！」

↓平成11年東京スポーツ『プロレス2000年鑑』、試合をボイコットする犬軍団を引きあいに出して
●無党派カシンの珍しい徒党結成発言。もちろん現実化はしてないが。キン肉バスターから腕ひしぎへの連携は見ることはないのか。

「（藤田のPRIDE参戦の呼びかけに対し）バカヤロー、オレは今それどころじゃねえんだ。オレは興行の精算をしなくちゃいけねえんだ。その金でお中元をださなくちゃいけねえんだ」

↓平成12年　新日青森大会
●この日はカシン本人の売り興行。藤波社長就任の時も「お中元、お歳暮出さなきゃ」という発言があり、金と季節のご挨拶にはシビアらしい。

「（カシンから石沢を見て）情緒不安定なんじゃないの（石沢からカシンを見て）すばらしい。理想のとこだね」

↓平成11年週プロNo.932　単独インタビュー
●プロレスラー・カシンは最高、自分の中の石沢は若手時代の激情的なままという事か？その「揺れ」がどちらに働くかが今回の楽しみのひとつでもある。

「知らねえ。オレに聞くな。倍賞鉄夫に聞け!!あの金の亡者に聞け!!」

↓平成12年週プロNo.988青森大会にてPRIDE出場についてコメント
●DESとの契約問題か、興行主としての苛立ちか、普段からの文句なのか、発言の真意は謎だがカシンでないと言えないセリフである事は間違いない。

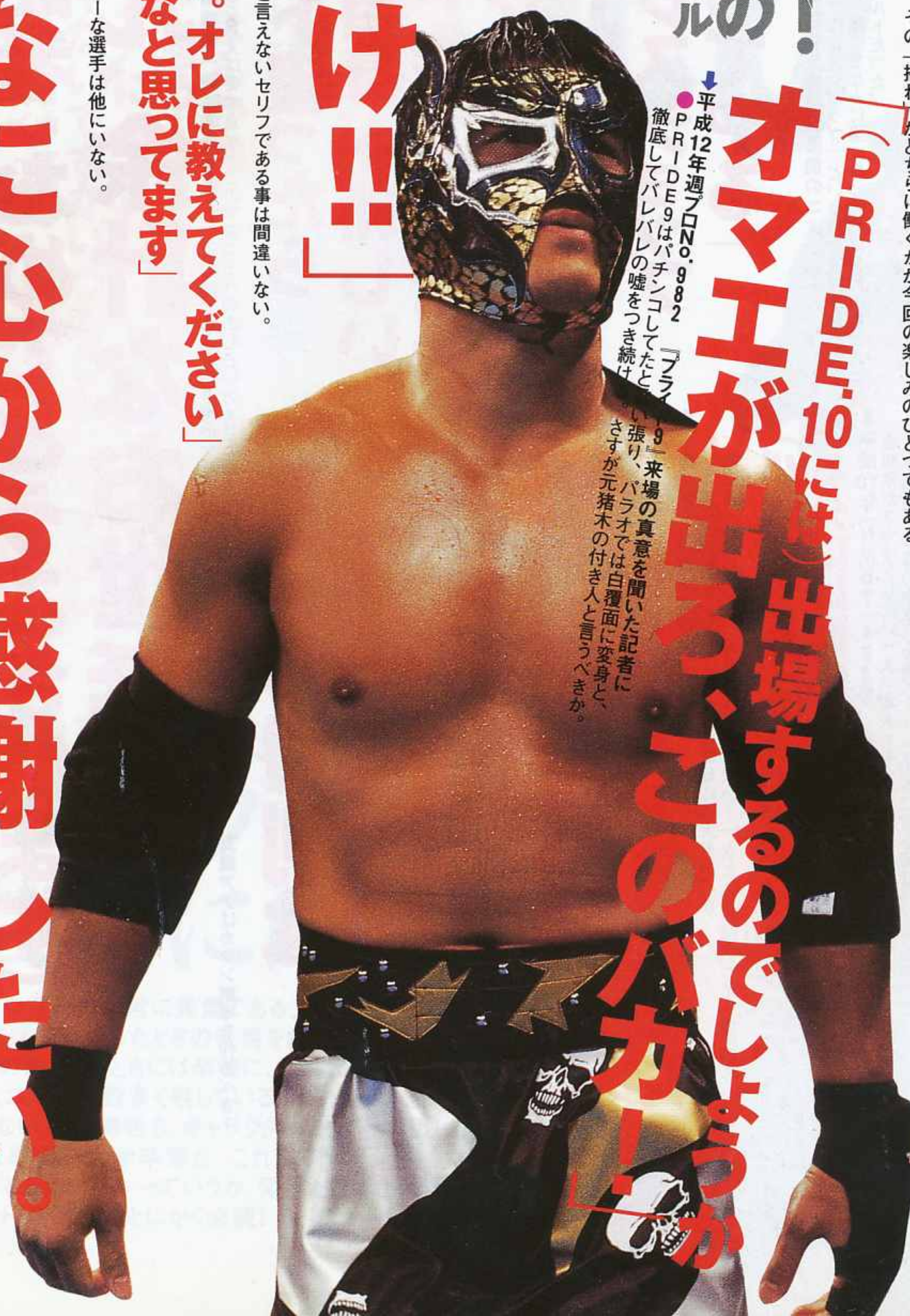
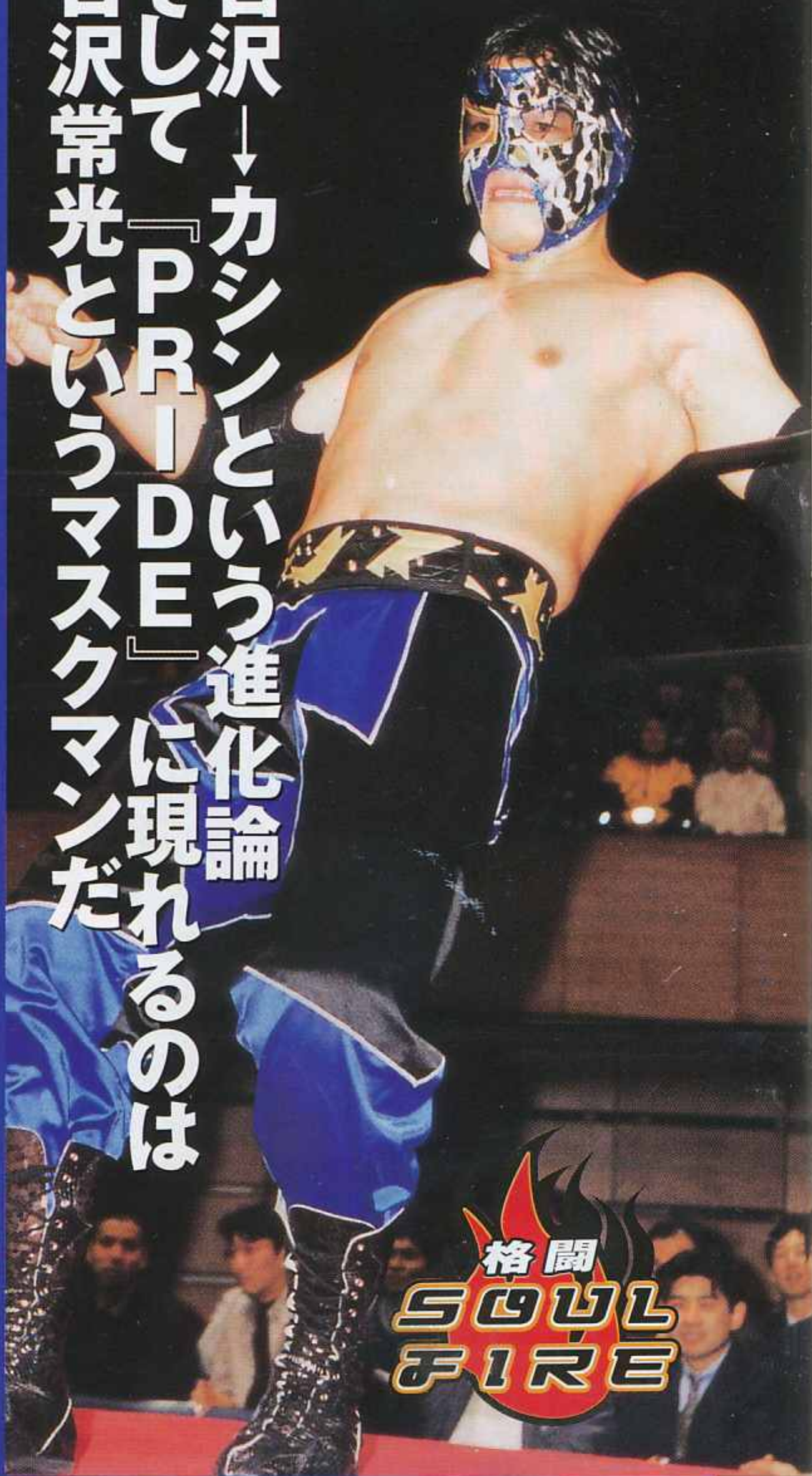
「（PRIDE.10には）出場するのでしょうか　オマエが出ろ、このバカ！」

↓平成12年週プロNo.982
●『プライド9』来場の真意を聞いた記者にPRIDE9はパチンコしてたと言い張り、パラオでは白覆面に変身と、徹底してバレバレの嘘をつき続け、さすが元猪木の付き人と言うべきか。

「（これから研究したり？）アナタが研究してください。オレに教えてください（VT用トレーニングは）試合の前日から始めようかなと思ってます」

↓平成12年『PRIDE』出場会見
●石沢として登場し、格闘技マスコミを唖然とさせた天晴な応対。総合の匂いを持ちながら、ここまでプロレスラーな選手は他にいない。

「ありがとう。みんなに心から感謝したい。（IWGPベルトを踏みつけながら）」

↓平成11年週プロNo.934　神宮大会　vs金本IWGP勝利後コメント
●このトンチの効いた心の入ってなさがカシン節のキモ。西武ドームでもスカパーも賞状もブチ破り、こんな「らしい」感謝の弁を聞かせてほしい。

石沢→カシンという進化論 そして『PRIDE』に現れるのは石沢常光というマスクマンだ

その実力は噂されていたが、これまで検証される場が無かったケンドー・カシン＝石沢常光の実力。だがプライドのリングに上がる事で遂にその力が測定される。何しろ新日時代アマレス出身・UFO参戦候補と同じ境遇だった藤田が結果を出しただけに、石沢への期待が高くなるのは必然。そこで過去のコメントを中心にその過去を追ってみると共に、過去の石沢とカシンという現在、そして今回リングに立つ石沢常光という三者の関係を考察してみる。

文・大坪ケムタ

「華麗なサブミッションファイター」
「社長の目の前で認定書を破り捨てる、権威知らずのテロリスト」
「コソボに基金する覆面レスラー」
「全日本アマレス王者でルタ・リーブリ留学の経験あり」

こう羅列してみると、あらためてケンドー・カシンというレスラーのキャラクターのデタラメぶりが浮き彫りになるだろう。各文だけ見れば田村だか冬木だかキザにいちゃんの方のタイガーマスクだか分かりゃしない。そのワケ分からなさがジュニアは元より、新日本全体の中でも異色さを際立たせてるのだが。

そのケンドー・カシン＝石沢常光が初のVT戦、しかもいきなり対グレイシー柔術に挑む。対戦相手は一族の中でも「キレたら何をするか分からない」と恐れられるハイアン・グレイシー。だがカシンも「何をするか分からない度」では、コソボに100万円を基金したりIWGPベルトを自分で作ったりと負けてはいない。

「グレイシー一族No.1の悪童VSプロレス界No.1の愉快犯」というヒール対決、互いに実力が未知数なこともあって、プロレスファンにとってはメイン以上に想像力を呼び起こさせるカードといえる。

しかし意外なのはマスコミ的に石沢VSハイアンを「新日本VSグレイシー初のVT直接対決」と位置付けた盛り上がりがあまりない、ということ。それはハイアンに関するデータ不足や、新日VT出撃というインパクトは藤田が既に収めているから、というのもあるだろう。しかし何より石沢＝カシンのこれまでの発言や、マスクマンということから来る「新日らしくなさ」が大きな原因ではなかろうか。

しかしカシン以前の石沢常光時代は地味ながらも昔の新日らしい「裏の強さ」を思わせる選手の代表格だった。「デビュー1年足らずで実現した藤原嘉明との対戦後「石沢は非常に強い。藤原組でスカウトします」（平成5年週刊プロレスNo.56）と言わせた実力。また対道場破り要員だったとか、パンクラス船木がスカウトしたがっていたという噂も非公式ながら伝わっており「新日道場幻想」を掻き立てる大きな存在であるのは間違いない。

それに当時盛んだった新日ジュニアとインディー団体との交流戦で「潰し屋」として活躍したのもそのイメージを強くした。また一方でU系団体・VT選手への関心も高く「本人（石沢）はパンクラスのルールでもやってみたい気持ちがあるらしい」（平成6年週刊プロレスNo.601・馳のコメント）「もしホイス・グレイシーが出るんだったらボクも出たかった」「Uインターという団体には興味はないです。出てこない選手で興味のある人はいますが」などコメントからも石沢がVTへと流れていく格闘技の波にいかに敏感に反応していたかが分かる。

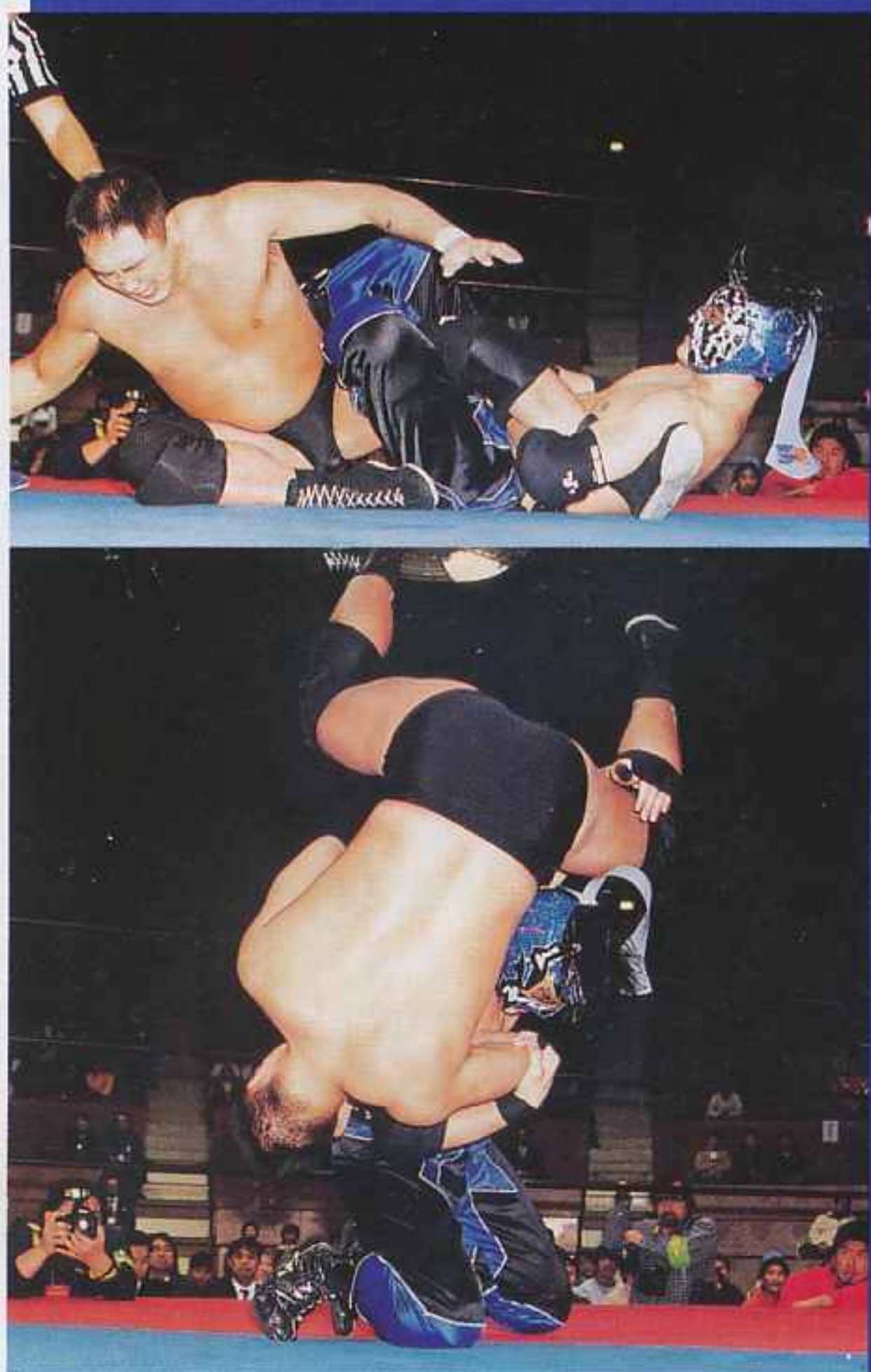
余談ながら、Uインター対抗戦で石沢は桜庭と1度だけシングル戦を行っている（95年10月大阪）。結果はヒールホールドで石沢の勝ち。桜庭は試合前に「闘ってみたい選手のひとり」と石沢を称し、試合後は「大したことなかった」と言っているが、これは対抗戦の意地から出た言葉なのか・・。いずれにしろ石沢にとってはUインターとの対抗戦もおいしい試合では無かったようだ。第一戦でタッグを組んだ永田がこれを機に上昇したのに対し、石沢は新日内での立場が変わる事は無かった。

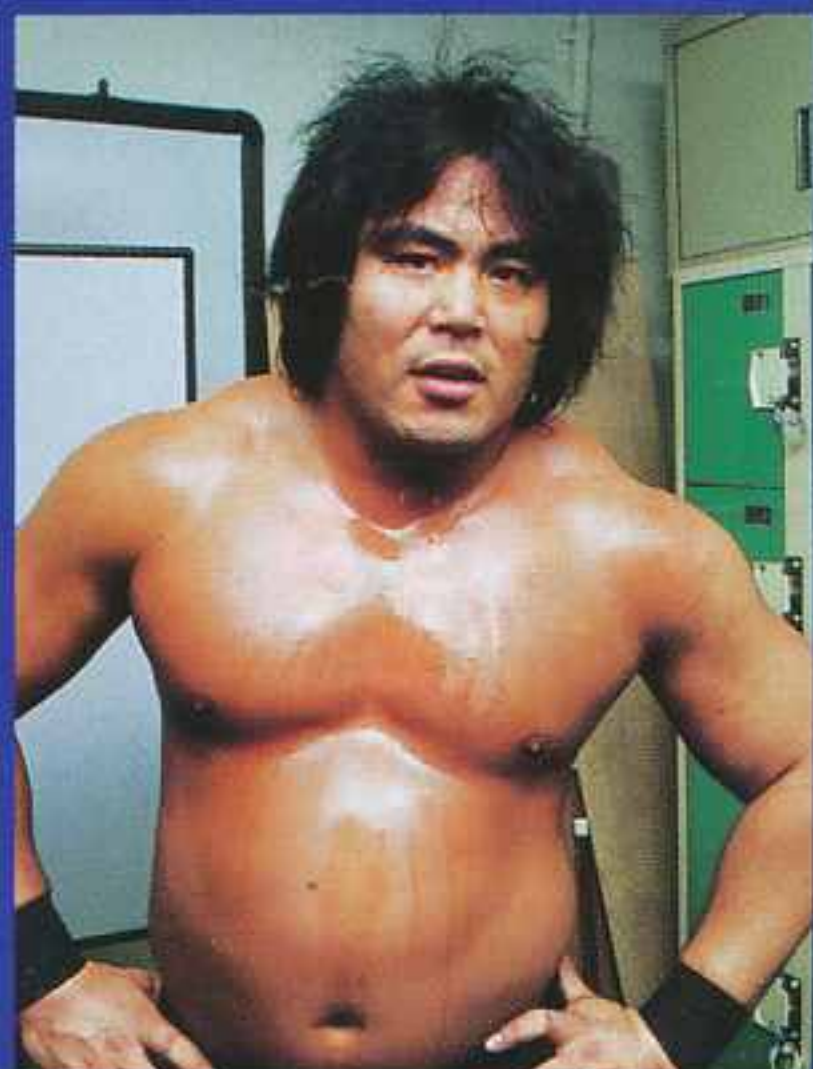
それが突然のPRIDE参戦。しかも約4年ぶりの石沢常光としての登場。それはヤングライオン時代の自らの技術にプライドを持ち、あくまでも試合で語る格闘家・石沢なのか？　そこにケンドー・カシンの影は入る余地はないのか？　その答えは意外にも試合が始まる前に出た。会見での発言である。「（相手について）知らない。アナタが研究してください。オレに教えてください」と、どこまでもカシンな発言。

このことはこう考えれば分かりやすい。

今回はカシンが石沢に戻るのではない、「カシンが石沢のマスクを被る」闘いなのだ。本人にすればカシンとは完成されたレスラーである以上、今さら「石沢常光」に戻す必要はない。むしろカシンとは以前の石沢の進化した姿と言った方が妥当だろう。元々ルタ・リーブリ修行はカシン変身後のものだし、関節技を使い出して以降の実際ファイトスタイル自体はそう変わっていない。普段素顔のレスラーがマスクを被ると普通と違うこともやりやすい、というのと同様に、マスクを脱いだ方がVTはやりやすい、というだけの話。

しかし藤田がケアー戦で新日の「肉の強さ」を見せたように、石沢には「新日道場伝説」という「血の強さ」を期待したくなるのは必然。だがそれを操る脳は、あくまでも非・新日的レスラーであるカシン。石沢というマスクを被ったカシンがいかに新日という匂いを見せずに、または見せて闘うのか。勝敗とは別にその部分にも注目したい。

でも今回だけは握手のフリの飛びつき腕ひしぎ逆十字だけはやめてね、反則だから。

普段の試合でもアマレスの飛行機投げや足関節技を多用するカシン。VTではどう闘う!?

カシンのことは高く評価している永田。今回の『PRIDE.』も観戦に来るのだろうか？

同期の中西のことは「バカ」とこきおろすカシン。カシンの毒舌の格好の標的だ。

年1月マーク・ケアーに敗れ

エンセン井上

「勝つ」プレッシャーは桜庭さんに任せて次は大和魂大爆発させるヨ！

山口日昇＝聞き手
interview by Noboru Yamaguchi
坂井ノブ＝構成
text by Nobu Sakai
斉藤ユーリ＝撮影
photographs by Yuri Saito

格闘 SOUL FIRE

「大和魂、不発」の原稿を書いた本誌編集長が、遂にエンセン井上に接触!!

今年1月マーク・ケアーに敗れて以来、約半年振りにエンセンが『PRIDE』のリングに帰ってくる！　というわけで、今回は"北の最終兵器"イゴール・ボブチャンチン戦に向けての意気込みを聞きに行った。

聡明なる本誌読者ならばとっくにご存知だとは思うが、本誌とエンセンの間にはちょっとした因縁があった。今年1月のケアー戦を「大和魂、不発」と書いたため、それを見たエンセンが激怒。ボクの携帯に「ボコボコにするヨ！」と恐怖の電話を掛けてきた。じつは、その原稿を書いたのは本誌編集長（以下、山口）だ。言い訳なら自分ですりゃいいだろうと思いながらも、なぜかエンセンにはボクが事情を説明。山口の言い分としては「大和魂を見せられなかった、という試合後のコメントを踏まえて書いた」「エンセンに期待しているからこそ、次回への期待もこめて今回は不発と書いた」というような内容だったが、直接話し合いたいエンセンとしては納得がいかない。ひとまず「ボコボコ」は回避されたものの根本的な解決には至らなかった。

結局、当事者同士が話合う席を設けようと山口には持ちかけてみたものの「誌面にせずに、普通に話せるなら会うよ」と一旦は逃げを打っておきながら、しばらく経ったら「スキャンダルを企画に結びつけられない編集者は編集者失格！」などと怒り出す始末。こうした経緯を重ねていくうちに、ボクは山口の二枚舌&チキンハートに心底失望していくのだった。

取材当日、赤坂のキャピトル東急ホテルでエンセンを待っていると、ユセフ・トルコと会っていた山口とバッタリ会った。いい機会なので、ボクは山口とエンセンを面会させることにした。

やがて、エンセンが到着。さっそくエンセンのところに山口は挨拶に行く……すると胸にチョップをやられてる。アハハ、ざまあみろ。約半年間も引きずった因縁も精算したところで、気持ちよくインタビューに移ろうとしたその瞬間！

いきなり山口が割り込んで、いつのまにかインタビューを開始。まあ、いい。また失礼なことを言って殴られてしまえばいい。ガンバレ、エンセン！　というわけで、ボクも同席した、山口がいつエンセンの地雷を踏むかわからないスリリングなインタビューをお届けしよう。

（坂井ノブ）

——いや、あらためてお久しぶりです。今日はおそるおそるですよ、ボクは（笑）。

エンセン　なんで？　ワタシ、もう『紙のプロレス』に怒ってないよ。

——ホッ！　今度の『PRIDE』は1月以来、久々の試合になりますね。

エンセン　そうね。今度の試合は怖いものが何もない。KOされても、自分がKOしてもいいんだけど、とにかく前に行く！　逃げない！　とにかく立ち技で攻めに行くヨ。殴りっぱなし！

——殴りっぱなし（笑）。KOする確率も出てくると思いますけど、当然KOされる確率も高くなりますね。

エンセン　でも、それしかないよ。KO出来ないとしても、そういう恐怖を与えないとタックルに入るチャンスも作れない。ゴングが鳴ったら、すぐ殴りに行きます（笑）。こないだの試合は気持ちで負けたとか書かれたから。

——マーク・ケアー戦のことですね。

エンセン　あれは作戦ミス。もっと頭使った方が良かったのかもしれない。

——ま、1月のケアー戦はなかったことにしましょう（笑）。あのときは、ウチの雑誌で「大和魂、不発」って書いたのを見て、エンセンさんは怒ってましたよね。

エンセン　怒ったよ！　意味わからなかった。なんでこんなこと書かれなきゃいけない？って思った。あのときは記事を見て5秒後にサカイさん（坂井ノブ）に電話したヨ（笑）。

ノブ　夜中ですよ。しかも静かな声で。殺されるかと思いましたよ、マジで。

——しかも発売日前に（笑）。

エンセン　送られてきたの読んだネ。

——でも、大和魂を持ってる人じゃないと「不発」にはならないですからね。

エンセン　あ〜〜、うまいこと言うネ（笑）。

——でも、そこで瞬間的に怒れるエンセンは素敵ですよ（笑）。

エンセン　アハハハ。

——格闘家には"怒りのエネルギー"は絶対必要ですから。でも、エンセンが怒ってるって聞いて、ボクもズバリ言ってムカつきましたよ。「なんで、エンセンが怒るんだよ〜」って（笑）。

エンセン　あれは技術的には立っていけない。わかってる？

——もちろん技術的な部分はわかってるつもりですよ。「じゃあやってみろ」って言われてもできるわけがないですから。でも、あのとき集まったファンが何を見たいかというと、立てなくてもなんとかしようとするエンセンの気持ちの部分ですから。例えば、下からグローブ投げつけるとか（笑）。

エンセン　アハハハ。でも、技術的にわかってるのに、何でそういう部分を書いてくれないんだっていう気持ちはあるネ。あの試合では大和魂を見せられなかった、見せるチャンスがなかったから……自分でも試合で悔しい部分があったから気が短くなってたかもしれない。

——今度は、エンセンさんの気持ちを試合で見せられればいいですね。

エンセン　そうね……だから、怖くないよ！　倒しに行くネ！

——ボブチャンチンに対して「強い」というイメージはあります？

エンセン　ある。ガード・ポジションもわかってるし、テイクダウンから逃げる方法もうまい。立ち技はものすごく強いね。グラウンドで極めるにも、本当に大変なことをやって状況をセットしてからじゃないと無理ね。勝つ可能性を考えたら、グラウンド勝負の方が勝つ可能性は大きいんだけど、そっちの方が仕事的に大変だよ。だから負

イゴール・ボブチャンチンは、今年5月の『PRIDE．GP』ではゲーリー・グッドリッジをKOし、桜庭和志の『PRIDE』無敗記録に土をつけて、決勝でマーク・コールマンには敗れたものの堂々の準優勝を達成している。

けてもいいから殴りに行く！
——立ち技で勝負！　極端に言ったら、今度の試合はエンセンらしい試合が見られれば、勝っても負けても、どっちでもいいんですよ。
エンセン　そうね。みんな、「エンセン負けるよ」って言ってる。でも……認めないよ、それ。だから、気持ち見せて倒しにいくヨ。
——それを見せれるかどうかが勝負ですよ。『ＰＲＩＤＥ．10』は、桜庭vsヘンゾ、石沢vsハイアン戦を始め、注目の試合が他にも多くありますよね。そういう意味でも勝負ですよね。
エンセン　面白い試合ばっかりだよ、今度。見たい。自分の試合、早く終わって他の選手の試合もゆっくり見たいね。だからメインイベント（の位置）はいらない。第1試合でいいよ。もしＫＯされたら病院からでも見たいネ（笑）。
——ＫＯされても病院で観戦（笑）。
エンセン　それは冗談だけどネ。
——ガハハハ！　やっぱり日本の選手がいい試合をしないと盛り上がりませんよ。最近は、桜庭、藤田（和之）を始め、プロレスラーが活躍してますよね。
エンセン　そうね。ワタシの試合は「いい試合をして、倒しにいくけど、勝ち負けは関係ない」。桜庭さんの場合は「いい試合をして、倒しにいくけど、勝つ」。ワタシと桜庭の魅力を比べたら、彼の方が全然上だと思うネ。彼は勝っちゃうもん。
——なんだか勝っちゃいますね（笑）。
エンセン　だから、桜庭さんがいるから、プレッシャーはそんなにないね。もしワタシが『ＰＲＩＤＥ』の看板になったら、勝たなくちゃいけないから大変ネ。看板は勝てる選手じゃないと、良くないじゃん。
——大人ですね（笑）。
エンセン　ワタシの心、大和魂見せられれば、「負け」はそんなに怖くない。看板になってもいいけど、勝ち負け関係なく相手を倒しにいく方がラクだから。まだ、ワタシはプロフェッショナルになれないネ（笑）。（テレコに向かって）桜庭さん、ヨロシク！
——ガハハハ！　汚い（笑）。藤田選手についてはどうですか？　マーク・ケアーに勝ったときにはジェラシーは沸かなかった？
エンセン　藤田さんにジェラシーを感じるより、ケアーが弱く感じた。ケアーは調子の波あるし、あのときのケアーは心もなかったネ。あの試合を見たら、勝った藤田さんに挑戦したくなったけど、同じ日本人だし、また一緒に練習する機会もあると思うから試合出来ないよ。それよりはギルバート・アイブルと闘いたいネ。もし、時間が経って「エンセンがケアーに弱い負け方した」「藤田はケアーに圧勝した」っていうイメージが消えないんだったら、いつかは藤田さんとも試合しなきゃネ。
——おお、それは夢の日本人対決ですね。
エンセン　でも、日本人は団結して他の国の選手と闘った方がいいけどネ。
——そういえば、今回は村上vs佐竹の日本人対決も急遽決まりましたよね？
エンセン　村上さんはスター性あるよね。彼はプロレスの世界は合ってるヨ。
——エンセンさんもスター性ありますよ。プロレスの世界は向いてると思うけどなぁ（笑）。
エンセン　でも、プロレスは気持ちをいまよりもっと表現しなきゃいけない世界でしょ？　でも、いのワタシはホントの気持ち以上に見せることができない。寂しい気持ちとか、弱い気持ちとか見せられない。気持ちは全部出せない。だから、売れないんじゃない？
——ガハハハ。売れませんか！（笑）
エンセン　明るい雰囲気で入場とか出来ないよ。『紙プロ』で大仁田さんと対談したとき（Ｎｏ．23）、彼は「オレは入場が真剣勝負だ」っていってたけど、あれ、そう思うね。真剣勝負のポイントが違うよ。彼の入場はホントに勉強になるネ。
ノブ　そういえば、大仁田vs長州の試合は見ました？
エンセン　あ！　見れなかったよ。
ノブ　じゃあ、ビデオを送りますよ。

マーク・ケアーに続き、イゴール・ボブチャンチンと激突することになったエンセン。とにかく勝ち負けよりも、自分の大和魂をどれだけ発揮できるかが勝負の分かれ目となるだろう。

大和魂が見せられれば、「負け」はそんなに怖くない。ただ相手を倒しにいく方がラク

真夏のイーフォース新作Ｔシャツ各１名ずつプレゼント！

応募方法は
P160参照

BACK
大和魂“波”ホワイト
（￥4000）
サイズ：Ｍ～ＸＬ

BACK
キッズ・レスリング
（￥未定）
サイズ：キッズサイズ～ＸＬ

FRONT
PUREBRED
（￥3000）
サイズ：Ｍ～ＸＬ

FRONT
ファッカイジム
（￥3000）
サイズ：Ｍ～ＸＬ

BACK
“訓”渡辺ジム教訓Ｔシャツ
（￥3000）
サイズ：Ｍ～ＸＬ

BACK
修斗クンＰＯＰ
（￥3800）
サイズ：Ｓ～ＸＬ

お問い合せ（有）イーフォース・ジャパンTEL.047―378―6400

エンセン　ホント？　すごく見たい！

——でも、エンセンさんは大仁田さん好きだから、長州力にムカつくかもしれないですよ。凄く偉そうに勝ちましたから（笑）。

エンセン　ホント？　今度、大仁田さんのセコンドにつこうかな（笑）。

——その長州さんが、ヒクソンと対戦するって噂も出てますからね。

エンセン　えっ、ヒクソンと？　リキさんはこういう闘いは強い？

——アマレスでオリンピックに出てますからね。

エンセン　あ〜、じゃあ強いね。

——強いことは強いんだけど……。

エンセン　でも、彼はバックに組織があるんだぞっていう態度でしょ？

——ズバリ言って、よくわかってますね！（笑）。

エンセン　彼、小川さんと橋本さんの試合のとき（99・1・4）、すごく威張った態度で出てきたでしょ？

——はい（笑）。あ！　オレはエンセンさんに長州力と闘ってほしいなぁ。電流爆破バーリ・トゥードで（笑）。

エンセン　それ、おもしろそうね。ボコボコにしたいヨ……ってワタシに言わせようとしてるネ？（笑）。

——ガハハハ！　いやいや、バレました（笑）。

エンセン　難しいかもしれないね（笑）。ワタシは、いまボブチャンチンを倒しに行くことだけね。その1試合だけしか考えたくないよ。

——でも、たった1試合でファンやマスコミの評価ってガラッと変わりからね。そういう意味じゃ、選手はシンドイですよね。

エンセン　そうね。でも、ワタシの売り方って勝ち負けはそんなに重要じゃないでしょ？　心で闘うことだから。

——エンセンさん流に言うと、その心を見せれれば、1試合でファンの心を突き刺せるんですよ。だから、前の試合がどうとかは関係ない。

エンセン　でも、エンセンが負けても何しても応援してくれる何があっても離れないファンって2割もいないんじゃない？

ノブ　インターネットでもエンセンさんの批判が最近目立ってきてますけど、それはエンセンさんが有名になってきたからだと思うんですよ。

エンセン　そうネ。

ノブ　ファンの批判に「Enson」を名乗る人が反論してる書き込みも発見したんですけど（笑）。

エンセン　ウソ⁉　何それ（笑）。でも、何書いてあっても気にしない。大人になったよ。小錦も、ワタシに注意してくれたネ。どんどん上位に行くにつれて批判は増えていったけど、引退直前にもうすぐ十両に落ちるっていうときは、悪口はほとんどなくて応援しかなかったから一番幸せだった」って（笑）。

——でも、エンセンは小錦じゃなくて、横綱を目指してくれないと（笑）。

エンセン　そうネ。でも、最近は思うね。逆に、「絶対勝つ」とか言ってる選手は歳を取ったら、「勝つ」って約束できなくなっちゃうよ。ワタシは、勝ち負けの約束は出来ないけど、「100％力で倒しに行きます」って約束は出来るネ。

——じゃあ、今度の試合では大和魂の大爆発を期待してもいいですか？

エンセン　はい。大和魂出します！　問題ない！　もしKOされても、夢を見ながら出します。

——ガハハハハ！　寝ながら出す。でも、不発だったら、また不発って書きますよ（笑）。

エンセン　（ジロッと睨みながら）ああ、そう？　じゃあ、またワタシも怒るよ。またサカイさんに電話しなきゃネ（笑）。

——こいつには、いくらでも電話してください。ボクはいいです（笑）。

ノブ　カンベンしてくださいよ！

エンセン　でもね、マスコミ、やっぱ強いよ。ワタシもいろいろ書かれたよ。

ノブ　『週刊P』とかですね。

エンセン　書く人強い。ワタシたち格闘家がいくら強くても、マスコミの力にはかなわない。間違ったことでも書かれたらみんな信用するよ。だから、卑怯よ！（と言って、山口日昇とノブのむこうズネを蹴っとばす）。

——イテッ。格闘家のほうが強いですよ。ボクらは、しょせん紙ですから。ペラペラで踏まれたらグシャッですよ（笑）。

エンセン　アハハハ。それで『紙のプロレス』？　面白いネ。もう、でもなにを書かれてもいいよ。くだらないことはもういいヨ。ワタシ、よくそう見られるけど、手を出すのはよくないね。でも、マスコミにも気持ちは負けない（笑）。それから試合の近くまでは自分を追い込む。だから、倒しに行く気持ちを100％見せるヨ！

——で、今日はボブチャンチン戦に向けて、エンセンさんを激励するために、とてつもなく元気な、ある元プロレスラーの方を連れてきたんですよ。

エンセン　誰？

——ずっと前から「大和魂」とか「俺は日本人だ」って言ってた人なんですよ……。

次の試合で大和魂出します もしKOされても、寝ながら出します!!

1月のケアー戦の悔しさをバネにエンセンのリベンジが遂に始まる！　『PRIDE10』は8月27日（日）埼玉・西武ドームで16：00試合開始！

というわけで…大和魂対談、次ページからスタート！

ENSON INOUE

（ハワイ生まれの日本人）
エンセン井上

（トルコ生まれの日本人）
ユセフ・トルコ

ゆせふ・とるこ■昭和5年5月23日、樺太生まれのトルコ人。今年で70歳だが、おへその下は35歳。日本プロレスでは昭和29年プロレスラー活動。レフェリーも兼任し役員も務める。新日本プロレスでもレフェリーを務める。スピーディーでコミカルな動きで客席を沸かせ続けてきたが猪木vsウィリー・ウィリアムスという物騒な試合も裁いた頼りになる男。

その昔、明らかに外人の顔をしてるのに「俺は日本人だ!!」と言い張り、自身の「大和魂」を殊更にアピールする男が日本のマット界には存在した。その男の名はユセフ・トルコ！　マット界の新旧2大"大和魂"が邂逅するエンセン激励特別企画！　日本人以上に日本人らしい「俺たちは日本人だ!!」対談がビャビャビャ～ンとスタート！

えんせん・いのうえ■昭和42年4月15日、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル出身。ハワイのグレイシー柔術を習い、日本に来日後修斗でデビュー。99年からは主戦場を「PRIDE」に移し、世界の強豪と闘い続ける。闘いを通じて「大和魂」を見せてくれる日本人以上に日本人らしい日系4世。PUREBRED大宮ジムの代表。修斗初代ヘビー級チャンピオン。

元祖・日本人のユセフ・トルコが、エンセン井上を激励!!

オスマントルコ魂X大和魂

ユセフ・トルコ断言！「キミを二代目力道山にする！」

トルコ　やあやあ、ハロー、ハロー！　井上さんは日系2世？

エンセン　4世ネ。

トルコ　でも、顔が2世っぽくないね。

――4世ですよ（笑）。

トルコ　ああそうか（笑）。日系レスラーの悪役だったグレート東郷、知ってる？

エンセン　あ～、わからない。

トルコ　私にブン殴られてビャビャビャーって飛んでったヤツ。

――しかし、相変わらず元気ですねぇ（笑）。今年でおいくつですか？

トルコ　当年とって70歳！　おへその下は40歳！

エンセン　アハハハハ！　昔の『紙プロ』には「おへその下」は35歳って書いてあったヨ（笑）。

トルコ　もうトシ取ったから。オレも70歳だからなぁ（しみじみ）。でも、おへその下は45歳！

――いきなり5歳上がってますよ（笑）。

トルコ　しかし、いい身体してるな。もったいないよ、プロレスやればいいのに。小川とタッグを組んだら最高だよ！　もう、2人のタッグなんつったら、グラッチェ、グラッチェだよ。

エンセン　な～んですか、それ（笑）。

トルコ　もう、東京ドームが毎日超満員だよ。それでレフェリーがユセフ・トルコでね。

エンセン　アハハハハ、面白いネ。

――エンセンさんの試合は観たことありますか？

トルコ　観た！　観た観た観た！　試合のビデオを観ましたけどね、大和魂持ってるよ。あれは何ていう試合？

エンセン　修斗ネ。佐山さんが始めた。

トルコ　あ～、佐山！　彼がタイガーマスクやってたの知ってる？　タイガーマスクを書いた作家と私は兄弟分だったから、相談されたんだよ。「タイガーマスクにぴったりな選手はいないか？」ってな。そのとき、井上さんと知り合ってたら、絶対にキミをタイガーマスクに推薦してた

身振り手振りを交えてエネルギッシュに語りかけるトルコにエンセンもビックリ。それにしても絵になる2人だ。

格闘 SOUL FIRE

よ！

エンセン　アハハハ！　ワタシ、タイガーマスク被ってたかもしれない⁉　もうちょっと早くトルコさんに会ってたら良かったネ～（笑）。

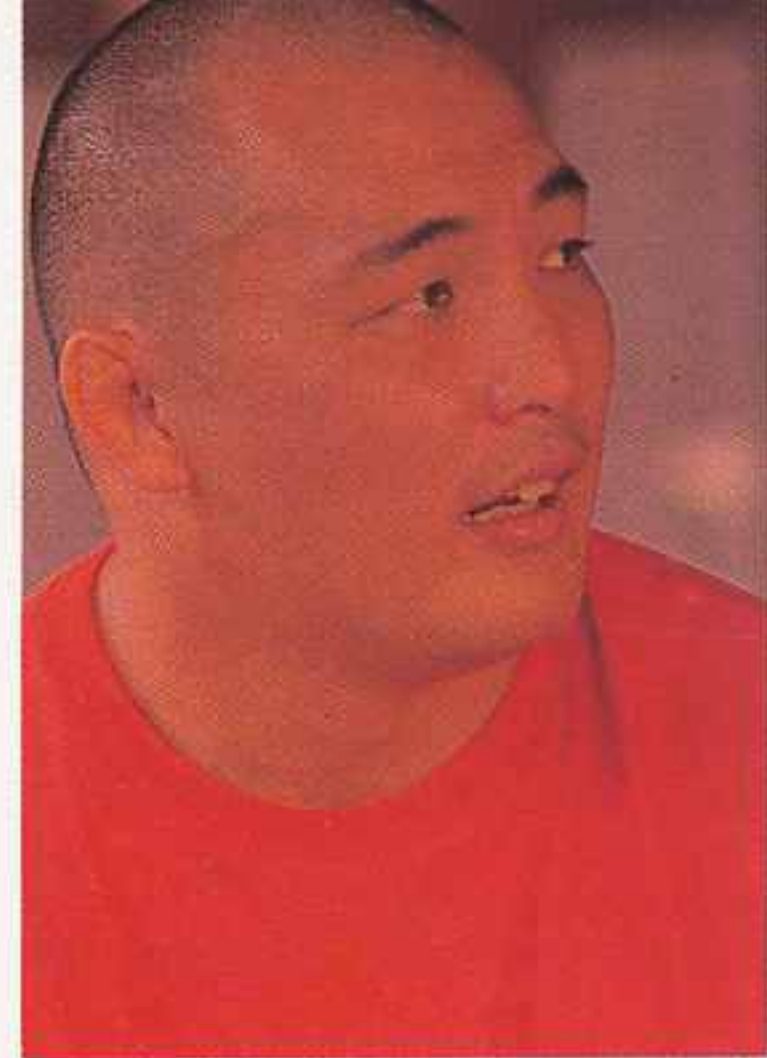
――エンセンさんは、トルコさんのことは知ってました？

エンセン　昔、レフェリーだったんですよネ？

トルコ　あのね、一番最初にプロレスを創ったんだよ！　私と遠藤幸吉ね、あと柔道の木村政彦！

エンセン　エ～！　グレイシーに勝った木村さん？　彼もプロレスやってたの？　知らなかった！

トルコ　その前は柔道と拳闘（ボクシング）をミックスした柔拳っていうのをやってたんだよ。仲間うちだけでやるときは12オンスのグローブで、「誰か挑戦者いないか？」っていってお客さんと闘うときは8オンスのグローブをつけるんだよな。客席からはビャービシャーンって一升瓶が飛んで来るんだよ！

エンセン　オ～、すごいネ！

トルコ　当時は全部全部シュートマッチ（手でピストルポーズ）だからな。プロレスだってそうだよ、みんなシュートだったんだから。

エンセン　そう？　いまとは違った？

トルコ　あ～、もう全然違う！　井上さんは力道山は知ってるかい？

エンセン　小川サンと橋本サンの試合で最後に出てきた偉そうな人？

――あれは長州力ですよ（笑）。

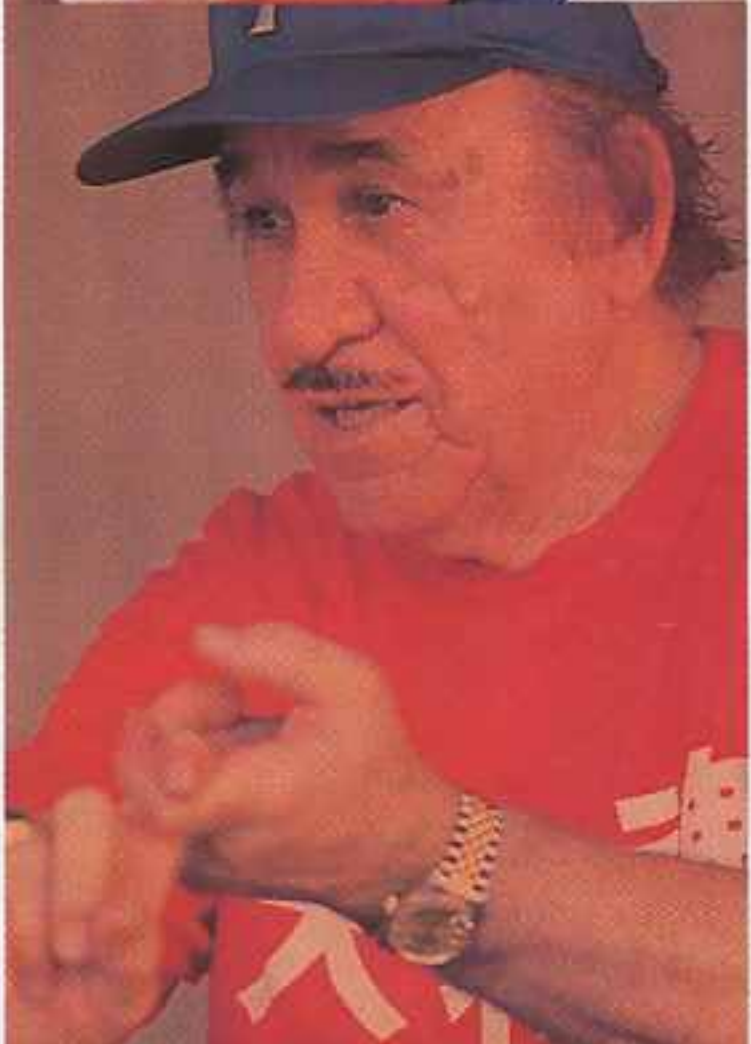
トルコ　あ～、あんなのとは全然違う。プロレスを創った人だからな。もう30年以上前にギャングに刺されて死んじゃったけど。

エンセン　そうなの？　ワタシよく「力道山みたいにならないでね」って言われる。そういう意味ネ（笑）。

トルコ　あ～、いくら遊んでも暴れないことだよ。力道山は若い連中はみんな殴ってたけど、オレは殴られなかったよ。やっぱり、オスマントルコ魂を持ってたからだな。

エンセン　なんですか、それ？

トルコ　日本語でいうと大和魂ね！　トルコの大和魂！

エンセン　ワタシも佐山さんに殴られなかったヨ。

トルコ　そりゃ、大和魂持ってるからだよ。そういう人間は強いからな。私は力道山に向かって「この朝鮮野郎！」って言ったんだから！「アンタ、日本人になっても朝鮮魂あるでしょ？　私は日本人になってもトルコ魂あるよ！」ってね。井上さんも、国籍がアメリカでも大和魂持ってるでしょ⁉　それはいいことだよ。

「それにしてもトルコさん元気ネ？」「若さの秘訣教えてやろうか？　コレ（小指を立てる）ですよ」「アハハハ！」とエンセンも納得！

エンセン　ただ、私の問題は力道山みたいな感じ。いろんな喧嘩になりそうなときもあるけど、大和魂で我慢するようにしてるヨ。

トルコ　そうっ！　それが大和魂だよ！　こらえるときはグギュ～ッとこらえる！　攻めるときはバババドギャ～ンって攻める！　ビャビャビャ～ってやって止めるのがカッコいいんだ。（♪ここでトルコの携帯電話が鳴る）

トルコ　ちょっと失礼！　ハロー、ハロー。オ～、南州太郎！　元気？　いま、エンセン井上っていう選手と対談してる。二代目力道山になる男だから！　いずれ小川と一緒に日本のプロレス界を牛耳るから。ね、じゃあまた。（電話を切る）いま南州太郎に言っといたから！　日本の有名な歌手ね。

エンセン　ワタシ、力道山？（笑）。

――トルコさん、じつは今度、エンセンさんはウクライナのキックボクサーの選手と試合するんですよ。

トルコ　そうなの？　でも、もったいないなぁ、オレは井上さんの夢を見たんだよ。小川とタッグを組んで世界中をドギャーンバターンって暴れ回るんだな。

――またその話だ！（笑）。

エンセン　まず、ボブチャンチンに勝たないとネ。

トルコ　大丈夫！　大和魂でビャビャビャ～ンと倒せるよ。その後、小川とタッグ組もう。ね？

※嵐のように現れて、アッという間に去っていったユセフ・トルコ。激励に来たのか勧誘に来たのか不明だが、トルコ魂に触発されてエンセンの大和魂にも火がついたはず。これで『PRIDE』もバッチリだ！　というわけで、次号ではユセフ・トルコのロングインタビューを掲載します。心して待て！

神社を出て、記念撮影をしている女子高生の集団を発見すると、「写真写真？　撮って～！　援助交際、バンザーイ！　ボク、トルコ！　彼は井上さん！」とものすごい勢いで突っ込んでいった。若い！

デブキャラの一番星!

ジャイアント落合

［怪獣王国］

アフロ男の
頭の中を探れ!

8・27『PRIDE.10』
アメリカの色男
リコ・ロドリゲスと激突!!

格闘 SOUL FIRE

GOING OH-YEAH! INTERVIEW

聞き手／チョロ
interview by Choro
撮影／吉場正和
photographs by Masakazu Yoshiba

「なんと言われようと俺は死ぬまでこのキャラで突き進むぜ！オ〜イエ〜イ!!」

ド迫力！東京も揺れる怪獣同士のスパーリング

『PRIDE.10』へ向け、某所で国王こと佐竹雅昭と極秘特訓を積むジャイアント落合。現在、ジャイアンは高田道場と新宿スポーツセンターで主に練習をしている。真ん中写真のジャイアンの後方の女性は、怪獣王国広報シレーヌ嬢（国王命名）。

6・11横浜アリーナでボリショフ・イゴリを相手に一歩も引かない突貫ファイトを見せ、会場で一番人気をかっさらったのが、右のドアップの男・ジャイアント落合である。その勢いを買って前号でジャイアンとのデート券をプレゼントしたところ7通の応募があった。しかし、『PRIDE10』でのリコ・ロドリゲス戦が急遽決定したため、デート企画はまた今度。というわけで、佐竹国王と猛練習中のジャイアンを直撃ジャイ！

——しっかし、間近で見ると凄い頭ですね。

落合　（アフロをまさぐりながら）これは自分のアイデンティテーなんで。夢がいっぱい詰まってるんスよ！　グッフッフッ。

——ジャイアンだけに「どこでもドア」みたいなもんなんですね。

落合　いろんなモノが出て来るんスよ！

——（無視して）え〜と、生年月日は？

広報シレーヌ　（すかさず）大正15年5月8日生まれの……牡牛座です（笑）。

落合　よろしくお願いします（笑）。

——キャラが徹底してますね（笑）。でも、ということは、かなり高齢なんですね？

落合　いまは80歳過ぎッス。老体にムチ打ってるんで、よろしくお願いします（笑）。

——お身体に気を付けて（笑）。そんなことはどーでもいいんですけど、『PRIDE10』で、リコ・ロドリゲス戦が決まりましたね？

佐竹国王　（突然割り込んできて）でも、その前に8月20日は幕張でおもちゃフェスティバルがあるからね。

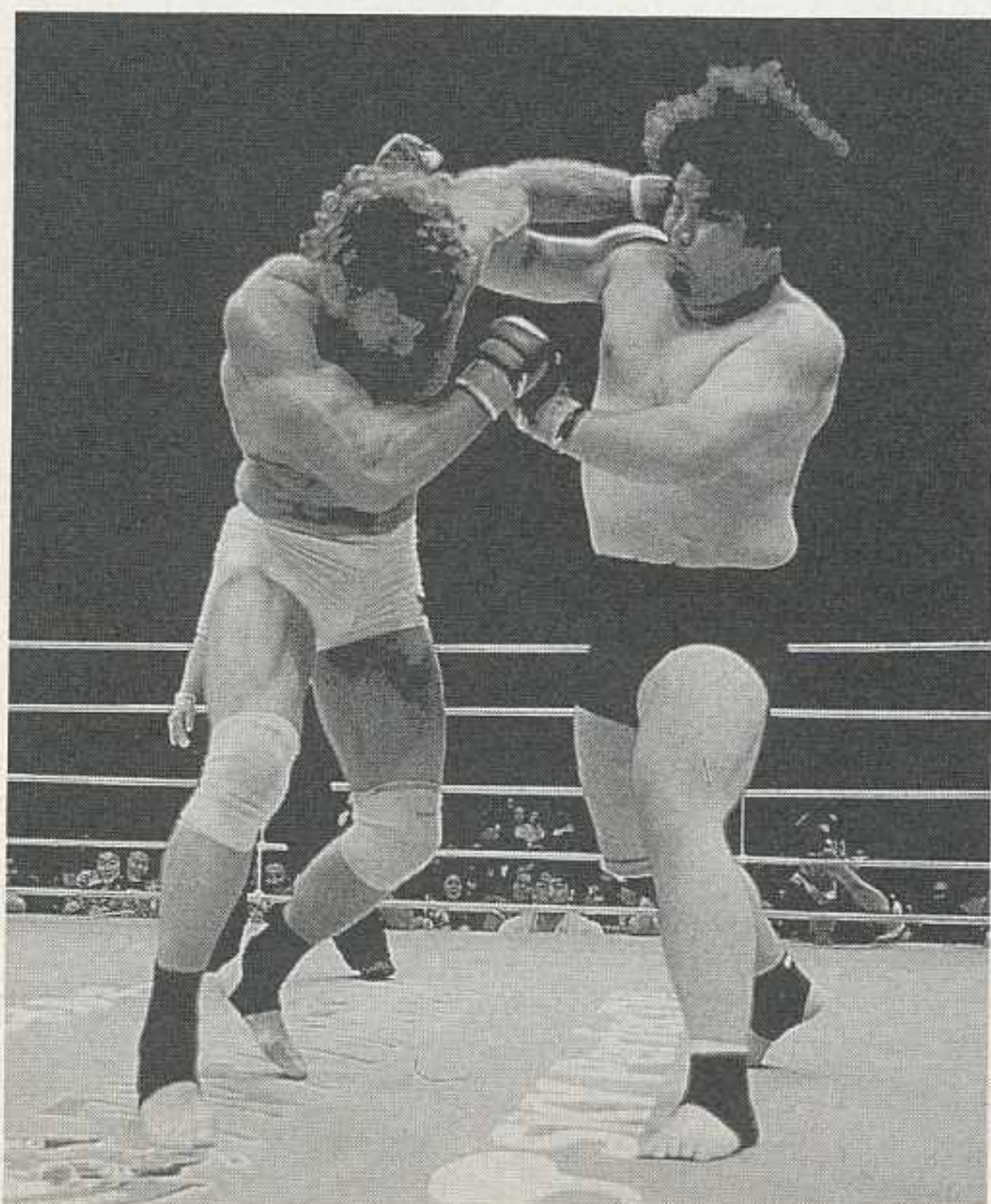
——ジャイアンも行くんですか？

落合　（嬉しそうに）ハイッ！　試合の一週間前なのにも関わらずリフレッシュしてきます（笑）。ちょっとブリキ系に弱いんで。ギコギコ動くのが好きなんスよ。

——伊達に年取ってないですね（笑）。ジャイアンは国王には絶対服従なんですか？

落合　（即座に）服従です（キッパリ）。

——漫画のジャイアンとは大違いですね。

落合　ボクの気持ちの中では僕なんですけど、要は石っころみたいなもんッスね。（小声でポツリ）人間になりたい。

デビュー戦からボリショフ・イゴリという実力者と激突したジャイアン。レフェリーストップで敗れはしたが、一歩も引かない突貫ファイトは二重丸！「あの試合は自分の中では燃え尽きましたね。次はもっと燃えてやるぜ！」

今度のリコ戦は太っちょファイターとして市民権を得るための闘いなんです！

佐竹国王　（再び乱入してきて）ジャイアンはネセッサリーですよ。ブリーチ・ブリーフ・ネセッサリー！

——は？　それはどういう意味ですか？

佐竹国王　まあ要するに、時代が俺を求めてるって意味ですね。

——はぁ（笑）。そんな、佐竹国王に一生付いていこうと思ってるわけですね？

落合　ハイッ！　国王は頭の先からつま先まで最高ですから。蹴っ飛ばされても鼻血流されても嬉しくてしょうがないッス。

——危ない関係だ（笑）。そういえば、ジャイアンは、〝ジャイアント落合〟になる前、何年か山篭りしてたみたいですね。

落合　そうッスね。（遠くを見つめて）あれはいい意味で自分の人生が変わったというか人生を見つめられましたねぇ。やっぱ山は怖いですけど大好きですね。でも、いまは海が見たくてしょうがないッス。試合が終わったら海に行きたいって感じです。

——船木（誠勝）さんじゃないんですから（笑）。ついこの間は、佐竹さんとシアトルに特訓に行ってたみたいですけど、アメリカはどうでした？

落合　アメリカ最高ッ！て感じです。安くて量が多いのがす〜ごい嬉しくて（笑）。

——とりあえずメシか！（笑）。充実した練習はできたんですか？

落合　（急に深刻な顔になり）それがですねぇ、ダッシュの2本目でゲロを吐いて、国王から「お前はトーテフレイクで浮いてろ！」って言われて……トーテフレイクっていう湖でプカプカ浮いてたんです。（小声になり）練習はダッシュ一本だけです。

——ガクッ！　大丈夫か、ジャイアン！　国王はちゃんと練習してたんですよね？

落合　国王はやってましたよ。ボクは甘い物ばかり食べてて…。（急に大きな声になり）でもコメディーの練習とか、サングラスを集めるのには余念がなかったですッ！

——先行きが非常に不安ですね（笑）。

落合　アメリカはやっぱ1にメシ！　2に女の子ですねぇ。（嬉しそうに）女の子にウケが良かったんですよ。やっぱアフロが良かったんですかね。グッフッフッ（笑）。

——日本とは大違いだったと？

落合　日本ではコンビニ行ったりすると、帰り際に「何、あのメガネ」とか言われるわけですよ。いままでは、ちょっとネガティブになってたんですけど、アメリカを体験して「おいしいんじゃん」って思えるようになったんで。WWFも向こうで見たんですけど、アイツらは凄いじゃないですか！　普通に歩いてるアメリカ人も自己主張が強いんで「日本でちっちゃくしてる必要ないなぁ」って思ったわけです。女の子も自分よりデカイのがいっぱいいるんスよ！

——ジャイ子がいっぱいいたんですね（笑）。

落合　顔とかはちっちゃいんですけど、ケツとかはボ〜ンって。まさにオ〜イェ〜イって感じで（笑）。でも日本人のデブは暗いんスよ。人と目を合わせないとか、引きこもってゲームをやったりとか。それは楽しくないだろって。アメリカの奴等は太ってても明るいし、卑下しないし、自分はそういう意味で、今度のリコ戦は、太っちょファイターとして光を浴びたいんです。

——デブキャラの新星として輝きたいと。

落合　そうッス。この前の試合はお披露目だったんですけど、今度は太っちょファイターとして市民権を得るための闘いなんで。太っちょヒーローになりたいんです！

——となると、次のリコ戦は重要な試合になりますね。リコも次期リアルアメリカンヒーローなんて一部で言われてますから。

落合　そうッスね。ただ無謀に攻めるんじゃなくて、ボクもアメリカで湖に浮かびながら秘密兵器を考えてきましたから。

——ちょっとだけ期待します（笑）。でもホントに、今度は結果出さないと、そのキャラも認知されないでしょうからね。

落合　このキャラは賛否両論あって、当然、否の部分も多いですからね。でも、いままでは、みんなチヤホヤしてくれるし、やっぱり勘違いしてる部分があったんスよ。

——いまでも充分、勘違いしてますよ（笑）。

落合　（寂しげに）オ〜……イェ〜イ。

——でも、同じサングラスは二度使わないとか、プロ意識はかなり高いですよね。

落合　やっぱ、お金を頂いてるんで、それはしないといけないですよね。でも、そういう意識っていうのはアメリカを体験しなかったら、なかったと思うんですよ。たった3週間ですけど、一般人があれほど自己主張をしてる国アメリカを体験して、ボクは凄くいい経験になりましたね。

——ジャイアンはプロレスについてはどう思ってるんですか？

落合　遥か昔なんですけど、学校を辞めてプロレスラーになろうと考えてたんですよ。新弟子から始めようと思ってたんですけど、お袋が泣いてとめたんです。

——その当時はどこの団体に入ろうと思ってたんですか？

落合　Uインターか、ちょうどパンクラスが出来た頃だったんで、どっちかなと思ってたんですよ。でも結局パンクラスはハイブリットとか言って太ってるレスラーはダメって言ってたじゃないですか。Uインターは高山（善廣）さんとかデッカイ人も出てきたし、今は亡きゲーリー・オブライト氏が破竹の連勝をしてたんで「絶対やっ

いつ何時どんなところでも練習場所にしてしまう佐竹＆落合。ツープラトンの攻撃で大木をバッタバッタとなぎ倒した。さすが怪獣王国！

格闘 SOUL FIRE

てみてえ！」って思ってたんですよ。

―ジャイアンは「打倒ハンセン」とか橋本（真也）さんの名前を出してますけど、闘いたいって気持ちは本気なんですね？

落合　思いっきりありますよ！　橋本さんは太っちょのヒーローでしたから。こう見えてもボクも太ってるじゃないですか？

―どこから見ても太ってますよ！

落合　（自分の腹を確認して）あっそうか！　でも、太っちょでも光を浴びることが出来るって認知させてくれたのは、誰あろう橋本真也でしたからね。でも、21世紀の太っちょファイターは俺だけでいいんじゃないかと思っちゃうんですよ（笑）。

―同じキャラは1人でいいと？

落合　そうッスね。ただ、いまは実績がないんで、実績を重ねてファンや関係者の人達が認めて頂けるんであれば、正式に挑戦表明をしたいッス！　プロレスのリングでもタッグでも何でもいいんで。バトルロイヤルだったら、いの一番に橋本さんに向かっていきますよ！（急に冷静な口調になり）まあ、ヨネ原人でもいいんスけどね。

―残念でした。ヨネ原人は引退してます。

落合　（頭を抱え）ガ〜ン！　そうなんですか！　じゃあ、モハメドヨネだ！

―アフロ世界一決定戦ですね。

落合　それいいッスね。早く宇宙から地球を見たいッスよね。レッツ・トゥギャザー！　愛ですよ、愛！　今度の『PRIDE』でもチャンスがあればトップロープに登って見たいッスね。それでイエローカードも面白いかなと。「何でそんなことをしたんだ？」って言われたら、「コーナーに宝物が見えたから」って言いたいッス！

―（無視して）リコ戦はどんな試合になるんでしょうね？

落合　「一緒にい

Giant Ochiai

21世紀の太っちょファイターは俺一人で十分！　橋本さん、俺と闘ってくれ！

い夢見ようぜ！」って感じですかね。お互いにいい夢を見て、友情が芽生えればいいかなぁって思ってます。まあ理想としてはドツキ合いで、どっちかが倒れるみたいな試合が一番なんですけどね。勝って「オ〜イエ〜イ！」って言いたいッス。低空タックルが来たら跳び箱の様に飛ぶっていうのが理想ですね（笑）。

―わっけわからん（笑）。

落合　まあスパッツが脱げて負けるっていうのがおいしいかなと思います。♪チェッチェッチェッチェッ、チェリーボ〜イズ！

―だいぶ壊れてきましたね（笑）。

落合　リングには金が埋まってるって人は言いますけど、ボクのデビューした横浜アリーナにはホントに埋まってたんですよ！

―それは掘り起こせたんですか？

落合　（肩を落として）発見したんスけど、（ボリショフ）イゴリに取られちゃった。

―（無視して）最後に、将来の夢は？

落合　G−1クライマックスにも出たいし、スーパーJカップも出たいしなぁ……。

―体重計に乗ってから言ってください！

落合　やっぱ将来的にはビーチボーイズになりたいんだよなぁ。自分の海を見つけたいッス！　背毛（せなげ）も認知されたいッス！　読者に噛みつかれても気にしないぜ！

―確かに噛みつかれそうだ（笑）。でも一体、何がしたいんだ、ジャイアン？

落合　結局、自分はリング上に何しに来たかっていうと、愛を拾いに来ただけなんで。ボクに愛をくださいって感じですね。by辻仁成ってことで、世・露・死・苦！

―リコ戦は期待していいんですかね？

落合　ビヨ〜ンっとビックリ箱の様な試合をするんで見に来てね。自分の試合を見終わった後に「メシがうまいなぁ」って言われる様な試合をするんで。オ〜イエ〜イ！

【00年8月7日、東京・怪獣広場にて収録】

GIANTRIST

見てみ、この背毛!!

じゃいあんと・おちあい■本名・岡田貴幸。大正15年5月8日、秋田県出身。言わずと知れた落合博満の甥。ちなみに格闘技を始めた理由は「肉の匂いがしたから」という見た目通りの食いしん坊。上野動物園で練習三昧の日々を過ごした後、2年半の山篭りに突入。下山して沖永良部島で生活しているところを佐竹国王に発見され、怪獣王国に所属。取材時には同じサングラスは二度使わないという徹底したプロ意識の持ち主。キャッチフレーズは千のサングラスを持つ男。写真上の『GIANTRIST』ブランドも近日中に動き出す…らしい。キャラの関係上、昔話はタブーだがジャイアンはかなりいい話を持ってるぞ。185cm、130kg。

紙のプロレス RADICAL

怪物通信 K-通 MAGAZINE

久々に『怪物通信』向きの危険なタマが現れた。ハイアン・グレイシー、自ら〝喧嘩500戦無敗〟と豪語し、実際、顔の傷跡だけでも17カ所もある怖ろしい男だ。そんな危険な男が8・27『PRIDE10』のリングで、新日本プロレスの石沢常光と対戦する。全日本選手権で優勝し、地獄の新日道場の稽古に耐えた石沢であってもあなどれない相手だ。ハイアン・グレイシーの怖さを徹底検証！

最凶のグレイシー

グレイシー一のトラブルメーカーと言われるハイアン・グレイシー。

柔術の大会で喧嘩したとか、自分のことを悪く書いた記者を仲間に襲わせたとか、喧嘩相手をナイフで刺したとか、ともかく印象、最悪！

かなりのロクデナシだ。

ハイアンを語る以上、やはり、トラブルの真偽はクリアしなければ始まらない。一連の事件の詳報が載る『格闘技通信』によれば——。

「プッツンファイター、ハイアン・グレイシーが傷害事件で逮捕された。ブラジルのTVなどによると（今年）2月13日、リオのナイトクラブでブラジリアン柔術の門下生と口論になったハイアン。2人は、いったん周りの客により引き離されたが、仲直りをするかのように、相手に近づいたハイアンが、いきなりヒジ打ちで攻撃し何度かヘッドバッドを叩き込んでチョークで落とす。だが、それでも怒りの収まらないハイアンは気を失っている相手の腹部を刺した」（『格通』第249号より抜粋）。とのこと。本当なら極悪だ。

一方、ハイアンは「確かに刺した。でも、ナイフを持っていたのは向こうさ。向こうがナイフで刺しに来たんで、その腕を極めて、そのまま自分で自分の腹に刺させたのさ。正当防衛だよ」（『SRS・DX』第28号）と語っている。

あれ？　まったく話が違うじゃん。共通してるのはハイアンがナイフで相手を刺した、その一点だけ。

こちらが混乱している、その最中、『格通』253号で「アロンソ通信員、襲撃される。犯人はハイアン!?」という衝撃的な記事を発見。なんと、〝ハイアンに襲われた？記者〟は同誌ブラジル通信員であったのだ。

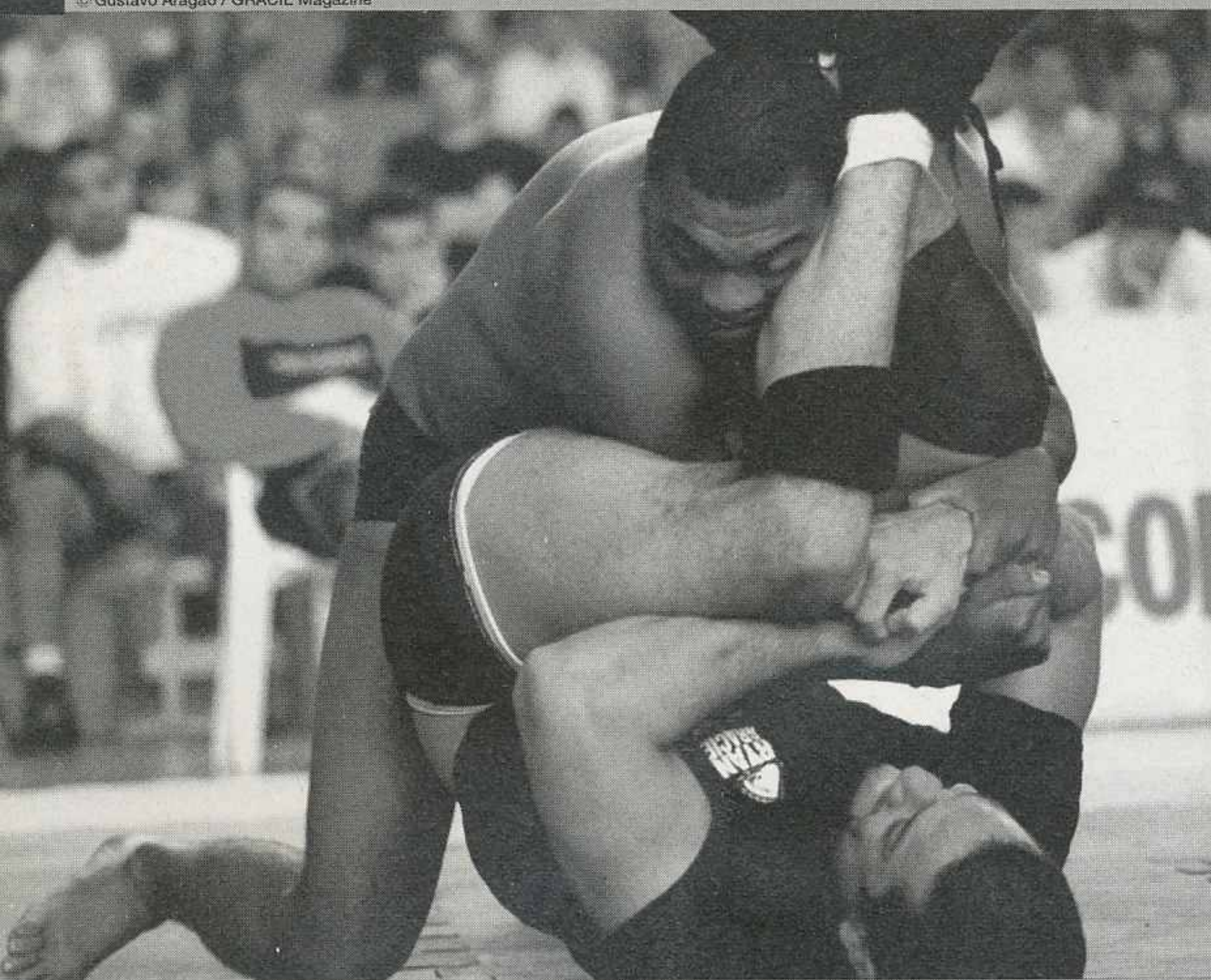
「3月26日、柔術大会取材中のアロンソ通信員はいきなり見ず知らずの男に殴り蹴りされた。その場にいたカステロ・ブランコが暴漢を追いかけようとすると、ハイアンが突然現れてそれを止めた。偶然に

© Luca Atalla / GRACIE Magazine

Ryan Gracie

ハイアン・グレイシー

1974年8月14日リオ・デジャネイロ生まれ。身長180センチ、体重86キロ。ハイアン・グレイシー・アカデミー所属。カーウソン・グレイシーの息子、ホブソンの息子。『PRIDE』や『リングス』で闘い、日本ではその実力と陽気な性格で人気を得ているヘンゾ・グレイシーの実弟。バーリ・トゥードは初参戦。柔術の主な戦績は95年柔術国際チームトライアル優勝。97年国際柔術選手権優勝、98年パンアメリカン柔術選手権優勝、00年オーディコムグラップリングサブミッションレスリング優勝

© Gustavo Aragao / GRACIE Magazine

しては出来過ぎている彼の出現にアロンソ通信員はピンときた」。なぜなら例の傷害事件をブラジルの雑誌に書いたのがアロンソ氏で、さらに「ハイアンが『奴がこんな記事を二度と書かないようにわからせてやれ』と暴漢に話しているのを聞いた証言者もいるという」からだ。

「ハイアンからは人を介して『僕はその男は知らないよ。誓ってもいい』という電話を受けた」アロンソ氏だが「格闘家にあるまじきハイアンの行動」に「決心は変わらず、柔術界の敵になることを覚悟で、警察と新聞に事件を告発した」模様。

だが、ハイアン自身はこの件について「それは記者の誤解だよ。その記者は自分が俺と家族の名誉を汚す記事を書いていたんで、俺がその男を使って殴らせたんだと思い込んだのさ。だが、それは誤解で、彼も『自分が間違っていた』と認める書類にサインしたんだよ」（『ゴング格闘技・Voice』）と語る。

もう何が本当だかわかりません。

ただ、この件に関して言えば、ハイアンがやったという物的証拠はない様子。記者が日頃のハイアンの行いから類推して、犯人だと勝手に決めつけたんだと言われても仕方ない。また『格通』の記事の書き方にも問題はある。アロンソを応援する者を紹介するという形で「その事件はハイアンが犯したに違いない。私はあなたをサポートするよ。彼は柔術界にいるべきではない（カーウソン・グレイシー）」「ルタ・リーブリの選手は君をサポートするよ（ウゴ・デュアルチ）」という、ハイアン所属のグレイシー一派とは犬猿の仲の2人、カーウソンとウゴのコメントだけを載せるのはどうだろう？　これって片八百長？　もしかしてフェイク？

そして記事の最後は「これまで日本でも格闘家が一般人やマスコミに何度か暴力を振るってきた。だが、これらのことは決して許されるべきではない。今回のアロンソ通信員はその暴力に勇気を振り絞って立ち向かった。彼のとった行動は、称賛されるに十分に値する尊いものだと思う」と結んでいる。

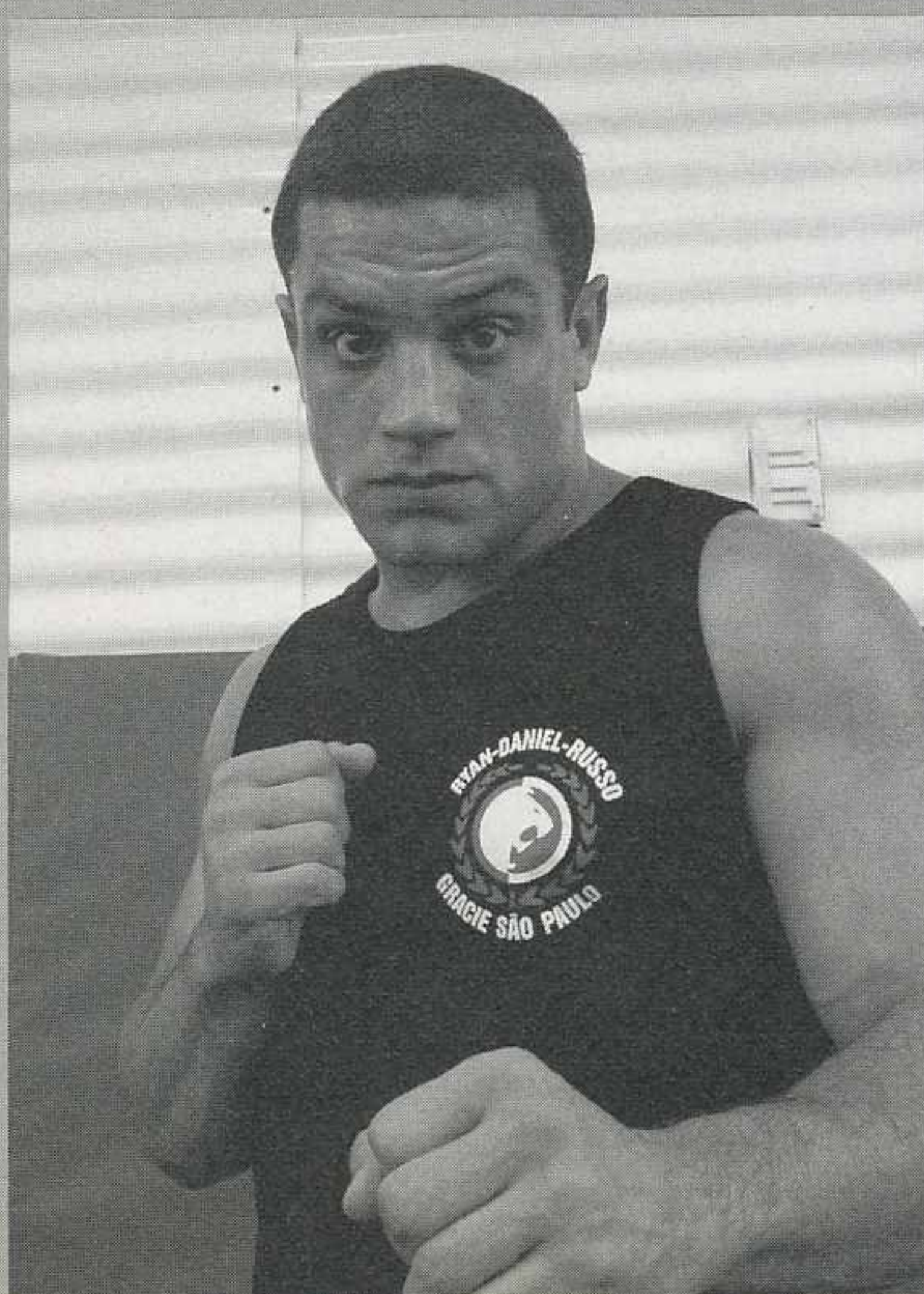
言ってることは素晴らしい。ここまで言った以上、『格通』第260号のハイアン・インタビューには期待したくなるだろう、いやホントに。事件の真相とか僕も知りたいし。

ところがだ。〝家族を語る時はこんなに優しい顔をする〟というタイトルのもと笑顔＆ピースサインのハイアンの写真を載せ、事件には一切触れていないのだから何があったんだ『格通』。この腰の弱い取材姿勢はそれまでの記事の信憑性すら自ら否定してしまうことになる気がしてならない。〝ノーフェイク〟とか、〝プロレスラー始めました〟とか、はっきりした編集方針を打ち出せる朝岡編集長なればこそ、次は頑張れ！

そういうことで、いまだ事件は闇の中。ハイアンがグレーな存在のままでいるのもまた事実。彼の側にもそう見られる原因はあるのだ。

例えば右足に残る銃傷。「俺が喧嘩をやりすぎたんで誰かがヒットマンを雇って撃ったんだ」（『SRS・DX』第28号）。ヒットマンを雇ったとか、雇われたりとか、凄い喧嘩ばかりしているハイアン。来日経験もあるルタ・リブレの強豪エウジェニオ・タデウと口論した時にはタデウに銃で撃たれそうにもなっている。

さらに、彼に喧嘩で負けた恨みを持つ男が、運転中のハイアンを車で追走、後ろから激突されて崖下に叩き落とされたこともあるという。

殺意を持つ相手に少なくとも2回は命を狙われたことのある26歳。これがハイアン・グレイシーなのだ。

もっともいまでこそ〝いい人〟と言われる実兄ヘンゾだって、昔は相当のワルだった様子。年月が経てば過激な性格も収まる可能性は高い。なぜなら、ブラジルでは自分の道場を10個も経営し、アブダビではタハヌーン王子に柔術の指導もしと、ちゃんとしたこともきっちり出来るからだ。その上、例の記者から「誤解でした」という書類にサインをさせる、いろんな意味でのクレバーさも持っている。柔術の実力も95年柔術国際チームトライアル優勝。97年国際柔術選手権優勝、98年パンアメリカン柔術選手権優勝、00年オーディコムグラップリングサブミッションレスリング優勝と実績はある。

『PRIDE10』ではそんな男と、石沢常光は闘うのだ。この試合、一瞬も目を放すことはできない。

今年6月にサンパウロで行われたプロフェッショナル・サブミッション・レスリング大会の決勝戦。下から十字を狙っているハイアンが優勝した

© SRS・DX

紙のプロレスRADICAL 怪物通信 K-通 MAGAZINE

Renzo Gracie
ヘンゾ・グレイシー

最強の兄貴肌

1967年3月11日身長178センチ、体重80キロ
ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー所属
子供の頃から喧嘩三昧。実弟ハイアン同様に町中で実戦を通してバーリ・トゥードを学ぶ。7歳の時からボクシングを始め、柔術は14歳の頃から本格的に柔術を習い始める。バーリ・トゥードの大会に本格的に出始めたのは実は5年前からと意外に浅い。

文（ハイアン&ヘンゾ）／中村カタブツ君
text by Katabutukun Nakamura

ヘンゾ・グレイシーと言えば、『PRIDE8』でグレイシー側でただ一人、桜庭の勝利を握手で讃えた男として、ガ然人気が高まっている"イイ奴"だ。だが、どうにもこの眠たい言葉は彼に対してしっくりこない。それは彼の闘いの歴史を見ていけばすぐにわかってくる。スポーツライクな男じゃ決してねぇんですよ！ ヘンゾのエゲツなさ、キラーな部分を含めて、その強さを確認。

ヘンゾ・グレイシーを語る上で忘れてはならないのが96年8月24日リングス有明大会での出来事。

自分の弟子アジウソン・リマとイリューヒン・ミーシャの試合がドローになったその瞬間、レフェリーに食ってかかった時の面構えは現在の"イイ奴"イメージとはほど遠い凶悪なものだった。リング上から審判団を怒鳴り散らし、最後は自分よりもはるかにデカい前田日明CEOに指を突き付けて抗議とすさまじい暴れっぷりだ。

しかも「このままだったらメインに登場する弟子のモラエスは出さない！」とゴネまくって興行自体を潰しかけ、当時の『週プロ』に「リングス史上空前のヒール」とまで書かれている。

一体どこが"イイ奴"なのか？ ヘンゾ・グレイシーとは、"イイ奴"などという、そんな眠たい言葉で言い表せるような薄っぺらい男ではないのだ。

では、ヘンゾの闘いを追うことでその実像に迫ってみたい。

子供時代から喧嘩好きだったヘンゾは実弟のハイアン同様バーリ・トゥードは路上で習得。実際にどのような喧嘩をしたのかは彼自身があまり語りたがらないのでわからないが、ハイアンがらみの喧嘩からそのキラーな人格がかいまみえてくる。

ヘンゾが23歳、ハイアンが17歳の時、ヘンゾたちとは犬猿の仲のカーウソン・グレイシーの人間とハイアンがストリートファイトになった。周りにはカーウソン派、グレイシー派の人間が取り囲んでの決闘の様相だ。だが、その闘いの最中、ハイアンの相手が彼の指を折りにきたのだ。決闘であっても噛み付きや指折りは禁止という暗黙の了解がある。その掟破りをしてきたことに兄のヘンゾが激怒。「噛み付いてやれ！」と叫ぶと、ハイアンはその言葉通り、耳を食いちぎってしまったのだ。ヒドいことを言う兄だし、ヒドいことをやる弟だ。

この兄弟がタッグを組んだ大喧嘩はもう1つある。

97年9月27日、ブラジルで行われた『ペンタゴン・コンバット』というバーリ・トゥードの大会でのことだ。この大会ではヘンゾvsルタ・

リブリのエウジェニオ・タデウ戦が組まれていたが、その前からタデウとヘンゾ兄弟とは深い軋轢があった。きっかけはハイアンとタデウがリオのディスコで口論となり、タデウがハイアンを銃で撃とうとしたこと。この後、ハイアンはタデウの教え子を襲い、タデウはその報復としてハイアン側の人間をナイフで切り付けと事態はエスカレートする一方。それにしても銃とかナイフとかまで持ち出すタデウ側と喧嘩するヘンゾ兄弟の命知らずにもあきれるが。

で、そんなことがあってのこの大会だからエキサイトしない方がおかしい。試合はタデウが目突きをすれば、ヘンゾは寝てる相手を蹴るという反則技で反撃。ルール無視の潰し合いとなり、タデウ側のセコンドが金網の隙間からヘンゾを殴り始めたことからセコンド陣同士の喧嘩が勃発（ちなみに最初に突っかかっていったのはハイアン）、最後は観客まで巻き込んで400人の大乱闘となってしまったからスケールのデカい喧嘩だ。

小競り合いを無意味にオオゴトにする、その様はブラジル版〝まむしの兄弟〟と言ったところだ。ちなみにハイアンは、車ごと谷底に突き落とされて（ハイアンの項参照）無事生還した時、「俺は不死身さ」と語っているからまさに〝不死身の勝〟か？

さて、兄貴のヘンゾの方は先の大乱闘でタデウ側の人間にナイフで切り付けられ、肩を15針も切られながら2週間後の『PRIDE1』に出場、あの小路晃と30分間（結果はドロー）も闘い抜いたのだ。

ハートも身体も底抜けにタフな男だ。

そもそもヘンゾがバーリ・トゥードで注目されたのは95年、10月7日、アメリカで開催された『ワールドコンバットチャンピオンシップ』で、すべての試合を3分以内で決めて優勝した時からだ。対戦相手の中にはソウル五輪柔道銅メダリストのベン・スパイカースまで入っているから強さは本物。

試合前、柔術をナメきってるスパイカースは「ヘンゾ？ あんな奴は簡単さ」と散々小馬鹿にし、ヘンゾの怒りは爆発寸前。そのため、送り襟締めに取られたスパイカースが何度タップしても手を離さず、とうとう失神させてしまう。それだけでは気がすまないヘンゾは、絶賛失神中のスパイカースの首をガツンと踏みつけて、観客がブーイングを飛ばしても平然としてる。

いい奴とか最新の技術を持つとかいうことだけで、ヘンゾを語るのは間違いであることがこれでわかってもらえるのではないか。ブチ切れるとトコトンまでやる男なのだ。

この後は、やることやってスッキリしたのか、いつもの〝イイ奴〟ヘンゾに戻って、スパイカースと固い握手。大会終了後の記者会見では、決勝で闘った相手が右手の腫れを氷で冷やしてるのを見つけた途端、その氷を自分の頭に乗せて「彼はタフマンだった。僕も随分パンチでやられたよ（笑）」と相手を立ててるんだか、からかってるんだか、よくわからないセリフで場を盛り上げて上機嫌。

〝俺のやりたいことが全部できた以上、さぁ、みんな陽気にやろうぜ！〟って感じだ。〝イイ奴〟というよりは〝調子イイ奴〟がヘンゾ・グレイシーなのである。

そう考えれば、『PRIDE8』の桜庭の勝利をグレイシー側でただ一人讃えた理由も見えてくる。

〝ホイラーは負けて残念だけど、俺はアレクに勝ってるから問題ない。グレイシーとは言ってもホイラーとは派閥が違うし〟って感じの素直な気持ちが、あの極上の笑顔&握手となったのだろう。

う〜ん、調子〝イイ奴〟だ！

最初に紹介したリングスの時だって「俺の言うことが通らないなら〝帰る！〟」っていう気持ちだけのような気がするし。

陽気で喧嘩っ早くて、身内のためなら身体を張る〝ザ・兄貴肌〟ヘンゾ。その上、柔術に加えてボクシング&キックの技術も習得しているとなれば、桜庭が「ボクが負けるならヘンゾ」と言うのもうなづける。好勝負は必至。サクよ、勝ってくれ！

2・28リングスKOKでは田村潔司と対戦し判定負け。試合後「結果は判定通り」と素直に負けを認めるも、アブダビでは「やっぱりドロー」とくつがえす。ビデオで見直したら、そう思ったからとのこと。悪気はないが、思ったことをすぐに口にするタイプ

【主な戦績】

▼93・94年　ブラジル全国柔術大会で優勝

▼95年10月7日　ワールド・コンバット・チャンピオンシップ優勝
- ○対ベン・スパイカース
- ○対フィル・ベネディクト
- ○対ジェームズ・ウェーリング

▼96年11月22日　MARS
- ○対オレッグ・タクタロフ

▼97年10月11日『PRIDE1』
- △対小路晃

▼98年3月15日『PRIDE2』
- ○対菊田早苗

▼98年3月20〜21日アブダビコンバット優勝

▼99年2月25日アブダビコンバット
- ●対イーゲン井上

▼99年11月21日『PRIDE8』
- ○対アレクサンダー大塚

▼99年12月22日リングスKOK
- ○対坂田亘
- ○対モーリス・スミス

▼00年2月26日リングスKOK
- ●対田村潔司

▼00年3月1〜3日アブダビコンバット優勝

紙のプロレス RADICAL

2000
No.30
CONTENTS

格闘 SOUL FIRE

No.30 Main-Event

No.30 Semi-Final

Scandal & Scoop

Radical Fight

Columns

Another

RADICAL特製ピンナップ

組み合わせに深い意味はまるでナシ!
ジャイアント落合、
バッドニュース・アレン(アントニオ・デザイン・サービス)

※真樹日佐夫先生の『無比人』は今回はお休みです。次回をお楽しみに。

訃報/本誌鬼畜編集長・山口日昇が飼っていたシーマンが8月17日永眠しました――合掌!!

Art Director
出田さん●San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
村松さん●San Muramatsu
グッチー●Gutty
モリやん●Yan Mori

Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae

Zero Graphics
海老沢 勇●Isao Ebisawa

古賀ゆきえ●Yukie Koga

Cover Model
村上一成&小川直也

Cover Photo
斉藤ユーリ

※「RADICALとは何か?」教えまする! モチのロン!「根源的」、「根本的」って意味でございまする。タマタマ。

ありがとう長州力!!
そして
さようなら長州力!!

「またぐなよ！」と言われても、本誌は「ストロングスタイル」をまたぎます!!

7・30から1ヶ月！「長州vs大仁田戦」の意味を問う!!

問題爆破座談会敢行ーーッ!!

7・30横浜アリーナ――。執念で胸いっぱいの大一番を実現させた大仁田厚。その"邪道"の待つ電流爆破のリングに、復活した"ストロングスタイル"の雄・長州力は実に堂々と足を踏み入れた。そして一度も被爆せず、一方的に邪道を葬ってしまった。一体この試合から浮かび上がった驚くべき問題点とは何か。「またぐなよ」と言われても……またぎますかーーッ!!

なぜGKは「自慢野郎」と取られても構わないのか?

山口　7・30は、女だらけの水泳大会ならぬ、キングオブスポーツTシャツだらけの〝長州組祭り〟って感じで、ホントに異常な盛り上がりだったね。ボクらはチケット買ってまで見に行ったんだよ。偉いなぁ（笑）。

チョロ　ところがボクとガンツの席はなんと二重発券だったんですよ。すぐ他の席を用意してくれたんですけど、お陰さまでプレミア付きのパンフレットまでいただいちゃって。

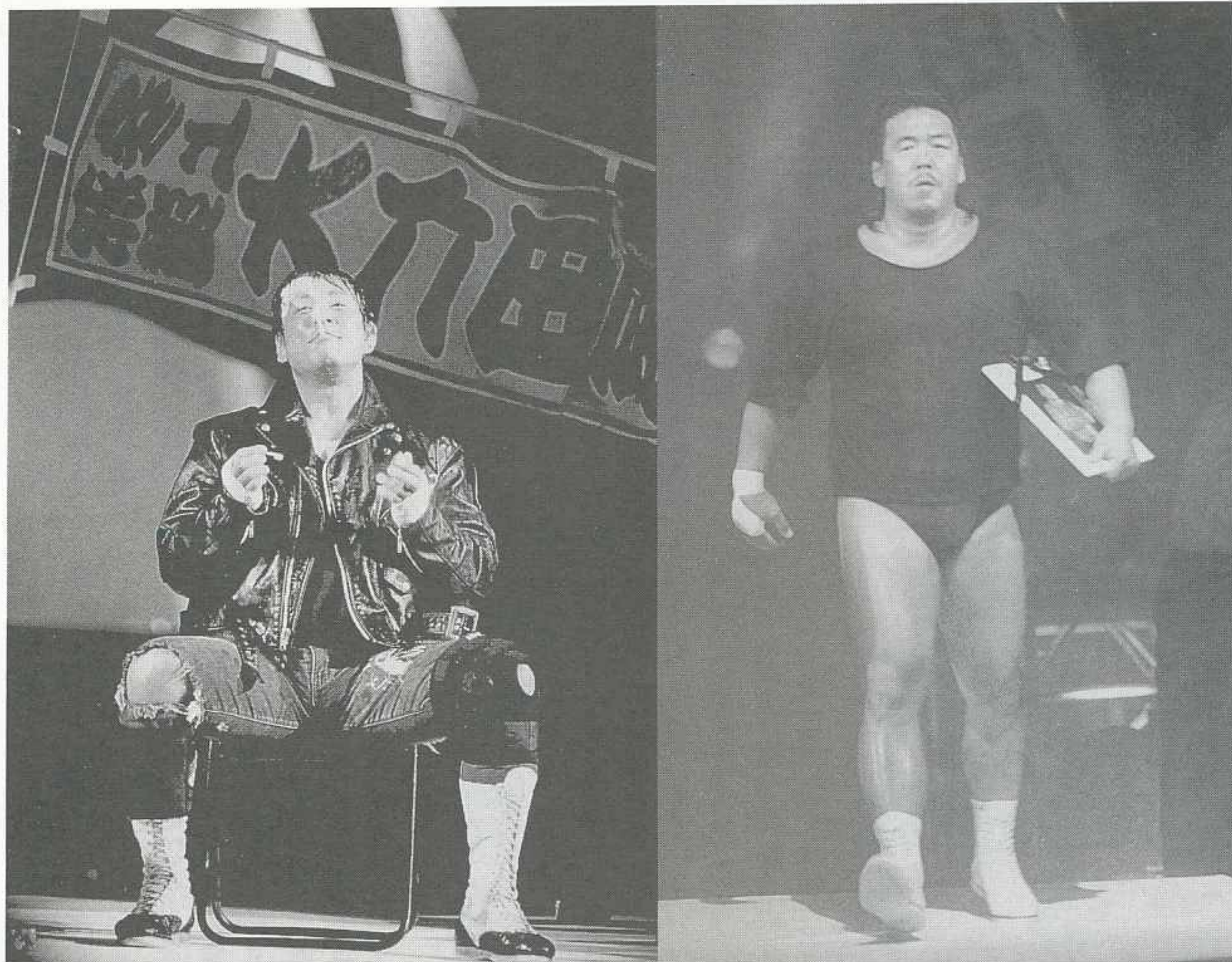
山口　「お陰さまで」って、向こうが二重発券したんだから、G1のチケットくらい付けてもらえよ（笑）。

豪　ボクは当然、PPV観戦派ですけどね。PPV見るために（本誌デザイナーの）トメ兄（別名・カマタ君。詳しくは小っちゃい頃の『紙プロ』参照）の事務所に行ったんだけど、結構な人数が集まって、みんなで熱くなれるはずだったんですよ。試合開始までは最高でしたからね。足掛け3年かけたこのドラマは、前煽りとしては完璧だったわけじゃないですか?

山口　「『ゴング』のお陰だよ」って大仁田厚は言ってたね（笑）。

豪　いや〜、『スポコン』とかゴールデンタイムの番組で大仁田が煽ってきたお陰でもあると思いますよ。ボクらも大仁田がいなかったら、新日の中継をここまで見てないと思いますからね（笑）。

ガンツ　とりあえず、「大仁田劇場」見てから寝るって感じでしたからね（笑）。

長州最大の見せ場は、リングに入る前の花道の〝一点〟にあったのだ

会場に1万8千人の大観衆を飲み込み、PPVでは、約4万人の有料視聴者（惜しくも5・1『PRIDE・GP』の記録を抜くことはできず）を獲得した世紀末の大一番。入場シーンが真剣勝負の大仁田。対して長州力は故・福田雅一選手の遺影を抱え入場

豪　大仁田劇場やんなくなってから、またしばらく見なくなっちゃったからね（笑）。

山口　そう考えると大仁田の功績っていうのはデカイんだけど、その大仁田を後押ししてきたGK（ゴング金沢編集長）が、「長州vs大仁田戦」を報じた『ゴング』（8／17号）の巻頭記事で素敵なことを書いてたね。

豪　あれはバツグンでしたね!

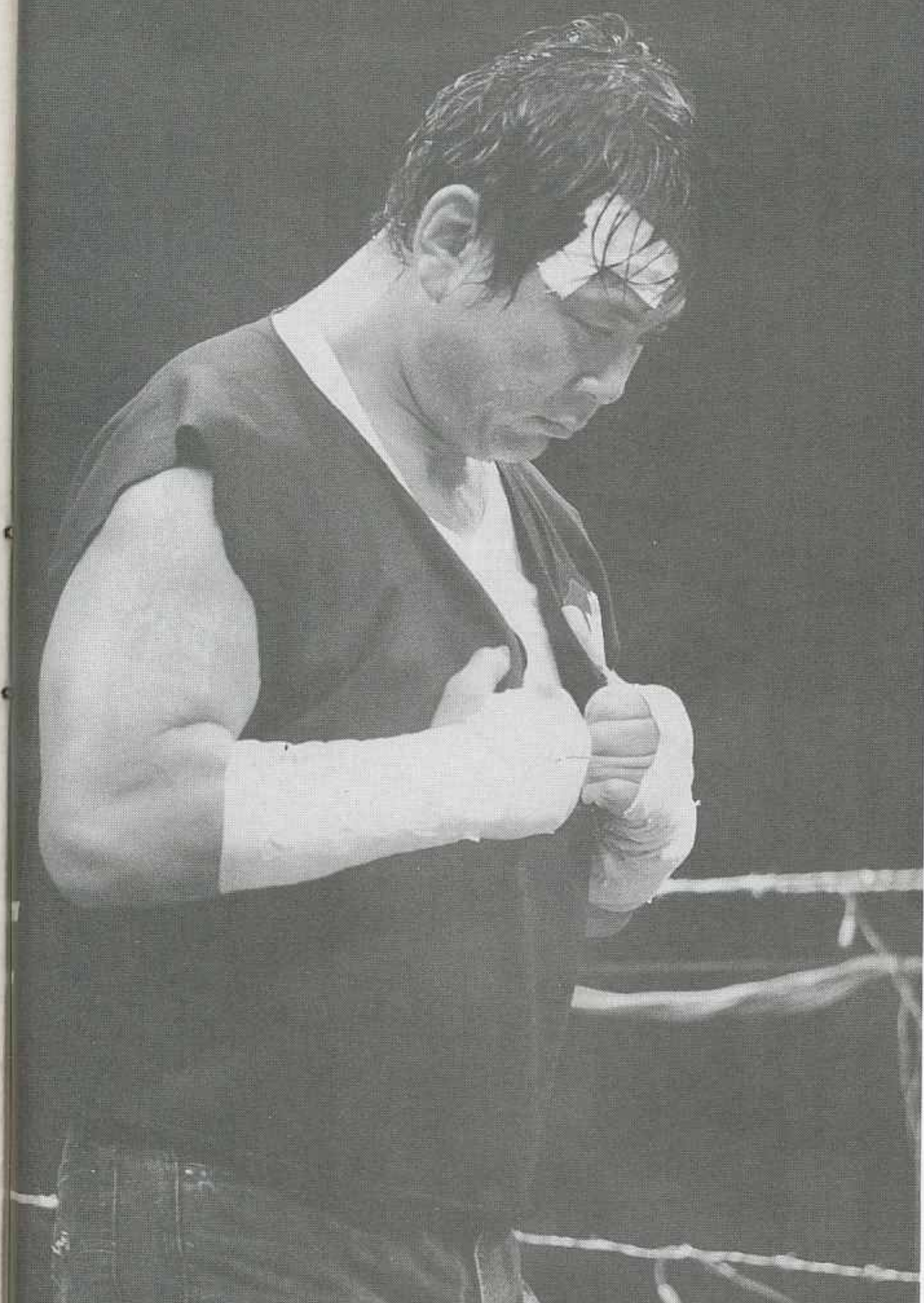
山口　ちょっと読んでいい?（笑）。「7・30横浜アリーナ。一夜限りの夢のように長州―大仁田戦は終わった。ここで気になるのは、長州、大仁田のその後…彼らの行く道である。まず、長州から〝復活エール〟を送られた大仁田。横浜市内の病院を出て、帰路についた大仁田から吉川記者に電話が入ったのは、当日の午後11時過ぎだった」。どうよ、ここまででもドラマチックでしょ?（笑）。

ガンツ　GK劇場ですよね（笑）。

山口　続きね。「途中、私に『電話を代わってくれ』という。大仁田の物腰はやわらかだった。『ゴングのお陰でここまで来れたよ!』。それが第一声だった。本来、それが事実であろうと、こういうことを記事にすることは控える。他のマスコミへの配慮もあるし、自慢野郎と思われたくないからだ。しかし、今回に限っては自慢と取られても構わない。一部のファン、読者のバッシングにも動じることなく本誌は大仁田の後押しを続けた」。どうだい?　イカすだろ。熱いよねぇ、GKは。「自慢野郎」という部分に傍点を振ってまで自慢してくれました（笑）。

ガンツ　ガハハハ!　いいぞ、GK!

（GKコール）

豪　でも、ハッキリ言えるのは大仁田の後押しじゃなくて、「大仁田vs長州」の後押しをやったわけですよね。

ガンツ　裏を返せば、長州復帰の後押

座談会出席者

山口日昇
紙プロUFO所属。8・7の新宿プロレスでは、芸人のハチミツ二郎と間違え、「二郎ちゃん、大きくなったねえ」と言いつつ、ノアの泉田純選手の腹の肉を掴んでしまった、本誌しくじり編集長

吉田豪
紙プロUFO所属。締切で2日に1日のペースで会社に泊まる金髪鬼。ジャイ子に「吉田さん、包茎?」などと激しいセクハラを受け、精神的苦痛を感じる本誌スーパーバイザー

スモーノブ
紙プロ本隊所属。吉田豪のひきわり納豆を食べ、突っ込まれると「オレかなぁ?　いつもの納豆と形が違ったような……」とすっとぼける本誌食いしん坊力士

松澤チョロ
1年に数度は下半身が菌によって爆破されるキャットファイター。先日はバンバン・ビガロ主催の「キャットファイトGP」にも出場。ウケまくったらしいが、編集部では顰蹙を買いまくった

堀江ガンツ
紙プロ本隊所属。長州vs大仁田戦の試合後は、『紙プロ』読者の店員がいる風俗店に直行ーーッ!　女の子に長州復活の記念プレミアパンフをあげて、サービス向上をはかった実に姑息な男

水戸君（仮）
UFOでも本隊でもない第三世代。ヘルスに行った際、やたらと手の短い女の子が付いて、自分の下半身も短くなってしまい、見事に戦意喪失した冒険心のかけらもないヤングマン

しってなるんですけど（笑）。

山口　大仁田を追っかけてきたチョロ的にはどうだったの？　君、ＧＫに勝るとも劣らないほど……実際は大きく劣るとはいえ（笑）、大仁田を追っかけてきたでしょ。長州戦が実現して感慨はないの？

チョロ　ボクの場合、大仁田劇場ではたまに話を振られたりするんですけど、さすがに電話はかかってこないですね（笑）。長州戦決定までは、途中ダレダレになったじゃないですか？

豪　途中で猪木さんの横槍が入ったりしてね。

チョロ　長かったですけど、煽り的にも、直前の長州の「またぐなよ！」で、もう１回テンションが上がりましたよね（６・30海老名大会に大仁田は電流爆破の嘆願書を持参。リング上で練習していた長州は、「またぐなよ！」と歴史的名言を10回も繰り返し、大仁田がフェンス内に入るのを阻んだ）。あの場面は何度見ても飽きないですよ（笑）。

山口　ノブはなんで行かなかったんだっけ？

ノブ　どすこ～い！　ワシは７・30は、ノアの百田（光雄）さんの全日本キックでのレフェリングぶりのほうが気になってしょうがなかったんで、そっちに行ったでごわす。

山口　おまえもう、その相撲キャラ、聞いてるこっちがツライから、今日はふつうにしゃべっていいよ（笑）。

豪　結局それでもしゃべれないんですけどね、コイツ（笑）。

ノブ　百田さんのレフェリングぶりだったら、いくらでもしゃべれますよ！

豪　で、どうだったの？

ノブ　り、立派でしたよ！

山口　ひと言じゃねえか！　しかも噛んでるし（笑）。

ノブ　でも、７・30の横アリは、なんかいつもとは毛色が違った、ヨソ行きの興行だったじゃないですか？

豪　ヨソ行きじゃねえよ！　内向きな興行だよ、あれは。後楽園クラスのカードでしょ？

ガンツ　ファン感謝デーみたいなカードでしたもんね。

山口　それでも、久々に横浜アリーナが立錐の余地もないくらい入ったね。アリーナ席の最後方の柵のうしろにも、まだ追加席が作られてたからね。

ガンツ　しかも、試合前に観客が出来上がってましたよね。心の底から見たいって感じで。

山口　いや、俺も試合開始前は興奮したもん。ＧＫじゃないけど、久々に『パワーホール』聞いたときは、ちょっとウルッときたよ。「うわぁ～、来てよかった！」と思ったよ、マジで。俺、長州力の大ファンだったんだから！　ホントだよ（笑）。

豪　長州に感情移入して見れば、あんなにスッキリする興行はないわけですからね。長州の感性で集めたレスラーがあんなに頑張り、長州もこんなに頑張り、思い入れのあるファンからすれば、それはたまらないはずですよ。

チョロ　ニセ大仁田もいっぱいいましたけどね（笑）。大仁田ファンはよく気持ち悪がられるけど、本物のコスチュームとかニーパットを着けたりとか、いまそういう狂信的なファンを集められるのは大仁田ぐらいしかいないなっていうのはありますよ。

山口　その大仁田に感情移入してるファンを数倍上回る勢いで、長州復活を待ち望んでたファンがいたんだよね。夏だけにオカルト現象かと思ったけど（笑）、会場が震えるくらいの長州コールだったもんね。確かに「長州力」というキャラクターは、いまの新日本の中にはない説得力を持ったキャラだよね。佐々木健介が今年のＧ１を取ったけども、説得力じゃ長州には及ばないもんね。同じようなキャラでも、健介じゃなにかが足りないじゃない。

豪　長州がヒゲ生やしちゃったから、健介はこれから困りますよね（笑）。

山口　そのあまりにも似てるというところが、なにかが足りないの〝なにか〟なんだろうけどね。

なぜ、長州は遺影を抱え入場し、リングに入る前にトレーナーを脱ぎ捨てたのか？

水戸　あ、でも、長州の入場シーンは、「祭り」にしてはちょっと不可解でしたね。

山口　っつーか、おまえ、誰だよ！

水戸　あ、練習生の水戸です。

山口　あ、そ。で？

水戸　あの（故・）福田選手の遺影を抱えてきたのは不可解ですね。

豪　まあ、復帰の理由をわかりやすく提示したわけでしょ。

ノブ　お盆だから持って来たんですよ。

豪　あ、なるほど！　うまいね、ノブ。いいフォローだよ。

山口　７月30日はお盆じゃねえだろ！（笑）。「福田がやりたかったプロレスを、もう福田はできないんだから、俺が代

【写真上】一礼してリングインした大仁田は、ゴングが鳴っても下を向いたままだった。このシーンが意味するものとは一体なんなのか【写真下】２度目の爆破は、アバランシュ・ホールドのように大仁田を逆さに担ぎ上げ突進!!

わりにやる」みたいなことを長州は言ってたよね。

豪　付き人としての濃密な関係があった破壊王ならまだしも、長州がそれを復帰の理由にするのは納得いかないんですけどね。

ガンツ　それは、前田日明風に言うと「そんなもんは人に見せるもんやないんや。控室でソッと手を合わせて、それをチラッと誰かに見られちゃって、それが伝説になるのがええんや！」っていう、そういうことですよ。遺影を持ってくるとかの問題じゃないと思うんですよ。

山口　あのね、その件は、ズバリ言って、ひと言で言えるよ！

豪　なんかターザンみたいですね（笑）。

山口　は？　ターザン？　俺も、元部下に元女房を取られなきゃいけないの？（ビートたかしに改名したターザン山本は、この夏、2年前に離婚した前夫人が、『週プロ』在籍時の部下・S氏と再婚するという、まさに衝撃の感情爆破事件に遭遇した）。

ノブ　ボクは取りませんよ！（なぜか逆ギレ）それはいいとして、会長（山口日昇のアダ名）が言いかけてた、遺影の件ってなんなんですか？

山口　あのね、長州の今回の最大の見せ場は、リングに入る前に花道でトレーナー脱いだでしょ。あの一点！「俺はリングに入れる体をここまで作って来たぞ」と大見得を切ったわけでしょ、あそこでトレーナー脱ぐっていうことは。

豪　これみよがしにね（笑）。

山口　確かに見事な体だったから、観客席もどよめいた。

ガンツ　大仁田より二回りくらい大きく見えましたからね（笑）。

山口　うん。あれで「プロレスラーというのは最高の体をつくり、最高のコンディションで上がるもの」という長州のプロレス観を一瞬にして誇示したんだよ。「プロレスラーとしての俺の肉体はピュアだぞ」ってことだよね。逆に大仁田の肉体はグロテスクでしょ。でも、大仁田は「リングに上がれた時点で本望じゃ～」という部分で、「精神はピュア」だっていうのをアピールしてきた。だから、大仁田の言う〝邪道〟は、言い換えると、『肉体はグロテスクだけど、精神はピュア』ということなんだよね。

チョロ　『肉体はグロテスクだけど、精神はピュア』ですか。

山口　で、こっからが肝心なんだけど、長州の対立概念の作り方っていうのは、単調というか浅いんだよ！　浅いなんて言ったら失礼か。深くない（笑）。

豪　どっちにしてもカチ食らわされますよ（笑）。

山口　だって、『肉体はグロテスクだけど、精神はピュア』なのが〝邪道〟だとしたら、それに対する、長州の言う〝ストロングスタイル〟は『肉体はピュアだけど、精神はグロテスク』じゃなきゃ、鮮やかなコントラストを描けないじゃない。陰影がないと、対立概念は深みを増さないでしょ。長州の肉体がピュアだっていうところまではいいよ。だから、トレーナーを脱いだところまでは会場も期待感で盛り上がったよね。でも、長州は福田選手の遺影を持ってくることによって、今回の復帰もピュアなものだということをアピールしたわけ。つまり、『肉体はピュアだし、精神もピュア』ということを打ち出したわけだよね。

ノブ　どすこ～い！　ピュアボディ、ピュアハートでごわすか。

〝ストロングスタイル〟と〝邪道〟の間にあるはずの距離が短く感じたのはなぜか？

山口　おまえ、また相撲キャラになってるぞ（笑）。要するに、長州はピュアという名のもとに、カッコつけたわけよ。どこまで行ってもベビーフェイスにしかならないっていうか。

豪　それも、これみよがしに（笑）。

山口　〝ストロングスタイル〟と〝邪道〟っていう対立概念は、深いとこでぶつかり合えば、いい対立概念になるでしょ。闘いを通してコントラストを見せることができれば、プロレスというジャンルの持つ幅の広さとか、ダイナミックさとか、スケールの大きさを突き刺すことができたんだよ。でも長州の今回の〝ストロングスタイル〟と、大仁田の〝邪道スタイル〟の間には、あんまり差は感じなかった。その二つの間にあるはずの距離がメチャメチャ狭～く感じたんだよね、俺は。「なんだ、結局おんなじじゃん」っていうかさ（笑）。だったら、俺はここまで流れをつくってきた大仁田に旗を上げるね。

ガンツ　長州の言う〝ストロングスタイル〟って、そーと－邪道ですよ、あれは（笑）。あれじゃプロレスにならないじゃないですか。相手の技を受けないんですから。

山口　でもあの会場にいたファンは、7分かそこらで長州が一方的に勝ったっていうことで、多少不満ながらも、取りあえず「ヨシ」としたわけだよね。ブーイングが出たわけでもないし。

チョロ　大仁田ファンからもあんまり文句は出ませんでしたからね。悪い意味であっけに取られたっていうか。

山口　だから、長州が『肉体も精神もピュア』だということを打ち出して完全ベビーフェイス主義になるんだったら、大仁田の『肉体も精神もグロテスク』という部分を引き出さないと、対立概念にならない。例えば、徹底的に大仁田がグロテスクなヒールになって反則三昧で攻め込んで、それを受けきった長州が、自ら被爆して「電流爆破」をすべて止めてから、レスリングで潰すとかね（笑）。

ガンツ　それくらいやってほしいっていう期待感はありますよね。

山口「ピュア＆ピュア」VS「グロテスク＆グロテスク」という、せめてそういう、わかりやすいコントラストがあったら、全然違ったものになったでしょ。でも、「あいつ1人でここまで引っ張ってきたのは大したもんだよ」って、長州が試合後にいみじくも言ったように、大仁田の「精神のピュア性」を引き出したかったわけでしょ、長州は。その大仁田の「精神のピュア性」を光らせるには、長州は逆に「精神のグロテスク性」を打ち出さなければならなかったんだよ。

ノブ　どすこ～い！　それはどういうことでごわすか？

山口　だから、相撲キャラはうざったいっつってんだよ、デブ！（笑）。それは徹底的に潰すこと！　つまりね、長州の言う〝ストロングスタイル〟の怖さとか非情さを刻みこめば、長州もさらに光ったし、大仁田ももっと光ったと思うんだよ。それにはどんな人間も持ってる「精神のグロテスク性」をさらけ出さなければならないんだけど、それを長州は出さなかったでしょ。

ノブ　でも、あの勝ち方は一方的で、「長州は強い」というのは届いたと思いますよ。あれじゃ徹底的に潰したことにはならないんですか？

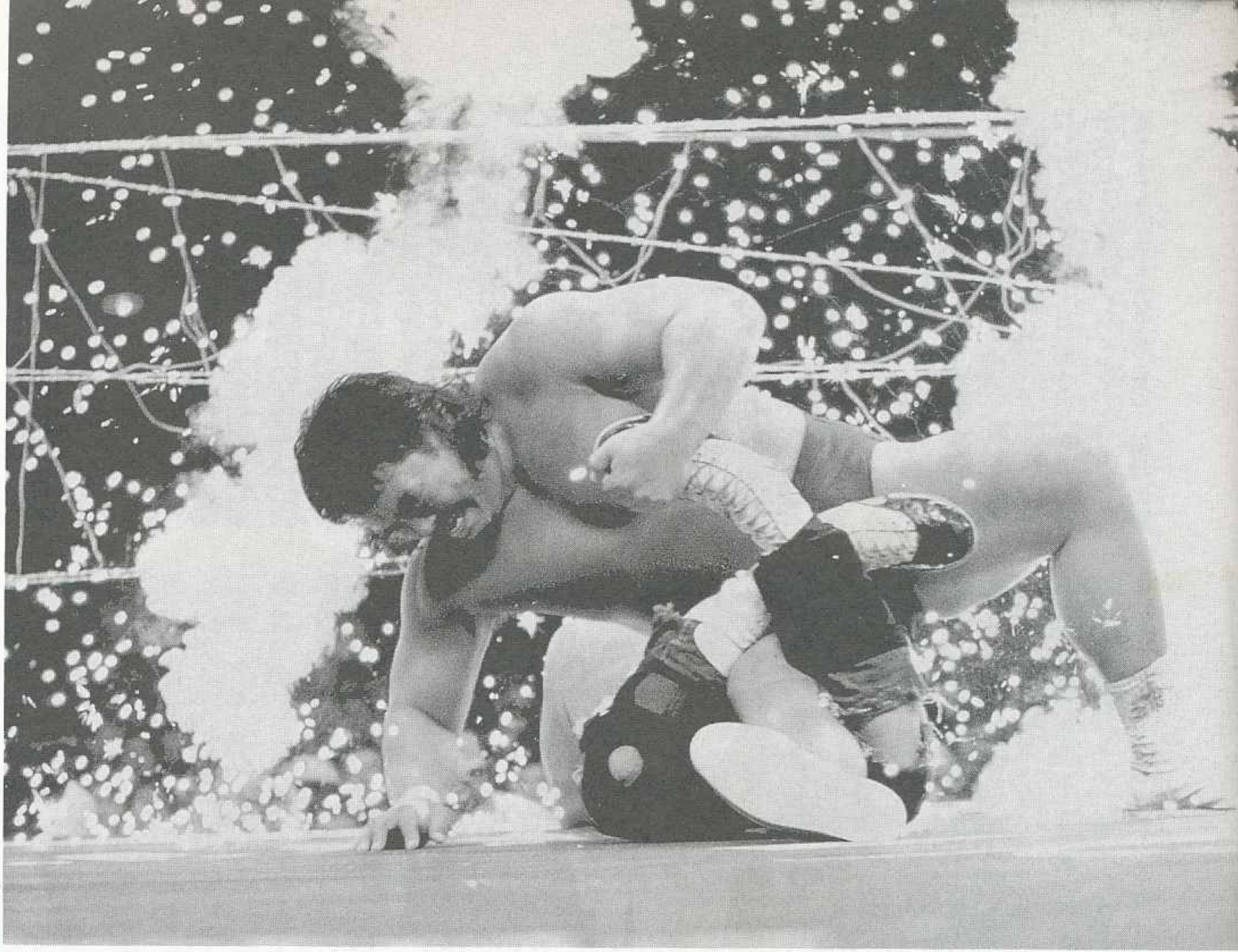
山口　いや、だから「強さを伝える」ってことに関しては完全に成功してるよ。最近の新日本のプロレスの特徴である力強さを全面に出してね。

チョロ　まさに長州の本じゃないけど、『力しか信じない』って感じでしたから

ね（笑）。
山口　でも、あの試合の長州からは、背筋の凍るような〝怖さ〟は立ち昇らなかった。おじちゃんたちが、トイレで立ち話してたんだけど、「大仁田はもうレスラーじゃなくタレントだな、あれは。一方的だもんなぁ、体が違うだろ、体が」って（笑）。で、客席では彼氏に連れられて来た女の子が「長州カッコいい〜ッ！　ギャ〜ッ！」ってなってるわけよ。だから、初心者から中級者の心には引っかかったわけ。でもなにかが決定的に足りないっていうのは、やっぱり猪木さんを見てきた者にしてみればあるわけでしょ。全盛期の猪木さんが大仁田とやってたら、初心者からマニアまで、それこそ大人から子供まで、幅広く「脳に引っかかる」ような試合をやったと思うよ。
豪　ＰＰＶと会場じゃ、温度差が凄くあると思うんですよ。ＰＰＶで全く届かなかったのは、たぶんじっくり見ちゃいけない試合だった、雰囲気モノだったってことですよね。「ドッカーン！」「来たーっ！」っていう（笑）。
山口　ドッカーン！って言えばさ、ネットで「長州が有刺鉄線でロープワークして爆発しなかったのはなぜか？」っていう議論があったよね（笑）。
チョロ　『ゴング』では「一面で2発の爆発と決められていた」って書いてますね。
豪　決められていた？　最初に言えよ、そういうことは（笑）。
チョロ　ゴングと同時に電源が入って、試合終了と同時に切るっていう説明は試合前にありましたよね。
豪　いや、爆発がなくなるのはわかるけど、電流は流れっぱなしなはずなんですよね。
ガンツ　高圧電流が流れまくってるはずなんですよ。
豪　だから、長州が被爆しないってことは、圧倒的ななにかを見せつけることが必要だったわけですよね。でも、この程度で圧倒的とは言いたくない試合だったじゃないですか。フィニッシュも全然説得力ないし。そもそも「サソリ固めってなんなのかな？」って考えさせられましたよ。
山口「サソリ固めってなんなのかな？」って、いいねぇ（笑）。解説席で「『パワーホール』ってなんですか？」ってマサさんに聞いた辻アナも面白かったけどね（笑）。
チョロ　ガッチリ腰を落としたら説得力はあるけど、こないだの試合はそれは感じなかったですね。
豪　サク（桜庭和志）のホイラー戦のレフェリーストップとかと、明らかに違うっていう（笑）。
ガンツ　でも、同等って意見もありますよね。なぜかというと、あれ以上は試合の展開しようがない、全く動けない故に終わりっていう点で同等だと。
豪　それはわかるんだけど、長州が展開させなきゃいけないいんじゃん（笑）。ハッキリ言って、あれは説得力ないもん。いかに圧倒的な強さを見せつけて、圧倒的なフィニッシュにするかでしょ？　大仁田は新日のマットにおいてはプロレスができないわけじゃないですか。大仁田的な試合が成立しないというか。
ノブ　どんなに説得力がなくても、万人に認められたフィニッシュだったらいいと思うんですよ。3カウントしっかり取るか、ギブアップするか。レフェリーストップがよくない。
ガンツ　それも大仁田をギリギリまで生かしたってことなんでしょうけどね。
チョロ　だから、あのルールじゃなくて、どこよりも先駆けて『有刺鉄線電流爆破バーリ・トゥード』で力を見せつけるのが一番面白かったと思うんですよ。
山口　それは面白いかもね。電流爆破でホントにバーリ・トゥードやっちゃうというのは（笑）。
チョロ　レフェリー島田さんとかで（笑）。
山口　そこまでやったら「長州は凄い」「猪木を超えた」ってことになるよ。
チョロ　それで一方的になったとしても、力の差はいまのファンには届くし、マニアにも興奮を与えられると思いますし。
山口　むしろ、バーリ・トゥードで一方的になったほうが、届くよ。
チョロ　でもそれは望んでないですよね？　アリーナに来たぐらいの層のお客さんは。
山口　でもさ、やっぱ猪木イズムの中には「ニーズっていうのは自分が作り出すもんだ」っていうのがあるから、いま猪木さんが全盛期だったら、それやってたかもね。
チョロ　電流爆破バーリ・トゥードで大仁田が完膚なきまで叩きのめされて、「これだからバーリ・トゥードはつまんねぇんじゃー！」とか言ったら最高ですよね（笑）。
山口　ガハハハ。そうしたら両方とも生きるよな（笑）。
豪　前に大仁田vs猪木ってありそうだったわけじゃないですか。やってたらどうなってたと思います？
山口　猪木さんが大仁田以上にグロテスクなことをやってただろうね（笑）。
豪　ヨダレ垂らして痛めつけるっていう（笑）。
山口　二人ともヨダレと血をダラダラ流しながらグロテスクな展開になる（笑）。でも闘い終わったらもの凄くピュアな感じが残るという、なんとも不思議で重層的な試合になってたかもしれないよね。
豪　猪木さんは多分、おもむろにロープワークやって、自分で勝手に爆破しますね（笑）。
山口　ガハハハ！　自分から突っ込んでく。
豪　いつも通りコーナーポストに登ろうとして爆破とか（笑）。そういう謎かけはありそうな気がしますよね。
山口　今回の長州vs大仁田戦は、見てて、身体が引っ掻かれるような痛みは伝わってくるんだけど、猪木さんだったら、「脳を爪で引っ掻かれる」というか「心の襞（ひだ）に絡まる」ような場面があっただろうから、そこから世間に広がっていったと思うな。
豪　要は単純すぎて立体的に見れないんですよね、今回の試合は。

なぜ、現在の〝ストロングスタイル〟と猪木の〝ストロングスタイル〟は違うのか？

豪　ひとつ言えるのは、大仁田が入場するとき、一礼してリングに入って、ゴングがなるまで無表情で下向いてたじゃないですか。あの意味を考えたほ

〝ストロングスタイル〟とは試合スタイルではなく、猪木の「生き方」を指すのだ

必殺・サソリ固めを決められた大仁田は、電流の流れる有刺鉄線にロープブレイク！　当然爆破！　バカか、邪道！　しかし、その爆音と爆風にたじろいたのか、長州はサソリを解いた。見せ場をなんとかつくろうとする大仁田の覚悟が伝わってきた一瞬だった

うがいいと思うんですよね。

ガンツ　大仁田はあの一連のシーンで訴えたいことは無茶苦茶あったはずなんですよ。

豪　その電波は出てたよ。大仁田はハナから、勝敗はもとより試合内容もテーマにしたわけじゃなかったじゃないですか。リングに上がることだけが目的だったから。長州はダミー人形に対して技かけてるようなもんですよ。これまで大仁田がやってきた有刺鉄線には、いい試合もあったわけでしょ？

ガンツ　そうですね。絶対に相手より大仁田のほうが被爆数が多いんですよ。普通はこういうのってヒールが試合つくるって言うじゃないですか。でも全部大仁田がイニシアチブを取って、やられ方も、逆転の仕方も全部大仁田がプロデュースして出してたんですよ。

豪　リング上が「大仁田劇場」だったわけだよね。でも新日の試合に関しては、リング外でしか大仁田劇場をやらない、と。

ガンツ　だから今回は、大仁田は自分が活躍しないっていうプロデュースをしたっていうことなんですけど、それはどういう意味を持つかっていうことですよね。

豪　だから「これなら負けじゃない」っていう電波の出し方なのはわかるよ。石川（雄規）社長とアレクが新日に上がったとき（99・4・10東京ドーム）に石川社長が負けてニヤッと笑ったのと、大仁田がなにもしなかったというのは、意外と近いかもしれない。だから、大仁田は「勝敗はともかく、リングに上がれば勝ち」っていう、自分の中でそういうルールを設定して来てるから、リング内はどうでもいいわけですよね。で、長州は「リング内で圧倒的な強さを見せつければ俺の勝ち、興行が成功すれば俺の勝ち」っていう。だからお互い勝っちゃったわけですよ。でも、ハナからリングに上がることだけが目的の人間をリングに上げて勝ち誇ったところでなんにもなんないわけじゃないですか。

山口　飛ばすね、ど-も（笑）。

豪　で、腹が立つのは試合終わったあとに「あいつはここまで漕ぎつけた、凄い。俺の完敗だ」とか言ってることですよ。それは最初からわかってるんだから、あとは試合内容で認めるとかして繋げなきゃいけないのに、実際の試合が終わってから試合までの繋ぎだけを認めてもねぇ（笑）。

ノブ　いや～、でも俺は完全に長州監督の勝ちだと思いましたよ！　あれだけの収益をあげて興行を大成功させて、PPVという新しいメディアを導入して、猪木色を排除することにも成功っていうとこまで来たんですから。

豪　でもPPV見た人の中には、二度とPPV見ないっていう人もいるよね。「2000円は絶対にペイしてない」っていうボヤキはけっこう多いよ。

ガンツ　ボクも「これで勝ったと思うなよ」って感じですけどね。興行にしても、あれだけお客さん入って、次の日のスポーツ新聞の朝刊も三紙が一面だったけど、次の日学校とかで話題になってるのは、俺は同じ日に行われたK-1だと思うんですよね。それは帰るときの電車の中での会話を聞いてもそうでしたから。

豪　ああ～、（ジェロム・レ・）バンナの暴走ね。

山口　考えなきゃいけないのは、「長州プロレスとは何か？」っていうことだよね。シュートでもない、エンターテイメント・プロレスでもない。じゃあなによ？っていう話でしょ。それをいまは〝ストロングスタイル〟って現してるわけだよね。でも、ズバリ言って、長州の推し進めてるというか、いまの新日本が推し進めてる〝ストロングスタイル〟は、猪木さんがやってきた〝ストロングスタイル〟と違うんだよ！　これをハッキリさせたいわけ。

豪　じゃ、力持ちスタイル？　なんか可愛くて良くないですか？（笑）。

山口　プロテイン・スタイルっていうか（笑）。

ガンツ　でも、あれもきっと〝ストロングスタイル〟なんですよ。いわゆる80年代の前半ぐらいまでの、猪木さんがバリバリだった時代の〝ストロングスタイル〟っていうのはあれでよかったと思うんですよ。いまみたいにバーリ・トゥードもなにもないですし、見た目で、長州力は凄みもある。勝ち方も一方的だし。それはやっぱり〝ストロングスタイル〟だと思うんですよね。

山口　「強さを伝えられる」っていう部分でね。

ガンツ　そうです。それは別にバーリ・トゥードに出て証明するとか、そういう強さじゃなくて。「長州最強だ」っていうのは、昔、猪木さんを見て「猪木は最強だ」って言ってるのと、そう変わりはないと思うんですよ。でも、当時はそれでもよかったんですけど、いまはそうじゃないだろうっていう。

山口　「強さを伝える」試合が〝ストロングスタイル〟だって定義づけるなら、いま「強さを伝える試合」は、『PRIDE』のほうがリアリティがあるわけだからね。

豪　いや、プロレス内で強さを伝えるのも絶対必要だと思うんですよ。

山口　うん、当然それもなきゃダメだよね。

豪　でも、それだったら相手は大仁田じゃないだろって。別に大仁田が弱いからってわけじゃないんですよ。大仁田興行とかで見る限り、ちゃんと試合もできるし。不思議なのが新日に上がったときに限って大仁田はなにもしないんですよね。

チョロ　有名どころの選手で言えば、天龍なんかは電流爆破でも試合を組み立てるわけですよね。大仁田相手に被爆したり、攻防もちゃんと見せるっていう。ところが新日に上がると試合の中では、一切、大仁田の色は消えますよね。

豪　凄い謎かけだと思うんですよ。大仁田が敢えてなにもしないって。自ら率先してやられに行くじゃないですか。ラリアットにしても、自分から吸い込まれるように向かって行ったり（笑）。

チョロ　急所攻撃すら通じないっていう（笑）。

豪　あれだけ見たら、「大仁田弱えよ」ってなるだろうけど、大仁田はああいうレスラーなわけじゃないですからね。なぜ新日のリングだと、ああいうことになるのかっていう。

山口　あのね、長州の〝ストロングスタイル〟は、猪木さんがやってきた〝ストロングスタイル〟と違うってさっき言ったけど、まず、猪木さんの〝ストロングスタイル〟とは何かというと、試合形式とかそういうことじゃなくて、猪木さんの生き方そのもの、精神の旅のことを言うんだよ。

ノブ　せ、精神の旅ってなんでごわすか！

山口　だから突然相撲キャラに変わるなっつーんだよ！（笑）。猪木さんの引退試合のたち古舘（伊知郎）さんのナレーションにもあったでしょ。（資料を探して読み出す）『思えば38年に及ぶプロレス人生、旅から旅への連続であり、そして猪木の精神も旅の連続であった。安住の地を嫌い、突き進んでは出口を求め、飛び出しては次なる場所に歩を進め、ドン底からの新日旗揚げ、世界王者とのストロング・マッチ、大物日本人対決、格闘技世界一決定戦、IWGP、巌流島、人質開放、国会に卍固め、魔性のスリーパー！　決して人生に保険を掛けることなく、その刹那、刹那を燃やし続ければよいという生き様』……って、よかったねぇ、これ（遠くを見つめ感慨深げに）。

豪　浸らないでくださいよ！（笑）。

山口　ガハハハ。いや、実にいいよ、これ。つまり、猪木さんの〝ストロングスタイル〟は、このナレーションに集約されてるような、猪木さんの「生き方」とか「精神の旅の足跡」、それを指すわけ。それがリングで表現されてるんだよ、猪木さんの場合。決して試合スタイルのことを言ってるんじゃない。だから、〝ストロングスタイル〟っていうのは、ホントは猪木さん一代限りなんだよね。古舘さんのナレーションのシメは、『もう我々は、闘魂に癒されながら時代の砂漠をさまよってはいられない。我々は今日をもって猪木から自立しなければいけない。闘魂のかけらを携えて、今度は我々が旅に出る番だ！』ってあるんだけど、これは誹謗中傷でも批判でもなんでもなく、長州や新日本もさっき言った意味での〝ストロングスタイル〟や猪木さんから本気で自立する時期なんじゃないかと思うよね。会社のキャッチコピー的なものとしては欲しいんだろうけどね。

ガンツ　だから逆に、あれを〝ストロングスタイル〟って言うんだったら、〝ストロングスタイル〟はああいう「長州プロレス」にあげちゃってもいいという感じですよね（笑）。

山口　それでもいいよ。あげちゃおう（笑）。

ガンツ　〝ストロングスタイル〟と〝猪木イズム〟っていうのは、もう全然イコールじゃないんですよね。

山口　猪木さんはとっくに〝ストロングスタイル〟なんてキャッチフレーズは捨ててるからね。「やるよ、そんなもん」って（笑）。前田日明だって「リングス欲しいヤツがいたらやるよ」って言ってるし（笑）。

ガンツ　〝ストロングスタイル〟っていうのは、84年にUWFができたときに「あれは〝ストロングスタイル〟じゃないですよ」って言われちゃったものじゃないですか。それから一つも変わってないんですよね。

山口　大技の攻防や、受け身の技術は上がってるんだけどね。だから、〝ストロングスタイル〟の火種は他に飛んでいって燃えてるんだよ。『PRIDE』であったりリングスであったり。いまじゃ『PRIDE』のほうに、よっぽど〝ストロングスタイル〟を感じられるよね。

豪　そのへんを気にしているのがノアだったりするから面白いんですよね。この前、百田インタビューをしたとき「スリーパーをやるにしても、ファンの目が肥えてきたから突っ込まれるような隙を与えちゃいけない」って言ってたんですけど、昔は保守的だと言われていた全日系のノアがプロレスを守ろうとして、〝ストロングスタイル〟な方向に行きつつあるでしょ。

山口　リング上でせめぎ合いが見れるっていう意味での〝ストロングスタイル〟ね。

豪　その反対に、新日が別の方向に行きつつあるのは興味深いなっていう。

ガンツ　ノアは一生懸命、日本独特のプロレスを残してるんですよね、形を変えながら。

山口　やっぱり自分の理想像としてのプロレスをやるためには、もの凄いエネルギーが必要でしょ。「こういうプロレスをやれ」って言われたほうが簡単だよね。いまのラリアットプロレスっていうのは、「こういうプロレスをやれ」って言われてやってるようにしか見えないんだよね。

ガンツ　「こうやったら間違いない」っていうヤツですよね。

豪　この間、北海道だかでベルトが全部ラリアッターの元に移った興行があったでしょ（7・20札幌）。ジュニアが高岩、タッグが天山＆小島、ヘビーが健介で、フィニッシュがみんなラリアットからのなんとか、ラリアット連発からのなんとかで（笑）。でもテレビで見る限りだけど、会場は沈んでるんだよね。やっぱり個性を潰された中で出そうとしてる個性だから、ラリアットにしてもやればやるほど逆に長州が光るわけじゃないですか。あれは恐ろしい構図だと思うんですよ。

山口　あのね、もうズバリと言うよ！

豪　ほう！　聞いてさしあげます。

山口　〝長州式ストロングスタイル〟イコール〝長州組〟イコール〝俺が面倒を見る！〟ってことなんだよ！（笑）。

一同　ガハハハ。

豪　藤波の「俺が天下を取る」（著書名）みたいですね（笑）。

山口　今回、長州が一方的に勝ったことによって生じた閉塞感には、日本の「企業社会」の最後の徒花を見たね、ボクは。

豪　えらい大きな話ですねぇ（笑）。

「組織力」や「会社力」じゃなく「人間力」で厚い壁を突破するのがプロレスラー

山口　だってさ、「長州組」の、会社に人格を持たせる方向は、日本の企業社会の体質そのものじゃない。誰かが手となり、誰かが足となり、誰かが顔になるというね。つまり組織の歯車としての役割以上は求められてないわけでしょ。

豪　「目立ちすぎたらいけない」ぐらいの感じですよね。

山口　長州も言ってるように、長州力の感性に沿って動いていかなきゃいけないわけだから、豪ちゃんが言ったように、やっぱり真の個性を潰された中で必死に絞り出そうとしてる個性だから、突き抜けられないっていうか。

豪　ホント、全日分裂前のほうがよっぽど自己アピール激しかっただろう、ぐらいの（笑）。

山口　これだけ「集団から個への時代」「自己責任の元に個性を発揮する時代」って言われてて、そごうも潰れたし、某テレビ局も終身雇用制をやめた、そういう社会状況のわけでしょ。「プロレスは時代を映す鏡」だとよく言われてるけど、いま「長州組」がやってることは、かつて反映を築いた時代を取り戻そうというふうにしか見えない。守ることだけじゃなく、「突き進んでは出口を求め、飛び出しては次なる場所に歩を進め」てほしいんだよね、マット界の盟主である新日本には。

豪　長州力のアピールがどこに向かってんのかっていえば、社内に向かってますよね。「どうだ、お前ら！」っていう（笑）。

山口　「興行収益伸びるんだよ！」「そうすりゃお前らギャラも増えるんだよ！」っていうね（笑）。

豪　「だから噛みつくなよ！」って（笑）。

山口　それは猪木イズムじゃねえですよ、ハッキリ言って（笑）。

豪　猪木さんとかそういう時代にあったトップの首を狩ろうとする勢いっていうのは、結局のところ選手が儲かってないから出てきたんですよね。だから、選手のギラギラした思いを削ぐために、いい金渡して組織として抑えればいいっていうのは、わかるんですよ。

山口　それはやっぱ企業社会の体質だよね。逆に考えれば猪木さんがやってきたことは、造反分子が出てこようがなんだろうが「どうってことねえよ」と。造反分子を抑えるんじゃなく「やれんのかーッ」ってことでしょ（笑）。それも闘いのうちというか。猪木さんには「一生面倒をみる」という感覚は確かにないかもしれないけど（笑）、プロレスというソフトは、そういう造反分子が出て来るくらいのせめぎ合いがないと、面白くなっていかないということを訴えてきたと思うんだよ。猪木さんは格闘アーティストだから。レスラーは、最後はしょせん1人一企業だということを、猪木さんはズッと前から言ってたからね。

ノブ　レスラーがサラリーマン化してるってかなり前から言われてますよね。

山口　俺、長州vs大仁田戦を見てるときに、なぜか前田日明のことが頭をよぎったんだよ（笑）。

豪　前田と大仁田っていうのも面白い関係ですよね。誰よりも大仁田にライバル心を抱いてムキになるのは、なぜか前田日明だし（笑）。

山口　もしあれが前田vs大仁田戦だったらどうだったろう（笑）。

ガンツ　「きれーーーいに半殺しにしてあげますよ」って感じですよね（笑）。

山口　そのドキドキ感はたぶん長州vs大仁田の比じゃなかったと思うんだよ。そう考えていくと、前田と長州の違いっていうのが、クッキリ浮き彫りになってくる。で、前田も「俺が面倒見たる」って人でしょ（笑）。選手にはいいギャラをあげたい、選手にはいい生活をしてもらいたい、いい車に乗って、いい時計をしてもらいたい。

ガンツ　「金無垢やぞ、金無垢！」ですからね（笑）。

山口　だから、長州の親分肌とは共通点があってさ、長州の〝面倒見る観〟と前田の〝面倒見る観〟は途中までは一緒なんだよ。ある点までは一緒でしょ。なにが違うかっていうと、ハードとソフトを両方転がしてるのが前田、ハード面だけを強力にバージョンアップさせてるのが長州。

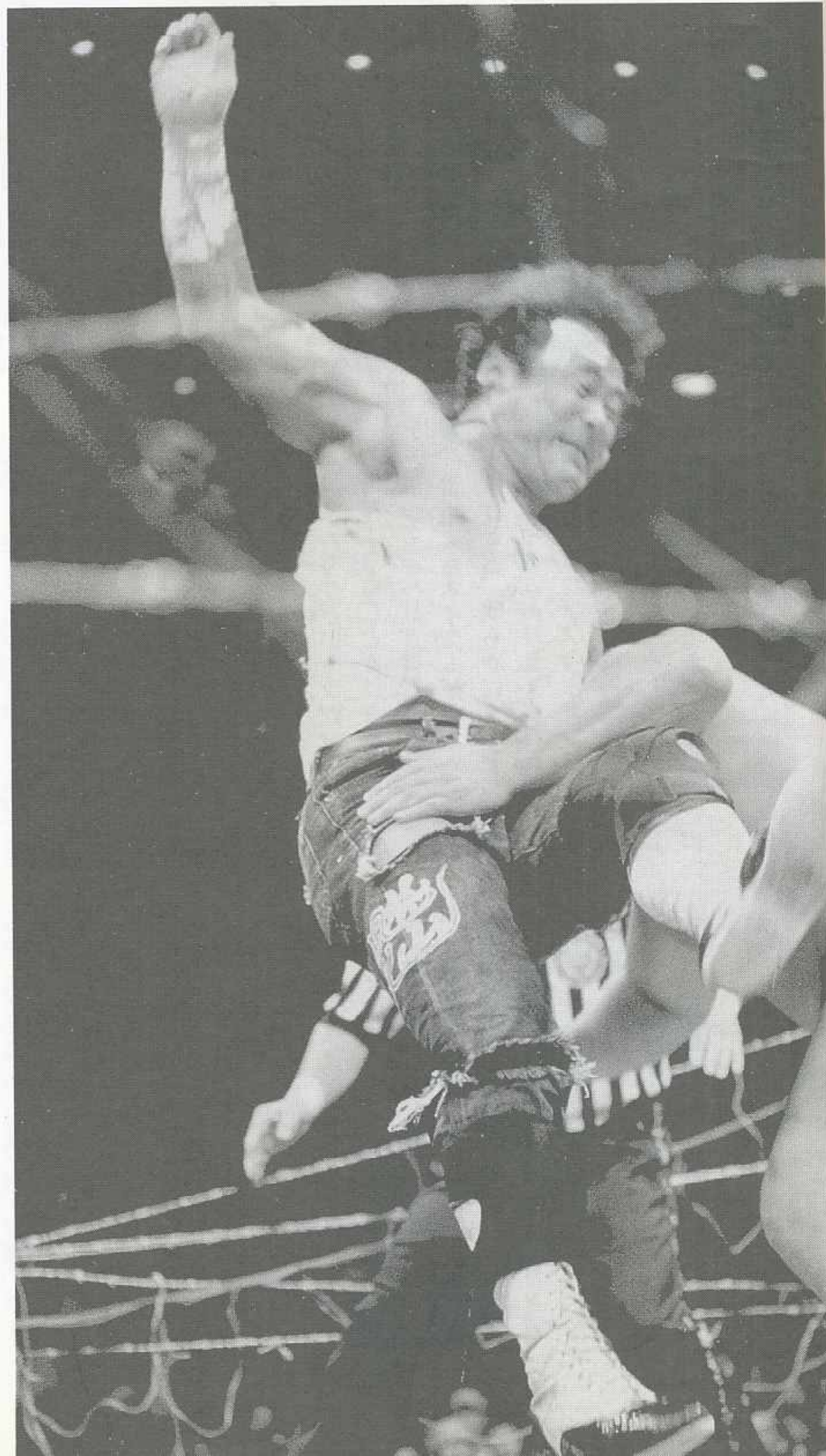
豪　有刺鉄線っていう新しいソフトを持ち込んだっていうのはあるだろうけど、新日の有刺鉄線マッチに名勝負なし、ですからね。〝ロープワークを禁じられた新日って、なんでこんなにつまんないんだろう？〟って思いますよ。もっとできるはずの団体ですよね、ああいうときにも。

山口　だからソフトをバージョンアップしていく素材は、恐らく世界一でしょ。でも、「長州組」のやり方は、ソフトの部分に保守的にこだわって、ハード面、つまりビジネス部分だけは常にバージョンアップして拡大していこうとしてるよね。前田もハード面は拡大していきたいんだろうけど、あくまでもソフトの充実のために、ハードの拡大が必要だって考えてるでしょ。だって、いままでの旧リングスルールを全撤廃して、いきなり「お前ら、明日からルール変えるで」ってKOKルールに進んだんだからさ（笑）。その極端な針の振り方ができる前田と、ソフトではなくビジネス面で思いきり針を振る長州の違いがハッキリ浮き彫りになったよね。UWFから時間はかかったけど、ソフトをバージョンアップしてきたからね、前田は。

ノブ　だから、新日が思い切って変えるっていうスタンスに立たない限りは、変わらないですよ。長州監督は変えたくないんですから。

山口　長州力の「俺が面倒を見る」というのはホントに男らしくて素敵だし、長州の偉大さもわかるんだけど、プロレスというソフトの行く末、レスラーの個性を伸ばすということに関しては、どうなんだろう？ってことなんだよね。前田は選手の〝人間力〟を引き出すためにソフトの改革に手を付けたわけだよね。猪木さんもそうだし。やる選手は大変だろうけどね（笑）。オーちゃんや村上一成は「新日本は原石がゴロゴロ転がってるのに、ダイヤモンドを腐らせていくようなもんだ」って言ってたけど、見たいのは〝組織力〟や〝会社力〟じゃないでしょ。

豪　見えるのはそっちのほうなんですよね。形としての成功を求めたいのはわかるんですよ。猪木さんへの対抗意識として。でも、大きいのは、昔の新日なんかではずっと「トップの首を狩

電流爆破に反則も何もないんじゃ〜、とばかりに急所打ち４連発を打った大仁田だが、長州は倒れず。ＤＤＴで追撃したが、これにも長州は頭を軽くポンポンと叩き「効いてない」とアピール。何もさせてもらえなかったのか何もしなかったのか、それが問題だ

ろう！」っていう思いが裏側にあったけど、いまはそれが全然見えないじゃないですか。「トップはトップ、俺たちは俺たちで一生懸命やっていきますよ」って、なんだそれって（笑）。「お前、噛みつかないのか！」っていう。それが一番腹立たしいんですよね。

山口　でも7・30の試合後に佐々木健介が言ってたじゃん。「俺たちがメインを張りたかった」って（笑）。

豪　それ、川田のグチと同じレベルじゃないですか（笑）。

ガンツ　だから、猪木さんの中の猪木イズムっていうか、猪木さんっていうのはずっと変化してると思うんですよね。だけど長州はいわゆる"打倒・猪木"に燃えてた頃の猪木さんに自分がなりたくって、それをいまやってるんじゃないかなっていう気がするんですよね。違いますかね？

山口　つまり、猪木さんは常に変化してるけど、長州力は常に変化しない。

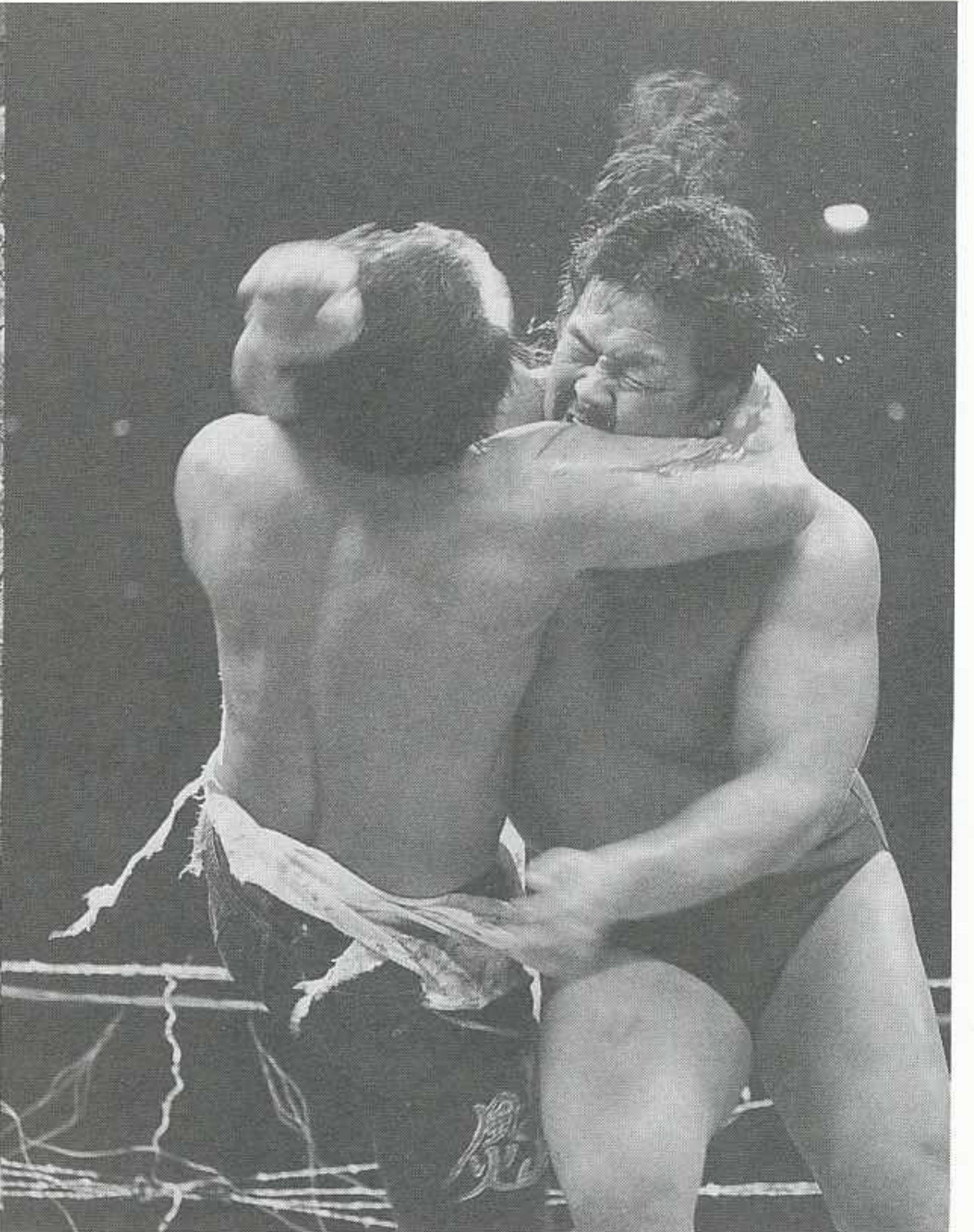
豪　デビュー戦のフィニッシュがサソリ固めですからね（笑）。

山口　ガハハハ。そういえばそうだ。要は変わらないことが長州イズムか。頑固が一番！

ガンツ　猪木さんは、まさかIWGP前の猪木に戻ろうとは全く思ってないだろうし（笑）。

山口　長州監督の頑固さは、馬場さんの頑固さと同じで、猪木さんが常に変革を求めて動いて走ってたから、その頑固さが光った部分ってあるでしょう。なのに、その頑固色一色で染めても逆に光を放たなくなっちゃうんだよ。

豪　頑固色ってどんな色ですか（笑）。だから、周りが染まらずに、長州に噛みついていけば、面白くなるんですよね。かつて馬場さんに対して猪木さんが噛みついていったように。

本家リキ・ラリアットからのサソリでレフェリーストップ。あまりにも一方的な展開で敗れた大仁田はタンカで運ばれた。しかし、救急車で病院に運ばれるまで真鍋アナと大仁田劇場をやり通した邪道。真鍋、合格じゃ～！

なぜ、「新日本」は巨大な"場"にならないのか？ そして長州力には猪木イズムがあったのか？

山口　今回興行は大成功だったけど、7・30の裏側にある「対アントニオ猪木」っていう部分で言えばどうなの？

チョロ　十分、一矢報いたとは思うんですけど、持続していくのは非常に困難なんじゃないですかね。

豪　結局猪木さんに向けてるわけじゃないですか。「俺はこんな興行できんだよ！」って。そういえば、『週プロ』（8／15号）に「長州に猪木イズムあり」って書いてありましたね。

山口　あ～、書いてあったね。「長州力の猪木イズム　邪道抹殺」「横浜で長州が示したのは、皮肉にも猪木イズム」だって。「その結果、長州は邪道を抹殺した。それこそ長州力が示した猪木イズムだったと見るべきだろう」だとさ。

豪　ボクらが考える猪木イズムとは、明らかに違うと思うんですよね。

ガンツ　それは恐らく、国際軍団を散々な目にあわせた猪木イズムだったり、グレート・アントニオを一方的にやった猪木イズムだったり、いま思うと「猪木ってひどいヤツだね」って思っちゃうようなことだけが猪木イズムだと思ってるんじゃないですかね。

豪　長州に猪木イズムがあったって言いますけどね、明らかにターザンのほうが猪木イズムありますよね（笑）。

山口　ンムフフフ。ターザンは、今回の前夫人と元部下の再婚騒動でホントに「猪木」の名前を出しても恥ずかしくない激動の人生になったよね。このまんま行ったら「大仁田」になるしかなかったからね（笑）。

豪　S氏のSは、ショーケンのSだったって（笑）。

山口　ガハハハ！　猪木さんと別れた倍賞美津子を取ったショーケンね（笑）。でも、ああいうゴッドアングルが降りてくるっていうことは、ようやく猪木さんの領域に達してきたんじゃないの、ターザンも。

豪　かなり前から「俺は猪木だ！」と吹いてましたけどね。

山口　その件で相当、自分と向き合ったはずだし、なんか重層的に、いろんなことが渦巻いたはずだよね。なかなか「自分と向き合う」なんて心理状況になる大事件は、凡人には降りかかってこないからね。政治家になって大スキャンダルに見舞われた猪木さんの心情がわかったんじゃない。なんかドラマチックでスキャンダラスで凄いよなぁ、あのオヤジの人生。でも、そういう偶然の事件が降りかかってくるターザンには、そういう運を呼び込むエネルギーがあるんだろうね。今後のターザンに期待だね（笑）。

豪　もう54歳ですよ！（笑）。

チョロ　大仁田も、海外の電流爆破と全日参戦をやり残したって言ってますけど、ターザンとの電流爆破も見たいですね（笑）。

ガンツ　しかし昔の猪木全盛時の新日本と同じで、今回は長州だけが浮かび上がるようになったじゃないですか。長州一極集中。それも猪木イズムの一端ではあるのかなって。Uインターが高田だけを上げたみたいな。

山口　それを猪木イズムの全てだと言われると"？"がつくけどね。

山口　その、おいしいとこ取りを『週プロ』とかは猪木イズムと解釈してるのかもしれないよね、もしかしたら。あ

とね、俺が一番衝撃を受けたのは、『日刊スポーツ』（8／3付）に載ってた永島勝司取締役のコメントですよ。「復帰戦で長州は猪木さんと同じ神の域に達した。彼自身、現場監督で終わるとは思ってないはず」って。実に大きくでたよなあ、永島取締役（笑）。でも、かつて猪木さんと『闘魂二人三脚』してた永島さんが言うんだから間違いないでしょう（笑）。でも、永島さんにとっても、新しい神を作らなきゃいけないんだろうけど、その神の作り方がもう古いんだよ、明らかに。

ガンツ　なんか閉じられた神ですよね（笑）。

豪　最近、あらためて会長は「いまの新日には猪木イズムはない」って、よく言ってますよね。

山口　〝闘魂の火種〟は、「長州組」にはないよ。いや、選手それぞれには〝闘魂の火種〟はあるんだろうけど、いまの「長州組」の仕組みでは、その火種が燃え上がるのは難しいよね。「新日本プロレス」っていう大きなフィールドではその火種が燃え上がる可能性は大いにあるだろうけどね。でも、それも「新日本プロレス」イコール「長州組」ってなると燃えても消えちゃうから（笑）。

豪　〝闘魂の火種〟を消そうとしてるわけですよね。「長州組の火消し」というか（笑）。

山口　ガハハハ。「長州組」イコール「新日本プロレス」っていう公式を取っぱらって、長州組があって、武藤組があって、蝶野組があって、それぞれがギラついたせめぎ合いをしていけばいいんだよね。

「長州組」＝「新日本プロレス」この構図がある限り〝闘魂の火種〟は燃えない！

それがさ、相手を淘汰したり取り込む方向に向いたら、火種は燃えないじゃん。だから猪木さんは「もう新日本なんて興味ねえんですよ」って言って（笑）、〝闘魂の火種〟を『PRIDE』に送り込んだりしてるわけだよね。猪木さんが考えてるのは、『PRIDE』という団体をどうこうすることじゃないと思うよ。『PRIDE』が理念として掲げてる、いろんな個性が集まれる〝場〟。その場が持ってる可能性になにかを見てるんだろうから。ホントは、新日本も企業としてじゃなく、〝場〟として機能していけば、もの凄いことになるんだけどね。「長州組」と「新日本プロレス」は違うってことを打ち出して、蝶野とかムタに代表されるアメリカンスタイルを推し進めていく一派とイデオロギー闘争したら面白いと思うんだけどな。本気で。いまも抗争してるけど、爆発力のある抗争にはならないもんな。

ノブ　本来、「長州組」の会場に蝶野が入って来た時点で大ブーイングじゃないとおかしいんですよね。

山口　いまブーイングも、明らかにファンが楽しむためのツールだもんね。でも、もっと心底ブーイング送ったほうが面白いに決まってるんだから。

ノブ　蝶野が長州vs大仁田戦の前に「長州は役員なんだから、役員は全員リングサイドに並んでこの試合を見ろ。一人一人悪事をバラして、俺がうしろからこいつらを爆破に突っ込んでやる」って言ってたのは、シュートな感情が出て面白いんですけどね。派閥抗争を表に出せば、それがアメリカンになりますからね。

豪　蝶野もそういうギラギラ感があるのに、結局いまのポジションに安住してる感じが凄く強いよね。給料いいし（笑）。

山口　最後は新日本という組織の行く末を考えてることは同じ、という最終的な仲間意識が見えちゃう。ま、こういうこと言うと誰かさんに「プロレスをわかってない」って言われちゃうんだろうけど、誰かが「長州組」を本気で潰しに行かないとリアリティに迫力が伴わないよね。蝶野が真鍋アナ実況の解説席で「こんなのはプロレスじゃない」って言ってたでしょ？

豪　あの解説は最高でしたね。最後も「真鍋、お前、看取りに行け！」ってけしかけて（笑）。

山口　あれくらいやってくれないとね。

でも、その蝶野でさえ、〝ストロングスタイル〟っていう言葉に引きずられすぎだよね。「こんなのはプロレスじゃない」っていうのも、現役バリバリの選手たちとの試合と、長州vs大仁田戦を差別化するために言ってるんだろうけど、蝶野なんてもっともっと極端にアメプロに針振っちゃっていいと思うんだよね。その解説の面白さをもっとオーバーさせるっていうか。いざ試合となると〝ストロングスタイル〟に引きずられちゃうのも、「長州組」との抗争にリアリティが絡んでこない原因かもしれないし。だから、本気で新日全体をアメプロ化してやるというのをイデオロギーにする方向のほうが、蝶野や武藤はもっと光ると思うよ。それに「長州組」が本気で歯止めをかけたり、UFOが絡んできても面白いしね。蝶野や武藤のやってるエンターテイメントプロレスのほうが、いわゆる新しい新日本プロレスを見せるには、コンテンツとしては可能性を秘めてると思うんだよね。「長州組」の掲げる〝ストロングスタイル〟より。

豪　武藤とか、相当いま考え出してんじゃないですかね。海外で3WAYダンスまでやってるわけでしょ。目からウロコが落ちてるはずですよ。

ノブ　中西、永田なんていうのは、アメリカン・プロレスというか、エンターテインメントやるには金の卵ですからね、ボクから見たら。

豪　格闘スタイルなのにアメリカ経験してるから、なんか不思議な味わいがあるんですよね。あの中西独特の試合アピールは最高ですよ！

山口　ちぐはぐだよね（笑）。そのちぐはぐさが、たまらなく面白い（笑）。

ノブ　だから格闘集団って銘打つからこんがらがるんで、格闘技もできる人たちのアメプロ集団なんですよね、G―EGGSは。

山口　どうしても〝ストロングスタイル〟の香りを残そうとしちゃうからね。G1中継見てたら、中西は最高だったもんね。俺、中西の試合は、2分に1回くらい笑ったもん（笑）。

ノブ　笑うなんて失礼な！

山口　いや、凄いもの見ると笑っちゃうでしょ。そういう意味（笑）。アメプロっていうか、ああいう系統のパワーファイターだと、大概ロボット化しちゃうもんだけど、中西は圧倒的にヒトだもんね。他のラリアッターたちとは一線を画してるし。腕グルングルン振り回したり、ドンドコはねたり、中西の人間としてのエネルギーが出てるもん。あれはアメプロにも負けないよ。例えばだけど、新日ではそういう試合やって、『PRIDE』とかにも出ていくとか、そういう振り幅の持ち方もあるだろうし。〝ストロングスタイル〟とかラリアットプロレスじゃなく、いまはあの未完成の中西スタイルに磨きをかけてほしいもんです（笑）。中西vs西村戦は今年のG1のなかでベストバウトだね。西村の刹那的な表情や闘い方と、中西のあのキャラが見事に対比してたよ。卍固めを解いて、そのままア

ルゼンチンに担ぐフィニッシュにも説得力があったし。

豪　だから、リング上にいろんなジャンルがあっていいと思うんですよ。いきなり『PRIDE』までいかなくても、格闘スタイルの試合があっていいし。ただ、ラリアットスタイルの試合だけじゃいい加減ダメだってことだけはハッキリしておきたいんですよ。今回の興行が成功したことで、その流れがより強化されていきそうな気がするから警鐘を鳴らしておきたいんだけどね。

山口　マット界に非常ベル！（笑）。全部が全部ラリアットプロレスになったら、たまったもんじゃない。

豪　昔の新日本の中にはドン荒川もマクガイヤー兄弟もあったわけですからね（笑）。

山口　で、モハメド・アリ戦を始めとする本格的な格闘技戦の他に、グレート・アントニオ戦もあり、ペールワン戦があり、アノアロ・アティサノエ戦もありと（笑）。そういう巨大なフィールドの中で、みんながそれぞれやりたいプロレスに向かって邁進してたからダイナミックさが出てくるわけだからさ。それぞれがやりたいプロレスっていうものに、本気で向き合ってほしいんだよね。“ヒトヂカラ”で、“会社力”とか“組織力”の壁を突破してほしいわけよ。でも、今回長州が一方的に勝ったことによって、もう俺たちの新日本幻想は捨てなきゃいけない、完全に。

豪　あれはリキプロだと（笑）。

山口　うん、リキプロ。「長州組イコール新日本」じゃなく、「長州組」とか「大仁田組」とか「蝶野組」とか、いろんな組があって、新日本はそれがぶつかりあえる“場”を提供する興行会社として年3回ドーム興行やるとかさ。

豪　SWSだ！（笑）。

ガンツ　部屋別じゃなく組別対抗戦（笑）。

ノブ　蝶野組にいるけど、天山、小島がなぜか長州組の色が強いという不可解な現象もありますから、キチンと部屋別だか組別にしたほうがスッキリしますよね。

山口　だから、新日本は上場するとかそういうことじゃなしに、“場”をつくっていくべきだと思う。「そんなんでビジネスが成り立つか」って言われるかもしれないけど、それをうまくビジネスに仕立て上げてるのが『PRIDE』じゃない。団体とか会社よりも、プロモーション方式でも十分ビジネスになる可能性はあるでしょ。さっきの企業社会の話じゃないけど、団体とか会社とか一生面倒を見るっていうものにこだわらないほうが、将来的にはいいんだよ。

豪　新日を完全な“場”にしちゃうと。高田道場みたいな感じですね、長州組が。

山口　長州復活であれだけの「長州コール」一色になるのも醍醐味があるけど、客席だって画一的な雰囲気ばっかりじゃ面白くないでしょ。

豪　長州に「嘘つき」コールが飛んでもいいんですよね（笑）。

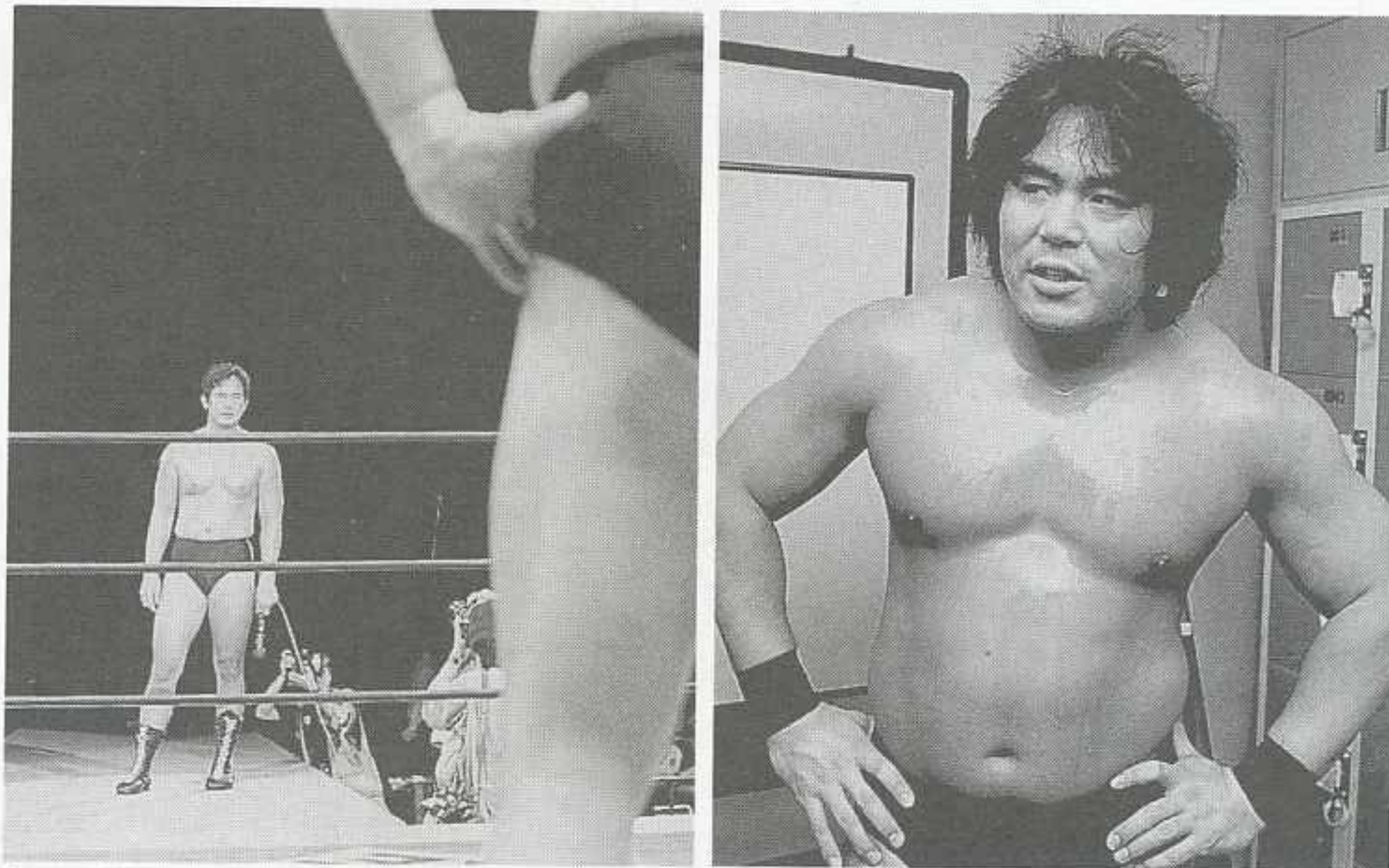
ガンツ　だから言ってたんですよね。「入場のときにペットボトル投げてもいいんだったら、長州にも投げよう」って（笑）。

ノブ　『週プロ』がそういうキャンペーンやってたじゃないですか、大仁田復帰のときは。

豪　今度復活したら許さないっていうやつね。ウチもやりましょうか、「復活したから長州力は載せません」って（笑）。

山口　「プロレスラーとして認めません」って？（笑）。でもノブが言う通りで、蝶野が入って来ただけでブーイングが起これば面白くなるよ。

豪　試合の翌日だったかな、『東スポ』には「長州がヒクソン戦へ」っていう記事もありましたね。

山口　あれは『東スポ』独特の飛ばし記事だろうけど、やっぱりインパクトはあるね。

【写真右】Ｇ１では決勝で健介に敗れ、惜しくも２連破を逃した野人・中西。爆発的なキャラを活かしきった中西の前では、アメプロもストロングスタイルも爆破される。【写真左】ガンを宣告された西村は、Ｇ１で刹那的で重層的なファイトを披露。中西との一戦は、ラリアットプロレスにはない味わいがあった

豪　「長州vsヒクソンっていうのは、どうなんですか？」って前田日明に振ったら、「それは面白い！」ってアッサリ乗ってましたね。

山口　ガハハハ。でも、ニーズは絶対あるよね。

豪　ああいう長州力を見ると、確かに長州vs小川っていうのも面白いんだろうけど。

ガンツ　あれやるんだったら小川を倒してみなさいっていう気にもなりますよね。プロレスでいいと思うんですよ、ワンマッチで。

豪　試合はノーコンテストになってもいいから。

ガンツ　ちょうど10年前に前田vs長州戦が、タッグマッチですらああなったのと同じで、いま長州vs小川戦やったら、同じような感じになると思うんですけどね。

豪　第三者のリングを作って、長州とオーちゃんがやって、勝ったほうがヒクソンとやるっていうのがベストなんですよね。

山口　長州がそれだけ「強さを伝え」たいんだったら、長州vsヒクソンはありだよね。長州自ら出ていって。見たいしね、圧倒的に。チケットは飛ぶように売れるだろうな。

ガンツ　3試合契約で、あと2試合は若いモンにやらせられるとかなったら、絶対長州はやるでしょうね。

山口　ヒクソンはあと3試合もやらないだろ（笑）。でも、長州のほうが年上だもんな、ヒクソンより。「俺だって48歳だ！　俺より若いんだから、やれ！」って言ったら、侍の心は動くかもしれないよ。長州も、大仁田戦ではビジネス面で圧倒的な力を見せつけたわけだけど、ソフトの根本的な改革に手をつけないことに説得力を持たせるためにヒクソンとやるっていうのは夢があるよね。それをやったら、長州は、ホントに猪木さんを超えられるかもしれない。

豪　そういえば前田日明が、「小川がやって負けたら、俺が出る」って言ってましたよ（笑）。

山口　ガハハハ！　また？ 安住の地を求めないね、あの人も。安定を求める気持ちは人一倍強いんだろうけど、精神が旅から旅への連続だもんなぁ（笑）。

豪　いまだに“闘魂の火種”がくすぶりまくってますよ、前田日明には。

【8月某日・本誌編集部にて収録】

【おわび1】

前号Ｐ72に掲載した『ミスター高橋チュービング道場』でシュラッグとアップライトローイングの写真が入れ替わっておりました。関係者＆読者の皆様にお詫びし訂正いたします。次号では、高橋氏による新日道場話満載の『チュービング道場』最終回をお送りします。こうご期待！（中村）

【おわび2】

本誌前号Ｐ142に掲載した大森隆男選手と高山善廣選手の写真が入れ替わっていました。選手ならびに関係者、そして読者の皆様にお詫び申し上げます。　（坂井ノブ）

eb! enter brain

8/24～9/30
38日分 テレビ番組表

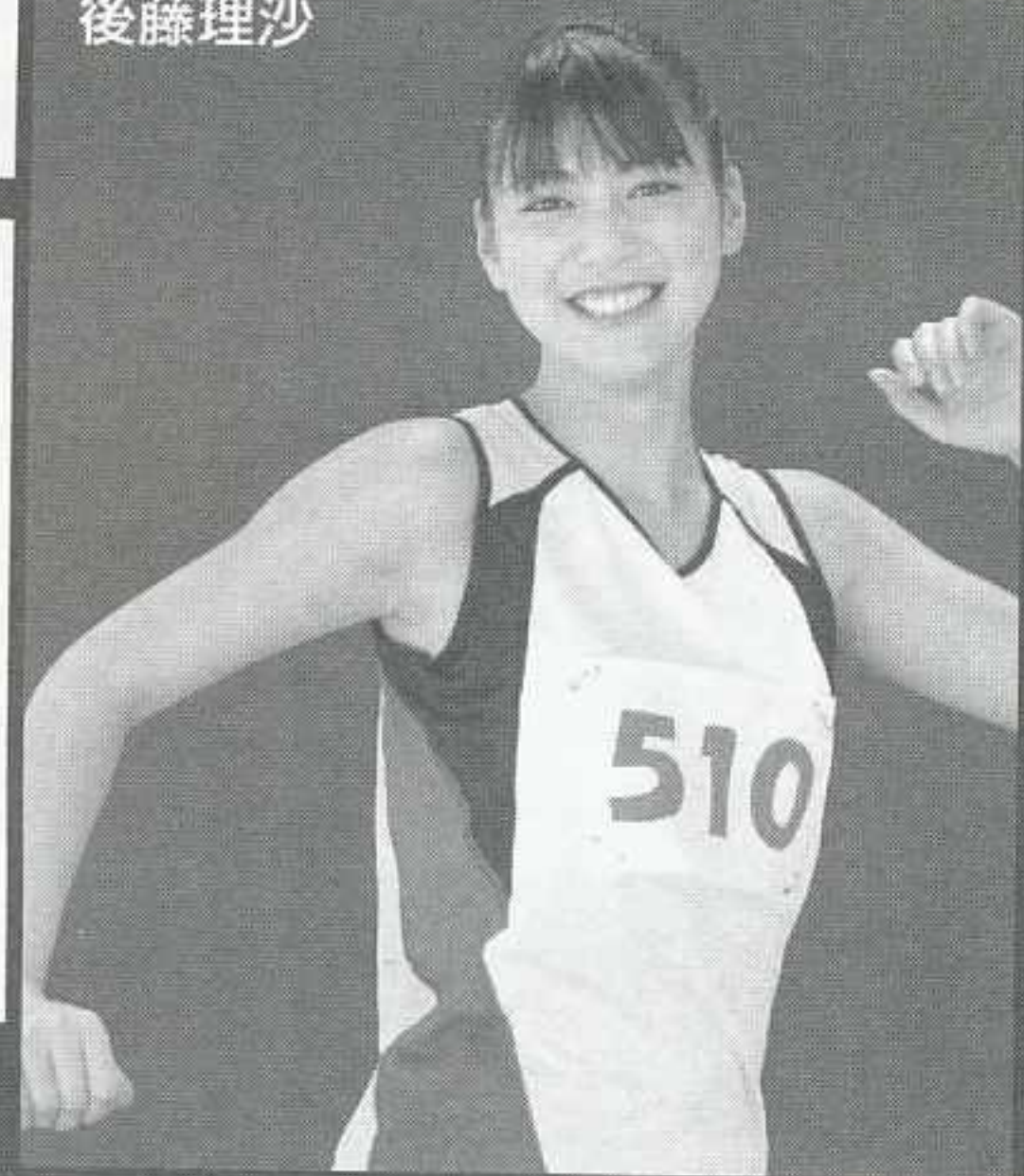
後藤理沙

読める! テレビ・エンタメ情報誌

TV チョップ!

月刊テレビチョップ

Vol.1
サラブレ10月号増刊

創刊 首都圏の書店・コンビニで好評発売中!! 480円(税込み)

メダル獲得の瞬間を見逃すな!

シドニー・オリンピック 徹底総力特集

全競技 番組ガイド付き

有森裕子インタビュー
「オリンピックとは何か?」

女子・競泳
史上最強布陣でメダル奪取もスイスイスイ!

9・24 女子マラソン
高橋尚子
はトップで帰ってくる!!

サッカー代表
のメダル獲得は"夢"でも"奇跡"でもない!?

柔道
"JUDO"の舞台で、"柔道"ニッポンの底力を見せてくれ!

●陸上男子100メートル ●女子1万メートル ●男子ハンマー投げ ●シンクロナイズドスイミング●野球●ソフトボール●バドミントン●体操●射撃●トランポリン●自転車(トラック)●重量挙げ●レスリング……

スポーツライター増島みどりが注目競技を渾身解説!!

全試合 見逃せない!!
よくわかる PRIDE.10 観戦ガイド

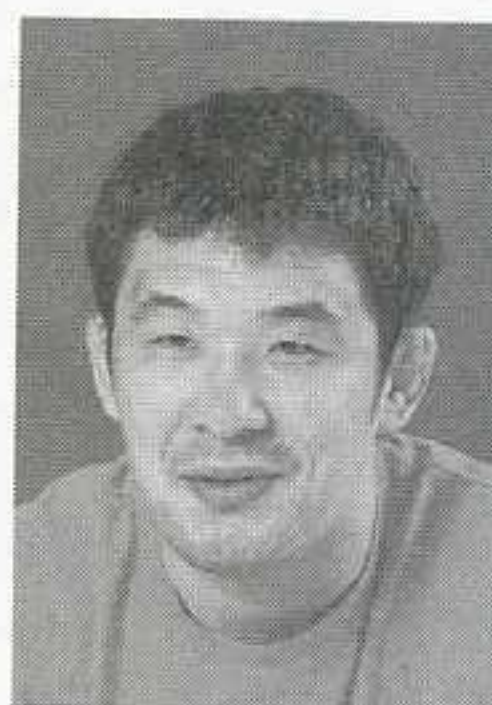
桜庭和志 さあヘンゾ戦! インタビュー敢行!!

新人女性アナウンサー名鑑2000

テレビでよく見る劇団系役者名鑑

名プロデューサーの肖像 山田良明

これが"笑い"の新世代だ!!

前代未聞の???映画 マルコヴィッチの穴

ジャパニーズR&Bって何だ!?

吉田豪 怒涛の20,000字インタビュー「男気万字固め」 第1回 山城新伍

「ハサミ男」著者 殊能将之 インタビュー

●ターザン山本「怒りの重大ニュース」
●えなりかずき「真実一路」
●田端到「NHKといっしょ」
●宮崎吐夢「"つくしてつや"だと思ってたあの頃…」

■品切れの際は書店にてご注文いただくか、通信販売をご利用下さい。
●通信販売のお問合せ先:株式会社アスキー イーシー 電話(03)5351-8202 http://www.famitsu.com/

〒154-8528 東京都世田谷区若林1-18-10 みかみビル 営業局 電話(03)5433-7850 株式会社エンターブレイン

集!!」

※NO.1～NO.4、NO.6～NO.8は完売しました!

紙のプロレスRADICAL Back Number Information

No.5
★すべてはここから始まった!
高田延彦ロングインタビュー
猪木、Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
ドン荒川vs藤原喜明超過激対談!
前田日明の「人生は語らず」
世界格闘技連盟を語りたおす!
佐山聡（タイガーキング）
長井満也／柳澤龍志／ディック東郷
愚乱・浪花／ザ・グレート・サスケ
長与千種／ライオネス飛鳥／ビクター・クルーガー
パンクラス旧合宿所誌上大公開!

「紙プロ記者列伝」その参
水戸泉（仮）
編集部で寝るくらいなら、始発で帰宅するマイホーム主義者。

No.9
★「アントニオ猪木・闘魂連鎖!無礼講大特集!!」
前田日明／ザ・グレート・サスケ
高田文夫／春一番／ターザン山本／石川雄規
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!座談会
見てみぃ、この面ッ!!
高阪剛ロングインタビュー
前田日明ラス前インタビュー&炸裂人生相談
日プロOB吉村道明&ユセフトルコ
&遠藤幸吉&駿河海
『格闘家からみたプロレス!』
朝日昇★谷津嘉章／佐野なおき
下田美馬&三田英津子

No.10
★特集「灼熱の地殻変動'98」
大和魂は連鎖する!!
前田日明vsエンセン井上スクープ対談!
とにかく元気!高田延彦ロングインタビュー
またも大爆発!
谷津嘉章インタビュー第2弾!
社長&会長対談・ザ・グレート・サスケVS松永高司
『紙のプレイボーイ』発進!!
ダイアナ&宮内美穂
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
『紙プロスーパースター列伝』北沢幹之
冬木弘道ロングインタビュー

No.11
★特集「格闘Viagra'98」
高田延彦vsエンセン井上
エネルギーエクスチェンジ烈談!!
前田日明ラストマッチ後初インタビュー
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評
「格闘か?芸術か?それとも格闘芸術か!?」
佐山聡／スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）
福田雅一
★ザ・グレート・カブキ／ダンプ松本
★バト両国進出記念石川雄規
トンパチ・マシンガンズ
★とうとう語られるSWSの真実
『S多重アリバイ』アポロ菅原

No.12
★特集「格闘TEPODON!!'98」
2度目のヒクソン戦直前!
高田延彦ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ!
祭り囃子を鳴らせ!!」浅草キッド
人気大炸裂!『S多重アリバイ』
第2弾アポロ菅原
★桜庭和志／アレクサンダー大塚
山本喧一／神取&北嶋／八木淳子
ダンプ松本／猪木イズム世界一決定戦
石川雄規&ザ・グレート・サスケ
格闘王から相談王へ前田日明『人生は語らず』
話題騒然!! What is プロ格闘家?
菊田早苗&郷野聡寛

No.13
★特集「四角いジャングルRADICAL」
実写版『1・2の三四郎』降臨!
アレクサンダー大塚インタビュー
『10・11 PRIDE.4』とは何か?
ザマアミロ雑談会!!
高田延彦がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
前田日明・エンセン井上が語る
『高田VSヒクソン戦!!』
谷津嘉章・島田裕二・浅草キッドが見た
『10・11 PRIDE.4』
大反響!『S多重アリバイ』第3弾
ケンドー・ナガサキ
★ボブ・バックランド／松永光弘
リッキー・フジ／堀辺正史

No.14
★特集「格闘DREAM CAST」
前田日明独占ロングインタビュー
これがカレリンの発した言葉だ!!
山本美憂・聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談
連勝街道爆進中!金原弘光
RADICAL版 ゆく年くる年座談会
谷津嘉章のマット界、目ぇつぶって30秒!!
『高田道場1999!』高田延彦／桜庭和志
佐野なおき／松井大二郎／大場健
『S多重トンパチ』第4弾 折原昌夫
★『虎の尾を踏む男たち'99』小路晃
4代目タイガーマスク／村上一成／宇野薫

No.15
★特集1「格闘MARS ATTACKS!」
橋本戦の核心を語る
小川直也with.S.Sインタビュー
佐山聡／4代目タイガーマスク
UFO襲撃緊急座談会
★特集2「格闘LAST VOYAGE」
前田日明USA特訓を直撃!
アレキサンダー・カレリン
浅草キッド／アニマル浜口親子
★ジャイアント馬場追悼特集
本誌初登場!SASUKE
『語ろうマサ・サイトー!』
『S多重アリバイ』2連発!
佐野なおき&Mr.W

No.16
★特集1「格闘ノストラダムス'99」
エンセン井上ロングインタビュー
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一
村上一成／マーク・コールマン
石川雄規／ザ・グレート・サスケ
★特集2「それぞれの旅立ち'99」
アントニオ猪木ロングインタビュー
前田日明引退後初の独占インタビュー
大好評!『語ろう』シリーズ第2弾!
『語ろうジャンボ鶴田』
『S多重アリバイ』第7弾石川孝志

No.17
★特集1「格闘MAKE JUNGLE」
UFO襲撃三昧小川直也インタビュー
桜庭和志／高田延彦／アントニオ猪木
豊永稔／マグナムTOKYO／池田大輔
宮戸優光
★特集2
「新生リングスBone&Blood」
前田日明／山本宜久／成瀬昌由
R・クートゥアー
★タイガー・戸口／矢口壹琅／『怪物通信』
「ターザン山本さん、目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

No.18
★特集「格闘STAR WARS」
カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
桜庭和志VIVAVIVAロングインタビュー
小川直也e-mailインタビュー／高田延彦
エンセン井上／イーゲン井上／小路晃&宇野薫
格闘STAR WARS座談会
★『S多重アリバイ』第8弾将軍KYワカマツ
『外人さん、いらっしゃ〜い』
F・シャムロック／G・グッドリッジ
R・グレイシー
『怪物通信』／G・アイブル
『闘魂猪木塾とは何か?』

No.19
★いま一度高田延彦を注視せよ!
マーク・ケアー戦直前高田延彦インタビュー
リングス、パンクラスにも咆吼三昧!!小川直也
マット界の今後を前田日明CEOが激白!
『紙プロスーパースター列伝』ドン荒川
佐山聡／エンセン井上／成瀬昌由
TARU with AYAKA／宇野薫
アレクサンダー大塚
『怪物通信』4連発!
M・ケアー&G・グッドリッジ&
E・F・ブラガ&G・メッツアー
上田馬之助／井上貴子／川口健次

No.20
★人間UFO吠えまくる!
小川直也インタビュー
独占!! 公開インタビュー前田日明
アレクサンダー大塚
高田延彦爆炎記者会見／佐山聡とは何か?
『語ろう藤波辰爾』／バス・ルッテン
『S多重アリバイ』第10弾ドン荒川
滑川康仁／カール・マレンコ／高阪剛
山本宜久／成瀬昌由／小路晃&宇野薫
ケビン・ヤマザキ／内藤恒仁
敗者『紙プロ』追放試合!
ジャイ子vsトイレの大西さん（仮）

No.21
★恐怖のプロレス大魔王降臨!
小川直也ロングインタビュー
『紙プロRADICAL』初登場じゃあ!
大仁田厚／前田日明総帥激白!
本誌独占!発見八木淳子
『S多重アリバイ』第11弾鶴見五郎
G・アイブル／R・フィエート
本誌先取りB・コーラー
桜庭和志IN青空プロレス道場
エンセン井上／山本喧一／高瀬大樹
アレクサンダー大塚／西村修
CIMA／田中健一／平直行
コーラ・パワーズ／本誌独占G・サスケ死す!

No.22
★サク、グレイシーに完勝この上なし!
桜庭和志ロングインタビュー
前田テロ事件サプライズ座談会
ヤマケン?…俺は逃げる!田村潔司
俺は逃げない!山本喧一
スモーノブ初土俵!大刀光
好評につき第2弾!田中健一／馳浩／小川直也
ゴールドバーグ／坂田亘／木村浩一郎／長井満也
池田大輔／B・コーラー&A・ウォリアー
佐藤耕平／渡辺千景
ヒクソン&ホイラー兄弟の
『ああ言えばこう言う録』

No.23
★道はどんなに厳しくとも笑いながら歩こうぜ!!
ホイス戦直前!高田延彦インタビュー
超異次元対談大仁田厚VSエンセン井上
つっぱれ大刀光
スモーノブがっぷり四つインタビュー佐々木嘉則
ヒクソン・グレイシー／W・ウィリアムス
ジャイアント馬場1周忌追悼座談会
レスラー生活10周年記念ザ・グレート・サスケ
★『リングス「KOK」大特集!』
襲撃事件後『紙プロ』初インタビュー前田日明
ヘンゾ・グレイシー他
刺青女多和田紗美／木口宣昭

No.24
★頭、打ちすぎたかアレク!!
アレクサンダー大塚
ロングインタビュー&1・30密着ドキュメント
『新プロレス』とは何か?緊急座談会
5・1ホイス狩りに王手!桜庭和志
グレイシー討伐を公約!田村潔司
VTの見方全て私が教えます!堀辺正史
『柔道多重アリバイ』守山竜介
KOK大予想大会!／中西百重
語ろう船木VSヒクソン座談会
『紙のプロレスAMERICAN』
ブチ抜き17ページWWF大特集
ザ・グレート・サスケ×矢追純一UFO対談

No.25
★『新プロレス』へ突き進めーッ! 格闘ロマン、続行ーッ!!
猪木イズムを携えた『思考する野獣』誕生ーッ!!
藤田和之ロングインタビュー
ヘンゾ討伐記念!田村潔司
アブダビ・KOK・田村の勝利を語り倒す!!前田日明
椎名基樹のいい日アブダビ紀行文!
『UWF』が立ち昇った座談会
4・7ゴールデンタイムで破壊王と激突! 小川直也
NOの特攻隊長、爆進!!村上一成
石川雄規&小路晃対談
ミスター高橋の新日本セキュリティボディーガード
アカデミー秩父合宿リポート

No.26
★「プロレス」を頼むゾーッ!! やっちゃってくれサク!!
桜庭和志炎のロングインタビュー
本誌独占!金無垢のロレックス贈呈式!!
前田日明&田村潔司
人間UFO、4·7ゴールデンタイムで破壊王を壊滅!!小川直也
『プロレススーパースター外伝』ミスター高橋
本誌独占!斎藤彰俊
遂に復活!クラッシュ2000／大仁田厚／エンセン井上
TAKAみちのく／山本宜久／村浜武洋
「4·7ドーム」&「格闘ドリームキャスト」座談会
女子総合格闘技ReMiXの全貌!

No.27
★「新プロレス」は連鎖する!
桜庭和志withサクラバマスク
ホイス完封記念インタビュー
ほ乳類最強の男藤田和之ド迫力に降臨!!
タムタム元気!田村潔司
大仁田厚vs馳浩ハイテンション対談
佐山聡vs田中健一師弟対談
G・アイブル／K・シャムロック
本誌独占第2弾!斎藤彰俊／格闘連鎖座談会
金原弘光／M・スペーヒー&R・アローナ&R・ババル
ホイス&ホリオン&エリオのその後／平直行／堀辺正史

No.28
★「格闘リンク」続行ーーッ!!
小川直也ロングインタビュー
前田日明、尾崎社長を暴行? or説教?
"事件"の胸中をド激白!
無差別対戦表明、咆吼!田村潔司
故・ジャンボ鶴田夫人、衝撃の真実を独白!
ヘンゾ・グレイシー／アラン・ゴエス／TKおかん
『紙プロスーパースター列伝』2連発!山崎一夫&仲野信市／旭道山／池田大輔
豊永稔／ミスター高橋／I元編集長『井上用語の基礎知識』
山口日昇のサブウェイ『格闘リンク』トーク

No.29
★「格闘環境」は刻一刻と激化する!
秋山準マット界の新エース初登場インタビュー
三沢光晴&ノア勢フル登場
丸藤正道&金丸義信
故・ジャンボ鶴田夫人感動の闘病秘話
『PRIDE10』の主役はこの男桜庭和志
村上一成の波瀾万丈人生／アントン／山本喧一
ホフマン&ツベト／TKおかん後編／大反響!
『紙プロスーパースター列伝』仲野信市後編
里村明衣子／I元編集長『井上用語の基礎知識』／
大仁田厚長州戦前最後の大仁田劇場

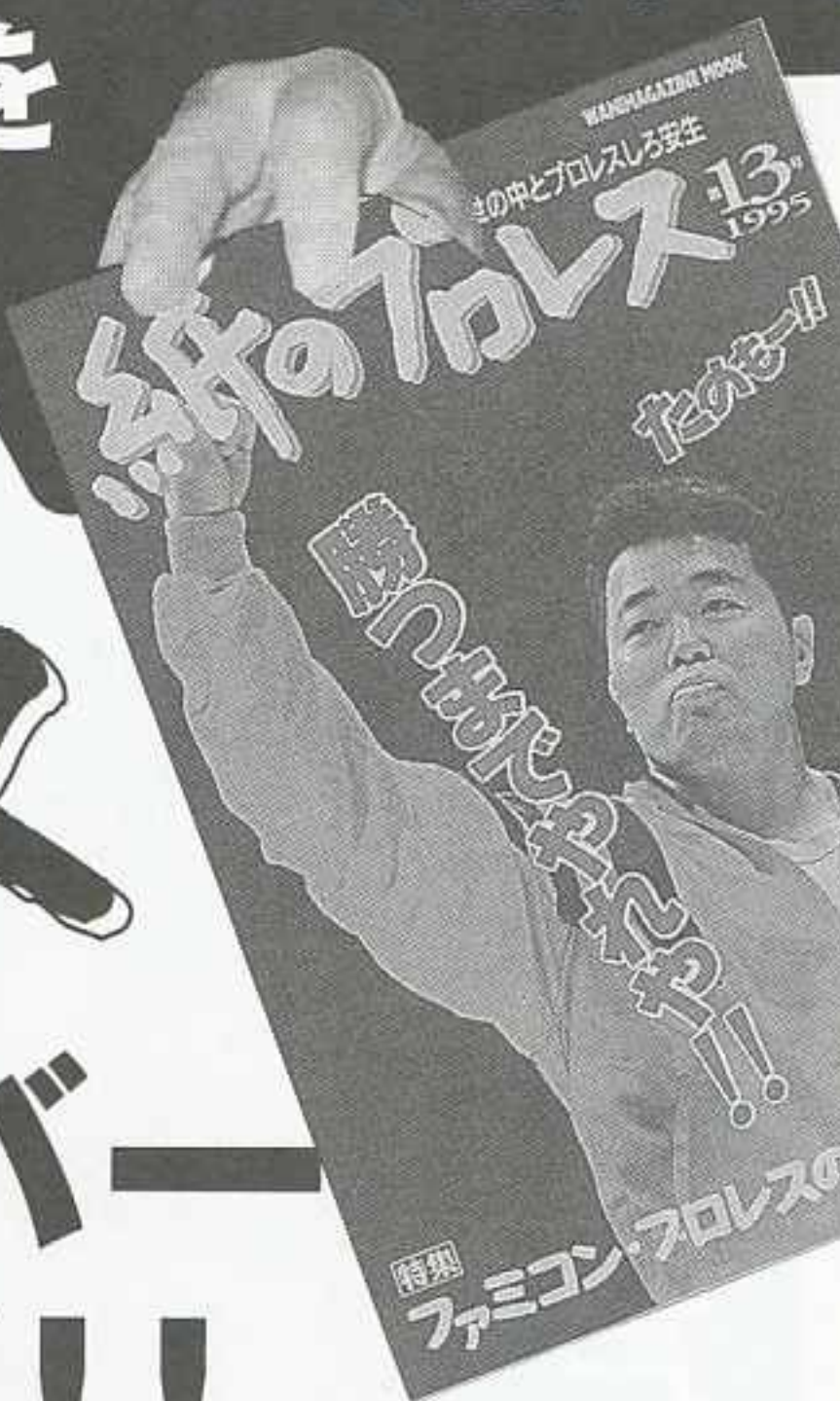
※NO.1〜NO.4、NO.6〜NO.8は完売しました!

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702(株)ダブルクロス「RADICAL通販」係まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130-3-769154（株）ダブルクロスまで。代金はNO.5〜NO.10＝680円 NO.11〜NO.19＝780円 NO.20＝880円 NO.21＝840円 NO.22〜NO.23＝880円 NO.24〜NO.29＝840円 送料1冊＝310円 2冊＝340円 3冊〜4冊＝450円 5冊＝520円 6冊以上＝700円
●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンビガロ・ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）

「オマエが父ちゃんのタマタマの中で精子だった頃から、俺はこの雑誌を読んでるぜ!!」(って、まだ9年目なんですけどー)

紙のプロレス ㊙読

本誌バックナンバーのお知らせだぜ!!

第5号
特集 たたかいグランプリ

特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男／ロングインタビュー馳浩／デビル雅美vs氏神一番／脅威の連載陣! 高田文夫、ナンシー関、浅草キッド

第8号
特集 さらば新日本プロレス

ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た

第11号
特集 狂気とは何か?

怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里／プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記

第12号
特集 色気とは何か?

村松友視が前田日明を語る!／「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会／蝶野正洋も登場!／色気王A・猪木も登場

第13号
特集 道場破りとは何か?

安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画 山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場

第14号
特集 神秘とは何か?

佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!

第15号
特集 インディペンデントの逆襲

インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー

第16号
特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的昭和新日総力検証
マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs田利徹対談

第17号
特集 実況パワフル北朝鮮

猪木×永島のナマハゲ対談(©大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」

第18号
特集 高田延彦さんへ愛をこめて

引退宣言の読み方座談会／サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!／新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!

第19号
特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー

第20号
特集 たたかいグランプリ

真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー／山口昇と東京シュガーベイブ結成記念 ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場

第21号
特集 幻的格闘技

古武道を通じてプロレスを考えよう! 前田日明も登場! スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場

第22号
特集 この人が喝っ!!

巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号

猪木とは何か?

スキャンダル[illegible]ていた時期の猪木を直撃! どうって[illegible]よ!／村松友視、立川談志、告発仕掛人・[illegible]が登場![illegible]のPKO発言を誌上再録

完売

パンクラス公式読本[矛]

97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載

パンクラス公式読本[盾]

97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!

極真とは何か?

不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー

紙の前田日明
インタビューという名のエネルギー史

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／完全保存版

伝説に触れたい人のための申込み方法

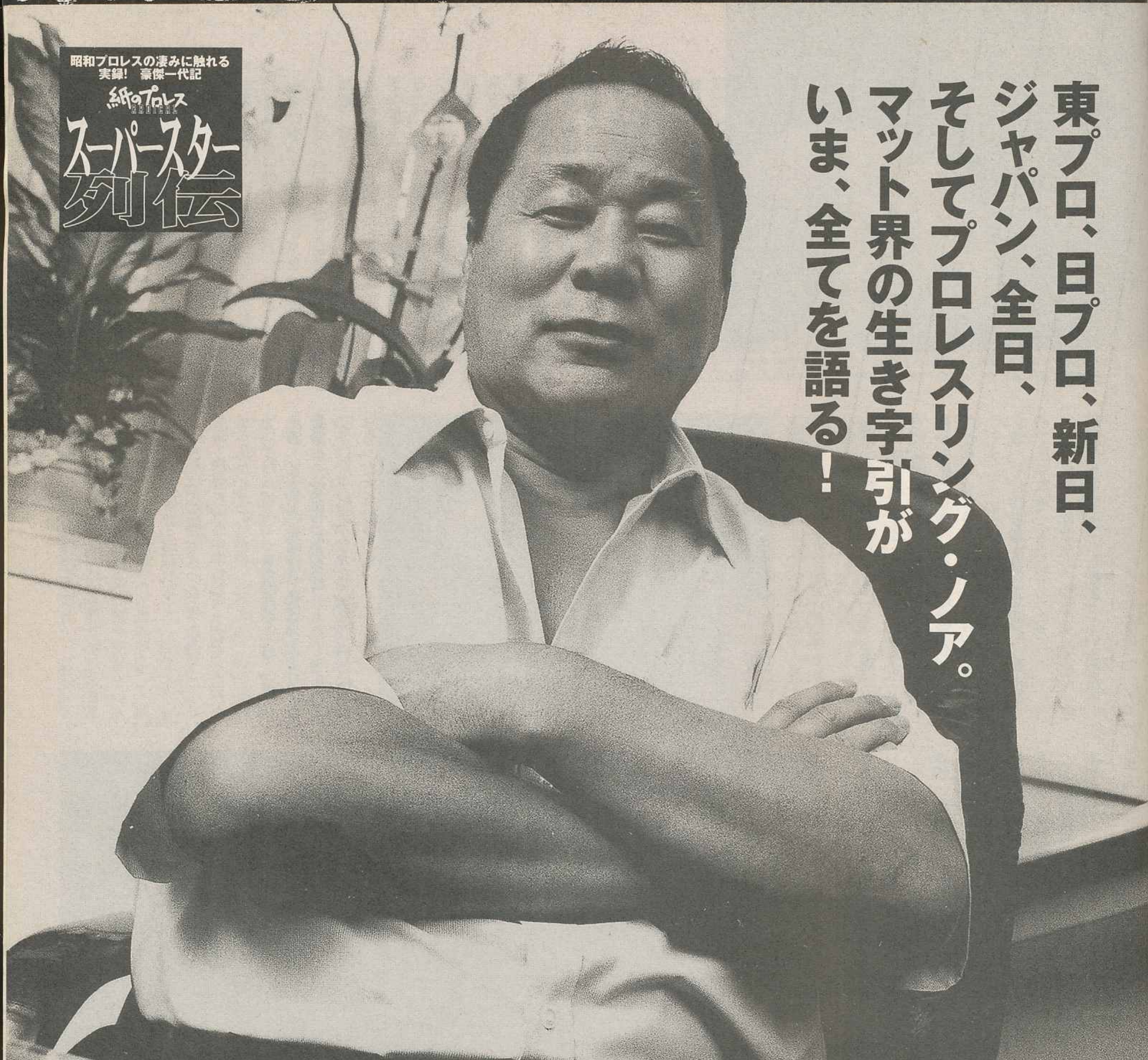
●現在は1号～4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』は完売しました。ノーダウト!! ●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号～22号は780円となります。 ●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。 ●送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります。 ●9号、10号、『猪木とは何か?』、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留送り先】
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで

【郵便振替振込先】
00130-3-769154 (株)ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。
※絶対おつりのないようにお願いします!

果たして、プロレスは

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

東プロ、日プロ、新日、ジャパン、全日、そしてプロレスリング・ノア。マット界の生き字引がいま、全てを語る！

永源遙【NOAH】前編

大盛況で旗揚げ戦を終えたノア。前売りチケットも約20分で完売するという大フィーバーぶりだったわけだが、これも取締役営業部長に就任した永源が手腕を発揮したからなのかもしれない。そこで、東プロ、日プロ、新日、ジャパン、全日、そしてプロレスリング・ノア。様々な団体を渡り歩いたマット界の生き字引、永源遙の激動の半生を2号連続でお届けしよう。営業兼レスラーとして、日々、激務をこなしている永源遙という男のレスラー渡世、そして営業の極意を感じとれ！

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida

撮影／モーリー
photographs by Morry

「オマエが父ちゃんのタマタマの中で精子だった頃から、俺はこの雑誌を

――いままで色々な選手をインタビューしてきたんですけど、誰に聞いても永源さんの話が出てくるんで、ボクの中で幻想が膨らんでるんですよ。

永源　そうですか（苦笑）。

――実際、永源さんはマット界の流れの要所要所に必ずいたわけじゃないですか。

永源　まあそうですね。でも、たまたまいるだけじゃないの？

――いや、それだけじゃないと思うんですよ。今回、全日本の分裂について（アントニオ）猪木さんがコメントしてたんですけど、「永源ってしたたかだなあ、大したもんだなあって（笑）。なかなか見習うものがあるよ。人生ってそのくらいしぶとくてもいいじゃない？」って、なぜか永源さんの話ばかりしてたんですよね（笑）。

永源　あぁ、『週プロ』かなんかの記事か。俺がしたたかだとかなんとか言ってるっていうのは聞いたよ。その言葉、3倍にして返したいね（笑）。

――ダハハハハ！　でもホントに永源さんの生き方には見習うべきところが非常に多いと思いますよ。

永源　まあでも、ウチの会社で猪木さんを知ってる選手は俺と（ラッシャー）木村さんぐらいしかいないからな。

――そう言われてみればそうですね。まずは、永源さんの相撲時代の話を聞きたいんですけど、入門は何年でしたっけ？

永源　（即座に）昭和41年！

――どういう契機で入ったんですか？

永源　契機も何も中学終わって行くとこがなかったからだよ。

――ダハハハハ！　単純明快ですね（笑）。

永源　まあその当時は、普通の人より少し身体が大きかったからね。1メートル73で68キロぐらいだったかな。まあ、いまはみんなもっと大きいけどね。

――「身体は頑丈だったけど頭は悪いから行くところがなかった」って自分では言われてるみたいですけど。

永源　あ～ん、頭は良くない。（突然、アントンTシャツを着ていた吉田豪に）いいシャツ着てんじゃねえか（笑）。

――すいません（笑）。相撲はスカウトだったんですか？

永源　自分から行ったのよ。俺はスカウトされるほど強くなかったからな。

――それで、実際入ってみてどうでしたか？

永源　いやもう、みんな身体大きいし、俺なんか稽古しても強くなれなかったからな。

――稽古は想像以上に厳しかったと？

永源　そりゃあ厳しかったよ。

――最高位はどこまでいったんですか？

永源　幕下！　幕下の37枚目ね。

――どうして相撲界を辞められることになったんですか？

永源　渋谷のリキパレスに2、3回、プロレスを見に行ったことがあったんだよ。それで蔵前国技館で力道山とグレート・アントニオの試合があってね、確か昭和36年の6月かな？　それを初めて見に行ったよ。

――そこで「これだ」って思ったんですね。

永源　それは思わなかったけど、凄えなぁって思ったね。

――それで、日本プロレスじゃなくて、東京プロレスを選ばれた理由っていうのは？

永源　それは、俺と柴田（勝久＝現・新日レフェリー）と寺西（勇）ね。その3人に、（ラッシャー）木村さんが新しい団体を作るっていうんで声が掛かったんだよ。

――東京プロレスに入ったのは豊登さんの関係なのかなと思ってたんですけどね。

永源　豊登さんは俺と同じ部屋で先輩だったけど、交流はなかったからね。

――入門自体は猪木さんより先だったんですよね。

永源　いや、猪木さんの方が早いんじゃねえの？

――でも最初、東京プロレスが伊東で合同合宿した時は、まだ猪木さんは入ってなかったみたいですけど。

永源　そうかそうか。若いのによく知ってんねぇ（しみじみと）。それで、少ししてから豊登さんが猪木さんを連れて来たんだよ。

――その新団体って、最初はどういう話だったんですか？

大盛況のノア旗揚げ2連戦。永源はカラフルな桜吹雪のタイツで登場し得意のツバ攻撃等で場内を沸かせた。木村のノア初マイクの標的は、やっぱり永源だった。

営業用にピッタリ?!
永源にキャデラック

☆…これは目立つ!!　この日、ノア・永源遙取締役営業部長に知人からキャデラックがプレゼントされた（写真）。

黒塗りのボディーには『プロレスリング・ノア　永源遙』の文字が走っており、営業用には最適？の声に、さすがのツバ大王もテレ笑いを浮かべるのみだった。

見てみ！　これが8月4日付の『東スポ』に掲載され、話題沸騰となったプロレスリング・ノア取締役営業部長の永源遙に知人から贈られたというキャデラックだ。黒塗りのボディーにはでっかく「プロレスリング・ノア永源遙」と入っており、これ以上ないほど目立つ仕様になっている。これで営業活動もバッチリであろう。

果たして、プロレスは

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

永源　いや、単に新団体作って選手がいないから来てくれっちゅう話だよ。誰が来るとか全然わからなかったしな。

——合同合宿では、トレーニング器具もないから、ひたすら山を走ったり、浜辺で受け身を取ったりしてたっていう話ですよね。

永源　そう。（感心して）よく知ってんなぁ。

——いや、調べてきましたから（笑）。それで、デビュー戦の相手はラッシャー木村さんなんですよね。

永源　そうそう。周りが何も見えなくてね。確か5分何秒かで終わったよ。

——やっぱり、相撲とプロレスの違いっていうのを感じたわけですか？

永源　そりゃ感じたよ。相撲はやっぱり瞬間的な力が非常に大事だからな。プロレスってのはコンディションを作るのが難しいんだよ。痩せすぎても太りすぎてもいけないし。観客の反応だって全然違うでしょ。

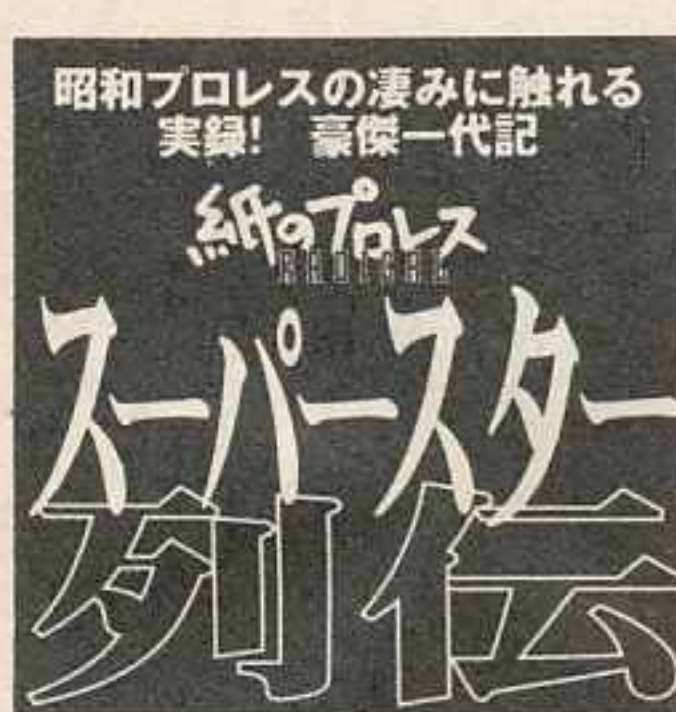
——プロレスの場合は観客を手のひらに乗せるというか。

永源　そんな器用なことはできねえけどな。

——ダハハハ！　そういえば、東京プロレスは、前座が凄いガチンコだったたっていう話を聞いたことがあるんですけど。

永源　ガチンコっていってもなぁ……意味がよくわかんねえけど、みんな一生懸命ルールにのっとって試合をやってましたよ。

——でもケンカまがいの凄い試合が多かったって聞きましたよ。

永源　そりゃあ……そういう試合も中にあったかもしれないけど、まあ、いまの若手の連中と変わらんですよ。

——そうなんですか（笑）。あと、東京プロレスっていえば板橋駅前広場大会でのリング焼き討ち事件っていうのもありましたよね。

永源　よく知ってんねぇ。俺もその後がどうなってるか見に行ったよ。

——でも凄いですよね。いきなり入門早々スキャンダルに巻き込まれて（笑）。

永源　いろいろありましたねぇ（しみじみと）。たったの1年間だけどね。だって、こっちは何も分からないでしょう。それまで相撲やってたわけだからね。ただ「ハイハイ」言ってるだけだったよ。

——いきなり当時のトップ同士の猪木さんと豊登さんが告訴合戦始めたりとかしましたもんね。何が何だかって感じですよね（笑）。

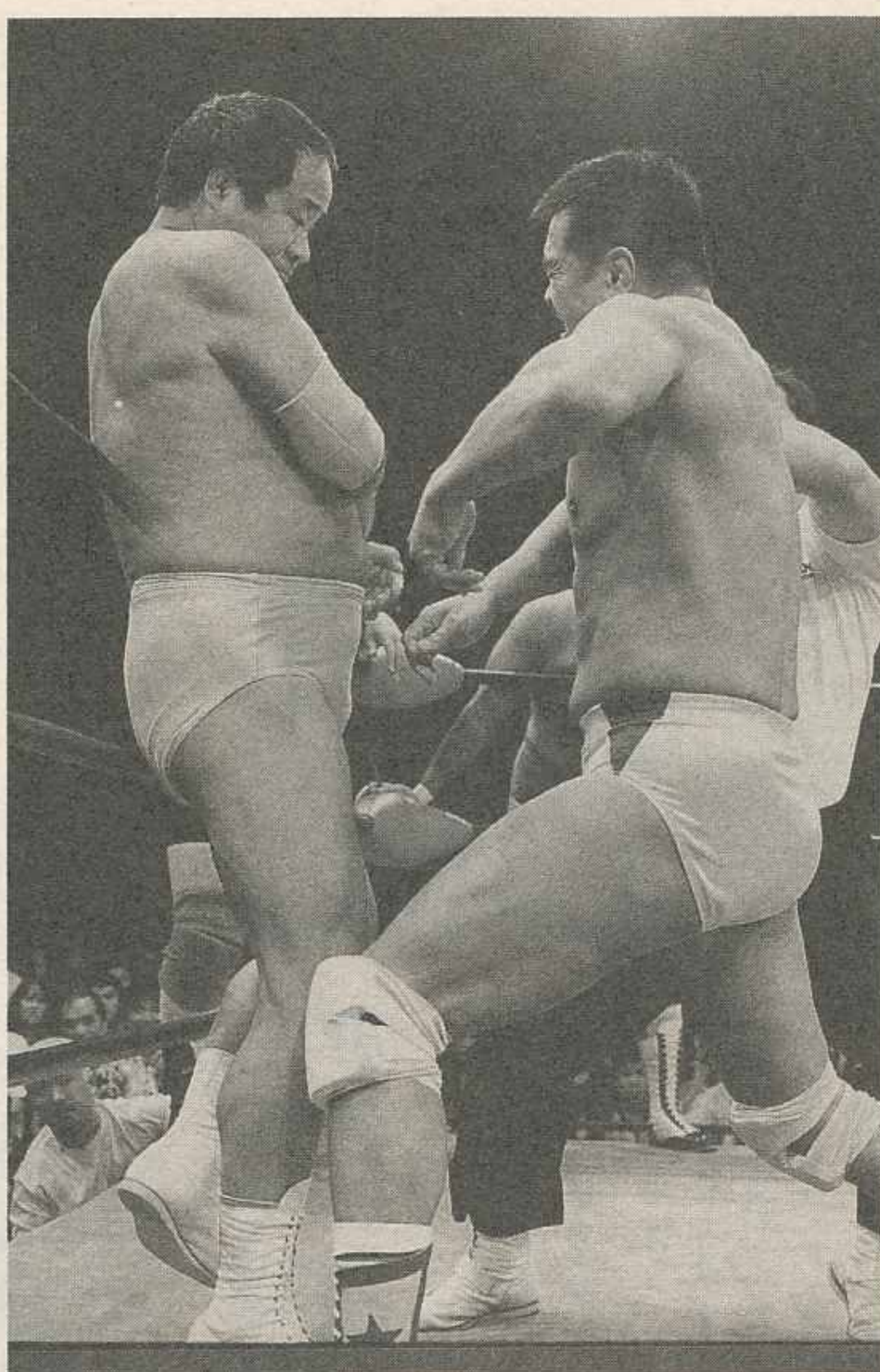
永源　そんなこともあったねぇ。もうわかんねえよ（苦笑）。結構、『東スポ』の一面になってたけど、1年で消滅だからね。

——その割には濃密ですよね（笑）。ところで、当時の道場でのプロレスの練習はどうだったんですか？　以前にも相撲で厳しい練習を積んできたわけですけど。

永源　やっぱり根本的に練習方法が全然違うからね。相撲は短時間だけど、プロレスは長いからな。まあどっちもハードですよ。いまの全日本だって、4～50人新弟子が入ってきても残るのは1人か2人じゃない？　だから、見るのとやるのは大違いですよ。

——プロレスラーの凄さを実感したりとかはありましたか？

永源　いやぁ、別になにもないな（あっさり）。

猪木さんが俺のこと、したたかだって？　その言葉3倍にして返したいね（笑）

99年の9月18日、後楽園で行われたファン感謝デー。6人タッグで馳組と対戦した永源。馳自身は既に決めているというが、馳衆議院議員が次に上がるリングはどこだ？

——あ、そうですか（笑）。

永源　でもみんな凄いなって思いますよ。昔の選手とか見てもさ。まあリング内だけじゃなくてね（苦笑）。

——えっ、それはどういうことですか？

永源　まあそりゃあ色々あんだよ（笑）。

——わかりました（笑）。それで、猪木さんが日プロに復帰する時に、永源さんも同行することになるわけですけど、それはやっぱり東プロでデビューした問題はなかったってことなんですか。

永源　そうだね。だって10人ぐらい選手がいて、魁勝司（北沢幹之）って選手がいたでしょ？　日本プロレス時代は高崎山猿吉っていったんだけど（笑）。あの人と行ったんだよ。別に俺も「入れてくれ」って言ったわけじゃないけど、猪木さんが俺と高崎山を連れて行くって言ったからね。確か、昭和42年の6月だったかな。それで札幌から滝川ってとこ行ったんだけど、そこで（マシオ）駒さんと日本プロレスのデビュー戦をやったんだよ。

——そこで猪木さんが永源さんを選んだところに幻想を感じるんですよ。

永源　それはどうかわからないけど、呼ばれたことには感謝してますよ。

——途中から入ったことで、他の若手選手からのジェラシーとかは感じませんでしたか？

永源　それはわからないけど、当時は（ザ・グレート・）カブキ選手とよく比較されてたよ。でも、最終的にカブキ選手は上の方に行ったけど、俺はずっと平行線だったからね（笑）。

——平行線ですか（笑）。カブキさんは昔から器用だって言われてましたよね。

永源　彼はもう入ってすぐから結構強かったし、技も切れるし、なかなか顔も良かったからね。いい選手でしたよ。

——当時のライバル的な存在っていうとカブキさんになるわけですか？

永源　やっぱりねぇ、三日に一回は試合してたからね。だから、たまに俺も調子よくて向こうが調子悪い時に両者リングアウトになったぐらいで、勝ったことはないんじゃないかな。強かったですよ。

——でも、永源さんて道場で凄い強いイメージがあるんですよ。

永源　いやいや、俺は強くないよ。

——でも、相撲対決とかやれば負けない自信はあったわけですよね。

永源　相撲ったって、日プロ道場には強い奴いたし、十両クラスの選手もいたから。ケンドー（・ナガサキ）とかな、結構多かっ

「オマエが父ちゃんのタマタマの中で精子だった頃から、俺はこの雑誌を

たんだよ。リングの上でマワシ付けて相撲取ったこともありますよ。

──その頃、日本プロレスは（カール・）ゴッチさんをコーチに招いてたんですよね。

永源　そうそう、ゴッチね。

──永源さんから見て、ゴッチさんのコーチぶりはどうでした？

永源　でも1時間半から2時間ぐらいでパパーッと練習は終わったからね。

──関節技っていう概念が入ったのはその時ぐらいからって言われてますよね。

永源　以前からあったにはあったけど、特に強くなったのはその時期だったねぇ。でも俺はキツくてなかなか付いていけなかったよ。瞬間的な力はあっても、長くねちっこくいく力はなかったような気がするなぁ。

──でも、永源さんはなかなか極められなさそうな気がしますけどね。

永源　あの当時の身体はずんぐりむっくりしてたからね。そういう選手にはなかなか極まんないですよ。だから、あの（ドン）荒川なんかみたいなタイプは背が低くて声も大きいから（笑）、つかみようがなくてなかなか相手も極められないんですよ。

──ゴッチさんも荒川さんは極められなかったみたいですからね。

永源　なんで知ってるの？

──荒川さん本人から聞きました（笑）。

永源　自分で言っちゃダメだよなあ（笑）。まあでも、荒川なんかがカメになったら身体を持ちようがないからね。

──カメになったら最強っていう（笑）。永源さんにもそういうイメージがありますけどね。

永源　いやいや、俺はそんなことないよ。

──そんなことないですか（笑）。日本プロレスの水は永源さんに合ってたわけですか？

永源　結構合ってたかもしれないな。でもね、俺は46年の1月にアメリカ行ったんだよね。ちょうど俺が八王子でゴルフやってたら電話がきたんだよ。「オラッ、永源！　夜の飛行機でアメリカ行くから帰ってこい」って（笑）。

──そんな唐突だったんですか（笑）。

永源　そういう感じだったよ。

──ゴルフ場からアメリカに直行（笑）。でも、なんでそんな唐突に遠征が決まったんですかね。

永源　いやぁ～、だから、ビザが下りたから、向こうが「すぐ来い！」って言ってきただけでしょう。

──それだけ会社がゴタゴタしてたっていうのもあったんですかね。馬場さんと猪木さんが抜けたっていうことで。

永源　いやぁ～、どうだったかなぁ。確かに馬場さんが会社出た頃じゃねえかなぁ。だって、俺と安達（勝治＝ミスター・ヒト）さんが日本帰ってきたら、もう行き場所がないなんて話してたんだから。

──ちょうど揺れてた時期だったんですね。

永源　あれは48年の夏だったかな？　確か馬場さんはもういなかったな。猪木さんと坂口（征二）さんはいたけどね。

──日本プロレスが揺れてた時期は永源さんはどう考えてたんですか？

永源　あんまり神経質に深く考えてなかったよ。だってそんな時期に言われてハイハイってアメリカ行くバカなんかいないでしょ。

──そうですね（笑）。

永源　だから少し行って帰って来ようって思ってたから。でも俺は向こうでドライバーライセンスを取ったんだよ。車の免許ね。

──アメリカでですか？

永源　そうそう。日本では俺頭悪いもんだから、仮免受けに行ったんだけど、11人受けて2人落っこったんだよ。それが俺と新日本の●●●●さんの奥さん（笑）。

──ダハハハハ！　●●さんの奥さんですか（笑）。

永源　だから行かなくなったんだよ。それで、アメリカ行って免許取ろうと思ったんだよ。でもプロモーターに「金出すから免許証貸して」って言ったらダメだって（笑）。じゃあ、どうしようかなって思ってたら、俺の知ってるレフェリーの友達に教習所の先生がいたんだよ。俺と安達さんで、その先生が来たらコーラとかサイン持ってってゴマすってね（笑）。

──ダハハハハ！

永源　それで俺が「免許、取りたいんですけど」って言ったら「オッケーオッケー」って言うからね。でも俺は心配しながら教習所に行ったんだけど、当時のアメリカは、この建物ぐらいの所をグルッて一周したらオッケーだったんだよ（笑）。

──そんないい加減だったんですか（笑）。

永源　それで向こうも「オッケーオッケー」でさ。なんか、スクールバスが来たらどうするとかボタンを押す試験があるんだよ。それでも先生は「ハイハイ、オッケー！」って。そんなもんだよ（笑）。

──ダハハハハ！

永源　それで当時の3ドルでオッケーだったの。

──3ドルですか！　その辺が猪木さん言うところの「永源はたいしたもんだ」ってことですね(笑)。

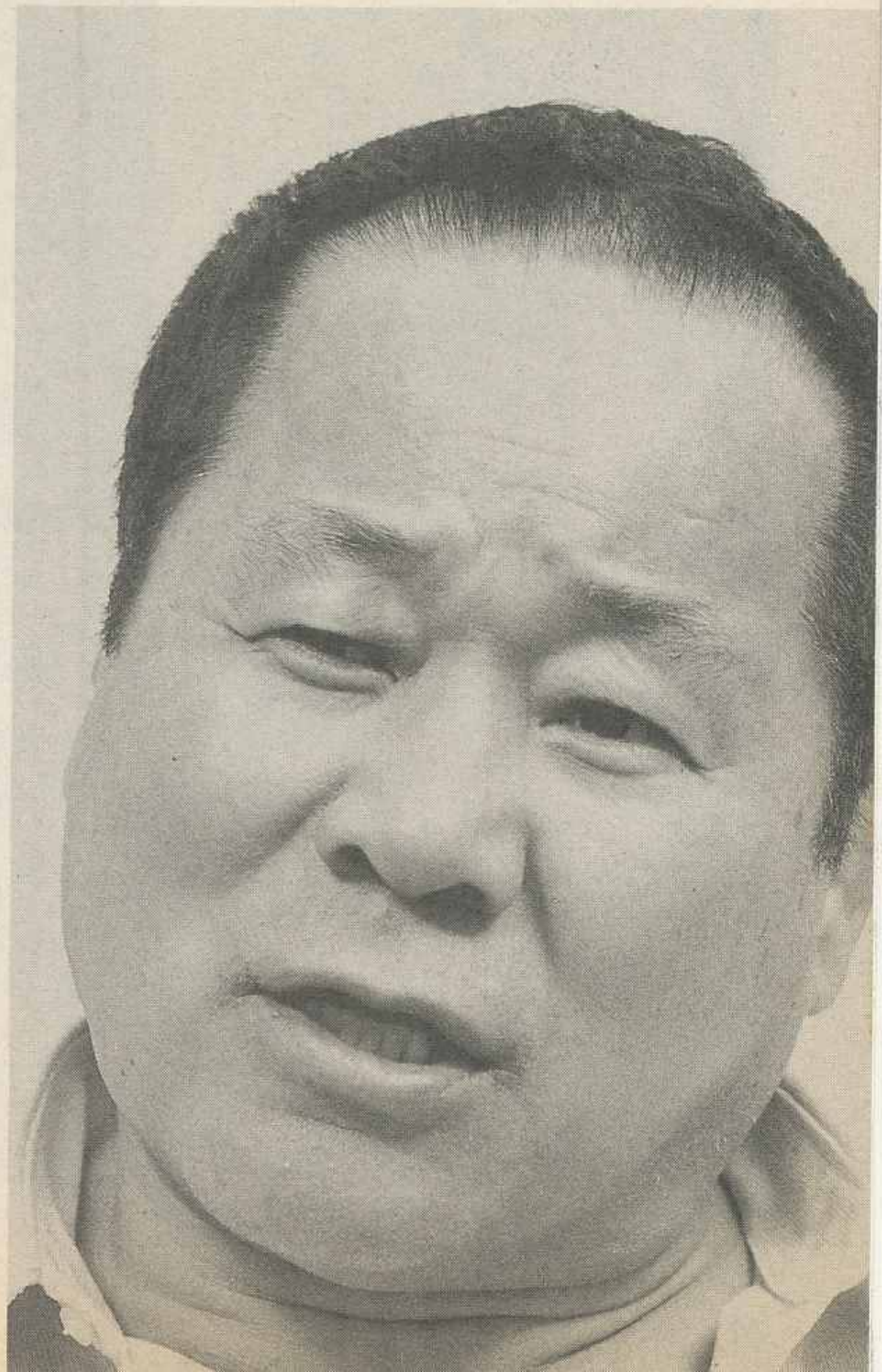
永源　ホントはダメなんだけど、そこはうまくね。だって英語わかんないけど免許欲しいしさぁ。地元のプロモーターに免許買いたいって言ってもダメだって言われたから。やっぱりその先生がプロレス好きだったのが良かったね。だからコーラとかジュースを子供に持ってってね。子供に物あげりゃ親は喜ぶんだから！　それで、ホントに次からは「オッケーオッケー」ってなったよ（笑）。

──その辺に永源イズムを感じますねぇ(笑)。

永源　だって、こっちはＡＢＣしかわからなくて、自分の名前も書けないんだから。

──「永源」も書けなかったんですか？(笑)。

日本では横綱になれなかったから、アメリカで土俵入りしてきたよ

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

果たして、プロレスは

永源　まあ、それぐらいは書けたけどな（笑）。でも免許取れた時は嬉しくて「バンザーイ」ってしたよ。ただ日本で免許切りかえる時に心配でねぇ。ちゃんと日本の免許に切り替わったけどさ。

──凄い時代だったんですねぇ（笑）。

永源　アメリカもいろんな意味で、いまとは違ってたんだろうな。

──そういえば、その時代に「グレート・トーゴー」っていう名前で試合されてたんですよね。

永源　行ったらもう名前が決まってたから。グレート・トーゴーと、安達さんがやってたトーキョー・ジョーでタッグ組んでね。アメリカは面白かったねぇ（しみじみと）。（唐突に）一回ね、日本食が食いたくて探したんだけど、どうしてもないんだよ。そしたらたまたま韓国の食材を売ってる店があったわけ。そこでキムチがいっぱい売ってて、嬉しくてふたりで棒担いで買ってったよ（笑）。

──ダハハハハ！　篭屋みたいに（笑）。

永源　それで多く買いすぎて、一週間もしないうちに3分の2ぐらい捨てちゃったもん。

──買いすぎちゃいましたか(笑)。

永源　でも、あの頃の1年って面白かったよ。いまとはちょっと時代が違うけどな。

──安達さんと相当ムチャしたっていう伝説が流れてますよね。

永源　ホントにムチャしたねぇ。

──テレビのインタビューとかでも、英語がわかんないから日本語で「あそこのト●コが良かった」とか、適当なことばっかり言ってたみたいですね（笑）。

永源　なんでそこまで知ってんだよ！（笑）。それで当時ね、安達さんに3歳ぐらいの娘がいたんだけど、それ聞いて「お母さん、ト●コってなあに？」なんて聞いてたっていうからな（笑）。

──日本人が聞いたらビックリしますよね。

永源　アメリカでは、ふたりでやってたんだけど、マネージャーがひとりいたんですよ。これが顔も性格ももの凄く悪くてねぇ、よくプロモーターに文句言われてさあ。いつも3人で移動してたんだけど、あんまり性格が悪いから腹立っててさ。そいつはコーヒーが好きで、よく飲んでたんだけど、そいつがちょっとトイレに行って席を離れてる時に、安達さんが「おっさんおっさん、ちょっとコーヒーの中にションベン入れようよ」って言ってきて（笑）。

──やっぱり(笑)。

永源　でも味が変わるとバレるから、少しだけ入れてな。そしたらそれ飲んでさぁ。あれはふたりで笑ったよぉ(笑)。

──そういうムチャをしてたんですね。

永源　あとは、向こうは控室が大きいでしょ。そこでトイレットペーパーを相撲のマワシみたいに付けてね、ふたりでぶつかり稽古してたんだよ。ふたりとも相撲出身だから「ダーン！　ダーン！」って、もの凄い音が出るんだよ。それで、でっかい黒人の選手

全日マットで一世を風靡した悪役商会。今は亡き大熊元司と、分裂後、川田利明とともに全日に残り、先日は新日のリングに乗り込んだ渕正信。今となっては幻のタッグである。

とかに「押せっ！」って言ってやらせるんだけど、俺たちのことを押せないんだよ。あくる日から態度が全く変わったよ。

──ダハハハハ！　とんでもないハッタリをかましたわけですね（笑）。

永源　うん。そんなとこでぶつかり稽古する奴なんていないでしょ。

──とにかくナメられちゃいけないと。

永源　そうそう。アメリカはそういうのがあるからね。だから、1回なんかでガーッとやっとけばいいんだよ。

──あと、ミステリアスなイメージを出すために針突き刺したりしたとかやってたみたいですね。

永源　でも、それはあんまり良くなかったなぁ（あっさりと）。あとね、俺は日本では横綱になれなかったから、アメリカのリングで土俵入りしてきたんだよ。マネージャーが露払いで安達さんが太刀持ちで。向こうの客は全然わかんないんだけどね。

──ダハハハハ！　その当時のコスチュームは山伏の格好だったんですよね。

永源　そうそう。なんで知ってんの？　でも最初の2ヶ月ぐらいだけだよ。あとはあんまりしなかったけどね。

──でもそれだけキャラも立ってるし、強さも見えたから向こうでタッグ王座も取れたんでしょうね。

永源　まあそうだね。もう死んじゃったけど、日系レスラーのキンジ渋谷っていたでしょ。「あなたたちはいくら貰ってんの？　えっ、そんなに貰ってんの」って言われたこともあったしね。まあいろいろと楽しかったですよ（しみじみと）。

──完全にヒールだったんですか？

永源　まあそういう形の試合だったね。顔はどっから見ても善人なのにな（笑）。

──ダハハハハ！　でも、当時アメリカでヒールやるのは大変だったんじゃないですか？　よりによって「グレート・トーゴー」なんて名乗ってるし（笑）。

永源　だから、試合が終わったらほっかむりしてそ～っと帰ってきたよ。向こうの客は興奮すると石ぶつけてきたり、コップにションベン入れて投げつけるんだよ（苦笑）。最初はなんか変な臭いすんなあと思ったら、外人がどうも「ピス」なんて言っててさ。あれにはまいったよ（苦笑）。

──あっ、その頃は「ピス」とかもわかるようになってたと（笑）。

永源　少～しな（笑）。でも女の子とかと話が通じないもん（残念そうに）。

──安達さんは結構、英語は話せそうですよね。

永源　いや、俺といい勝負だったよ。奥さんが来た時は結構しゃべってたけどな。当時住んでたところは3部屋あったんだけど、俺が一番奥に座って、それで退屈だったから、コンドーム膨らまして安達さんの子供と遊んでたんだよ（笑）。子供だからなんだかわかんなくて、それを一生懸命しゃぶってるんだよ(笑)、女の子が。

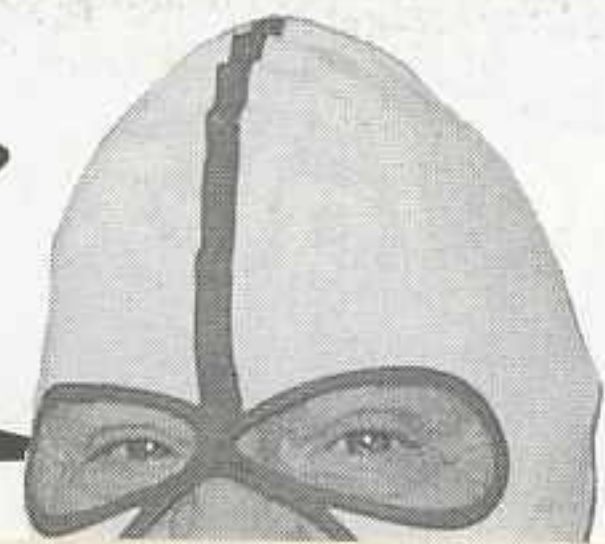
──ダハハハ！　それは教育上よろしくないですね。

永源　でも、何もわからないからね。

──そういえば、その頃って素人の挑戦を受けたりとかよくあったっていいますよね。

永源　田舎で一回あって「リングに上がってこい！」って言ったんだけど、上がってこなかったね。だってその頃は一番元気だったから！　当時の写真とか見ればわかるけどパンパンだったもん。体重も120キロぐらいあったしね。

──その頃は誰が来ても自信があったんですね。当時、こいつは強いなって思った人はいますか？

「オマエが父ちゃんのタマタマの中で精子だった頃から、俺はこの雑誌を

永源　やっぱりボボ・ブラジルは強かったねぇ。あとはハーリー・レイスとかな。

——ハーリー・レイスは裏話とか聞いてもホントに怖かったんだなって思いますよ。

永源　ハーリー・レイスはホント怖かったよ。レイスは本物のアウトローだからね。ポルシェかなんかで200キロ以上でカッ飛ばしてたから。一緒に乗ってて2回ぐらい警察のお世話になったよ。ハーリー・レイスはすぐウワーッて熱くなるからね。

——ハーリー・レイスがいたばかりに警察のお世話になったと(笑)。でも、レイスはレスラーとモメたりすると、車でガンガン追い詰めたりしてたみたいですからね。

永源　ハーリー・レイスはホントにみんな怖がってたね。だから「俺は強いんだよ」って粋がってる奴がいると、控室でピストル持って構えてたってよく聞いたよ。

——うわっ、ピストルですか!

永源　でも、あの当時は俺なんかもよく（ピストル）撃ってたよ（あっさりと）。

——えっ、そうなんですか(笑)。

永源　うん。看板に向かってだけどね（笑）。

——走りながらですか。

永源　いやいや、当たらないから止まってだよ（笑）。

——あ、あんまりうまくなかったんですね（笑）。やっぱりその当時は酒飲んでケンカしてって感じだったんですか?

永源　いや、酒はあんまり飲まなかったけどね。でも楽しかったなぁ（しみじみと）。

——アメリカは居心地が良くて日本には帰りたくなかったと?

永源　いや、やっぱり日本がいいですよ。

——日本には帰りたいけど、どの団体に行っていいかわからないっていう状態が続いたわけですね。

永源　いや、でも「帰って来い」「いいですよ」って淡々としてましたよ。安達さんは帰らなかったんだけど。

——坂口さんが先に新日に入ってから永源さんは戻ってきたんですよね。

永源　そうそう。48年4月から猪木さんと坂口さんがふたりでやって、それで10月に俺が帰ってきたんだよ。

——最初、猪木さんが新日本を作るって言った時、永源さんはどう思ったんですか?

永源　日プロ時代にみんなで行こうって話してたんだけど、フタ開けたら誰もこなかったんだよ。

——山本（小鉄）さんと藤波（辰爾）さんと……。

永源　あとは木戸（修）とかな。

——じゃあ、永源さんも行こうって言われてたんですか?

永源　いやあ、それは言われてないけど、みんなが動くんだったら行こうかなって。

——そしたら誰も動かなかったと（笑）。

永源　だから、「お前、猪木に世話になってるのにいいのか?」とか言われた記憶はあるよ。まあでも、俺が新日に戻った時は、みんな快く思ってなかったと思うよ。口には出さないけど。

——でもボクの中では、新日の道場では居心地良さそうなイメージがあるんですけど。

永源　道場はねぇ、毎日女の子が来てたからね。女の子かわいがってたら居心地はいいだろう（笑）。

——ダハハハハ!

永源　高田（延彦）とか前田（日明）とか藤波がいたから、土日になると女の子100人ぐらいいたからな。

——うわ~。そういう子をからかってたんですね(笑)。

永源　からかって、荒川とふたりで、どっか遊びに行ったりとかしてたなぁ（笑）。

——一番元気だった頃ですね（笑）。

永源　（可愛らしく）だって、その頃まだ20代だもん!

——ダハハハハ!　その頃の新日道場って、話しを聞くとみんな楽しそうですよね。

永源　練習はつらかったけど、その後がね。

——よく食べよく飲みよく遊び（笑）。

永源　俺は半年ぐらいしかいなかったけど、女からの電話は全部切ってたんだよ（笑）。

——ダハハハ!　誰々に取り次いでっていう電話ですね（笑）。

永源　そうそう（笑）。

——その当時、馬が合ったっていうのは、やっぱり荒川さんですか?

永源　みんな仲良かったけど、まあ荒川はよく引っ張っていったよ。あいつは結婚式行っても葬式行っても同じだから。みんなお祭りだもん。

——ふたりがスイングするのは凄いわかりますよね。

永源　荒川もハワイで馬場さんとメシ食ったりしてたからね。

——それは聞いたことありますね。その当時から荒川さんとの名勝負が始まるわけですね。

永源　あれは名勝負じゃないでしょう（笑）。ただ試合数が多かったっていうだけですよ。

——でも、当時の新日の試合を覆すようなショーアップされた試合をしてたわけですよね。

永源　まあそれはそうだね。あの頃、後楽園とかで荒川が試合すると異常に沸いた時期があったからな。荒川はおだてられると乗るからね。

——当時は凄かったですよね。「笑っていいとも」とか「（オレたち）ひょうきん族」にも出てましたから。

永源　試合やってたからね。レフェリーも1回やったかな。

——でもレスラー同士の試合がバラエティ番組で流れるなんて奇跡ですよね。

永源　それを山田邦子とかも煎餅食いながら見てたよ。出演料は5万円だったかなぁ（笑）。

——でも、その頃のおふたりの試合を見てると、ショーアップされながらでも、絶対に観客にナメられないような凄みを感じさせてたじゃないですか。

永源　それはそうですよ。「凄いな」って思わせる部分はあったよ。それがないと絶対に盛り上がらないから。荒川だってやっぱり技術もあるし力も凄いからね。

——強いんだろうなって思わせる人が、そういうことをやってるっていうことに意味があると思うんですよね。

永源　でもね、彼はやっぱり、かなりオッチョコチョイですよ。巡業中におひついっぱいメシ食って、味噌汁バケツ一杯飲んで、三杯吐いてたりしてたんだから（笑）。

——金が賭かればなんでもやるっていう（笑）。

永源　（感心して）よく知ってるねぇ。彼は金には弱いから。酒1升18秒で飲んでたよ（笑）。それでバスの中でバケツ持って「ハァハァ」って。それは猪木さんも公認だったからね。「お前、今日は試合しなくてい

前回の仲野インタビューでもその話は出てきたが、80年代マット界を激震させたのが維新軍の新日本離脱である。騒動の真っ直中にいた永源の「最初は藤波も来るはずだったんだよ」などのお話は次号までお預け。

果たして、プロレスは

いよ」って。
――そういうムチャが通じるっていうのが凄いですよね。
永源　当時はそういう時代だったからね。
――永源さんはそういうことはしなかったんですか？
永源　それに近いことはあったけどな。
――あっ、近いことはあったんですね（笑）。一緒に金賭けてなんかやったりしてたんですか？
永源　金くれれば冬でも海に飛び込んでたよ（笑）。金くれたらだよ！（笑）。
――金くれたらですか（笑）。新日本の道場時代の話をもう少し聞きたいんですけど、ケンカもよくあったみたいですよね。
永源　前田がよく暴れてたんだよな。あれは酒癖悪いからな。前田は飲むとホント危ないよ。包丁持って暴れるんだから（笑）。
――（ミスター）高橋さんの手を一回出刃包丁で刺したんですよね（笑）。
永源　えっ、そうなの？
――聞いたことありますよ。でも、そういう時に永源さんは逃げるんですか？
永源　いや、逃げはしないけどさ。だって庖丁持って暴れられたら誰だって嫌だろ？
――それは近づきたくないですよね（笑）。その頃の試合の話で、猪木さんが海外遠征でパキスタンとかに行った時も永源さんは一緒に行ってるじゃないですか。そこで永源さんが選ばれてることで、また幻想が膨らむんですよ。
永源　俺なんかハッキリ言って弾よけですよ。まあ弾は飛んでこないけどな（笑）。
――猪木さんの用心棒として連れて行かれたんですよね。
永源　そうそう、そんな感じで。俺がセコンド入って相手1回蹴っ飛ばしたら、みんなこっちに向かって来たからね。ホントにリングから控室が長くてさぁ、（両手を上げて）このまま控室に戻ったんだよ。
――うわっ、手上げたままですか。
永源　そうだよぉ。その後にホテルに戻って、それから1週間一歩も外に出れなかったんだから。飛行機乗って帰ってきてた時はホントにホッとしたよ。
――当時、観客が10万人ぐらい集まる中で試合したんですよね。
永源　お客さんも来たは来たけど、リングなんて全然見えないよ。ビックリしたのは、何キロも先に人がいるから「何やってるんだ？」って聞いたら「お客だ」って。そんなもん、いくら目が良くても見えないよ。
――そんな中で、猪木さんは（アクラム・）ペールワンの腕を折ったりしてるんですよね。
永源　そのビデオは、いま見ても面白いよね。
――でも、何があるのかわからない試合では、藤原（喜明）さんと永源さんが用心棒に選ばれてきたわけですよね。
永源　猪木さんは結構用心深いとこがあるからね。「どうでもいいや！」とは、なかなかなれない人だからな。（唐突に）そういえば遠征でインドに行った時にね、インド洋って誰もいないでしょ。だから、思いきって、うんこしたんだよ。
――ダハハハハ！　それはいい思い出ですね（笑）。
永源　それでキラー・カーンが「永源さん、やめてくださいよ」って言うから「バカ野郎！　誰も見てねえんだよ！」って（笑）。
――ダハハ！　出しちゃった奴は海に捨てるんですか？
永源　いやいや、海に直接するんだよ。
――ダハハハハ！　水洗便所じゃないんですから。
永源　そういうこともあったね（笑）。でも中近東だけはね、清く正しく美しくって感じだったから。全然そういう雰囲気じゃないもん。
――英雄の腕を折ったわけですから、その後どうなるかわからないですよね。
永源　なにしろ、向こうではそれこそ日本の「朝日」とか「読売」みたいな新聞に一面で出てたんだから。
――腕を折った時の会場の雰囲気はどうだったんですか？
永源　俺はセコンド付いてたからね。もう極まっちゃってるんだけど、向こうはタオル投げたりなんかしなかったしね。
――ギブアップしないから折っちゃったわけですよね。
永源　向こうの選手も英雄だからギブアップできないでしょう。
――腕に噛みついたっていう話ですよね。
永源　パキスタンの向こうのナンバー2の人が変わりにレセプションしてくれたからね。
――勝った瞬間に、猪木さんに一斉に銃が向けられたっていう話を聞きましたけど。
永源　だからもう、俺なんかも控室に帰るまで横に付いてたんだけど、ハッキリ言って怖かったよ。でもいないといけないからね。
――尋常じゃない緊張感ですよね。
永源　ホント怖かったよ。控室戻ってからも安心できないしね。
――そういう状態でも猪木さんは「一生治らないでしょう」とか「折ったぞーッ！」とか叫んでるわけですよね（笑）。その後もパキスタンに行ってますからね。
永源　その後も2回行ってるからね。やっぱり凄い人だよ。リング上では（笑）。
――リング上では（苦笑）。ペールワン一族が仇討ちで猪木さんに挑戦するっていう話もありましたよね。
永源　やっぱり向こうとしてはトップがやられたわけだからね。猪木さんは「いつでもいいよ」って言ってたんだけど、でも、なんだかんだでなくなったんだよ。
――ブラジル遠征の時も結構そういうことがあったと思うんですよ。イワン・ゴメスが挑戦させろって来たんでしたっけ？
永源　ブラジルは、中近東なんかから比べ

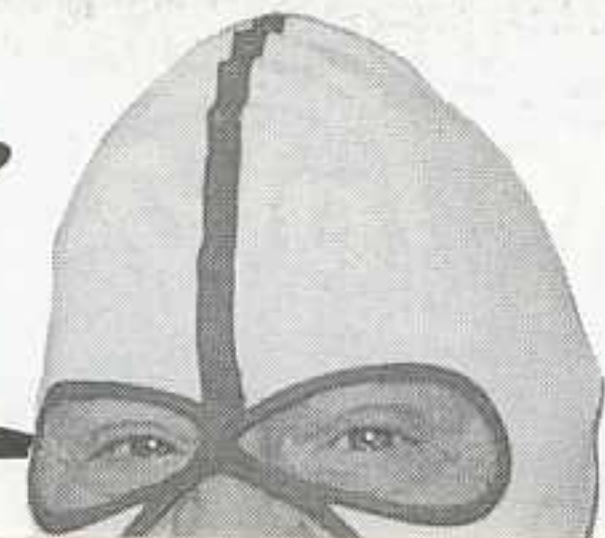
昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス RADICAL
スーパースター列伝

俺なんかハッキリ言って
猪木さんの弾よけですよ。
弾は飛んで来ないけどな（笑）

「オマエが父ちゃんのタマタマの中で精子だった頃から、俺はこの雑誌を

昭和プロレスの凄みに触れる実録！ 豪傑一代記

紙のプロレス

スーパースター列伝

たら観客動員とかも少なかったよね。日本の反対側まで行った割にはお客さんは入らなかったね。

——永源さんから見てイワン・ゴメスっていう選手はどうでした？

永源 まあ無理でしょう（キッパリ）。

——プロレスは無理と。

永源 強かったかもわかんないけど、ファンにアピールするものがないしね。

——いまだったら観客もわかるかもしれないですけど、地味な関節技中心の選手だったみたいですからね。

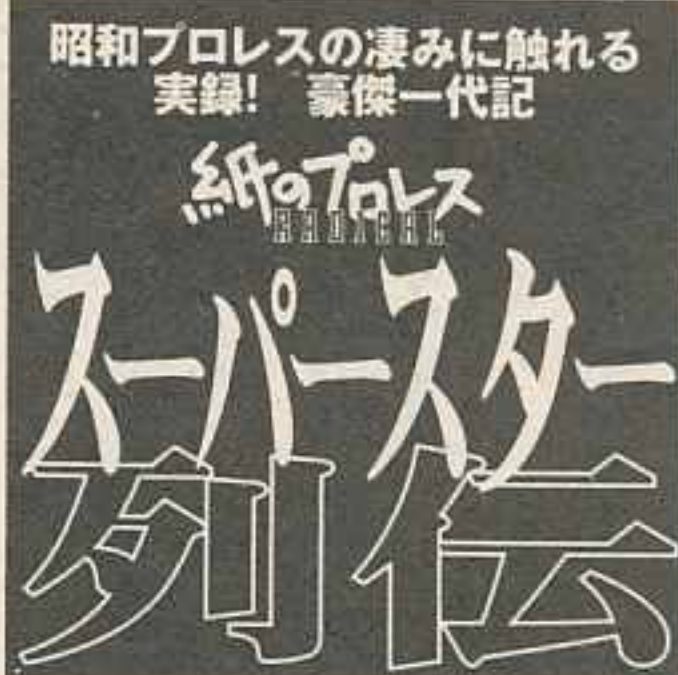
永源 そうそう。全く地味ですよ。力があっても、うまさがなくてタイミングが悪かったらプロレスは無理ですよ。1から10までズッと力入れっぱなしだったから。

——プロレス的な駆け引きができないわけですね。

永源 そう。だから結局は駆け引きですよ。相撲だって野球だって駆け引きですからね。

——永源さんもゴメスとは直接試合されてますけど、やっぱり実際に対戦すると不器用だなと感じたわけですか？

永源 そうだね。プロレスは、うまさと強さと、少しでも観客にアピールするものがなくちゃいけないから。いくらうまくても、顔がどうしようもなかったらちょっとっていうのがあるでしょう（笑）。やっぱり人間は女でも男でも、生まれた瞬間に顔で運が若干変わることがあるんですよ。

——顔ですか（笑）。あと当時、極真とのモメごともあったと思うんですけど、それで7対7でやるって言う時に永源さんの名前が出てましたよね。

永源 そうだっけ？ まあそういう試合をやったら凄い緊張感があるよね。猪木さんとモンスターマン戦とかね。あの時は俺と長州（力）がセコンドやったのかなぁ。

——ウイリー（・ウイリアムス）戦の時も永源さんがセコンドで暴れてましたよね（笑）。

永源 あぁ、モンスターマンじゃないや、ウイリーだ（笑）。あん時は緊張したね。

——あれはセコンド同士の乱闘とかもありましたよね。

永源 試合が終わってから新間（寿）さんが蹴っ飛ばされたりしたしね。確かどっか折れたりしたんじゃなかった？

——添野（義三）さんにやられたんですよね。

永源 ホントよく知ってるねぇ（しみじみと）。凄いよなぁ。

——でも、ウイリー戦の殺気立った雰囲気の中で、セコンドに付いて乱闘するっていう永源さんのハートも凄いですよね（笑）。

永源 ああいうのはねぇ、やってる方も疲れるし、セコンドに付いてても疲れるんだよね。

——あの試合は特に何が起こるかわからないっていう状態でしたからね。観客同士のケンカもそこら中で起こってるし。その時は新日側には寛水流も付いていたんですよね。

永源 そうそう。新日本っていうか、猪木さんはああいう試合は結構好きなんだよね。怖いんだけど好きなんだよ（笑）。

——永源さんはそういう殺伐とした試合は好きなんですか？

永源 いや、俺は、それだけ強かったらいいんだけどな（笑）。

——でも、そういう場所で選ばれてきてるっていうのは何かあると思うんですよ。

永源 それはまあ、いざとなったらね。

——いざとなったら頼りになるっていう。

永源 まあねぇ、いざとなって逃げるんじゃしょうがないからねぇ（笑）。

——ダハハハハ！ 相撲上がりゆえの幻想とか。

プロレスは結局は駆け引きですよ。相撲だって野球だってそうだよ

【えいげん・はるか】昭和21年1月11日、石川県鹿島郡出身。昭和41年10月12日、東京プロレス蔵前国技館での木村政雄戦でデビュー。その後、日本プロレス、新日本プロレス、ジャパンプロレス、全日本プロレスを渡り歩き、全日分裂を経て現在はプロレスリング・ノア所属。選手の他に取締役営業部長も務め多忙な日々を送っている。一方でフルマラソンを何度も完走したりと、コンディションと元気の良さはまだまだ若い者には負けない昭和派レスラーである。

永源 いやぁ、そんなことはないと思うよ。まあ、頑丈だっていうのはあったかもしれないけどね（笑）。

——ちょうどその頃、新日内部でもアントンハイセルがらみでゴタゴタがあったんですよね。

永源 あぁ、ありましたね。

——クーデターとか。

永源 クーデターは俺なんかが起こしたんだから（キッパリ）。

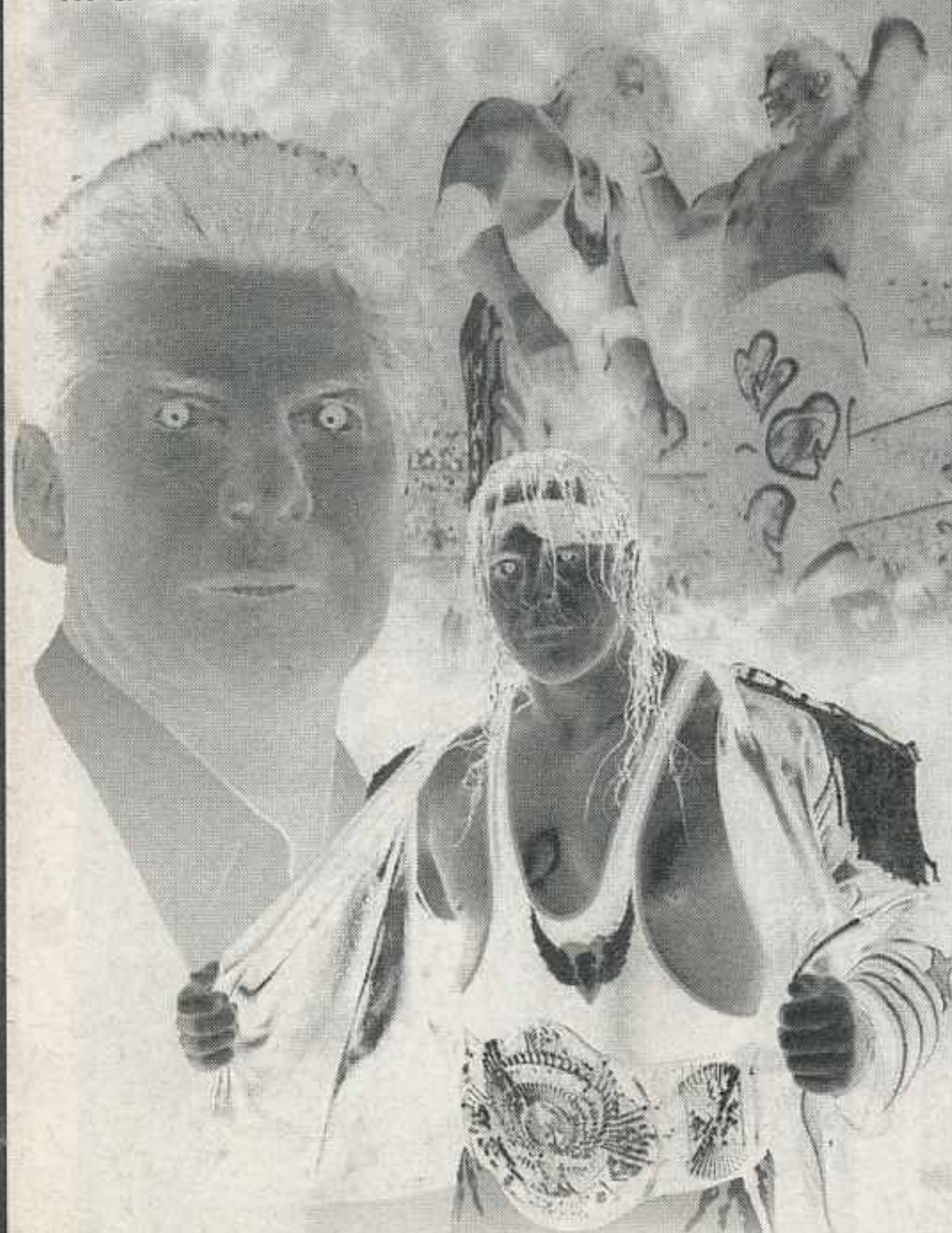
——それは有名ですよね（笑）。

※残念ながら、今回はここまで。後編では「クーデターは俺なんかが起こしたんだから！」とキッパリ言い放った永源が、新日クーデター話を赤裸々に告白。さらに、ジャパンプロレス秘話、藤波社長、長州力ら選手の知られざる素顔から馬場さんとの思い出話。そして興味津々の全日分裂の真相、ノア旗揚げの経緯など、様々なエピソードをお届けします。次号の発売までツバをためて待て！

［00年8月7日、ノア事務所にて収録］

果たして、プロレスは「筋書きのあるドラマ」なのか？

元・WWFのプロレスラーがリング上の仕組みを暴露した!!

The story of a man who believes in heroes, in a world where the anti-hero is king.

HITMAN HART
wrestling with shadows
レスリング・ウィズ・シャドウズ

WWFによる「リング上の情報公開」が日本マット界に及ぼす影響と可能性とは？

世界最大のプロレス団体WWFの裏側を現役プロレスラーが暴露した超問題作が日本上陸を果たした。「スポーツ・エンターテイメント」を掲げ全世界を熱狂させるWWFの内幕リング上での仕組みをレスラー側であるブレッド・ハートが初公開したのだ!!　そのドキュメント・ビデオ作品の名は『レスリング・ウィズ　シャドウズ』――。

その内容をあらゆる角度から徹底検証してみた。

構成／坂井ノブ

Chapter.1

なぜビンスはブレッドを追放し なぜブレッドはWWFの内側を暴いたのか?

作品のあらすじ

いちばん最初の企画段階では、この『レスリング・ウィズ・シャドウズ』はブレット・ハートの半生を追ったドキュメンタリー作品になるはずだった。が、結果的に世界のプロレス界を騒然とさせる、禁断の作品となってしまった。ブレットは「レスリングは嘘だと言われているが、人が思う以上にリアルなんだ」と語っているが、実際の生々しい舞台裏も克明に描かれている。

では、まずは順を追って、この作品の内容を紹介しよう。

この作品の主人公は、カナダのカルガリーに本拠地をおいて活動していた往年の名レスラー、スチュ・ハートの息子であるブレット・ハートだ。日本でもおなじみのハート一家は12人の子供たち全員がプロレスラーになったり、プロレスラーと結婚したりしている。ブレットも家の地下にある道場で、いわゆるシュートを叩き込まれて鍛えられていく。

はじめはプロレスラー志望ではなかったブレットだが、地元カルガリーで「スタンピード・レスリング」を旗揚げして苦闘する父親を助けるためにプロレス入り。だが、父親のテリトリーも巨大化するWWF（ビンス・マクマホンJr.代表）に飲み込まれてしまい、ブレットの主戦場もWWFへと移る。そこで〝ヒットマン〟というキャラクターを得たブレットは順調に成長し、やがて世界王者に君臨するまでになった。超ベビー・フェイスであるブレットは子供たちのヒーローとなったのだが……そんな平和な時間は長く続かなかった。

「正義のために闘い、真実のみを伝えたかった」という〝ヒットマン〟のキャラクターは完全なるベビー・フェイス。だが、単純な「善」「悪」の対立構造に飽き飽きしたファンは、次第に新しいヒーローを支持し始める。その新しいヒーローとは? 本誌でも再三取り上げてきた稀代のスーパースター〝ストーンコールド〟スティーブ・オースチン! 素行不良で、汚い言葉を連発するストーンコールドだったが、観客は大声援を送り始める。それは、「ヒールといい試合が出来ることがヒーローの条件である」というブレットの考え方を根底から覆すパラダイム・シフトだった。

こうした状況の中、〝ヒットマン〟もヒール転向を余儀なくされる。いままでは聖人君主のように振る舞ってきたブレットも「アメリカのファンは、キス・マイ・アスだ!」と渋々ながら憎まれ口を叩き、大ブーイングを浴びる。だが、ヒールのポジションにもライバルが出現。キザでお下劣な〝悪ガキ〟ショーン・マイケルズである。より破廉恥で刺激的なアジテーションをするショーンをビンスはプッシュし、一方のブレットには契約解除を言い渡す。いよいよ選択肢のなくなったブレットはWCW行きを決意する。

だが、いよいよWWF最後の試合というときに大事件は起きた。

ブレットが不可解なレフェリー・ストップ負け——。

地元カナダで、対戦相手は天敵のショーン。しかも、自分のフィニッシュ・ホールドであるシャープシューター（サソリ固め）での負けとあって、完全にメンツを潰された傷心のブレットは、控室でビンスをブン殴るというスキャンダルを置き土産にWCWに転出していく——以上が、この作品の大まかなストーリーだ。

かなりエグい内容のドキュメントだが、この作品全体には「アメリカのプロレスの情報公開はここまで来たのか?」という驚愕の映像が多数散りばめられている。この作品の中、試合前の控室で、ブレットと重役のパット・パターソンが「そこでリングを下りろ」「そこで決着だ」と綿密に打ち合わせをしているシーンなどは、いままでならば完全にタブーの世界。ブレットも、「オレのパンチを見てくれ、説得力があるだろう? 全てギリギリの線で止めている。俺は人の顔に力一杯蹴りをブチ込んでいる。でも、何故、顔にアザが出来ない? そこに芸術があるからだ」とファイティング・アート宣言までブチ上げる。極めつけは、ブレット最後の試合に関する話し合いの場面だろう。事前に「ショーンに勝たなくていい。乱入とかで不透明決着にしよう」と、ブレットはビンスに提案する。そして、実際の試合の場面に、控室の話し合いがナレーションのように重なる。「オレがレフェリーに衝突したら、ショーンがオレにシャープシューターを仕掛ける。逆に今度はオレが掛け返す。そしたら、ショーンの仲間たちが乱入してリング上は大混乱になってゴングが鳴る」実際に途中までは、その通りに試合が進んでいく（ショーンがシャープシューターを掛けた途端にビンスがゴングを要請して試合を強引に終わらせてしまうのだが）。

ここまでリング上の仕組みが明らかにされたことはいまだかつてなかった。それも、活字ではなく映像である。日本とアメリカではプロレスのスタイルが大きく違うのでひと括りには出来ないが、日本のプロレスは?と心配になるほどリアルなシーンである。

実際、WWFはブレットが去った後、ストーンコールドを中心にTVの脚本家をかかえてアダルト路線をばく進! 株式公開をするまでに急成長を遂げた。小さなこだわりを捨て、大きな利益を上げる。これがWWF流のレスリング・ビジネスだ。

これはあくまでも妄想だが——新日本プロレスの藤波辰爾社長はWWFに影響を受けて「新日本も株式公開する」と息巻いているが、そのうち「株式だけでなく、情報も公開する」と言い出すかもしれない。実際、小さなこだわりを捨て、電流爆破マッチを強行した新日本は横浜アリーナを超満員にして莫大な利益を得た。『スポコン』の橋本復活劇も脚本家導入の第一歩だろう。遂に新日もWWF流のレスリング・ビジネスを開始しているのだ。

アメリカで勃発した「プロレス情報公開」の波は、まだ日本には到達していないが近いうちに必ず影響を及ぼすだろう。この問題作に対する本誌の見解は、敢えて今回では出さない。様々な角度からこの作品を見ることができるのに、一つの見方に限定はしたくないからだ。というわけで、今回は各分野の方々に、それぞれの見方を提示していただいた。

この作品の表面的な部分だけを見て、「なんだ、プロレスってフェイクじゃん」と決めつけるのは早すぎる。この作品はリング内のシステムをさらけ出すことによって、それ以上に大きな問題提起を投げかけているのだ。本誌は、決して「情報公開すべき」と無目的に煽っているわけではない。なぜ、WWFがタブーを公開したのか? その目的と効果を考えることで今後、日本のプロレスが爆発する可能性を探ってみたい。

「ショーンに勝たなくてもいい。乱入で不透明決着にしよう」とブレットは提案したが……

『週プロ』でも速報されるほど衝撃的な事件だったブレットの不可解な負け。良くも悪くも、WWFのすべてはビンス・マクマホンJr.によってコントロールされている。レスラーに決定権を取り戻すべく闘いを挑んだブレットではあったが、罠にハメられた。

Chapter.2

日本の、世界のプロレスラーはこの作品をどう見た!?

プロレスにおけるワーキングとスポーツ・エンターテインメントは違うのか!?

ビル・ロビンソン×宮戸優光

WWFのライバル団体であるAWAの王者として君臨した稀代のフッカー、ビル・ロビンソン。UWF、Uインターを経てUスネークピットとなった現在も一貫してプロレスの権威を取り戻すために闘いを挑み続ける宮戸優光。現在のWWFのスタイルとは最も遠いところに位置する元プロレスラーのお2人に、この作品を批評して頂いた。果たして、プロレスの裏側なのか？ そして、プロモーターにレスラーは頭が上がらないのか!?　聞き手／坂井ノブ、堀江ガンツ　撮影&通訳／黒田史夫

WWFはケーブルテレビと組んでプロレスを全く違うものに作り変えてしまったんだ（ロビンソン）

――まず、このビデオを見終わった感想をズバリ言って聞かせて下さい！

宮戸　ブレット・ハートという選手の試合をあまり見てるわけじゃないけど、作品全体で見ればなかなか結構面白かったですよ。

――今プロレスマニアの間で、そのビデオが凄い評判になってるんですよ。というのも、今まで見ることの出来なかったプロレスの裏側というか、タブーの部分が出てるからなんです。

ロビンソン　ひとついいかな？ 20年以前のプロレスは少なくともこんなんじゃなかったぞ！

宮戸　ボクも「プロレスの裏が語られてる」というふうには、全く感じなかったけどね。別にボクは言葉でプロレスを守ろうとしてるということじゃなくてね。WWFというのは「完全にプロのレスリングじゃなくなってしまったんだな」っていうことを、この映画を通して僕は知ったね。だから要するにビンス・マクマホンJr.（以下、ビンス）によって、ショービジネスとして、完全にプロレスリングから逸脱してしまったんでしょう。

――つまり、本物のプロレスはこんなもんじゃないぞ、と。

宮戸　あの映画を事実とすると、WWFはビンスがすべて演出コントロールしたエンターテイメント・ショーだよ。だからWWFのリングの中には「レスリング」が全く入ってないのね。例えばの話、同じアメリカのプロレスでも、ルー・テーズの時代に「あれ（WWF）がプロレス」って言っても、誰も信じないですよ。もしかしたらWWFは、もうレスリングという言葉を使ってないのかもしれないけど。

――まさにその通りで「スポーツ・エンターテインメント」と称してますね。

ロビンソン　そもそも、20～30年以前まではWWFというのは、ホントに三流の団体だったんだよ。

――ゲッ！　そうだったんですか？

ロビンソン　ナンバー1はNWA。次にAWAで、その次がWWFだったんだよ。当時NWAにジャック・ブリスコ、AWAには、私、ビル・ロビンソンが君臨していた。本当にレスリングの実績も実力もある者がチャンピオンだったんだ。それを脅威に感じたWWFは、全米大学選手

ルー・テーズの時代に「これ（WWF）がプロレス」と言っても、誰も信じないですよ。（宮戸）

師弟対談 ビル・ロビンソン×宮戸優光

権四連覇のボブ・バックランドをプッシュして、彼が王者になった。だが、ビンス・マクマホン・シニアが亡くなってから、すべては変わってしまった。Jr.が跡目を継いでから、WWFはケーブルテレビと組んでプロレスを全く違うものに作り変えてしまったんだ。

——その頃から『レッスルマニア』が始まったり、ハルク・ホーガンが台頭したりしてくるわけですね。

ロビンソン 昔は、どこの国に行っても、プロモーターもレスラーも契約書なんか交わさなくて、握手するだけでそこに信頼関係が出来たんだ。決してプロモーターがレスラーを裏切ったりはしなかったね。それはプロモーターが、レスラー出身だからなんだ。でも、ビンスはレスラーじゃないだろ?

——それがですね、今のビンスはリングで試合をしてるんですよ。

宮戸 ビンスが試合をやってるってこと自体が「WWFはプロレスじゃない」っていうことを証明しているよね。ビンスはレスリングなんか出来ないんだから。試合を成り立たせてしまうことは出来るかもしれないけど、それはもうレスリングではない。

——では、ブレットについてはどう思いますか?

ロビンソン この映画の中で、ステュ・ハートがブレットに「強くなきゃいけない」「ちゃんとレスリング出来なきゃいけない」と教えて鍛えていたが、あれこそが昔のスタイルだよ。

——でも、そういった技術や心構えは現在のWWFの中では必要ないのかもしれませんよね。

ロビンソン たとえば、プロモーターが売り出し中のチャンピオンにしたい選手がいたとしよう。でも、昔のチャンピオンというのは、そいつをやっつけられるだけの強さがなきゃいけなかったんだ。それが今ではもう、ビッグマネーが絡んできてショーになってしまった。もはやWWFは本物のレスリングじゃない。

——ロビンソンさんと宮戸さんが思う、本物のプロのレスリングとはどういうものなんでしょう?

宮戸 最高の強さと最高の技術とハートを持ったレスラーが、観客がお金を払うにふさわしいレスリングを見せる、これがプロレスリングでしょう。でも、WWFはこれでいいんでしょう。ビンスにとって、レスリングは必要ないもの。彼にとってのプロレスは、完全なショー・ビジネスだから。だから、これを見て「プロレスの裏側」っていう感じ方は、絶対やめてもらいたい。だって、あれはプロレスではないから。ただWWFの裏側の一部ではあるのかもしれないけど。

ロビンソン 20~30年以前にいわゆるショーマンと言われていた選手にしても、たとえばマッドドッグ・バションとかデストロイヤーは、みんなちゃんとレスリングが出来たんだよ。アマチュアの実績もちゃんと持ってて、しっかりした実力もあって、ああいう試合をしてたわけだ。プロモーターに「お前負けろ」って言われても「ファック! 負けてらんねえよ。もしオレに勝ちたいんだったら、実力でオレを叩きのめしてみろ!」っていうことが言えるだけのちゃんとした実力を持った人間がショーマンだった。

——前田日明さんも「昔はピエロをやるにしても、ちゃんとした下地があった」と以前はよく言ってましたね。

宮戸 映画の中で、ビンスがブレットに「負けてくれ」と言いますよね。あれも、おかしいんです。ブレットも、ビンスに何を言われようが、勝ちたいなら勝ちゃあいいんだからさ。

ロビンソン その通りだね。もし私が「試合に負けてくれ」と言われたら、リングに上がって、レフェリーをギャフンといわせてから、対戦相手は殺してやるね。それがレスラーだよ。

——殺してやる! 実際に今までそういう修羅場もあったんですか?

ロビンソン 昔の話だが、プロモーターから自分の対戦相手を強く見せるために、「やられてくれ」と頼まれたことがあった。だけど、その時は相手のことを逆にやっつけたよ。そういうことを頼まれても決してやらないね。だから、自分がやられてるときは、ホントにやられてるときだよ。

宮戸 要するにプロモーターにリングの中を管理されたことはないわけです。

ロビンソン 昔はプロモーターもみんな引退したレスラーだったから、レスラーのこともちゃんとわかってくれてたんだよ。

宮戸 ブレットもレスラーなんだったら、ビンスに従う従わないではなく、自分で結果を出せば良かったんだ。

——レスラーとしての主張が出来たはずだと?

宮戸 逆に言えば、プロモーターも強い相手を用意して、ブレットに勝てばいいんだよ。でも、まあビンスの主張は、僕は悪いとは思わないよ。

——あっ、それは意外でしたね。

宮戸 当然の主張でしょ。だって、

今の時代で「本物のプロレスラー」と呼べるのは、桜庭とか田村とかグレイシーのことだ（ロビンソン）

びる・ろびんそん■1939年9月18日、イギリス・マンチェスター出身。伝説のシュート道場「ビリー・ライレー・ジム（通称・蛇の穴）」出身で、カール・ゴッチはそのジムの先輩にあたる。人間風車の異名をとり、必殺技ダブルアーム・スープレックスで一時代を築いた。国際、全日本、新日本など日本の各団体に参戦経験はあるが、昭和50年12月11日、蔵前国技館で行われたA・猪木との不滅の名勝負は特にプロレスファンの記憶に鮮明に焼きついているはずだ。現在は、東京・高円寺に在住して「ランカシャー・レスリング」を指導している。ロビンソン先生も毎日指導に訪れる贅沢な環境で強くなりたいという人は『UWFスネークピット・ジャパン』（お問い合せTEL.03—3337—1889）に入門してみよう。

現在のブレットは脳波に異常が発見されたため、2000年1月から長期欠場中である。脳震盪の後遺症だという。

WWFという舞台をビンスは今後も守ってかなきゃいけない。そこのトップがトップのままで外に出ていかれたら、そこの舞台はダメになっちゃう。だから「負けてくれ」というのは当然だったと思うし。それを傷がつかないように辞めさせてくれっていうブレットの主張の方が、強引だしワガママだと僕は思う。

——シンプルにリング上で全てを決着をつけろということですね。

宮戸　うん、それが全てだと思う。昔のレスリング界っていうのは、少なくともワーキングの入った時代であっても、そういうものがあったはずですよ。

——宮戸さんの言ってこられたプロレスリングにおけるワーキングと、WWFっていうのは違いますか。

宮戸　違うね！　全くの別物!!

——ただどうしてもこれとワークっていうのは、同一線上にあると思われてしまいがちですよね。読者にもわかりやすく説明してもらえますか？

宮戸　要するに本物のレスラー同士によってやるレスリングと、ビンスのような素人が演出した格闘アクションとは違うということです。WWFがやってることはレスリングを知らないビンスが書いたストーリーに則って動く舞台でしょ。

——じゃあレスリングの中で生まれてくるものがワークで、舞台の中で行われているものとは違うんですね。

宮戸　そうそう。作り物とは違うということです。だから、いまのWWFの試合って、ある意味で映画の格闘シーンより嘘臭いもん。日本のレスリングも、アメリカの影響をすぐ受けるからね。これが将来のプロレス界の裏側と言われてしまう世界にならないでもらいたいよね。

ロビンソン　今の時代で「本物のプロレスラー」と呼べるのは、桜庭とか田村とかグレイシーのことだ。

——グレイシーもプロレスラーに入ってますか!?　ブレットは冒頭の方で、ステュ・ハートにシュートのテクニックを教わったと述懐していますよね。

ロビンソン　そもそも、ステュは悪い選手でもなかったが、特別優れた選手でもなかった。あれは並の選手だよ。

——あっ、そうなんですか（笑）。

ロビンソン　ステュが教えたイージーなテクニックを持ってるかもしれないが、ブレットも大したテクニックは持ってない！（吐き捨てるように）

——ブレットが作品の中で「シュートテクニックを持った選手が芸術を見せるのがプロレスリングの世界なんだ」と定義しています。それについてはどう思いますか？

ロビンソン　だから、それはブレットがシュートが出来るというわけじゃないだろ。彼が、お父さんや昔のプロレスラーが言ってきたことを繰り返して言ってるだけであって、彼の実力とは関係ないね。

——なるほど。これは宮戸さんにお聞きしたいんですけれども、UWFインターのリングでも、高田vsバービックとか高田vs北尾など、色々とルールで揉めたことがありましたよね。

宮戸　あれだって、結局は「リングで結果を出して下さい」っていうことでしょ。リングで出せばいい話だから。だって、リングの中は誰も介入出来ないんだから。ゴングが鳴ったら他も介入出来ないわけですよ。そういう中で高田さんは、ちゃんと自分の力で勝利をもぎ取ったんですから。

ロビンソン　この作品で描かれているのは、ビジネスのことだけであって、全くレスリングではないよ。

——この作品で、ある種誤解を受けることがあるとしたら、レスリング一家で育った最後のプロレスラーみたいに描かれてるところなんでしょうね。だけどロビンソンさんの話を聞けば、ステュ・ハートも決してシューターではなかったんだと。ブレットが最後のシューターみたいに描かれてること自体に問題があるということですかね。

宮戸　それはあるかもしれないですね。ただ、ステュが言ってることは、ロビンソン先生も言ってる通り、間違ってることは言ってない。ただ、そこをきちっと教わらなかったブレットが耳で聞いたことだけを冒頭に語っちゃってる。それがファンを誤解させてるね。ステュから教わったことと離脱劇をミックスして、ドラマ化しちゃってるから。まあ、ブレットのレスリングへの情熱みたいなものを描きたかったんだろうし、作品としては必要な場面だったかもしれないですね。

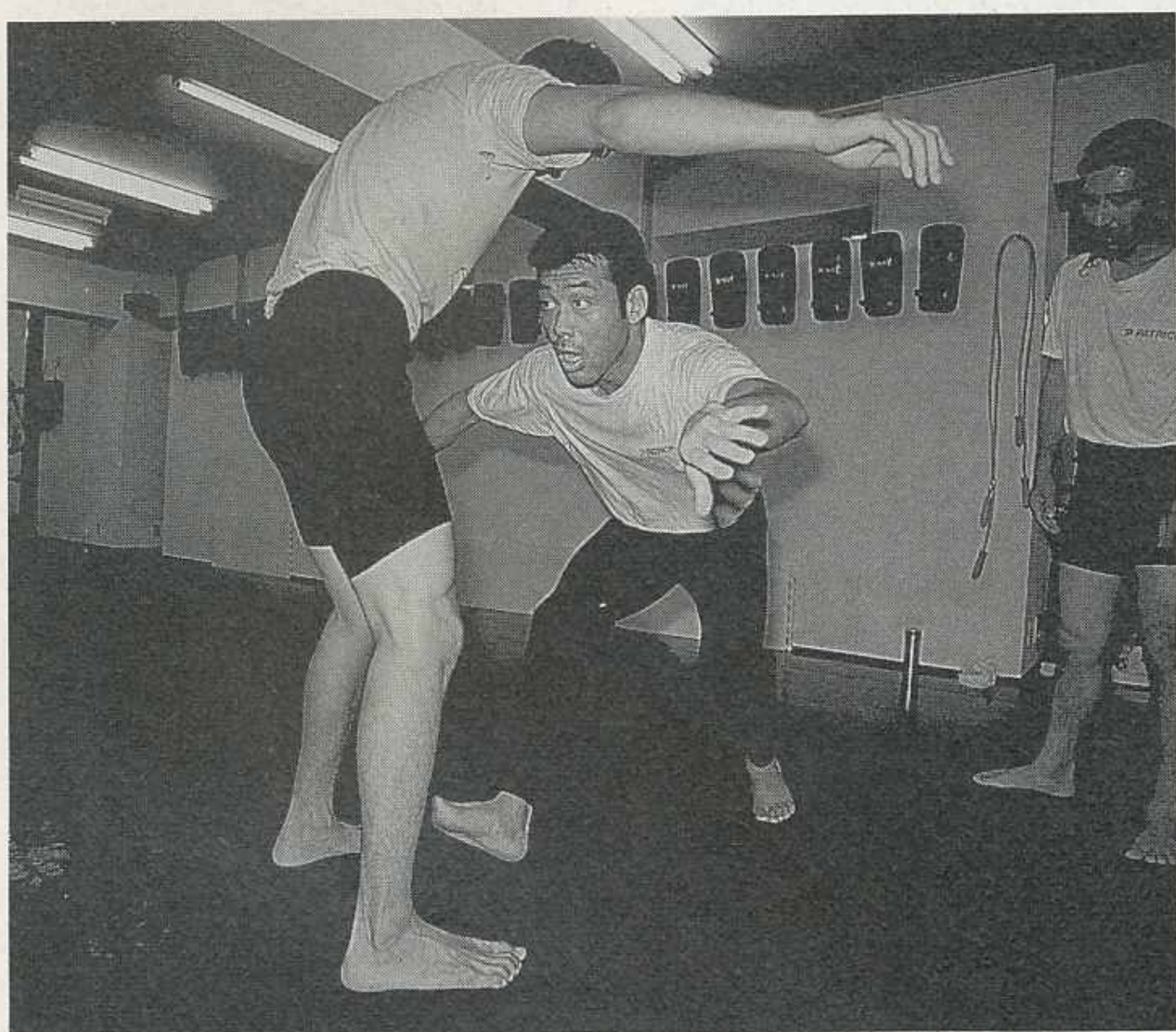
——では最後にお聞きします。こういうショープロレスが日本で増えてきてる状況なんですけど、それをロビンソン先生はどう思われますか？

ロビンソン　日本には桜庭とか田村とかグレイシーなどリアル・ファイティングが出来る選手がいるじゃないか。それを見る土壌もあるから、WWFのコピーは出来ないんじゃないか。ファンがリアル・ファイティングを知ってるんだ。最初に'68年に初めて日本に来たときにも、日本のファンは凄くレスリングをわかってるなと感じたね。

——わかりました。ありがとうございました。

宮戸　ご期待に沿える内容だったかどうかわからないですけど。

——いやいや、バッチリでした！

本物のレスラー同士によるレスリングと、ビンスのような素人が演出した格闘アクションとは違う（宮戸）

みやと・ゆうこう■昭和38年6月4日、神奈川県中郡出身。旧UWFで昭和60年9月6日東京・後楽園ホール、vs星名治戦でデビュー。その後、新生UWFに参加。分裂後はUWFインターナショナルで闘う取締役として、高田延彦、安生洋二らと"最強"を証明する闘いに撃って出た。Uインターが新日との対抗戦を開始すると同時に身を引くが、昨年、日本版蛇の穴『UWFスネークピット・ジャパン』を設立した。共に本誌17号で宮戸は「"ワーク"という言葉を出さないと、"プロレス"という言葉がズタボロになる！」と警鐘を鳴らしたのは記憶に新しいところ。「プロレスとは、シュートもワークも含んだ大きな意味の言葉である」という思想で、元Uインターの選手とも親交が深い。

ビンスの「スポーツ・エンターテイメント宣言」は、開き直りとも取れるが、大きなビジネス・チャンスとなったのだった。

Chapter.3 熱狂的WWFファンはこの作品に何を見た!?

プロレスラーの意見だけではなく、現在のWWFファンの視点から、この作品を斬ってみたい。というわけで、WWF伝道師として様々な媒体で活躍中の漫画家・杉作J太郎氏に、この作品の感想をうかがってみた。……が！　心に染みる杉J節全開の珠玉の原稿が上がってきた。ブレットのブの字も出てこないが、これもこれで素晴らしい批評である!!　まるで夏休みの宿題を一気に片付けたかのような名文に酔え!!

WWFの内幕暴露!? そんなヤボなもん読みたくねぇ！ つちゅう人はこの原稿を読め!!

スギースターダストこと
文・杉作J太郎

すぎさく・じぇいたろう■WWFの企画には毎号登場して頂いたお馴染み杉J。スギーブ・オースチンの異名もアリ。ホームページ『東京ボンクラ学園』(http://raw-iswar.tripod.co.jp/) もヨロシク！

今、俺は四国にいる。

分け入っても
分け入っても
青い山

放浪の俳人・種田山頭火がその生涯を終えた地、松山にいる。

夏休みで帰省しているのだ。

余談になるが四国の女性はいい。

俺的にやはりすばらしい。

さすがは広末涼子や眞鍋かをりを生んだ地である。ノーマルな、ある種素朴の中に強いストレートな意志を感じる。素直に一発やりたいと思えるがおそらく向こうとしても素直に一発やらせてくれることはないだろう。

それでいい。

男と女のラブゲームという歌もあったが、その面に関してはユーミンに賛同することにしよう。

ゲームではない。男と女はラブウォーズである。ラブウォーズ、そしてラブジ

「これも作りだよ」そんなヤボを言う男もいたが……

ユースである。書いていて気が付いたが、テニスというのも壮絶なスポーツである。

ラブゲームにジュース。

いやらしすぎる！

そもそもからしてテニスという言葉がペニスという言葉に似てはいないだろうか？

まあいい。

で、ゆうべは高校時代の友人と明け方まで飲んで語った。

彼とは思想セックス政治国際紛争エロ漫画、プロレスに広島カープと、青春時代にとことん突き詰めて語り合った仲である。ともに童貞喪失年齢がかなり遅かったのもふたりの結びつきを深いものにした。とはいってもホモだちではない。もしもこれで彼か俺のどちらかが藤原竜也（藤竜也じゃないよ）みたいなルックスの持ち主ならばどうなったかはわからないが、ここは互いのルックスに感謝しよう。と書くと俺がホモを否定しているようだが、愛の形は自由である。ただ俺はホモではない。ただそれだけの話だ。

昨夜遅く。彼は最近のプロ野球がつまらなくなったと言った。

金山次郎さんの解説していた試合のテープ。録音しておけばよかったな。長内や水谷はよかったな。先日、坊ちゃんスタジアム（松山に新しくできた野球場）でカープとドラゴンズの公式戦が行われたのに行って来たが、選手の顔がつまらなかった。そんな中、すごい顔がいた。と思ったらカープの投手コーチ、川端だった。あれはほんとに凄い顔だ。やはり人間の顔はどんどんつまらなくなってきているのではないか。

深夜の河原で。学生時代に水遊びをしたり、エロ本読んだり、マージャンしたりした河原であった。時の流れを感じるとともに二度と帰り来ぬ過ぎた時を思いながらそんな話をしていたら俺の携帯電話が鳴った。

『紙プロ』の坂井ノブ君からであった。

「原稿、いいかげんに入れてくださいよ」

怒気をはらんだ電話であった。

過去と現在が俺の中で奇妙に混ざり合った。そうだ。今の俺は遅れた『紙プロ』の原稿を書かねばならないのだ。現実が俺に襲いかかった。

「にいさん、なんの電話？　これけ？」

彼が小指を立てた。いや、プロレスの原稿なんだよと俺が言うと彼はプロレスも見なくなったなあと言った。

「あの頃はおもしろかったなあ。マードックにビジャノ1号2号。エリンジャー・アキム。ジェシイ・ベンチュラ。アブドーラ・タンバ、サージェント・スローター。もうみんなおらんのじゃろ？」

そうだな、といった後で四十才を前にしてかつてはなかった諸々の生活の中での苦悩。その話になった。なにか趣味でもあればまた違うんだろうが。

彼に俺は言った。

俺も趣味はないがアメリカのプロレスはおもしろいぞ。さっき話に出たスローターやベンチュラも出てくるし。

そうか、ぜひ見てみたいもんだと話して分かれた後、すぐ原稿を書けばよかったが寝てしまったので起きて一発目、めしも喰わずにこの原稿を書いている。

さて。俺はなにを書くつもりだったのかというと、これが「レスリング・ウィズ・シャドウズ」というドキュメント作品の評論である。WWFの内幕。プロレスのバックステージを赤裸々にカメラに収めた超クールな衝撃ドキュメントである。

で、俺も今回、原稿を俺が書いている内幕を書いてみようと思ったのだが、どうやらあまりおもしろい読み物にはならなかったようだ。しかし超一級、奇跡の娯楽であるWWFの場合は内幕もこれまたおもしろい！

「これも作りだよ」

そんなヤボ言う男もいたが、彼を否定する気持ちがすでに弱さだと気づく次第だ。

白夜ムック59　日本初！　完全CS観戦用エンターテインメントガイド
世界で一番面白いエンターテインメント日本上陸！
世界のデスマッチ
アメプロ用語解説
リングの事件簿
俺とアメプロ

杉J先生も激筆！　おまけに本誌・坂井ノブも執筆しているWWFの入門ガイド『アメリカンプロレスTVパーフェクトガイド』（白夜書房）。現在のWWFのハードコア・オゲレツ路線の内容は詳しく載っているので必読！

Chapter.4

エンターテイメントの国アメリカではどこまでプロレスの情報公開が進んでいるのか!?

「シュート活字」と呼ばれるジャンルがあることを、『紙プロ』読者の皆様はご存知だろうか？　専門誌には揶揄されることも多いインターネット上のプロレス系ホームページで、「シュート活字」はネット上のみの限られた範囲で展開されている。実際には専門誌ではタブーとされている領域にまで突っ込んで語られているホームページもある。だが、そんな「シュート活字」がすでにアメリカでは確立して商業的にも成立しているという。一体、アメリカではどこまでプロレスの情報公開が進んでいるのだろうか？　今回、本誌はアメリカのプロレス事情に詳しい方々に原稿を依頼してみた。この「シュート活字」は、ターザン山本失脚以後は衰退しているといわれて久しい「活字プロレス」が再び爆発するキッカケとなる可能性だってある。というわけで、まずアメリカの「シュート活字事情」とはいかに!?（編集部）

文・シュート活字普及委員会　森下忠

『レスリング・ウィズ・シャドウズ』のようにプロレスの舞台裏まで克明に綴ったドキュメンタリーは日本にはまったく存在しない。したがって本作品は日本のファンの間では多少なりともスキャンダラスな捉えられ方をするだろう。しかし、アメリカではプロレスが原則100％ワークであることは周知の事実、常識であり、そう言った意味での衝撃は無かったようなのだ。

例えばレスラーたちの書いた自伝を見てみよう。

ミック・フォーリー（マンカインド、カクタスジャック）の自伝はニューヨーク・タイムスのチャートでNo．1を何週間も独走したが、そこではブック（勝敗や試合内容のシナリオ）について当たり前に説明されている。例えば、いついつの有刺鉄線爆破マッチでは、一回目はかろうじて踏みとどまるが2回目では派手に突っ込む、というところまで細かく相談されていた、という具合である。ロック様の自伝もベストセラーになったがやはり当然のようにブックに関する記述がある。さらにダイナマイト・キッドの自伝では、ワーク話に限らず、みちのくプロに来日して痩せ衰えた姿を晒した彼の、その原因となったステロイドの使用についても詳述されている。彼は今や車椅子での生活を余儀なくされている。また、ルー・テーズの自伝では、本人が「シュート（真剣勝負）なんか、もちろん一回もやっていない」と断言している。「900何連勝の鉄人」として祭り上げられた日本語版に対しては、「俺が書いた本ではない」と否定的だ。ここは気を付けてほしいのだが、テーズ本人はワークに関して一貫して事実を普通に話しているのであり、いい加減な人物なのではない。日本での紹介のされ方が歪んでいるのである。実はテーズはアメリカではべらべらと何でもしゃべりまくるケーフェイ破りオヤジとして有名なんだそうだ。

プロレスの舞台裏が語られるのは『シャドウズ』が初めてでも唯一でもないのである。

アメリカでは今年になってトドメの一撃とでもいうべき傑作ドキュメンタリー映画、「ビヨンド・ザ・マット」が劇場公開され好評である。テリー・ファンク、ジェイク・ロバーツ、ミック・フォーリーの三人のレスラーの仕事ぶりとその舞台裏の描写を軸に展開し、他の多くのレスラーや関係者のプロレス人生の断片にも触れていく。ここでは、プロレスがワークであることは前提でしかなく、メインテーマはレスラーの現実の人生である。クライマックスはミック・フォーリーが自分の家族を試合に招待したシーン。試合前のロッカールームではその日の対戦相手のロックがミックの子供の頭をなでたりしている。だが、試合が始まるとミックは後ろ手に手錠をはめられ、ロックは椅子でガンガン殴りつける。ミックは大流血、家族は悲鳴を上げて泣き叫ぶ。もちろん手錠も椅子も前もって準備されているのだし流血もブック通りだ。試合後にミックが傷を縫ってもらっている時にビンス・マクマホンがやってくる。自らの出血した個所をガーゼで押さえながら。そして言う。

自らの出血した個所をガーゼで押さえながらビンスが言う。「これがエンターテイメントだ!!」

「これがエンターテイメントだ！」

そもそも、今日のWWFのビジネス上の大成功は、1989年、裁判という公的な席における「我々は真剣勝負をやっているのではない、すべては作られたものであり、エンターテイメントなのだ！」というビンス・マクマホンによるスポーツ・エンターテイメント宣言に端を発する。この宣言によりプロレスは真剣勝負を装う必要が無くなり、ケーフェイ（業界内の秘密、隠しごと）のない明朗なエンターテイメントとなって、優良企業のスポンサードを獲得し、株式公開を成功裡に終え、資産1000億円と認定され、全米優良500社のリストに加えられた。この辺のビジネス上の成功の経緯は『紙プロ』のバックナンバー（NO．20）や田中正志氏の著作に詳しい。

アメリカに『レスリング・オブザーバー・ニューズレター』、通称『オブザーバー』というプロレス・格闘技業界の業界紙がある。ファン雑誌ではなく業界紙なのでケーフェイは一切なく、ワークをワークとして、アングルをアングルとして分析し批評するメディアである。こういうメディアの在り方は日本では田中正志氏の命名により「シュート活字」として知られている。『オブザーバー』は部数で8000部、売り上げが年間50万ドルに届くとも噂されており、始まったのは1982年で既に17年間以上商業的に存続してきている老舗メディアであり、このジャンルの草分けである。8000部というのはWWF等の視聴者数に比べて少ないようだが読んでいる読者層が業界内部の関係者や選手自身に多いので影響力は非常に大きい。

編集発行人デイヴ・メルツァーはUFCのジャッジを務めたこともある。80年代にはプロレス業界唯一のジャーナリストとして敬意を集めていた。デイブの盟友、田中正志氏も背後に控えている。両氏とも本場メキシコのルチャからブラジルのローカルなバーリ・トゥードまで何でも大量に見る。アメリカではWWFだけでも週に10時間くらいあるが、彼らはWCW、ECW、新日、全日、全女、ガイア、闘龍門、CMLL、AAA、リングス、パンクラス、プライド、UFC、修斗、WVC、IV

WWFのトップスター選手が、舞台裏まで書き尽くした自伝がベストセラーに！　WWF人気による影響は大きいはずだが、日本では考えられない内容となっている点に注目して欲しい。

シュート活字の第一人者
田中正志とは何者なのか？

氏は日本における学生時代からプロレスマスコミに関わり、現在は在米17年目に入ったプロレス・格闘技ジャーナリストである。オブザーバーの協力者としてアメリカの業界では名前が通っており、業界における影響力は大きい。また、日本でも現役レスラーはもとより興行関係者から大会のブックやアングルに関する相談を持ちかけられることも度々ある。有能なジャーナリストはまた、有能なアドバイザーでもありうるのだ。

氏がシュート活字と呼ぶところの「まっとうなジャーナリズム」は日本には存在しない。そのため、ケーフェイを一切気にせずに書いた自身の原稿を既存のメディアに売るのは困難であると判断した氏は、自身の単行本を出版することを決意し、これまでに2冊の著書を上梓している。「レスリング・ウィズ・シャドウズ」に関心を持った方なら楽しく読んでいただけるはずだし、目からウロコどころか眼球が落ちるのは必至だろう。

また、インターネット上では、氏は「幻の美少女」等のハンドルネームを用いて、あちこちの掲示板をたびたび賑せながら地道に啓蒙活動を続けている。他の誰にも書けないような文章で読む者に感銘を与えると同時に、「もっと知りたきゃ金よこせ」「残念ながらマーク（ど素人の意）です」等の暴言でヒンシュクを買いまくり、支援者をも困惑させる奇怪なヒールキャラを確立、ネット引退宣言を繰り返しつつも暴れまわっている。

『プロレス・格闘技、縦横無尽。』
（集英社　1995年刊）

『開戦！ プロレス・シュート宣言』
（読売新聞社　1997年刊）

C、AFC、その他、とにかく何でも見るし情報を収集するのである。そしてそれを20年前後も続けているのである。そんなことは普通の人間には不可能であり、ある意味異常だ。だからこそ、他の人間が持ち得ない見識を持ち、優れた批評が可能なのかもしれないが、そんな生活は日本の社会人にはまず無理だろう。

『シャドウズ』の前半にパット・パターソンがその日の試合についてブレット・ハートに説明するシーンがある。試合の結果や流れはあらかじめ決まっているのだから、決まっている、つまり、ブックがあるということを前提にしなければ、ブックに対するまっとうな批評は不可能である。『オブザーバー』は、ある選手を優れたワーカーだと思えば、その選手をオーバー（勝たせる、売り出す、の意）させるべきだと書き、ダメだと思えばダメだと書く。そのシナリオを書いたブッカーに対しても同様。シリーズ末のビッグ・イベントに向けてのストーリーがよく出来ていればどういう仕組みか読者に解説し、ダメだと思えば改善策を提示しさえする。

団体側は当初は厄介者だと感じていたが、次第に的確な批評は有用であることに気付き始めた。WWFは、そういう作業をやってきたデイブや田中正志氏のようなジャーナリストたちの批評や提言に耳を貸すようになって、プロのシナリオ・ライターを雇い、エンターティメント宣言を成し遂げ、『シャドウズ』のような映画の撮影許可も出した。これが今日の大繁栄につながっていることは言うまでもない。一方のWCWには時代の変革を受け入れられない頭の固い連中が残っているようだ。ホーガンが番組放送中に敵意むき出しで『オブザーバー』を燃やしてみせたこともある。現在のWCWの低迷の遠因をそこに求めることも出来るだろう。

ブックがあるということを前提にしなければ、ブックに対するまっとうな批評は不可能である

日本にはこのようなメディアはまだ存在しない。シュート・マッチが日常的に見ることが出来るようになり時代は変わりつつあるが、旧態依然とした日本のメディアは衰退してきている。業界の中心であった某有名週刊誌は発行部数が激減している。速報性が求められる情報はスポーツ新聞やネットや衛星放送で当日、あるいは遅くても翌日には入手出来るようになってしまった。再読に値するような優れた批評を見ることは残念ながらごく稀である。団体側の打ち出すアングルをフォローしていくだけなら、読者の興味を引けるかどうかは元のアングルの出来映えに依存することになる。アングルやブックの進歩を促すのはそれらに対するちゃんとした批評である。しかし、日本においては少数の同好の士がインターネットで集っている程度なのが現状である。インターネット上でシュート活字に触れることの出来る掲示板やホームページをいくつか紹介しておきたい。

浅草キッドのネット寄席
「Kid Return」（田中正志連載掲載中）
➲http://www02.so-net.ne.jp/~a-kid/

よゐこのプロレスの悩み相談室
➲http://hyper10.amuser-net.ne.jp/~auto/b2/usr/yoiko/brd1/bbs.cgi

極悪野郎（笑）のガチの悩み相談室
～プロレス、格闘技、シュート活字
➲http://hyper4.amuser-net.ne.jp/~auto/b1/usr/anko/brd1/bbs.cgi

メモ8HP
➲http://homepage1.nifty.com/~memo8/

アメリカで始まった掟破りの「シュート活字」の波は確実に日本にも押し寄せている。そうこうしているうちに、アメリカ最大のTV雑誌『TVガイド』では、プロレスの隠語が特集されたという（表紙にはWWFのトップスターが出ているのにもかかわらず！）。完全にアメリカのプロレスは日本と違うものになってしまったのだろう。

今回は「レスリング・ウィズ・シャドウズ」を中心に「プロレス」を考えてみたわけだが、「シュート活字」を取り巻く状況への本誌からの見解は敢えて差し控えた。次号からも、この問題は深く掘り下げていくつもりだが、それまで読者の皆さんも考えを巡らせたり、または直接触れてみて欲しい。

本誌編集長の山口日昇は、この問題について「プロレスラーの言うことがホントとは限らないし、ジャーナリストと称する人間の言うことがホントとは限らない。その逆も言えて、プロレスラーの言うことがウソとは限らないし、ジャーナリストと称する人間の言うことがウソとは限らない。ンムフフフ」と言い残して、『レスリング・ウィズ・シャドウズ』も見ずにどこかへ行ってしまった。

（坂井ノブ）

はたしてリングスはアメリカで受け入れられたのか!?

RINGS USA

in Hawaii

30ページ総力大特集

アロハ～～!
行ってきました、リングスハワイ大会!
取ってきました、独占インタビュー!
見てみ、このラインナップ!
リングスUSA旗揚げ記念、
30ページ総力大特集!
それじゃあ、いきますか――ッ!!

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Hone
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

P76へ
P81へ
P88へ
P92へ
P146へ
P90へ

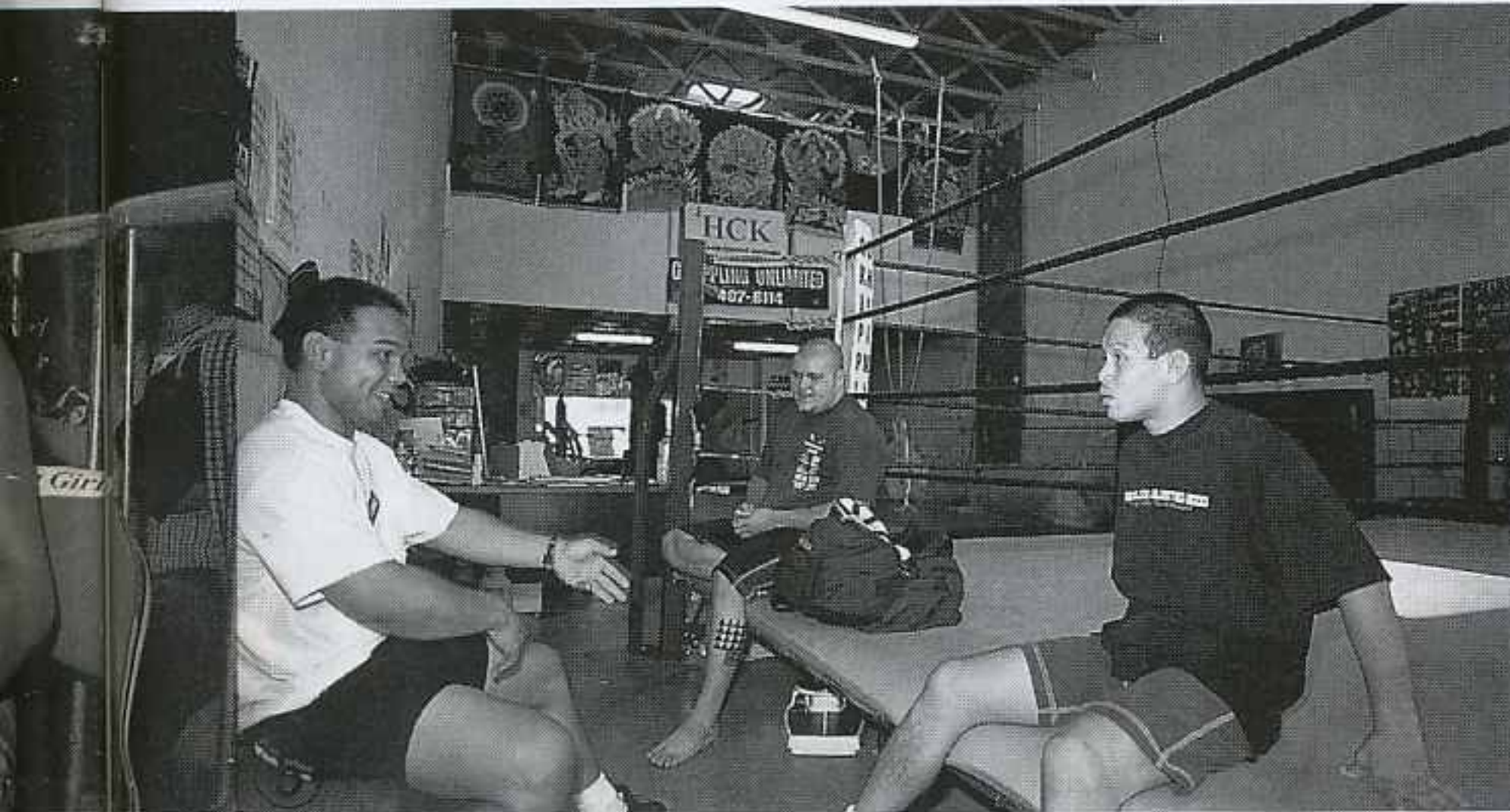
リングス旗揚げ時からの前田総帥の盟友、クリス・ドールマンが現役を引退したとき、ふたりは共通の野望としてアメリカ制圧を誓い合ったという。そう、アメリカ進出は前田総師にとってもリングスにとっても念願であったのだ。

しかし、これまで「リングス・ネットワーク構想」の下、オランダ、ロシア、グルジア、オーストラリア、イギリス、など次々と枝葉を広げ、現地で大会を成功してきたリングスであるが、念願であるリングスUSAはなかなか実現しなかった。

そして旗揚げ10周年を間近に控えた今年、万を持してアメリカ進出が決定！ 前田風に言うならば、まさに「石上三年！ 継続は力なり！ 志定まれば気盛んなり！ う～ん、自分の言葉に酔って遠くを見てしまった」といったところだろう。とにかくリングスが旗揚げ以来念願のアメリカ進出を果たしたこのは、リングスという運動体がまたひとつ実を結んだ結果であり、実にめでたいことである。

そんな記念すべき大会である。これまでしつこいくらいにリングスを追い続けてきた本誌としては、ここは是が非でも取材したいところだ。しかしご存じのとおり本誌は「キャバクラに行く金があったら、社員の給料上げてやれ」と言われるほどの貧乏会社である。アメリカ行きの取材費なんぞを捻出するのは、困難極まりないかとおもわれたが、ダメもとでアメリカ行きを編集長にお願いしてみるとアッサリOKの返事。いや～、言ってみるもんだ。

そんなわけで晴れてハワイ行きが決定。編集部が入稿最終日で野戦病院化しているのを後目に、楽園ハワイへと向かったのである。

さて、今回の旅の目的は、KOKルールが前田のいうとおりバーリ・トゥードに変わって、アメリカ総合格闘技界の中心になることができるか、という可能性を探ることである。はたしてグラウンドでの顔面パンチがないリングス・スタイルは、良くも悪くもバイオレンス性を求める観客に、本当に受け入れられるのだろうか？

リングス、パンクラス、修斗、『PRIDE』に次々と選手を送り込むイーゲン井上主宰「グラップリング・アンリミテッド」。今後ますます日本との関係が深まりそうだ。①海外でのお楽しみのひとつである露出度の高いラウンドガール。合格です！②ブライスデル・アリーナの外観。実に立派である。③リングスUSAオリジナルグッズは残念ながら売っていなかったが、スポンサーである「TAPOUT」のグッズが売られていた。④リング上で来賓として紹介されたリングス前田代表とエクストリーム・チャレンジ、モンテコックス代表。リングスのアメリカ進出はこのモンテコックスの協力があってこそなのだ。⑤見事MVPに輝いたトム・ソーヤことトム・サワー。その勇姿はきっと今年のKOKで見ることができるだろう。

祝リングス、アメリカ上陸成功！

ワイキキビーチでぼんやり考えた

リングスアメリカ制圧の可能性

文／堀江ガンツ

そんなことをぼんやりと考えつつ、スチュワーデスの美しさに見とれていると、もうそこはハワイ。日本時間では深夜のはずなのに、こちらは前日の朝。当然、以後キツイ時差ボケに悩まされることとなる。

ボク自身ハワイは2度目なのだが、今さらながらハワイの気候は素晴らしい。日差しは強く、気温は高いのに、全くと言っていいほど汗をかかない。実に気持ちのいい暑さなのだ。ワイキキのビーチは、日本が夏休み突入直後とあって、やはり日本人の姿が必要以上に目立つ。ここで日本プロレス界の伝統的パブ・スタイル、宣伝カーを走らせたらさぞかし宣伝効果があるだろう。間違いなくひんしゅくを買うだろうが。

そんなワイキキ・ビーチを後目にいよいよリングスUSA大会が行われるブライスデル・アリーナへと向かう。ブライスデル・アリーナはハワイ最大のショッピング・モール、アラモアナ・ショッピングセンターから北へ（たぶん）約1キロのところに位置する、昔からボクシングやプロレス、バスケットボールなどが行われる由緒正しき大会場。外から見るとドーム球場を小さくしたような印象。そして中に入ってみると、ちょうど日本の名古屋レインボーホールによく似た作り。収容人数はざっと8000人強といったところか。プロジェクター方式の巨大なスクリーンも設置してあり、どこからでも見やすそうなナイスな会場だった。

ちょっと早く来すぎたため、選手はまだ到着していなかったが、プレス申請をすると、今大会のプロデューサーを紹介された。なぜか目の周りに世界のプロレスのホーレス・ザ・サイコパスを彷彿させるペイントをした、キテレツな人物だったが、彼こそがハワイ最大のバーリ・トゥード・イベント、「スーパーブロウル」のプロデューサーでもあるとのこと。そう、実は今回のリングスU

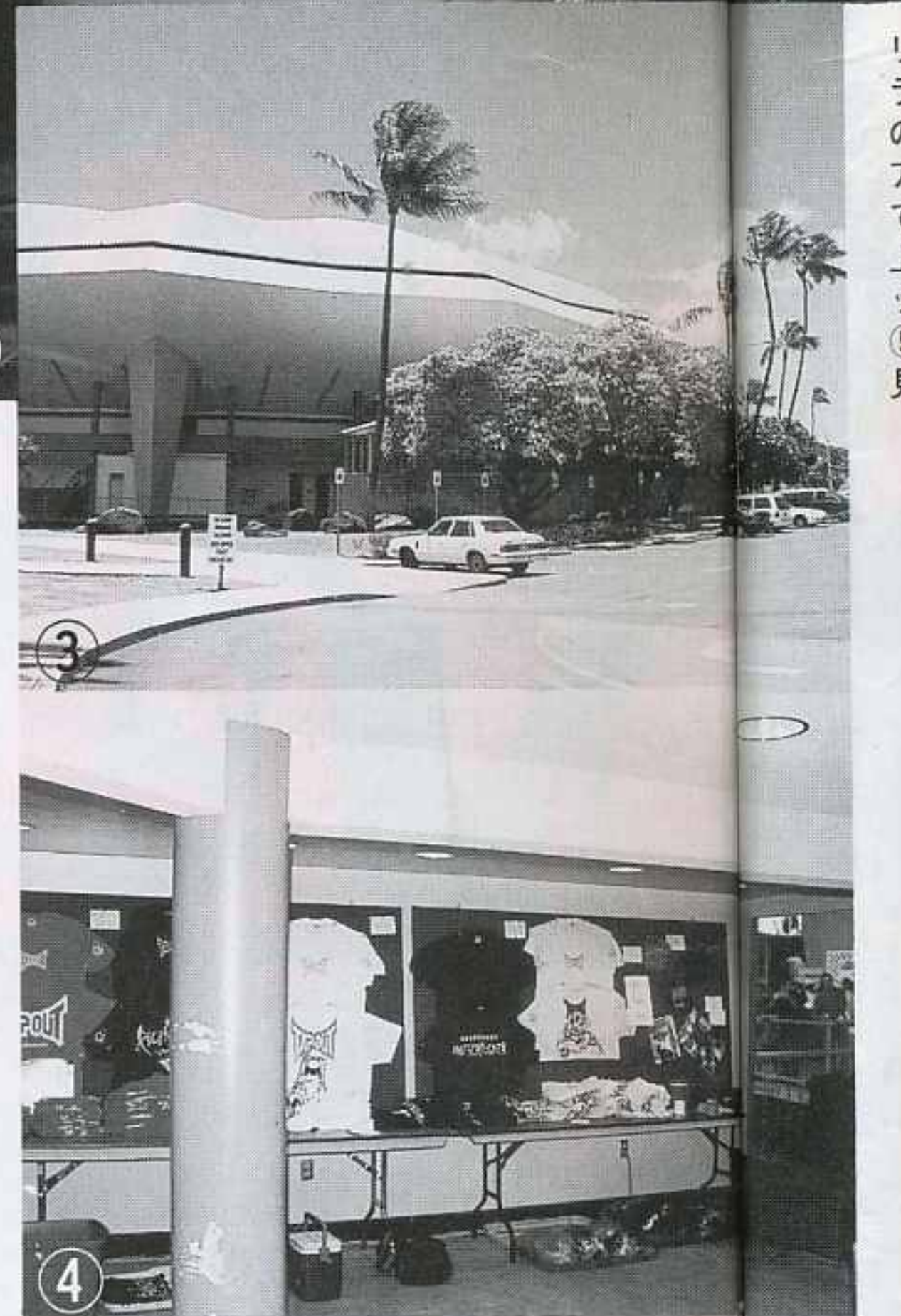
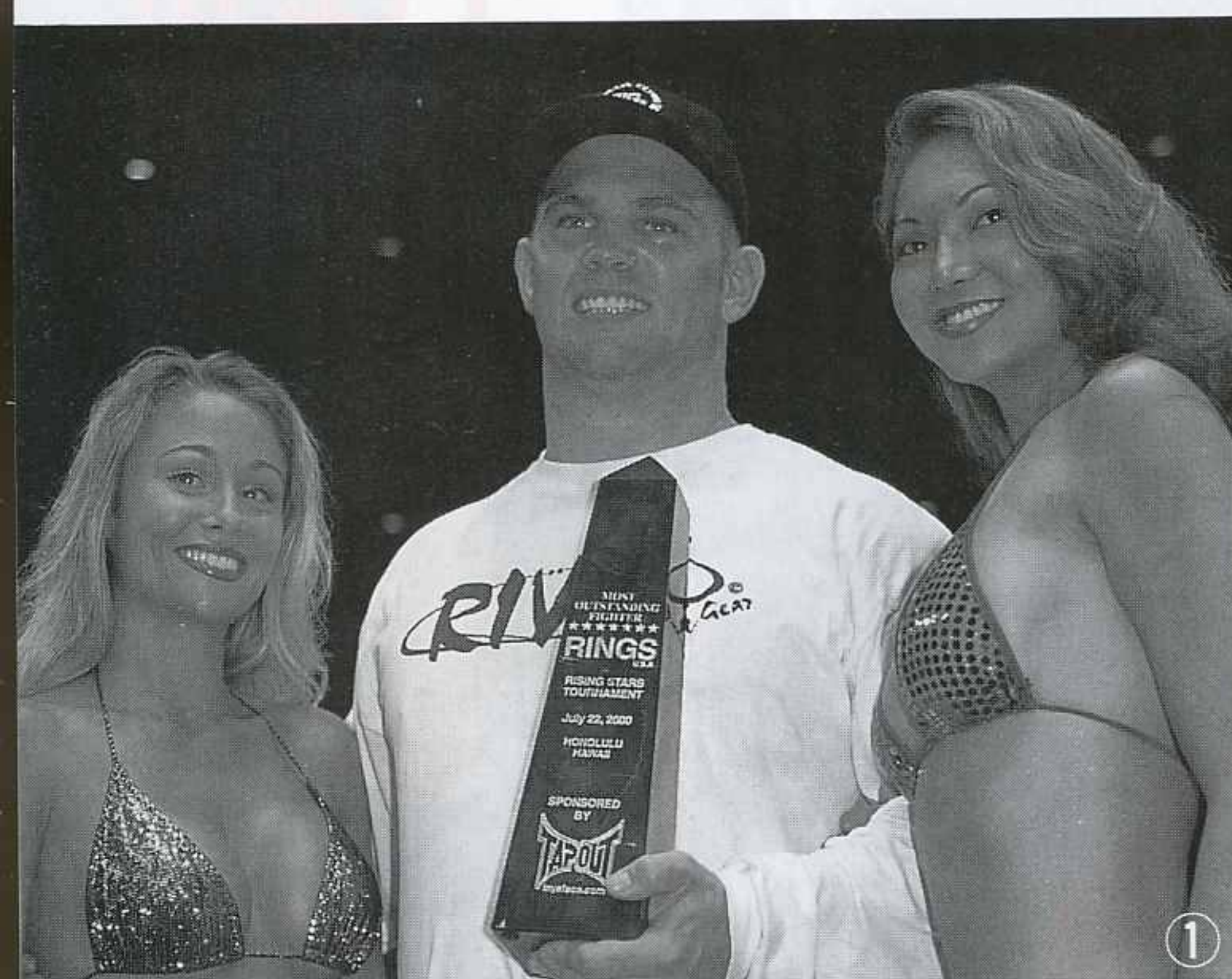
SA大会は日本のリングスが仕切るわけではなく、リングス・前田代表とエクストリーム・チャレンジ、モンテコックス代表が提供し、現地ハワイのプロモーターが運営する三位一体となったイベントなのである。言い換えれば、アメリカ国内のネットワークの結晶でもあるのだ。

しばらくすると、選手が続々と会場入り。高阪、金原、滑川の3選手は早速リング上でウォーミング・アップを開始。金原選手この時点から既に、減量のために2日前からおにぎり一個しか食べてないことと、時差ボケでの体調の悪さをしきりにボヤいていた。

そこへしばらくして登場したのが、我らが総師、日明兄さん。早速駆け寄り「紙のプロレスの堀江と申します。今回は取材よろしくお願いします！」と挨拶。すると前田総帥は「それや！」と一言。続いて「やっぱ、『紙プロ』は違う！　『挨拶が聞こえないあなたが悪い』なんて言わんもんなぁ」と、ただ挨拶をしただけなのに妙に感心される。前田総帥に対して海外で失礼な態度を取ってくれたらしい、K誌の記者に感謝である。

この日の前田総帥はいつもの赤いブレザーではなく、「やっぱ、リングスの代表やからジャケット着なアカンかなと思ったけど、ハワイだからいいでしょ」赤のアロハに短パンという、ラフな出で立ち。そんなリゾート仕様の総帥は「チケット前売りで4000枚以上売れてるらしいよ」と念願のアメリカ進出が順調に進んでいることに満足げだった。

前田総帥の言葉通り、試合開始直前になると続々と観客が集まり、最終的には大きな会場の約6割が埋まるなかなかの盛況となった。

さて、いよいよ試合である。今大会はヘビー、ミドルに別れた二つのトーナメントの1・2回戦を行う日本のKOKトーナメントと同様の形式で、合計12試合。参加選手は正直言って日本ではほとんど無名の選手が多かったので、レベル的にはあまり期待していなかったが、その予想はいい意味で裏切られた。

これまでリングスの海外大会では、例えばロシアなどはグラウンドしかできない選手、オランダではスタンドしかできない選手が多く参加していたが、今大会は出てくる選手のほとんどが、NHBのセオリーを知っており、スタンドもグラウンドもできる、なかなかハイレベルな闘いが続出した。さすがはNHBの本場アメリカである。

しかし、逆に言えば決勝トーナメントに進出した選手の大半がリングスの選手であることでもわかるように、ボクシング＋レスリングというアメリカNHB界の主流のスタイルは、グラウンドでの顔面パンチが禁止され、〝極め〟の技術が重要視されるリングスのルールでは、必ずしも通用しないことを露呈していた。

さて、観客の目にリングスはどのように映ったのだろう。結論から先に言うと、大いに受け入れられていた。やはり一番歓声が上がるのはスタンドでのパンチの打ち合い。グラウンドのブレイクがあることによって、スタンドの攻防が何度も見られるということが、とにかく好評で、グラウンドで膠着するとすぐに客席から「ブレイクしろ！」の声が飛んでいた。この辺は日本のリングスの会場と同じであり、早くもアメリカの観客はKOKの楽しみ方をみつけたようだ。

逆に受け入れられなかったのは、グラウンド状態でのボディへの打撃。相手の上になり鎖骨やボディにコツコツとパンチを入れるのは、日本のリングスではお馴染みの光景であるが、顔面におもいっきりパンチを振り下ろすNHBを見慣れた観客にとっては、どうにも滑稽に見えるようで、鎖骨へのパンチを多様していた滑川選手は失笑を買っており気の毒であった（しかも、試合途中に足の指を骨折したため、マリオ・スペーヒーばりにハイハイしながらのタックルを仕掛ける姿にも、失笑とブーイングが飛んでいた）。

さて、この大会を踏まえて今後のアメリカでのリングスの可能性を考えてみよう。まず、やる側からすると、グラウンドの顔面パンチがないこのルールは、アメリカのNHBファイターの主流である、ボクシング＋レスリングだけではなかなか勝てないルールなので、総合のファイターの中でも、特にサブミッションに自信のある選手が参戦してくる可能性がある。そうなれば、NHBとは別の技術的な進歩を遂げることになるだろう。

そして、見る側にとってみれば、ハワイ大会に限って言えば、グラウンドでのパンチがない物足りなさより、寝技での膠着が少なく、スタンドでの殴り合いが多い面白さの方が勝っており、アメリカの観客にも十分に受け入れられたと言っていいだろう。

とにかくリングスのアメリカ進出第1弾は無事成功した。しかし大事なのはこれからである。146ページからのインタビューでTKも語っているとおり、いかに面白いものを提供し続けることができるかが鍵であろう。

最後に試合後前田総帥に話を聞いてみた「成功じゃないですか。（観客が）グラウンドの攻防についてきてくれたし、土壌としてはいいんじゃないですか。まぁ、次は来月、ブラジルに渡ってリングス・ブラジル設立してきますよ」

前田日明の目はアメリカ進出成功にとどまらず、はやくも次を見ていた。

リングスUSA in Hawaii
30ページ大特集

2連勝しても内容が納得出来なければ、全然嬉しくないっスよ!!

USA決勝トーナメント進出&骨折記念

滑川康仁

リングスの次代を担うファイターとして期待される滑川康仁が約1ヶ月間のシアトル特訓を経て、7キロの減量を敢行して挑んだリングスUSAミドル級トーナメントで見事2連勝を遂げた。手放しで喜びたいところだが、本人は内容に全く納得がいかないようす。この男のモチベーションはどこまで高いのか!

付 滑川康仁のシアトル日記

聞き手/堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影/黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

滑川　ちょっと『紙プロ』さんに言いたいことがあるんスけど。

──え？　なんですか？

滑川　ボクのコメントが『紙プロ』に載るときって、なんで「す」がカタカナになってるんスか？

──だって滑川さんそういうしゃべり方じゃないですか（笑）。

滑川　まぁ、んなことはどうでもいいんスけどね。最近オレ落ち込んでるんですよ。

──足のケガで気が滅入ってるんですか？

滑川　いや、ハワイ大会が納得できない内容だったんで、それに悩まされてるんスよ。

──ハワイでは2連勝したのにですか？

滑川　いやいや、勝つには勝ちましたけど内容が悪すぎますよ。だから日本に帰ってきたあと、骨折したこともあって実家に帰ってたんですけど、夜中にWOWOWでハワイの試合が放映されてたから親父と一緒に見たときに辛くて仕方なかったですよ。

──でも、試合中に足の親指を骨折するアクシデントがあったのに、フルタイム戦い抜いての勝利ですから落ち込むことないと思いますよ。

滑川　まぁ、骨折があったんで今回はなんとか言い訳になるんですけど、それにしても自分の課題がなにひとつクリアできなかったのが悔しいッスね。

──一番の課題は何だったんですか？

滑川　やっぱり試合でリキんでガチガチにならないことッスね。

──確かに見ていて「堅いな」とは思いましたけど、1回戦はしっかりフロント・ネックロックで一本取ったじゃないですか。

滑川　いやいや、あの技は入りやすいんですよ。ホントはいろんな技を出したかったんですけど、試合になると動きが酸欠の金魚みたいになるから、あれしかできなかったんです。

──そのフロントネックロックで一本勝ちした1回戦ではまだ足は負傷してなかったんですよね？

滑川　足をケガしたのは2回戦ですね。相手がパンチで来る選手だったんで前蹴りで突き放したんですよ。そうしたら足の親指が相手の腕に当たって、「グニャッ」って音がしたんです。変な音がしたからすぐ「骨折した」と思いましたね。でも、そのケガを差し引いても、不甲斐ない内容で全然満足できるもんじゃないですよ。

──金原さんも滑川さんのことを「滑川は練習では、かなりのレベルにきてるんだ。あれが試合で出ればかなりの選手なんだけど」って言ってたんですよ。

滑川　でも、その技術って金原さんが10年間コツコツ積み上げてきたものを、一気に惜し気もなく教えてもらったものなんですよ。だから金原さんにはホント感謝尽きないですよ。金原さんにもし何かあったら、すぐ駆け付けるような気持ちもありますね。

──そこまで思ってるんですか。

滑川　とりあえず気持ちだけは持ってます。だからせっかく教えてもらった技術が試合で出せないなんて、稽古つけてくれる先輩方に申し訳ないですよ。

──すべては試合で堅くなってしまうことが原因なんですね。

滑川　もう自分はキャリア的にいっても「リキむから」っていう言い訳ができない時期に来てるんスよ。だからリキむのが克服できないなら、リキむならリキむなりに自分のスタイルを探さなきゃ、もうどうしようもないんですよ。

──リキむスタイルっていうと例えばどんなものですか？

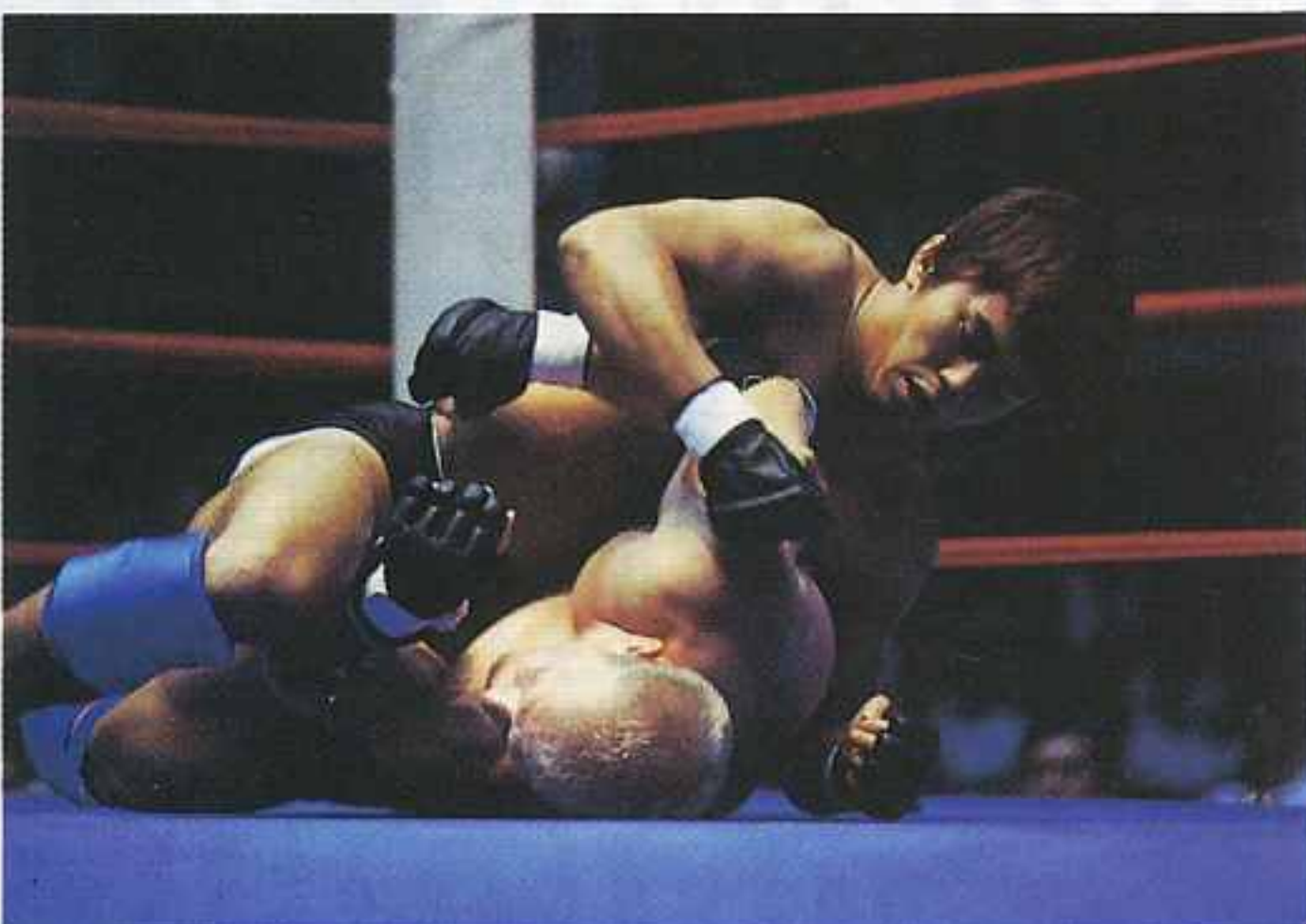
滑川　例えばボクは試合になって堅くなると、ガードができなくなってパンチもらっちゃうんですよ。

──ハワイの1回戦でも出会い頭のいいパンチもらっちゃいましたよね。

滑川　だからもう、これを逆手に取って、ガードしないのをウリにしようかなと思ってるんです（笑）。

──矢吹ジョーばりのノー

本人は「リキみすぎ」と言うが、「ぶっ殺す！」と言わんばかりの気合いの入った表情はプロとして魅力的だ。

「内容は全然ダメッス!!」と言うが、2連勝!!　*PLAY BACK 7.22 BOUT*

2回戦の相手は1回戦で、あのデイヴ・メネーをパンチでボコボコにして判定勝ちしたクリス・マンセン。1回戦同様、パンチでラッシュを仕掛けてくるマンセンに対し、滑川は前蹴りで応戦。しかしそのとき運悪く足の親指を骨折してしまう。その後はなんとか組み付いて、ボディーにコツコツパンチを落としていくが、動きのない展開に客席からはブーイング。結局、グラウンドでのポジションを制した滑川が判定で勝利を収めたが、判定が告げられるやこの日最大のブーイングが起こってしまった。

2回戦
○滑川康仁　（2R判定）　クリス・マッセン×

滑川の初戦の相手は地元ハワイの選手、フラニコ・ヴィターレ。滑川自身は「秒殺しなきゃいけない相手」というが、アグレッシブにパンチを出し、ガードポジションからの極めを果敢に狙っていく将来性が楽しみなファイター。滑川はこの新鋭に対し、1Rはかなりパンチをもらってしまうなど、動きに堅さが見られたが、2Rになると一気にフロントチョークで絞め、タップを奪った。

1回戦
○滑川康仁（2R0分26秒 フロントチョーク）フラニコ・ヴィターレ×

今年はKOKに出たいから、USAトーナメントは絶対に勝ちますよ！

ガード戦法ですか（笑）。

滑川　「ガード出来ないんだろ」って言われたら、悔しいじゃないですか。だから「あえてやらねえんだよ！」って答えるためにそうしようかな、と（笑）。

——そんな後ろ向きな理由なんですか（笑）。

滑川　あとは自分は試合までの調整がヘタだなんですよ。この間、山本さんが「試合前に燃焼しすぎて、試合で力が出なかった」って言ってたんスけど、ボクもそのパターンなんですよ。デビューして1年くらいは、ずっとリング上がった瞬間が疲れのピークで、クリストファー・ヘイズマンとやったときなんか、ゴングが鳴った瞬間に眠くなりましたから（笑）。

——アハハハ！　リングで寝たらいけませんよ（笑）。

滑川　ホント、あの時はエプロンで横になったら絶対に眠っちゃうところでしたよ（笑）。普通だったらリングに入ったら、ガーッと燃え上がるんですけど、ボクはその前に燃焼してるから、リングに上がったらもう体力が空っぽなんですよね。

——毎回オーバーワークでリングに上る前から、真っ白な灰になってた、と（笑）

滑川　ホントにそうなんですよ。今年の2月のオランダ大会も、メチャメチャ気合い入ってたんですよ。試合前もダッシュとか何本もやって、アドレナリンがバーッと出て、でも、リング上がったら途端にガクーンと疲れちゃってダメでしたね（苦笑）。

——ピークが試合前に来ちゃうんですね（笑）。

滑川　外人なんて調整が上手いから、試合前までリラックスしてるのに直前になるとガーッ気合い入れるんですよ。だから、自分も彼らを参考にしてペースを作りたいッスね。

——滑川さんはハワイ大会に出場する前に、約一ヶ月間シアトルで練習していたわけですけど、シアトルに行ったのも自分のスタイルを作る作業の一環だったんですか？

滑川　いや、一言では言えないッスね。

——例えば山本（宜久）さんなんかは「スピードを落とさずに体重を増やす」っていう目標がありましたけど、滑川さんはなかったんですか？

滑川　いろいろボク旅行いくんスけど。忘れっぽいんで、物を無くさないようにするのが目標でしたね（笑）。

——旅の注意事項を聞いてるんじゃないんですよ！（笑）。

滑川　でも、オレにとっては重要なんスよ！　だって、まえにグルジア行ったときはリングス無差別級のチャンピオンベルトを危うくなくしかけましたから。

——アハハハ！　あの前田さんが「時価ン千万円ですよ！」っていってるベルトを（笑）。

滑川　ボクがホテルの駐車場に置き忘れちゃったんですよ。グルジアでは置き引きなんて当たり前なんで、部屋に入って気づいたときは焦りましたよね。しかも駐車場に行こうにも、エレベーター4つあるのに、3つ壊れてて。1個しかないから、なかなか来なくって（笑）。それで急いで駐車場に行ったんですけど、もうないんですよ。あのときは世界の終わりだと思いましたね（笑）。

——どうやって見つかったんですか？

滑川　（ゴギテゼ・）バクーリの師匠が車の中に入れておいてくれたんですよ。見つかったときはもう腰が抜けましたね。ホテルの中をバクーリの師匠に担がれて入りましたから（笑）。あの親父はボクの恩人ですよ。もしなくしてたら、ボクは責任を取ってリングス辞めようと思いましたから（笑）。

——アハハハ！　「滑川康仁、ベルトを紛失した責任を取って引退」じゃカッコ悪すぎますよ（笑）。そんな話はともかく、シアトルの話を聞かせてくださいよ。聞くところによると、随分モーリスに可愛がられたとか、からかわれたとか(笑)。

滑川　（すぐさま）誰が言ったんだよ！　あれ？　オレが言ったのかなぁ…。まぁ、とにかくモーリスには顔を合わせたくなかったですね。

——どんなことされたんですか？

滑川　言葉で色々言ってくるんですよ。まぁ、内容は日記に書いたからいいじゃないですか。でもホント子供みたいなことばかり言ってきて、「これでも人の親なのか」と思いましたね（笑）。

——では、モーリスのこと

滑川康仁のシアトル日記

6月27日
初めてアメリカ本土に来た。凄く暑かった。高阪さんが「シアトルに来てこんなに暑い日はない。モーリスのジムにクーラーがないからどうなるんだろう」と言っていたが、クーラーはあった。時差ボケで夜もなかなか眠れなかったので長い一日だった。

6月28日
朝、高阪さんの留守電に、僕がハワイで試合をすることが決定したという、会社（リングス）からのメッセージが入っていた。いま、94キロだからミドル級で出場するために減量しなくてはならない。試合ができるのは嬉しいけれど、せっかく最近太れてきて、シアトルにも体をでかくするために来たので、複雑な気持ちになった。
まず、今日はモーリスさんとキックのライトスパーをした。子供扱いされたけど、後でいろいろ教えてくれた。エッディさん（リングスのムエタイ・トレーナー）とは違った凄さがあった。

6月29日
いま、吐きそう……。時差ボケで眠れなかったせいでフラフラだった。眠れないと疲れが回復しない。ウエート・トレーニングで1セットやるたびに、初めてタバコを吸ったときの、頭がクラクラする感じがあった。

6月30日
今日は水泳をした。昨日はけっこう眠れたので気持ち悪くならなかった。

7月1日
昨日の夜、メラトニンを1錠飲んだのでぐっすり眠れた。自然じゃないことはしたくないけど、睡眠不足だと練習に集中できないので、仕方がない。
ローマン（・ロイドバーグ）とスパー中に俺のローが彼のヒザに当たって、すねの骨の脇の筋肉を痛めてしまって痛い。すねの強さには自信があったのにガッカリ。月曜までには直す。
スーパーに行くと甘い物が食べたくなるけど我慢している。試合の為に減量中だからだ。だけど腹が空いて練習すると気持ち悪くなる。俺はいつでも腹一杯食わないとだめかもしれない。減量はむいていない。

7月2日
今日、佐竹さんとジャイアント落合さんがシアトルに来た。佐竹さんは面白い方だ。

7月3日
佐竹さんたちと練習が終わったあと食事をして、それからコーヒーを飲みにいった。今日はもう寝る。

7月4日
今日はアメリカの独立記念日だ。佐竹さん達とみんなで中華屋で食事して、そこの駐車場から花火を見た。午後のスパーは息が上がんないで出来た。だんだん調子が戻ってきた。

7月5日
慣れない土地と生活で1週間を過ごして疲れがでてきた。夜のスパーの時、集中できなかった。ジャイアント落合もきつそうだ。

7月6日
昨日よりは少し疲れがとれた。でも、スネの痛みがなかなかとれない。

7月7日
雑誌に載るので本音の部分は書けない日記だったけど、もう書こう。
モーリスとはなるべく顔を合わせたくない。あいつは病気みたいな奴だ。関わりたくない。トレッドミル（ランニング・マシン）は速度6マイルから13マイルに移るのがすごく難しいのに、モーリスは使い方の説明もしないで俺にやらせて、後ろに倒れて足を痛めた。そうしたらモーリスはずっと「お前は集中してないから転ぶんだ」とか言って、俺が転んだモノマネをしてバカにしてくる。さらに「お前は集中してないと前田さんに電話して報告する」とか言ってくる。それを言われたら俺はもうだめだ。初日からずっとこんな感じだ。練習のことで注意されるのはかまわないけど、俺の顔を見ては「オカマ」とか言ってくるのには、うんざりしている。高阪さんには「気に入られてるから」だと言われるがもうイヤだ。

7月8日
少しモーリスを間違った感じで見てたかもしれない。俺に対する態度は相変わらずだが、スパーが終わった後、個人的に指導してくれた。ありがたいと感謝した。彼はかなり寝技が強い。あと10年は現役でできる人だ。

7月9日
今日も佐竹さん達と一緒に食事したりして半日は一緒に過ごした。拳銃と玉を付けられるベルトを30ドルで買った。かっこいいけど、それを付けては歩けないから部屋に飾るようにしよう。

7月10日
スパーリングでついた体中の擦り傷や、トレッドミルで転んだ時のヒザの傷を消毒したいと思って、スーパーに消毒液を探しに行った。間違って違うものを買っていないか念のため高阪さんに確認したものを買ったが、塗ってみたらめちゃめちゃ痛い。何

はともかく、シアトルでは色々な人とスパークリングが出来たんじゃないですか？

滑川　結構あそこのジムもプロの選手がいるんですよ。でも、前田道場にいる人ほどレベルは高くなかったんで、ボクも極めの練習ができて、そういう意味では自信つきましたね。ボクは毎日、金原さんや山本さん、坂田さんとスパーリングやってるんで、極められない自信はすごくあるんですよ。ロシアでハンとやったときも全然極められる気がしなかったッスからね。

――そうなると、あと課題は極めの技術向上が課題にになってきますか？

滑川　そうッスね。だからボクはKOKルールが大好きなんスけど、自分にとっては、メチャクチャ難しいんですよ。ボクなんか試合になると技がなくなりますから（笑）、グラウンドで上になったときは「ここで殴れたらいいなぁ」とか思いますからね。

――では、いまのところ滑川さん的にはVTの方がやりやすいですか？

滑川　いや、やっぱりどんなルールでも苦手とか言ってちゃダメなんスよ。そろそろホント一皮剥けないとダメですよね。

――ところで今回は減量してミドル級で出場しましたけど、今後もミドル級を中心に闘っていこうという気はあるんですか？

滑川　あのヘビー級のメンバー見たら……ミドル級の方がいいなって（笑）。

――また、後向きな！（笑）。

滑川　だってさぁ、リングスのヘビー級ってデッカ過ぎますよ！

――でも、滑川さんも去年ウチでインタビューしたときは、（ビターゼ）タリエルとか（ハンス）ナイマンとかとやりたいとか言ってたじゃないですか！

滑川　（堂々と）そんなの口だけですよ！

――口だけって、そんな（笑）

滑川　強気なこと言わないとダメじゃないですか！

――どんどん言って下さいよ！

滑川　でも本音を言えば誰とでもやる用意はあるんですよ。でもいまは、どうしてもKOKに出たいから、USAの決勝トーナメントは絶対勝ちたいんですよ！

――今回のUSA大会はKOKの予選も兼ねてるわけですからね。前田さんは優勝者は無条件で出すって言ってるみたいですよ。

滑川　でもオレ以外のミドル級決勝トーナメントに残った3人（金原、ジェレミー・ホーン、ヘイズマン）は、もうKOK出場決まったようなもんスからね。

――だから滑川さん、ここで勝つしかないんですよ。ところでケガ（右足親指骨折）の方はUSAの決勝トーナメントには間に合いそうなんですか？

滑川　間に合わせますよ。治るのは多分直前になると思うんで、ぶっつけ本番になると思うんスけどね。でも、KOKには絶対に出たいんで勝ちますよ！

――KOKに出れなかったら、次の日本での試合が早くても2月の両国くらいになっちゃいますからね。

滑川　それは絶対まずいッスよ！　もしそうなったら、今年日本での試合出場がたった1試合（4・20代々木　アリスター・オーフレイム戦）になっちゃいますから。しかもオレ、45秒で負けてるから、今年日本で闘った時間がたった45秒じゃマズイでしょう（笑）。

――海外では何試合もしてますけどね。

滑川　でも、ボクは日本人ですからね。長期欠場してたわけでもないのに、日本での総タイムが45秒っていうのは絶対ヤバいっスよ、やっぱり。

――では、KOKに出場できるように、USA決勝トーナメント頑張ってください！

滑川　はい、勝つことももちろん大事なんスけど、今度こそ自分自身の課題をクリアできるように頑張ります！

【8月10日　前田道場近くのデニーズ他で収録】

滑川康仁【なめかわ　やすひと】　1974年10月27日、茨城県北茨城市出身。本名・滑川恭史。19歳でプロレスラーを志し、アニマル浜口ジムに通う。その後、前田道場に入門。2年間の新弟子期間を経て平成10年6月20日、後楽園ホールでのvs豊永稔戦でデビュー。その後は国内にとどまらず、世界6ヶ国でワールドワイドに活躍。今後、もっとも期待される選手のひとり。182cm、87kg。

度つけても死ぬほど痛い。これはおかしいと思って書いてある英語を辞書で調べたら「かゆみ止め」だった。痛いはずだ。でも一緒に探して下さった高阪さんには感謝してます。

7月11日

疲れてる。まだ火曜なのにどうしよう。今日のスパーは動けなかった。ローマンは強い。決められそうになった。彼は本職が歯医者の格闘家、俺は格闘技しかない。だから彼には負けたくない。俺はこれから強くなってやる。

7月12日

自分はどうしても立ち技で力が入ってしまう。わかっていても入ってしまう。モーリスとスパーしてて、彼が力を抜いてやっているのが解る。自分の課題は力を抜くことなんだけど出来ない。

7月13日

高阪さんが今日の夜からリングスUSAに出るためユタへ出発した。試合がんばってほしいです。というわけで、今日からジャイアンさんの部屋にお世話になっている。ジャイアンさんとは気があう。佐竹さんと初めて打撃のスパーをやらして頂いたが、凄かった。

7月14日

佐竹さんのウェイトは凄い。感心した。それについていくジャイも凄い。ジャイとは気が合う。きつそうだけどがんばってほしい。

今日はエッディーさんの誕生日。今年は何もしてやれない。去年は黄色の全身タイツを買ってあげたが、1回も着てくれなかった。そのとき2代目アフロのヅラを買った。あれから1年もたった。1代目は友人に買ってもらったがなくした。

7月15日

納得のいく練習ができた。スパーでは全然息が上がらなかったが、体が疲れているので動けなかった。

7月16日

今日朝食と昼食はベーグル1個だけで済ませて、夜は佐竹さんとジャイさんで「東京」というレストランへ行った。俺は昨日いっぱい食べてしまったので体重がオーバーだ。

7月17日

高阪さんが帰ってきた。試合は2つとも勝ったようで嬉しい。ジャイさんと一緒の部屋で過ごした期間は凄く短く感じた。彼とは気が合った。いろいろ本音を話せたから、お互い楽になったようだ。

7月18日

試合はKOを狙わないようにする。ぶっつぶすと思うと、思いっきり力が入って逆に効かない打撃になってしまうし、疲れてしまう。キックもパンチも牽制程度にして寝技で動くようにしよう。今までみたいに何日も前から力まないで、気楽に行くように決意する。

7月18日

モーリスジムで練習後に体重を計ったら87Kgしかなかった。こっちに来る前と比べると7Kgも痩せたことになる。ちょっと残念だ。でもトイレの鏡で顔を見るとほおがこけていい感じだ。試合が終わって、早く飯をいっぱい食いたい。

7月20日

今いろいろと反省している。いろいろ考えるには大切な日だった。つらいけど今後よくなるために反省して次に活かそう。

7月21日

ハワイに初めて来た。嬉しいです。今回は3日間で帰るけど次回はもっといたい。

今、寝不足で頭痛い。朝5時に起きていろいろ考えていて1時間ぐらいしか眠れなかった。いい感じでここ何日か睡眠を取れてきたんだけど、試合直前になって崩れてしまった。明日は「力を抜くこと、打撃を出さないこと、鼻で息すること」を課題にして闘おう。

7月22日

課題が克服でかなかった。悔しくて、恥ずかしい。俺はもう2年間もやっているのに格闘技ができてない。試合は取りあえず2つとも勝ったが反省する。

初戦は相手の戦意喪失だと思う。佐竹さんに教わった、いきなり拳を縦にしてのジャブが入って気持ちが萎えたのだろう。2回戦では1Rの終わりに前蹴りを出したら、相手の腕に当たってしまい、それ以降、踏ん張る度に足の親指がグニャっとする気持ちの悪い音がした。そのせいもあり、2Rはバテてしまった。練習ではスタミナはかなり自信あるのに、悔しい。決勝トーナメントではいい試合して、KOKに出たい。

7月23日

高阪さんに病院へ連れてってもらったら、骨折してた。試合後と比べるとかなり痛くなっていたので、やばいとは思っていたが悔しい。昨日の2回戦の試合内容に悩まされている。死ぬつもりで行ったのに死にきれなくて、自分に負けた。試合中の3分のつらさより終わった後の何十時間の方がつらいのにバカな奴です。力む体質なら、それなりにプロとしていい試合をしなくてはいけない。反省。

松葉杖でショッピングセンターからホテルに帰るのがきつかった。腕の皮がむけた。

7月24日

シアトルに帰ってきた。今日、宇野さん達も来た。しかし、俺の体の状態は最悪だ。骨折していてはシアトルにいても練習ができないので、明日帰国する。1ヶ月近く日本を離れたのは初めてだったので、日本に着いたら嬉しいだろう。

高阪さん、いろいろとありがとうございました。

念願のアメリカ上陸に成功!

前田日明が見たリングスUSA

遂に旗揚げ以来（というか空手道場を出すために入門した新日本新弟子時代から）の念願であったアメリカ進出を果たした前田リングス。長年の夢が叶ったからか、終始ご機嫌だったアロハ姿の前田総師にハワイ大会全試合終了後、リングスアメリカ初進出の手応えについて聞いてみた。

これを足がかりに、真の世界ランキングと世界チャンピオンを作りますよ

―リングスUSA大会が2大会終わったわけですけど、感想を聞かせて下さい。

前田　成功じゃないですか。観客の受けも良かったしね。やっぱり（膠着ブレイクがあるから）試合が止まらないんでね、そういう部分でアメリカ人にとっていいんじゃないですかね。

―アメリカはボクシングとレスリングが盛んな国ですから、テイクダウンやバックを取ったりする動きでもわかりやすく盛り上がってましたよね。

前田　そうやね。グラウンドの動きに（観客の目が）「ついて来れるかな」と思ってたけど、ついてきてかからね。オランダなんかだとグラウンドになると、すぐブーイングとか来るんだけど、こっちはそうじゃないんでね。土壌としてはいいんじゃないですか。

―あとはサブミッションに関する知識さえ教育できたら、リングスという競技の見方も出来上がりそうですよね。

前田　そうですね。

―今日、目に付いた選手というと誰になりますか？

前田　トム・サワーなんかよかったね。あとはトム・サワーが良かったのもあるんだけど、（ヴァレンタイン・）オーフレイムはちょっと運がないね。いい選手なんやけどな。

―ちょうど、アゴにパンチが入っちゃいましたもんね。

前田　それでストーンと落ちてね。

―でもオーフレイムは1回戦は素晴らしかったですよね。あんなに流れるようなグラウンドが出来るとは思いませんでしたよ。

前田　いや、でも1回戦の相手（クリハーパイ）はただのボクサーやからね。でも、オーフレイムはなんか運がないなぁ。

―ところで今日のマッチメイクは、アメリカのプロデューサー任せなんですか？

前田　いや、これはオレとモンテ（コックス）で。

―そうなんですか。いい組み合わせになってると思ったんですよ。

前田　やっぱり組み合わせ次第で選手を活かしたり、潰したりするからね。その辺はちゃんとやらないと。

―今日はルールが日本とちょっと違いませんでしたか？

前田　例えばどんなとこ？

―「ストップ・ドント・ムーブ」を採用していましたけど。

前田　ロープ際の攻防はね、あそこでブレイクして立たせてもいいんやけど、あんまりブレイクやってるとブーイング出るかもわかんないっていうんで、ちょっと実験的にどうなんかなってやってみたんやけどね。日本のルールが完全やないからね。いろんな部分で試行錯誤してやっていかんと。

―あと最後のレスリングの選手が自分からリング外に出てたりしましたよね。

前田　あれはホントね日本だったらイエローやったね。それはちょっとやらんとあかんかったね。

―今日のレフリーはどなたなんですか？

前田　彼は元日本のキックボクサーですよ。嶋西さんっていう。

―これはどういうつながりなんですか？

前田　彼は結構……高阪！　嶋西さんどっから来たん？　詳しくは高阪に聞いて。TK　AMCの主審ですよ。AMCの支部みたいなのがハワイにあるんですよ。

―そうなんですか。では、日本人選手が2人とも決勝トーナメントに出場しましたけど、それについてはどうですか？

前田　まぁ、一番ルールに慣れてる連中なんでね。でも、ウチのルールは入りやすいルールやからね。これからこっちの連中もすぐ研究してどんどん強くなっていくやろうね。

―では、これから各国でトーナメントは行っていくつもりなんですか？

前田　これからワールド・ランキングとワールド・チャンピオンを作るんでやりますよ。

―それは来年のビジョンですか。

前田　そうやね、それと今回アメリカでヘビーとミドルにわけてみたけど、日本でも今度、実験的にミドル・ウエイト中心の大会を後楽園で開こうと思ってるから、期待してて下さいよ。いろんな面白いメンバーに声かけてますから。

なぜだ!?　リングスにこの男が出現!

ブライアン・ジョンストン (CLUB G-EGGS)

出場選手以外にもセコンドや観客として、何人かの格闘家が会場に姿を見せた『リングスUSA大会inハワイ』。中でも驚いたのは、新日本プロレスの7月シリーズに来日していたブライアン・ジョンストンが来場していたこと。「すわっ！　ジョンストン、リングスに参戦か!?」ジョンストン来場の真意を確かめるべく、早速コメントを取ってみた。

―ハワイへは今回のリングスUSA大会のために来たんですか？

ジョンストン　いや、ニュー・ジャパン（新日本プロレス）のツアーが終わったんで、ガールフレンドとバカンスで来たんだ。そうしたら昨日、彼女がこの大会の新聞広告を見つけたんだよ。それで面白そうなんで見に来たんだ。

―あ、単なるバカンスでしたか（笑）。では、今日出場する選手で知っている選手はいますか？

ジョンストン　ジョン・ルイスとか友達は会場で何人か見かけたけど、みんなセコンドやギャラリーとして来ているみたいで、出場する選手では知っているのはいないね。

―今回は日本の団体であるリングスのイベントだということは知ってましたか？

ジョンストン　それは知ってるさ。大会名も『リングスUSA』だからね。だからこそ、興味があって見に来たんだよ。

オレがこういう闘いに戻ってくるとしたら……マネー次第かな（笑）

―日本のリングスについてはどんなイメージを持っていますか？

ジョンストン　グラウンドでのパンチが禁止で、ブレイクが早いリングスのルールは、自分がやるとしたら好きじゃないね。でも、アメリカだとNHB系の大会は限られた地区でしか開催できなくなっているから、リングスがきっかけになって、アメリカの多くの地区でフリーファイトの大会が開けるようになればいいと思うよ。

―ジョンストン選手は現在日本でプロレスラーとして成功していますけど、将来的にこういう闘いに戻ってくる気はありますか？

ジョンストン　う～ん、マネー次第かな（笑）。（日本語で）オッキイ・オカネ・ホシイデス（笑）。でも、正直言うといまはニュージャパンでの闘いが充実してるから、NHBに出場する気はないよ。オレにとってはNHBの闘いより、G1クライマックスでどう闘うかの方が重要だからね。アイ・ラブ・ニュー・ジャパン・プロレスリングさ。

―では、ジョンストン選手のかつての盟友である藤田選手が『PRIDE』で活躍してますが、それについてはどう思いますか？

ジョンストン　"かつて"じゃなくていまでもフジタは盟友だよ（笑）。フジタはとにかくタフだし、ハートが強いところがいいね。技術的にも『PRIDE』デビューの頃はまだまだという感じだったけど、いまはかなり上達してるからすごくいいと思うよ。だからいまの時期は本当は一つのジムで、みっちりと時間をかけて練習した方がいいと思うんだけど、彼はちょっとミスター・イノキに振り回されすぎな気がするね（笑）。

―迷わずいろんなところに行きすぎてる、と（笑）。では、藤田選手に続いて今度はケンドー・カシン選手が今度『PRIDE』に出場しますけど、ズバリ勝てると思いますか？

ジョンストン　イシザワの対戦相手はヘイゾ・グレイシーなのか？

―いや、ヘンゾの弟のハイアン・グレイシーに決まりました。

ジョンストン　ヘンゾじゃないなら、大丈夫。いけるんじゃないか？　いきなりヘンゾ・グレイシーというのは厳しいと思ってたけどね。実はイシザワとは、この前のツアーでも一緒にスパーリングしてたんだよ。

―え!?　バーリ・トゥード用のスパーリングですか？

ジョンストン　そう、NHBスタイルのグラウンド・スパーさ。彼はスモール・ガイだけど、凄くいいレスラーだから、体格差さえなければグレイシーが相手でも勝てると思うよ。

―ジョンストン選手にそう言われると、心強いですね。

ジョンストン　オレもニュー・ジャパンの一員として彼には勝ってほしいよ。（日本語で）イシザワ、ガンバッテクダサイ（笑）。じゃあ、オレは彼女が待ってるから、インタビューはこのくらいでいいかい？

―ハイ、どうもありがとうございました！

リングスUSA in Hawaii
30ページ大特集

"ハワイの巨象"
ボヤキング・カーチス・イカウケア出現!!

金ちゃんの ハワイに来てまで なんで そ～なるの!?

金原弘光インタビュー

いつ何時でもボヤく男、金ちゃん。しかし今回ばかりは楽園ハワイで収録、しかも2連勝の後ということで、ボヤきを返上し景気のいい話が飛び出すインタビューになるかと思われたが、やっぱり口から出るのはボヤき節なのであった。

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

マリオ・スペーヒーは寝技だけでいったら、今までやった誰よりも強かったですね

金原　さぁ、今日は俺に何をボヤかせたいんだ！（笑）。

—アハハハ！　なんですか、いきなり（笑）。

金原　だって『紙プロ』にインタビュー（NO・27）が載ってから、どこ行っても『ボヤキング・オブ・キングス』って言われるんだから（笑）。

—反響が大きくてなによりです（笑）。

金原　どうせ今日だって俺をボヤかせたいんでしょ？　だから「俺に何をボヤかせたいんだ！」って。ゴングの「金沢、オレに何を言わせたいんだ」みたいなもんですよ（笑）。

—あ、得意の長州ネタ（笑）。

金原　あれは面白いよねぇ〜。最近はいつも高山（善廣）選手と長州さんの話をしてますからね（笑）。

—長州ネタはウチの編集部でも大流行中ですよ。「またぐなよ！」とか（笑）。ところで高山選手とは、いまでもよく話したりするんですか？

金原　うん。しょっちゅう喋りますよ。

—全日が分裂するときも話したりしたんですか？

金原　最初ね、俺が東スポとか見て「全日危ないらしいじゃん、大丈夫なの？」って電話してたんですよ。そしたら「なんか周りはみんなソワソワしてるけど、僕は2回も倒産を経験してるから、屁でもないですよ」とか言ってましたけどね（笑）。

—アハハハ！　分裂慣れしちゃってるんですね（笑）。

金原　僕にしてもそうだけど、一度団体の崩壊を経験したら結構へっちゃらになりますよ。それに高山選手はいざとなったらWCWも待ってるしね。

—グレート・ムタからのラブコールがありましたからね（笑）。

金原　だから「リングネームはグレート・タカにするの？」って言ったら、「そんな安っぽい名前にはしないです」って言ってましたけどね（笑）。でも、ホントにノーフィアーがWCWに行ったらおもしろいと思うけどね。僕がプロデューサーだったら行かせますよ。

—金原弘光プロデュースのノーフィアーっていうのは見てみたいですね（笑）。ま、ノーフィアーのことはともかく、お言葉に甘えて、今日もたっぷりとボヤいていただきましょう（笑）。

金原　じゃあ、まずは何からボヤこうか（笑）。

—ちょっと前の話になりますけど、『コロシアム２０００』（5・26東京ドーム）でのマリオ・スペーヒー戦からお話を伺いたいんですけど。

金原　いや、スペーヒーは俺のことよく研究してたし、実際ホントに強かったですよ。

—僕の個人的な感想でも、あの日、『コロシアム２０００』に出場した選手の中で、一番強く見えたのがスペーヒーでしたね。

金原　ホントそうですよ。ヒクソンなんかより絶対強いでしょ。俺さ、今まで色々な強いヤツとスパーリングしたり試合したりしてきたけど、寝技だけで言ったら、彼が一番強かったからね。

—はぁ〜、桜庭選手なんかを始めとして、錚々たるメンバーと試合やスパーリングをしてきた金原選手でもそう思いますか？

金原　うん、スタンドは向こうが俺の立ち技を物凄く警戒してたからわかんないけど、寝技だけでいったらホントに一番強かったよ。

—なんか金原さんが寝技から逃げても逃げても、全部先回りされて出口が塞がれるような感じでしたもんね。

金原　普通ああいう展開になったら最後には付いてこれなくなって逃げられるんだけど、あれはしつこかったね。その代わり向こうもかなり息が上がってたと思うよ。だからあと3ラウンド欲しかったね。

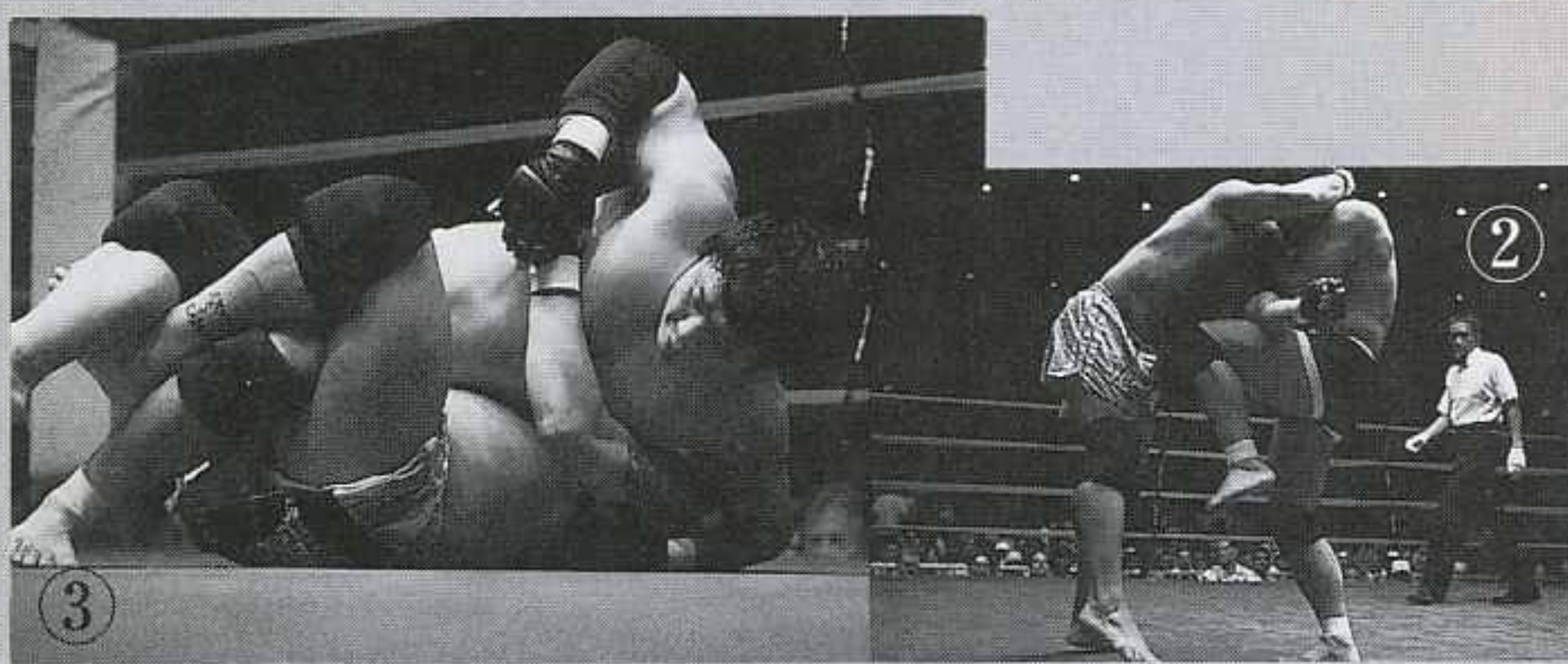
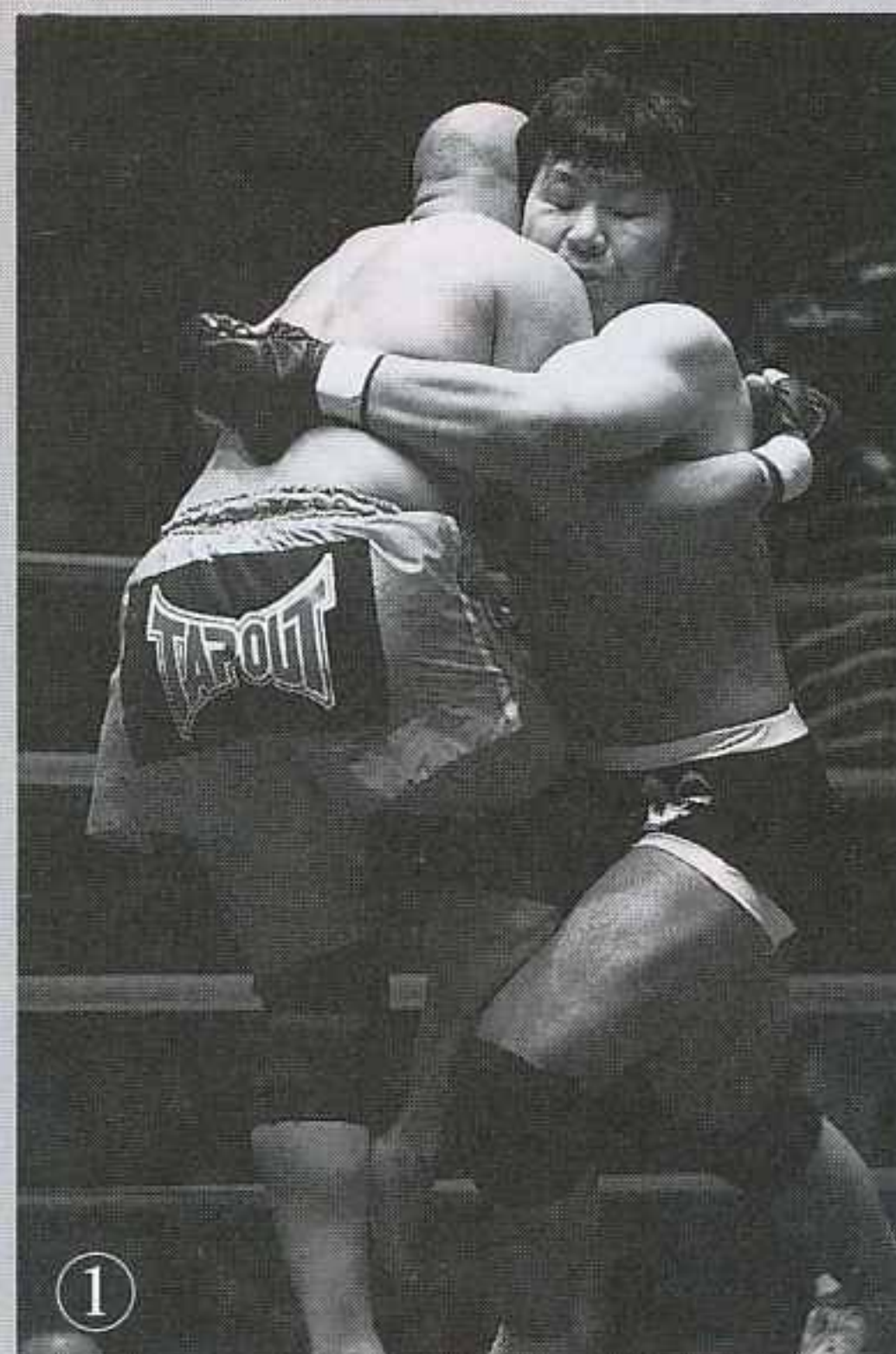
—あの日はなぜか普段のリングスルールの1R10分で2Rが5分じゃなくて、5分2R制でしたからね。

金原　最初に5分2ラウンドだって聞いて、「楽だからいいかなぁ」と思ったんだけどね（笑）。でも、やっぱり体格差がある場合は、短い時間だと重い方が絶対有利なんですよ。だから体格差をテクニックとスタミナで克服するには、5分5ラウンドくらいのルールにしないと無理でしょうね。

—ホイス・グレイシーなんかも、体が小さいから桜庭選手に時間無制限を要求したんでしょうしね。

金原　そうそう。小さいヤツが大きいヤツとやるには、長〜いこと引っ張ってスタミナ切れを待って、最後に仕留めるっていうようなパターンにしないとなかなか勝てませ

KANEHA〜RA's 7.22 PUTI BOUT REVIEW

③ ② ①

金原の初戦の相手は、パンクラス出場経験があるセラーノ。試合開始直後こそ相手のワンツーを浴びた金原だったが、すぐさま組み付いて四ツ相撲に持ち込むと①今度は得意の首相撲に持ち込んでヒザを土手っ腹にブチ込む②テイクダウンを奪いサイドポジションに持ち込めばもう、金原の独壇場。ダブルリストロックからストレート・アームバーに移行し、タップアウト③まず、1回戦は完勝で乗り切った。

○金原弘光　1R2分7秒 ストレート・アームバー　エイドリアン・セラーノ×

んよ。

——そうなるとリングスもこのルールでやってる以上は階級制にならざるを得ないと思いますか？

金原　やっぱり無差別の醍醐味っていうのもあると思うけど、そろそろ階級をちゃんとつくらないとダメですよね。僕なんかもアマレスの強いヤツとスパークリングしても、体格が変わんない人にはタックル取られるけど、体重が70キロ台の選手のは切れますからね。やっぱり体重差っていうのは大きいですよ。

——そう考えると、今迄相当しんどい事をやってたってことですよね。6月にメインで対戦したレナート・ババルもでかかったし（笑）。

金原　あれもオファーが来たときは105キロって聞いてたから「やってもいいかな」と思ったら、当日計量したら113キロでしょ？　俺と20キロも違うんだよ。ふざけんなと思って（笑）。

——20キロの体重差はきついでしょうね。

金原　しかもあいつデカくても動けるからね。昔のヘビー級ってパワーだけって感じの選手が多かったけど、いまはババルにしてもみんなテクニックもあるし、スピードもあるじゃないですか。ああなると、やっぱりキツくなりますよね。

——穴も無くなってきてますよね。

金原　そうそう。だから95キロ以上以下で分けたほうがいいですよ。それか体重差がある場合は5分5ラウンドくらいでやるとかね。このままいくと前田さんだったら、僕とボビー・ホフマン（120キロ）のカードなんか平気で組みそうですからね（笑）。

——しかも前田さんの場合、断ったら「この、根性なし！」とか言いそうだし（笑）。

金原　実際、前田さんに言われたことがあるんですよ。「ホフマンなんか、潜り込んでパンチ打てば倒れるから、大丈夫やろ」って（笑）。

——シンプルでいいですね（笑）。でも、今回のリングスUSA大会は金原さんはミドル級での出場だったんで、願ったり叶ったりだったんじゃないですか？

金原　でも、そうなると今度は減量が苦しくて苦しくて（笑）。

——うまくいかないもんですね（笑）。

金原　俺、普段95キロだから、95キロ以上以下で分けてくれたらよかったんだけどね。でも今回はラインが90キロちょっとだから、92キロまでは落ちたんだけど、そこから1、2キロが全然落ちなかったんですよ。これはメシ抜かなきゃダメだと思って、試合の2日前からおにぎり一個しか食ってなかったんですけど、それでも計量パスできなくて、腹減ってるのに走ったからフラフラでしたよ（笑）。

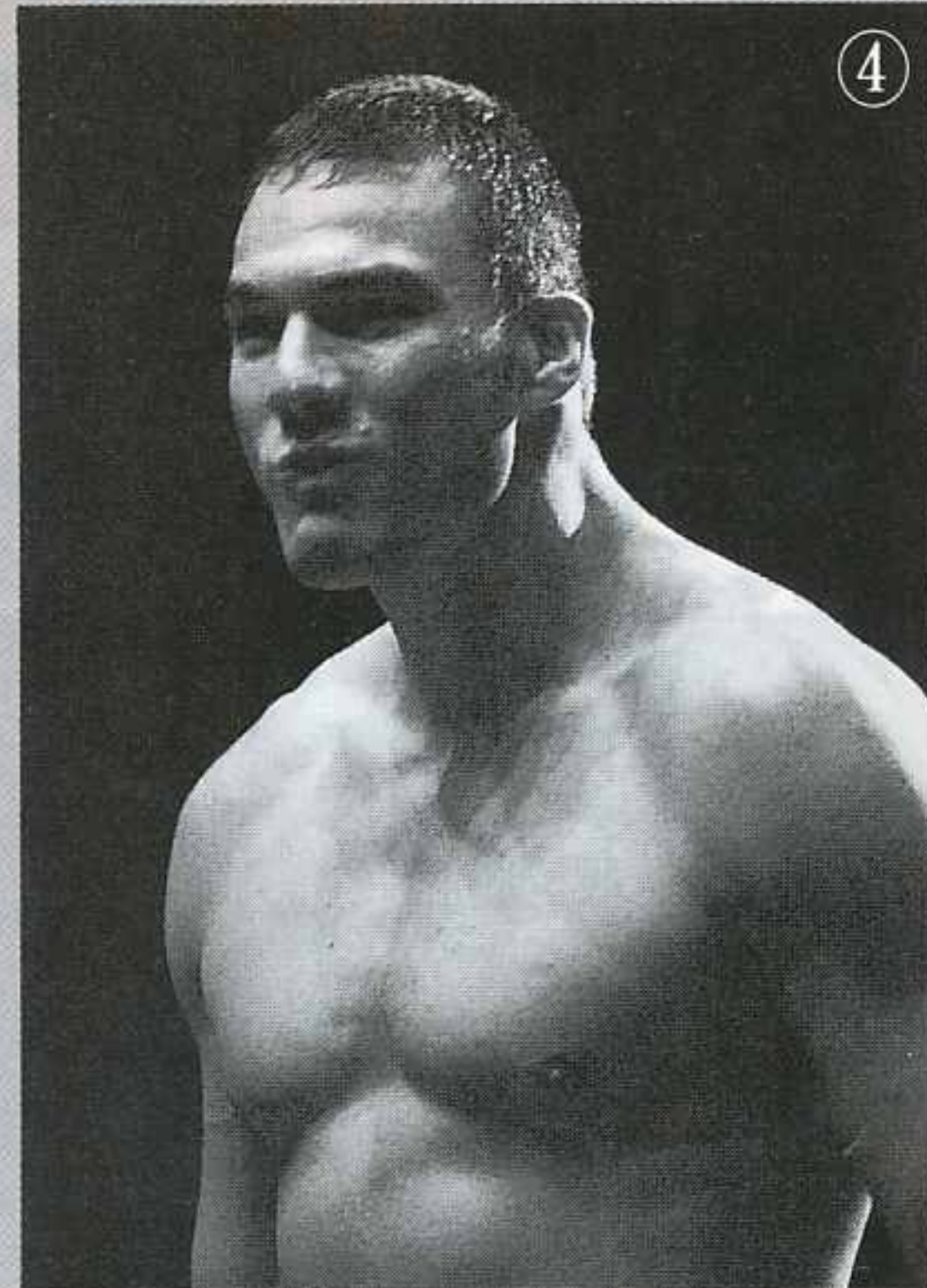
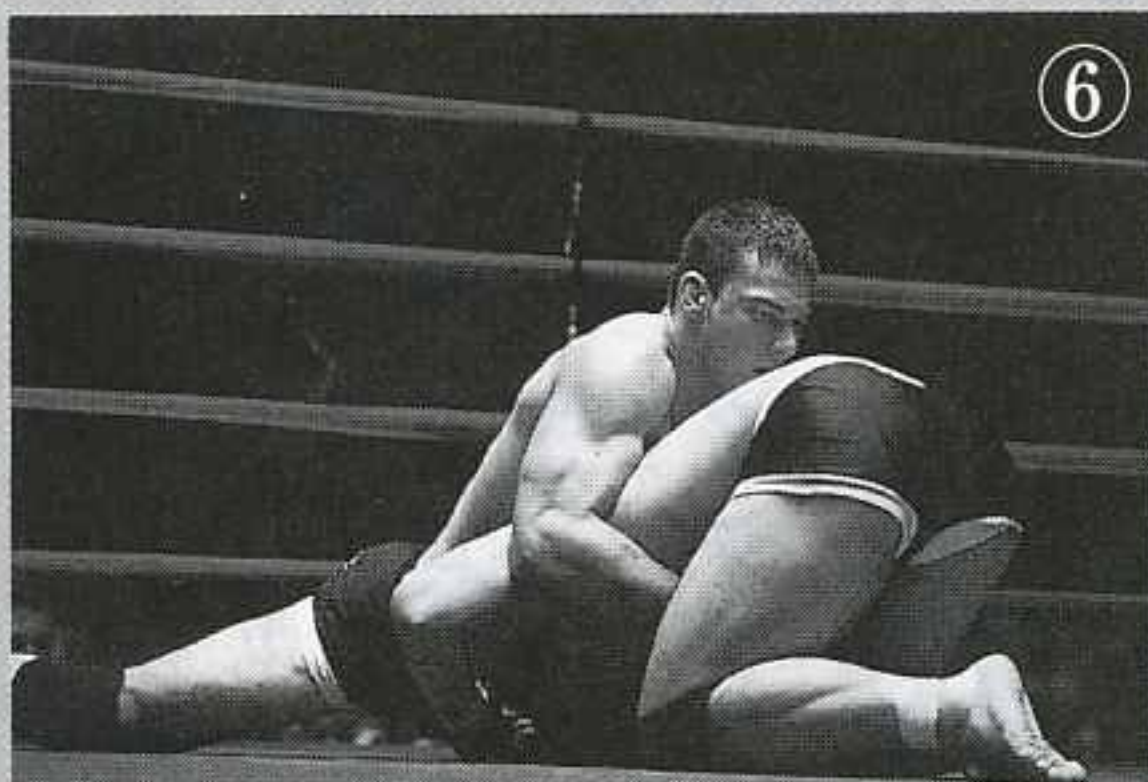
——試合前からそうとう体力を消耗してたんですね（笑）。

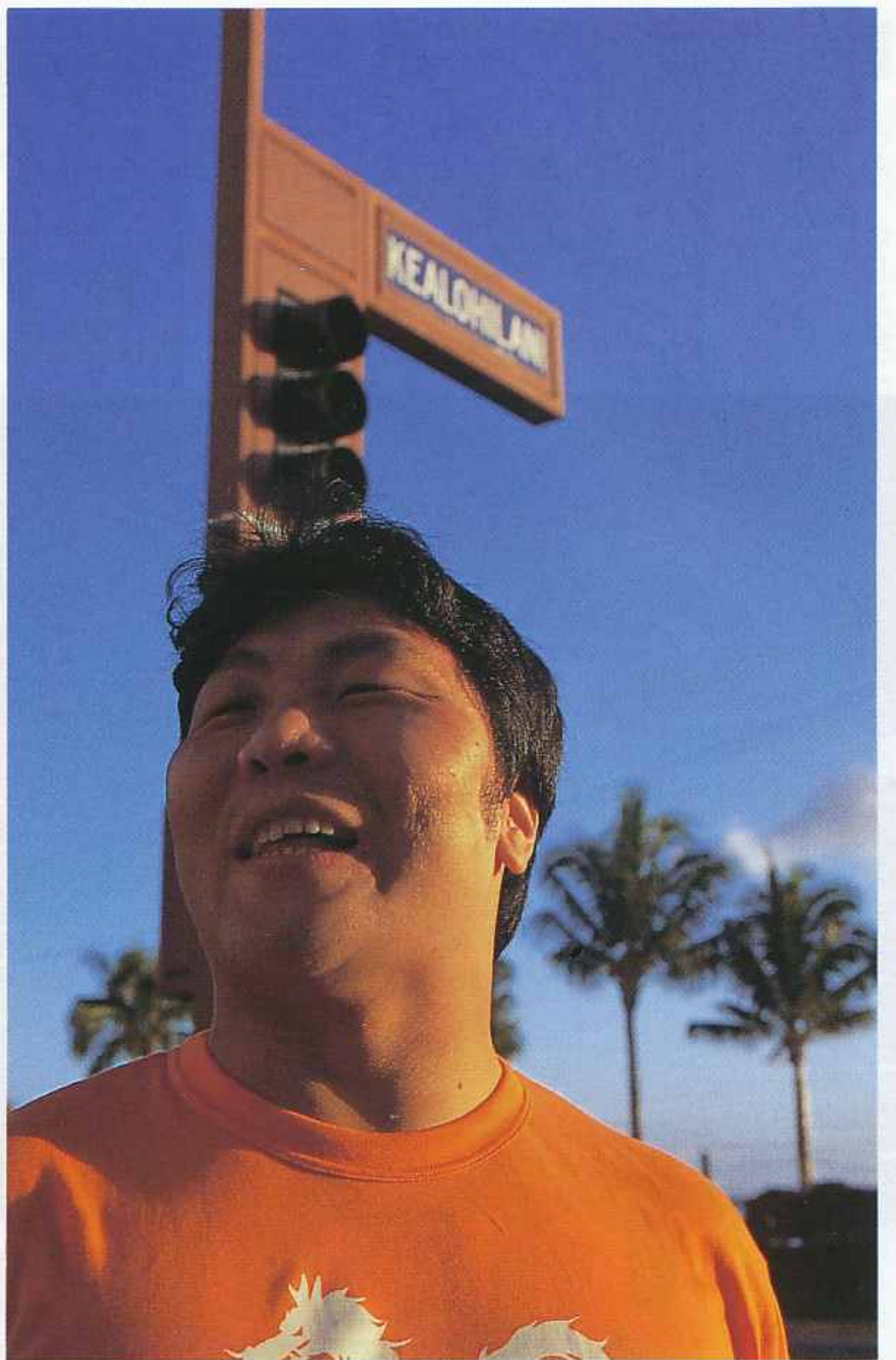
金原　ホンッット腹減って死にそうでしたよ！　普通はスポーツ選手って、試合の一週間前から〝ターボローイング〟っていって、炭水化物をいっぱい採らなきゃいけないんですよ。これはエネルギーを蓄えるためで、陸上とかマラソン選手なんかも、大会の一週間前からご飯とかスパゲティー、うどんなんかを多く取るんです。だから、今回はそれができなかったから体調悪かったんじゃないですかね。

——しかも時差ボケもあったんじゃないですか？

金原　もう……時差ボケはホント最悪！　2時間とか3時間おきに目が覚めるし。しかも肋骨にヒビ入ってたんですよ。だからコンディション的にはホント最悪でしたね。

——でも、それで2連勝しちゃうんだから凄いですよ。しかも

5・26東京ドーム『コロシアム2000』　金ちゃん大ブレイクの舞台として期待されたが、ブラジリアン柔術の超大物マリオ・スペーヒーのグラウンド・テクニックは予想以上に凄かった。果たしてスペーヒーのリングス登場はあるのか。そして金原との再戦は？

2回戦の相手はシャーク・タンクの新鋭ジョッシュ・ホール④ホールは1回戦を不戦勝で勝ち上がっただけに、疲れのみえる金原にいきなりラッシュ。タックルもことごとく切っていった⑤⑥金原も得意のカメからの腕関節を狙うが極めきれない。⑦結局、1Rの金原のパンチラッシュがポイントになり金原が僅差の判定勝ち。敗れたものの、ホールも今後が楽しみな素材だ。⑧

○金原弘光　2R 判定　ジョッシュ・ホール×

──1回戦のエイドリアン・セラーノ戦は秒殺で完勝でしたよね。

金原 （エイドリアン）セラーノって結構有名なんでしょ。エクストリーム・チャレンジかなんかで優勝してるって聞いたけど、あれ本当なの？

──本当みたいですよ。NHBで40勝以上してるらしいですから。

金原 パンクラスにも何度か出てるんだよね？ でも、意外と上に乗ったらすぐ腕取れたから「あれ？」って拍子抜けたんだけどね。だから結構俺のこと知ってて、ビデオか何か見て恐がっちゃったんじゃないの？ 相手を研究しすぎて萎縮するときってあるからね。

──じゃあ、1回戦は結構ラクに突破できたわけですか？

金原 でもね、1試合目終わった時点で体の気が抜ける感じがあったんですよ。それで「今日は調子悪いな」ってすごい思いましたね。

──では、2回戦はいかがでした？ 相手のジョッシュ・ホールは1回戦不戦勝で勝ち上がって、見るからに元気いっぱいでしたけど（笑）。

金原 あれはホントふざけんなって！ こっちは2試合目でフラフラなのにねぇ。ロクなもんじゃないよ！

──元気満々でトップロープ飛び越えて入場してましたからね（笑）。

金原 それにさぁ、せっかく楽園ハワイに来たのに殴り合いたくないから、ホントはササッと極めて終わろうかなと思ってタックルにいったんですよ。でも、相手はレスリングで全米5位になったことがあるらしいじゃないですか。

最近ヒクソンと凄く試合したいんですよ。彼をブン殴れるならノーギャラでもいいよ

──オリンピックの代表候補だったらしいですね。

金原 疲れてるし、タックル入らないし、それで「仕方ないから殴るか」と思って、バンバン殴りあったんですよ。

──それにしても相手はタフでしたよね。1R終了間際にKO寸前まで追い込まれてたのに、2Rになったらますます元気になってましたもんね。

金原 ねえ！ こっちは1R終わったら酸欠で、唇を紫にしてコーナーに戻ってきたらしいのにね。あとでセコンドのTKに聞いたら、「マウストゥマウスで蘇生しなきゃと思った」とか言ってましたから（笑）。

──アハハハ！ 金原さんと高阪さんのマウストゥマウスはリングに戦慄が走りますね（笑）。

金原 だからあれ2Rで決着つかなくて延長になってたら、「TKタオル投げて！」って言ってたよ。「もうイヤだ」って。それくらいコンディション悪かったからね、ホントに。

──そうすると、今回に限っては5分2ラウンドルールでよかったですね。

金原 ホント、あれが3Rいかれたら、たまんなかったですよ。

──あの対戦相手も無名だけどいい選手でしたよね？

金原 うん、あれ他の団体が呼ぶ前に、リングスに呼んだらいいと思うよ。試合はアグレッシブだし、歳聞いたら、まだ22才だっていうしね。あの選手はリングスに呼んだら、どんどん良くなっていくんじゃないかなあ。多分日本人で勝てない選手何人もいると思うよ。

──そんな選手に体調が悪くても勝つんだから、やっぱり金原選手は何気なく凄いことしてるんですよね。

金原 だからホントは滑川のブロックから出場したかったよ。そしたらもうちょっとスッスッと勝ったような気がするから（笑）。

──アハハハ！ でも、滑川選手もあのデイヴ・メネーを1回戦で破った選手に勝ちましたからね。

金原 勝ったけれど、やっぱり滑川はいまだに試合だと堅くなるよね。あいつの場合練習と試合だったら、練習の方が強いんですよ。練習以上のものが試合に出るといいんですけど、その逆をいってるから可哀相なところありますよね。

これであなたもボヤキング 金ちゃんTシャツプレゼント

ハワイでも本人が常に着用し、宣伝に余念がない「金ちゃんドラゴンTシャツ」。今回は金原選手のご厚意でこのTシャツをオレンジ、グレー、ネイビー各2名様にプレゼント！ 応募方法はP160参照。プレゼントに当選しなくてもどうしてもほしい人は、「ロデオドライブ」（自由が丘）「IVブックス」（春日井市）「レッスル渋谷店、池袋店」「AX BOMBER」（渋谷区神宮前）、リングス試合会場でも絶賛発売中です。

――1回戦なんかも気合い入り過ぎなのか、見るからにガチガチでしたもんね。

金原　練習ではホントにかなりいいレベルまで来てるんですよ。でも、試合になると自分が持ってるものが100としたら、半分の50くらいしか出てないんで。あいつが100出せるようになれば、恐ろしいと思いますよ。

――では、9月の決勝トーナメントに期待したいですね。

金原　でも、やっぱり1日2試合って難しいですよ。ホント難しい！　だって一回試合が終わったら、普通集中力が途切れちゃうでしょ。それを継続しなきゃいけないし、しかもエネルギー補給もうまくしなきゃいけないしね。それに1試合目が早く終わるか長引くかで、消耗度とか全然違ってきますからね。凄い難しいですよ。

――毎回同じような展開で、1試合が終わるわけじゃないですからね。

金原　そうそう。それを1回戦やってない相手と2回戦闘うなんて、アンフェアーもいいとこですよ。

――ところで金原さんはアメリカで試合するというのは、今回が初めてですか？

金原　アメリカは初めてですね。

――観客の反応はいかがでしたか？

金原　やっぱり海外は沸きますよね。でも今回のハワイよりロシア、オランダなんかはもっと凄いんですよ。もう、客も超満員だし熱気が凄いし。だからああいうのと比べちゃったら、まだまだかなって感じはしますけどね。

――あれでもまだまだなんですか？

金原　うん、ロシアやオランダだと会場もリングスっていうだけで、1万人クラスの大会場が超満員になりますからね。

――ブーイングなんかも多いんですか？

金原　ブーイングはハワイの方が多かったですね。入場してきただけで「ブー！」やられましたからね（苦笑）。でも昔東京ドームで新日とやったときのこと思い出して、気持ち良かったですよ。ブーイング浴びると悪役レスラーの気持ちがわかりますよね。逆に「もっとベビーフェイスいじめてやろうか」って気持ちになって、闘争心が沸くんですよ。だから結構好きなんですよ、ブーイング。

海人（？）金原弘光

――そういえば、ブーイングとは関係ないですけど、このUSA大会も賞金トーナメントなんですよね？

金原　まだ、金額は聞いてないんですけど、噂によるとあまり期待できなさそうなんですよ（笑）。

――まぁ、日本のKOKトーナメントみたいに、優勝賞金22万ドルってことはなさそうですよね（笑）。

金原　そのくらい出たら俄然やる気も変わってくるんだけどね。でも、実際はその何分の1でしょう。アメリカまで来て、キツいトーナメント勝ち抜いて賞金が1万ドルくらいだったら、ホンッッットヤル気出ないですよ！（笑）。

――でも船木vsヒクソン戦の勝利者賞も1万ドルでしたよ（笑）。

金原　賞金は1万ドルでもファイトマネーが全然違うでしょ。ヒクソンなんか1億もらってて何言ってんだって感じですよね（笑）。

――ヒクソンはおびただしい数のセコンド引き連れてきてたから、きっとその1万ドルは一晩で使いきってるでしょうね（笑）。

金原　あんだけメンツいたらねぇ。あれ主催者も大変だよ。あれだけの数の人間をいいトコ泊まらせてさぁ、（投げ捨てるように）バカらしいよね。だから俺、前はヒクソンと試合したくないと思ってたけど、最近すごいしたいもんね。ヒクソンをブン殴れるならノーギャラでもいいよ。

――桜庭選手もヒクソンのそういう部分が気に入らないみたいですね。「またヒクソンに大金が支払われるなら闘いたくない」って言ってましたからね。

金原　ホンッッット腹立つよ。でもさ、彼がたくさんお金もらうことによって、格闘家のギャラの上限を上げていってるわけだから、そういう面では、ヒクソンは格闘技界の落合博満だよね。

――一億円プレイヤーの前例を作ったわけですからね。

金原　でもリングスはなかなかその影響を受けないんですよ（苦笑）。

――ギャラの高騰を業界レベルで止そうとしているボスがいますからね（笑）。

金原　前にも「お前らカネカネ言うけどな、他の団体を見てみぃ！」とか言われましたから（笑）。

――アハハハ！　他団体の実例を出して（笑）。

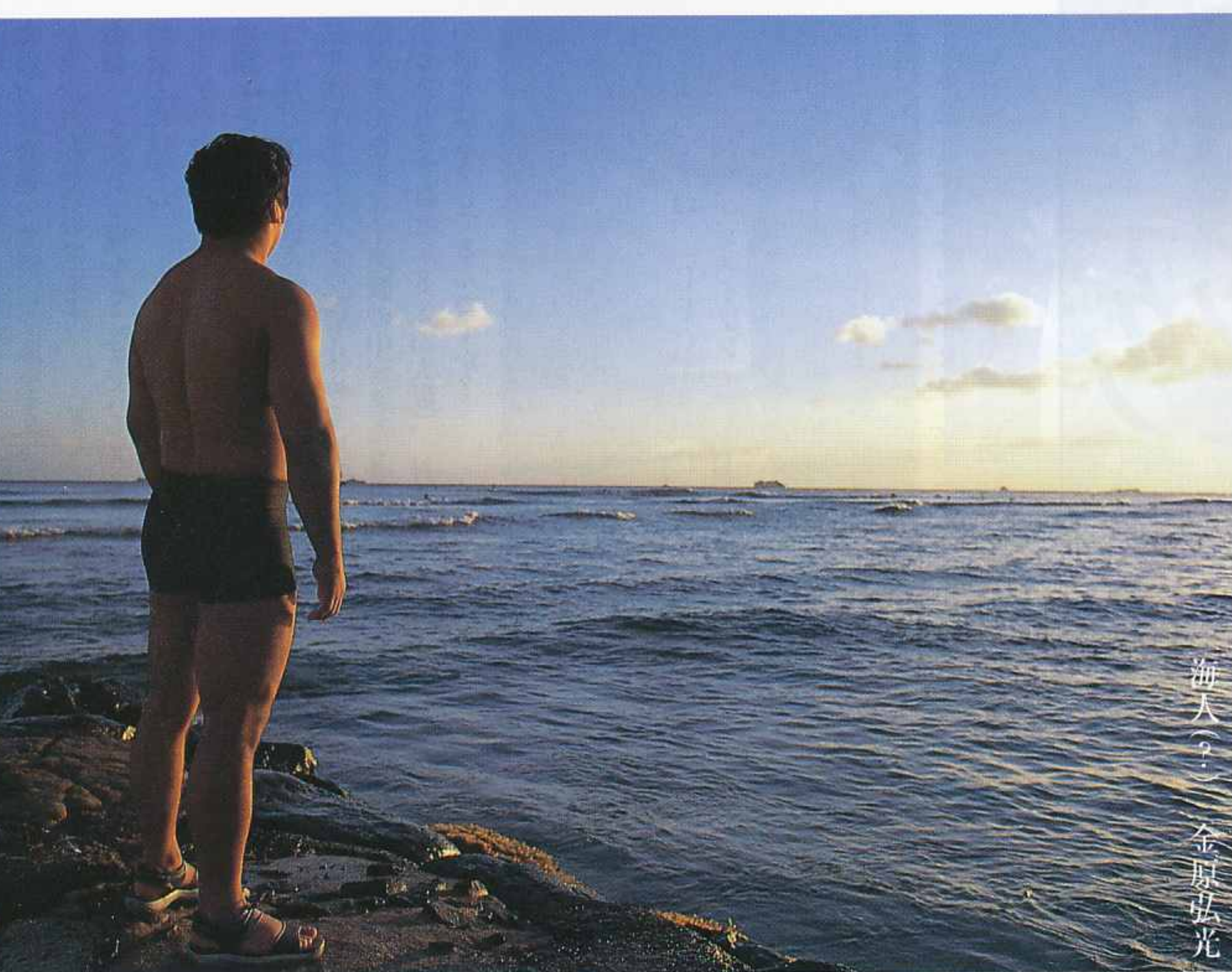
金原　年俸でいったら多いんだろうけど、試合数が全然違いますからね。修斗の朝日（昇）さんにも、「俺、月に1試合くらいやってますよ」って言ったら、「金原さん、早死にしますよ」って言われましたから（笑）。

――エンセン（井上）さんなんかにしても、年3回くらいの試合数ですもんね。

金原　年3試合……羨ましい！　ホント羨ましいよ!!

――でも、金原さんの場合、海外からの試合のオファーとかあったら、深く考えずに気楽にOKしちゃうところもあるんじゃないですか？（笑）。

金原　そうそう、まさに今回がそうですよ（笑）。行く前は「あ〜、ハワイ行きたいな。楽しみだな〜」って思って、サーフィンしようとか、イルカを見に行こうとかいろいろ考えてね。だから最初に「ハワイ行く？」って聞かれて「いいですね〜」って答えちゃったんですよ（笑）。

――でも実際の行き先はビーチじゃなくてリングですからね（笑）。

金原　そうなんですよね。だって会場に着いた瞬間に「何でこんなとこまで来て、人殴んなきゃいけないのかな」って思って憂鬱になりましたよ（笑）。だからさ、もう安易に返事すんのやめようかなと思って。ホントそうだよ、アブダビにもロシアにも行ってねぇ。

――金原さんは4月の代々木はケガで休みましたけど、気づいたら5月からずっと連戦ですもんね。

金原　そうですよ！　5月にスペーヒー、6月にババル、7月はハワイで2試合やって、8月の大阪に出て9月もUSAトーナメントで2試合やったら……5ヶ月で7試合ですよ！

――これで「KOKはAブロック（10・9代々木）やからな」とか言われたら、大変なことになりますよね（笑）。

金原　アハハ、そうだよねぇ（笑）。ホントは体中ケガしてないところがないくらいだから、一度休んでちゃんと直したいんだけどね。

――そうするためには、ある程度長期の休みがないとダメですよね。

金原　うん、1試合やったら必ずどこかは負傷しますからね。それでも痛み止めの注射とか打つなり何なりして次の試合に備えるじゃないですか。そうすると変な治り方してるもんだから、やっぱり良くないんですよね。

――高阪さんなんかも半年以上欠場してましたけど、普通の生活に支障をきたすほど肩が悪かったみたいですよ。

金原　だから、俺もそこまでひどくなればいいんだけどね。

――アハハハ！　ひどくなりたい（笑）。

金原　そこまでひどくなれば「休みたいんですけど」って言えるじゃない（笑）。普通に生活できてたらやっぱり休めないからね。

――そんなキツイ連戦の中、また8月に試合がありますけど（8・23大阪）、対戦相手の研究はもうしてるんですか？

金原　まだ全然してませんよ。っていうかまだ考えたくないですよ（笑）。結局相手はジョー・スリックに決まったんでしょ。有名な選手なの？

――有名ですね。『UFC―J』にも2度来日していて、ジェイソン・デルーシアに勝って、パンクラスの美濃輪（育久）選手には逆転のハイキックで流血TKO負けしましたけど、試合は押してましたからね。

金原　そうなんだ。でも、最初の話ではスリックじゃなくてマット・ヒューズっていうWEFのチャンピオンとやる予定だったみたいなんですよ。

――マット・ヒューズっていったら体は小さいですけど、アメリカのNHBでは相当な大物ですよ！

金原　俺もよく知らないですけどね。だけどもう、ヒューズでもスリックでも体重が同じくらいのヤツとやるんだったら、調整さえ失敗しなければ、負けることはないと思うから大丈夫ですよ。

インターネットに〝半ケツ〟って書かれたから、パンツをスパッツに変えたんですよ（笑）

――それは実にたのもしいですねぇ。大阪の試合はこのインタビューが載るころには終わってるんですけど、期待してます！　ところで、これ聞き忘れてたんですけど、金原さん試合のコスチュームがショートタイツからスパッツに変わりましたよね、なぜなんですか？

金原　だって、やたらとインターネットで〝半ケツ〟って書かれてるからさぁ（苦笑）。

――アハハハ！　確かにかなり書き込まれてましたよね（笑）。

金原　6月にババルとやったとき、凄いパンツがめくれてたんですよ。また、あいつがすぐパンツ掴むからさぁ。

――それで試合中、何度も〝Tバック〟状態になってしまったという（笑）。

金原　そしたら6月の試合の後、インターネットに「金原半ケツフィギアをつくる」とか『金原半ケツプラン』とかそんなことばっかり書き込んであるからさぁ、あれを見た瞬間に「コスチューム変えなきゃ」と思って変えたんですよ。（笑）。

――「もしかしたら〝半ケツ〟が原因かな」とは思ってたんですけど、やっぱりそうでしたか（笑）。

金原　そうそう、それが原因（笑）。

――でも、みんなKOKルールになってコスチュームをスパッツに変えたのに、金原さんだけが頑ななまでにショートタイツのままだったのは、何かこだわりがあったんですか？

金原　いや、単にまだ使えるのに変えるのもったいないじゃない（笑）。

――あ、もったいないから（笑）。でも、遂にスパッツになってしまったんでババル戦で半ケツも見納めですね（笑）。

金原　半ケツも見納めですよ。でも、せっ

かくスパッツに変えたのに、それでもこの間の試合では結構めくれてたからね（苦笑）。ケツがデカいのかなぁ。

――半ケツはともかく、フィギア化の話はまだ進んでないんですか？

金原　まだ全然！　でも『紙プロ』に載ってファンには評判良かったみたいで、インターネットでは「オレがフィギアをつくる！」って声が多かったですからね。その声が広まってくれればいいんだけど。

――ネット上では金原さんのあの「入場コスチュームを取り外し出来るようにしよう」とかも書いてありましたよね。あのコスチュームにはこだわりがあるんですか？

金原　一度フード付のガウンを知り合いの人に作ってもらって着てたけど、みんなに「似合わない」とか「前のやつのがいいんじゃない？」とか言われたんですよ。だから「そうかなあ」と思ってまた元に戻しただけなんですけどね。

――確かにあのコスチュームは金原さんのイメージで定着しますよね。

金原　元々はあれの黒があって、凄く気に入ってたんですよ。でもキングダム時代に盗まれちゃったんです。

――控え室とかでですか？

金原　いや違う。キングダムの末期に鹿児島で試合したとき、いま高田道場にいる豊永（稔）がセコンドだったんですよ。それで試合でリングインして脱いで渡したら、リングの下に置いてそのまま置いて帰ってきちゃって、それで盗まれて終わりですよ！

――リング下に置き去りでしたか（笑）。

金原　ホントに、もう。そんときは怒りましたけどね。「あれはみんなにゴミ袋とか言われてるけど、一応皮で出来てて高いんだから な！」って。

――アハハハ！「ゴミ袋」って言われてたんですか？（笑）。

金原　そう、黒いゴミ袋に穴開けて被ってるとか、周りから言われたんですよ（笑）。でもああいうコスチュームなんかは縁起物だし、ちょうどあのガウンを着てたころが一番調子がよかった時なんですよ。

――鹿児島っていうと、桜庭選手と連戦してたころですよね？

金原　そうそう。ちょうど桜庭の歯を折ったときですよ。一番調子いいときだよね。だから「このガウン調子いいな」って思って大事にしてたんですけどね。

――それがなくなったらショックですよね。

金原　あれはショックでしたよ！　だから誰か持ってるヤツ返してくれ！

――誌面で呼びかけますか！（笑）。

金原　鹿児島の誰か、返してくださ～い！

ハワイでもいつもと変わらぬ堂々とした振る舞いの金原。いつもと違うところと言えばショートタイツからスパッツへとシフトチェンジしたこと。スポンサー募集中！

もはや金ちゃんの代名詞と言っても過言でないほど定着しているこのコスチューム。こんなフィギュアがほしい！

あれ調子良かったんで着たいです！　金原Tシャツあげるから、返して！

――アハハハ！　Tシャツと交換しますか（笑）。

金原　だけどあれ着てたころはホント調子よかったんですよ。肉体的にも一番元気があったし。

――では、現役生活で体力的なピークというとやはりそのころになりますか？

金原　リングスで連勝してたころも調子よかったけどね。あのときは10連勝くらいまですごい調子良かったです。でもそれ以降は疲れもたまるし、疲れるとケガもするしね。

――15連戦のラストがあの怪獣ヒカルド・モラエスですからね。そりゃあ、疲れもするし、ケガもしますよね。

金原　いまだったらモラエスにも勝てるって断言できるんだけどね。だからやっぱり肉体的にはキングダムのころが一番かな。

――金原さんはいま、年齢はいくつですか？

金原　29です。今年30になりますけどね。

――そうすると船木さんは先日31歳の若さで引退してしまいましたけど、金原さんは体力的キツさを感じたりすることはあるんですか？

金原　どうなんですかねぇ？　でも、いまの月1回のペースで試合を続けてたらキツイですよね。ちゃんとふた月に1回とかならまだまだ大丈夫だと思うんですけどね。でも、やっぱり格闘技やってたら何があるかわかんないから。大怪我したら、それで終わっちゃうだろうしね。だから最近そろそろ引退ってことも考えて試合しなきゃいけないのかなって気はしますけどね、30間近にして。

――でも、いま現在はまだまだ実力的にもこれからどんどん伸びていきそうですよね。

金原　どうなんでしょうね。先のことはあまり考えたくないですね。だからいまのうち稼げるだけ稼いで……でも小銭しか稼げないんだよね（苦笑）。だからいま、パンツのお尻の部分にスポンサー募集してるから（笑）。

――アハハハ！　ブラジルの柔術家がやってるみたいにですか？（笑）。

金原　そうそう。パンツ後空けてるから、誰か入んないかな？　うちら格闘技界のドン・キホーテだもんね（笑）。だからそういうスポンサー集めて収益を得ないと、ホント体がもたない！　だから『紙プロ』で募集して下さいよ。ホントにもう。最初はリングスのホームページで募集しようと思ったんですけど「前田さんに怒られるんで止めてください」って言われてね（苦笑）。

――それは怒られますよ（笑）。でも『紙プロ』だったら全然平気ですから、大々的に打ちましょう！

金原　俺のパンツに広告打ったらWOWOWで流れるから一応宣伝にはなるでしょ。

――しかも、いま注目の金原選手のお尻ですからね（笑）。

金原　いつケツがめくれるか注目の的ですからね（笑）。しかもボクはガードポジションよりも、カメになることが多いからケツがパッと見えやすからいいですよ。だからスポンサーがついたらガードポジションは禁止にしないとダメだね。下になったらカメになって、宣伝しないとさ（笑）。

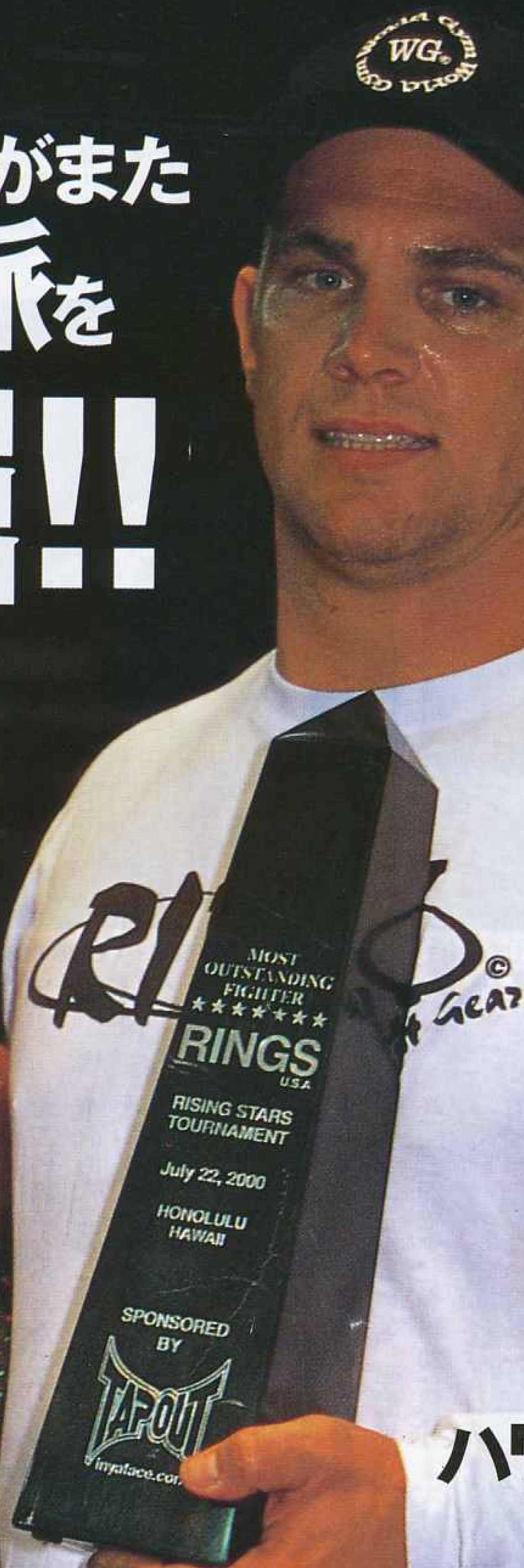
――アハハハ！　スポンサーが付いてくれた暁には、金原弘光ガードポジションしません宣言！（笑）。

金原　そうそう。ガードポジションは一切やりません！　だからスポンサーお願いしま～す！

【00年7月24日（現地時間）　ハワイ州ホノルル　ワイキキ・ビーチ沿いの日本料理店で収録】

TOM SAUER
トム・サワー

リングスがまた新たな金脈を発掘!!

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

リングスUSA in Hawaii
30ページ大特集

ハワイ大会でMVPを獲得した噂の“トム・ソーヤ”を独占先取りインタビュー!!

SUDDEN IMPACT!

名前のインパクトも手伝って、ネット等で海外のNHB情報を仕入れるマニアの間で“未だ見ぬ強豪”として注目されていた“トム・ソーヤ”こと、トム・サワー。エクストリーム・チャレンジを主戦場にしているため、日本ではなかなか試合映像を見ることができなかったが、この度リングスUSA大会に出場し、遂にそのベールを脱ぐこととなった。そしてそこで見たものは2試合の合計タイムが48秒！ 2試合連続秒殺KO勝ちというまさに“突然の衝撃”。そのトム・サワーに大会終了直後のリング上で、緊急インタビューを敢行。KOK出場が決定的な超新星の生の声をどこよりも早くお届けします！

——今日は2連勝おめでとうございます！

サワー サンキュー！ いまは最高の気分だから何でも答えるから聞いてくれ（笑）。

——ありがとうございます（笑）。ではまずなぜリングスに参加しようと思ったんですか？

サワー リングスがいま、数あるMMA（ミックスド・マーシャルアーツ＝バーリ・トゥード）の組織の中で、最も世界中に広まっていて確立された組織だからさ。しかもリングスはボスであるミスター・マエダが元ファイターだったこともあって、選手の扱い方や、お金の問題についてもしっかりしていると聞いていたんで、以前からリングスには凄く興味があったんだよ。

——今回はどんな経緯でリングスUSA大会への参加が実現したんですか？

サワー まず、エクストリーム・チャレンジのプロデューサーである、ミスター・モンテコックスがリングスのロシア大会への出場を推薦してくれたんだ。そのロシアでの試合でミスター・マエダに認めてもらって「USA大会に出ないか」というオファーをもらうことができたんだよ。

——そのリングス ロシア大会にはリングスのレギュラー選手もたくさん参加してました

ミスター・カール・ゴッチの偉大さはカール・マレンコ達によく聞いてるよ

けど、どんな印象を持ちましたか？

サワー　試合のクオリティーがとにかく高かったよ。それとリングスの試合はNHBと比べると選手にとっては比較的安全だから、プロのファイターとして長く闘うには最適なリングだと思うよ。

——ビデオで見ただけでもいいんですけど、リングスに出場している選手で印象に残っている選手はいますか？

サワー　ヴァレンタイン・オーフレイムだね。彼はスタンディングのテクニックが素晴らしいし、しかもサブミッションも出来る非の打ちどころのない選手だと思う。そんな彼に勝つことが出来て、今夜はエキサイティングだよ。あともうひとり、ミスターTK・コーサカ。彼のテクニックは本当に素晴らしいんで以前から尊敬していたんだ。だからこのふたりだね。

——サワー選手がNHBの世界に入ったのはいつごろなんですか？

サワー　5年前に東海岸の小さな大会に出たのが最初だね。そして3年前からエクストリーム・チャレンジを中心に活動し始めたんだ。そこではボビー・ホフマン、トラヴィス・フルトン、そして今年の『アブダビ』で準優勝したジェフ・モンセン、そういった面々と闘ってるよ。

——ではサワー選手の格闘技歴を教えてほしいんですけど。

サワー　レスリングは5歳から続けているし、松祷館カラテや拳法も子供の頃からやっていたんだ。そしていまはWBC世界14位にランクされているダニー・サンティアゴとボクシングを練習してるし、ムエタイ、柔術、それからカール・マレンコやデュセル・バットとシュート・ファイティングの練習もつんでいるよ。

——カールたちと一緒にトレーニングしてるんですか？

サワー　うん、バットとは昔から友達なんだよ。それに彼らはミスター・カール・ゴッチの弟子だからグラップリングやトレーニング方法がとても参考になるんだ。

——カール・ゴッチをご存じなんですか！

サワー　ボクは実際には会ってないけどね。カールやバットから偉大なレスラーだということは聞いているよ。

——では、リングスの前田代表もカール・ゴッチのお弟子さんなのは知ってますか？

サワー　本当かい？　それは知らなかったな。じゃあ、ミスター・マエダも現役時代は素晴らしいファイターだったんだろうね。

——では、これからの目標を聞かせて下さい。

サワー　もちろん日本に行くことさ。日本に行くことは「カラテ・キッド」（「ベスト・キッド」の米題）を見てからの夢だからね（笑）。

——ところでトム・サワーという名前は本名ですか？

サワー　そう、本名だよ。でもリングス・ロシア大会では間違えて「トム・ソーヤ」と表記されていたみたいなんだ（笑）。

——日本でも「トム・ソーヤ」のまま報道されていたんで、どんな選手なのかと、ちょっとした話題になってたんですよ（笑）。

サワー　アハハハ！　イッツ・オーケー（笑）。「トム・ソーヤ」の方が人気が出そうだからリングネームは「トム・ソーヤ」のままでもいいよ（笑）。ボクはイカダに乗って来日するから（笑）。

——アハハハ！　期待してます（笑）。では最後に日本のファンにメッセージをお願いします。

サワー　TVやビデオで今日のボクの試合を是非、見て下さい。そして、ボクのファイトが気にいったら日本に来れるように応援して下さい。その時は絶対にいい試合をすることを約束します。ドウモアリガト。

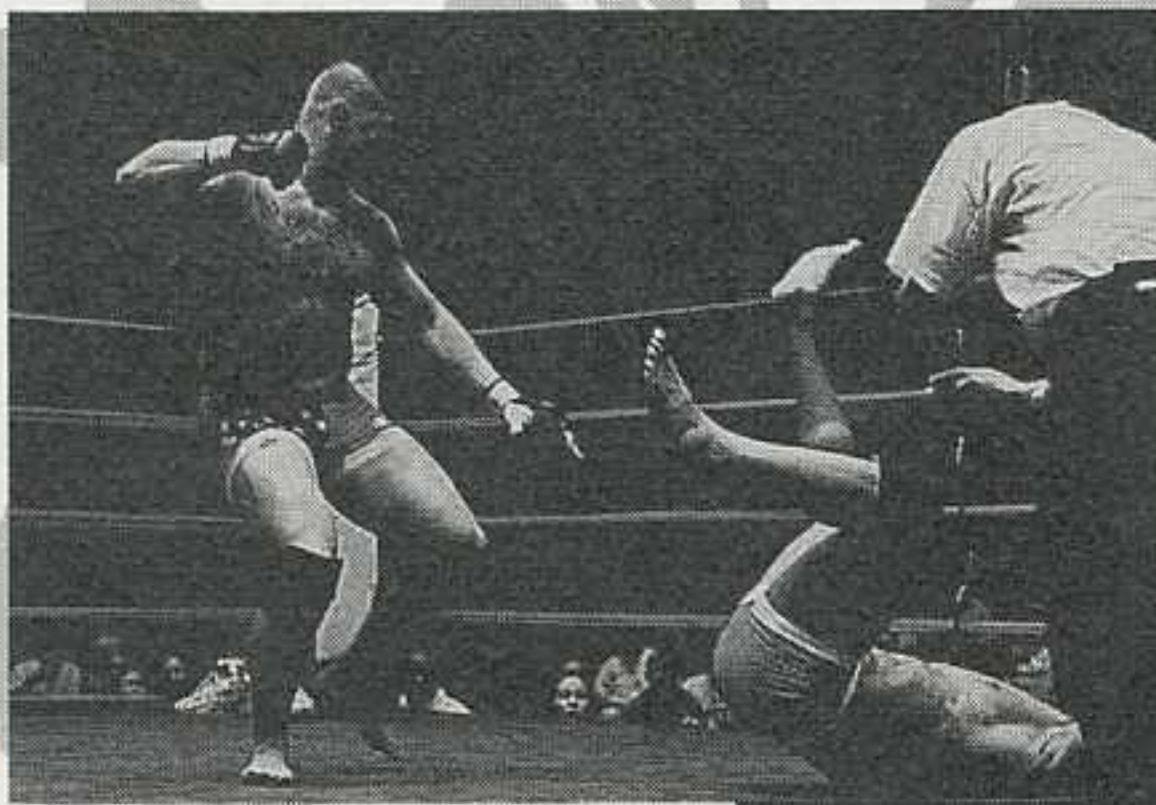
——では、日本で会えることを期待してます！

【00年7月22日（現地時間）ハワイ州ホノルル　ブライスデル・アリーナ　リングスUSA大会終了直後のリング上で収録】

さんざん走り回った後にレフェリーをなぜかリフトアップするなど、勝つ度に『PRIDE・GP』に優勝したときのコールマンばりに、全身で喜びを表すサワー。この勝利のパフォーマンスを日本でも見たい！

7.22 BOUT REVIEW

衝撃の2連続KO勝ち!!

1回戦はなんと試合時間13秒、パンチ一発でKO！　まさに一撃必殺の拳だ。

2回戦は実力者V・オーフレイムと激突。オーフレイムのヒザ蹴りとサワーのロングフックが、剣の舞のように激しく交錯する中、試合開始から35秒、遂にサワーの拳がオーフレイムのアゴを捕らえ、またもや一撃KO！　その後は当然のように、リング内を駆けずり回る勝利のパフォーマンス。サワーはこの2連続秒殺でこの日の会場人気を独占し、MVPも獲得。その闘いぶりは前田も絶賛しており、今年のKOK参戦は決定的だ。

リングス、『PRIDE』、パンクラス、修斗etcに選手を送り込む『グラップリング・アンリミテッド』に潜入!!

GRAPPLING UNLIMITED HAWAII
CHIEF INSTRUCTER: EGAN INOUE ESTABLISHED 1995

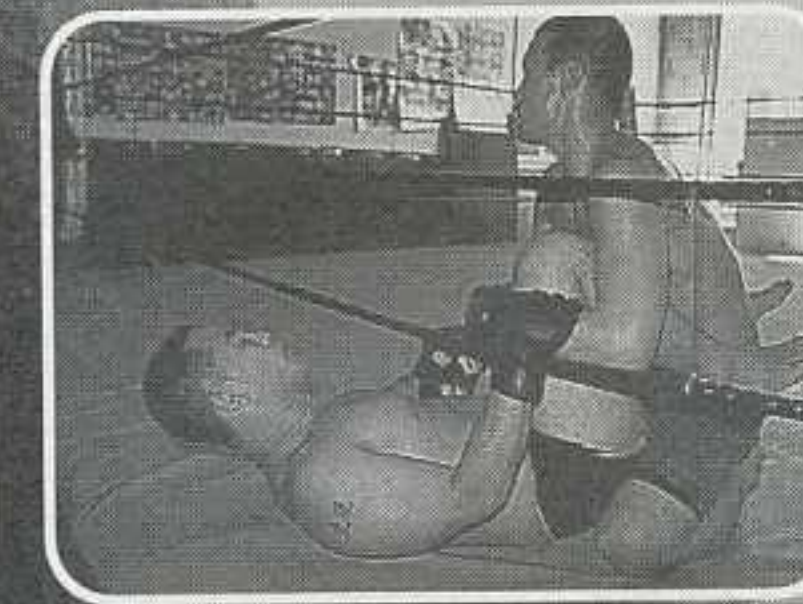
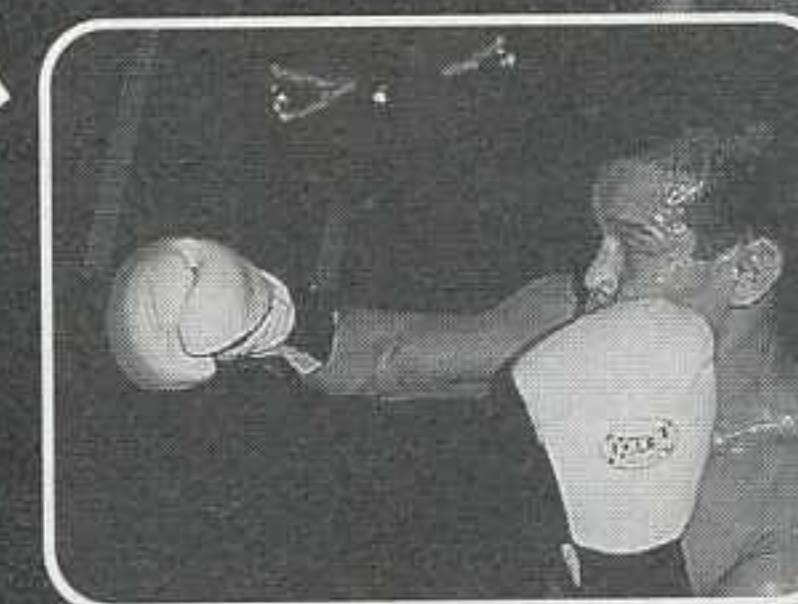
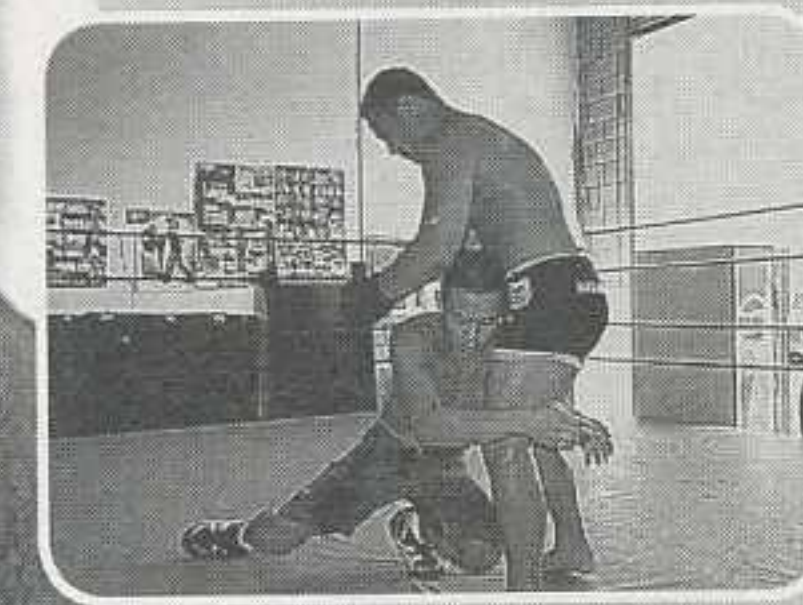
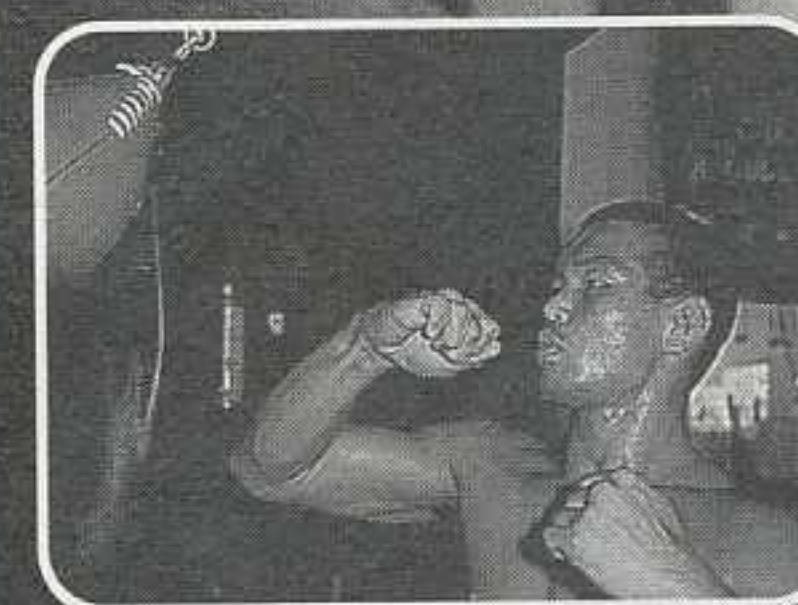
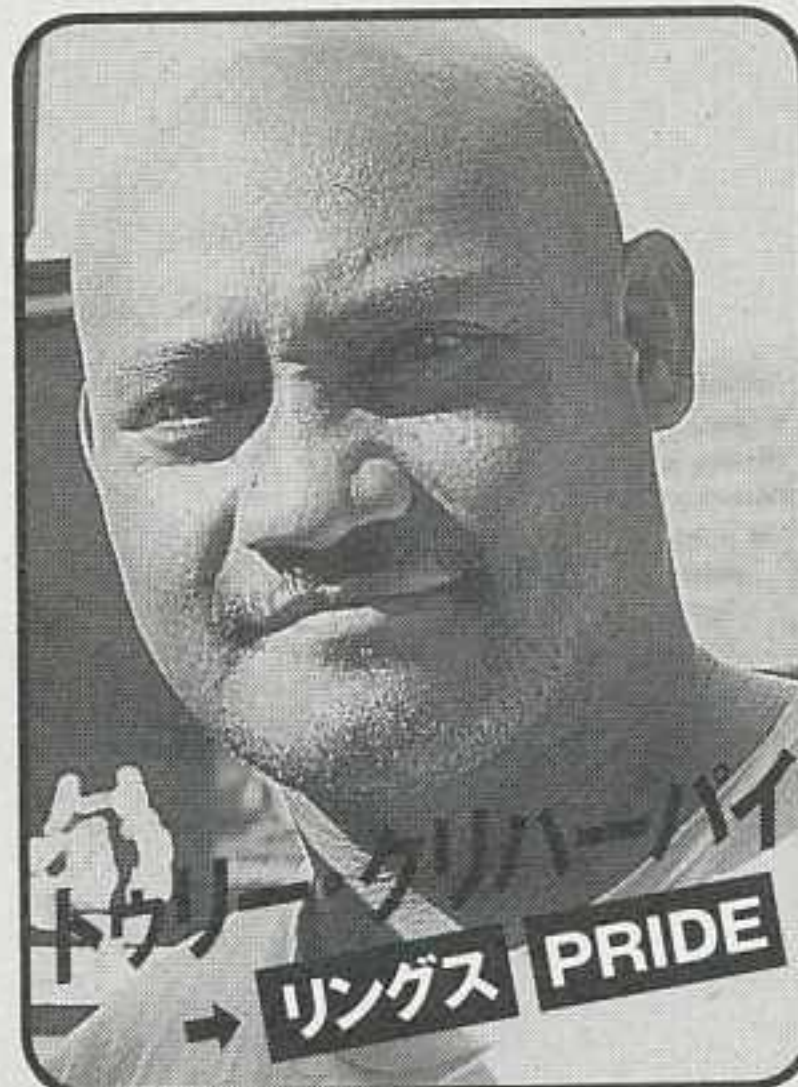
トゥリー・クリハーバイ → リングス PRIDE

イーゲン井上 → ADCC PRIDE

ジョン・クリソストモ → パンクラス

ウェスキー・キャブレラ → リングス

すごく強い人発見!!

バレット・ヨシダ

修斗 ADCC

日本では慧舟會を中心としたWKネットワークが、様々な団体に選手を送り込んでいることで有名だが、ここハワイにも同じような選手の宝庫のジムがある。それがイーゲン井上が主宰する『グラップリング・アンリミテッド』である。

ここには様々なウエイトの選手がいて、重量級＝リングス、中量級＝パンクラス、軽量級＝修斗といった具合に、それぞれが適性にあった大会に出場しているが、そんな中に、ひとり飛び抜けた実力を持った選手、バレット・ヨシダがいる。体は小さいが元々、ヘウソン・グレイシー道場で門番的存在だったバレットは、とにかくグラウンドの強さに定評がある。今年の『アブダビ』ではホイラー・グレイシーを一本勝ち寸前に追い込み、その評価はますます高まるばかりだ。

それほどの強さを持ちながら、普段は常にニコニコしっぱなしのバレット。この〝ハワイの小さな桜庭〟の強さの一端に触れてほしい。（聞き手／堀江ガンツ　撮影／黒田史夫）

―グラップリングの世界では、早くも伝説となっているバレット・ヨシダ選手に会えて、実に光栄です！（笑）。

バレット（大いに照れながら）アハハハ！

―ちょっと聞いたところによるとアブダビへ行ってたそうですけど。

バレット うん、先週までイーゲンと一緒に行って、王子と3週間練習してたんだよ（ニコニコ）。

―それは王子の方から、「来て下さい」と言われたんですか？

バレット この前のアブダビのトーナメントの後に「今度、グラップリングを教えに来て下さい」って言われたんだ（ニコニコ）。

―バレットさんのテクニックが王子は相当気に入ったんでしょうね。

バレット（大いにテレながら）ちょっとビックリしたよ（笑）。

―アブダビは楽しかったですか？

（ホイラー戦では）ボクが腕を極めていたのに、なぜホイラーの勝ちなのかわからないよ

バレット　最初の2、3日は新鮮で楽しいんだけど、それ以上いるとだんだん飽きてきちゃうね（笑）。同じことの繰り返しで飽きてきちゃったんだ。

——ずっと練習を教えてたんですか？

バレット　そう。

——じゃあ、遊びに行くこともなかったんですね。

バレット　遊びに行く時間はあったんだけど、砂漠ばかりだから何もすることがなかったよ（笑）。

——砂漠じゃしょうがないですね（笑）。たぶんまた呼ばれると思いますけどどうしますか？

バレット　もし呼ばれたら、行くしかないよね（ニコニコ）。

——バレット選手は2月の『アブダビ・コンバット』にもでてるんですよね。大会はいかがでしたか？

バレット　アブダビのトーナメントは強い選手がたくさんいて、いい大会だったよ。でもホイラー戦では、ボクが腕を極めてたのに、なんでホイラーの勝ちになったのか今でもわからないんだ。ビデオを見てもボクの方がポイントを取っていたと思う。まあ、実際に負けたわけじゃないし、極められてもいないから、気にしないことにするよ。

——でも、ホイラーより強いとなると、軽量級のグラップリングでは、バレット選手が世界一なんじゃないですか？

バレット　（大いにテレながら）でも、ボクはいま修斗で勝てるようになりたいんだ。修斗のルールならボクはまだまだ経験が不足してるから（アレクサンドレ・フランサ・）ノゲイラや植松（直哉）の方が強いよ。早く彼らと闘える位になりたいんだ（ニコニコ）。

——ところでバレットさんは、以前はヘウソン・グレイシーのジム（ハワイにある）にいたんですよね？

バレット　（ちょっと険しい顔になり）うん、前にいたけど、あのころボクは悪いことをしてたんだ。

——え!? 何をしていたんですか？

バレット　ヘウソンのジムは、レスリングの強い選手とか、柔術を知らない人がジムに習い来たら、いきなり柔術の試合をやらせるんだよ。

——道場破りでもないのにですか？

バレット　そう、ボクはそういう柔術を知らないレスラーと試合をして、相手の腕を折るのが仕事だったんだよ。

——腕を折っちゃうんですか!?

バレット　そうなんだ。ボクが相手の腕を折ると、ヘウソンがそのレスラーに「お前はグレイシー柔術を知らないから、こんな小さい奴に負けるんだ!!」と罵倒するんだよ。そうして、どんなに強い人でも、一番下からやらせるんだよ。

——いや～、それは凄いですねぇ。

バレット　ボクもあの頃は、こうすることでみんなが誉めてくれるから、何の躊躇もなく怪我をさせてたけど、ここに来てからそれが間違いだとわかったんだ。もう、ヘウソンのところには戻りたくないよ。

——そんなことがあったんですね。

バレット　だから、ボクはイーゲンと出会えて良かったよ（ニコニコ）。

——ところでバレットさんは、リングスハワイ大会の会場に来てましたけど、バレットさんから見て、気になった選手とか面白かった選手とかはいますか？

バレット　実は友達の試合しか見てなかったんだ（笑）。

——アラアラ（笑）。

バレット　だけど金原はいい選手だと思う（ニコニコ）。

——バレットさんは日本での試合予定はないんですか？

バレット　9月のスーパーブロウルで試合することは決まってるんだけど、日本に行く予定はまだないんだ。でも、日本のお客さんはグラウンドのテクニックに理解があるから、また近いウチに日本にいきたいよ（ニコニコ）。

——では、日本でバレット選手の素晴らしい試合が見れるのを楽しみにしてます。

バレット　（大いにテレる）エヘヘヘ。

リングスUSA in Hawaii
30ページ大特集

マガジンラックには『紙プロ』も発見。エンセンとイーゲンが載っている号だ。

ジムにはイーゲンやエンセンの切り抜き記事や写真が多数貼られていた。

『グラップリング～』は倉庫を改造した造り。どことなく旧UWF道場に似ていた。

7.21 リングスUSA ハワイ大会に出場 ウェスキー・キャブレラ

リングスUSAハワイ大会に出場し、決勝に駒を進めたエリック・ペレと初戦で激突。今大会一のバトル・オブ・スーパーヘビー・ウエイトをなったが、ネフの巧みなグラウンド・テクニックに翻弄され、1R2分30秒腕ひしぎ逆十字で敗れてしまったこの、ウィスキー・キャブレア。
正直言って、試合ではあまり見るべきことはなかったが、『グラップリング・アンリミテッド』まで車に乗せてくれたいい奴なので、ちょっと話をきいてみた。

キャブレア　「ボクはもともとはハワイ島のヒロで4年間ボクシングを練習していて、3年間柔術をやっていて、ここに来たのはまだ2ヶ月前なんだよ。
イーゲンは選手によって、その選手にあった教え方をしてくれる素晴らしい先生だからもっと早くからここにくれば、リングスでも勝てたと思うんだけどね。
でも、あの日の相手はでかすぎるよ(笑)。355ポンドだぜ。あんなでかい奴は初めてだよ。それとボクは当日まで全然ルールも知らなかったんだ。もっと研究しときゃよかったよ。でも、ルールは、立ち技に関しても純粋に打撃を競えるんから、ボクみたいに打撃が得意な選手には凄くいいルールだとおもうよ。チャンスがあったらまた出たいね。日本にもぜひ行きたいから応援してくれよ。そのときは今度こそボクの打撃テクニックを見せるからさ。」

7.23 パンクラス ライト級 トーナメントに出場 ジョン・クリソストモ

『グラップリング・アンリミテッド』にはいろんなタイプの選手がいる。そして彼らのコーチであり、マネージャーであるイーゲン井上が、各人にあった大会に出場させているのだ。

このクリソスモは軽中量級の選手。先日も7・23後楽園ホールで行われたパンクラスのライトヘビー級トーナメントに出場している。ちょうど取材中に日本から帰ってきたクリソスモは、もらったばかりのパンクラスTシャツを着てジムに現れ、ボクをみつけるとしきりにパンクラスでの勝利を自慢してきた。「日本のプレスだろ？　オレはいま日本から帰ってきたばかりなんだ。パンクラスのトーナメントに出場してきたよ。聞いてくれよ、オレはワジュツ(和術慧舟會)の選手(金澤)に勝ったんだぜ。2回戦のブライアン・ガザウェイにだって勝っていたと思うんだけど、イエローを取られちゃって、それが響いて判定負けだよ。ブライアンにはまえに『スーパーブロウル』で負けてるから、リベンジしたかったけどね。でも、パンクラスに出場できてしかも勝利を挙げられたんで満足してるよ。え?リングス？　あれはヘビーウエイトの選手のための大会だよ。オレじゃ小さすぎるよ(笑)。」

リングスUSA in Hawaii
30ページ大特集

オレの夢はリングス・トンガ設立!!

Scooop Interview

トゥリー・クリハーパイ
TALI KURIHA'PAI

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

『PRIDE.7』でエンセンと"柔術マッチ"で闘った謎の"トンガ人柔術家(?)"をハワイで捕獲に成功!

キミは『PRIDE・7』でエンセン井上と「柔術マッチ」で対戦した、"トンガ人柔術家"を覚えているだろうか? 柔術マッチなのに裸で登場し、エンセン相手に何もできずに敗退した、『PRIDE』史上もっとも、謎につつまれたファイター、トゥリー・クリハーパイ。そんな男がリングス・ハワイ大会になぜか出場! もちろん本誌はその謎を解くべく独占キャッチ! そして暴かれた彼の素性は、予想以上に興味深いものだった!

——今日は"謎のトンガ人ファイター"の謎を解きにきました(笑)。

クリハーパイ ハッハッハ、OK!(笑)

——まずはプロフィールをどうぞ!

クリハーパイ 生まれはもちろんトンガ! それから15歳のときに家族でハワイに移り住んだんだよ。

——格闘技は何をやっていたんですか?

クリハーパイ トンガにいるころにボクシングを始めたんだ。プロでも10戦以上やっていて、日本のヨースケザン(西島洋介山)とも練習したことがあるよ。

——へ〜、そうなんですか。総合格闘技をやろうとしたきっかけは何なんですか?

クリハーパイ イーゲン(井上)がオレが所属してたジムにボクシングを習いに来たんだよ。それがキッカケとなってイーゲンと知り合い、イーゲンの方から逆に「柔術を勉強してみないか」と誘われたんだ。最初は柔術なんかよりボクシングの方が絶対強いと思ってたんだけど、イーゲンに腕を極められまくって考えを改めたよ(笑)。

——今回、リングスに出場したきっかけは何だったんですか?

クリハーパイ 寝技の時間が短いからストライカーにとって有利なルールだと思ったので、「こりゃいいや」と思って出場を決意したんだよ。そう甘くはなかったけどね(笑)。

『PRIDE.7』に出場できたのはミングがオレを紹介してくれたからなんだ

——元々、リングスを知ってましたか？

クリハーパイ　雑誌などで知る程度だけど知ってたよ。オレは確かにイーゲンに寝技を習ってるけど、やっぱりボクシング中心のファイターなんだ。だからオレにとって自分に一番適しているルールがリングスだと思うんで、これからもリングスには上がりたいね。この前の試合ではあんまりいい印象を与えられなかったと思うけど、これからいい結果を残して、また呼んで貰えるように頑張るよ。

——では、リングスにはどんな印象を受けました？

クリハーパイ　最初は修斗や『PRIDE』と同じような団体だと思ってたけど、ルールを知ってからは、これは一番安全なNHBの試合だと思ったね。

——選手にとっては一番いいルールだということですか？

クリハーパイ　例えばボクシングは凄く選手寿命が限られてるけど、リングスルールなら安全だし、上手くやれば50才ぐらいになっても戦えるんじゃないかと思えるほど、いいルールだと思うよ。

——さすがに50歳は無理だと思いますけど（笑）。では、リングスがアメリカでやるのはこの大会が初めてなんですけど、アメリカの観客にも受け入れられると思いますか？

クリハーパイ　間違いなく受け入れられるよ！　アメリカ人はブン殴り合いを見に来てるんだから。ほとんど客は寝技なんかわかっちゃいないよ（笑）。だからリングスのグラウンドで膠着したら立たせるルールはアメリカ人の客のためにあるようなもんだよ（笑）。

——そんなにピッタリですか（笑）。

クリハーパイ　ただ、これから客を教育しなきゃならないのは確かだけどね。ルールなんかわかっちゃいないんだから（笑）。NHBだったらマウントパンチで顔面を殴るのに、なぜ、リングスではダメなのかということをもっと普及させる必要があるね。それを客が理解して混乱させるようなことが無くなれば、試合展開も速いし、アメリカ人には必ず受け入れられるよ。

——ところでクリハーパイさんは一度『PRIDE』のリングに上がってますけど、あの『PRIDE・7』へはどういったきっかけで出場したんですか？

クリハーパイ　元スモーレスラーでいまはWCWのプロレスラーをしているミングを通して『PRIDE』を紹介されたんだ。

——え!?　ミングですか！

クリハーパイ　そう、最初『PRIDE』は彼にオファーを出したみたいなんだ。でも彼はプロレスが忙しいからオレにまわってきたんだよ。

——あの試合は柔術マッチでしたけど、その頃はまだグラップリング・アンリミテッドには来てなかったんですか？

クリハーパイ　うん、そのあとだね。だから当時はまだ単なるボクサーだったんだよ。

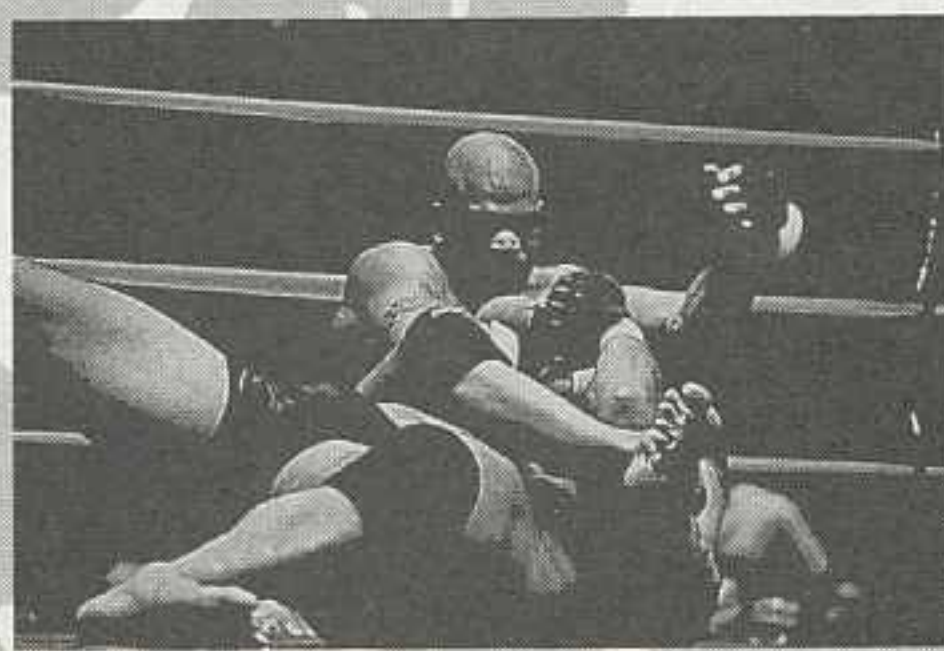
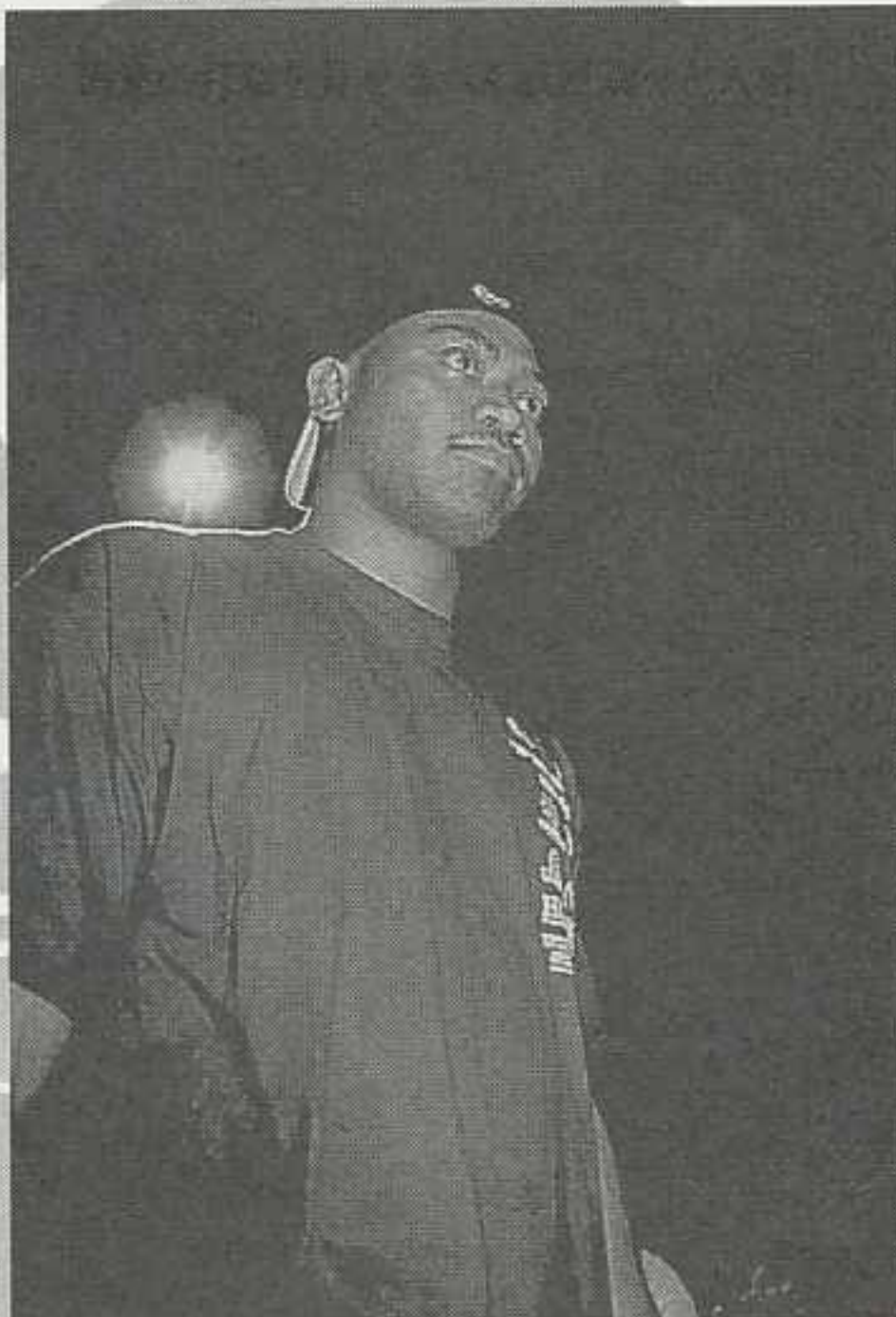
——それじゃあ、打撃ナシの柔術マッチだと聞いたらビックリしたんじゃないですか？

クリハーパイ　オレ、実は柔術のルールなんて全く知らなかったんだよ。ハイスクールでレスリングをかじってたから、似たようなもんだと思ってたんだけどね（笑）。

そしてリングスUSA in ハワイに出場 オーフレイムと対戦するも……

試合開始直後の打撃の間合いには緊張感がみなぎっていたが……。

クリハーパイ無念の敗退。しかし、もう一度チャンスを与えたい！

オーフレイムが打撃のスペシャリストという情報を仕入れていたクリハーパイは、得意のボクシングで勝負しようと打撃の間合いで近づくが、以外にもオーフレイムはいきなり両足タックル！　虚をつかれたクリハーパイはグラウンドで防戦一方。いつの間にかグラウンドがかなり上達しているオーフレイムは、流れるように腕を極め十字で勝利。エンセンに続いてクリハーパイはまたもや秒殺されてしまった。

ところがまたもや、グラウンドに持ち込まれ、皮肉にもエンセン戦と同じ腕ひしぎ十字固めで敗退。

○V・オーフレイム（1R2分5秒 腕十字）トゥリー・クリハーパイ×

「PRIDE.7」エンセンvsクリハーパイ "柔術マッチ"とは何だったのか？

マウントを取られたクリハーパイ。本人はこれで試合終了と勘違い。

そしたら、思いがけず十字！「エンセンはなんてひどい奴なんだ！」（クリハーパイ）

エンセンとならんでもわかるように、以外にも巨体。

エンセンの体調がまだ完璧でないため、『PRIDE・7』の特別試合として組まれた柔術マッチ。エンセンの相手が「トンガ人柔術家」というみたことも聞いたこともない選手なので、一部で注目されていたが、まるでなにもできないまま完敗。試合後クリハーパイは「柔術家」というふれ込みにもかかわらず、「自分は打撃が専門なので、次は打撃有りのルールでやりたい」とコメント。当時は謎が深まるばかりだった。

○エンセン井上（1R1分15秒 腕十字）トゥリー・クリハーパイ×

オレとミングはトンガの酋長の子孫なんだ。そう〝プリンス・トンガ〟なんだよ（笑）

リングスUSA in Hawaii
30ページ大特集

――ルールも知らずに『ＰＲＩＤＥ』出場ですか（笑）。

クリハーパイ　そうそう、オレはレスリングのつもりだったからマウントを取られて肩がついた時点で負けたと思ったんだよ（笑）。それなのにエンセンはそこからさらにアームバーを仕掛けてくるから「試合は終わってるのに、何やってんだよ！（怒）」って感じだったんだ（笑）。

――アハハハ！　結局最後までルールを知らなかったんですね（笑）。ところで先ほど話してたミングとは、どんな関係なんですか？

クリハーパイ　ミングは親戚だよ。

――え!?　ミングと親戚なんですか!!

クリハーパイ　爺さん同士が兄弟なんだよ。実はオレやミングのひい爺さんは酋長でウォリアーだったんだよ。

――酋長でウォリアーですか！（笑）。

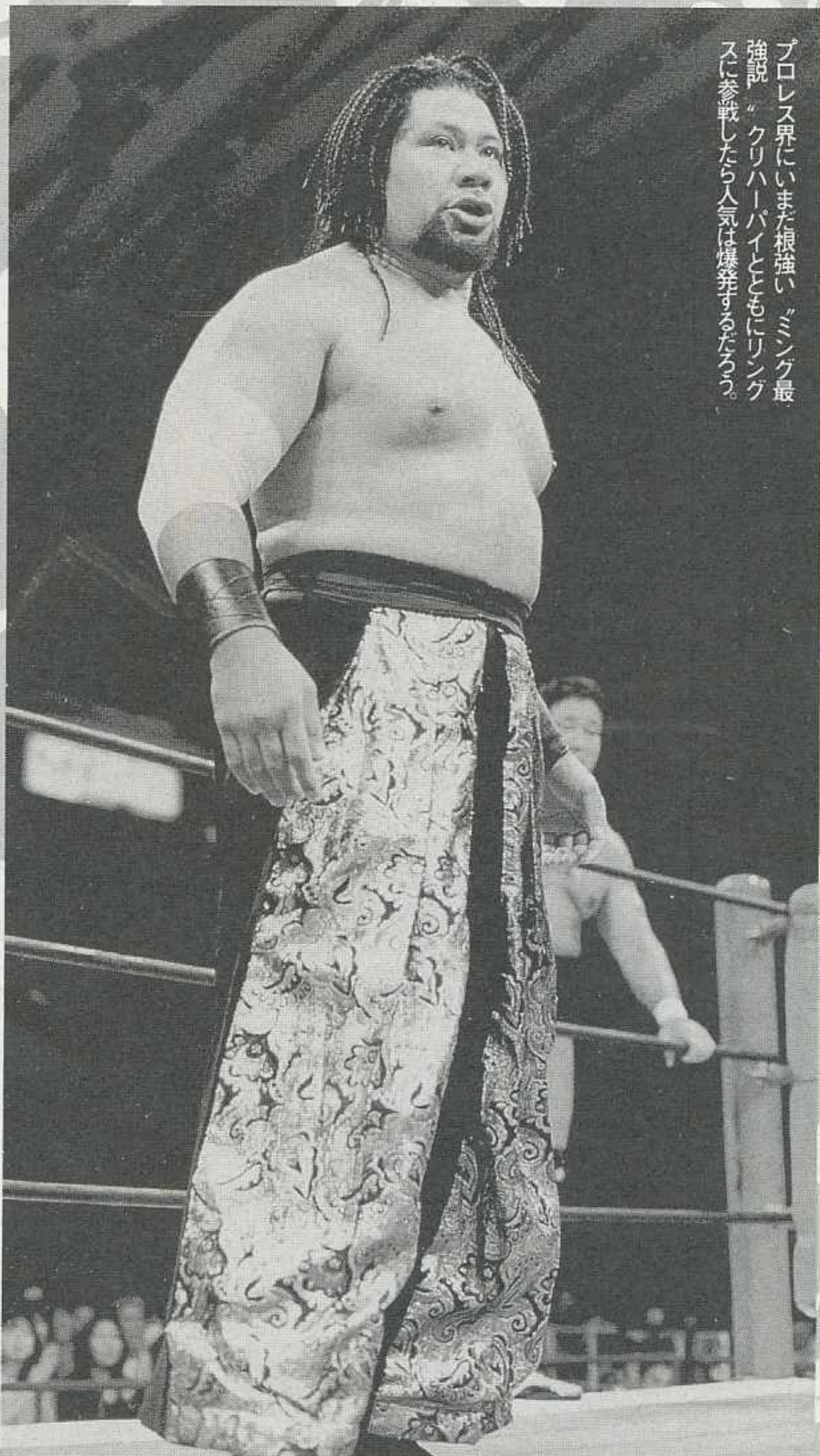
クリハーパイ　そう、トンガは昔、周りのいろんな部族を制圧してた時代があって、その時代の酋長だったんだよ。酋長だからいろいろな所でいろいろな女と寝て、いろいろな所で子供を作ったので、兄弟がみんな別のオフクロだったりするんだよ（笑）。でも、オレとミングは同じラインでウォリアーの血を受け継いでいるんだよ。

――ではミングは、昔「プリンストンガ」というリングネームを使っていたんですけど、名前の通り本当にトンガのプリンスだったんですね（笑）。

クリハーパイ　その通り！　酋長の血を引いてるから「プリンス・トンガ」という名前はリアルなんだよ。レスリングの方はフェイクだけどね（笑）。

――アハハハ！　何をいう！（笑）。

クリハーパイ　だからトンガに帰るとオレたちファミリーの土地がたくさんあるんだよ。でも、オレには子供がいないんで、まだその土地を相続する権利はないんだ。まぁ、いつの日かトンガに帰ったら、トンガ初の総合格闘技道場を開いて、そこで育てた弟子をリングスに送り込みたいね。

――リングス・トンガ設立ですか！（笑）。夢が広がる話ですねぇ。ミングとは会ったりするんですか？

クリハーパイ　いや、元々ミングがトンガにいたのはオレが小さい頃だったから、オレは彼のことは覚えてなかったんだ。でもある日テレビに出ていた彼をオフクロから「親戚だ」と教えられて初めて知ったんだ。だから去年『ＰＲＩＤＥ』のときに、ミングもプロレスのツアーで日本に来ていたんで会ったんだけど、子供の頃以来の再会だったから、彼は感動して泣いていたよ。

――くぁ～、「プリンス・トンガ」同士が日本で涙の再会ですか！　ドラマチックですねぇ。『ＰＲＩＤＥ』に出場した時には、本当にクリハーパイさんの情報がなくて〝謎のトンガ人〟という呼ばれ方をしていたんですけど、ミングの親戚だとわかったら、日本のファンはきっと興味を持ってくれると思いますよ。

クリハーパイ　それは嬉しいね。オレは日本のファンが一番好きだからね（笑）。日本人は本当に親切なので、昔のトンガを思い出すよ。子供の頃、トンガで暮らしていて、白人は見たことがなかったけど、日本人はビジネスマンとしてトンガに来ていたので、オレは日本の習慣にも馴染みがあるんだよ。食べ物も魚を一杯食べたり、凄く似ているので日本には親しみを持ってたんだ。試合で日本へ行った時にも、緊張してるオレを日本のプロモーターは王様のようにもてなしてくれたんだ。そんな国は他にないよ。

――それじゃあ日本のリングスの大会には、ぜひとも出場したいですね。

クリハーパイ　もちろんだよ！　オレは爺さんが死んだ時に「白人は信用しちゃいけないけど、日本人は信用しろ」という遺言をもらってるからね（笑）。

――凄い遺言ですね（笑）。

クリハーパイ　その時は爺さんの土地に日本人の工場があったんだよ。そんなこともあって日本人には凄く親しみが持てるんだ。だから今回リングスＵＳＡ大会に出場したのをキッカケに日本で試合ができると嬉しいよ。

――ボクも日本のリングスにクリハーパイさんが登場するのを見たいですよ。そのときは是非、ミングにセコンドについてもらって下さい（笑）。

クリハーパイ　ハハハハ、ＯＫ！（笑）。

――それでは来るべき日本再来日へ向けて、最後に日本のファンへのメッセージをお願いします。

クリハーパイ　（かしこまって）もし日本へ行くことが可能になったら、オレのストライカーとしてのテクニックを見てください。もちろんグラップリングの技術も上達しているので、勝つにしろ負けるにしろ、日本のファンを喜ばせる自身はあります。しっかりアクションを起こしてＫＯを狙うんで楽しみにしていて下さい。

――〝プリンス・トンガ〟クリハーパイのリングス参戦を楽しみにしてます！（笑）。

【7月24日（現地時間）グラップリング・アンリミテッドにて収録】

プロレス界にいまだ根強い〝ミング最強説〟。クリハーパイとともにリングスに参戦したら人気は爆発するだろう。

リングス BATTLE GENESIS Vol.6　9月5日(火)後楽園ホール(18:30ゴング)

『実験リーグ』の緊張感と期待感が蘇る

驚愕!! "あの"村浜武洋がKOKに挑戦！ 和術慧舟會も参戦！ 坂田はブラジルの強豪と激突！

「打撃では負ける気がしないんで、アイブルみたいに殴り勝ちます」と宣言した村浜のKOK出場は前田も注目。早くもグラウンドの逃げ方をアドバイスしていた。

4月にヒンクルに一本勝ち、5月にはWEFで勝利するなど、勢いに乗る坂田が再びブラジル狩りに出陣！

昨年の9月以来、約1年ぶりに開催されるリングス後楽園大会『BATTLE GENESIS Vol・6』の主要対戦カードが発表された。

KOKトーナメント開催以来、NHB系の外国人選手に広く門戸を解放してきたリングスであるが、今回の後楽園は他団体の日本人選手を多数導入。ハワイ大会で階級制がスタートしたリングスが、いよいよ軽・中量級にも本腰を入れてきた。

まず、一番の注目は村浜武洋の参戦。現在所属する「大阪プロレス」ではルチャリブレに挑戦している村浜だが、シュートボクシング時代は、K―1フェザー級王者になるなど、軽量級最強の名をほしいままにしていた男。しかも投げ技を得意としており、鮮烈な総合デビュー戦が期待できそうだ。

そして、数多くの大会に選手を送り込むWKネットワーク・和術慧舟會が満を持してリングス参戦。まずRJWセントラルの高田浩也の出場が決定。またWEF公式戦出場権を賭けた、4名参加のライト級トーナメントの開催も決定した（欄外参照）。

そしてリングス勢では坂田亘が出場。4月のヒンクル戦で頭部にダメージを負い欠場していたが、復帰戦でいきなりルタリーブリ王者と激突。念願のブラジル狩りはなるか？

他流派、多国籍が入り乱れる「実験リーグ」を彷彿させる緊張感、期待感が充満する今大会。はたしてどんな化学反応を起こすか？

BATTLE GENESIS Vol.6

9月5日(火)　後楽園ホール　START 18:00
決定分カード

【リングス(KOK)ルール　1R10分　2R5分】

高田浩也 (RJWセントラル)	VS	エメリヤーエンコ・ヒョードル (リングス・ロシア)
村浜武洋 (大阪プロレス)	VS	ガブリエル・リムレイ (ミレティッチ・マーシャルアーツ・センター)
坂田亘 (リングス・ジャパン)	VS	グスタボ・シム (ファス・バーリ・トゥード)

他3試合を予定

【チケット】
リングサイド 10,000円～A席 5,000円
チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド他、プロレスショップ等で発売中

PROFILE

グスタボ・シム
ファス・バーリ・トゥード所属　180cm　91kg　ブラジル出身　25歳　7年前から"路上の王"マルコ・ファスに師事し、ムエタイ、ボクシング、ルタリーブレを習得。ルタではチャンピオンにも輝いている。VTでは3勝1引き分けと負けなし。トレーナーのレイタウンが「素質はレナート・ババル以上」という逸材。

ガブリエル・リムレイ
ミレティッチ・マーシャルアーツ・センター所属　173cm　67kg　21歳　高校時代にレスリングを学び、空手を6年間修行。柔術はまだ1年と経験が浅いが、昨年MMAナショナル選手権では決勝まで進み、その潜在能力をアピール。アマNHBでは6勝無敗。現在はUFCライト級王者P・ミレティッチにVTのセオリーを叩き込まれている。

エメリヤーエンコ・ヒョードル
リングス・ロシア所属　182cm　103kg　23歳　96年柔道ロシア選手権優勝。97年サンボロシア選手権優勝。97年サンボ・ヨーロッパ選手権優勝という輝かしい実績を持つ、組技のスペシャリスト。また、ロシアではグローブを着用してのトレーニングもしており、KOKにも充分実力を発揮すると期待されている。

7月30日リングス・アマチュア大会　新宿・スポーツ会館

ネットワーク拡大は国内にも広がっている！

アマに団体の垣根なし！ P's lab、パワー・オブ・ドリーム、修斗、浜口ジム、慧舟會参戦

競技者はレガース着用、グローブなし（顔面打撃なし）、投げのポイントが付く、まさに打投極のUスタイル。

第8回を迎えたアマチュア・リングス・トーナメントが、7月30日過去最大の88人が参加して新宿スポーツセンターにて盛大に行われた。

リングス主催とはいえ、総合格闘技の底辺拡大がテーマのため、オープン参加の形式をとった今大会には、P'sLABやパワー・オブ・ドリーム、修斗所属ジムなどプロでは参戦が考えられない団体も数多く参加。しかもこのところの"やる側"格闘技ブームのためか、なかなかハイレベルで、緊張感のある好勝負が続出した。

ルールは顔面打撃なしのポイント制一本勝負。プロの試合と違い、判定はすべてポイントの優劣と体重判定で行われ、試合もわかりやすく、アマチュアながら見ても面白い競技となっているところが印象に残った。

年々多くなるアマ総合格闘家。そしてそこから多くのプロを生むためにも、これからも継続してほしい大会である。

セコンドにはプロの選手の姿も。右は修斗でいま注目の植松直哉選手。

大会委員長は前田社長が欠席のため、長期欠場中の成瀬昌由が務めた。復帰はいつか!?

第8回　アマチュアリングス・トーナメント

【各階級　優勝・準優勝者】

階級		
60kg級	優勝	佐藤力(SWC)
	準優勝	小林悟朗(U-FILE CAMP)
70kg級	優勝	小谷直之(RODEO STYLE)
	準優勝	滝田将也(和術慧舟會東京本部)
80kg級	優勝	山本裕次郎(浜口道場)
	準優勝	安達史紀(K's FACTORY)
80kg超級	優勝	太田光一(山田道場)
	準優勝	伊藤誠(A3ジム)

【リングス緊急プチニュース】●9月5日後楽園、KOKルールによるWEF出場者決定トーナメント（ライト級）開催！ 参加選手4名のうち3名が8・18に発表になった。藤原智嗣（和術慧舟会）、姿清仁（四王塾）、西内太志朗（U-FILE CAMP）他1名は選考中！●金ちゃん欠場！ もう終わってるが、8・23大阪大会で行われるはずだった金原弘光vsJ・スリック戦は、金原の右第11肋骨骨折のための欠場により、スリックの相手がヴァレンタイン・オーフレイムに代わった。早く戻れ、金ちゃん！

FIGHTING NETWORK RINGS

壮大なる格闘実験。

BATTLE GENESIS Vol.VI

村浜武洋
KOKルールに挑戦！
和術慧舟會
参戦決定！

2000.9.5(TUE) OPEN·17:30 START·18:30 後楽園ホール

入場料金
リングサイド：¥10,000
S席：¥8,000／A席：¥5,000
学生特別優待席：¥2,000
※学生特別優待席はチケットぴあのみでの販売となります。
なお、高校生以下に限らせていただき、ご購入の際、学生証の提示が必要となります。

発売場所
チケットぴあ TEL:03-5237-9999／CNプレイガイド-TEL:03-5802-9999
ローソンチケット-TEL:03-3569-9900（Lコード−31346）
後楽園ホール-TEL:03-5800-9999／レッスル渋谷-TEL:03-3464-0078
レッスル池袋-TEL:03-3989-0056／書泉ブックマート-TEL:03-3294-0011
大山アメリカン-TEL:03-3962-6443／
ビデオショップチャンピオン-TEL:03-3221-6237
フィットネスショップ水道橋店-TEL:03-3265-4646
ファイター新宿店-TEL:03-3354-1903
格闘技プロショップ イサミ-TEL:03-33[illegible]083
イサミ尚武堂-TEL:03-5214-6487
●お問い合わせ：オデッセーTEL:0[illegible]6-9999

チケット
絶賛発売中
主催：　FIGHTING NETWORK RINGS
後援：日刊スポーツ新聞社／東京スポーツ新聞社
協力：日ロスポーツ交流協会
日本コマンドサンボ連盟

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT 2000

KING of KINGS

2000.10.9(月·祝) OPEN-15:00 START-16:00

国立代々木競技場第二体育館

BEST OF THE スーパーコラム™

AUGUST.2000

★今号のラインナップ★

えっ!? ブロディーがノーロープ有刺鉄線柔術ジャケットマッチに出ていた!? って、んなわきゃないんだが、あのブーツで、チェーンをブン回して、リオ・デ・ジャネイロあたりの柔術大会に乗り込んで欲しかったですな。でも、治安悪そうだから、やっぱり刺されちゃうのかな? と かなんとか、そんな妄想満載のキングコング級の爆弾コラム、いってみよー!

じぇりー・うかい■最近仕事先で、格闘技に興味あるって輩が異常増殖中で気持ち悪りぃ日々。今までのプロレスファンとそうで無い連中との間にあった、心地いいバリアーがチンポ玉乱かったのに。ちなみに好きなレスラーはビル・ゴールドバーグ! 追伸：東スポの「必殺やわら忍法プロレス武闘王伝」は実につまらん。

KING KONG BRODY Rio De Janeiro Tour 1982 / Destroy All Monster / ©Antonio Design Service Japan Collection

1982年にリオデジャネイロで行われたルタ・リブリの大会に出場した時のブロディの貴重な写真。結果は2回戦で反則負け（反則の内容は不明）。な、な、なんと相手は当時まだ若手だったマルコ・ファス。日本のプロレス及び格闘技雑誌で報じられることはなかった。嘘。

Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

BEST OF THE スーパーコラム

この夏は『顔』（阪本順治）がイチバーン。

花くまゆうさく
リングの汁 RADICAL

マスクはがしにくるかなハイアン

まだ前号の『紙プロ』を読んでないのにもう締め切りだ。書くことないけど、いつものようにムリヤリ字数埋めるぞ。

これを書いた数日後には「五条霊戦記GOJOE」の試写会行けるのでとても楽しみだ。ここ数年、抑えた作品であったが（それはそれでいい）、今回の「GOJOE」は初期石井作品の爆裂映画を思わせる気がするので胸踊る！

船木はどんな役なんだろうか？　中学生の時に見た角川映画でのストロング金剛みたいな役だったらいいなあ（ちなみにその映画の初日に友達が行ったら、金剛の応援でドラゴンも舞台挨拶に出てスピーチしたらしいけどチンプンカンプンなことしゃべってたってタレコミを聞いた覚えアリ。当時からやはりドラゴンはドラゴンだった）。

その船木だが再婚して驚いたのは、鈴木もそろって再婚していたことだ。いままでもイヤになったら団体を辞めて次へ移ってきた2人だが、結婚も同じノリだったのか？　うらやましいぞ、そんな自由で！　あなた達こそ、真の〝フリーバーズ〟だ！　もう中村あゆみの曲はやめて、フリーバーズの入場曲（イントロのやさぐれた感じが最高！）で入場してください、鈴木みのる。

フロントチョークも入ってましたよ！
でもセコンドがまだまだってって言うから〜

次は『プライド10』。実際、修斗とのバッティングは困るが、帰りのことを考えると西武ドームはあまり行きたくない（池袋までの帰りの電車は拷問でしょ、たぶん）。

でもそそられるよね、カシンvsハイアン！　マイウェイ石沢が遂にプライドに上がる。対するは、〝柔術番長〟〝ビーバップ柔術〟〝柔術ジャイアン〟なハイアン・グレイシーだ。

ブラジルから流れてくる話を耳にし想像すると、ジャイアンみたいな存在なんだろうか？　ドラえもんの登場人物達が集まっている時に、ジャイアンが来た時の空気ってあるじゃないですか。ハイアンが来るとそんな空気になるようだ、わかりやすく例えると。

カシン戦は、やっぱ反則負けになっちゃうのかなあ。それともカシンが十字極めるのか？　ハイアンがスタミナ切れてガス欠になるのか？　んー、やっぱ見てえ！　あとハイアンは六本木でケンカしそうな気がする……。

藪下vs中西の再戦よかった。藪下はもと強えんだとして、中西が凄い。美濃輪や松井に感じた底力を、中西にも感じる。

そんで修斗、植松がメインの後楽園。修斗ライト級チャンプへ向け、植松爆進中だ！　以前の野中戦のように、攻め込まれるとそれまでの強気面が消えてしまい、少し心配になったが最後はキッチリ極めて爆勝だ。「植松にガード取ったらおしまい。足割られたらアキレス地獄へ直行！」は定説なんです。

次は朝日戦で凄い楽しみ。キッチリと足関で勝ってほしい。そしてノゲーラとタイトル戦でチャンピオンだ。そこへ上がってきたバレットと当たる、そしたら最高なんだけどね。数年前からの私のナンバー1妄想カードである「植松・バレット・矢野卓見の三つ巴戦」がいよいよ実現しつつあるか？　でも、バレットの修斗での試合見てると少し不安（そのうち他の人に打撃で負けそう）、やはりバレットは打撃なしのサブミッションレスリング系の試合が一番合ってると思う。それでもなんとかバレットにはランキング1位まで上がって植松とやってほしい。そして他の試合でもいいから、矢野卓見もなんとかこの2人とリンクしてほしい。

番長たちの夜
やはり六本木でケンカするハイアン
なんだよあの外人恐えー
そこへ酒の入った六本木番長の高田と前田…
どうなる六本木！

アキレスいきまーす

前からアブダビに桜庭が出て欲しいと願っているが、植松もそうだ。次々と足関極めて勝ち上がる姿を想像するとタマリません。

そんでルミナは、横浜でクワタクか……（ヤノタクだったら凄いのになあ）。もし勝って、年内に宇野とやってもしもそれも勝ってチャンピオンになったとしたら、来年は三島☆ド根性ノ助との一戦が見たい。三島は強いよ！

マーシオ・フェイトーザがいよいよ修斗ルールで闘う。相手は宇野らしいが、ポイント柔術家のフェイトーザとスロースターターの宇野、なにか盛り上がりのない判定試合になりそうな気がする。それにしても、須藤元気の次はフェイトーザと、キツイ相手ばかりとやる宇野は凄い。その後は、ルミナに五味とホント大変ですよ。ルミナとの再戦はどうなるのかなあ？　CMの内容では宇野の勝ちだと思ったけど。でも今いちばん最高なCMはレイクエンジェルスだけどね。サイコーだよ、〝レ〟〝イ〟〝ク〟!!　カンペキだあ。

はなくま・ゆうさく■モー娘。で市井がいなくなって悲しいこの気持ちは、タニャンで五味岡たまきが消えた時と同じだ。でも後藤がいるからいいけどね。

BEST OF THE スパコラム

男気啓豪バンド『ロマンポルシェ』の説教担当掟ポルシェの 未☆勝ちます

NOXX旗揚げ！の巻

旗揚げ前夜、いてもたってもいられず ただ闇雲にブラつき、飲み歩いた……

撮影／堀内抄子

8月5日、心のインディペンデンス・デイ。自由への航海を求めて再び船出した男達の理想郷を両の眼に焼き付けるべく、俺はついにここへやって来た。どれだけこの日が来るのを待ちわびたことだろう。何カ月にも何年にも感じられたこの空白の歳月……その歴史がまた新たに動き出すのだと思えば正直、震えが止まらなかった。ディファ有明などという聞き慣れない現代的な響きの会場での旗揚げは何やら似つかわしくない気もするが、最寄り駅からの妙なアクセスの不便さを知る度に、あの無骨な男たちにはこれ以上相応しい場所もないのだと理解した。ここは後楽園ホールじゃない——こんな当たり前の事実さえ怒涛の新章の幕開けの心憎い演出になるだろう。夜明け前のものだと知ればこそ、人は薄暗がりの静寂にも意味を持たせ、ひたすら感謝するのだ。

有明の駅を出て会場へ歩いていく道すがら、昨夜のことを思い返していた。いてもたってもいられずただ闇雲に吉祥寺をブラついていたら、無意識のうちに『どりんくばぁ～・維新力』へとたどりついてしまった。入るべきかどうか、こんな時に失礼ではないか、いらぬ逡巡に二の足を踏んでいたが、戦の前に気勢を上げるのも男の仕事と思い暖簾をくぐった。店内は折からのパラパラブーム再燃に伴い爆音でザッツユーロビートが流れ、ジュリアナ詩ちゃん復活祭の趣だ。ちょっと塩味キツめの維新力特製ちゃんこに舌鼓を打ちながら、本当の意味でやっちゃいけない維新力vs上田馬之助の出刃包丁デスマッチへの俺なりの思いをブチまけてみた。デスマッチではなく〝単なる殺し合い〟になる可能性と危険性の提示が商品化された凄まじい瞬間とその結果を予測する楽しみ。試合として成立するのか想像がつかないという点で電流爆破の数倍ヤバさを感じさせた一戦を御本人を目の前にして賞賛しまくった。グラップラー刃牙に登場するキャラクターのように鋼鉄の腹筋で出刃包丁をヘシ折る維新力、そんな訳は絶対にないので、実際拍子抜けするほど牧歌的な試合ではあったが、いつかあの間違った一戦が帰ってくることを信じて店を後にした。

明日の旗揚げを前にどうにも気分の高揚を止められない俺は、『15の夜』を口ずさみたいがために盗んだバイクで走り出した。酔っぱらい運転だが免許がないので免停もなく逮捕されても痛くも痒くもない。完全犯罪の成立につい勃起。いっそ吉原へと思ったが、こんな切ない夜だから気がつけば小田原へと向かっていた。『スナック・ケンドー』！　明日のことを考えて絶対休業だと思いきや店開けてるじゃねーの!!　ジーン・フレージャーにそっとつかみかかろうとするナガサキばりに抜き足差し足で入店するや店内を一瞥してパイプイスがないかどうか確認。ゆったりしたソファーが整然と並べられたフツーの店構えなのでイス攻撃はサービス内容に含まれてない模様。惜しい。ドリンクの注文を軽く済ませたら早速ドラゴンマスター・ナガサキに明日の旗揚げ戦について突撃インタビューを敢行だ！

「こんな時間まで店やってて大丈夫ですか？」

「いや、ウチはいつも通りだけど」

約20時間後には消化器片手にリングで暴れ回ってるだろうにこの平常心！　流石は前回の旗揚げ戦の感想を〝ま、こんなもんでしょ〟の一言で済ませた男・ナガサキだ。そっけなさの格が違うよ、格が！

「明日のカードはまだ発表になってないですよネ？　少しヒントだけでも教えてくださいよ～、ディファ有明にジェットシン親子は来ますかね？」

「有明？　シン？　なんですかそれ？」　カード編成さえもギリギリまでトボけて肩すかし！　ナガサキのプロ意識の高さも手伝って俺は大いに酔いしれたのだった……。

そして明くる日、ディファ有明前に張り出された対戦カードを擬視してみたが……アレ？　ナガサキの名前がない！　それどころか三沢や秋山など旧全日勢の選手がズラリ。おかしいなぁ、カモメと漁船が並ぶ小田原らしい斬新なデザインの新ロゴマークはしっかり出てるんだけど……エッ!?　これ〝NOW〟って読むんじゃないの!?　ナニそれ〝NOAH〟って？　三沢の新団体!?　聞いてないよ!!　じゃあせめてあの紛らわしいロゴの責任取ってくれよ！　秋山、消化器持参で入場!!　それでいいじゃん、間取って。エクスプロイダーで危険な角度でマットに叩きつけてキメ技は消化器！　普通にフォールしてれば3カウントとれるのに敢えて2・9で消化器噴射！　これぞ2・9プロレスの凄みだ！　ってことで丸くおさめたいんだけど、ダメ？　ダメですか、そうですか……。

おきて・ぽるしぇ■8月6日バンバンビガロ興行にて初めて四角いジャングルに立つ。リングの感触に感動するあまり調子にのって場外へトペ敢行！　しかし着地に失敗してヒジを故障し、藤波の偉大さを知った……。

男気満載の『暴力大将』（￥1600・税抜／ch-68）は絶賛発売中!!　10月18日に遂にNEW ALBUM『男峠』が発売決定!!　音と説教の洪水に打ちのめされてしまえ!!

今月の オトコラム プレッシャーズ

将軍KYワカマツ復活!!

地元・北海道芦別市でまかり間違ってうっかり市議会議員に当選してしまった悪の正太郎君が、不埒な悪行三昧の日々の全てを償うかの如く町おこしを計画。そのアイディアとして思いついたのが芦別市を巨大なトラの穴にすること！　北海道の大地で増殖を繰り返すストロングマシーン軍の絵面を思い浮かべて何やらグッときたんだが、当然そんな無意味に面白いことだけしてもしょうがない。よく聞けばなんのことはない、全女が秩父に所有するリングスター・フィールドのようなリング付きの格闘技合宿所の建設に乗り出した、ということらしい。リングスターが学生プロレスの夏期合宿所化しているのに対し、芦別トラの穴は格闘家専用を目指す模様で、まずは新日時代の微妙なツテで高田延彦を勧誘！　現場復帰のトレーニング地として使ってもらおうとラブコールを送った。安生の200％マシーン、桜庭のサクマシーンに続き元キングダム勢がやたらとマシン軍化しているが、ついには高田まで……。北海道から帰って来た頃には誰しもが予想した通りにスーパーノブマシーンとして、新日で平田と対戦することになるだろう。マシンになりたきゃ芦別へ行け！

有名人学歴KGB・堀越日出夫の 凄頭

偏差値を通してプロレスを見ろ！

新日→全日とお届けしてきた「凄頭」だが、今回は消滅したSWSにスポットを当ててみた。すると、驚くなかれ、S分裂の真相が見えてきたのである！　って、そんなわきゃないよねぇ（タモさん風）。

90年10月に旗揚げし、92年6月に消滅したSWS。

いろんな意味でスケールが大きく、収入も大きかったが、その分バッシングも痛烈に受けた同団体。では、学歴方面はどうだったのだろうか？

今回、最終学歴が判明した22人中、大卒は7人。31％に相当する。新日、全日と比べるとやはり10％以上のマイナスだ。

それだけでなく、将軍KYワカマツや高木功、高野兄弟などの「学校名はわかんないけど少なくとも大卒じゃない」組をも含めると、25％！

また、中卒組を見てみると、天龍、北尾、カブキ、維新力、ワカマツ、高木などの「相撲組」が占めているのは分かる。石川敬士は例外だ。出世したいのなら、すこーしでも早く角界入りするのが妥当。そう、リング上だけでなく、「カラッと激しい学歴」を体現していたわけだ。

どうでもいいが、高野ブラザーズの学歴ほどプロレス界で謎のベールに包まれているものはないと、個人的に思う。

二見書房刊『フタミのなんでも大博士9　プロレス大図鑑』（80年発行）によれば、「高校時代は、陸上のハイジャンプ選手として活躍」なる記述があるジョージ。

その高校名を知ることが、ボクのライフワークになりつつあるこの頃だが、福岡のキャバクラなどでさんざん調査しても、キャバクラ嬢はジョージなど知るはずもなく、ガックリ。

一方の俊二（現・拳磁）はといえば、もっと不明で、高校に入学したのかさえも判然としない。福岡方面の読者に情報提供を呼びかけたい。

それはそうと、さっき、80年代半ばの全日のパンフを読んでたら、ブロディは「ヒューストンコロニカルという新聞の記者」、鶴見は「東海大学物理学科卒」というだけで「変わり種」という、マヌケな異名をちょうだいしてしまったもの。

逆にいえば、理系の大学とか、ましてや新聞記者なんて、レスラーからすればとんでもないインテリであると、団体サイドが抱えるコンプレックスを見事に露呈してしまったわけだ。

それはともかく、ひとりひとり斬っていこう。

大卒1位は阿修羅原。でも、これはラグビー推薦なので、割愛。

川畑輝鎮って専修行ってるけど、鹿児島南高校は進学校じゃないし、なんかの推薦か？　といいつつ、どんな選手だったか、ぜんぜん覚えてません。

高卒トップの偏差値は仲野信市。でも、彼は野球推薦。おそらく、〝隠れ1位〟はドン荒川。出水学園高校（現・出水中央高校）は京大に2名、九州大に6名（99年実績）送りこむほどの進学校だったのだ！

鹿児島にはラ・サール高校（東大73名）や鶴丸高校（東大14名）があるため、県内トップにはなれないが、地味ながらも進学校といってよい。おそるべし、ドン！

レボリューション、道場檄、パライストラの3つの部屋が凌ぎを削ったS。「●●の部屋は中卒ばかりだったため、そのアンバランスさがS破滅の引き鉄になったのでは？」という仮説を実は用意しておいたのだが、調査を進めると、この仮説にまったく結びつかないという、惨憺たる原稿になってしまった。ヒドイよ！

ところで、マコ・スガワール、どこ行ったのかなぁ。特番でやった「オールナイトニッポン」面白かったのになぁ。

では、最後に恒例の同窓生情報を。

天龍の両国中の同期に三遊亭楽太郎がいたことは「紙プロ」読者ならご存知だろう。

アポロ菅原の秋田工業には、落合博満という怪物がいた。天と地ほどの地名度の差があろうが、アポロにももうひと花咲かせて欲しいもの。というか、引退したんだっけ？

それにしても秋田からは、大剛鉄之助、太田章先生、三沢威（＝引退）、桜庭和志、ジャイアント落合など、意外に多くの人材を出している。ちなみに、太田章と桜庭は今夏、甲子園に出場した秋田商業だ。

維新力の高南中は一色紗英もOG。青梅街道のすぐ南にある中学。一色の実家が杉並区和田だから、維新力の実家も近所なはず。

北原の福岡第一高校はCHAGE&ASKA、林葉直子、最近では氷川きよしも輩出している有名私立。同校での北原の名前の浸透度が気になって仕方ない今日この頃である。

折原の関東学園大付属高（群馬）は木村浩一郎、茂木正淑など、プロレス界への〝人材派遣高校〟ともいうべき高校。インディーなんかでもOBが他にもいるだろう。

でも、関学大付属以上なのが足利工業大付属高校。谷津、三沢、川田、『神風』、福田雅一など錚々たるメンバーが……って前にも書いたな、これ。

ほりこし・ひでお■最近はNHK教育テレビの川番組、「美しき自然」、テレ朝「宇宙船地球号」など、落ち着き払った番組を見つつ、著名人学歴データをまとめる作業を繰り返す、〝らしくもないぜ〟なストーカー。こうして毎日、数件のデータが蓄積されていくのである。

凄頭な男たち

その著書『瞬間（いま）を生きろ！』によれば、進学校だった両国中学に編入した天龍は、先生から「寝ててもイイから迷惑をかけるな」と言われるわ、本読みの順番を飛ばされるわ、さんざんな差別を受けたとう。

Jリーガーなどを輩出するスポーツ学校の福岡第一高。青学2、亜細亜2、専修1などという有様。さっき、福岡出身者に聞いたら、「福岡第一？　うーん……」と言うなり、ダンマリを決め込んでしまった。

物理学とプロレスにどんな関係があるのか知らないが、そんなこといったら、ボクもアイドルとまったく関係ない商学部卒なので（しかもダブって）、その辺に関しては不問に付したいところだ。

?

猪股弘史

元プロレス・カルトキングの話によると、どこかの高校？で体育教師をしているという情報があるという。ということは、国士舘の体育学部なのだろう。「レスラー→教師」のケースは初めてでは？　逆はあるけど。

無尽蔵な財力を誇ったSWSの学力は？

高卒編

ダントツの1位はなぜか仲野　驚愕の"裏1位"は荒川真だ！

★偏差値ランキング★
〜都内近郊〜

61 仲野信市➡日大藤沢高（神奈川・1年中退）

50 折原昌夫➡関東学園大付属高（群馬）

49 冬木弘道➡横浜商科大付属高（神奈川）

41 新倉史祐➡藤沢高（神奈川）

★出身校一覧★

- アポロ菅原➡秋田工業高（秋田）
- 荒川真➡出水学園高（鹿児島）
- ウルティモ・ドラゴン➡名古屋市立工業高（愛知）
- 大矢剛功➡尾山台高（石川県）
- 北原光騎➡福岡第一高（福岡）
- 佐藤昭夫➡弟子屈高（北海道）
- 佐野直喜➡苫小牧西高（北海道）
- ジョージ高野➡学校不明

寸評　高田延彦や仲野を紹介するとき、「神奈川では有名な野球少年だった」というフレーズがありがちだが、高田も野球推薦で高校に行ってればまったく違った人生が拓けていたはず。亜紀夫人と知り合うこともなかったし、タクシー内で（泥酔しつつ）プロポーズすることもなかったし、ヒクソンに連敗することもなかった。仲野もまた、谷津に振り回されることもなかっただろう。げに、高校は人生を狂わせる。ちなみに、『トンパチ』（芸文社）でのインタからすると、ジョージは中退のはず。

大卒編

SWS分裂のカギを握ってることもなくはない学士様たち

★偏差値ランキング★

56 阿修羅原➡東洋大
川畑輝鎮➡専修大

54 谷津嘉章➡日本大
石川孝士➡日本大

53 鶴見五郎➡東海大・理・物理

50 直井俊光➡東海大・海洋

47 猪股弘史➡国士舘大

寸評　どういうわけか、阿修羅と川畑が同点首位に並んでしまった。
阿修羅原は諫早農業高校（長崎）からラグビー推薦で進学したわけで、偏差値などまったく関係ない世界の住民だったわけだが、それでもトップを奪取するとはさすが龍原砲！
でも、阿修羅の知名度は低く、今まで20人ほどの長崎県出身者とトークする機会があったのだが、「阿修羅原！」とか「諫早農業高校！」とか話をふっても、リアクションしてくれる人はいなかったのである。よく勉強しとけよ、オラッ、エー！
他には、ご覧の通りの面子。やはり、阿修羅→ラグビー、谷津→アマレス、石川→相撲で、推薦入学が多い。
その点、鶴見は大森工業高校時代は柔道に打ちこんでおり、大学入学後はアマレスに励んでいた。推薦かどうかは不明だが。
むむむ。ということは、鶴見はバーリトゥード路線でも、結構いけたんではないだろうか？打撃（裏拳）はできるし、寝技は専門家。その上、理論的思考法もできるし。

中卒編

てんてんつくつくてんつくつく…　学歴は関係ないとは言うけれど、相撲甚句が悲しげな音色をたてる

★出身校一覧★

- 維新力➡杉並区立高南中（東京）
- 北尾光覇➡津市立東橋内中（三重）
- ザ・グレート・カブキ➡知立市立知立中
- 天龍源一郎➡両国中（東京）

寸評　一部には「中卒といえば天龍」という失礼な見方があるようだ。
しかーし、天龍ばかりが中卒ではない。維新力、北尾、カブキと、番付こそ違えど、よくみりゃみーんな相撲仲間ではないか。
天龍は父も学歴がなかったので（著書より）、親的には高校→大学と進学してほしかったものの、天龍の相撲への情熱に屈し、福井からの上京を許したと。勝山市立勝山北部中から、中2の2学期終了と同時に両国中に編入したというわけだ。この思いきり、あやかりたいものだ。
ここで、唐突に「はみだし学歴情報」のコーナー。先月までに紹介できなかったデータを逐一お届けしよう。
蝶野の小学校が渋谷区立猿楽小→三鷹市立北野小と判明した。なんかの雑誌に堂々と書いてあった。『烈闘生』ではイニシャルだったのに、どういう心境の変化か？三鷹出身のキャバ嬢に一応裏を取ったら、そんなようなことを言ってたので、100％決まり。

BEST OF THE スーパーコラム

タブーに挑戦!! プロレスよ、夢と希望を取り戻せ!!!

プロレス長者番付

とりたててブームでもなんでもなかった90年代初頭のプロレス界。K-1が立ち上がったり、新日でG1が始まったりと、21世紀への黎明期だったのかもしれないが、それはやはり年収にも如実に現れている！ 低調なこの時代の年収トップは、今は亡きあの人だ。

有名人データー墓堀人・堀越日出夫

業界のタブーに挑戦ということで、先月はとりあえず95〜99年のレスラー年収を取り上げてみた。

さて、今回は90〜94年である。94年だけぽっかり穴が開いているが、どーしても資料が見つからなかったため。カンベンしてほしい。

気を取り直して解説していこう。

この激動の時代、トップを独走していたのは馬場さんだった。93年などは推定7700万も稼いでいるのだから、ロアングリである。

90年の全日といえば、忘れられないのが選手の大量離脱事件。それにもメゲず、年収は右上がりのダンディー。老舗の底力としか言いようがない。

一方の雄＝A猪木は、すでにセミリタイア状態にあり、議員としての収入が大半だったためか、永遠のライバル＝馬場には遠く及ばなかった時代が続いた。それでも、藤波＆坂口を圧倒しているのはさすが。

93年に坂口と藤波が登場しているのは、ドームツアーを成功させたボーナスがあったからか？

そして、今回の目玉は鶴田と天龍の比較だ。種を明かせば、鶴田は80年代初頭に初登場するほど、早くからスター候補生として扱われていたことが年収からも分かるのだが、天龍は90年が初登場なのだ。

しかも、その天龍はSWSに移籍してはじめて鶴田を超えたのだ！

よーく見ると、天龍の登場している90〜92年こそSWSが存続した時代だったのだ。

でも、最高でも4300万。もっと貰っててもおかしくない、というか、貰ってないほうがおかしいと思うのだが……。

おかしい……SWS所属レスラーが見当たらないのは怪奇現象であるっ！

そのほかのSのレスラーズも当然調査したのだが、一向に捜査線上に浮かんでこなかった。不思議だ。

逆に鶴田は、内臓疾患のため戦線を離れた時期。年収のほうも当然のように右肩下がりになる。90年を最後に、鶴田の名は長者番付から消えた。

92年に初登場した元子夫人。いつからジャイアントサービスの社長に就任したのかは知らないが、グッズの売上が飛躍的に伸びたのだろう。92年ごろ、ボクも巨大なバスタオルを購入した記憶がある。

前田日明が初登場したのもこの時期（93年）だ。91年にリングスを旗揚げし、ようやく軌道に乗って……という時期だったのか、いきなり4300万でランクインを果たした。

それまでの前田は、第二次UWF全盛時にも登場していなかった。いったいいかほどの年収だったのか？ やはり、試合数が少ない分、少ないのだろうか？

でも、試合数の多かったはずのドラゴンよりも稼いでいるし……。まっこと、プロレス界は謎だらけである。

というわけで、来月は85〜89年のデータを大公開する。新たなるランカーは登場するのか？ 請うご期待っ！

90'〜95' バージョン	1990	1991	1992	1993	1994	1995
アントニオ猪木	1,146万円 (3,000万円)	1,484万円 (3,700万円)	2,003万円 (4,400万円)	2,116万円 (4,600万円)	●●●●	1,383万円 (3,600万円)
坂口征二	●●●●	●●●●	●●●●	1,095万円 (2,900万円)	●●●●	●●●●
藤波辰爾	●●●●	●●●●	●●●●	1,005万円 (2,700万円)	●●●●	●●●●
ジャイアント馬場	2,275万円 (4,800万円)	2,646万円 (5,500万円)	3,822万円 (7,300万円)	4,138万円 (7,700万円)	●●●●	1,661万円 (4,000万円)
馬場元子	●●●●	●●●●	1,890万円 (4,300万円)	1,519万円 (3,700万円)	●●●●	1,326万円 (3,500万円)
ジャンボ鶴田	1,285万円 (3,400万円)	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●
天龍源一郎	1,412万円 (3,700万円)	1,929万円 (4,300万円)	1,353万円 (3,600万円)	●●●●	●●●●	●●●●
前田日明	●●●●	●●●●	●●●●	1,909万円 (4,300万円)	●●●●	●●●●

※（　）内はかなりラフな推定年収。

世界初のプロレス専門店 レッスル® レッスルフェア列伝

BEST OF THE スーパーコラム

ザ・検証は椎名基樹夏休みのためひと休みしますが、せき詩郎は維震し続けるわけだよ

NO 維震軍 NO LIFE

タイトル・イラスト／中川雅博

★維震その壱★
維震し続ける女 Charaの巻

文／せき詩郎

シューティングを超えたものがプロレスだ！　シューティングを超えすぎたものが維震軍だ！　いや、超えるだけ超えたはいいけど周回遅れにしか見えないのが維震軍だ！　というわけで始まった全国の数少ない維震軍ファンに捧げるページ＆維震軍に全く興味の無い人にはどうでもいいページ！　自嘲気味に口にしていたG1越中予想が現実となり、今年の夏もいつものように過ぎ去っていきました。また今年も童貞を捨てられなかった、そんな気持ちです。

Chara。1955年、東京生まれ。本名、竹中尚人。7歳からクラシックピアノを習い始める。そしてベンチャーズに影響され、8歳にしてギターを手にする。わずか11歳（小学校5年）でバンド『FOX』結成。コンテストに出場し、CREAMの曲を演奏。見事入賞し、注目される。中学生ですでに、スタジオでのプロ活動を行う……。

というわけで、名前が似ているという理由だけで、CharaとCharのプロフィールをワザと間違ってみました！

ところでなぜいきなりCharaなのか？　それは私の友人から寄せられたひとつの情報が発端である。その情報とは「Charaの92年発売のシングル『大きな地震がきたって』は、越中の名言〝ドームで嵐みたいな風、俺と健介で吹かしてやるって〟と明らかにリンクしている」というものだった〝大きな地震〟と〝嵐みたいな風〟、ニュアンスは似てるし、どちらも勢いがビシビシ伝わってくる。確かにリンクしている。そして注目すべきは語尾の「〜って」。Charaの方は仮定の意味合いが強く、越中の方は断定（もしくは希望）の語尾ではあるが、そんなことは一切無視。「大きな地震がきたって！」と越中の声が今にも聞こえてきそうではないか！　なるほど確かにリンクしている。いや、むしろCharaが 維震を意識していると考えた方が妥当かもしれない。

なんていうことを、いつも勝手に想像しては、注意されたり、呆れられたりするので、今回はそうならないように注意し、慎重に考察せねばならない。Charaは別に維震を意識してこのタイトルを付けたわけではなく、偶然『大きな地震がきたって』という曲名になった可能性もあるのだ。

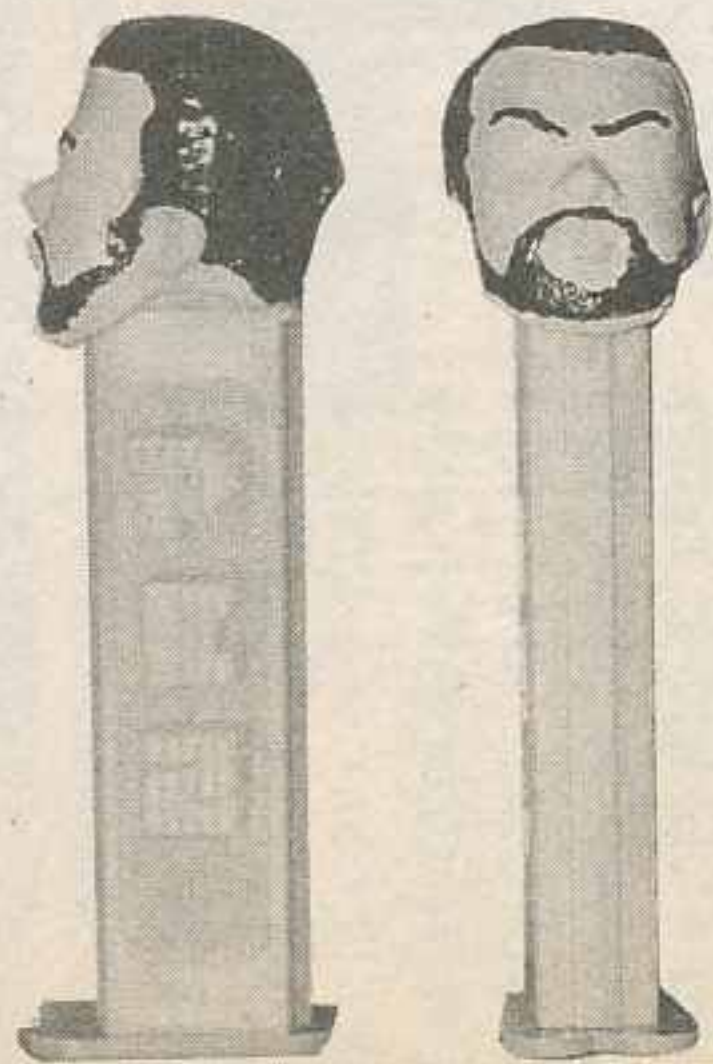
そこで他のChara作品を調べてみることにした。するとどうだろう、93年に発売したシングルに『無人島に私をもっていって…』なるタイトルのものがあるではないか！　語尾はもちろん「〜って」である。しかもタイトルをよく見て欲しい。勘の良い維震ファンなら気づくと思うが（気づかない方が一般的）、無人島の〝無人〟部分を敢えて無視してみると、これは明かに維震サイパン合宿へパスポートの期限切れのために行けなかった斎藤彰俊の気持ちを表現したものに他ならない。つまり『島（サイパンのこと）に私（彰俊のこと）を持っていって…』という意味のタイトルだったのだ。「サイパンへ行きたかった……」という彰俊の無念さが伝わってくるではないか（伝わってこない方が一般的）。越中のみならず彰俊ともリンクしているとなると、Charaが維震を意識していないと考えない方が難しい。

だがこれだけでは無かったのだ。『Junior Sweet』なるアルバムの中には『どこに行ったんだろう？　あのバカは』というタイトルの曲が収録されているのである。これもまた例のサイパン合宿のインタビューにて、（合宿に参加せずどこにいるのかわからない）彰俊の事を訊ねられた越中が「あのバカ、パスポートの期限切れで〜」云々と答える部分と酷似し過ぎているである。あの維震史上最高と称されているインタビューに目をつけるなんてCharaもなかなかやるではないか。また『Strange Fruits』の中には『つたわって』とストレートに越中語丸出しのタイトルの曲まであるのだから、もはや疑う余地などどこにもない。

オシャレなポジショニングのまま、さりげなく維震魂を発揮するChara。おそるべし!!

もはやCharaは維震ファン以外の何者でもないだろう。そう断定して間違いでは（なくも）ない！　たとえ、これらリンクしているとこじつけた曲のほとんどが、越中の発言よりも前に発売されたCDであるという事実が存在してもだ。この事実を受け止め、冷静に考えるとCharaは数年後の越中の発言に影響を受けていたと、おかしなことになる。だが、どっちが先かなんてどうでもいい。そんなこと言いだしたら「卵が先か、鶏が先か」論争になることは目に見えている（本当はそうならない）。

チャラチャラしているからという理由で「チャラ」とあだ名をつけられた彼女。これからも名前に負けない様、チャラチャラし続けるに違いない。そう、「ことがなっても維震し続けるわけだよ」と言った越中のように、Charaはチャラチャラし続けるわけだよ！　そういうわけで、Chara維震軍入り決定！　いつの日か維震自主興業のリングサイドに彼女の姿をみることができるであろう……。

ワン＆オンリーな覇ンドメイド維震グッズを大提案するコーナー

京都、三十三間堂。修学旅行などで訪れた人も多いであろう。堂内には本尊の千手観音座像、二十八部衆像、風神雷神像、1001体におよぶ千手観音立像と、多くの仏像がある。これらの仏像の中には、必ず自分に似ているものがあるといわれている。ということは、越中に似た仏像もあれば、後藤や小原に似た仏像もあるということである。つまり、日本で初めての維震軍フィギア（仏像）が三十三間堂には存在するのだ。いやはや、維震グッズにはすでに数百年の歴史があるなんて、まったく驚きだ……。

しかし、最近の状況と言えば、維震グッズは皆無に近い。先日やっと越中フィギアが発売されたくらいだ。このままでは数百年の歴史が終ってしまう。それは避けなければ。そこで私は自分で維震グッズを作ることにした。で、今回誰にも頼まれていないのに、しかも一銭にもならないのに製作したのが写真の『越中PEZ』である。

どうです、この暇ぶりは！　パッケージとかも作っていたのだが今回間に合いませんでした。完成したらまた紹介します。欲しい人がいたら連絡ください。

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

実録 最狂プロレスファン列伝

構成／イナズマ★K

PROFILE

No.7 HIP HOP業界で田上明好きといえば……

DJ JIN（ライムスター）

ブッダブランドを入場テーマに使うバトラーツ小野武志選手は以前スモー・ノブに「ライムスター知ってる？　『B-BOYイズム』聴いた？　ヤバイよ！」って凄い勢いで電話してきたことがあるそうだ。そんなヒップホップ好きから絶大な支持を集めるライムスター。2人のラッパーMC SHIRO、MUMMY-DをバックでえるのがDJ JINだ。日本語ラップの黎明期80年代後半から活動し、90年代にはかっこいいライヴ・パフォーマンスで『ステージの王』（路上の王みたい！）の名を獲得した彼ら。今もなおシーンにおける重要グループだ。『B-BOYイズム』や『キング オブ ステージ』等、ヒットシングル収録のサード・アルバム『リスペクト』、そのリミックスアルバム『リスペクト改』（本文のルチャ・ミックスはこれにも収録）に続く4枚目のレコーディングも順調。「それにボクの格闘技風味が隠し味が入ってるかもしれません」。横浜出身、ベイスターズ好きのJINさんでした。

BEST OF THE スパコラム

ヒクソンの言ってることもグサッときます 清原への「ストロングスピリット、ストロングフライ」とか

今回登場してくれるのは本連載初のヒップホップ系アーティスト、ライムスターのＤＪ ＪＩＮ。今年27才の彼は、やはりご多分にもれず初代タイガーマスクの洗礼を受けた世代。ジュニアの飛んだり跳ねたりが好きな普通のチビッコだった。そんな彼は小学生から中1まで少林寺拳法をやってたそうだ。

「幼なじみがやってて、母親と一緒に見に行ったんです（笑）。その時は道場の気合いに圧倒されて泣きそうになりながら帰っちゃった（笑）。でもやっぱりやりたくなって1ヶ月後に門を叩きました（笑）。ちなみに今は全然出来ないです（笑）」

さて、遊びたい盛りの高校の頃はプロレスよりも楽しい事がいっぱいだ。

「ＵＷＦの頃は夜遊びの方が面白かったからプロレスも雑誌で読む程度で。米軍基地の軍人が集まる横浜サーカスっていう濃いディスコに遊びに行ってました。ＤＪもその頃からですね。でもシューティングが出てきた時はいい意味で違和感がありましたよ」

夜遊び期間を経てまたプロレスに興味持ち始めたのは、天龍が抜けたあとの全日だった。

「鶴田がスゴイって言うのを友達に吹き込まれて、観たらやっぱり凄げーって（笑）。大人の痛がり方って言うんですか、この人効いてんのかな、でも強いっていう（笑）。鶴田や馬場の動きにやられて、そこから全日好きに。で、パンクラスの旗揚げ興行のインパクトに格闘技指向みたいなものを刺激されました。それからずっと全日とパンクラスが大好きなんです。かなり極端だけど（笑）」

そんな彼のお気に入り選手も独特だ。

「鶴田とタッグを組んでた教育期間みたいな頃から全日で一番好きなレスラーが田上選手に（笑）。あのかもし出す味がたまんなく好きで。ヒップホップ業界で田上好きといったらオレってくらい、凄い浸透してます（笑）」

ノアになってほかの選手がオシャレさをアピールする中、『仁義無き戦い』を入場テーマにする田上選手の独特センスもやっぱり大絶賛のＪＩＮさん。もう一人のお気に入り選手はパンクラスの國奥選手だという。

「國奥選手は前から好きだったんですけど、彼もライムスターを知っててくれて。それで付き合いが出来て応援に駆けつけてます。彼は人間が好きですよ。おごることなくわきまえてて、でも酔うと面白い（笑）。『自分酔ってません、大丈夫っす』って千鳥足で帰ったり（笑）」

そんなＪＩＮさんは、プロレスは完全な趣味として仕事とは別けてると言っていたが、いきなりその発言を覆す事実が発覚した。

「あっシングルで使ってた、スミマセン（笑）。キエるマキュウってグループのリミックス・タイトルが『HEY DJ JIN－仮面貴族ルチャリブレREMIX－』（笑）。でもオレ付けたんじゃないですよ、補足すると（笑）」

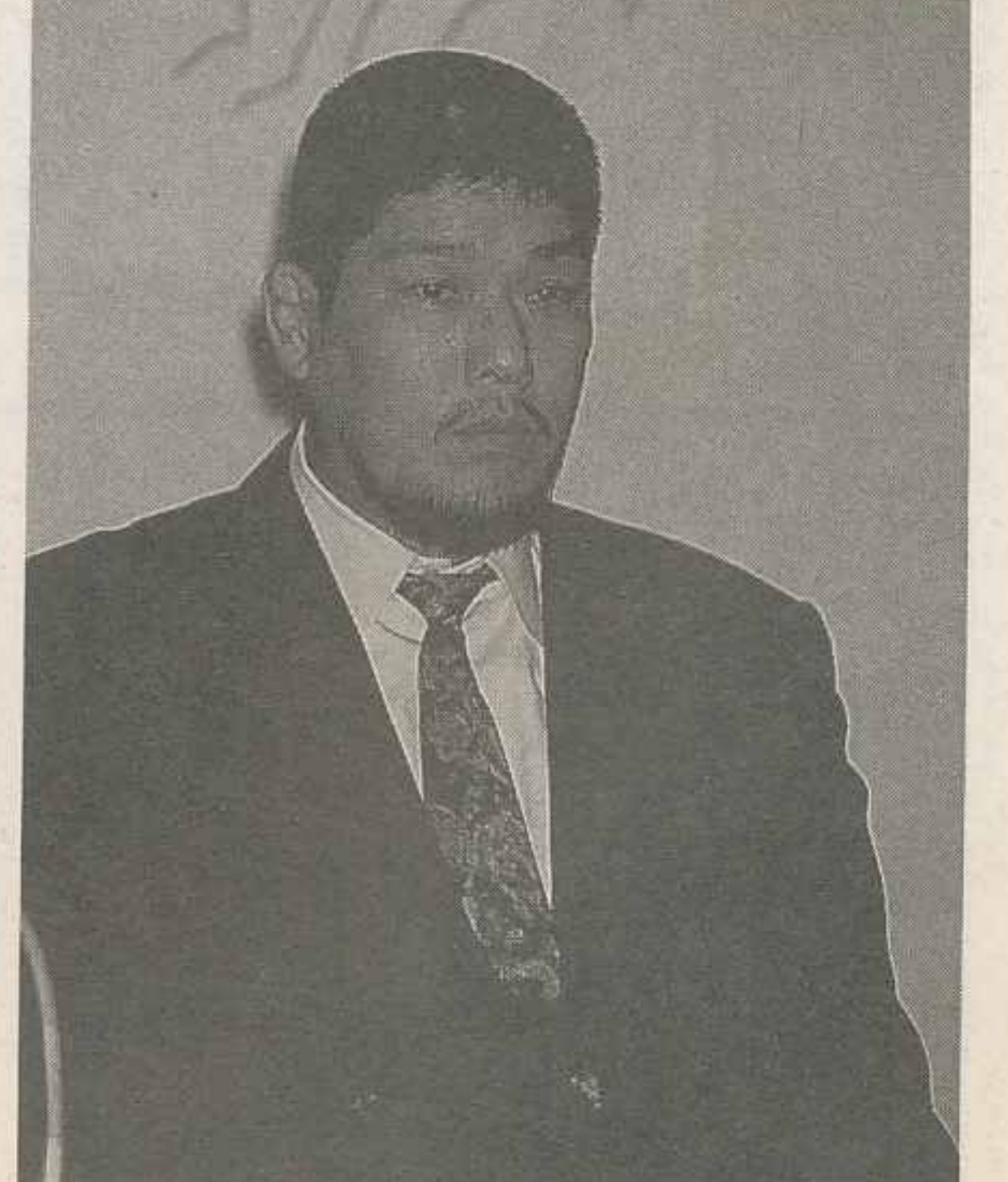
裏ジャケではベルトまで持って写真に収まってるじゃないか!?（それが上の写真）これはどうしたんですか。

「青森でライヴ呼んでくれる人がリング組んで草プロレスやってて（笑）。そこのメンバーがやってるオモチャ屋さんがマニアショップで『オークションで落としたんです』って、ＷＷＦとＮＷＡのベルトが青森にあった（笑）記念に撮ったスナップです」

表じゃなく裏ジャケにしたとこが一線を守ったとこだそうだ。きっちりわけるのも彼がそれだけプロレスに格闘家にリスペクトを払ってる証拠である。

「レスラーが日々切磋琢磨し練習して試合に臨むわけじゃないですか。それを精神的な部分で応用効かせられるかなっていうのはありますね。だからヒクソンの言ってることとかもグサッとくるわけですよ。清原への『ストロングスピリット・ストロングライフ』とか、良いこと言ってますよね。『集中力は円で捕らえろ。点で捉えがちだけど、それを広げた円で捉えるんだ』とかね。『燃えよドラゴン』の最初のシーンみたいな哲学的、禅問道的なヤツ好きなんです。でも田上選手も好きなんです（笑）。國奥選手も田上選手もボクの中では同じ引き出しに入ってるんです」

アナログ『Hey, DJ JIN』（NLAD−038）── ¥1350（税抜）で絶賛発売中！　キエるマキュウによる仮面貴族ルチャリブレREMIXも収録！

ALBUM『RESPECT改』（NLCD−035）── ¥2600（税抜）で Next Level Recordingsから絶賛発売中！

鶴田→田上と受け継がれる怪物の系譜をこよなく愛するDJ JIN。当然のように、新日本の安田忠夫も「大好きですね」とのこと。

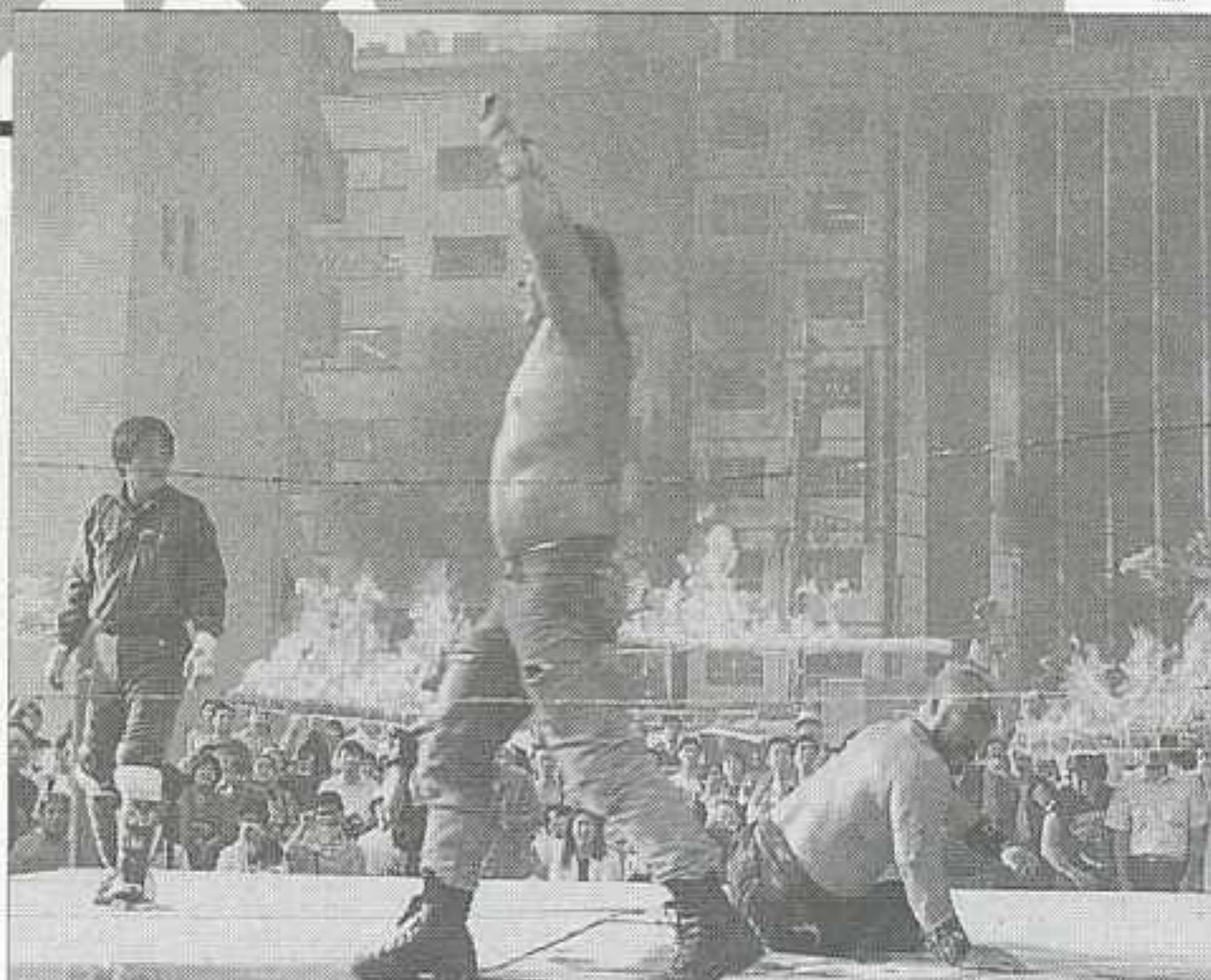
たとえ“邪道”大仁田厚が長州力に叩きのめされても

体制に刃向かう生き方を選んだ インディーに乾杯！ メジャー団体、屁ぇ喰らえーッッ!!

狂い咲きインディーロード

～本誌注目のミニマル団体観戦記～

オイッ、オイッ、オイッ、お前らはインディーが好きか？　お前らはインディーが好きかって聞いてるんじゃあ！　嫌いなら嫌いで結構！　嫌いな奴はこのページをまたぐな、またぐなぁ、またぐなよぉ、またぐなよぉ、またぐなぁ、またぐなよぉ、またぐなよぉ、絶対に！　オイッ、インディーとは何ぞや？　インディーとは徒党を組まず、1人の人間の意志を何処までも貫き、叩かれようと殴られようと自分の意志で動き、たとえ蔑まれようとそれでもしがみつく！　それがインディーなんじゃあ！　そんな奴のための、そんな奴のためのインディーコーナーを食らえーーーッ！

大日本プロレス 真夏のファイヤーデスマッチ（文・三浦店長）

日本の夏、大日本の夏。

世界最狂の夏祭り、大日本秋葉原大会を観戦された皆様、御苦労さまでした。イヤー、わかっていたとはいえ本当に暑かったですね。真夏の昼間の屋外大会は、インディーのビッグマッチとしては95年のIWA川崎球場大会以来ではないでしょうか？（思い起こせば、あの日の川崎球場のリングには『神風』、岡野、市来が上がっていたし、シャドウWXはまだ練習生でリングサイドを走り回っていたのだ。そして『神風』のセコンドは茂木だったんだよなー）。

容赦ない陽光が降りそそぎ、それを遮るものすらない秋葉原の空き地に、オバカなBJマニアが多数集合して今回も大盛況。新川崎とともにすっかり大日本屋外の聖地となってしまったこの広場に、よくもまあこれだけ火に炙られるためにファンが集まったものだ。エライよ、みんな。

今回のシリーズ、主役に躍り出たのは葛西純。秋葉原メイン出場を賭けた大阪でのファイヤーデスマッチで先輩山川竜司にまさかの大勝利。張り手から、本人こだわりのジャーマンで一気に固めてのピンフォール勝ちで、デスマッチでの山川越えを果たしてしまったのだ。山川選手いわく「いい張り手が入っちゃってさ。脳震盪で憶えてないんだよなあ。悔しかったけど、半面、葛西がここまできたのが嬉しいよ」と、アニキ節全開で語ってくれた。

この勝利によって葛西のビッグマウスの天狗野郎キャラぶりが、いい意味で突き抜けてしまったのだ。ピンを奪った山川、ファイヤーから逃げまくった本間を尻目に、大日本屋外デスマッチ最強を吹聴し、連日リングで吠えまくる。松永戦連敗で、会社からは「実績を作れ！」という曖昧な一言で押さえつけられていた感情が一気に爆発して誰にも止められない所まで来てしまったのだ。

メインで組む松永も今の葛西にとってはデスマッチの先駆者ではなく、追いつめるべきライバルとなっているはずだ。存在感と伝説でリングに上がり続けるミスターデンジャーに引導を渡すのは自分しかいないと自負しているであろう。

アイデアとアイテムで勝負の松永、危険性が売りのCZWに対して、身体を張った全力ファイトで感動を生み出す“ピュアBJWスタイル”が今の葛西の本領。秋葉原前日の伊勢原大会では「明日の俺の死に様、見に来て下さい」と笑顔で語った姿、カッコ良すぎたぜ！（しかしこの大会なぜか報道陣の姿なし）。

この日のファイヤーデスマッチは黒煙と消化器の白煙と土埃りが舞う中、車、リングトラックまで使用した、ちょっととりとめもなく、とっ散らかった印象となってしまったが、果たして一番のインパクトを残した選手は一体誰だったでしょうか？

表舞台に躍り出たのが葛西ならば、バックヤードで続けられているのが“登坂（レフェリー）＆本間劇場”だ。CZWに敗北を喫して大好きな“クレイジーイエロー”を剥奪されてしまった孤高の本間朋晃。開幕戦の立川では“ハート”と“信頼”を勝ち取るために第一試合からの出直しとなった。髪を短くし無精髭のイイ感じのヒール面となり全身黒づくめの（全身テカテカは同じ）再出発となったが「バチバチなら本間さんにも負けない」とルーキー関本にまで言い切られてしまう大暴落ぶり。

立川大会の休憩時間に「店長、どうすか黒？　似合うでしょ、黒？　似合うこと発見しちゃいましたよ」俺、黒もカピカのコスチュームを指差しながら「全部新しく作っちゃいましたよ。渋いでしょ、このシューズ。でも、またお金無くなっちゃいましたけどね」と、ノー天気に語っていたが、本人の内面は複雑なはず。

人間性から攻撃してくる登坂統括部長（実はBJWを一番愛している）と新生・本間朋晃との闘いは一体いつまで続くのであろうか？　そして本間が再び輝きを取り戻すのはいつになるのだ？　乞う御期待！（でも劇場ばかりが目立つようになってしまったら本末転倒。やはりBJWは試合が第一）。

これ以上やったら死ぬだろ！　規格外の凄すぎる火力と、容赦ないCZWの暴れっぷりで、見事に翌日の東スポの裏一面をゲット！

試合内容ではベストバウト！　蛍光灯で頭を割られ、腰をざっくり切られてもメインのせいで報われない本間。大日魂を頼むゾーッ！

敗れた松永＆葛西は、動物デスマッチでのリマッチを要求！　これ以上のインパクトを残せる動物とは一体何？

FMW スカパーPPV放送スタート!!（文・ガンツ）

エンターテインメント・プロレスを邁進する上で、資金的な後ろ盾となっていたディレクTVがスカパーに吸収されることになり、大打撃を受けるかと思われたFMW。

しかし、災い転じて福となすとはまさにこのことだろう。数多くのディレクTVオリジナル・コンテンツが終了に追い込まれる中、『FMWブレーンバスター』（PPV）はスカパーの番組として生き残ったのだ。

そして、この日がスカパー移籍第一弾放送日。PPV生中継である。それだけに全試合なにかしらのテーマ（もしくはネタ）がある、「これでもか」のラインナップ。

ざっと挙げてみてもAV男優vsオカマ、試合中にチャネリング交信、ハードコアマッチ、ノアvsFMW（三沢もビデオ出演!）、周富輝の点心マッチ、そしてメインイベンター総出場のメイン。これだけバラエティに富んだものを、かつわかりやすく提供しているのだから後楽園が札止めになるのもうなずける。

あまりにアングルに走りすぎているという批判の声もあるが、例えば（例に出して申し訳ないが）中川（GOEMON）vs山崎というなんの変哲もないカードをデコレートすることによって、観客の興味を引くと言うことは、プロレスとしては全く責められるものではない。むしろ誉められてしかるべきだ。

ただ、ひとつ難点を言うならば、メインイベントはともかく、前座の試合タイムが長すぎること。

WWFを見てもらえばわかるとおり、あの面白さはテンポの良さがあってこそである。逆に言えばテンポの悪ささえ改善すれば、実に満足度の高いイベントであるということだ。メインイベントが次のイベントの興味を引く内容で終わるのも実にいい。

FMWは初心者でも楽しめ、続けてみればもっと楽しい、いまイチオシの団体となった。

実に10人ものブリーフ一丁のＡＶ男優を引き連れてきたチョコ。３人以上名前が言えるあなたはＡＶ狂です。

「テレビに出ているあの人」が登場するとなんとなく得した気分になる。それが周富輝でもな！

新崎人生をエロ坊主に豹変させるために冬木が用意した、ハゲヅラ水着ギャル。ひんしゅくは金を出してでも買え！

WEW戦で冬木と激突

謎のキューバ人の正体

時期シリーズ最終戦の冬木の相手は、なんとキューバ人のミリオンセラー・ダンスユニットのリーダー、キャプテン・ジャック。これこそ「なんでもあり」だ。

ぶっこみ情報!

ガーン！　締切直前になって残念なお知らせが飛び込んできた。8月23日から開幕を予定していた「世界のプロレス」NWAジャパン・ワールド・タッグリーグ戦が延期となってしまったのだ。リリースによると延期の理由は「当社の事務手続きが遅れたため外国人選手のビザ取得が間に合わなくなった」というから実にお粗末（インディーらしいと言えばそれまでだが）。なお、久々の来日ということで注目されていたアメリカ代表テリー・ゴディ＆ゴディJr、韓国代表の大木金次郎＆南朴禅が諸事情により来日中止となり、変わってアメリカ代表としてNWA世界タッグ王者チームのナックルズ・ネルソン＆ブライアン・デイ、イラン・イラク連合軍としてダブル・アイアン・シーク１号＆２号に変更となった。そして相島勇人の全日参戦により、日本代表チームはコーラ・キッド＆ペプシ・ボーイに。変更＆延期だらけで不安を感じさせるが、ディファ有明から始まるタッグリーグ戦、ホントにできんのかーーッ！　「世界のプロレス」よ、頼んだぞ!!

【変更後の日程】

9月23日（祝）ディファ有明（12:30）
9月24日（日）宇都宮・文明軒横特設リング（1:00）
9月25日（月）ツインメッセ静岡（18:30）
9月26日（火）四日市オーストラリア記念館（18:30）
9月27日（水）アクトシティ浜松（18:30）
9月29日（金）八幡浜市民スポーツセンター（18:30）
9月30日（土）神戸サンボーホール（18:30）

【お問い合せ】「世界のプロレス」093-203-5170

このベルトが欲しい人は名乗りを挙げて下さい!!

前号でもお伝えしたが、9月2日川崎市体育館で行われるキングダム・エルガイツのUWF（ユナイテッド・ワールド・ファイト）チャンピオントーナメントの組み合わせが遂に発表された。まずはトーナメント外の特別試合として、UWFチャレンジマッチ（第２次UWFルール）として中野巽耀対折原昌夫が決定。さらに３日後のリングス後楽園大会に参戦が決まった村浜武洋が、Uインタールールでタノムサク鳥羽と対戦。さらに第１部のメインイベントでは「紙プロ」でもお馴染みバトラーツ初代営業の芳賀元太が山上道及と改名して稲野岳と対戦する。注目のトーナメントはAブロックで入江秀忠対布施智治、内藤恒仁対ケンドー・ナガサキ。Bブロックはビリー・J・スコット対大刀光、藤原喜明対特別推薦選手が一回戦で激突。名勝負間違いなしの村浜対タノムサク戦や、大刀光対B・スコット戦、ナガサキ対内藤戦といったマニア泣かせのカードまで注目カード目白押しのこの大会。さて、特別推薦選手とは誰なのか？　もしやカッキー？それとも安生？　大穴で仲野信市？　ちょっぴり期待して待て！　果たして初代UWFヘビー級王座（上写真参照）は誰の腰に？　9・2川崎で何かが起こる！

本誌特選!! 注目選手

人間ブルドーザー 関本大介

大日本プロレスで伸び盛りの男・関本大介。99年8月10日、地元大阪でデビュー（対伊東竜二）名門・高知明徳義塾高校野球部の出身。異例のセミ前デビューとなったのも、将来性への期待からであろう。

直線的ブルファイトを身の上とする、大日本にはこれまでにないタイプの新人として、連日先輩にツブされながらも急成長を続けている。そして、今年の４月１日伊勢原大会ではタッグながらもメインまで務めてしまった（パートナーはWX、対山川竜司＆本間朋晃）。

日々巨大化していくその肉体は頼もしい限り。最近では身体の成長にトランクスがついていかずピチピチの半ケツ状態だ。試合では基本的な技を丁寧に力強く出しつつ、チャンスではその突進力を利して相手を吹っ飛ばす。そして決め技は尋常ではない角度から落とす説得力満点のジャーマンスープレックスホールド。

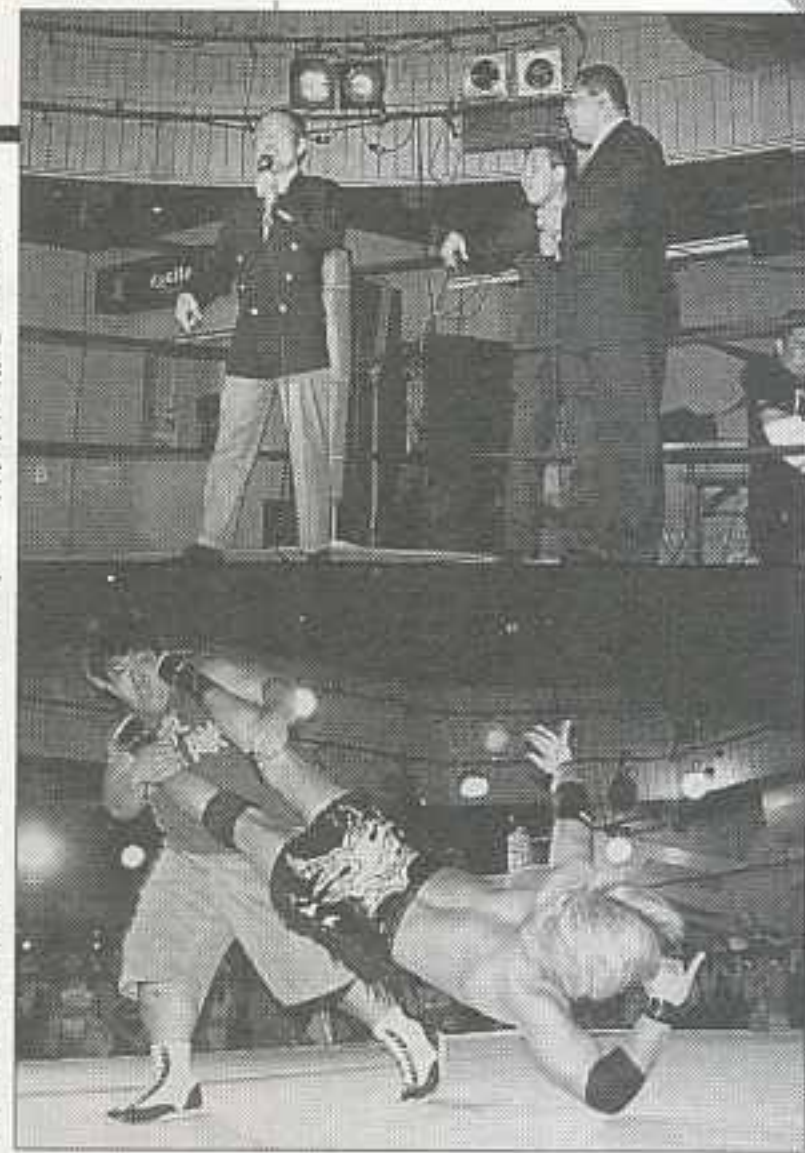
今後はこのままバチバチファイトで魅了するのか？　それともデスマッチでパワーを見せつけるのか？　まだわからないけれども、どちらにしても楽しみな超大型新人。大日の前座では伸び盛りのこの男を見ろ!!

※7.4「いきなり黄金伝説」、8.3「うたばん」と早くも地上波ゴールデンタイムデビューも果たしたぜ！

DDT コギャルもファイヤー!

（取材・チョロ）

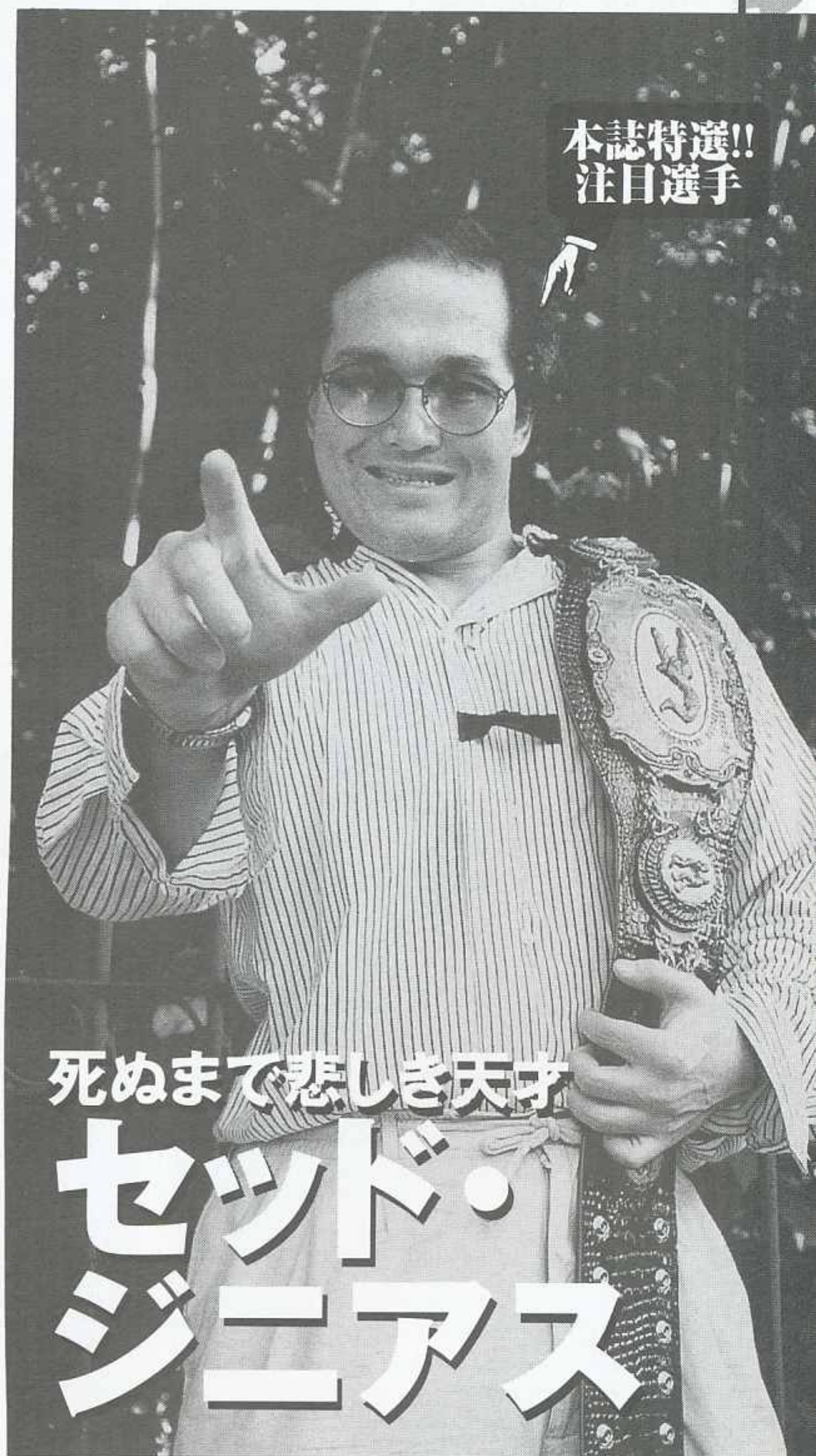
今やすっかりお馴染みとなった感があるDDT会場に集結するコギャル軍団。最近のプロレス会場にはコギャルに限らずチビッコの姿はあまり見ることはできないが、DDTに限っていえば、それは当てはまらない。いつ何時でもコギャルの姿を発見することができるのだ。DDTにハマっているコギャルの中でも、毎回最前列で入場曲に合わせてパラパラを踊りながら熱心に観戦している3人組（左ページ参照）を捕獲。3人にDDTの魅力を語ってもらった【左から、まさえ（15）みか（16）ともか（16）】1、2、3、コギャルがファイヤー!みか（『紙プロ』をパラパラ見ながら『昭和』を発見!）あっ、『昭和』だ!三人で声を合わせ　しょ〜わぁ〜ッ!

対戦する度に激しさが増す一方の木村浩一郎とタノムサク鳥羽。浩一郎の圧倒的な強さと必死に反撃するタノムサクの試合は常にハズレなし!

NEOの篠社長、JWPのヤマモ、そしてDDTの三和代表による社長連合「プレジデンツ」もだいぶ浸透してきた。ヤマモのマイクは絶品【写真上】。コギャル人気ナンバーワンのMIKAMI【写真下】

JPWAの橋本友彦が遂に三四郎と激突。8月24日から始まるタッグリーグ戦では浩一郎とチーム「スーパーレッスル」を結成!

——ヒャハハハ。詳しいねぇ（笑）。
みか　今日はポイズン（澤田）やりませんでしたね、こうやって（とポイズンポーズを取る）ポイズンポイズンって（笑）。
ともか　やりたかったな（残念そうに）。
——DDTはいつから見てるんですか?
みか　えっとぉ〜、5月くらいから。
——どういったキッカケで見始めたの?
みか　サークルやってるんですよぉ、私達。高木（三四郎）さんって、イベントプロデューサーじゃないですか?　それで一回見てみようと思って来たんです。
——今までプロレス見たことあったの?
まさえ　なかったです。TVだけ!
みか　そう。最初は怖くてプロレスなんか行かないとか思っててぇ、でもなんか来たら面白かったんです（笑）。
まさえ　一回見たらハマったよね?
みか　そう。すんごい面白かった!
——DDT以外で知ってるプロレスラーって誰かいる?
ともか　大仁田厚!（笑）。ATOMで高木さんとやったときも見たし。
みか　最初は高木さんしか知らなかったんですけど、今

DDTマットにインディー界の人気者ロホ・デルソルが登場!　デルソルの正体はインディー界のできる奴、あの男だ!

本誌特選!!
注目選手

死ぬまで悲しき天才 セッド・ジニアス

9・5北沢大会は「グラン浜田153センチ負けたら即リトル浜田に改名スペシャル!?」だ!

今年4月に昏睡状態との情報が入り、安否が気遣われていたセッド・ジニアス。体調もすっかり良くなり、次の興行も9月5日北沢タウンホール大会と発表された。注目の対戦相手は、なんとグラン浜田!　早速、ジニアスに直撃インタビュー!

——4月に「ジニアス昏睡状態」っていうFAXがきたんで、ビックリしたんですよ。ボクは一回お見舞いに行きましたけど一時期はやばかったんですよね。
ジニアス　あの時はねぇ。まあ、面白い話になんないけど、たんなる肺炎（苦笑）。
——たんなる肺炎だったと（笑）。それで、次の興行の対戦相手はグラン浜田なんですよね。ある意味衝撃ですけど（笑）。
ジニアス　まあ、浜田さんは新日本出身で、単身メキシコで20年間トップをとった偉大なる先輩なわけだしね。メキシコはスペイン語圏でしょ?　英語圏ならともかく、あそこで1からやって家族を持ってやったっていうのはやっぱりもの凄い苦労を重ねてると思うし、背負ってるものが大きいと思うんだよね。だから、そういう選手と闘えるってことは、ある種レスラー冥利に尽きるよね。
——なんでも試合タイトルが……。
ジニアス　（早口で）「グラン浜田153センチ負けたら即リトル浜田に改名スペシャル!?」（笑）。まあ挑発だよね。どうだコラッ、やれんのか!っていう感じで。
——浜田戦では、時代の先っちょをいく闘いが見られるわけですね?
ジニアス　まあ見せられるっていう自信もあるし、キャラクター的な部分でも先っちょ行ってっかなっていう（笑）。
——これから先っちょの夢というと?
ジニアス　俺は壮大な夢を持っている。それは『ゴング』に日程が載り、『週プロ』に白黒でもいいから半ページ以上載ることなんだよ（笑）。
——それは壮大な夢だ!（笑）。ジニアスさん、現在のプロレス界はどう思ってますか?　バーリ・トゥード系にプロレス界が押されている様な状態ですけど。
ジニアス　俺が考えるにおいては、プロレスとはスポーツと格闘技とエンターテイメントと芸術の集大成であると。その内のどれかひとつが欠けてもいいものはできないし、どれかひとつが飛び出してしまってもいいものにならない気がする。バーリ・トゥードはその中の格闘技っていう部分がドーンと出てるけども、芸術性とかエンターテイメント性っていうのは、まあ演出とかはともかくとして、試合内容から見ると、あまりないと思うんだよね。
——逆にジニアスさんは、いまのプロレス界には何が欠けてると思いますか?
ジニアス　団体によるんじゃないかな?　新日本なんかだと今は、エンターテイメント性とか、あとは演出面での芸術性は上がってきてるけど、スポーツ性とか格闘技性っていうのは昔の新日本に比べると落ちてるなっていう。だから猪木さんが「蝶野のプロレスは新日本のプロレスじゃねえ!」って言ってるのは、確かにそうかもしれないね。俺の目から見ても猪木さんの言葉に近いかなって思うから。まあ時代はバーリ・トゥード系に流れてきてるから、その上に猪木さんはある種乗っかりつつ、「プロレスはもともと格闘技なんだってことを忘れてるんじゃねえか。今の新日本は少しエンターテイメント方面にず

は毎週来てるんでぇ、DDTの選手はだ
まさみ　凄いカッコイイ（笑）。
ともか　運動神経チョーいいよね?

れてきてるというか」ってことを警告してると思うんだよね。
——そうですね。ジニアスさんが言うとこ
ジニアス　今風っていうかね、気が狂ったとしか思えない（笑）。カラーで載せなきゃ意味がないね。フレアーをもうちょっと

一言物申す!
（by三浦店長）

イーンディーないかい?

長州戦も終わり、いよいよ〝邪道〟大仁田厚三度目の引退（変な日本語だな）が近づいてきたが、インディーファンの皆様はいかがお考えでしょうか？

89年のＦＭＷ旗揚げからインディーの本格的歴史が始まったと言われる。インディーがその本来の意味であるところのインディペンデントから離れて蔑称として当たり前の様にプロレス村内部で使われだした時、真っ先に反発したのは大仁田だった。力無き者の開き直りとも取れる発言をくり返していたが、ファンはその生きた言葉に引きずり込まれてきたことは事実だ。

雨後の筍の様に増殖したその後の団体については「俺に対するジェラシー」と切り捨てながらも常に「インディーとは？」との命題に雄弁に答え続けてきた大仁田。

派手な演出で世間に対して風穴をあけようともがきながら、力づくでその目を向けさせた。そして一見さんでも子供でもが楽しめる「プロレス」を丁寧に地方を回ることで提供してきた。

確実に間口を広げてきたその事実は残る。

いろいろな意味で功罪がとてつもなく大きい大仁田だが、あの独特のアクの強さが「インディー界」から去ってしまった時、その存在理由と思想を語り続け体現する人物は現れるのであろうか？　メジャーや世間からの偏見に対しカベとなる「後継者」を彼は造り得たのであろうか？　大仁田を失ってからその大きさに気がついても遅い。

インディーファンである我々は好き嫌いは別にして彼の引き際に対して、それを見守りつつも、その歴史と意味を総括しておかなければならない義務がある。インディーファンとしての責任を持って大仁田の骨を拾おうではないか。

ファイヤー!!

は毎週来てるんでぇ、ＤＤＴの選手はだいたい知ってますよ。
――単純にＤＤＴの何が面白かったの？
まさえ　場外！　場外でよけること。
ともか　でも場外乱闘は怖いよねぇ。
――三四郎さん以外に、この選手は凄いって思ったのは誰ですか？
みか　（即座に）ＭＩＫＡＭＩ君！
ともか　それはカッコイイからでしょ！
まさみ　凄いカッコイイ（笑）。
三人声で　ＭＩＫＡＭＩ君、大好きィ♥
まさみ　あと（タノムサク）鳥羽も好き。
ともか　鳥羽は最近強くなったよねぇ。
まさみ　そうそう。最近強くなってきた。
――そういうところもわかるの？
みか　うん！　成長ぶりはわかるよ。
――ＤＤＴでは誰が一番強いと思う？
みか　木村（浩一郎）さんはつよ～い。
――ＤＤＴを見るようになって、他のプロレス団体にも興味は出てきた？
みか　あっ、大仁田厚と長州力のはチョー見に行きたかったんですよ！
まさみ　あっ、私もチョー見たかった！
みか　高木さんとの試合見て大仁田見たいなぁって思って。カッコ良かったですよ、大仁田さん。邪道じゃあ！って言ってました（笑）。
――ヒャハハハ（笑）。ＤＤＴは、プロレスを見たことがない若い子でも充分楽しめると思いますか？
三人声を揃えて　はいッ！
みか　みんなもＭＩＫＡＭＩ君は見た方がいい！
ともか＆まさみ　カッコイイですよぉ！
ともか　運動神経チョーいいよね？
まさみ　そうそう。いつも新しい技出すよね。クルクル回るのも凄いし。あとはやっぱりスク～ルボ～～イ！（笑）。
――ちなみに明日の大会も行くの？
三人声を揃えて　もちろん行きま～す！
――友達とかにも勧めたりしてるの？
みか　いや、「プロレス行こうよ！」とか言ったりするんですけど、なんかみんな「えぇ～」ってとか言ってぇ（笑）。
あさみ　笑われるよね？　怖いとかね。
ともか　でも絶対面白いよ！　見てない人はＤＤＴ見た方がいいよね？
みか＆あさみ　絶対見た方がいいよ！
――最後に三四郎さんのファイヤーをパラパラでやってもらえますか？
みか　（いきなりパラパラを始める3人）こうやってファイヤ～！って踊るんですよ。
――あっ、どうぞ（笑）。
三人声を揃えて　（三四郎のテーマを歌いながらパラパラを踊り出す）♪ジャガジャガジャジャジャガジャガジャジャジャジャジャジャジャ（×3）…ファイヤ～！
【8・3／渋谷クラブアトムにて収録】
■いやぁ～、凄い勢いだった。コギャルパワーおそるべし！　そのコギャルを満足させているＤＤＴは想像以上に凄い団体なのかもしれない。あなたも一度、ＤＤＴ、そしてコギャルの勢いを体感しに渋谷「クラブＡＴＯＭ」へ行けーッ！

ＤＤＴは『パラパラメイト』というパラパラ専門誌（？）にも進出【写真上】。ちなみにコギャルが持っているのは、なんと井上貴子サイン入りの厚底サンダルである。すげえ！

れてきてるというか」ってことを警告してると思うんだよね。
――そうですね。ジニアスさんが言うところの「スポーツと格闘技とエンターテイメントと芸術の集大成」という闘いをできそうな相手って誰になるんですか？
ジニアス　それが一番できそうな相手は馳浩だよね。あとやっぱり蝶野とはやりたいなと。まあ極端な話、ＳＴＦから投げ方から腕の取り方から俺が教えちゃったわけだし、少しでも触れあったことがある俺から見ると、やりたいなと思うよね。逆に、こっちから挑発するんであれば「ガツンといってみるか？　やれんのか！」と。「俺にはＳＴＦはかからんぞ！」と（笑）。まあ、次の浜田戦に向けて新しいガウンを制作してるんでお楽しみに。
――今風なガウンなんですか？（笑）。
ジニアス　今風っていうかね、気が狂ったとしか思えない（笑）。カラーで載せなきゃ意味がないね。フレアーをもうちょっと派手にしたようなガウンだから。
――えっ、フレアーよりも派手！
ジニアス　もっとゴージャスで気が狂ってるから（笑）。見る価値は十分あるよ。
【8月3日／池上のジョナサンにて収録】

取材後、ジニアスからＦＡＸが送られてきた。そこには書かれていたのは……
※「ジニアスは浜田に条件を突きつけた。『ドロップキックはやめてくれ！　ウラカンラナはやめてくれ！　スイングＤＤＴはやめてくれ！　ブランチャーはやめてくれ！　逆十字はやめてくれ！　1本足頭突きはやめてくれ！　浜ちゃんカッターはやめてくれ！　このルールを飲まなければオレは今からアメリカに帰る』というモハメド・アリばりの暴挙に出た！」※「理想の試合は猪木対藤波戦。それができる相手は馳浩。スポーツと格闘技とエンターテイメントと芸術の集大成ができる相手。心に残る名勝負を」※「冷めている。なぜか非常に冷めている。プロレスとは何か？　プロレスのレスとは何か？　闘いとは何か？　アントニオ猪木に聞いてみたい」※「決戦24時間前、大仁田は精進していた。その時、長州は……。長州の負けだ。出し尽くしている。リングに上がった時点で負け」※「私やＵＮＷとは全く関係ないことですが、9月24日に重大な何かが起こるようです!?」このＦＡＸの意味することとは？　その答えは9・5北沢タウンホールにある？

力道山のお墓がある池上で幼少時代を過ごしたジニアス。ちなみに力道山Ｊｒ百田光雄と同じ小学校に通っていたという。さらに、クラスメイトにはおニャン子の福永恵規も！

セッド・ジニアスをよく知らないあなたに贈る
ジニアス語録!

★野球のできないプロ野球選手はいません。テニスのできないプロテニス選手はいません。しかし……（旗揚げ記者会見）★ラリアット、パワースラム、パワーボム系、ジャーマン系、ムーンサルト系、場外ダイブ、フランケンシュタイナー、ＤＤＴ系、ドラゴンスクリュー……全部使ってるバカはいないか？　プロレスのＴＶゲームじゃないんだから◎ゴッチさんの所へ行った人は10年経っても20年経っても「ゴッチさんゴッチさん」って言うのに、テーズさんの所に行った人は何で「テーズさんテーズさん」って言わないんだろう？◎私から教えてもらったＳＴＦで世界チャンピオンになった蝶野は凄い！私の教えたＳＴＦでトップが取れる新日本も凄い！　私は凄いのか？（97・1・14アイアンマンコンテスト・パンフ）★今の時代、レスリングの練習をするよりも後楽園の前でやってるボリショイサーカスにでも入門した方が“いいレスラー”になれるかもしれませんね!?◎某団体の現場責任者が某雑誌で言っておりました。「マスコミを使わなければやっていけない団体はダメだ」と。そこまで言うのであれば、全マスコミ、ＴＶからも撤退して見ろと言いたい。ＴＶだってマスコミです（97・2・6ナイスポ）★猪木引退試合への名乗り記者会見で「私は、ルー・テーズ氏より猪木は弱いとお聞き致しております。頂点を極めた男と地獄を極めた男、人生の縮図、命のやりとりを挑みたい」（98・2・17東京ドーム）

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――(ネール元インド首相の娘への手紙)

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

前号で不可解なほどに好評だった『海人』書評。そのノーカット版公開を希望するメールが殺到したものの、今回もネタの多さゆえやむなく断念。しかし、財布の紐が堅そうな名古屋在住の主婦からメールで頂いた「書評されるご本の価格を一緒に載せていただきたいのです。吉田様の評価と値段設定で損得が一目瞭然になると思われます。いかがでしょうか」との要望には応えて、今回からは税抜価格は表示させていただく次第である。こうして読者の声をできるだけ反映させていく、「カリスマAV監督」(『VOCE』より)の書評コーナー。〈e-mail:go-go@pdx.ne.jp〉

闘人烈伝
(夢枕獏編・解説/双葉社/1200円)

最近は『格通』掲載の「格闘技については、まったく理解できないにもかかわらず、好き勝手な発言により格闘家の皆様の精神を害した」なる格闘技方面での絶筆宣言だとしか思えない謎の詫び文で話題となった夢枕獏先生が、構想13年を経て遂に完成させた短編格闘小説&漫画アンソロジーがこれ。

冒険小説の大家・船戸与一(祝・直木賞受賞)のプロレス短編を筆頭に、中島らも、村松友視、椎名誠、橋本治、景山民夫、今野敏、高森真士(真樹日佐夫)、大仁田厚、藤岡真、夢枕獏、安岳譲二、勝目梓といった豪華メンバーが集結している以上、**「はっきりここに書いておくが、これはこのぼくにしかできなかったアンソロジーである」**と夢枕先生が自画自賛したくなる気持ちも非常によくわかる。

しかし、小説読みではないボクがプロの漫画読みとしてあえて言わせていただくと、漫画界からはちばてつや、板垣恵介、江口寿史(しかも『BOXERケン』……)の3人しか登場していないという人選にはちょっと首を傾げざるを得ないのであった。

コンタロウは? みのもけんじは? 山松ゆうきちは? 谷村ひとしは(これは短編がないか)? そして梶原一騎先生の原作漫画はどうしたんだ?

これは漫画評論集(ジャケは二頭身の著者!)も過去にリリースしていた夢枕先生にしては、あまりにも世間的な知名度に頼りすぎたコク不足すぎる選択であり、思わずこのボクが本書と対になるような格闘漫画アンソロジーを頼まれてもいないのに作ってさしあげたくなった次第なのである(有難迷惑)。

格闘技・超勝負列伝
(メディアワークス/1400円)

板垣恵介、花くまゆうさく、中井祐樹、長尾迪、若林太郎、さらにはしましま魚や慈村ゆんたといったネット界の人々まで登場する、かなりストイックな姿勢で作られた格闘技本。インタビューの質問項目から何からとにかくコアな格闘技ファンという非常に狭い読者層を想定しているだけのように思えて、個人的にはちょっといただけない一冊である。

なにしろプロレス的な物事に対する嫌悪感はそこはかとなく伝わってくるものの、かつての『格闘技探検隊』のごとくプロレスファンに喧嘩を売るわけでもなければ、PRIDEなどの有名選手を起用して世間に向けて電波を出すわけでもない。つまり「好きな人がわかってくれればいい」という非常に閉じた世界に収まっているようにしか見えないのが、ボクには不満でならないのだ。

そんな中で明らかに異質な光を放っていたのが、極真空手初段の評論家・平岡正明先生が国籍的な側面から語る**「東洋の思想家」**としての大山倍達論だったのである。

まず、関東大震災下の「朝鮮人虐殺」で親戚が殺され、**「ショックで母親が精神に異常をきたし」**ただめ姉の元で育てられることになったというだけでもすでに衝撃的すぎてしょうがないのだが、話はそれだけでは終わらない。

彼が特攻隊として死に損ない、戦後の焼け野原で暴れ回ったという『空手バカ一代』でも描かれた伝説にしても、国籍を通して見れば非常に分かりやすい図式になり、単なる武勇伝がとてつもなく染みるエピソードへと変化していくのであった。

「朝鮮出身兵は戦闘機乗りになれず、整備兵にまわされた。配置された先で上官の初年兵いじめに会う。上官がやってきて朝鮮の民族衣装をつけた妹の写真をあざけり破り捨てた。怒った彼は上官を一撃、昏倒させ、反抗罪で八ヶ月の重営倉である。夜な夜なその上官が仲間を連れてやってきて竹刀で倍達を私刑した。倍達は自ら唇を噛んで出血し、病院に担ぎこまれ、そして病院から脱走した。戦時中の脱走は重罪である。脱走兵倍達は千葉県に強制連行されてきた朝鮮人徴用工の飯場に身をひそめた。戦後まもなく彼が君津の朝鮮人職業訓練所の隊長になり、日蓮修行の地である清澄山に山篭り修行する千葉県との縁は脱走してかくまわれた徴用工集落に由来するのである」

戦闘機乗りへの憧れと、異国の血。つい前田日明を連想しそうになるところだが、本当にヘヴィすぎ。なぜマス大山が屠殺場で牛を殴り殺したのか、これでボクにもようやく理解できたのだ。

ただ、ここまで深く取材しておきながら**「レスリングやボクシング相手に実戦して勝利し、空手を東アジア産の奇妙なダンス視していた西洋の国に武道は東洋思想の精華であることを認めさせFBIに採用させた」**などといまとなっては非常に信憑性の薄すぎる情報を鵜呑みにして書いているため、せっかくの原稿のリアリティをすっかり損なわせてしまったのが残念極まりないのである。

確かに最近入った情報によるとマス大山が渡米中、反日感情の激しい州で地元の力自慢と闘い、相手の背後から正拳突きをブチかましたという事実はとりあえず存在するらしい。

それを聞いた格闘技マスコミの方は「やっぱりマス大山は実戦をやっていた!」と興奮したそうなのだが、ボクに言わせればこれは明らかに日系人ヒール特有の「スネーキー」な試合スタイルであり、つまりは「プロレス」だったわけなのだろう、きっと。

ゆえに、「実戦」や「FBI」といったあやふやなセールスポイントを持ち出すより、日本人に迫害された男が、グレート東郷と共にアメリカで「悪しき日本人」を演じるうちに、やがて「日本人が負けたら腹を切るよ!」と叫ぶまでになる、その生き様に光を当てるべきだとボクは思うのであった。

『20世紀プロレス格闘フィギュア大全』
(太田出版/2238円)

これまでイデオンにザンボット3、ボトムズといったボクのお気に入りアニメばかりを徹底検証してきた太田出版のオタク学叢書シリーズとは到底思えない、もはやオタクを名乗ることさえおこがましい一冊。

三沢人形製作ドキュメントや猪木ブロンズ像作者・村田善則先生のインタビューなどやり方次第で面白くなりそうな素材こそ多いものの、致命的なまでにコク不足なのであった。

ハッキリ言って興味深いのは、自分のフィギュアを見て**「俺はこんなに細くない。もっとガッシリしている」**とヒクソンがゴネたといった、キャラプロ関係者の証言ぐらいのもの。未知のアイテムが噂のチャンネルのデストロイヤー人形程度なのは『悶絶プロレス秘宝館』でさんざん掘り起こし尽くしたためやむを得ないのかもしれないが、せめて入手容易な新日の1500円フィギュアぐらいコンプリで並べるべきだとボクは思う。内容的には足りない物の方が多いぐらいなのにこの強気な値段設定は、ちょっと無茶すぎるはずなのである。

なお、ボクの原稿を巻頭12ページに渡って掲載し、それでいてボクではなくなぜか山口日昇宛に送本したきたのも非常に衝撃的だったんだが、ボクへの原稿依頼だってかなりのもの。

なぜなら「吉田さんにはポピーのスーパープロレスラーシリーズ(梶原一騎認定)について原稿を書いていただきたいんですけど、初版なので金馬場入りでお願いします」(馬場人形はないので、ユージンの、「ブルマアクのデストロイヤーの原稿もお願いします」(これも、同じマスクマンのミスターXと混同していると思われる)だのと担当編集者が口にした時点で、オタク学を名乗るには学力不足だというこ

とはすでに発覚していたのであった。

『クマと闘ったヒト』
(中島らも/メディアファクトリー/1300円)

ピュアなUWF信者だった中島らも先生と日プロOBで現在お好み焼き屋マスターであるミスター・ヒトとの対談を、雑誌『ダ・ヴィンチ』連載時とは異なるロング・ヴァージョンで再構成した単行本。

「おれはUWFができたときに、確かに試合を見てもおもしろくないんだけど、これでやっとオレはプロレスファンだと人に言うことができると思ったね」

「おれ、ターザン(山本)好きじゃなくてね。編集長はニュースをよくわかるように伝えるのが仕事だと思うんです。でも、あの人の書いたものは、読んでて気持ちが悪いんだよね。あれはポエムです(笑)」

そう語る中島先生がいまでは『週ゴン』すら買わなくなったのは、FMWのブリーフ・ブラザーズを見て**「プロレスラーがプロレスを茶化すようなことをしているようじゃもうだめだと思って、それで少し愛が冷めた(笑)」**ためとのこと。ここまでピュアハートな中島先生にも、**「今いちばんおもしろくて、お客の心をつかんでいるところは、FMW。あんな上手いレスリングをする団体はないです」**と言い切るヒトにも一切感情移入できないというのが、ボクの正直な感想なのであった。

しかし、だ。猪木至上主義者なボクにしてみれば、カルガリーを主戦場としていたヒトの**「藤波選手って、いいやつだと思われてるけど、あれほど肝っ玉が小さくて、ずるいやつはいない」「藤波みたいに人を蹴散らかしてでも、というやつが上に行くんです」**と、藤波はもとより馬場に猪木、ゴッチにロビンソンまであっさりと全面否定してみせるスチュ・ハート(カルガリーのプロモーター)至上主義ぶりが妙に新鮮でたまらないのである。

つまり、ここで褒められているのは馳やライガー、ビッグ・タイトンに南条隼人といったカルガリーな匂いのする面々ばかり(それでもカルガリー遠征を経験した川田については**「顔を見たら、馬場さんの奥さんの悪口を言っている」**と時節柄物騒なことまで暴露。さすが全日のボヤキング・川田である)。

「キックボクサー上がりで、宙返りもするすごいレスラー」を全日と1万ドルで契約させたら4000ドルしか支払われなかったとヒトが激怒しているのも、実は長州のお笑

クマと闘ったヒト 中島らも

い異種格闘技戦の相手を務めたトム・マギーのこと
手たちばかりである事がよくわかる」
その指摘はあさっての方向を向いているとしか
スの厳しさを教えてくれた気がする」(永田)
「本能」だった気がする。いまの若者の心をつか

い異種格闘技戦の相手を務めたトム・マギーのことだったりで、つくづく物事は立体的に見なければいけないと心から痛感させられた次第なのであった。
　なお、注釈＆原稿チェックは連載時からボクが担当しているのだが（注釈は単行本用に全面書き直し）、本文の内容には一切関知していないので念のため。連載で「セール」などの隠語解説が出てきた時にボクは「これはさすがにマズいんじゃ……」と編集者に忠告したこともあるのだが、それでも平気で誌面に載せてしまったのは、担当編集者がプロレスを知らないからこそ生まれた奇跡なのだ。
　物騒すぎて時節柄削ることになった部分も多々あるが（馬場ネタなど）、それでも十分に物騒極まりないのだから本当にとんでもないのである。
　ちなみに最もとんでもなかったのは、原稿チェック時に気付いた「ルー・テーズに1000万円取られている」のがセッド・ジニアスではなく「テッド・デビアス」という、さすがはミリオン・ダラー・マンだと唸るしかない見事な間違いなのであった。

『防御は最大の攻撃なり　上巻』
（竹内宏介／日本スポーツ出版社／952円）

　熱心な馬場派として知られるゴングの竹内さんも、かつては「ジャイアント馬場に進言する！　いまこそ猪木を倒すべきだ」と誌上で対戦を煽ったため、「ゴングを営業妨害と名誉毀損で告訴しようと思ったんだぜ」と馬場に言われたこともあるのだそうである。
　そんな竹内さんが、馬場は世間で言われているような「石橋を叩いても渡らない人」なんかではなく「ここ一番の勝負どころになると、まさに"石橋を叩く前に飛び越えるような人"だった」ことを経験を活かして書き上げた、この本。
　一体何のことかと思えば昭和50年に全日が開催した『オープン選手権大会』には、実はかなり物騒極な裏側があったとのことなのであった。
「あえて"オープン"という名称を付けた真意は"猪木の参加要請に応じる"という狙いがあって付けられたものだった。さらに参加外人選手たちの選考に当たっても、ともかく"ガチンコの強い選手"……つまり、相手がルール無視の喧嘩ファイトを仕掛けてきても十分に対抗できるだけのシュートに強い選手たちがピックアップされた。ドン・レオ・ジョナサン、パット・オコーナー、ホースト・ホフマン、ディック・マードック、ミスター・レスリング、ヒロ・マツダ、ハーリー・レイス……この顔ぶれを見れば、レスラーとしてのネームバリューにプラスして、そうしたセメントに強い要素を持った選手たちばかりである事がよくわかる」
　つまり、策士・馬場は特殊なルールでこれらのシューターたちを連続して当てていき、リング上で生意気な猪木をシュートで潰そうと企んでいたわけなのだ！　恐るべし、キラー馬場！
　さらに、猪木が「力道山の十三回忌の追善興行への出場をボイコット」すると、「この前後から猪木と新日本に対する周囲からの風当たりの強さは想像を絶するものだった。当然、その筋からのいやがらせも相次いだ」と、竹内さんは暗にヤクザ絡みの嫌がらせがあったことまで暴露するのだ！
　ひたすら喧嘩を売りまくった猪木も、その挑発にこう返してみせた馬場も、揃いも揃って文句なし！
　プロレスとは興行や人間関係のシュートさにスポットを当てればいくらでも語ることのできる、まだまだ底なしの魅力を秘めたジャンルなのである。

『佐藤ルミナ100%』
（メディアレブ／1800円）

　100%を名乗るだけあって「当時、本当にUWFは信じていました。これで格闘技に目覚めた。悔しいことに（笑）」と語る元UWF信者のルミナ君がチンチンまで公開してくれる、マニアには嬉しい一冊。
　本人の全試合解説コーナーでの「勝ち名乗りを受けた後で、佐山さんに怒られたんですよ。態度が悪いって（笑）。終わってから挨拶もしなかったら、『ルミナ、挨拶しろ！』って」という発言に佐山が掣圏道を生み出した原点を見るのは、きっとボクだけではないことだろう（しかし、ほぼ同時期に佐山と前田が挨拶の重要性を訴え始めたのは興味深い事実である。原点は小鉄イズムか？）。
　そして、「国境も、人種も、宗教も、ルミナはその壁を壊していく。友人になり、アニキになる。笑顔は男たちをも夢中にさせる」といった『格通』高島学記者の手によるちょっと白々しい文章がルミナ幻想を作る上で逆効果になっている気がするのも、おそらくボクだけではないはずなのである。
　この本に掲載されたインタビューでも「自分の中で『カリスマ』とか言われて、ギャップとかありますか」と聞かれたルミナ君は「あおりすぎの雑誌はあるかな」と正直に答えているのだが、それはズバリ言って『格通』のことに他ならないのだとボクは思う。
　たとえば高島記者は「時折、ファンだけでなく総合系の選手や修斗OBからも『ルミナは強い選手と闘っていない』という声が上がるが、ルミナが正真正銘この世界のトップなのだから、その指摘はあさっての方向を向いているとしか言い様がない」と本書でブチ上げてもいるのだが、むしろこの反論こそあさっての方向を向いているのではないだろうか？　以前はともかく、いまのルミナ君は決してトップではないし、ここ最近ビッグマッチ以外では強敵と闘っていないはずなのだから。
　思えば『格通』でも「ロンブーとのトーク番組出演に始まり、スポーツドキュメント番組での特集や有名アイドルとのTVCM出演の話もある。格闘家でなかったら、『格通』のスタッフなど声も掛けられぬスターではないか」だの「最近はルミナ選手が一般誌やテレビに多く出られるようになって、すっかり遠い存在になってしまったような気がします（笑）」だのと、不用意な煽り方をしてきた高島記者。
　しかし、そんな浮わついた幻想にばかり頼るよりも、横山やすしのファンで将来は「お笑いの構成作家もやりたい」と語るルミナ君の実像をキッチリ伝えるべきだとボクは思うのである。

『プロレス2000年鑑』
（東京スポーツ新聞社／4762円）

　ジェシー・ベンチュラや藤波＆三沢の社長インタビュー、ノーフィアー対談に中西＆永田対談、そしてやっぱり浅野社長ドキュメントも収録した今年版の東スポ年鑑。
　新日の解説者でもある柴田惣一記者が「思えばレスラーが道場でバーリ・トゥードに取り組むのは当然のこと。実際、現在でも行われている。もう黙殺してはいけない。声を大にし、バーリ・トゥードにも乗り込んでいく時」と攻撃的な意見をブチ上げていたりと興味深い情報満載なんだが、まったく期待していなかった中西＆永田対談が抜群だったので、ぜひともここで紹介してみたい。
　新日マットで激しい大仁田バッシングの嵐が吹き荒れまくる中で、なぜか呑気に古き良き大仁田の思い出話に華を咲かせていく2人。
「オレは、大仁田厚と聞くとチャボ・ゲレロからNWAインター・ジュニアヘビー級選手権を奪った試合が印象深いね。あの時は、テレビを見て泣いたよ、本当に。あと、チャボ・ゲレロに血塗れにされた時も、戦慄を覚えた。いい選手だったよな～。大仁田厚って」（中西）
「オレはヘクター・ゲレロ戦の後、リングから飛び下りてヒザを骨折した場面が忘れられない。あとは、マイティ井上さんに負けて『引退を懸けて戦います！』って再挑戦して、また負けちゃうんだ……。そして本当に引退しちゃった。あれは感動したのと同時に、ある意味、プロレスの厳しさを教えてくれた気がする」（永田）
　これだけでも十分にセンス抜群だというのに、さらにこう言われたらボクはもうメロメロなのだ。
「実はオレ、ディノ・ブラボーに憧れてプロレスラーになったんや。ああ、オレもブラボーのように生きたい」（中西）
「（鈴木）健三の暴れっぷりを見ていると、一昔前の中西学を思い出すよ。この間も、先輩（中西）が恍惚とした表情で梅沢富美男の『夢芝居』を歌う中、健三と棚橋（弘至）がフルチンで踊っているのを見て、悪酔いしちゃったもん。今度、ぜひとも謎の覆面レスラー、ケンゾー・カハンシンとして試合して欲しいね」（永田）
　そんな発言をあえて引き出す東スポの遊び心には、つくづく共感を憶えるばかりなのである。
　他にも、全日で実現していたケン・シャムロック対鶴見五郎といった幻の試合レポート集（「若々しいシャムロックと当時から汚かった鶴見」という写真のキャプションも絶妙）や、鶴見の胸のSOSマークが「これは当初、SWSと描かれていたモノだったが、SWS自体が崩壊してしまったため、窮余の策として『W』の字を『O』に付け替えたモノだった。モノを無駄にしない、生活の知恵が感じられる、マット界ちょっといい話である」と解説する用語辞典など、東スポの企画センスも中西＆永田ばりにまた抜群！
　なにしろ、パイナップルにフェイスクラッシャーする武藤やマグナムTOKYOのフリチン写真なんかを集めた「東スポ写真部・面白写真集」という呑気なコーナーで安生の前田襲撃写真も掲載して「面白写真」扱いするのだから、さすがは東スポ。本当に恐い物知らずなのである。

『真実』
（大仁田厚／TIS／1600円）

　本宮ひろ志先生の帯文だけでもシビレずにはいられない、大仁田の新刊。「冬木は俺をFMWから追い出そうと必死だった」「南条（隼人）が俺の顔を見て、目と目が合ったにもかかわらず、挨拶もしないでまるで俺を無視するかのような態度でそこを通り過ぎて行った」「藤波の頑固ぶりというか、バカさ加減には怒りを通り越して、あきれてしまうものがある」などのシュートな発言もあるにはあるが、長州戦への軌跡が主軸なので予想以上に淡泊な一冊である。
　それでも長州戦決定を伝える電話がかかってきた瞬間について、「カーステレオからは最近、お気に入りの椎名林檎がかかっていた。たしか曲は『本能』だった気がする。いまの若者の心をつかんでいる彼女の曲はそのムキ出し加減が俺ととても相性がいいようだ」「面倒くさいと心では思いつつも、体はなぜか電話に出る方を選んでいた。これこそ『本能』ってやつなのかもしれない」と時事ネタ混じりに述懐してみせる大仁田のセンスは、これもまたさすがと言うしかないだろう。
　そう、いまの大仁田の売りはこのズバ抜けた「センス」そのものなのだ。新日マット初登場時の相手が、センス皆無だと言われて久しい二代目長州力こと佐々木健介だったというのも、いま考えれば極めて好対照だったというわけなのである。
「佐々木が俺を『プロレスラーとして認めない』っていくら叫んだところで、俺はどこに行ってもプロレスラーとしか見られない。佐々木には悪いが、世間一般では俺の方がプロレスラーとして認められている」
「だいたい俺は自分で自分を『バカ』だと言っているし、『弱い』ことだって認めている。いまさらそういうありきたりの悪口で"口撃"されたって、痛くもかゆくもない」
　ここまで大仁田に開き直られたら、もはや健介がどれだけ強さをアピールしても無駄というもの。なにしろ大仁田は「俺は新日本に人生を賭けにきているのだ。生き残った時点で、俺は負けてないと言ったっていいじゃないか？」というとんでもないテーマを掲げているのだから、新日勢は大仁田を殺さなければ勝ったことにはならないという無茶な条件を突きつけられてしまったわけなのである。
　さらに自分の弱さを素直に告白して「いち抜けた」状態になったことで、こんなことまで無責任に言い出すのだからとんでもなさすぎなのだ。
「考えてみてくれ。"ストロング"と新日本の選手は口々に言うが、いま、まさに格闘技界が沸騰している中、なぜあんたらはプロレス界にとどまらず、格闘技界に進出しないのか。全日本プロレスには理がある。なぜか？　受け身を主体とすること、これこそがプロレスの王道なのだ。相手の技を受けて、どこまで耐えられるか。それを極めてこそ、プロレスといえるのではないか。いま、まさにファンまでをも奪われようという現実に、なぜ新日本プロレスは闘いを挑もうとしないのか、俺にはわからない」
　こうして新日に対して試合の勝敗以外の部分でのみ勝負を仕掛けた大仁田のやり方は予想以上に巧妙であり、そして効果的なのである。

CAT FIGHT WORLD

第5回目

今回に限り十八禁!?

「レズファイトの魅力」

レズファイト担当　松井さん

レズファイトとは？

女同士の白熱の闘い『キャット・ファイト』の一種が、今回紹介する“レズ・ファイト”です。今回、インタビューに答えてくれるのはバトルのレズ部門を担当する松井さんです。

キャットファイト＋レズ!! 脳天直撃お色気ファイトの世界

――今回のファイトは、エロチックな予感がしますねぇ。

松井　キャットファイトって言葉で既にエロチックでしょう（苦笑）。

――そうでした（笑）。今回は、バトルのさんにその魅力を語っていただきます。

松井　普通の「レズ」に加えて、ファイトがつくわけですから、魅力倍増って感じですよね（笑）。

――はい!!　魅力満載です！　でも、キャットファイトがレズの延長戦では困るって意見もあるんですが……。

松井　それは受け取る側の問題でしょう。そういう意見の人もいるって程度でしょう。レズファイトだって、箱を開けてみれば、いっぱいあるんですから。

――ずばり、レズファイトってどんなファイトなんですか？

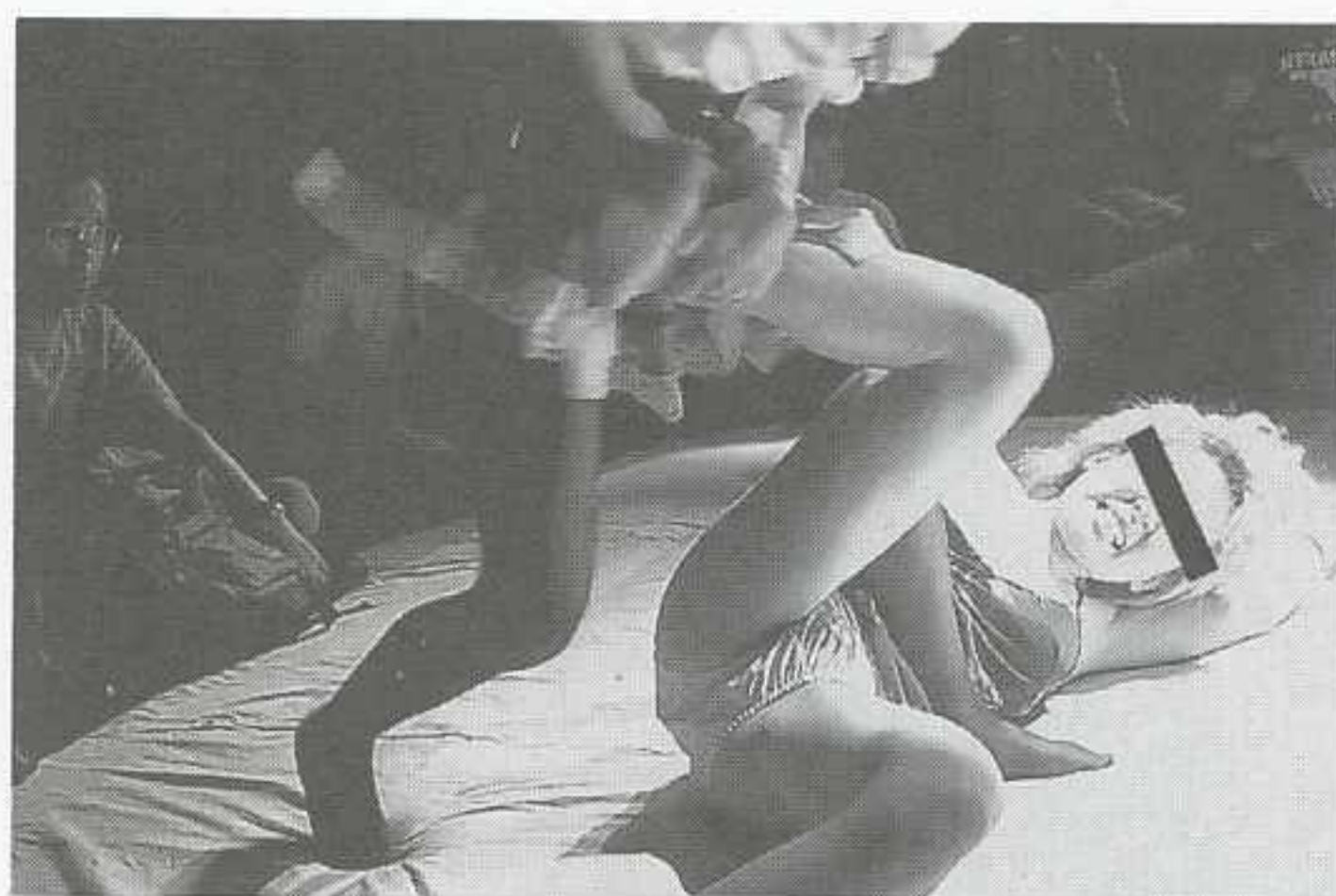
松井　巨乳で相手の巨乳を押しつぶしたり……

――ほーほー……。

松井　相手の股間に爪を立てたり……

――ほーほーっ!!

松井　キスで窒息させたりと（笑）

――ほーーーっ!!　最高ですね、レズファイト!!

松井　キャットファイトに加えて、レズのエロチックが加わるわけですからねぇ。キャットファイトの中でも、最もエロチックで一般の人向けなのかもしれません。

――キャットファイトに興味がない人でも興奮するということですね。

松井　そうです。う～ん、それじゃあキャットファイトの魅力とは言えないかも～。

――あはは。結論出してから、混乱しないで下さいよ。

松井　最近では「イカせっこバトル」なんてのもありますが、これもレズバトルだと思います。

――「イカせっこ」ですか!?　何ですか、それは!?

松井　簡単に説明してしまうと、相手を先にイカせちゃった方が勝ちっていう（笑）

――エロエロじゃないですか！（笑）

松井　喧嘩というよりは、お色気をメインとしたキャットファイトなんです。レズファイトというのは、協調性のないレズと言った感じですね。お互いのプライドを賭けた激しくも、淫靡なキャットファイトなんです。

――はあ、なるほど。淫靡なキャットファイトですか……ドキドキしちゃいます。

松井　お色気がお好きな方は「レズファイト」を是非、オススメです!!

グレート・チョロの

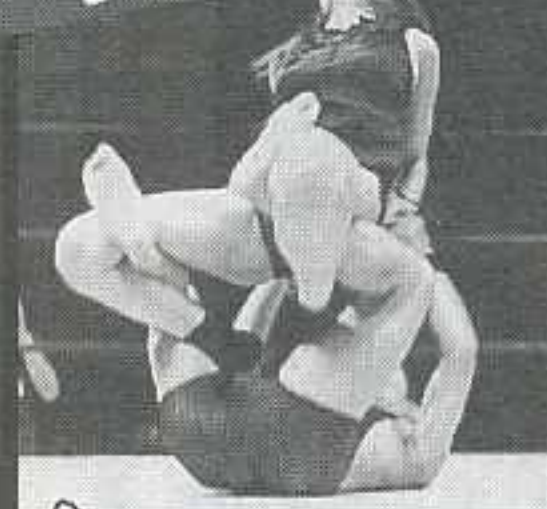
ハガキ劇場

オイ、オイ、オイ、大仁田は長州に敗れてしまったが、左のキャプテンのイラスト（5点）にもあるとおり、長州対大仁田の実況は真鍋の圧勝じゃった！　調子にノッたわけじゃないが、俺はまたやらかしてしまったぞぉ！　8・6北沢タウンホール『バンバンビガロ』興行で、俺は『スコラ』のブラジル君とサスライ・シローとやらの挑発を受けキャットファイトのリングに立った！　対戦相手はメイプルちゃん。相手にとって全く不足なし邪！

（愛知県／たっつあん）5点★「大仁田クンお疲れっ!!　チョロも30号だけはハガキ劇場を復活させてやったらどうでしょう。今回限り」。おぉ、その気持ちよ～く受け取った！

神聖なリングを汚した男 "邪道"グレート・チョロ終焉！

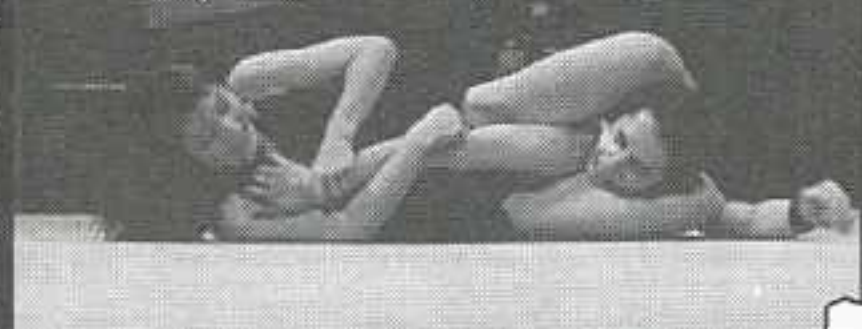
俺は やることはやった… 悔いはなし！

勝負には敗れたが ビキニははぎ取ったん邪！

試合前、リングアナに対し「オイ真鍋! 敗者全裸マッチを要求する!」と嘆願したチョロ。負けたにもかかわらず、逆ギレの暴挙!

メイプル式 バストスリーパー!?

ファンサービス つり天井!

遠すぎて見えない ジャイアントスイング!

男の夢!? 三角絞め（やられる）

さらば邪！

「入れるなコラッ、入れるな、入れるなよ、マタ嗅ぐなよコラッ！　マタ嗅ぐな、マタ嗅ぐなよ、マタ嗅ぐ　な　マタ嗅ぐなよ、絶対に！」というメイプルちゃんのアピールに対し、俺は礼儀も守らず暴走してしまった。しかし俺は絶対に反省はせん！　だが神聖なリングを汚したことは紛れもない事実。引退という言葉は使わんが、グレート・チョロの読者ページは今回で終わり邪！　あとは新人の水戸泉（仮）に任せる。さらば邪！

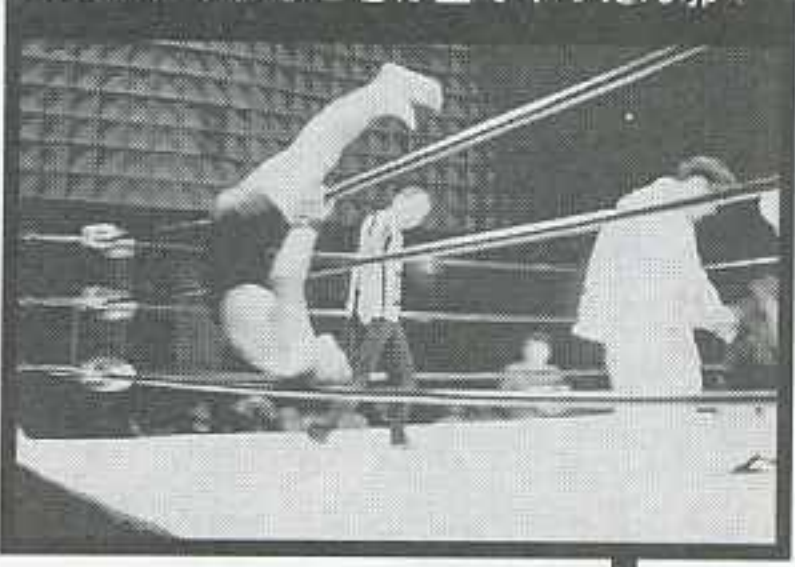
写真協力・丸山剛史

グレート・チョロのハガキ劇場 特別編

驚愕！ 贅沢なプロレスごっこ（？）に超満員の観衆が!!

最後の舞台としてふさわしい花道じゃった…（感無量）

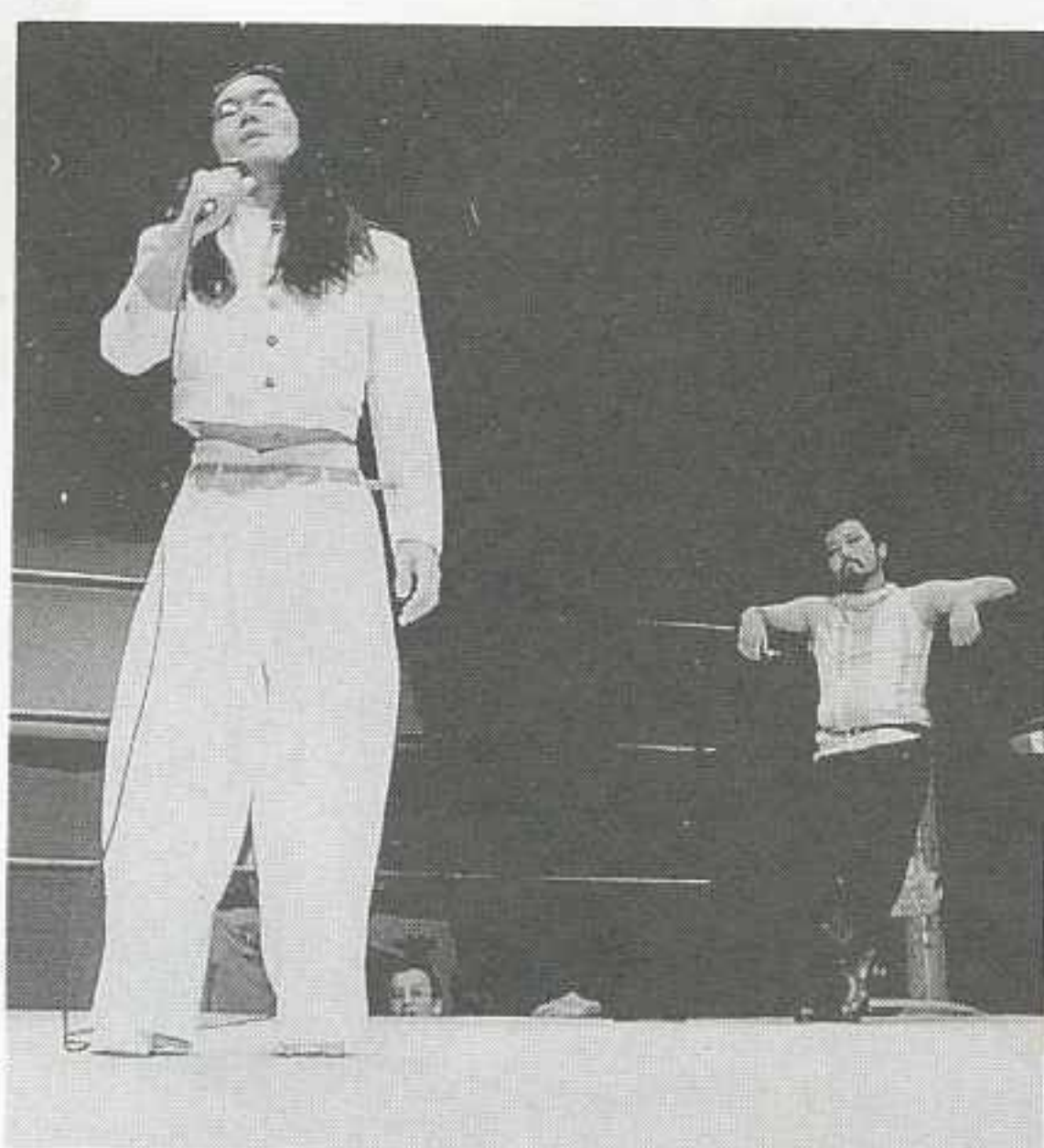
〝邪道〟グレート・チョロ

場外乱闘ダメ、タバコもダメ、水ぶっかけもダメ、もちろん電流爆破もダメという規制の厳しい北沢タウンホール。グレート・チョロ的には、不利な条件が重なったが、やれることは全てやったん邪！

新プロレス？ 純プロレス？ んなこたぁどーでもいいんだよ！ 21世紀はマット界にCF旋風が吹き荒れる！

チームXのセコンドには白覆面が付いた。試合途中でマスクを剥がされてしまった白覆面。本邦初公開のその正体は、なんと春一番だった！ ちなみに白覆面の隣のマスクマンは元●●のあの子だ！

出たッ！ 魔性のスリーパー!!

『リングの汁』でお馴染み花くまゆうさくさんと、『ゴキータ』でお馴染み五木田智央さんが審判を務めた。

本誌で『業☆勝ちます』を連載中の掟ポルシェさんがヴォーカルと説教を担当するロマンポルシェも出演！

イナズマ★K 観戦記

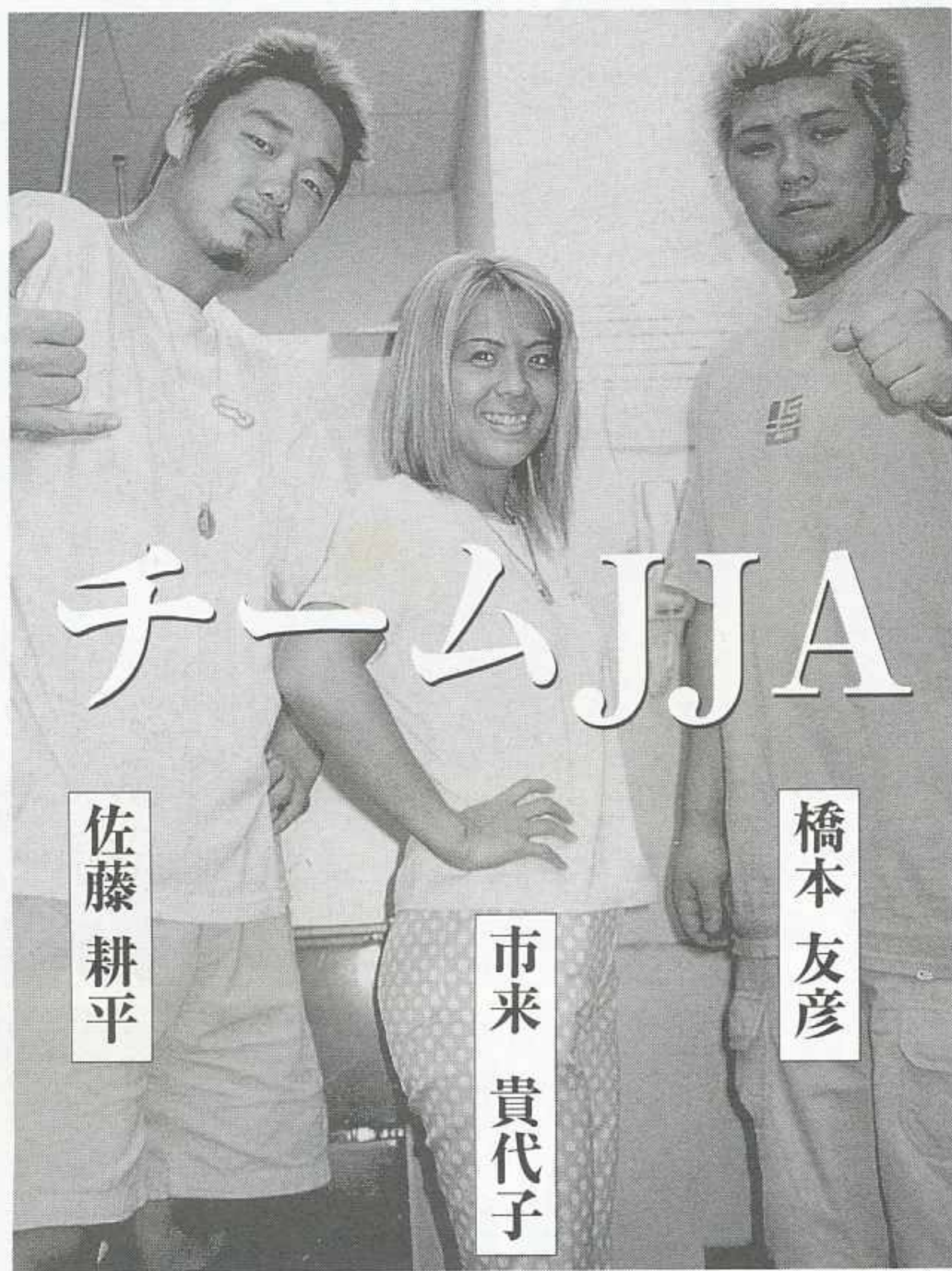
スゴイ！ 北沢タウンホールがフル・ハウス。一体何の会場なんだ？ 修斗？ DDT？ いや違う。バンバンビガロ主催のプロレス興行『キャットファイトグランプリ2000』。

今でこそファッション誌にも取り上げられ一般層にまで広まっているプロレスTシャツ。そのブレイクのきっかけにビガロの功績はとてつもなくデカイ。下北沢に拠点を置くこのショップは、これまでのプロレスTシャツ＝ダサいという図式を根底から覆し、ストリートに根付かせたのだ。またデザインネタがプロレス好きのハートをくすぐるレスラーばかり。マサ、アンドレ、国際はぐれ軍、アドニスなどなど。『紙プロ』読者なら何か1枚ぐらいは持ってるでしょ。そんなビガロの大会だけに、どんなものになるのかフタを開けるまで全く分からない。素人への批判もあるに違いない。そんなリスキーなイヴェントに手を出さなくたってイイんじゃないの？ いや、でもやるんだよ！ 今回の成功はその苦労が実った1つの結果といっていいはず。

この贅沢な大人のプロレスごっこ＋ロマンポルシェ＋ホンモノのプロレスのミクスチャーイヴェントは大日本の女子レスラーを中心に繰り広げられる四軍対抗戦だった。MCBOO&チェケダッチョのチームカニベースはマルセラ、白覆面&マスクド店長のチームXは赤覆面、佐藤耕平&橋本友彦のチームJJAは市来貴代子、そしてオーナーGAMY&BBBの若大将NODA―KENのチームBBBはBBBマシーン（中野知陽呂）が出場。

トーナメントは市来が勝利しチームJJAが初代チャンピオンの座に就いた。当日、灼熱の秋葉原大会の後、急いで下北に駆けつけた大日本女子勢。普段見慣れた組み合わせなのに、これまでに無いぐらいスウィングした試合をしたのにはビックリ。お客さんの盛り上がりやタウンホールとの相性がバッチリ合ったようだ。普段と違う空気の中でキチンとプロの意地を見せてくれたぞ。これぞ大女魂！ そして我らがチーム『紙プロ』は特別試合、

本誌独占！
（そりゃそうだろ）

初代キャットファイトGP優勝者インタビュー

チームJJA

佐藤 耕平

市来 貴代子

橋本 友彦

ベルトもらえなかったんで『紙プロ』の表紙にして下さい！（笑）

――第１回キャットファイトＧＰ優勝おめでとうございます！

市来＆耕平＆橋本　ありがとうございます！

市来　何やるかわかんなくて来て、試合をして、優勝しちゃいました（笑）。賞品は64のソフトをもらったんですけど、本体持ってないんで誰か下さい（笑）。

――チームＪＪＡということなんですけど、市来さんとは、どういう接点があるんですか？

耕平　いやぁ～、今日初めて会いましたね（笑）。

――あ、そうなんですか（笑）。セコンドは頼もしかったですか？

市来　そうですね。どこのチームよりも体が大きいし頼もしかったです。私はイベントとかでも嘘つきっぽいのって嫌なんですよ！

――市来さんは喧嘩っ早い方ですからね（笑）。

市来　そうなんですよ（笑）。

――市来さんはキャットファイトって知ってました？

市来　えっ、わかんない。どんなファイトなんですか？

――キャットファイトっていうのは女同士が闘って、オッパイポロリとか、ちょっとＨな試合が多いんですよ。

市来　へぇ～。そう言われればお客さんも、そういう目で見てたかもしれない。でも、私はプロのレスラーですからね！　そういう目で見てた人にもプロとして、試合で違いを見せなきゃって思ってたんで。そのために優勝したわけですから。でも、優勝したらベルトもらえるかと思って期待してたんだけど、もらえなかったんで『紙のプロレス』で表紙にして下さい！（笑）。ダメなら3ページとかでいいです！

――その代わり、セクシーショット撮らせてもらえます？（笑）。

市来　も～う全然いいですよ（笑）。もう年なんで、どっかでキッカケを作っていただければ。それに、これからデスマッチをやっていこうと思ってるんで、体に傷が付く前に撮って下さい（笑）。

橋本　（唐突に）ジャイアント落合と試合がしたい！　勝負しろッ！

バンバンビガロ
CFG 2000
キャットファイト・グランプリ
8・6★北沢タウンホール

最後はモチのロン！ ダーーッ!!

前日はジェームス・ブラウンのオープニングアクトを務めた春さん。この日は、猪木イズムジャージを着てリング上で大暴れ。最後はモチのロン！　会場総立ち状態の中、「イーチ、ニーッ、サン、ダーーッ！」でシメ。大・満・足！

主催者の『バンバンビガロ』では、今年度中にディファ有明での第２回大会を画策しているという。

「それ以上やったら死ぬだろ！」級の破壊力抜群の攻撃を見せたチームＪＪＡ。ぶっちぎりの優勝を果たしたわけだが、第２回のキャットファイトＧＰにはどのような強豪チームが参戦してくるのだろう？　今から夜も眠れやしない。ニャ～オ。

お♡ま♡け
メイプルちゃん＆ジャイ子
サイズは一緒（バスト以外）でもこんなに違う！

禁煙

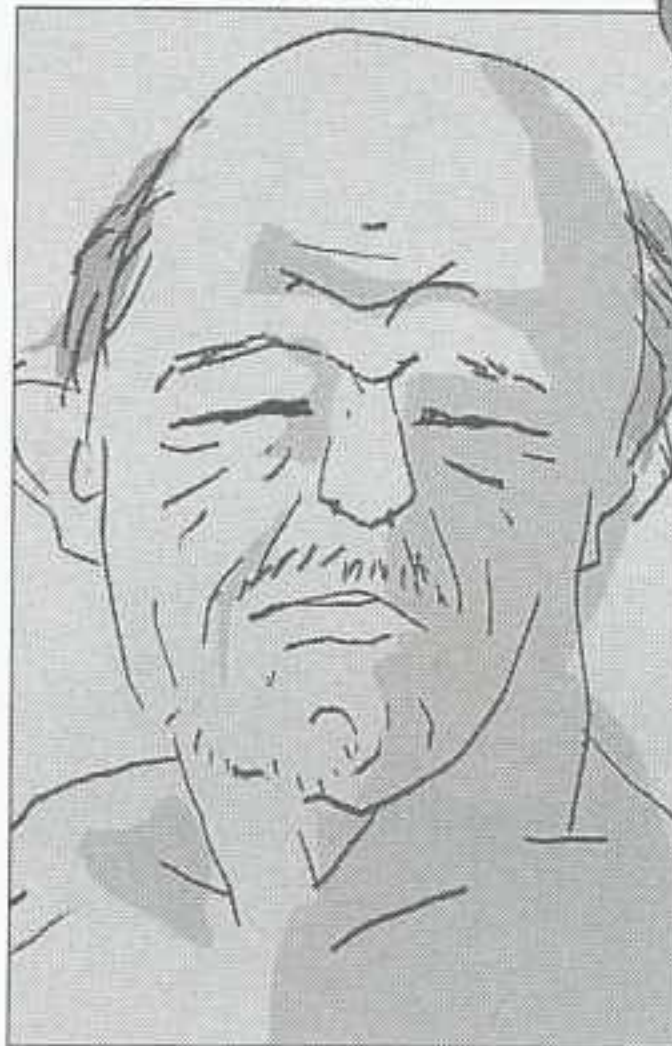
メイプルちゃんと抱き合うジャイ子。本人はレズ疑惑を頑なに否定するが、見てみ、この嬉しそうな顔！

敗者全裸マッチを条件にチームスコラと対戦。キャットファイター・メイプルちゃんとの試合に挑んだのは、クラブアトムの大仁田劇場で直接邪道伝承を授かった邪道スタイルのチョロ。しかも負けて全裸になるのはセコンドのジャイ子！　クンニ・ボムなど得意のエロ殺法で押しまくるがメイプル式バストスリーパーで満足気に轟沈。チョロが強引にメイプルちゃんの水着を引っぱがし混乱に乗じジャイ子は逃げ、全裸という犯罪級の事件は免れた。それにしてもチョロの見事なギミックセンスは大絶賛、ＭＶＰモノだ。

さて、振り返れば確かに内輪受けの部分もあったと思う。それを最小限に留めようとする気遣いもプラスに働いた。でもプロレスファンなら一度くらい自分で大会開きたいと考えてみたりするもんでしょ。それを実現しちゃったんだから当事者が盛り上がるのは当然。それが無かったらイヴェント自体の意味が無くなってしまう。ＥＷＦ風のさらにイっちゃった究極インディ興行。とにかくエンジョイ・ユアセルフじゃ！

グレート・チョロのハガキ劇場

（大阪府／俵俊司／43歳）5点★「『ハガキ劇場』でほんまもんのイラストが通用するか楽しみにしてます」。通用するに決まってるん邪！

（大阪府／俵俊司／43歳）5点★もしかしてドリー？　いやいやコピさんでした。娘さんのまりちゃん！『紙プロ』にもイラストを描いて送るん邪！

（北海道／ネスカフェ／高1）5点★ネスカフェちゃんには「新人のイラストも載せろ！」と怒られた。言ってくれれば載せたのに。載った気分はどう邪？　最高ですかーッ！

泣いても笑っても爆破されても今回で最後。胸いっぱいの『ハガキ劇場』スタート邪！　横浜アリーナでの長州戦の様に今回は一方的にお前らの言いたいことを聞いてやるん邪！

その前に一言物申す！　本誌鬼畜編集長・山口日昇が8・7新宿プロレスを取材した。そこで山口は、たまたま観戦に来ていたノアの泉田純選手を、お笑いのハチミツ二郎さんと間違え、泉田選手のお腹を思いっきり鷲掴みにするという失態を演じてしまったん邪！。

■お前らの声を聞かせろ！

●オイ、オイ、邪邪うるさいねん。みんなうんざりしとんねん。いつまでも同じネタ使えると思っとったらアカンぞ。※あまりにも暇なので久しぶりにハガキを書いた。彼女のいない高校生はとっても暇だ。夏休みの予定も新日のG1とリングスを友達と見に行くだけ。なんとかしてくれ（大阪府／清原弘行／17歳）1点

★んなこたぁ知ったこっちゃないん邪！

●つまらなかったのは『ザ・検証』。越中のフィギュアは1つで充分です。いくつもいりません。あとは『イズミちゃん百人組手』。なんでこんな話を載せるんです!!『紙プロ』に載せる記事ではない!!　もう載せないで下さい!!（神奈川県／河合貴子／28歳・無職）3点

★オイ、オイ、オイ、ビックリマークをふたつも並べるのは怒ってる証拠なん邪。

●ノア勢の登場には、上からゴキブリが落ちてきた時ぐらいビックリしたけど（ビックリクリクリクリックリ）私的には里村“メイメイ”明衣子インタビューがナンバー1でした。キャベツ畑の恐るべし、ロビンソンを尊敬し、ピーターの本を愛読し、川中美幸マニア。う～んお友達になりたいでごわす（山口県／ゆずっ子／21歳・会社員・ローソン女）5点

★オイ、オイ、オイ、ゆずっ子ちゃんよぉ、ノアってノーフィアーの略だって知ってたか？

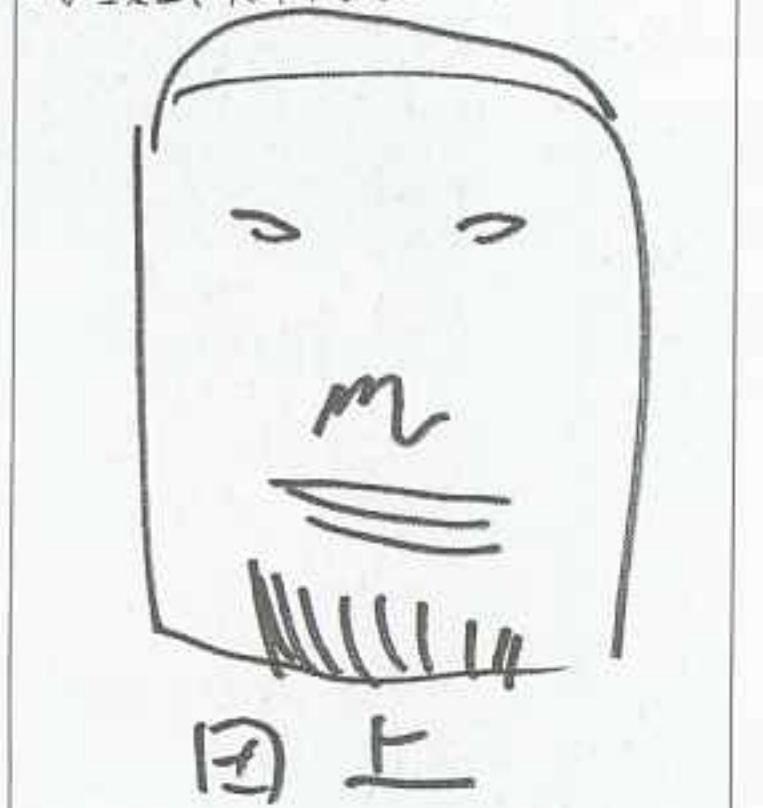
●ヤマケンインタビューは、はっきり言って何が言いたいのかよくわからん（ボクがアホやからか？）なにがしたいのかもわからん。でも新日との対抗戦クチャクチャにやられるヤマケン。リングスでハンに子供あつかいにされるヤマケン。ボロボロのUFC、Jのヤマケンのファイトはやはり引きつけられるし、やっぱり応援してしまうし、ガンバってほしいねん。ヤッパ試合が見たいわ（兵庫県／大塩虎徹／28歳・旅人）3点

★（シュートサインを出して）オイ、オイ、お前は白か黒、どっちだっちゅうねん！

今月の
苦虫をかみつぶしたような顔

今月のナンバルワンイラスト（愛知県／たっつあん）5点★天国の馬場さんは今回の全日分裂騒動についてどう思ってるん邪ろか？　関係ないけど、俺はbe動詞からしっかり勉強し直す！ハッスルハッスル邪！

●面白かった記事『S多重アリバイ』仲野信市後編。こんな事『紙プロ』しか書けない！　谷津の人間性がわかった（東京都／佐藤謙一／22歳・大学生）4点

★わかるなコラ、わかるな、わかるな、わかるなよ、わかるなよ、絶対に！

●面白かった記事（ビックリしたという意味で）ノーフィアー差し違い事件!!（と、勝手に呼んでマス）。恐れ多くも、あのノーフィアーのお二人を間違えるなんて、『紙プロ』さん大胆不敵です～。「ノーフィアー!!」と目立たせてあるだけに、よけいに涙を誘います。担当の方がこの先どんな仕打ちに合うのか、それだけが心配です（広島県／越智千代／39歳・会社員＆主婦）4点

★今のところ、担当のスモーノブは平和に眠ってるん邪！　起こすな、起こすなよ！

●村上一成インタビュー。「…だべな～」は富山弁ではない!!（富山県／林政広／33歳・無職）

★そうだべな～。

●面白かった記事。ハガキングオブキングス。自分のハガキが載ったから。最初、チョロは私の中でウンチだったが今は、ソフトクリームぐらいの存在。（広島県／オージロウ／23歳・会社員）4点

★ウンチからソフトクリームとは俺も出世したもんよのぉ。だがな、シルエットは一緒邪ねえか！　俺はウンチで結構！

●私はUFO派です。本隊が若い女性読者に優先的にプレゼントを送ってたという話を読んだから。ふざけるなっつーの。そんなヤツ、クビにしなきゃダメです。（愛知県／東山浩一郎／33歳）1点

★お前の言いたいことは、よ～くわかった。そんな事実は、そんな事実は、な……んなこたぁどーでもいいん邪！　あばよ!!

無職村8／馬場正平／アントニオ文朱／100才／虫捕り名人
- 中牧、談志を刺殺
- 小室友里、天山をKOしました。

（無職村8／アントニオ文朱）5点★前の文朱君の投稿を見て「宮崎勤」の葉書を載せるのは不謹慎というメールが来ました。そうなのか文朱？

ヨッ！塩本師匠

（熊本県／塩本祐介）各5点・計15点★相変わらず、ハイテンションな作品を連発の塩本師匠！　これからも読者ページをたのんます。最後に一言物申す！　イラストを載せて欲しい人は毎月5日までに送ってくれんかのぉ？

（東京都／仏生寺）2点★『紙プロ』読者ページに新しいタッチのイラストレーターが登場！　このイラストを見て俺は脱力してしまったん邪！　ボクも、もう辞めまちゅ。バイバイでちゅ。

宮崎文子はどっちでSHOW

影絵で格闘。

（三重県／宮崎文子／21歳・パパラッチ）4点★「今月は何日に発売？って毎回TELしてるのは私です。スンマセン」。文子ちゃん、遠慮することはないん邪！　次は名を名乗れ！　最後に、文子ちゃんは右邪！

④『レスリング・ウィズ・シャドウズ』
⑤「帰ってきたS多重アリバイ 仲野信市」福田選手への思いや、谷津選手の人柄など興味深い話がたくさんあって、とても良かったです。自分の才能を磨く努力を怠っては、いけないと思いました。
⑥「最狂プロレスファン列伝」先月と同様、自分が嫌いな人なので。
⑦紙プロUFO派　どっちでも良かったのですが今号の目次はヒド過ぎ。相撲を馬鹿にするな！

（埼玉県／中川雅博／22歳・無職）5点★風の噂に中川画伯が就職活動をしてるっていう情報を入手した！　だがな、毎号1枚は必ず送るん邪！

（東京都／キャプテン名倉）5点★オイ、オイ、オイ。キャプテンさんよぉ、担当が変わっても胸いっぱいのイラストを引き続き頼んだぜよ！

オイ、オイ、オイ、タマリンちゃんよぉ元気かのぉ？

オイ、オイ、オイ、全国6千万人のタマリンファンに告ぐ！　女の子向けファッション雑誌『mcシスター』の「格闘技ボーイズハント」というコーナーでタマリンの活躍が見られるん邪！　あとは各自調査！

格闘技ボーイズハント

プロレス　池田大輔　（ノア所属）

プロレス界の大海原にノアの方舟出現。大ちゃん号へ乗れ!!

"大ちゃーん"と、かのパフィーちゃんからも黄色い声援を飛ばされ、いくつになっても"大ちゃん"と少年隊のように呼ばれ続けるであろう池田大輔選手。「アニメにすぐ影響されて『あしたのジョー』観て、やせてるのに減量しちゃって怒られました（笑）」と自他共に認めるテレビっ子（現在進行中）。そこで、中学2年生のときアニメ版『タイガーマスク』に憧れプロレスラーになろう！と決意し、格闘街道まっしぐらと思いきや、なぜか水泳部に入部!?「柔道部に入るってかあちゃんに言ったら、"危ないからやめなさい"って（笑）」そんな大ちゃんにいちばん影響を与えたのはプロレス好きのお祖父様。「高校3年のときに死んじゃって、プロレスラーになる！ってますます強く思った」。しかし両親は猛反対！強行突破でプロレスラーの道へ。「運命的なことっていろいろあったけど、いつも計算どおりにいかない。でもうまい具合に転機がきて。違うと思ったら軌道修正するよ」そして今、二代目タイガーマスク・三沢光晴が興す新団体"ノア"で大航海しようとしている大ちゃんを通じて、プロレスを観るとどっぷりハマること間違いなしです。

PROFILE
★生年月日　1966年3月13日
★身長180cm　体重0.1t　血液型A型
★出身地　熊本県牛深市
★好きな食べ物　カレー&チョコレートパフェ
★好きな女の子のタイプ　勝ち気でオモロキャラ。芸能人でいうと松たか子（ドラマ「お見合い結婚」）
★好きなファッション　最近は自作Tシャツ
★性格自己分析　男にも女にも素直じゃない（笑）。"倒れるときは前のめり""カレーは別腹"などの文字が書かれた、相田みつを先生もビックリの詩人ぶりを発揮したTシャツが絶賛発売中！（会場でどうぞ）ちなみに「カレーは最高8杯食った」そうです。

大ちゃんプチメモ
「オレは日々闘いがあればいいから」という大ちゃんは藤原組→格闘探偵団バトラーツと団体を経てフリーとして全日本プロレスに参加。そこで、全日本分裂！　運命的に引き寄せられ三沢光晴率いる話題の新団体"ノア"に入団が決定したのだ。

大ちゃんインタビューをやったっきり『紙プロ』を去っていったタマリン。やめた後もタマリンファンからの投稿は何通か届いていたが、オイ、オイ、オイ、遂にタマリンを発見したぞぉ！　タマリンはまたしても大ちゃんを取材していたん邪！

骨法の最終兵器、遂に現る？

（東中野／堀辺百子）10点★オイ、オイ、オイ、オイ！　骨法の堀辺師範夫人からの投稿なん邪！　骨法整体セミナーにニセ・オターピオとニセ・健介が現れた！　俺はお前らに、大仁田興行に出て欲しかったん邪！

どいつもこいつも……ジャイジャイ

前号でジャイアント落合とデートしたい人を募集したところ、来るわ来るわの全9通（男2・女7）。急遽『PRIDE』出場が決まりデート企画は流れたが、いつかきっとやるんジャイ！

（青森県／青木雄大）4点★『紙プロ』でジャイといえばジャイ子。ただそれだけジャイ。

（東京都／キャプテン名倉）5点★いい所に目を付けた。ジャイアンの背毛は凄いんジャイ。

特に背毛がタダ者で無い。

（愛知県／負け犬ヒデボン）4点★絵になる男ジャイアント落合。ジャイアンがいま一番欲しいモノはシャンデリアだそうです。ちなみに愛読書は『週刊宝石』。袋とじには滅法弱いらしいん邪！

（愛知県／負け犬ヒデボン）4点★またヒデボンさんだ。よっぽどジャイアンが好きなんジャイ？

（ペン獣やざま優作／マンガ家）3点★『格闘マガジンK』、『SRS・DX』に続いて『紙プロ』に初登場のやぎまさん邪！

青木雄大劇場

怜美からの手紙もすっかり届かなくなってしまった今日この頃。いかがお過ごしでしょうか？　んなこたぁどーでもいいん邪！　今回のキャットファイトで完璧に嫌われたじゃろが、だがな、だがな、それでも俺はお前が好きなん邪！　連絡を待つ！

青木さんよぉ、ノア勢24人も書いてくれてご苦労さんじゃった。よ～く見るとひとりひとりよぉ似てるん邪！　しんどかったじゃろ。

選ばれし者の恍惚と不安……（しんどいわ）

これまた大反響だったTKおかんインタビュー。ふたりをゲストに『紙プロ』イベントでもやるか！　さあ、次は誰のおかん邪？

写真撮影はなしということで、回を増すごとに過激になっていく新宿プロレスのストリップ！　次回の9・5新宿プロレス、井上さんはどこに？

中古車業G社の社長にアノ噂を直撃!!

前号の読者投票では長州対大仁田並の大爆発ぶりを見せ、堂々の1位となった仲野信市インタビュー。久しぶりに谷津親分の話が聞きたい。なっ！

（青森県／青木雄大／素人ポンチ絵師）各5点・計30点。ゴング金沢編集長対R・ババルという夢のカード。セコンドに長州監督が付けばPPVでもいけるじゃろ！　青木雄大よぉ、これからも投稿頼んだぜよ！

★ハガキ劇場★ オフィシャルランキング2000

順位	名前	点数
1位	青木雄大	209点
2位	塩本祐介	84点
3位	キャプテン名倉	76点
4位	中川雅博	75点
5位	たっつあん	60点
6位	ももち	55点
6位	アントニオ文朱	55点
8位	英加直純	52点
9位	宮崎文子	44点
10位	松原怜美	40点

以上のランキングをもって『ハガキ劇場』終焉邪！　だがな、邪道をおちょくる様なことがあれば俺は撤回してでも化けてでもでる。ブッチギリの1位に輝いた青木雄大さんには、とんでもないモノをプレゼントするんで期待して待て！

投稿&ハガキ 大募集！

『ハガキ劇場』では、皆様からの、ご意見、ご感想、イラスト、投稿写真、恋文などなど、読者からの熱烈投稿を待ってます。すべての宛先は…　〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702 (株)ダブルクロス『ハガキ劇場』係まで。合い言葉は「俺たちに夏はない！」です。

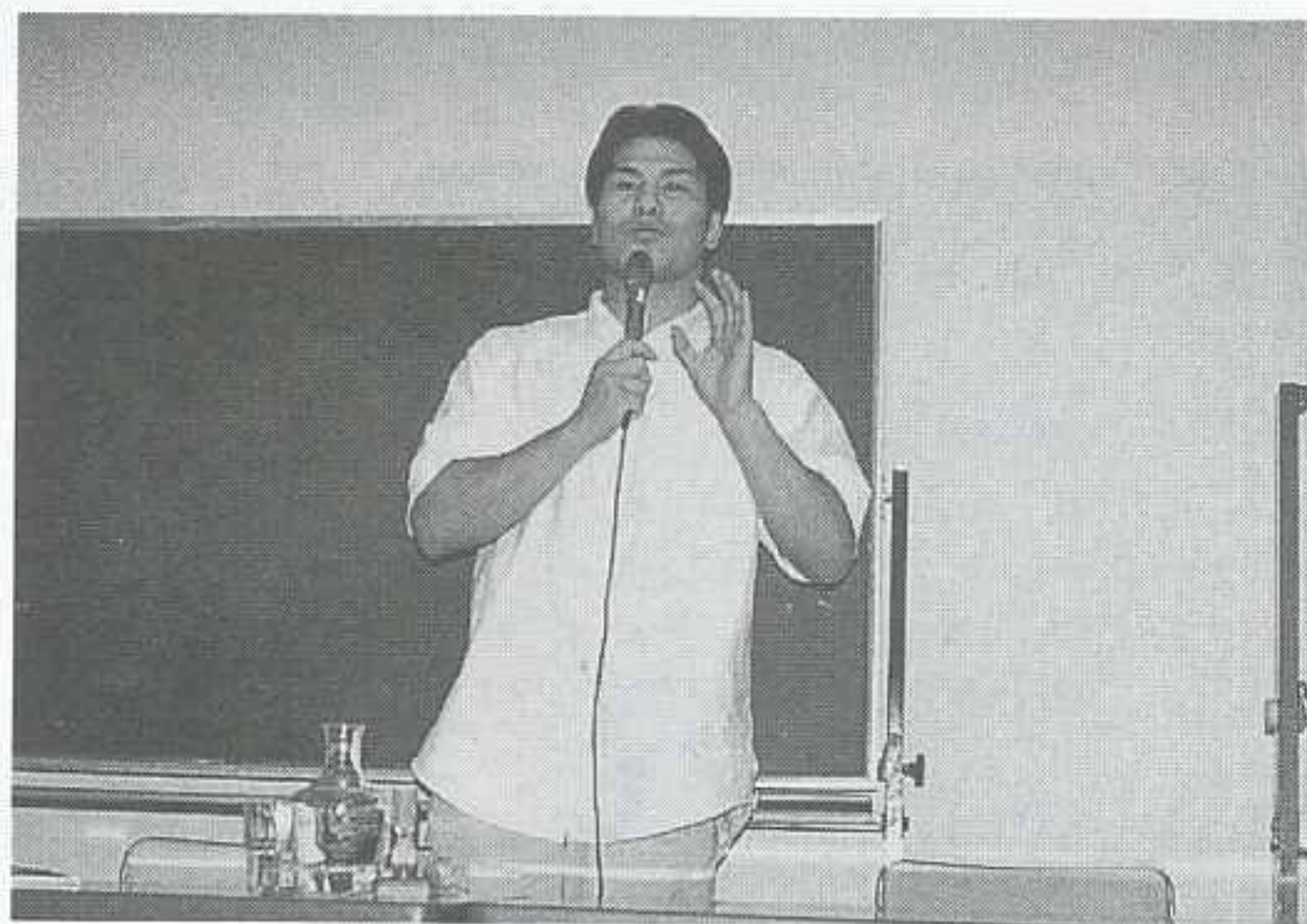
トーク・イベント名言集

格闘笑点

今月開催されたイベントは女性客が多かった！　これを機に、今までむさ苦しい野郎共の集まりをイメージしていた女の子達、どんどん集まれーッ！　めでたく復活した、青空プロレス道場の第2回、第3回目とむさ苦しい連中と共々、女性客の入場を待ちわびております。頼むゾーッ！

いや、ボクはホモじゃないですよ（笑）【by田村潔司】

7・22 ▶▶ 池袋コミュニティカレッジ

『青空プロレス道場』田村潔司

道場生に「KOKとUWF、どっちが好き？」と聞くと、KOK派が大多数を占めた。納得がいかない田村がUWFの魅力をレクチャーした後、再び同じ質問をするとUWF派が急増。人の気持ちなんてそんなものだ。

「いや、ボクはホモじゃないですよ（笑）」と、誰も疑っちゃいないのに話し始めたのが、この日の講師リングスの田村潔司先生である。

池袋コミュニティカレッジで『紙プロ』が主催している『青空プロレス道場』もすでに4シーズンを迎え、すっかり『紙プロ』読者には、お馴染みのイベントとなっていることだろう。しかし、相変わらず講座に来る受講生は男だらけという現実（約90％）。

そんな中、さすがは田村先生！　女性ファンの多いこと多いこと。とても『紙プロ』イベントとは思えない女性率だった。露出の激しい格好で明らかに田村先生を挑発している受講生もいたがノー問題！　ラスト2回となった講座にも、是非いらして下さい！

暑さにやられ、話は脱線してしまったが、今日の主役は田村先生である。第一声から「今日はギャラが安いからあんまりしゃべんないよ（笑）」と、金ちゃん並にボヤいたかと思えば「なんでボクがゲストなの？　全然旬じゃないし、いまだったら桜庭か三沢社長でしょ？」と、控え目な発言を連発していた田村先生だったが、時間が経つにつれ、次第にご機嫌モードになり、前田社長ネタ、山口日昇との経営者トーク、そしてU系噂話などを披露してくれた。

途中、自分の発言でウケ、笑いが止まらなくなったり、ファンからの質問に対して、いちいち「う〜ん」と考え込んでから答えるという独特の田村ムーブを見せ、さらに、インタビュー中に連発する、生「コラッ！」も飛び出すなど、集まった百名近くの道場生も大満足の180分（30分延長）となったのだった。

（チョロ）

「3カウントルールを知らなかった」【by村上一成】

7・28 ▶▶ 渋谷ロックウェスト

プロレスをおもしろがる会主催「村上一成トークライブ〜波瀾万丈〜」

イベントの途中で南部虎弾が乱入出演。なんとこの時の模様が本当にコロッセオでオンエア！　何も知らされていなかった山口は驚愕！　コロッセオの取材力は本当に凄すぎ！次回のトークイベントでもお待ちしてます。

新宿プロレスですっかりお馴染みとなった〃プロレスをおもしろがる会〃が今度は村上のトークイベントをプロデュース！

格闘系トークイベントにこそ似つかわしい、後ろ髪伸ばし系の伝統的プロレスファンから綺麗なお姉さん方まで、幅広い客層が集まってしまうのは、オーちゃんと熱唱した「夜もヒッパレ」、オーちゃんと海老チリを作った「チューボーですよ」等の一連の広報活動の成果なのか？　満員となったお客さんの中には〃何時何時〃（いつ何時という意味です）臨戦態勢の気合いの入った村上を想像してきた人もいたかも知れないが、村上は本誌前号のインタビューと同様、軽〜いタッチの発言に終始。試合の時とのギャップの激しさを見せてくれたのだった。

司会を務めた本誌編集長山口のやたらと執拗な長州復帰に関する話題にも「長州よりも中学時代の相撲部の監督の方が怖い」、飯塚の次に新日で嫌いな選手には「やっさん！（安田）」しかしその理由は「パンツ上げすぎでしょ！」とのお答え。さすがに「プロレスのことは何も知らない」プロレスラー村上だけあって「佐々木（健介）って誰？」、さらには何とも衝撃的な「3カウントのルールを知らなかった」発言！　だから福岡ドームでも負けてしまったらしいです。

この日、初お披露目された村上ニューTシャツは飛ぶように売れ、オークションでは愛用の道着が、激しい競合の末5万で落札されるも、本人から盗んできたオーちゃんTシャツを出品してしまったりと、最後まで軽〜いタッチの村上なのであった。

（水戸泉　仮）

ところで吉川君、刀好き?【by前田日明】

7・22 ▶▶ 恵比寿ガーデンルーム

コーセーアンニュアージュトーク

吉川晃司 vs 前田日明

　第2次UWF解散直後にステージ上で泥酔してジョニー大倉に絡んだり、石田えりとの熱愛騒動の最中、ステージ上で公開記者会見を開きファンの「前田コール」の中、ワイドショーでおなじみの石川レポーターに凄んでみせたりと、化粧品会社主催のオシャレなトークイベントという主旨を毎回逸脱しまくることでファンに好評な前田日明の「コーセー・アンニュアージュ・トーク」。

　今回のお相手は高田延彦ニュー・テーマ曲（2度目のヒクソン戦などでつかわれたものの今は絶賛封印中）の作曲者でもあるミュージシャンの吉川晃司。

　館内は大半が吉川ファンの女の子で埋め尽くされ、立ち見までギッシリの超満員。ほのかに漂う化粧品と香水の香り。男の汗の匂いばかりが充満する本誌主催イベントとはエライ違いである。

　そんな場所でもやっぱり前田は前田。ディス・イズ・マイ・スタイル!! とばかりに前田らしさを貫き通していたので、その一部をここで紹介したい。

　まずは、壇上に上がるなり本誌読者はご存じのお手製のウィスキー（58度やで!）で乾杯。そして話す内容といえば、もはやスタンダードナンバーと化している忘年会の●●話や、高田との酒話などお馴染みの●●話。もちろん相手の話なんか聞いちゃいないのは、前田ファンなら先刻承知であろう。

　そして挙げ句の果てには「ところで吉川君、刀好き?」と明らかに自分が日本刀の話をしたいだけのトスを上げる始末。

　やはり前田日明は朝起きてから夜寝るまで、前田日明だったのだ。

（ガンツ）

日明兄さんは、ハワイ大会でトム・サワーが着ていた「ユア・マイ・ビッチ」Tシャツで登場。ご覧のように吉川晃司と客席の女子を苦笑い地獄に叩き込んでいた。素敵です。

紙のプロレス RADICAL 主催イベント情報!

8・26&9・30「青空プロレス道場」大炸裂!!

8・26▶▶池袋コミュニティカレッジ
『PRIDE』前夜、ゲスト未定!!

9・30▶▶池袋コミュニティカレッジ
高田延彦電撃参戦大決定!!

現在は「PRIDE」での復帰戦に向けて調整中。このイベントの頃には復帰戦が決定していることも考えられるだけに、期待して待て!

　これまでに前田日明、桜庭和志、エンセン井上、田村潔司、さらにはユセフ・トルコまで驚愕のゲスト陣と共に、歩みを止めることなく開催してきた青空プロレス道場。9月30日、気がついたら今世紀最後となる青空プロレス道場のゲストに高田延彦が大決定！　高田がトークイベントに出演することは極めて稀なことなので、生の高田の声が聞ける数少ないチャンスを『紙プロ』が大提供！　今だからこそ話してくれるかもしれない、新日、UWF、キングダム、猪木、前田、サクのこと、他にも一杯ありすぎるいろんなことを高田の口から聞きたい奴は、青空プロレス道場へ集まれーッ！

　さらには、『PRIDE』の前日にも、勝手に前夜祭をしちゃいます。こちらのゲストは『PRIDE』とゆかりの深い大物X！　などと前号では告知してましたが、出演する大物Xって誰？　それって、もしかしてまだ未定ってこと？　大物Xが来てくれることを信じろ！　必ず来る！

■日程／全3回（1回目は終了）第2回8・26（土）、第3回9・30（土）
■講義時間 18:30～20:30
■受講料／【会員&一般とも3500円
■お申し込み&お問い合せ先／03・5992・0496　〒171-8569東京都豊島区南池袋1-28-1西武百科店池袋店イムルス館8階

その他の情報

まだ間に合う!　本日開催!

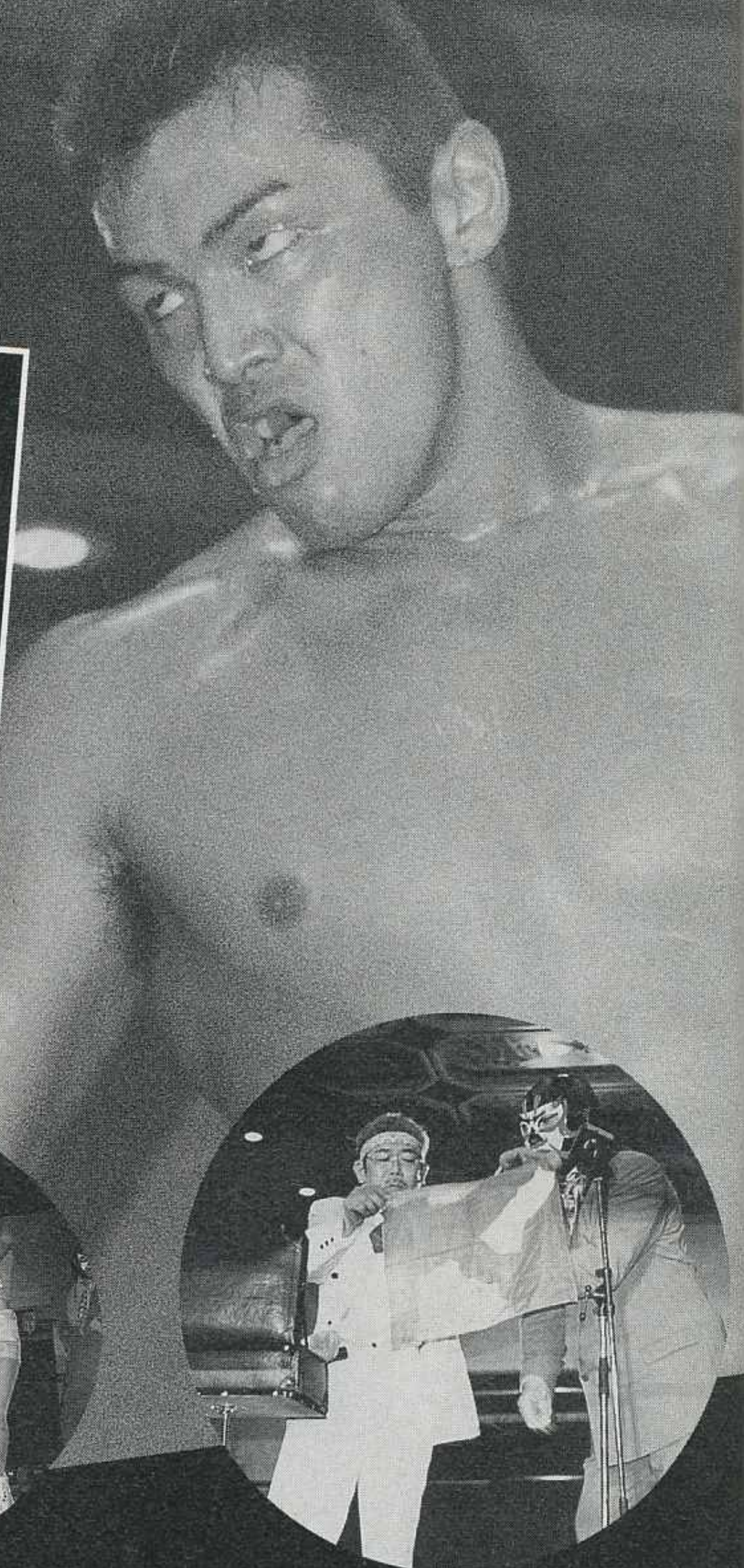
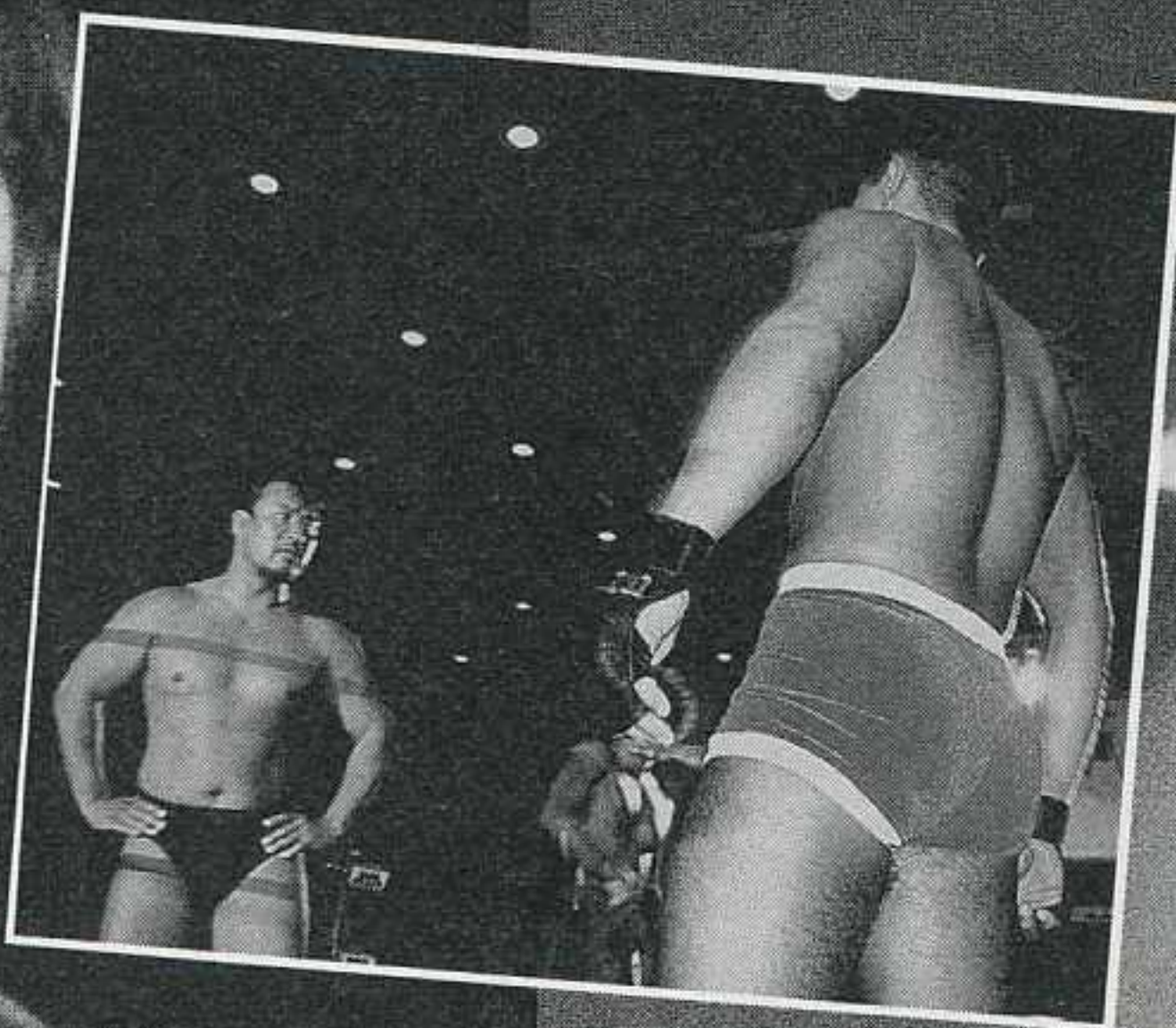
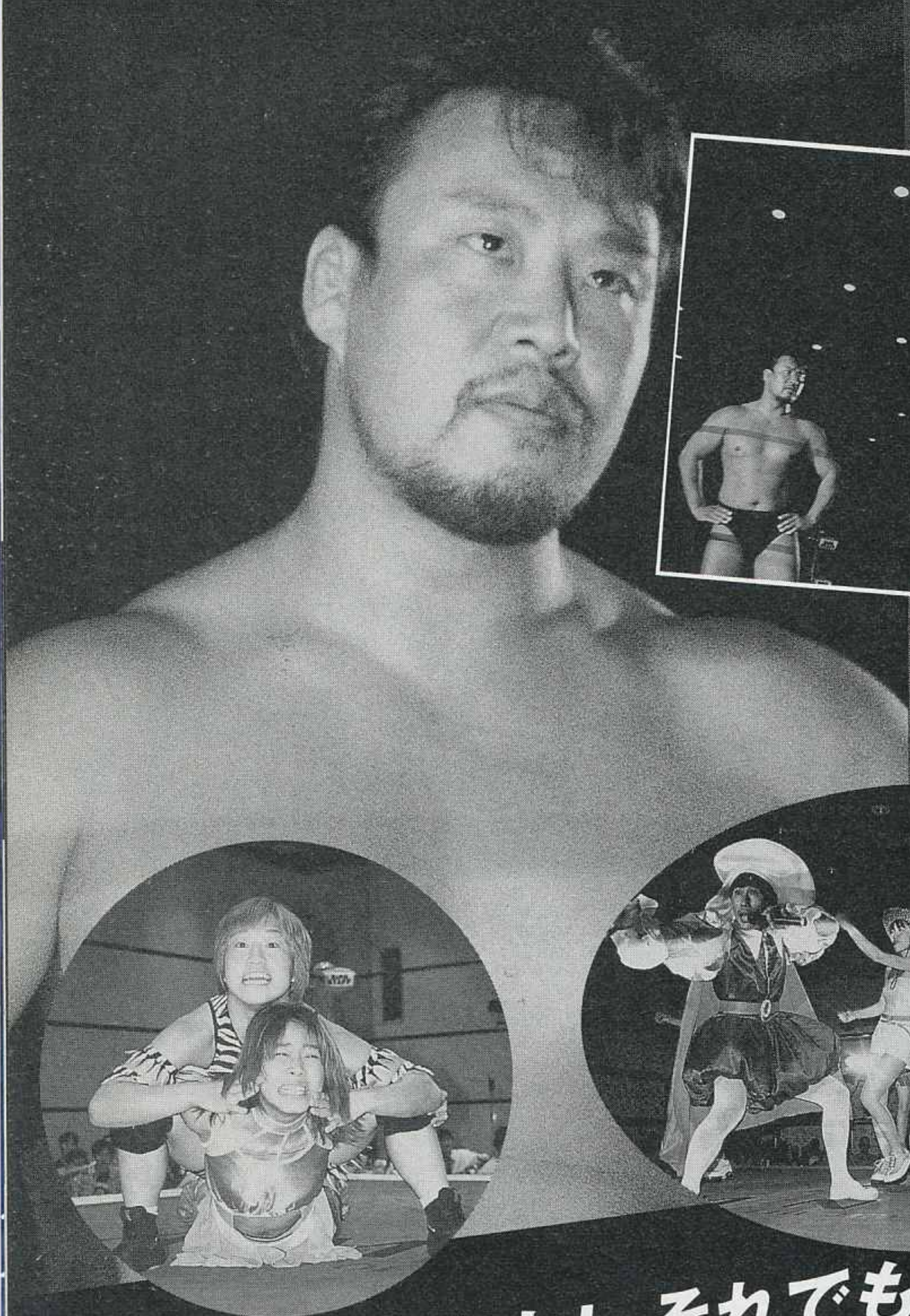
8月24日
島田裕二プロデュース「『PRIDE』とは何か?」
●ゲスト：谷川貞治、山口日昇●場所：渋谷ロックウエスト
●時間：19:00～　（入場無料）
【お問い合せ】03-5459-7988

【バトラーツ情報】

8月26日（土）
バトラーツ毎月恒例ちゃんこ会
午後5時　B—FLAT集合
午後6時　ちゃんこ会
ちゃんこ会終了後解散。宿泊希望の方は、1泊¥4800で宿泊可能。
翌日希望者は「B—CLUB」体験入門も可能
お問い合せ：バトラーツ0489-63-0005（担当／野口）

～パール鈴木と行くヘッドロックツアー～
8月26日（土）B—FLAT集合　ちゃんこ会
↓（B—FLAT宿泊）
27日（日）バトラーツ TOKYO FMホール大会観戦
プライド10　西武ドーム観戦
↓（B—FLAT宿泊）
28日（月）　FMW　後楽園ホール観戦
↓（B—FLAT宿泊）
29日（火）　バトラーツ　群馬・かまだ家特設リング観戦
※料金¥45000　（宿泊代込み）　※交通費は各自負担
※電話にて受付、入金後に繊細をお送りします。
お問い合せ：バトラーツ0489-63-0005（担当／野口）

9月8日
島田裕二プロデュース「『beginning』とは何か?」
●ゲスト：モハメド・ヨネ、日高郁人　●場所：渋谷ロックウエスト
●時間：19:00～　●料金：FC会員¥1000　一般¥1500
【お問い合せ】03-5459-7988

10月8日
邪道復活!
恵比寿みるくの『ILLEGAL』というイベントに噂の大仁田バンドが登場!　グレート・チョロもキャットファイトで友情出演!　気になる繊細は次号で報告!

公式記録なし！ それでも

村上は『新宿プロレス』に風穴を空けた!!

8・7東京大飯店。妖しくも元気な濃密空間「新宿プロレス」を、UFOの核弾頭・村上一成が突如襲撃した！
メインの「村上&田中稔vs石川雄規&モハメド・ヨネ」の一戦は、まさに「いつ何時でも、臨戦態勢！」。侮れないゾ、ジュクプロ！

大遊戯場・歌舞伎町に熱風!!
侮れないゾ、ジュクプロ!!

❶村上の「いつ何時、臨戦態勢」の闘いぶりに触発されたのか、ヨネと稔の絡みもヒート。気合いが入りまくっていた。❷村上と石川社長が対戦すると、2人の“闘魂の火種”は、いつ何時でも燃え上がる！「激しい闘い」という言葉が陳腐に聞こえるほどの闘いを繰り広げた。❸ミドルキック、払い腰、そしてマウントからのパンチしか繰り出さないのが村上のプロレスだが、「ブッ殺す！」という気迫は確実に伝わってくる。❹キャパ300人の東京大飯店でも、襲撃三昧の村上。この日、初めてプロレスを観たという観客のド肝を抜きまくった。❺テーブル席では、中華フルコースを食べながら観戦できる贅沢さだが、そのテーブル席まで突っ込んでいって、村上と石川社長は乱撃戦。

❶村上が待つところへ、ものすごい情念光線を発射しながら、石川雄規がリングイン。この後の激闘を予感させるには十分な瞬間だ。❷村上が相手になると必要以上にムキになり、ひとつひとつの攻防に情念を込めまくる石川社長。当然、テーブル席の客はメシなど悠長に食ってはいられない。日の出の勢いの村上が押されまくる場面もあった。❸試合後、石川社長は、満足げな笑みを見せる。が、この日の激闘がたたり左ヒザジン帯を負傷した社長は、8・11のバト蒲郡大会で、アーバン・ケンにプロ入り初勝利を与えてしまった。情念！❹メインのフィニッシュは、田中稔が一瞬の間隙を突いて、ヨネをミノルスペシャルⅠで斬って落とした。❺村上と石川社長の絡みは、いつ何時でも、バツグンに熱くて面白い！2人が次に対戦するのはいつか

CMLLジャパンからは、リギラvsフガスの一戦が提供された

遊びに来ていた泉田選手は、ノアの旗揚げ直後だけに、イベント終了後ファンに囲まれサイン攻めに。この時、山口日昇は

8・7のジュクプロは妖快プロレスだった!

8月7日、ボクは初めて「新宿プロレス」を観に行った。

電撃ネットワークの南部虎弾を代表とした「プロレスをおもしろがる会」というものがある。アラーキーが撮影した、11人のプロレスラーの写真集『格闘男』の出版が、その活動の第一弾だった。そして7・10に旗揚げされた「新宿プロレス」が活動第二弾になる。

旗揚げといっても、「新宿プロレス」は団体名ではなく、歌舞伎町のそばの東京大飯店で毎月行われる、プロレスと芸能が合体したイベントの名称だ。特別テーブル席では中華料理のフルコースを堪能しながら観戦できる。

歌あり、女性ダンサーの踊り（つまりストリップ）あり、マジックショーあり、コントあり、そしてイベントの最後をプロレスがシメるという、まさに何が飛び出すかわからない超絶ライブだ。

食い物、色気、笑い、闘い——と、まさに人間のすべての欲望を満たすためにプログラミングされたかのようなラインナップは、まさにアジアの夜店通りを彷彿とさせる、妙に妖しくて元気で濃密なゴッタ煮空間だ。

そんな中に、この20日後に『PRIDE』のリングで佐竹雅昭と激突することになるＵＦＯの核弾頭・村上一成が突如飛来した。メインで、ＩＷＧＰJr.タッグ王者・田中稔と組み、石川雄規＆モハメド・ヨネ組と対戦したのだ。

「どこでも面白いところなら上がる。キャパの大きさは関係ない。大きさで変わったらダメでしょう」と語っていた村上は、まさに「いつ、何時でも臨戦態勢」のキャッチフレーズを体現するファイトを披露。客席＆スタッフ＆大飯店の従業員のド肝を抜きまくった。

対戦相手の石川社長も、村上が相手だとその“闘魂の火種”が燃え上がる。この2人は、タッグマッチながら、昨年の11・9後楽園、今年の3・25札幌と、観たものの心のヒダを引っ掻くような闘いを展開した。そしてこの日も、ド突き合いに始まる凄絶ファイトを披露。

奥から観ていた島田裕二も「もう、これプロレスじゃないですよ～」と手を叩き大笑いしながら興奮している。人間、凄いものや凄いシーンを見ると、つい笑ってしまうものだ。リング上から、村上は鋭い光を、石川社長は鈍い光を放ち、両者はその存在を観客の脳味噌に突き刺しまくったのである。

この試合の興奮は、それまでの演し物とは見事なコントラストを描いた。まさに緊張と緩和。結局、このメインの激しさがプロレスとお笑いの両方を活かすこととなった。いや、実に面白かったです。行った人しか体感できないのがライブであることを再確認した。

そうだ！　ところで「新宿プロレス」は、「かつてプロレスは日本、アメリカ、イギリスでも大人の娯楽だった。大人のためのプロレスを復活させる」ということを理念に掲げているらしい。

大人で思い出したが、ボクは大会終了後、トンパチプロ社長で芸人のハチミツ二郎（『ＴＶブロス』参照）と間違えて、「二郎ちゃん、やたらとデカクなったねえ」と、観戦に来ていたノアの泉田純選手の脇腹の肉を掴んでしまった。「ワッ！」と驚いた泉田選手の顔を見て“しまった、間違えた！”と気がついたのだが、気恥ずかしさと申し訳なさから、「お疲れさまです。『紙プロ』編集長の山口です」という立派な挨拶ができず、ファンのフリをして「頑張ってください」と言ってしまった。まったく大人として失格である。

話がそれた。結論。この日の「新宿プロレス」は、妖しくも快い、『妖快プロレス』だった。見れなかった奴はザマアミロ！　ということである。シムフフフ。

文・山口日昇　ヘタクそな写真・堀江ガンツ

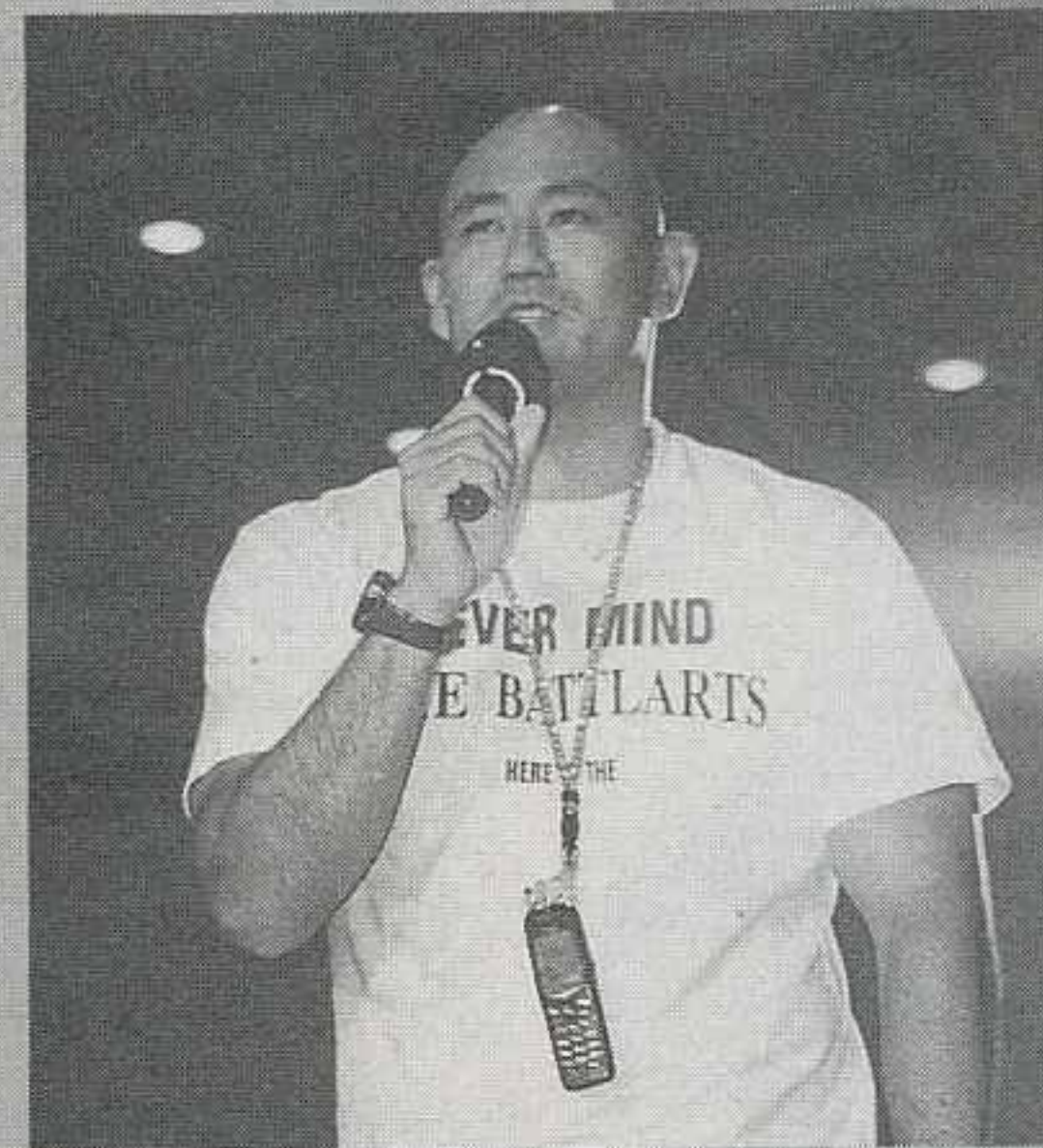
左から寺沢夏帆（20）、浅川乃乃（18）、中里優奈（19）の3人（“ちゃん”は略）は、初代ジュクプロ・イメージガール。これから、ジュクプロ発世界を狙う

神聖なるリングを清める「リング清掃」は、歌舞伎町のヘルス「椎名淫語」（バツグン！）の女の子がつとめた。これには、突如出没したつぼ原人も興味シンシン

サスケ社長も毎回ジュクプロに参加。「プロレスラーは芸人なんだよ」という名言を体現するかのように、「サスケ劇場」で芸を披露してくれる（試合はせず）

これが「リング清掃」をつとめた女の子が勤務するヘルス「椎名淫語」のチラシ。風俗系のネーミングパワーには、どんなコピーライターも勝てません

今回の「サスケ劇場」はマジックショー。他にも、先日ＣＤデビューを果たしたエスパー伊藤との絡み、イメージガールお披露めの司会も務めた（VIVA！）

全試合終了後、サスケ社長に呼び込まれたアレクは、次回のジュクプロ参戦を表明。戦線復帰したアレクが、この秋はスパートをかけまくる。んむはぁ

サスケ・ザ・グレート＆マスクド・タイガー２世vsＧ浜田＆藤田穣戦もヒート。レフェリーのパンチ田原に暴行を働いた、みちのくプロレス組が反則負け！

女子プロの面白さを伝えまくった中西百重vs納見佳容戦。百重の元気さと納見の華奢さが見事なコントラストを描き、プロレスを初めて見た観客も大喜び

ＣＭＬＬジャパンからは、リギラvsフガスの一戦が提供された

遊びに来ていた泉田選手は、ノアの旗揚げ直後だけに、イベント終了後ファンに囲まれサイン攻めに。この時、山口日昇は狼藉を働いたのだ（本文参照）

『新宿プロレス◎秘寳』

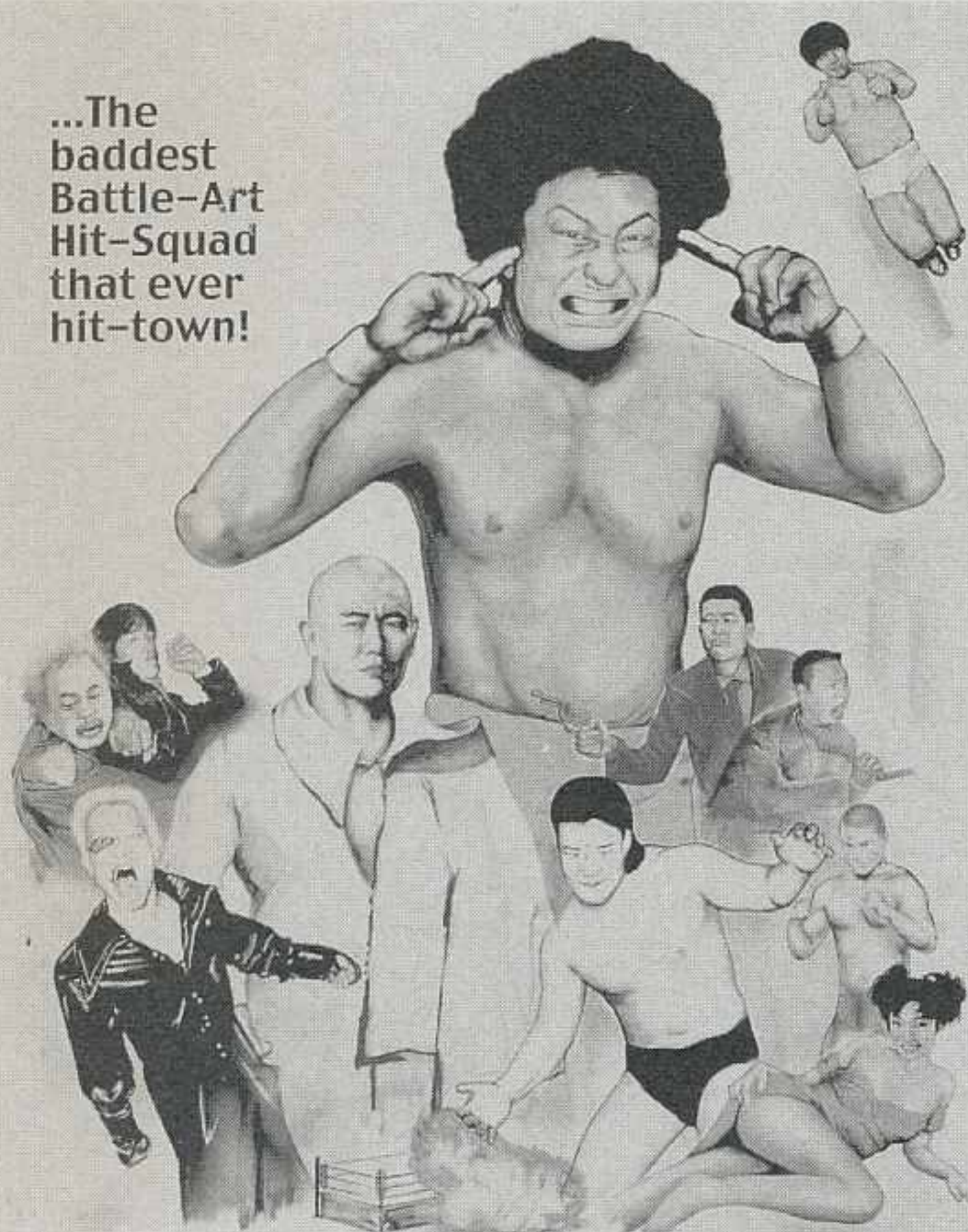
9・5（火）新宿・東京大飯店　開場18:00　開始19:00
立ち見3000円～特別テーブル席12000円（中華フルコース付）

9・5のジュクプロ第3弾には、アレクが本格参戦。
電撃ネットワークもいよいよ乗り込む!　試合カードは、
- ●アレクサンダー大塚＆田中稔組vsモハメド・ヨネ＆日高郁人
- ●藤田穰＆愚乱・浪花vsサスケ・ザ・グレート＆マスク・ド・タイガー
- ●C・ASARIvs遠藤沙矢
- ●リトル・フランキーvs角掛留造

ジュクプロは、この後、10月3日、11月7日と開催される。
[問い合わせ] ロックウエスト　03・5459・7988
ULR:http://www.rockwest.to/

11月、今年もビッグマッチをブッ放す……

バトラーツ情報局

…The baddest Battle-Art Hit-Squad that ever hit-town!

格闘探偵団
BATTLARTS

今年もやってきましたよ、プロレス夏祭りの季節が！　えっ!?　プロレス夏祭りといえば、新日本のG1クライマックスだって？　誰、そんなこと言ってるのは？　誰が何と言おうと、「日本のプロレス夏祭り」は『ヤンジェネ』で決まり！　今年は初参戦の選手も多く、初めて各ブロックの上位2名が出場する決勝トーナメントが行われるなど、例年よりは規模が大きくなっている。まあ、G1と比べると規模は遥かに小さいが、「熱さ」と「内容」は決して負けちゃいねえんです！　さらに、秋のビッグマッチに向けてますます勢いがついているゾ!!　その秋のビッグマッチにはイゴール・ボブチャンチン率いるレッドブル軍団が来襲するらしい……。詳細は次号にて!!

文・坂井ノブ

ヤンジェネ終盤戦で混戦を制するのはヨネだ!!

ヤンジェネ真っ盛りの8月のバトラーツ。こうして原稿を書いている現在（8月15日）、長井の決勝トーナメント進出がほぼ決定的となっている。残る枠はあと3つ。一体誰が準決勝に駒を進めるのか？これから、ヤンジェネ後半戦は益々混迷の度合いを色濃くしていくことだろう。三半規管の異常で欠場中だったアレクサンダー大塚も8月14日の京都大会から戦線復帰を果たし、石川社長は靭帯損傷のケガを負うなど、何が起こっても不思議じゃない波乱の起こりそうな雰囲気が充満している。そんな中で本誌が敢えて本命に推したいのがモハメド・ヨネだ。バトラーツでは確実にトップの一角に食い込みながらも、いまだ優勝経験のないヨネ。ここで実績を積んで、さらにレベル・アップするには絶好のチャンスだ。決勝トーナメントは9月7日、東京・後楽園ホール大会で開催されるので必見！ちなみに、その後楽園大会では平直行がインディーJr.王座の防衛戦を行うことも決定した。さらに、『PRIDE.10』で佐竹雅昭と一騎打ちを行った直後の村上一成が電撃参戦！ともにカードは未定ながら見逃せない試合がラインナップされている。「これ以上やったら死ぬだろ」（誰が？）と石川雄規もつぶやくほどの豪華なカードとなった。必見だ！

二度とやって来ない今年の夏の思い出に……

ヤングジェネレーション・バトル2000 終盤戦の日程！

8月27日（日）東京・TOKYO FMホール（13:00）
※同日の『PRIDE.10』は16:00開始なのでハシゴ観戦も可能です！

8月29日（火）群馬・邑楽町
かまだ家本店特設リング（18:00）

9月7日（木）東京・後楽園ホール
（19:00）<最終戦>
※ヤンジェネ2000　決勝トーナメント&優勝決定戦
※村上一成、電撃参戦！
※平直行がインディーJr.王座の防衛戦

日本列島を暴走戦士が駆け抜ける!!

2年前の両国国技館大会『蘇れ！ゴールデンタイム伝説』で、ホントに蘇ってしまった昭和プロレス史に燦然と輝く不滅の黄金タッグチーム――それがロード・ウォリアーズ。ボクらをチビッ子にトリップさせてくれるような当時のまんまの暴走ファイトで、マルコ・ファスから勝利を挙げたばかりのアレクからフォールを奪ってしまったのは多くのプロレスファンの記憶に焼きついていることだろう。そのウォリアーズが久々に日本を襲撃する。なんと、アレクもアレックス・ウォリアーとして夢のトリオを結成するらしいゾ!!　驚きと感動の嵐をキミも体験してみよう！

バトラーツ・プレゼンツ

『ロード・ウォリアーズJAPANツアー』

暴走戦士が荒れ狂う全日程

9月23日（祝・土）東京・ディファ有明（18:00）<開幕戦>
9月24日（日）静岡・アクトシティ浜松（16:00）
9月25日（月）三重・四日市オーストラリア記念館（18:30）
9月26日（火）兵庫・神戸サンボーホール（18:30）
9月27日（水）岡山・岡山卸しセンターオレンジホール（18:30）
9月28日（木）福岡・アクロス福岡（18:30）
9月30日（土）愛知・名古屋レインボーホール第3競技場（17:00）
10月1日（日）東京・後楽園ホール（12:00）<最終戦>

格闘男

荒木経惟
vs
11人のプロレスラー

天才アラーキーがプロレスラーとサシで勝負した！
格闘を職業とする男たちが、身体を張ってさらけ出した、
タイマン写真集!!

南部虎弾プロデュース

知性は肉体の中にある!!

「『男を張る』とか『身体を張る』とか
『張る』っていうことはさらけ出すことだから』
（アラーキー談）

格闘男

**天才・アラーキーが
11人のプロレスラーと
ひとりひとりサシで勝負した!!**

撮影 **荒木経惟**／プロデュース **南部虎弾**（電撃ネットワーク）

定価 **¥2500**（税込）**全国書店で絶賛発売中!!**

（書店にないと場合は、「ワニマガジン社発売の『格闘男』を注文します」とレジの前で大きな声で注文しましょう!!）

「男を張る」――そんな言葉がピッタリとハマる11人のプロレスラーたちが大勢登場しているこの写真集。桜庭和志、藤田和之、村上一成、アレクサンダー大塚らがこの写真集でしか見れない、“生身”をさらけ出した超貴重なカットが満載だ。コレを買わずに世紀末マット界を語ることなかれ！　全プロレスファン必見だ！

お問い合わせ■発売：プロレスをおもしろがる会　TEL.03-5459-9199
発行：（株）ワニマガジン社　TEL.03-3357-2911

強い男の強い本

「ナーシャ!!　読まないヤツがバカなんだ!!』
（石川雄規談）

情念

夢一途なり
石川雄規・著

**本誌で約2年半続いた
ドラマチックな自叙伝的
連載エッセイに
大幅加筆＋書き下ろし！**

定価 **¥1619＋税**　**全国書店で絶賛発売中!!**

（書店にないと場合は、「ワニマガジン社の『情念』をください」とレジの前で大きな声で注文しましょう!!）

バトラーツの代表取締役社長・石川雄規が、夢を追って追って追いまくった半生を振り返ったドラマチックな自伝が遂に完成！　創作劇場も満載だ。また、ゴーストライターも一切使っていない、正真正銘本人が執筆した、鮮烈なるプロレス界初の自伝である。

お問い合わせ■販売：（株）ワニマガジン社　TEL.03-3357-2911
発行：（株）ダブルクロス　TEL.03-3403-5188

情念
石川雄規

ユウキが一番！

アントニオ猪木

時空を越えて奇跡の顔合わせ実現!!

アイ・アム・プロレスラー
髙田延彦
（髙田道場）

アマレス界の『顔』
木口宣昭
（木口道場）

白覆面の魔王
ザ・デストロイヤー
（デストロイヤー軍団）

レスリングは連鎖する!!

プロレスファンのための第17回全国少年レスリング選手権大会リポート
～7月28日、29日　駒沢競技場～

「デストロイヤーが、デストロイヤー軍団を率いて来日」という情報が、7月下旬に『東スポ』に出ていた。「えっ？　まさか全日出場？」などと思っていたら、本誌23号で登場して頂いたアマレス界の重鎮である木口宣昭会長の招聘で少年レスリング選手権にやってくることが判明した。というわけで、会場に赴いたら、凄いことになっていた！　何と、開会式の壇上にスーツ姿のアマレス界のトップたちと並んでマスクを被った短パンのザ・デストロイヤーが座ってるじゃありませんか！　さらに木口会長を挟んで、その横には高田道場総裁・高田延彦の姿が！　客席に目を移せば、エンセン井上、松井大二郎、ビル・ロビンソン、山本美憂、五味隆典……よくもここまで集まったな、という凄いメンツ。おそるべし、少年レスリング界！　というわけで、さっそく潜入リポートです。

聞き手／坂井ノブ
interview by Sumo Nobu

撮影／片岡正行
photographs by Masayuki Kataoka

プロとアマがなくなりつつある現在……

ちびっこレスリング大会にカオス出現!!

次のページで、いきなり対談が緊急実現!!

昨年の少年レスリング大会にはリック・フレアーを招聘した木口さんが、今年はデストロイヤーを招聘！　そこに、UWFスネークピット・ジャパンからチビッ子を送り込んでいるのビル・ロビンソンがふらりと現れて実現した3ショット。嬉しそうに昔話を始めるお三方に、別室で話していただくことにした！　木口さんに通訳を急遽お願いしたが、短いながらも濃密な対談が実現したので、必読！

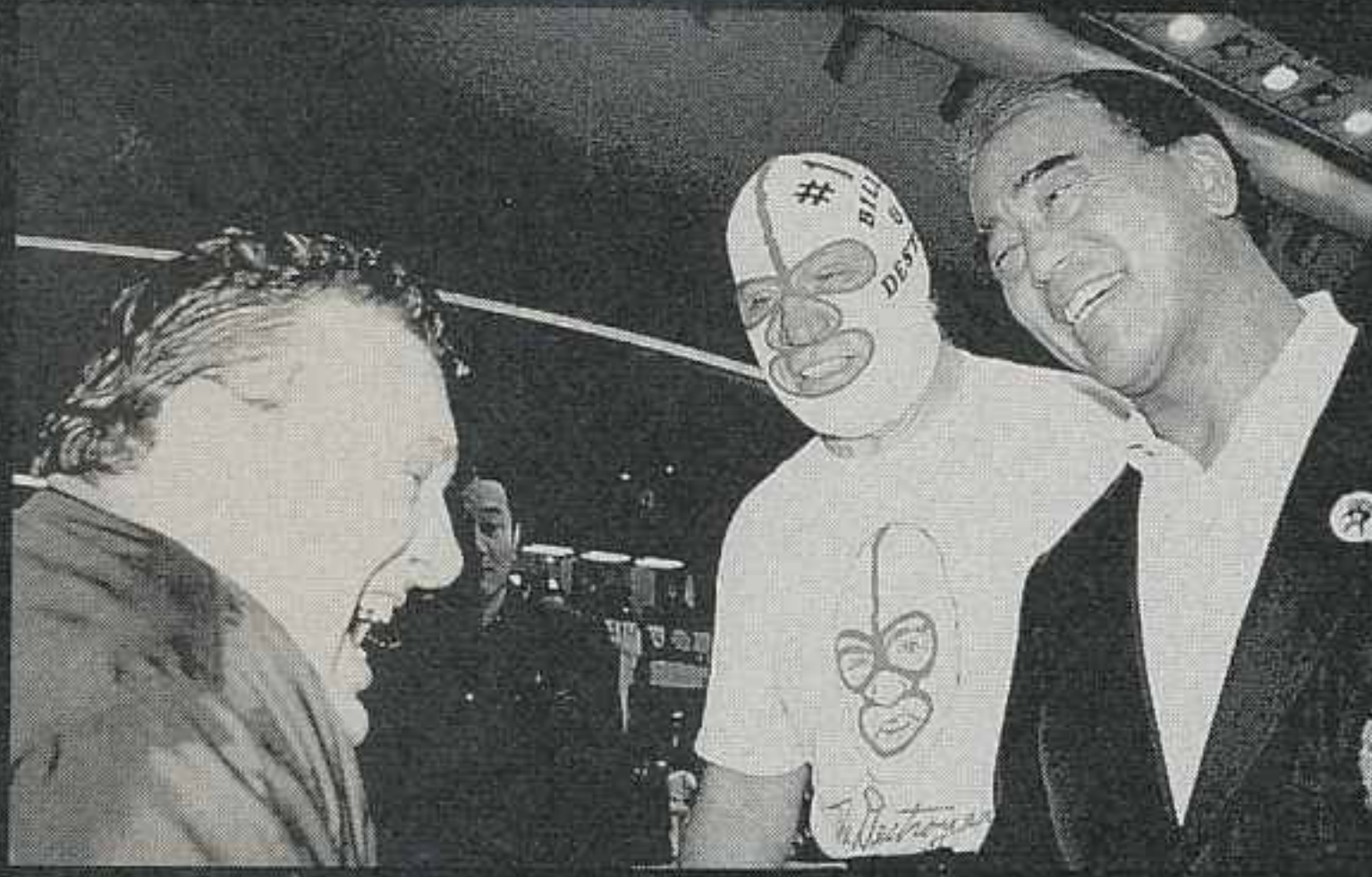
まずは左下の写真を見て頂きたい。なぜ、こんなにも凄いメンツが集うのか？と疑問に思う方もいるかもしれない。ゴチャゴチャなメンツながらも、あらゆるところから一つの目的のもとに集まる大物プロレスラー＆格闘家たち。プロとアマをキッチリと分け隔てていた境界線が消えつつある昨今だが、デストロイヤーとエンセンが同じ会場にいるなんて数年前には絶対に考えられなかったことである。

「プロが栄えれば、アマも栄える」という日本レスリング協会会長・八田一朗氏（故人）のお言葉は、つとに有名だが、今までそれが実現していたのかというと〝？〟だった。アマレス出身の優秀な人材がプロレスで活躍したからといって、アマレスが栄えたかというとそうではないのが実情。

だが、ここ最近の総合格闘技が注目を浴びる中で、アマレスの有効性が注目されてきたことによって、ようやくいい形でプロとアマがいい形でリンクするようになってきた。それが、この『少年レスリング大会』の会場で確認することが出来たというわけだ。

いつの間にか、デストロイヤー軍団vs高田道場といったプロでの文脈をすっ飛ばした、夢にも見なかったようなカードが実現する時代がやってきていたのだ。日本のプロレス創生期を支えてお茶の間を恐怖のどん底に叩き落としたデストロイヤーや、プロレスを一身に背負ってバーリ・トゥードに挑んでいった高田延彦が、ひとつになって新しい時代の扉を開こうとしていることに感動を禁じ得ない。この大会に出場したチビッコの中から将来のマット界を背負う、「未来の桜庭和志」のような人材が輩

❶デストロイヤーは、会場の片隅でせっせとマスク＆Tシャツの即売会を始める。売上の一部は、五輪のレスリング代表に寄付される。❷高田道場のキッズファイターも出場。❸高田延彦は、会場のチビッ子たちのサイン＆記念撮影攻めに。❹コーチが座る席で、戦況見守る高田総裁❺開会式では挨拶も務めた❻子供たちと一緒に前日まで合宿に行っていた松井大二郎もエキサイトしながらキッズ・ファイターを応援する❼スーツの中にマスクマン……う～ん、シュールな1枚❽エンセン井上も観戦していた。山本美憂も教え子が出場していた❾試合を終えたキッズを優しく笑顔でねぎらう高田。他じゃ見られない貴重なスマイルだ。

アマとプロの枠を越えて、この男たちはいつしかライバルになっていた!!

ザ・デストロイヤー×ビル・ロビンソン×木口宣昭

聞き手／坂井ノブ
通訳／木口宣昭先生

夢のアマレス対談が急きょ実現!!

昔の優秀なプロレスラーは、みんなアマレス出身だったんだ（ロビンソン）

昭和のプロレス史を創ってきた2人のプロレスラー、デストロイヤーとビル・ロビンソン。そして、日本のアマレス界から優秀な人材を輩出し続ける木口宣昭氏。こんなもの凄い顔合わせが、約30分という極端に短い時間（しかも通訳があるから実質15分）ながらも奇跡的にも実現した。「じゃあ！」というわけで、緊急対談、敢行ーッ！　もちろん、話題は「レスリング」です！

——いや〜、凄い顔合わせですね。アマレスの大会に、こんな豪華なゲスト陣が来るとは夢にも思いませんでしたよ。え〜、まずロビンソンさんと木口さんの接点はいつ頃からなんですか？

木口　20年以上前に、当時のレスリング協会会長だった八田（一朗）さんの紹介で会ったんです。

ロビンソン　68年に国際プロレスに初来日したから、その頃だ。

——デストロイヤーさんとは、どういうキッカケで知り合ったんですか？

デストロイヤー　「デストロイヤートアソボウ」！

木口　読売ランドで行われた「デストロイヤーと遊ぼう」というイベントに協力の要請があったんで、木口道場から子供たちを派遣したんですよ。

——それにしても、この人脈は木口さん以外には考えられませんね（笑）。

デストロイヤー　誰も知らないエピソードを話そうか。

——おお、お願いします！

デストロイヤー　オレは72年から世界ツアーにスタートした。ハワイに行ったときにイギリスから来た男に出会った。その男が、ビル・ロビンソンだ！　そのとき、ビルに「手助けをしてくれる人を誰か教えて欲しい」と言った。そのとき、ビルがドイツやイギリスのプロモーターを紹介してくれたおかげで、オレは世界中で試合が出来るようになったんだ。そしたら、ビリーから「今度、アメリカで試合をしたいんだけど」という話が来た。だから、オレはお礼にミネアポリスのバーン・ガニアに電話したんだ。そしたら、ガニアがハワイまで実際に飛んで来たんだよ。それで、ビリーはAWAで試合が出来るようになったんだ。これがオレたちが知り合ったキッカケさ。

ロビンソン　（大きく頷く）

デストロイヤー　サンジュウネンマエ！　もう30年間の付き合いだ。まだキミが生まれる前の話だよ。いつ生まれたんだい？

——77年生まれです。

デストロイヤー　オウ！　まだ、お前のオヤジのタマタマの中で精子にもなってねえ頃の話だ！　ワッハッハッ！

——アハハハ、もの凄い下ネタだ！

デストロイヤー　ビルは、プロの世界の中でも、最高のアマチュアのキャリアを持ったレスラーだ。イギリスの、タフな名門校の出身だよな？

ロビンソン　イエス！　カール・ゴッチもいたところだ。

デストロイヤー　そこでは蛇の生き血を飲んでたんだ。力道山も蛇の生き血をすすってたろ？　あれだよ。

——そんなことしてたんですか？　そのジムって、スネーク・ピットですね。

ロビンソン　イヤー！

——そういったプロの世界とは違いますが、子供たちがアマチュア・レスリングをすることについては、どう思いますか？

デストロイヤー　いいか？　プロでもアマでも優秀なレスラーっていうのは、小さな頃からレスリングを始めているんだ。ビリーもオレもレスリングが大好きさ。だから、オレは、こういう小さい子供たちがレスリングを続けていくことを手助けしたい。子供たちのレスリングは楽しいから大好きさ。

ロビンソン　オレも同じ気持ちだ。身体さえ丈夫だったら、アマレスをやりたいぐらいだ。レスリングというものは、純粋な技術の攻防だからね。子供たちだけじゃなく、大人のレスラーにも教えたいけどな。

——2人の教えた生徒が闘ったりしたら面白いですけどね。

デストロイヤー　イヤー！　ウチは6歳の生徒で24キロ級に出場する選手がいるんだが、こいつは強いよ！（以下、延々とデストロイヤー軍団の選手が、いかに活躍したかを10分間に渡って大演説。高校で州王者になった選手もいる）キグチサンも、いいコーチだ。彼のもとで育った選手もオリンピックに出ているんだ。

木口　ウチの道場からも、グレコローマンの58キロ級で笹本という選手がシドニー五輪に出場するんです。バルセロナ、アトランタと3回連続で選手を出してます。私も彼と同じで、自分のところで育った選手が活躍していくのを見ると胸が熱くなるんですよ。

——プロレスとアマレスで活躍した場は違いましたけど、今では完全にライバルですね。

デストロイヤー　オレはいま高校でレスリングのコーチをしてるんだ。

——最近のプロレス界には、アマレスの優秀な人材が少なくなってきてますよね。

デストロイヤー　そんなことないぜ！　最近、WWFのチャンピオンになったヤツもいるだろう？（＝カート・アングルのこと）。

ロビンソン　スタイナー兄弟がいるぞ。

デストロイヤー　そうそう。彼らもだ。彼らは2人ともオリンピック・チームにいたし。マイク・ロトンドもすごくいいな。あとは…… …スティーブ・ウィリアムス。いっぱいいるだろ？

——そうですね。

ロビンソン　バーン・ガニア。ジョー・スカ・ペロ。あとはジャック・ブリスコ！

木口　おお、私もブリスコに会ったことがあるよ。大学レスリングで活躍してたよね。

デストロイヤー　マッドドッグ・パションを忘れてるぜ！

ロビンソン　ああ、彼はモントリオールで最もタフな男だ。

デストロイヤー　ヤツは1分以内で、相手の目をくり抜いてしまうような男だったな。

ロビンソン　オレがプロレスラーとしてのキャリアをスタートした頃、ヨーロッパでは優秀なアマチュア・レスラーでなければ、プロになれなかったもんだ。

デストロイヤー　俺たちの時代だと……。2人で　ダニー・ホッジ！

デストロイヤー　イヤー！　彼はオリンピック・レスラーだったしね。

——このままだと何人でも出てきそうなんで、ここで話題を変えます（笑）。こうやって、来日したときに、木口さんとデストロイヤーさんはスパーリングしたりしないんですか？

デストロイヤー　木口さんとも、ビリーともスパーリングはしないよ。なぜか、わかるか？　オレは自分の限界を知っているんだよ（笑）。オレもグッド・アマチュアレスラーだったけど。

ロビンソン　昔のプロレスラーは、みんなアマレス出身だったんだよ。みんな技術を忘れ、いまではパフォーマンスに走っている。（以下、延々とアマレスとプロレスと現在のバーリ・トゥードについての演説が続く）

デストロイヤー　話が止まらなくなっちゃうだろ？　レスラーが集まるとこうなっちゃうんだよ、ガッハッハッ！

——そ、そうですね（苦笑）

デストロイヤー　オレは8月にまた日本に来る。アザブ・ジューバン祭りだ。8月18日～20日、Tシャツとマスクを売るんだ。マスクが3000円で売れたら、そのうち1000円を日本のオリンピック・チームに寄付するんだ……ジャンボ鶴田メモリアル・オリンピックチームのためにね。タニ電気でサイン会をやるから、来てくれよな。

——今度はじっくり話を聞かせてください。

デストロイヤー　おい！　この告知を載せなければ、オレがエアプレーン・スピンをかけて、ビルがダブルアーム・スープレックスをお見舞いしてやるからな！　わかったな!?　ガッハッハッハッハッ！

——え〜っ、でも、この本は8月24日発売なんですけれど……。

デストロイヤー　ガクッ！

※というわけで、アマレス昔話に花が咲きまくりましたが、しっかり全日本プロレスの分裂についてのコメントも取ってきました。P139に掲載してるので、そちらも要チェック！

また8月、日本にやってくる!! Tシャツとマスクを売るんだ（デストロイヤー）

PRO-WRESTLING NOAH

秋山準に怒りの火種!!

プロレスリング・ノア、出航ーッ!!

その矛先はどこへ

わずか2分で
三沢を絞め落とす!!

構成／坂井ノブ
text by Nobu Sakai

ブッ壊した後には、新しいモノを創るしかない!!

従来の全日本プロレスから脱出！　秋山が点火した「怒りの火種」でノア全体が大炎上!!

秋山は「怒りの火種」を抱えながら試合をしていた。

怒りの矛先はどこに向けられたのか？　それはノアの選手たちを縛り続けてきた古い価値観だ。

「みんな、2・9プロレスだけがいいと思ってるわけじゃない」

秋山が前号で発言した言葉である。

「ボクはいろんな試合があっていいと思うんですよ」

その言葉通り、秋山は自ら新しいプロレスの扉をこじ開けた。

8月5日&6日、ディファ有明で新団体プロレスリング・ノアは旗揚げした。そこには、全日本プロレスとはまったく趣が違う団体が出現した。

「演出などを今風にしていきたい」という三沢の念願もかない、花道もスクリーンも入場テーマ曲もかなり凝ったものになっていた。ちなみに駐車場に置いてあった永源遥営業部長のリムジンも演出のひとつなのだろうか？　あれも非常にかっこよかった。

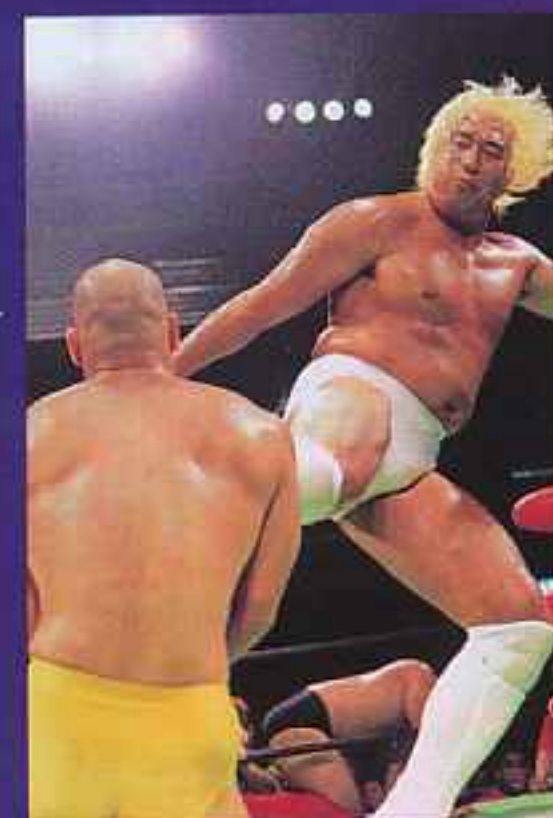
さて、肝心の試合はというと、「気迫」を通り越して「殺気」までも感じるほどに激しい闘いとなった。まるで秋山の「怒りの火種」が、ノア全体に飛び火しているようだった。

初日に最も「殺気」を感じさせたのは垣原だった。ノアのスローガンである「自由」そして「信念」に基づいて、オープンフィンガー・グローブ着用で現れた垣原は大森隆男の顔面にボコボコとパンチを叩き込む！　あまりに変わりすぎた垣原に対して、「オレに任せろ」とばかりにリング上になだれ込んで重すぎるヒザ蹴りや掌底をブチ込んでいった高山にも、おそろしいまでの「殺気」が溢れていた。

高山は、今後のノアの方向性を決める上で重要な位置にいる。ノーフィアーが得意とするアメリカン・プロレス的なアピールと高山が持つ格闘技的要素がブレンドされたものが、ノアの未来形なのかもしれない。高山を高く評価している秋山も、すさまじい「殺気」を醸し出していた。3本勝負を独自の解釈で、1本目を格闘技的に決着を付けてしまう強引さに、モチベーションの高さを感じることができる。まさに「オレ色に染める！」という宣言の通りになった。

次のページから始まるインタビューで秋山は「1本目を格闘技的に、2本目を全日本的に3本目をアメリカンプロレス的にしたかった」と語っている。これはあくまでも推測の域を出ないが、あのジャンボ鶴田のプロレス改革論に根ざしているのではないだろうか？　先日、他界した不世出の天才・ジャンボ鶴田は『第二のゴング』（朝日ソノラマ刊）という本の中で、プロレスが再び浮上するための改革を提案している。

旗揚げ戦の絶対注目ポイント総CHECK!!

カッキー、いきなり大暴走!! そしてノアを"円満退団"へ

問題の試合となったのは8・5のセミファイナル。意表を突きまくった金髪&白パンツでジョニー・エースと見間違いそうな大森隆男&高山善廣&浅子覚<ノーフィアー>vs小川良成&池田大輔&垣原賢人<アンタッチャブル>の6人タッグマッチ。いきなりカッキーは大森の顔面にパンチを叩き込み、エグい蹴りをのめり込ませる。慌てて飛び込んだ高山はド迫力の打撃でカッキーに対抗。さながらキングダムのような、すさまじい打撃戦となった。だが、カッキーはその後もチームプレーに協力しなかったり、相手の技もほとんど受けなかったりと、明らかに浮いている。味方との連携もギクシャクし始め、試合後は冷静な小川がキレる。「ノーフィアーは口だけ。オレはトップを目指す」と不機嫌に語ったカッキー。8・6は体調不良を理由に欠場したが、その後三沢社長と話し合い、退団を決意した。もう少しだけ抑えれば、抜群に面白い素材だったのだが……惜しい！

火炎柱が登場!! 紙テープはなくなる!?

会場内でも、レーザー光線や花火やスモークなどありとあらゆる演出で観客を魅了した。おそらく、WWFのケインの入場の際に使われているような火柱にプラスして、紙テープが噴出する新しいモノ。ちなみに、試合前のコール時に投げ込まれていた紙テープは、演出上の都合により禁止となったようだ。たしかに、引火したら危ないからね。

コスチューム一新!! テーマ曲もCHECKせよ!!

各選手ともコスチュームを変えて登場したが度肝を抜いたのは大ちゃんのベルセルク風。3メートルの剣を担いでド迫力の入場だ。テーマ曲も小川がパブリック・エナミー、金丸がプロディジー、雅央がオフ・スプリングなどいい感じに変わっていた。

格闘スタイルだけじゃない アメプロスタイルも絶好調!!

カッキーやノーフィアーだけでなく、井上雅央&金丸義信のWEWタッグ王者の2人も、客を煽りながら抜群に面白い試合を繰り広げた。雅央は、レフェリー・マイティ井上の高速カウントに怒ったり、いきなり控室に帰ろうとしたりとかなりいい味出しまくり。ヒール系キャラに生まれ変わりそうな感じだ。金丸も自由度アップで伸び伸びファイトしている。丸藤はNEWコスチュームで登場し、ますます女子人気が上昇。試合も自身に溢れ、頼もしくなっていた!!

モニター前に1500人大集合 気前のよさも破壊的!!

約1000万円を投資して、旗揚げ戦のチケットが入手できなかった人のためにモニターを設置して無料観戦が出来るというファンには嬉しい企画。100枚の当日券も前夜22時に完売するフィーバーぶりだった。約1500人が、モニターの前で釘付けになった。しかも、これはただのモニターではなく、選手の入場にあわせてモニターの横からもスモークが吹き出すなど、凝りまくった演出が施されていた。観客も大喜びだった!!

格闘 SOUL FIRE

「プロレスの一日の試合を三部構成にする。第一部は古代レスリングの型を儀式的に披露する。第二部は、楽しさを全面に出したエンターテイメント・レスリング。そして最後に本格的な格闘技の試合を持ってくる」（原文ママ）

ある意味、この考え方をベースに1試合に異なる3つの要素を詰め込んだのが、初日のメインイベントだったとは言えないだろうか？　しかも、特に鶴田をリスペクトする秋山の手によって実現してしまったのだ。これはじつに感慨深い。

とにかく秋山は「従来の全日本プロレスのイメージから脱却する」という強い使命を背負って試合に臨んでいた。それは2日目のvs小橋建太戦の試合後につっかかってきた力皇との絡みにも強く感じられた。ひとつの決着が次の勝負のスタートとなる。「怒りの火種」が飛び火し続ける限りは、闘いが途絶えることはないのだろう。こうして、プロレスの持つ物語的側面も強化されていた。

丸藤や金丸や井上雅央といった選手たちも、全日本プロレス時代よりも伸び伸びとアピールして客を煽りまくっていた。2日目のセミ・ファイナルに登場した三沢は、やられているのになぜか大ちゃんの「イナズマッ！」に参加。これからはアメプロ的なアピール面も洗練されていくことだろう。

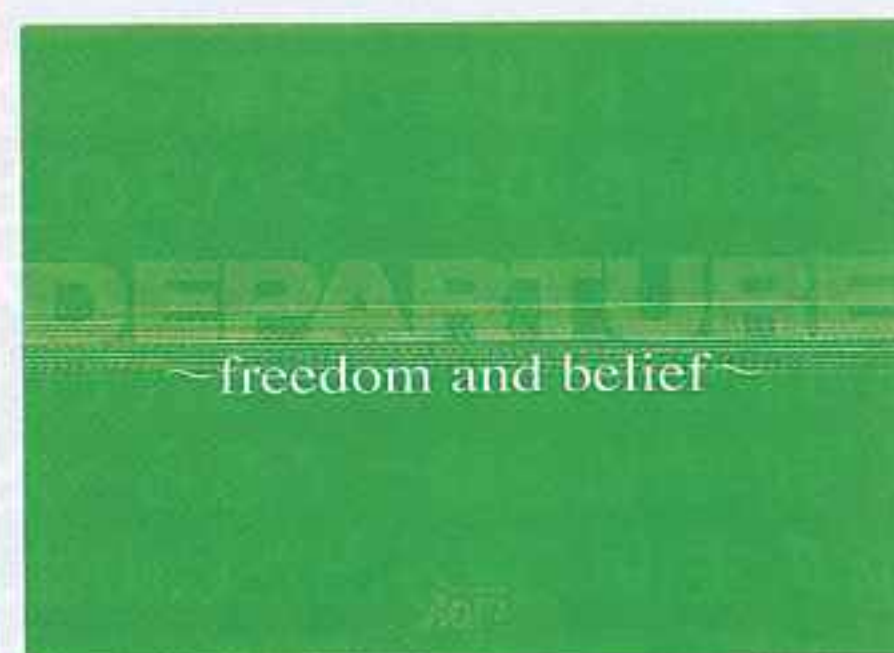
「とにかく目の前にあるものをブッ壊すこと。そしたら新しいものを創るしかない」

元『週刊ファイト』編集長・井上義啓氏は世紀末マット界を「裏原宿プロレス」と名付け、そう定義した。この日の会場は裏原宿ではなく有明だったわけだが、ノアは古い考え方や従来の全日本プロレスのイメージを見事にブッ壊すことに成功し、最高の形で船出をした。秋山が抱いた「怒りの種火」はノア全体に燃え広がったようだ。

『PRIDE』を始めとする「新プロレス」に対して、全日本&新日本の『純プロレス』、FMWやDDTの『エンターテイメント・プロレス』、みちのくや闘龍門のような『ルチャ・リブレ』。旗揚げと同時にノアには、ありとあらゆる要素が流れ込んできた。

そんな状況で、秋山は「2・9プロレス」にくさびを打って、格闘技の要素をブチ込んできた。『PRIDE』など、いわゆる「新プロレス」ファンの目も奪った秋山の改革は、どのような形で展開していくのだろうか？　森下DSE社長も、三沢に積極的ラブコールを送っているいま、ノアを取り巻く世界が急激に動き始めている。秋山の改革はまだ始まったばかりだが、想像以上に大きな波紋を呼んでいる。ズバリ言って大成功と言っていい旗揚げ戦だった。

（坂井ノブ）

パンフレットも今風に!!

紙質、デザイン、レイアウトなどかなり斬新なノア旗揚げパンフ（¥1500）。会場でゲットしよう!!

DEPARTURE
~freedom and belief~

中身のデザインもマジでカッコいい！　特に雅央の棒曲げ写真はレトロ+フューチャー感覚でかなりヤバい!!　他の選手も凄いゾ!!

秋山準

ノアの舵を取る新エース

PRO-WRESTLING NOAH

ボクの根本に流れているのは馬場さんですよ。だけど、
いまの時代には
〝猪木的なもの〟が
必要なのかもしれませんね

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／松本崇
photographs by Takashi Matsumoto

衝撃が津波のように押し寄せた 旗揚げ戦を斬りまくる!!

新団体の旗揚げ戦を連日のメイン・イベント出場で見事に締めくくったのは秋山準！　秋山が、ノアの緑色のキャンパスの上に描いた新しいプロレスには、格闘技のエッセンスも、アメプロのエッセンスも、ありとあらゆる可能性が散りばめられていたのだった。というわけで、本誌前号の表紙を飾ってもらった秋山が2号連続で登場である。新団体の主役に躍り出た秋山は、ノアを「オレ色に染める！」と高らかに宣言した。では、秋山の考えているオレ色とは、一体どんな色なのだろうか？　すると、秋山の口からは衝撃的な発言が次々と飛び出してきたのだった！

（8・5のメインの3本勝負は）1本目は格闘技的なもの、2本目でいままでの全日本的なもの、3本目ではアメプロ的なものを見せたかった

——まず、旗揚げ戦を終えてみた感触はいかがですか？

秋山　ある程度、自分が思い描いてきたようなことができましたし、試合前から俺が主役になるんだってことをイメージしてましたから、いい形でできたと思います。

——メインが3本勝負というのは意外でしたよね。三沢さんは試合前に「1本目は絶対取る」と言ってましたが、いざ始まってみたら、エラく早い展開になりました。

秋山　こんな時代に3本勝負なんてやって、昔みたいに腕の取り合いだけで30分も試合をするなんてことは出来ないし、全体的にスピードが要求されてると思いますからね。で、とりあえず、1本目は格闘技的なものを見せる試合、2本目はいままでの全日本的な試合、3本目は少しアメプロ的な試合っていう流れでいきかったんですけどね。

——あっ、そうだったんですか？　それは新しい3本勝負ですね！　是非とも3本目のアメプロ的な試合も見てみたかったなぁ。

秋山　でも、まあ入退場時のアピールなんかはアメプロ的なものなんで、だいたいできたかなって思ってます。

——初日のメインには確かにいろいろな可能性がありましたよね。最初に当たった三沢さんと秋山さんがバックの取り合いを繰り広げていましたけど、秋山さんの意気込みを感じました。

秋山　まあ、日頃から「グラウンドが大事だ」「アマレスを取り入れろ」って言ってる人間がね、まったく何もしなかったら、下のヤツに「示し」がつかないですから（笑）。

——なるほど（笑）。

秋山　相手が三沢さんだったたっていうのもありましたよ。ある程度アマレスの動きができる人じゃないとやりがいがないですからね。

——で、1本目のフィニッシュが2分そこそこだったんですけど。最短距離で勝負を決めたって感じでしたね。

秋山　試合は長くやりゃあいいってもんじゃないでしょ（キッパリ）。大事なのは、どれだけインパクトを与えるかだから。何もインパクトを与えないで、ただ単に短いだけだったら、お客さんだって「なんだよ！」って思うかもしれないけど。

——あのフロントネックロックは最初から秘密兵器として、これで落とすって感じで狙ってたんですか？

秋山　格闘技の人たちは使ってる技ですけどね。普通のスリーパーだと、腕が首に入ってるのを見られたら止められちゃいますけど、あれだとレフェリーの死角だから見えないんですよ。

——三沢さんは「ギブアップのギも言ってない」って言ってましたけど。

秋山　まあでも、身体が動いてなかったですからね。それに、勝つ要素は十分にありましたから。もう役員の方が会社のことで忙しい間に、ボクは黙々と練習してたわけですから（笑）。

(上) 8・5のメインイベント、三沢＆田上vs小橋＆秋山は、じつに衝撃的な幕開けとなった。ともにアマレス経験者である三沢と秋山はセオリー通りには組み合わず、アマレスのようにバックを取りあう格闘スタイルから幕を開けた。そして、まず秋山がバックを制した。（下）小橋のスリーパー・スープレックス、秋山のDDTと痛烈に頭を打ち付けた三沢は秋山のフロント・ネックロックで完全に失神！　場内には、大きなどよめきが沸き起こった。

——アハハハ！　でも、あの時の観客のどよめきは凄かったですよね。

秋山　お客さんの頭の中には、やっぱり昔の60分3本勝負のイメージがあったと思うんですよね。1本ずつ取りあって、最後は引き分けるみたいな。いままでの四天王のプロレスだと、壮絶な試合をやって、最後にどっちが勝つんだろう？っていう展開のイメージがあるから。じゃあ、それをどうやって裏切ってやろうかなっていうところで、あれが一番だと思ったんですよ。

——お客さんの期待をいい意味で裏切ったっていうのは、やっぱり快感でしたか？

秋山　快感というか、いい意味で期待を裏切ってナンボだと思いますよ。確かに期待に応えなきゃいけないところもあると思いますよ。でも、3本勝負やって全部期待に応えるっていったら、全部同じ試合になってしまうってことなんですよ。そうしたら同じ技も何回か出ることになるじゃないですか。それだったら、まったく見たこともない技で、まったく見たこともないような試合をする方がいいと思うんです。

——そういう意味で、秋山さんと同じように期待をいい意味で裏切った選手は誰かいましたか？

秋山　ノーフィアーとか垣原選手なんかは、自分のスタイルを出せたんじゃないですか？

——賛否両論ありますけど、ボク的には垣原選手は良かったですね。

秋山　でも、垣原選手はああいうスタイルをやるために、「苦しい練習をしてきた」って言ってましたけど、苦しい練習ができるなら、もっと早く復帰してこいよって思いますよ。

——ああ、分裂前から首を負傷して欠場してましたからね。

秋山　垣原選手が試合後に言ってた「トップを取る」っていうのは、ボクらと違って……大森なんかもヒジがだいぶ前から悪かったのに、「旗揚げまでは」っていうことで頑張ってきたわけですよ。骨も折れてましたし。

馬場さんの試合と猪木さんの試合
どっちを多く見たかというと
じつは猪木さんなんですよ

—えっ!?　大森選手がですか!?

秋山　自分が今トップでやってるっていう自覚と責任があるからだと思うんで、垣原選手はそういうところも見てほしいと思いますね。「トップを取る」って口で言うのは簡単だけど、だったら「トップの自覚」を見せてほしい。確かにやってることはすごいのかもしれませんけど、トップを張ってる人間というのは、その後ろにはいろいろなものがあるわけですから。ノーフィアーに対して「口だけじゃねえか」って言ってましたけど、ボクはそうは思いませんよ。ちゃんとやってると思いますしね……あっ！

—何ですか？

秋山　別に、ボクはノーフィアーの味方じゃないですよ（笑）。

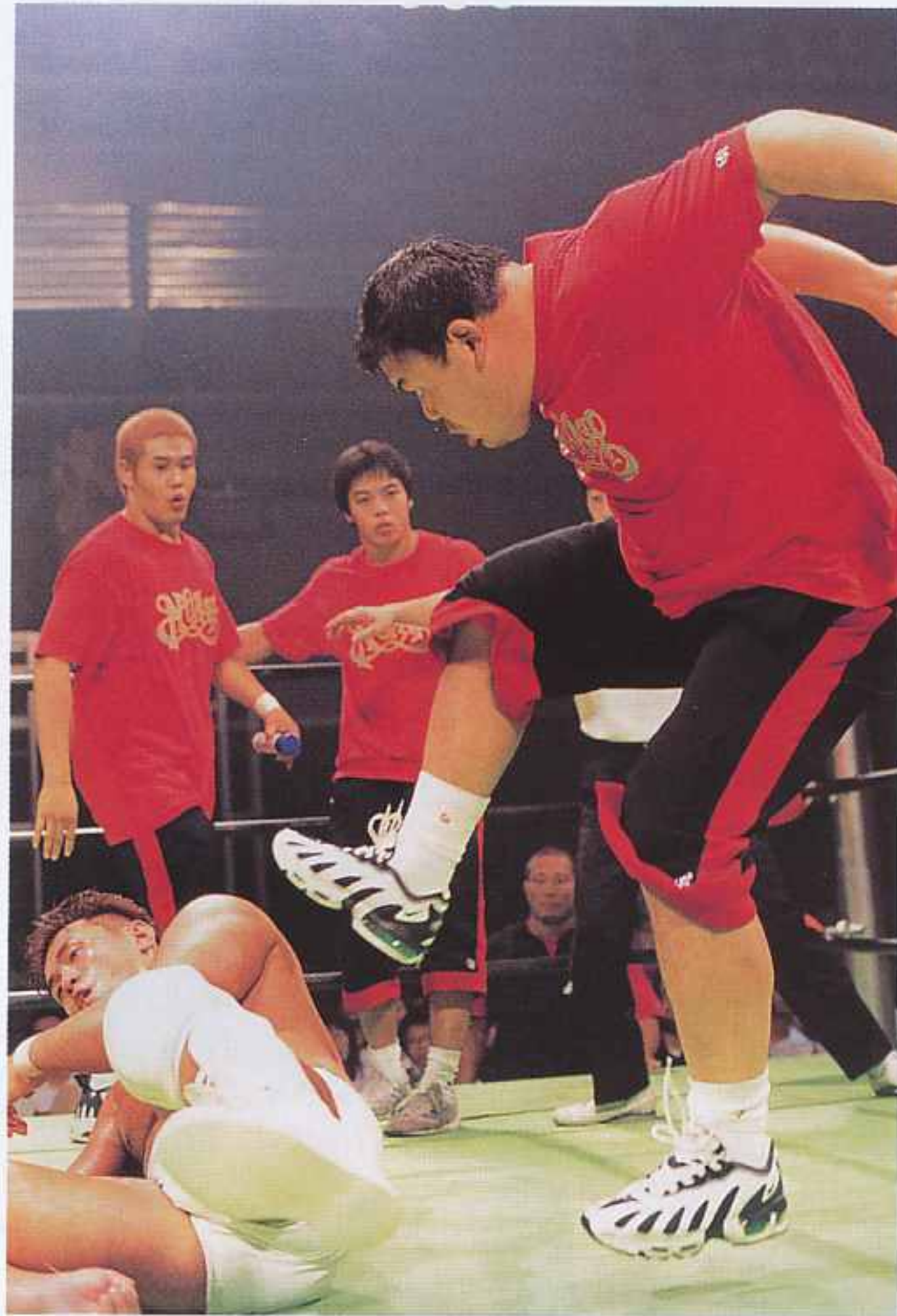
—ハハハハ！　わかりました。で、まあ垣原さんの試合の話なんですけど、いわゆるUWFスタイルでしたよね。秋山さんが言ってた格闘技の怖さみたいなものは伝わってきたとは思うんですよ。そういう部分に関しての評価はいかがですか？

秋山　まあ、ウチのポリシーは「自由」ですからね……でも「自由」っていうのも人それぞれですからね。何をやってもいいって思うヤツもいれば、自由のなかにもラインはあるって思うヤツもいる。垣原選手は前者だし、俺はどっちかっていうと後者だから。でもそれは、垣原選手とボクの出てきた場所が違うからなんでしょうけど。

—でも、お互い考えが違う者同士がリングの上で主張をぶつけあったら、おもしろくなりますよね。

秋山　見てるほうはそっちの方がおもしろいと思いますけどね。

—自由な状況が、どう転がっていくかわかりませんけど、ケンカみたいなせめぎあいになっていく可能性もありますよね。

秋山　僕は全然かまわないですよ。でも、ボクらだったら、こういうプロレスもあるし、こういうプロレスもあるよっていうのを見せられるでしょう。観客の期待を裏切ることもできる。垣原選手の場合は格闘スタイル一本だから、お客さんは当然、あれ以上を期待しますよね。でも、あれ以上過激なことっていったら、もう顔面ボコボコにブン殴って、相手の鼻折って口から血を流して……という状況になりかねない。俺はそれはどうかと思うんですよ。

8・6小橋vs秋山は、秋山が厳しすぎる足攻めと連夜のフロント・ネックロックで小橋を失神に追い込んだ。試合終了のゴングが打ち鳴らされても技を解こうとしない秋山に、力皇は猛然とストンピング！

—なるほど。単なるバイオレンスになりかねないというわけか。

秋山　垣原選手はもう少し頭を柔軟にしたほうがいいんじゃないですかね。（後日、カッキーは理想を追求するためにノアを退団！　詳しくはP138へ）

—秋山さんの考えっていうのは、さっきの「裏切ってナンボ」という発言なんかもそうですけど、「信頼」を旗印に掲げてきた馬場さんの世界とは、趣が違いますよね。

秋山　馬場さんの作ったものは「全日本プロレス」で、僕らは「ノア」ですからね。やっぱり試合も全日本のままじゃ面白くはならないですよ。初日の3本勝負だって、全日本にいた頃には考えられない試合じゃないですか。それは「自由」がいい形で出たと思うし。逆にこれから悪い面も出てくると思いますけどね。

—馬場さんがいた頃というのは、選手もお客さんの期待を裏切ることなく、ずっと応えてきたわけですよね。

秋山　ボクが「裏切る」っていっても、いい方向に裏切るっていうことですよ。「こういう道もあるよ」という裏切り方をしたいんです。おもしろくなるような裏切り方というか。だから、「期待を裏切る」とはいっても、最終的にお客さんに喜んでほしいっていうのがあるんですよ。

—そういえば、馬場さんもインタビューで「お客さんの喜ぶものをやらなけりゃいけない」って、よくおっしゃってましたよね。

秋山　だから、もちろん僕の中にもそういう馬場さん的な考えはあるんですよ。ただ、「期待を裏切る」っていうことの解釈が違うだけですから。

—「明るく、楽しく、激しい」だけじゃない世界を作ろうっていう意志を旗揚げ戦の秋山さんに感じましたよ。

秋山　ノーフィアーにしても同じようなことを考えてると思いますよ。

—でも、秋山さんの試合を観ていると、馬場さん的世界じゃなく、猪木さん的世界を作ろうとしているのかなと思いましたけどね。

秋山　……ボクは、お客さんに対していい意味で裏切りたいとは思ってますけど、人は絶対裏切らないですよ。ボクの根本に流れてるものは馬場さんですからね。人を裏切ったりとかっていうのは、大嫌いですから。

—いや、そういう意味じゃなく……。

秋山　（遮って）ボクなんか、パッと見たら新人類っぽいかもしれないですけど、非常に考え方は古い人間ですから。だから、喜んでもらえる裏切りはしますけど……人の道に外れたような裏切りはしません！　大体、ボクみたいな立場の人間が猪木さんみたいなことをしたら、この世界じゃ生きていけないですから。

—アハハハ！　いや、ボクが言いたいのはリングの中での猪木さんなんですよ。リング外じゃなくて（笑）。

秋山　う～ん、あまり試合は見てないですけどね。ただ、猪木さんと馬場さんの試合でどっちを多く見たかっていったら、じつは猪木さんなんですよ。

—そうなんですか!?

秋山　もちろん一番多く見てるのは鶴田さん

の試合なんですけど（笑）。

──猪木さんだとどんな試合が印象に残ってますか？

秋山　一連の異種格闘技戦は、あんまり興味がないんですよ。それよりもハルク・ホーガンとの試合とか好きでしたね。今、ホーガンと猪木さんの試合を見ると、「ふ～ん、そうなんだ」って思えるところもあって。いまでも通用する部分があるんですよ。さすが先見の明があると思いますよ。

──ムチャクチャ興奮しましたよね、あの試合！　猪木さんが舌を出して失神した試合なんか、翌日ボクの通ってた小学校じゃ「猪木が死んだ」ってムチャクチャ話題になりましたからね。

秋山　ボクも舌を器官に巻き込まないようにビーって出てるの見て「うわっ！」て驚きましたよ（笑）。

──たしかに、ああいう観る者を驚かせる闘いのエッセンスは、秋山さんの中にあるのかなって思いました。あくまでもリング上での部分ですけど。

秋山　だから、今の時代には表面的には猪木さんの発想は必要なのかもしれないですね。ただ、対人間とか会社ということで考えたら、圧倒的に馬場さんですよ。だから……非常に難しいですよ。

──いままでの全日本だと、こういう話ってタブーだったのかもしれないですけどね（笑）。

秋山　ボク自身は、以前からこういう話はするし、別に載せてもいいですよっていうスタンスなんですけど、周りの人が気を使ってカットしてくれてたんですよ。

──今回はどうなるんですかね（笑）。

秋山　別に問題ないんじゃないですか？　それは必要なものだと思うし。

──現在の猪木さんは、プロレスから格闘技への流れを作ろうとしてますよね。

秋山　たしかに、プロレスにはそういう格闘技的なものは必要なんですけど、それが全部じゃないんですよね。なんか、いまの格闘技ってファッションとして存在してるような気がするんですよね。

──ファッションですか！　たしかに格闘技とファッションは密接に結びついてますよね。

秋山　ボクは、「ファッション」になると、アッという間に廃れるような気がしてしょうがないんですよね。Jリーグも一時期は盛り上がったけど、落ち込みましたからね。ボクらはそこも気をつけないといけないと思うんですよ。そういう部分では、K－1はいいと思うんですよね。ファッションとは別の次元で確立してますからね。

──K－1はもっと広い層を狙ってますよね。『コロコロコミック』って、子ども向けのマンガ雑誌があるじゃないですか。ああいうところにガンガン協力して、格闘技のマンガを載せたりとかしてるんですよね。

秋山　そういう展開の方が大事なのかもしれないですよね。小さい頃にそういう漫画を見た子は大人になっても応援してくれるでしょうし。

──プロレスも、昔は『タイガーマスク』とかアニメや漫画で子供にアピールしてましたからね。馬場さんも猪木さんも、少年誌にはよく出ていたし。

秋山　子どもが「プロレスを観に行きたい」と言ったら、親も一緒に来ますからね。

──ノアは旗揚げ戦のチケットが30分で完売して、いまは大フィーバーの状況ですけど、これについてはいかがですか？

秋山　さっきのJリーグの話じゃないけど、いまはファンがガーッって盛り上がってますよね？　でも、選手がダメなプレイしたらブーイングが凄いんじゃないですか。それと同じ状況だと思うんですよね。今は見てる人もグワーって盛り上がってるからいいけど……将来のことは慎重に考えていかなきゃいけないと思いますよ。

──まあ、三沢社長の念願でもあった「今風の演出」ですけど、ああいう部分は体験してみていかがでした？

秋山　火はいらなかったですね。

──えっ、どうしてですか？

秋山　危ないし、熱いんですよ。

──アハハハ！　そんな。

秋山　まあ、最初だし、いろいろやってみるっていうのはいいことだと思いますけどね。あとは、紙テープのバズーカは入場ゲートのところでぶっ放してほしかったですね。「俺がポーズを決めたら撃ってくれよ」っていう段取りも出来ると思うんですよね。

──気持ち的にはいかがでした？

秋山　いいですね。あの場所で、ああいう形で入場できると気分もノりますよ。やっぱりこう仕事をしてるわけだから、「目立ちたい」っていう気持ちはありますからね。だから、普通にアピールもしないで入場してくる若手とか見ると「お前らおかしいんじゃんないか？」って思いますよ（笑）。

──入場ひとつも厳しいですね（笑）。その若手選手の試合はいかがでしたか？

秋山　リキ（力皇）が、ああいう形でつっかかって来たから、あとは本人の頑張り次第ですけどね。実際、蹴ってきたとき「もっと蹴れコラァ！」って言ったんですよ。で、彼の顔見たらいい顔してたんですよ。あれから、力皇に対してお客さんの期待はグッと上がったと思うんですよ。でも、今度はそれを上回らないと、お客さんは喜びませんからね。でもまあそれは、アイツに課せたられた試練だと思って、しっかりやってもらわないと。他の選手は実際に見てないからわからないですけど、たとえば橋（誠）とか、突出したものが何もない連中は、もっと根性入れて何かやったほうがいいと思いますけどね。そういう意味では丸藤（正道）なんかは飛んだり跳ねたりっていう方向で頑張ってるし、金丸（義信）はアピールするアメリカンスタイルのプロレスはズバ抜けてますけど、橋は派手なコスチューム着てるだけですから（キッパリ）。

──あの豹柄（P134の左下参照）は凄かったですね。

秋山　あれはオカマバーのショータイムみたいですね。まあ、豹柄にしろって言ったのはボクなんですけどね（笑）。

──あっ、そうなんですか（笑）。

秋山　本人は真っ黒にしたかったみたいですけど、もっと違うヤツにしろって言って。あれで体型がガッチリしてきたらもっと映えるかもしれないですけどね。

8・5のセミファイナルに登場。旗揚げ戦では最も自由に闘っていたという印象が強い。観客の反応も凄かったが……なんと、この1戦のみで退団！　詳細はP138で！

ボクが目指すのは“格闘王”じゃないんです ミスター・プロレスの称号がほしいです

――しかし、秋山さんは、こう言っちゃなんですけど、橋選手で遊んでますよね（笑）。

秋山　遊んでますよ（キッパリ）。

――秋山さんは「何もない」と言ってますけど、そういう選手ほど愛があるというか、気にかけてますよね。

秋山　ボクは何もない状況の辛さっていうのはよくわかるんですよ。だから、「なんとかしてやりたい」って思うんです。だから、非常に頑張ってもらいたいですね。

――優しいですよねぇ。

秋山　そんなことないですよ。ボクもプロレスラーになってから、ずっと順調に第一線でやってきたように思われてますけどね、アマレスで大学に入ったときは違ったんですよ。ボクは2番手だったんです。

――えっ、そうなんですか？

秋山　ボクと同じ高校で、戦績はボクとそんなに変わらないヤツがいたんですけど、専修大学の監督はそいつを欲しがってたんですよ。

――いわゆる推薦入学ですね。

秋山　ボクも専修大学に行きたかったんで、高校の監督が「そいつを専修大学に任せるから、秋山も頼む」っていうことで、ボクも専修大学に入ったんですよ。それでボクが入学したとき、先輩に「お前はオマケで来たんだろ?」って言われたんです。それがムチャクチャ悔しかったからね！　それで「絶対に強くなってやろう!」と思ったから、2番手の辛さとか悔しさってよくわかるんです。

――はぁ～、そんなことがあったんですか。

秋山　たしかに、プロレスラーになったときはエリートみたいに入ってきましたけどね……ずっとトップだったわけじゃないんですよね。なんで、オレはこんな話してるんだ（笑）。

――いやいや、ムチャクチャいい話じゃないですか！　前号のインタビューを読んだ読者から「秋山さんって後輩思いなんですね。意外でした」っていうハガキがけっこう来ましたよ。

秋山　後輩思いっていうか、後輩が頑張ってくれないと、結局僕のところに返ってくるんで。アイツらが頑張って、いい選手になってくれないと、なんかあったときに、今度はボクが食わせてもらわなきゃいけないから（笑）。

――アハハハ！　保険じゃないんですから。

秋山　結局ね、自分がかわいいんですよ（笑）。

――今後ノアで、秋山選手が期待する若手選手はいますか？

秋山　まあとりあえずリキ（力皇）ですね。自分自身で向かって来たから、よくやったと思いますよ。それに相手が僕ですからね。

――普通は怖いですよね（笑）。

秋山　よくやりましたよ。でも、これからかなり苦しくなると思います。あとは森嶋（猛）ですね。あの大きな身体は武器になりますからね。あと、頑張らなきゃいけないのは志賀（健太郎）ですね。

――志賀選手には特に厳しいですね。

秋山　そろそろある程度の結果を出さないといけないかなっていうところに来てるじゃないですか。

――なるほど、ちょっと話は変わるんですけど、昨日、元・同僚の渕さんが新日のリングに上がりましたよね。

秋山　……まあ、飲み込まれないように頑張

格闘 SOUL FIRE

天龍さんの頭の柔らかさは ホントに凄いと思う。普通 「ハヤブサ」やろうなんて思います？

ってくださいとしか言えないですね。ほんとに対抗戦みたいになると、厳しいんじゃないかなって思いますけどね。「新日本とは絡まない方がいいとは思う」って天龍（源一郎）さんも言ってましたからね。まあ、実際に新日本に行った人間しかわからないことですからね。まあ……ねえ？

――その天龍さんのことなんですが、秋山さんは全日本に出場した最後のシリーズで、「闘ってみたい」という発言を残してますよね。

秋山 あの～、ボクが目指してるところは「格闘王」の称号じゃないんですよ。意味、わかります？

――どういうことですか？

秋山 格闘○○っていう称号じゃなくて、ボクが目指してるのは「ミスター・プロレス」の称号ですから。

――ミスター・プロレス！ そうだったんですか。いや、でも天龍さんも大変ですよね。ハヤブサになったり、女子プロレスラーと闘ったりして。

秋山 じつは、ボクもああいうの好きなんですよ。

――ゲッ！ そうなんですか？

秋山 はい（笑）。だって天龍さんは、一番ああいうことをやりそうにないじゃないですか？ ボクもそう見えるかもしれないですけど、でも好きなんですよ。だからミスター・プロレスを目指すんです。

――ムチャクチャ意外ですね。

秋山 最近みんなどうしてもボクを格闘技方面に行かせようとしてますよね？ まあ気持ちはわかるんですけど、目指すのはそっちじゃないんですよ。ああいう頭の柔軟さってほんとにすごいと思うんですよ。天龍さんって、もう50歳でしょ？ 普通ハヤブサやろうなんて思います？

――まあ普通は思いませんよね（笑）。

秋山 あれは凄いことですよ！ ウチの親父と同じくらいの年齢だもんなぁ。いわゆる格闘家の人たちが、50歳まで第一線で活躍できたらすごいと思いますけど、絶対できないですよ。

――ハヤブサになろうっていう発想自体が出てこないと思いますね。

秋山 天龍さんは、そういう部分でも、嗅覚が発達してるからなぁ。いまだに進化し続けてる感じじゃないですか。

――電流爆破マッチまでやってますからね。そういう意味でいうと、長州さんなんかは、一方的にたたみかけて試合を終わらせてしまいましたけど、天龍さんはちゃんと試合を成立させてましたからね。

秋山 さすがミスター・プロレスだよなぁ（しみじみ）。

――ミスター・プロレスって、言葉の響きもいいですよね。日本で最初のミスター・プロレスといえば、力道山ですよね。力道山も、天龍さんも常に何かに対して怒ってるっていう印象がありますけど、秋山さんもリング上では「怒り」の印象を受けますね。

秋山 やっぱりそれがなかったら、見てる人はおもしろくないでしょう。普通、バーンと蹴られたら、怒りますよ。出し方はそれぞれでしょうけど、押し殺す必要はないですよ。

――馬場さんの世界観だと、そういう感情は押し殺す方向性だったじゃないですか。そういうのを秋山さんは壊したいっていう気持ちがあるんじゃないですか？

秋山 別に壊そうって思ってるわけじゃないですよ。ボクはいつでもボクですから、ボクのやりたいようにやるよっていうことですよ。それが出しやすい状況になったということです。

――まさに、ノアは秋山さんのための団体って言ったら言い過ぎかもしれないですけど……。

秋山 だから言ってるじゃないですか？ オレがリング上にいるときは、オレ色に染めてやりますよ（笑）。なにしろ、ミスター・プロレスを目指してますから（笑）。

【00年8月12日、ノア事務所にて収録】

格闘スタイルだけでもない、アメリカン・スタイルだけでもない。秋山は幅広い可能性をノアの観客に提示することに成功した。

次世代エース決定戦 秋山vs小橋プレイバック

エグすぎる角度で、相手の脳天をマットにたたきつけるエクスプロイダー（急角度の裏投げ）を連発した後、フィニッシュはフロント・ネックロック。試合内容も、コスチュームもガラリと変わった秋山が、新時代の幕を開けた試合である。

秋山はヒザへのいやらしく冷徹な集中砲火で攻めたてる。観たこともないようなスピードでカッ飛んでのヒザ狙いドロップキックで形勢逆転に成功！

ヒザの手術から完全に回復していないはずだが、それを思わせない重く激しい攻めを繰り広げた小橋建太。序盤のペースは完全に握っていた。

なんと、ジャーマンで投げられた小橋は、秋山の腕をキャッチしてアームロックに移行！ さらに足で首を刈って、動きを止める複合関節技を披露した！

ヒザを攻めながら首も取って、STFを披露した。従来の全日プロレスよりも関節技の攻防は増えている。

オレがリングの上にいるときはオレ色に染めてみせますよ。

インタビュー後記

秋山準の「オレ色に染める！」という発言にウソはなかった。馬場さんの作った全日本プロレスを出航したノアの舵は、秋山が奪取した。しかもその視野に、アントニオ猪木や天龍源一郎（というか、ハヤブサか？）までもが入っていたというのは、じつに衝撃的だった。

このインタビューでも、秋山は読者の期待をいい意味で裏切ってくれた。

この秋山の発言が賛否両論を呼ぶであろうことは想像に難くない。

さあ、このインタビューを読んだ後アナタはノアに何を観るだろうか？

ノアの根底の部分に流れる馬場イズムの中に、スポイトで一滴だけ猪木イズムを落としたら……考えるだけドキドキするような刺激的な空間が出来上がることは間違いない。

いままで誰もなし得なかったことに、秋山は挑戦している。

カッキー、ノアを円満退団していた！

8月18日付けの『東京スポーツ』によると、垣原賢人は円満退社していたという。三沢社長はカッキー本人と直接話し合い、円満退社となったという。首の負傷から手の痺れで長期欠場していたが、ノアの旗揚げ戦で久々に復帰。その初戦でいきなりオープンフィンガー・グローブをはめて登場。いわゆるUWFスタイル（というか、キングダム・スタイル？）で衝撃の復帰戦を飾った。三沢は「若いうちにしか出来ないこともあるし、やりたいことはやれるうちにやった方がいい」と円満退社を認め、「またノアに戻る機会があれば『連絡しなさい』と話しました」と語ったという。本誌は次号以降、カッキーの今後の動向を追跡していく所存である。

©プロレスリング・ノア

あきやま・じゅん■本名・秋山潤（あきやま・じゅん）。昭和44年10月9日、大阪府和泉市出身。学生時代は専修大学レスリング部で活躍。全日本プロレス入団後、平成4年9月17日、vs小橋健太戦でデビュー。今年6月、全日本を退団してプロレスリング・ノアに参加。ちなみに、新コスチュームは「チョコボール向井みたいですねって言われましたよ。あそこまで、ボクはタフじゃないのに（笑）」と語っていたが、プロレスラーのチョコとは比べようもないタフな試合を繰り広げて、ノアの新エースとなり「オレ色に染める！」と宣言。ロングガウンも「イジワル番長」（by三沢光晴）なイメージ通りでかっこいい。188センチ、110キロ、AB型。

ファンクラブも入会受付中！

『NOAH's ark』は年内会費無料！

オフィシャル・ファンクラブ『NOAH' s ark』(直訳：ノアの方舟)は年内の活動は年会費を無料となっているぞ！　今年いっぱいは活動内容を体験してみて、その上で正式に入会を希望する人は2001年1月から入会金＆年会費を支払う形となっている。入会をご希望の方は往復ハガキで下記までお申し込み下さい。

〒135-0063
東京都江東区有明1-3-25
(株)プロレスリング・ノア
ファンクラブ入会希望係
お問い合せ：☎03-3527-5311
担当：岡田

ファンイベントも続々開催します！

三沢光晴サイン会、開催！

9月3日（日）岡山ぎんざやプレイガイド前（12:00〜13:00）
9月3日（日）広島デオデオ7Fサテライトスタジオ(16:00〜17:00)
※10月12日（木）岡山武道館大会、10月13日（金）広島東区スポーツセンター大会のチケットを購入された方、ノアズアーク（ファンクラブ）の会員証をお持ちの方が対象となります。生写真にサインを入れてプレゼント！

小橋建太トークライブ開催決定！

9月10日（日）愛知県産業貿易館・本館第4会議室
（名古屋市中区丸の内3—1—6）
※10月11日（水）愛知県体育館大会のアリーナ席のチケットをアイビーブックスでお求めの方にトークショーへの参加券をプレゼントします！

お問い合せ：アイビー・ブックス　☎0568-31-0727

日程

いよいよ関西進出！　チケットはお早めに！『EXCEEDING OUR DREAM』

9月15日（祝）東京・ディファ有明（18：00）
9月16日（土）東京・ディファ有明（18：00）
9月24日（日）京都・KBSホール（15：00）
9月25日（月）大阪・大阪府立体育会館第二競技場（18：00）

初の地方巡業！　NOAHを目撃せよ！『NAVIGATION』

10月7日（土）東京・ディファ有明（18：00）
10月8日（日）神奈川・横浜文化体育館（15：00）
10月9日（月･祝）群馬・群馬県総合スポーツセンター<前橋市>（15：00）
10月11日（水）愛知・愛知県体育館<名古屋市>（18：00）
10月12日（木）岡山・岡山武道館（18：30）
10月13日（金）広島・広島市東区スポーツセンター（18：00）
10月15日（日）福岡・博多スターレーン（15：00）
10月17日（火）石川・石川県産業展示館2号館<金沢市>（18：30）
10月19日（木）茨城・つくばカピオ（18：30）
10月20日（金）岩手・岩手県営体育館<盛岡市>（18：30）

お問い合せ：プロレスリング・ノア　☎03-3527-5311

三沢光晴社長　オールナイトニッポンで下ネタ大爆発

「あそこが小さいんですけど、どうすれば？」下ネタの誘発を誘うリスナーからの質問に「膨張率で勝負ですね、俺は」、「使わないと退化します」「もうHはしたのか？」などときっちり下ネタでバンプをとる三沢。8月9日『三沢光晴のオールナイトニッポン』では、カウント2・9のエロトークがハイスパートで飛び交った。

プロレス専門誌では、さすがにエロトークは、ほぼ全面的にカットされていたが、本誌はあくまでも『マット界の総合誌』。エロにだって、柔軟に対応させていただく所存である。

というわけで、「奥さーん、乳輪の色は〜？　三沢光晴のオールナイト・ニッポン！」と三沢自身が語ったジングルもじつに衝撃的だった。

ちなみに、秋山はその過激な内容を聞き、「いくら自由だからって、自由過ぎますよ（笑）。何も公共の電波でそんな下ネタ言わなくても」とツッコミを入れるほどの暴走戦士ぶり。「エルボー10人斬り」というコーナーで10人のプロレスラー＆格闘家を語った三沢は「レスラー10人斬るよりも、女性10人斬りの方が気持ちいい」と言ってのける。

放送中、「俺は、スケベではなくHだ！」と三沢自ら断言していたが、たしかに三沢の下ネタは開けっ広げすぎて嫌らしさは皆無。サラリと繰り出すエロ・トークに試合スタイル同様、抜群のセンスを感じさせてくれる。

三沢によれば、「もっぱら、1人エッチをしている」らしい小橋が、電話で乱入してきた際にも、リング上に勝るとも劣らない見事な攻防が繰り広げられた。

三沢　抜いてた？
小橋　いえ、寝てたんです。
三沢　抜いてたのか…。
小橋　抜いてません！　寝てたんです。
三沢　悪かったね、抜いてたところ…。

旗揚げ戦を終えて、プレッシャーから解放されたのか、伸び伸びと下ネタを連発する三沢の姿に安堵感を覚えたファンは本当に多かったことだろう。リング上同様、非常にかっこいい男っぷりを三沢はみせてくれた。「Hで何が悪い」と言わんばかりの堂々たる、自然なエロトークに「男の下ネタはかくありたい」と思った一夜である。誰かが録音したものでもいいので必ず聞くべきだぁ!!

ノア旗揚げ大成功の裏でオールド・スクールはつぶやいた……

ザ・デストロイヤー 全日分裂を語る

「オレの個人的な感想を話そう」

そう前置きして、エネルギッシュに白覆面の魔王は、語り始めた。

「昨日、NTVのプレジデントに手紙を送ったんだ。NTVが全日本プロレスの中継を打ち切ったことについてだ。オレは手紙の中で『NTVがモトコと全日本プロレスにしたことにはガッカリさせられた』と書いたんだ」

なんと、デストロイヤーは全日中継打ち切りへの抗議文をいきなり日テレ社長に送りつけていたのだ。デストロイヤーと日本テレビの関係といえば、『噂のチャンネル』が思い出される。〝白覆面の魔王〟と呼ばれたデストロイヤーが、〝お茶の間の人気者〟になるキッカケとなった番組だ。

馬場とデストロイヤー、その2人の並びを見ているだけで幸せな気分を味わえたあの時代……。しかし、もう馬場はこの世を去ってしまった。幸せな日々は、もう帰ってはこない。新しい未来は、これから自分たちの手で勝ち取っていくしかない。それは、全日本プロレスもノアも同じこと。

「これはあくまでも自分の意見だから、正しいかどうかはわからないが、三沢は独立するにはまだ早すぎるんだ」

「早すぎる」！ 全日分裂以後、様々な意見が噴出したが、38歳と男盛りの三沢に向かって「早すぎる」と言い切ったのは、デストロイヤーぐらいのものだろう。実際、馬場も34歳で全日本プロレスを立ち上げているわけだし、早すぎるということはないと思うが。

「三沢たちは、団体をマネージメントしてくれる人がいないだろう。全日にはミセス・モトコがいる。ミスター・オオバは素晴らしいオフィス・マネージャーだ。ババの姪っ子のサチコ……彼女がチケットとお金を管理してるんだ！ チケットを管理させたら、日本で彼女の右に出る者はいない」

7月23日の日本武道館大会で、外人選手が「モトコ！ モトコ！」と客席に向かって連呼したりするのと同じ匂いを感じずにはいられない。心に染みる言葉である。

それにしても馬場幸子さんがチケットを管理させたら日本一だったというのは衝撃の事実発覚だろう。目からウロコが落ちる思いである。日本マット界を見てきた生き字引がそう言うのだから間違いない。

さらに、デストロイヤーは全日をホメる。

「バスもあるぞ！ 運転手もいるんだ。全日本プロレスには、交通手段もあって、オフィスもしっかりしてる。三沢のところには、バスもないし、リングもない。レスラーしかいないんだろ？」

全日本プロレスのスタッフの大多数がノアに移っていることを知らないのだろうか？ だとしたら、デストロイヤーに歪んだ事実を教えたのは誰なんだ？

「オレはNTVに出した手紙の中で『全日本プロレスは、この困難な時期を乗りきるだろう』と書いたんだ。なぜなら、三沢のところが、いかに選手がいようとも、全日本プロレスの方がしっかりした組織があるんだ」

どうしてそこまで組織にこだわるのか？

「日本に来ている外人レスラーは、ファイトマネーがちゃんと支払われるから日本に来るわけだ。ガイジンレスラーはいくらファイトマネーをもらえるか、ということに忠誠心を持って闘っているんだ」

プロなんだから、当然だろう。

「昨日、ミセス・モトコに直接会って『デストロイヤーは全日本プロレスを支持する』と伝えたんだ。いまでも全日本プロレスとババとミセス・モトコに忠誠心を持ってきたが、それはこれからも変わらない。なぜなら、オレと馬場は1960年以来の友人だからだ」

この一言を聞いて、少し救われた気持ちになった。少なくとも、デストロイヤーは金だけにこだわって全日を支持しているわけではないこともわかった。マネーだけではないババへの忠誠心と友情——それがデストロイヤーが全日を支持する理由だった。

「オレとババの関係は40年間経った今も続いてるんだぞ。お前はいくつだ？」

さっきも同じ質問をされた（P128参照）が「23歳です」と答えると、デストロイヤーは覆面ごしにニコッと笑って言い放った。

「お前がまだ、オヤジのタマタマの中で精子にもなっていなかった頃の話さ」

【7月28日、東京・駒沢競技場にて収録】

白覆面の魔王はとにかく全日本プロレスをホメまくった。それはババとの友情の証——。

撮影／平工幸雄

ミセス・モトコ、ババ、そして全日本への忠誠を誓ったデストロイヤー。思い出はありすぎるという……。

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／片岡正行
photographs by Masayuki Katahira

大人気!!　活字プロレスの鬼が独特のボキャブラリー自ら解説

I㊒編集長 井上用語の基礎知識スペシャル

週刊ファイト元・編集長
井上義啓氏連載インタビュー

聞き手／原一博

週刊ファイト編集長の職から離れた現在でも24時間プロレスのことを考え続け、昭和プロレス者から平成のデルフィンたちまで幅広い層にショックを与え続ける活字プロレス界の哲人・井上義啓さん――通称I編集長。現在も、『週刊ファイト』で「Y・INOUEのファイト直言」という非常に先鋭的なコラムを連載中である。これはとにかく必読だ！　井上さんのプロレス脳内で繰り広げられる思考のスクワットからつむぎだされた、マット界への提言の数々に『紙プロ』の読者も耳を貸すべき！　というわけで、毎号毎号、難解な「井上用語」をご本人に解説していただくインタビュー連載が増ページに続いて、カラーページに進出だ！　井上さんのちょっといい話満載で今号もお届けします。

井上用語 その4 全日プロレスって何？

――さて、井上さん、今月も張り切って行きましょう！　テーマは「全日プロレス」。これも当然井上用語なんですけども、まずその前にノアの旗揚げ戦から行きますか。

井上　テレビで観ました、昨日。やっぱりノアの方向というのは、明らかにプロ格であってね、全日プロレスの延長にはないんですよ。全日プロレスというのは純プロレスの極みであってね。全然別個のものなわけですよ。それはあのフロント・ネックロックを見ればわかるわけですよ。あれはもう、プロレスじゃない。プロ格ですよ。ただオレが言うプロ格というのは、プロレスの匂いが強烈にする格闘技のことであってね。

――それは連載第一回でお聞きしましたよね。

井上　まだみんなプロ格という言葉を理解してないみたいだけどな。

――ま、それはそれとして（笑）。全日プロレスというのは、井上さん的には、具体的にはどういうスタイルを指すんですか？

井上　これは当然、全日本プロレスという団体を指しているんじゃない。四天王たちが生み出したプロレスのスタイルですよ。もともと馬場プロレスというものがあったわけだよ。そこでスタン・ハンセンが入ってきて、ハイ・スパートのプロレスをやったわけだ。

――はいはい。

井上　それに一番最初に反応したのが川田ですよ。三沢じゃない。だから全日プロレスを日本人で最初にやったのは川田なんだな。そこで三沢が呼応して小橋が呼応して、それで四天王なんて呼ばれるようになったわけですよ。

――そのメンバーになってから、確かに馬場プロレスからの脱却は成功しましたよね。

井上　ただな、あの全日プロレスの先に何かあるかといえば、何もないわけですよ。行き着くところまで行ったから。だから、先に結論になってしまうけれども、全日プロレスというスタイルは、もう廃れていくしかない。

――ただ、川田の残った全日本プロレスは、天龍なんかを入れながら当面は全日プロレススタイルかなって思うんですけども。まぁ、最初に2・9プロレスからの卒業を口にしたのは川田ですけどね。

井上　だいたいな、インドネシアだとかケニアだとかいろんな国が独立した時に、「独立だー！」ってワーワー言うたりしてたけども、オレからしたら「独立はええけども、お前らこれからどうするんだ？」ということを言いたいわけだよ！

――は？　急に独立がどうしたんですか？（笑）。

I㊒編集長
井上用語の
基礎知識

かき氷よりもクールに
真夏の嵐山よりもホットに
プロレス界を語り尽くす

格闘 SOUL FIRE

井上 だからな、民族の自立っていうのは尊いけれども、政治、経済、医療、教育、いろんなことをこれから自分たちでやっていかないといけないわけだよ、言うちゃ悪いけど。人間はな、食うためにはポリシーを曲げていいんだよ。でもイデオロギーは曲げちゃいけない！ そこで川田の残った全日本ですよ。

――つまり、すぐに川田がプロ格に移行しないとしても、それはしょうがないということですね。「食う」というリアリズムの前ではしょうがないですよね。まあ、ノアの話に戻りますけど、キーマンは間違いなく秋山ですね。エースたる三沢が秋山に2分で失神させられるという〝事件〟自体、全日プロレスになかったものですよね。

井上 そりゃそうですよ！ 新団体の社長が泡を吹いて失神するなんて、どこにもありませんよ！

――ただ、猪木は新日本プロレス旗揚げで見事にゴッチに負けてますよね。

井上 だから、オレが猪木が凄い男だと言うとるのはそういうことだよ！

――大抵のことは、「そんなこと、猪木がとっくにやってるよ」って感じですもんね（笑）。

井上 だいたいな、エースが負けるってことは、本当なら珍しいことでもなんでもないはずなんだから！ 試合なんだから。猪木はその後も、ホーガンにアックス・ボンバーで失神させられてるからな。

――まあ、若いファンは知らないかもしれないですけど、猪木が舌出し失神を喫した時に、なんと井上さんも自分で舌を出して実験したという伝説が残ってますけど（笑）。

井上 だいたいな、あれが八百長だなんだ言うヤツがいっぱいいたけどな、じゃあ、あれだけの長時間、演技で舌を出してられるのかってことをオレは言いたいわけだよ！（怒）。

――だから自分で試してみたと。

井上 あんなもん、何十秒もできませんよ！ だから自分で実験して、その後知り合いの医者のところに行って、「ああいうことって演技できるんですか？」って訊きに行ったくらいだからな。医者は「絶対できない」って言うとったよ、アンタ！

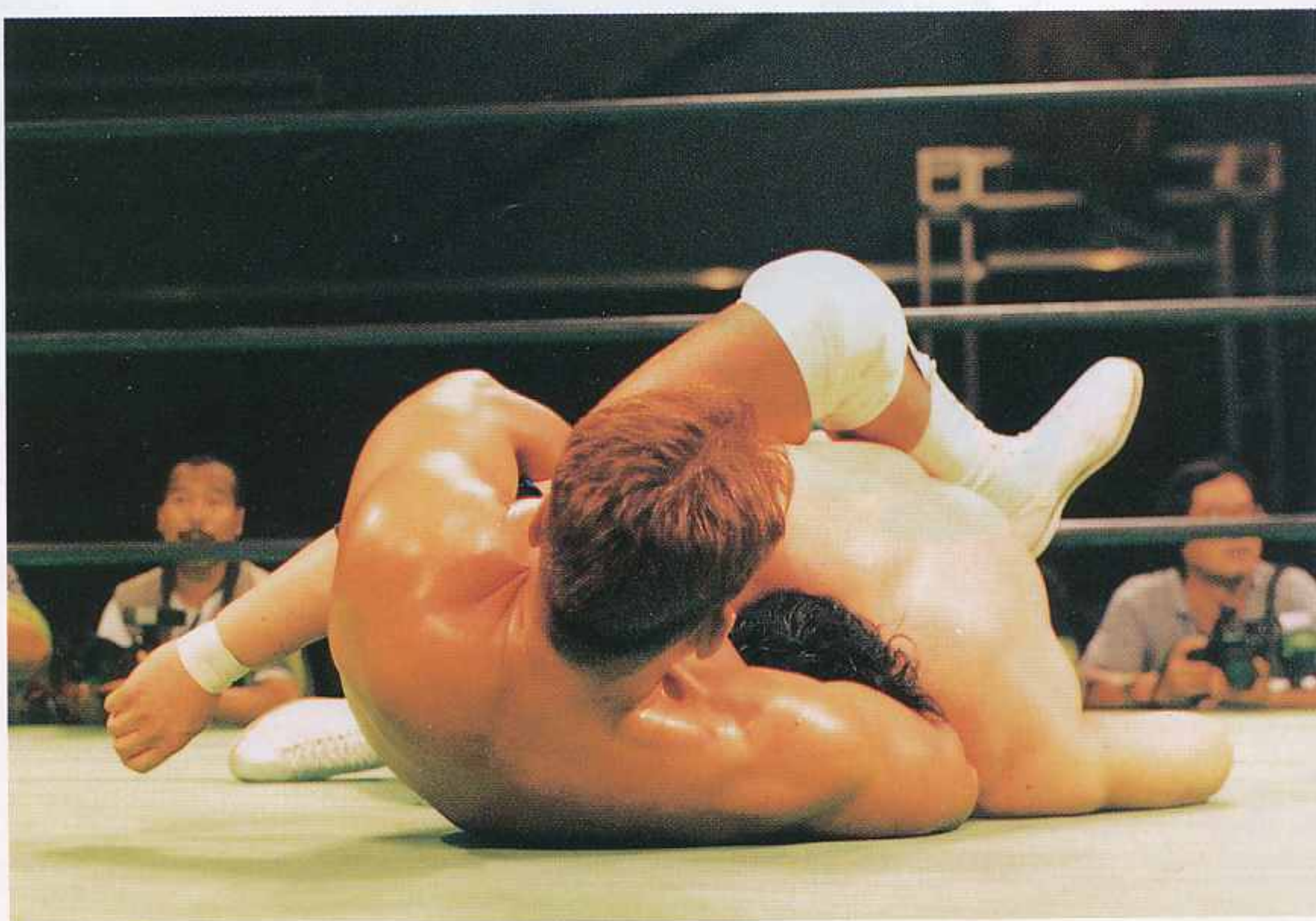
――変なところで測定したがりますね（笑）。

井上 坂口は柔道やってたから、失神したら舌を巻くっていうのを知ってて、それで猪木の舌を指で出したんだから。あれがなかったら猪木は死んでますよ！ だから、あの試合を観て八百長だなんだワーワー言うヤツは、何も見えてないということですよ。

――なるほど。

井上 だからオレは、いつも大笑いされるからな。「これからは団体ではなく、プロモーション乱立の時代が来る」なんて書いた時なんか、編集部のヤツらですら笑ってたんだから。

――あの名言、ボクなんか学生時分に読みましたよ。確かに早かったですよね。

井上 でも当時は「なんだあの男は！」言うて、もう日本中で笑われましたよ。

――日本中で！

井上 オレは笑われたり誤解されたりすることには慣れてるからな。2・9プロレスなんて言うた時も、オレは全日本から取材拒否されるかと思ったもんな。まぁ、されてもオレは書くから。取材せんかったらええんだもん。スポーツ新聞を資料にして、自分の思うことを書けばいいんだから。だからオレは、山本（現ビートたかし）が『週プロ』を辞めた時、「これからドンドン新日本のことを書け！」って言うたもん。それまで落ち込んどったけど、それで励まされたんじゃないの？

――山本さんといえば、今落ち込んでますよ。

井上 山本が？ なんで？

あのフロントネックロックを見ればわかる あれはもう、プロレスじゃない。プロ格ですよ

――もうご自身が活字にしてますけど、前の奥さんが、なんと山本さんの元部下のS記者と再婚するんですよ。それでへこんじゃって。

井上 そんなもんで落ち込んでるのか？

――いや、そんなもんって（笑）。

井上 そりゃ、今も結婚してたら不倫だけど、もう離婚してるんだから、誰と結婚しようが自由じゃないか。

――まあ、そりゃそうですけど。

井上 そうだろ？ 別に元奥さんがオレと結婚したとして、驚くようなことじゃない。

――そんなの驚くどころか失神しますよ、そんなニュースを聞いたら！（笑）。

井上 なんならキミが結婚したっていいよ。

――ボクが元奥さんと結婚してどうするんですか！（笑）。しかし井上さん、ドラスティックですねぇ（笑）。

井上 山本に言うとけ。そんなことで落ち込むな言うて。あいつは変なところで落ち込むからなあ。

――うーん、井上さんの前では山本さんも常識人に見えるなあ（笑）。巨大だ、井上さんは。それで話を戻しますけど、やっぱりノアで秋山が飛び出したのは、比較的全日プロレスに染まりきってなかったからですかね。

井上 いや、そんなことはない。逆にな、全日プロレスがあったから、秋山たちはプロ格へ移行できるんであってね。そんなもんアンタ、いきなり馬場プロレスからプロ格をやれって言われたってできるわけないんだから！

――まあ、馬場対ハーリー・レイスのスタイルからはしんどいですよね（笑）。

井上 そうだろ？ だから、全日プロレスというスタイルは廃れていく！ これからはプロ格なんだから。ただ、プロ格へ移行するためにはどうしても通らなければいけない道だったということだな。

――わかりました！ 今回もお忙しい中、ありがとうございました。

【8月14日、電話取材にて収録】

女子格闘技界もお騒がせ

桜庭あつこ

"桜庭旋風"は連鎖する!?

ATSUKO SAKURABA

【さくらばあつこ】
昭和52年3月29日福島県出身。身長／161cm、体重／日々変動中。B93cm、W57cm、H85cm。抜群のスタイルを活かしお色気系番組を中心にVシネマやグラビアでも活躍中。真樹先生原作の映画に出演した縁で真樹道場で稽古をしたこともある。

Q.ホントにやれんのかーッ!

聞き手／チョロ
interview by Choro
撮影／松本崇
photographs by Takashi Matsumoto

A.やるって言ったらやるんです！

私の本気を見て下さい!!

すでにご存知の方も多いと思うが、セクシータレントの桜庭あつこが、12月5日、日本武道館で行われる女子総合格闘技大会『ReMiX』に参戦が決定した。マニアックなネットサーファーの間では『紙の桜庭』と言われている本誌だけに、どのプロレスマスコミよりも早く桜庭あつこのナマ声をキャッチ！

7月28日付けの『東スポ』で桜庭あつこの『ReMiX』参戦がスクープ報道されると、その後、様々な媒体に"桜庭あつこ"の名が踊った。格闘家デビュー前から桜庭和志に引けを取らないお騒がせぶりである。本人が希望するサクへの弟子入りは実現するのか？

――桜庭さんに一言物申す！ 12・5『ReMiX』、ホントにやれんのかーッ！

桜庭 やるって言ったら、やるんです！

――あ、そうですか。でも、なんで格闘技の試合に出ようと思ったんですか？

桜庭 そんな難しいものじゃないんですけど、今までにやったVシネマとかで格闘家の役をやったことが何度かあって。それに最近、番組の方でもダイエットとかもやったり、結構苛酷なこともやっているんですよ。

――フルマラソンも完走してますからね。

桜庭 そうなんです。その中で、「もうちょっとやれないかなぁ」と思って、「格闘技の方ってどうかなぁ？」って思ってる時に、たまたまお話があって、「ぜひやらせてください！」って言ったんです。

――それは自分の意志なんですか？

桜庭 そうです（キッパリ）。それで関係者の方に聞いたら、「本気だったらOK！」っていうことだったんで、「本気でやらしてください！」って。

――発表されて、周りの反応はどうですか？

桜庭 みんなムカつく！（怒）。「頑張ってね」じゃなくて、「ホントにやんの？」って聞いてくるから。

――「ウソだろ？」みたいな。

桜庭 みんな本気にしてないですもん。何回も言うけど、やるって言ったらやるのぉ！

――わかりました（笑）。でも、ルールとか聞いてくうちに、怖くなったりしません？

桜庭 怖いっていうより、早く練習をやりたいって感じですね。やっぱり自分の身を守るのは自分ですから、しっかりやっとかないと。

――でも、もう試合まで4カ月ないじゃないですか？ やっぱり「そんな練習期間で試合をやるなんて無理だろ」とか「売名じゃないか？」「格闘技をナメるな！」って声が結構出てるんですよ。そういう声が出てこなきゃヘンですからね。

桜庭 でも、売名かどうかっていうのは試合を見てもらえばわかるわけですから。実際、練習は正味3ヵ月しかできないと思うんですよ。ただ、こんな私が3ヵ月の間にどこまでやれるか。それを見てもらいたいですね。

――まだ相手は決まってないですけど、桜庭さんは、こんな選手と闘いたいっていう希望はあるんですか？ 強い人とやりたいとか、勝ちたいから弱い相手がいいとか（笑）。

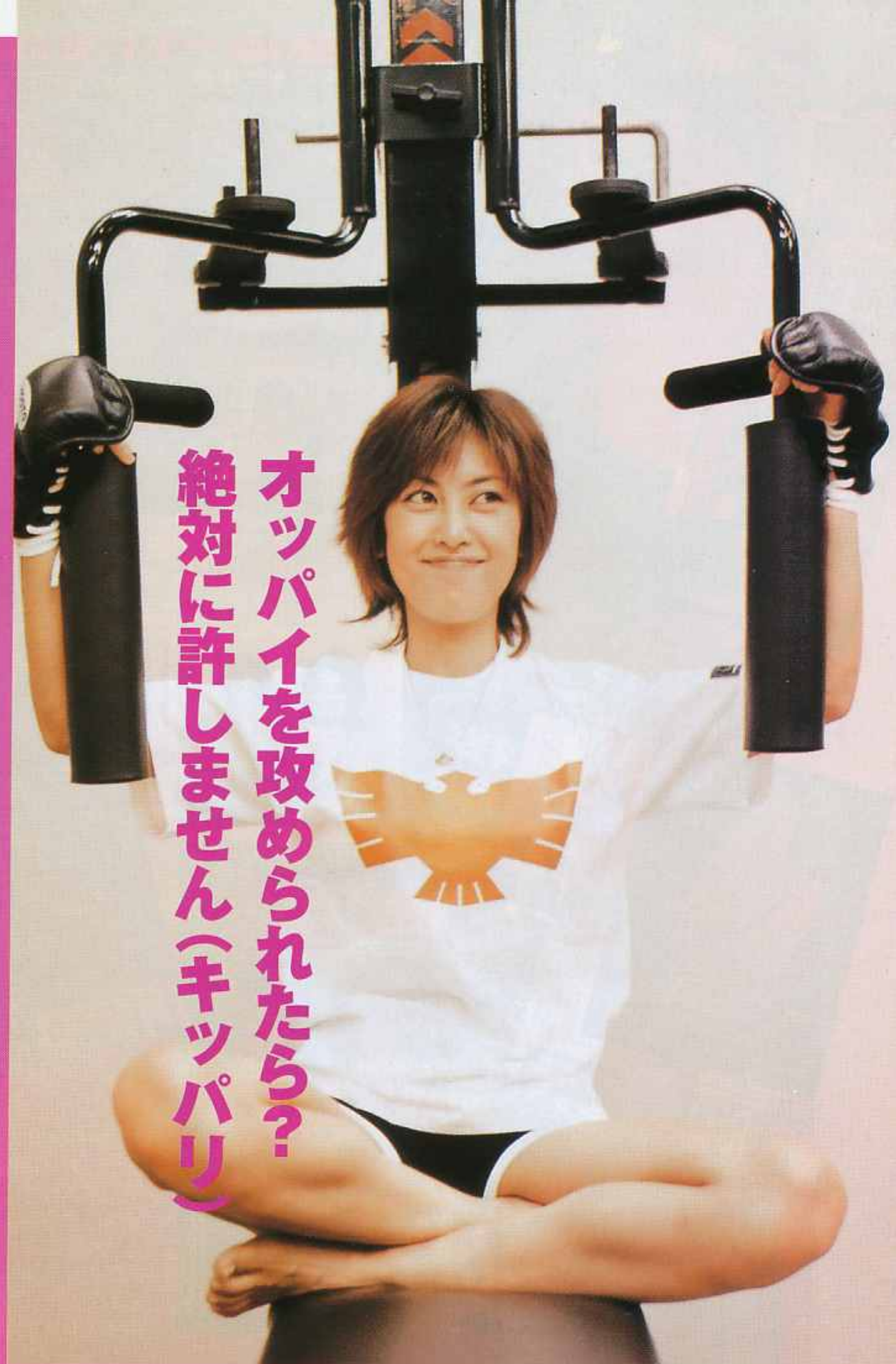
桜庭 この世界はド素人なんで、そういう希望はないです。ただ有名な方とやってみたいっていうのはありますね。みんなが知ってるような。だから自分のプライドをちゃんと持っていて、そういう中で手加減も何にもしないで真剣にやってくださる方がいいです。

――例えばですけど、同じセクシータレント系の人と試合をするっていうのもありだとは思うんですけど、ちゃんとした格闘家とやりたいっていう気持ちが大きいわけですか？

桜庭 そうですね。だって、今回の場合は真剣にやらなきゃ相手に失礼だし、意味がないですから。タレント同士でやるんだったら、この大会じゃなくても、バラエティー番組とか、他でやればいいじゃないですか？

――そりゃそうですね（笑）。あと、新聞とかに「桜庭に刺客"爆乳潰し"」って出てましたけど、（いやらしそうに胸元を見ながら）その爆乳を攻められたらどうします？

桜庭 絶対に許しません（キッパリ）。

――ゆ、許しませんか？
桜庭　（険しい表情で）だって、（胸を指さして）これは私の商売道具ですからッ！　商品を傷つけられたら許さないですよ！
――確かに商売道具ですよね（笑）。
桜庭　でもそれを書かれちゃうと、ホントに狙われるんで、書かないでくださ～い（笑）。
――いや、そういう感情は出した方がいいと思いますよ。オッパイを攻撃されてキレる桜庭さんの姿とか見たいですからね。
桜庭　タレントなんで胸と顔はしっかりガードの練習します（笑）。でも、リングに上がったら闘うっていう気持ちだけですから。「絶対に勝つ！」っていう言葉は口にはしませんけど、自分の中にはあるんで。
――すでに静かなる闘志が宿ってるんですね。
桜庭　口に出したら「何考えてんの？」って言われちゃうから。ただ、やる前から負けること考えてたら勝てないですよ！
――猪木さんみたいだ（笑）。今日は撮影でグローブを付けて軽く練習してもらったんですけど、実際付けてみてどうでした？
桜庭　でも私、殴られたことないからわかんないんですよぉ。
――いままで、ケンカとかで殴られたことってないんですか？
桜庭　ないです。姉妹喧嘩ぐらいですね。
――それじゃあ、殴られたらどうなるか自分でもまだわからないわけですね？
桜庭　ただ『めちゃイケ』で顔をバーンと張られた時は、ちょっとキレましたけどね（笑）。

オッパイを攻められたら？ 絶対に許しません（キッパリ）

ATSUKO SAKURABA

高田が桜庭に打撃指導!?

『RJW』の高田浩也選手からパンチの指導を受ける桜庭あつこ。はじめはミッキー・ロークばりのネコパンチを繰り出す桜庭だったが、次第にパンチを打つ姿もさまになってきた。試合当日まで、どこまで上達するのか楽しみである。

――えっ、誰に張られたんですか？
桜庭　光浦（靖子）ですね。それで私はムカついたから、手加減しながらもバーンとやり返したんです。そしたら向こうは手加減なしできたんですよ。「何クソォ！」と思って手加減なしでやり返しました（笑）。
――気は強いんですね（笑）。
桜庭　気は強いです！それにやるって決めたらやらずにはいられない（笑）。
――これまでの桜庭さんの行動を見てればわかりますけどね（笑）。
桜庭　ただ間違ってるって言われた時は素直に受け入れますけど（笑）、でも誰もちゃんと言ってくれないと、そのまま自分の気持ちで突っ走っちゃうんですよね。
――お色気暴走機関車だ（笑）。
桜庭　そんな感じですね（笑）。
――この間（7・30後楽園）、リング上から挨拶した時はどう思いました？
桜庭　ファンの方は凄く暖かい感じでしたね。でも凄く緊張しちゃって。
――緊張してたんですか？
桜庭　いや違うんです。背中に壁がないから、全部見られてるっていう気がして。
――あぁ～、それはタレントさんならではの感覚かもしれないですね。テレビの世界とか

エッチな目で見られるのは慣れてるんで、全然大丈夫で〜す♡

は、人にケツを向けないですからね。

桜庭　そうなんですよ。ずっと同じ方向を向いて喋るわけにもいかないし。それで景色が変わると頭の中の言葉が忘れちゃうし（笑）。

――そういうのも、試合当日までに克服しなきゃいけないですね。

桜庭　そうですね。でも、勝ち負けじゃないんですよ、今回やるのは。いままでやったことないことに挑戦するって、もの凄くキツイことじゃないですか。

――それはキツイですよね。

桜庭　普通誰もやらないと思うんですけど、でもそれをやったことによって、自分の中に何かが残るっていうか、何かが見つかると思うんですよ。それを探しに行きたいなっていうのは相手に失礼かもしれないですけど。

――何か見つかるかもしれないし、ボコボコにされて、「こんなのやってらんない！」ってなるかもしれませんよね（笑）。

桜庭　そうですね（笑）。でも、3ヵ月、ビシっと練習しますから！

――気は早いですけど、12月5日の試合では、何を見て欲しいですか？

桜庭　（即座に）本気！

――本気が一番！

桜庭　（元気よく）はい！　本気＝桜庭あつこって認めてもらえるような試合をしたいと思ってるんで。私は本番になったら自分でもどうなるかわからないですから。ホントにキレたらどうしようって（笑）。

――どんどんキレちゃってください（笑）。でも、桜庭さんがリングに上がったら、いやらしい目で見るファンもたくさんいると思うんですけど。

桜庭　えっ、いやらしい目って、どういうことですか？

――（困りながら）いや、女子プロをエッチな目で見る人って結構いるんですよ（笑）。

桜庭　（本気で驚いて）えっ、そうなんですか？　初めて知りました（笑）。

――桜庭さんも間違いなくそういう目で見られますよ！　たぶん、ボクもちょっと（笑）。

桜庭　ハハハハ。でも、それは慣れてるんで、全然大丈夫ですよぉ！（笑）。

――じゃあ、当日は試合コスチュームも期待してますから（笑）。

桜庭　まだコスチュームは全然考えてないんですけど……ただ股間ばっかりとか、谷間ばっかりとか見ないでほしいですけどね（笑）。

――それは気を付けます（笑）。そういう見方をするお客さんを"格闘家・桜庭あつこ"として見てもらえるよう頑張ってください！

桜庭　そういう見方をする人の目を覚ましてみせます（笑）。本気で頑張りますから、『紙プロ』の読者も応援して下さいね♡

【8月10日／東京・飯田橋・カウベルにて収録】

押忍！ワルTシャツをプレゼントだ！

大好評の真樹先生ワルTの第二弾が登場！　このTシャツを1名様にプレゼント（モデル・真樹道場で練習経験もある桜庭あつこさん）【本誌編集部提供】

桜庭あつこ着用スパッツをくれてやる！

な、なんと、桜庭あつこ着用のBAD BOYスパッツ（M）を1名様にプレゼント！　使用方法は問いません。勝手に履きやがれ！　宛先はP160参照。

Welcome! RJW

撮影に協力してもらったのは、修斗、パンクラス、リングス、UFC-Jなど、様々な大会に選手を送り込んでいる『RJWセントラル』。レスリングのバッグボーンを持つ選手が勢揃いの『RJW』でキミも強くなろう！【問い合わせ】東京都千代田区飯田橋4-3-8東日本飯田橋ビルB1 F
☎03-3556-3858　http://www.wk-inc.com/gcm/rjw/

今回の桜庭あつこに打撃の指導をしてくれたのは9・5リングス後楽園大会に出場する高田浩也選手。「すいません、僕は打撃はあまりできないんで（苦笑）」という高田選手だが「次の試合はタックルで倒して勝ちます!」と力強く語ってくれた。ちなみに高田選手は、学生時代の先輩、藤田和之によく稽古を付けもらっていたという。注目だ！

『Re MiX』篠泰樹代表の咆吼!

『ReMiX』のトーナメントは、ベッキー・レビーとエリン・トーヒル、八木淳子、この3人は契約しました。残りの枠はバンビ、レカを含めて、その他、かなりのオファーが来てるんで調整してるんですが、出場が濃厚な選手はイェレーナ・ピザレンコですね。桜庭選手の相手はボクの中ではロシア人選手を考えています。ロシアからはオリンピック級の選手を呼ぶ予定ですから。一部で開催しないんじゃないかって言われてますけど（笑）、絶対に開催します！

イェレーナ　ピザレンコ
Yelena Pizarenko

あのドン・フライの推薦で『ReMiX』に参戦濃厚となったイェレーナ・ピザレンコ。イェレーナは"77年11月22日ロシア生まれの22歳で、ご覧の通りルックスも抜群のテコンドー戦士だ。テコンドーでは数々の金メダルを獲得しているイェレーナは現在米軍に所属。今年の全米軍代表女子部チャンピオンにもなっている。こいつは凄い！

リングスのアメリカ進出と近未来の格闘技界の鍵を握る男

巻末ロングインタビュー

髙阪剛

TK Evolution in Hawai

今、新しい武器を開発中なんです これが完成したら、また 総合の技術体系がガラリと変わりますよ

オカンも凄いが息子も凄い!!

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

ハワイ大会の前日、自分と滑川はエレベーターで過ごしましたから

後ろに見えるビルがＴＫらが泊まっていたホテル。ここのエレベーターにＴＫと滑川は閉じこめられたのだ！　夜だったので、閉じこめられながらも夜景がキレイだったとのこと。

リングスＵＳＡ30ページ大特集の最後を飾るのはもちろんこの男、〝世界のＴＫ〟高阪剛！
記念すべきリングスのアメリカ初上陸大会7・15ユタで、トーナメント1・2回戦を見事に突破。試合後のインタビューでは「パンクレイションでもサブミッションでもなく、これがリングススタイルです！」と英語で高らかに宣言！　リングスアメリカ進出のエースとして、アメリカの観客にリングスを大いにアピールした。そしてその1週間後、日本人選手のセコンドとしてハワイ大会に姿を現したＴＫをハワイでキャッチ。

常に一歩先にいく男の進化論を読め！

――選手はみんなこのホテルに泊まってるんですね。いまロビーが顔面傷だらけの大男ばかりなんでビックリしましたよ（笑）。

ＴＫ　このホテルは凄いですよ。自分と滑川はハワイ大会の前日にここのエレベーターに閉じこめられましたから（笑）。

――え⁉　閉じこめられたんですか！（笑）。

ＴＫ　滑川と2人で部屋に帰ろうと思ったら、9階と10階の間で急に止まっちゃったんですよ。一緒に乗ってた女の子4人組が途中で降りたときに止まり方がおかしかったんで、何か嫌な予感はしてたんですけどね。

――そしたら案の定閉じこめられちゃったと（笑）。

ＴＫ　しかもあのエレベーターはガラス張りで外の景色が見えるから、どれくらいの高さにいるのかわかるんですよ。それで、こりゃ落ちたらフリーフォールどころの騒ぎやないな、と（笑）。

――スリル満点にも程がありますよね（笑）。

ＴＫ　それで、エレベーターに取り付けてある電話で連絡とってたら「今から調べる」って言われたんです。でも、そのあといくら待っても何にも言ってこないんですよ。しょうがないから自力でドアをこじ開けて、なんとか脱出しましたけどね。

――さすが世界のＴＫ、地力で脱出しましたか（笑）。

ＴＫ　脱出できたけど、それじゃあ収まりがつかないんで、フロントに行って「いつ点検したんだよ！」って聞いたんですよ。そしたら「誰かがこの前やってたけどなぁ」なんて言われちゃって。

――アハハハ！　大らかなフロントですね（笑）。

ＴＫ　「誰かって誰やねん！　いい加減にせーよ、俺はムチャクチャ気分悪いねん！」って言ったら、「あーそうか」だって（笑）。

――「そうか」で終わり（笑）。

ＴＫ　絶対謝らないんですよね。点検した奴が悪いっていうノリで。それでも、自分らの部屋は33階で階段なんかで上がってられないから、「俺の部屋までおんぶさせるぞ！」とか思ったりしてね（笑）。

――ハハハ！　１００キロの人間を33階までおんぶ（笑）。

ＴＫ　まあ、閉じこめられようが返事が来なかろうが、アメリカに関してはあきらめてるから（笑）。そういう国なんですよ。ましてやハワイなんて普段の2倍諦めた方がいいですからね。

――では、そんなアメリカ人の気質を肌で感じてる高阪さんに、こっちの話をいろいろ聞いていきますんでよろしくお願いします！　まず、7・15ユタでリングスの初のアメリカ大会が開催されたわけですけど、参戦してみていかがでしたか？

ＴＫ　観客の反応も良かったんで、まぁ第1回としては成功だと思いますよ。でも正直言って、アメリカ人は物事の主旨を理解するのに1、2年は掛かるんですよね。こうやって、リングス大会を開いたとしても、「ところで何で顔面殴らなかったの？」とか見た後になって言ったりするんですよ。

――日本のように先に知識を仕入れて、それ

から見ようって感じじゃないわけですね。

TK 逆ですね。見たまんま受け入れて、とりあえず面白かったら興味持って、その後から疑問が出てくるのが典型的アメリカ人ですから。だから本当に根付かせるには1、2年は掛かるでしょうね。しかもコンスタントに大会をやらなければ意味がないんですよ。

——すぐに忘れられちゃうんですか?

TK 新陳代謝が激しい国だから、次にもっと面白いものをやらなければすぐ忘れられると思いますね。その辺は気を付けてやった方がいいとは思うんですよね。まあ、自分はそこまで考えてないですけど(笑)。

——まぁ、確かに現役選手がそこまで考える必要はないですよね(笑)。

TK でも試合やりながら、お客さんの反応とか見てても、単純なんですよね。面白ければ沸くし、面白くなければブーイングだし。

——そのアメリカ人の「面白い」っていうのはどういう基準なんですか。やっぱり激しい打ち合いが一番受けるんですか?

TK 基本的には激しい打ち合いなんですけど、自分はそれだけで面白くさせるのは嫌なんですよね。そんな了見の狭いというか、器の小さな男じゃないんでね(笑)。

——もっと違った面白さを観客に提供したいって感じですか?

TK そうですね。だから今回も自分の試合に関しては、できるだけ関節を取りにいく動きのある試合をやろうと思ってやったんです。そうしたら思いのほか客の反応が良かったんで、こういうスタイルが受け入れられる準備はあるんじゃないかと感じましたね。

——では、もともとアメリカの観客は何を一番求めて会場に来てると思いますか?

TK 一言で言ってお祭りですよ。

——アハハハ! アメリカの観客はホントに楽しんでますもんね。

TK せっかくお金を払って来てるんだから、その分楽しもうじゃないかという気持ちなんですよ。

——逆に言うと格闘技をエンターテインメントとして楽しむ能力は自然に備わってるんですよね。

TK っていうか何でもエンターテインメントにしちゃうんですよ。ビル爆破だってエンターテインメントになっちゃう位お祭りが好きな人種だから。その中で「ウチらはこういうことをやりたくて、こういう目的でやってるんだよ」って理論を先行させたところで受け入れられないんですよ。まず最初に見させて興味を持たせた後で、「実はこういうことなんだ」って説明するほうが成功するんですよね。それは自分が住んでみてわかった、生きるための知恵ですね。

——高阪さん自身、まず試合をやって結果を出して認められてきたわけですもんね。やっぱり高阪さんも最初はブーイングが凄かったんじゃないですか?

TK そうですね。まずアメリカは固定観念があって白人で、レスリングやってて、デカくて、カリフォルニア出身。この4つが揃ったら絶対的なベビーフェイスなんですよ。

——黄色人種で柔道やってて、滋賀県出身の高阪さんは、そうなるとほとんど正反対(笑)。

TK ホントですよ。しかも自分なんかヘビー級の中じゃ一番小さい方ですからね。全くかすりもしない(笑)。

——それを一試合一試合勝っていくことによって、ブーイングを歓声に変えていったんですよね。いつごろからブーイングはなくなったんですか?

TK まず、キモとやる前はすっとブーイングが凄かったんですよ。それでキモに勝った後で多少認められるようになって、そのあとピート・ウィリアムスやバス(・ルッテン)とやったんですけど、その時は歓声とブーイングがトントン。その後からブーイングは無くなりましたね。だから結局2年か3年かかってやっとブーイングが無くなったんですよね(笑)。

——それじゃあ、今回のアメリカ大会なんかはブーイングは無かったんですか?

TK 入場するまではわからなかったんですけど、名前をコールされたら、自分のことを知ってる人も多いみたいで、歓声が沸いたんですよ。

——そうなるとアメリカ人の固定観念を崩したってことですね。

TK そういうのを実感できる瞬間、やってて良かったと思いますね。俺が変えたんだっていうね。

——それに観客だけじゃなくて、選手の間でも日本のファンがビックリするくらい「TK」の名前が浸透してますよね。

TK それは明らかに地道な作業の賜ですね(笑)。

——ハワイ大会の会場でも突然ブライアン・ジョンストンが声を掛けてきたり(笑)。

TK やってきましたね。自分の試合も見てくれてるみたいで、「いい試合してるな」って言ってもらったんですよ。あと、「VTが出来なくなったら俺とタッグ組んでニュージャパンで頑張ろう」とも言ってました(笑)。

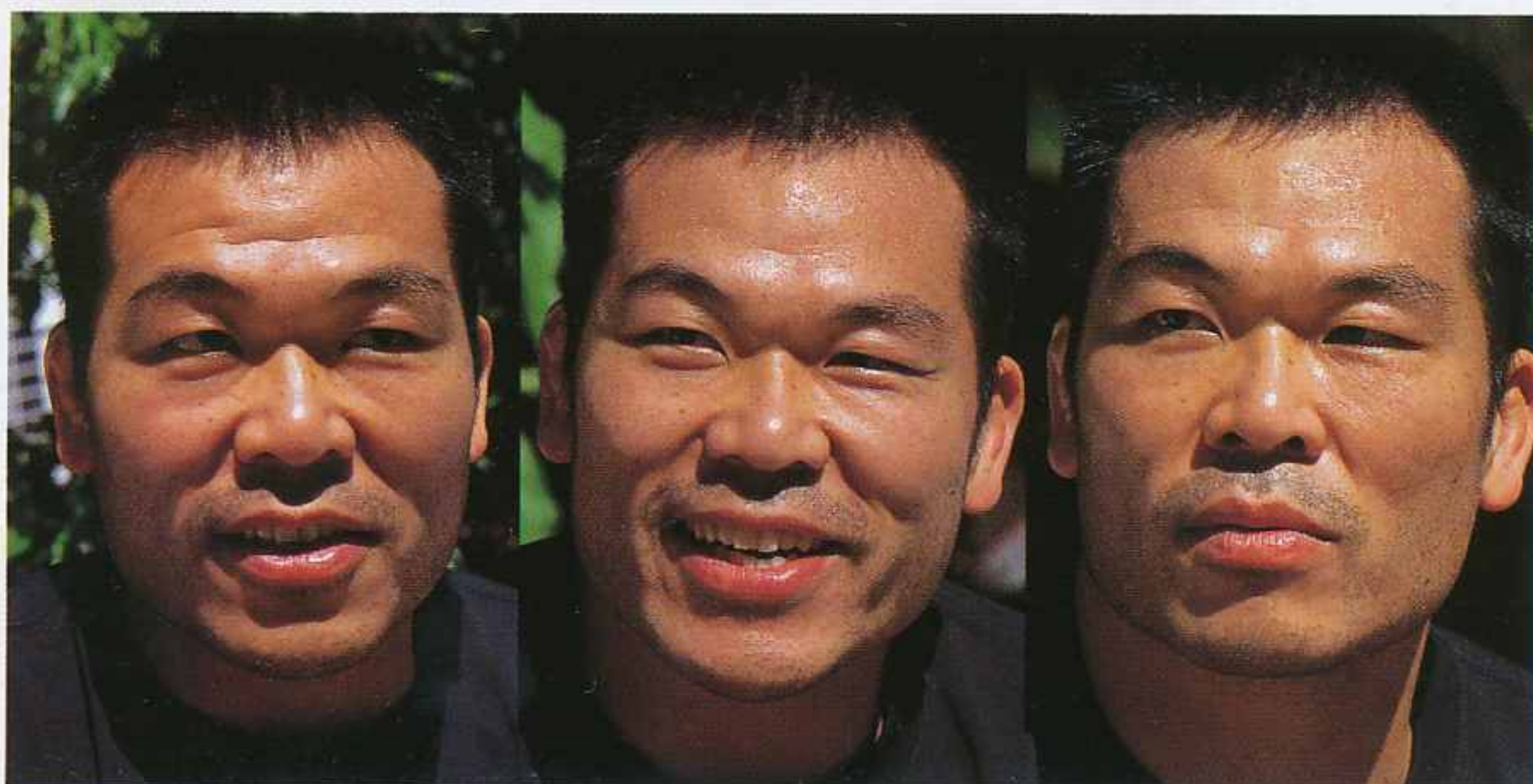
——アハハハ! G-EGGSに勧誘されましたか(笑)。

TK その辺は、お茶を濁しておきましたけどね。ハッキリ答えて本気にされちゃったら困るんで(笑)。

——では、また話をリングスUSA大会に戻しますけど、会場の雰囲気っていうのはUFCと同じでしたか?

TK 基本的には同じでしたね。

——それじゃあVTと同じようにアメリカで受け入れられることもあるわけですね?

TK そうですね。とにかくこっちは受け皿が異常にデカイんで、後は盛りつけをどうす

いまやアメリカで試合をするときには欠かせないTKの存在。ハワイ大会でも金ちゃんと滑川のセコンドとして、アドバイスを送り続けた。

あのブライアン・ジョンストンが握手を求めてきた。ＴＫはいまや世界中のファイターから尊敬されているのだ。

(リングススタイルを) 1年2年で浸透させたら、こっちのもんですね

るかとか、ハッキリ言ってそういう問題だけなんですよ。それで失敗する場合もあるし、上手くいくとおかわりがいくらでもくる状況になりえますね。そういうチャンスがある国ですから。まあ、一発目は肝心ですけど、そういう意味では今回は取りあえずは成功じゃないですか。

──ＶＴとの関係で言うと、前田さんなんかは「アメリカではどんどんＶＴが禁止になって来てるから、こういうルールの方がいいんや」ってよく言ってますけど、実際にＶＴは閉め出されてる状況なんですか？

ＴＫ　政府レベルでは、そういう話は出てるらしいんですけど、逆に受け入れられてる地区も出てきてるんですよ。例えばカリフォルニアは地方のみＯＫになったんですよね。だからＶＴも根強く残ると思うんですよ。それにアメリカ人は飛びつくのも早いけど飽きるのも早いのに、それがここまで伸びたっていうのは、大したもんだと思いますから。

──そうですよね。第１回ＵＦＣが93年ですから、もう7年ですもんね。

ＴＫ　観客を飽きさせない要因としては、ルールの変更だったりとか、試合のやり方が変わって、見てる人の意識をどんどん変えていくことに成功したっていう部分もあるんですよ。それでも最近は、「何か他のものはないもんか」という需要が出てきたんですよね。

──では、リングスはいいタイミングでアメリカに進出してきたってことですよね。

ＴＫ　だからいまは、リングスのスタイルが入ってきて、「なんだ面白いじゃねえか」って言ってるところだと思うんですよ。あとは1年か2年の間にリングスのスタイルをわかるように浸透させたら、もうこっちのもんですね。

──そうなると、高阪さんが以前言っていた「ＶＴが一段落したらウチらのスタイルが浮かび上がる」ということが、起きつつあるということですよね。

ＴＫ　だからこればかりは、選手が頑張っても受け入れる受け皿がないと話になりませんから。そのためにもある意味アメリカで成功することは、凄い重要な事なんですよ。アメリカっていう所は、一応情報の発信地と言われている所ですから、本当かどうかは知りませんけど（笑）。そこで成功したり、話題になったものはどこの国でも通用するもんだと思いますからね。

──映画なんかでも「全米ＮＯ・1」って付いたら興業収入が違いますからね。

ＴＫ　どこの全米だよっていうね（笑）。それと同じで、そうなってくると選手としてもヤリガイがあるし、自分の場合だと日本に帰って試合する時にまた違う見方をしてもらえるから、そういう部分でもヤリガイありますからね。

──試合の面で言うと、いまＶＴでは闘い方のセオリーが選手にも観客にもかなりわかってきてるじゃないですか。でも、ＫＯＫはまだどうしたら一番いいのかわかってない段階ですよね。

ＴＫ　そうですね、まだ探してる段階ですね。

──高阪さんはいま、ＫＯＫでの勝ち方のセオリーを開発してるところなんですか？

ＴＫ　いや、ＫＯＫだけじゃなくて、どうやったら勝てるかっていうのを基に練習してるだけですよ。試合では机上の空論なんて一切通用しないですから。ＫＯＫって限定して細かすぎる計算をしちゃうと、逆に余分なことを覚え過ぎちゃうんですよね。

──では、具体的にはどんなことに重点を置いた練習をしているんですか？

ＴＫ　自分がいまやってるのは、自分が持っている1個1個のパーツと勝ち方の一つを洗練させるという作業ですね。それが結果的にまとまって試合に通用すればそれで結果オーライですから。で、駄目だったら細かくじゃ

なくて全体でぼかして見ないと試合って組み立てられないんですよ。だからある程度のモザイクが必要なんですよね。ハッキリ見えすぎちゃうと、見れる部分が多すぎて見えなくなるんですよ。

――試合は一場面だけじゃなくて、全体を見るものですからね。

TK　それを上手く流動的に自分の頭の中で変えていかなきゃいけないんですよ。ある程度ぼかして全体を見ながら、なおかつパーツ、パーツでやって、ひとつの形を作る。ジグゾーパズルみたいにピッタリいかなくて、隙間は一杯あるんですけど何とか形にする状態のような作業を今やってるんですよ。結局それってどのルールでも通用する話なんですよ。ノールールだとなおさらそういうのが通用してくる時代に入ってくると思いますから。

――つまりこれからの総合格闘技は「対応力」が重要になってくるということですよね。

TK　そういうことですね。自分というものがあって、それがこういう所にもハマるし、こういう所にもハマるしっていう、そういう全体を見据えた練習をしていかないと結局、小さい選手になっちゃいますから。

――そうなると慢心して「俺はこれが出来るんだから」っていうひとつの武器にこだわる選手がこれからは取り残されるかもしれないですね。

TK　それは、もうほとんどの選手が気付いてると思いますよ。同じレベルの選手で武器がひとつの選手と二つの選手だったら、ひとつの奴の方が負けるに決まってるんだから。

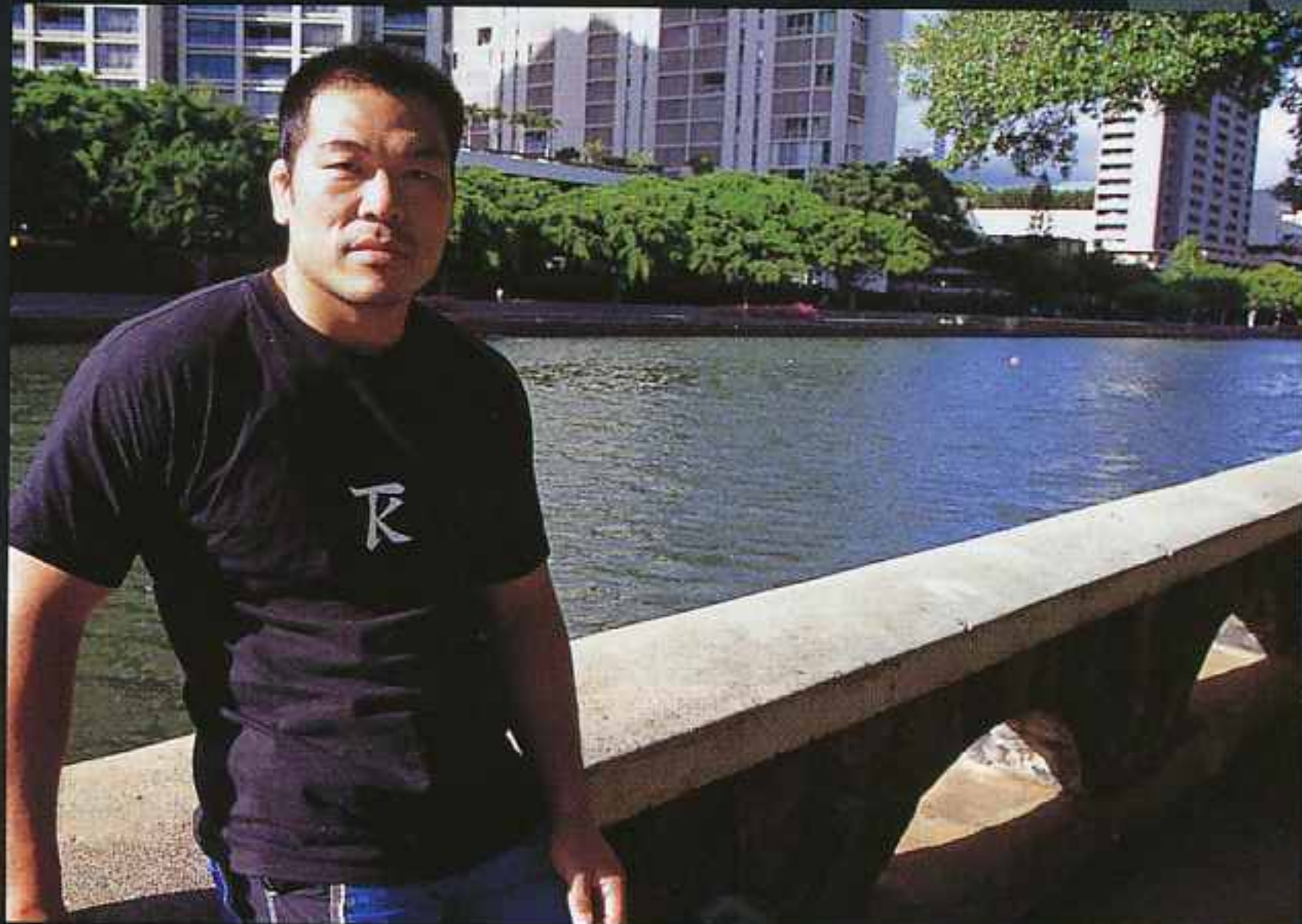
――ああ、そうですね。

TK　ただ、武器はひとつなんだけど、単純な力量の差で勝っちゃったりすると、その選手はいつまでたっても伸びないんですよ。そこが格闘技の悲しいところですね。

――いわゆる勘違いをしちゃうと（笑）。

TK　一生勘違い。そういう奴が一度負けると「俺はだめだ」って引退しちゃったりして、結局勘違いしたまま一生が終わるということになるんですよ（笑）。

――一生なぜ負けたか気付かない（笑）。

TK　対応力がなくて負けたのに「もう俺は年だから」なんて言って辞めちゃって、それでジムなんか開いて、「俺はこのやりかたで勝ち続けてきた」なんて教えちゃったりね（笑）。

――勘違いを伝授しちゃうんですね（笑）。

TK　そうなっちゃうんですよ。本当にそういう奴もいるんですよ。そういう選手には早く気付いてもらいたいですね（笑）。

――アハハハ！　早く目を覚ませ！（笑）。

TK　君は違う！　絶対違う！　それに気付かない限りはジム出しちゃダメ！（笑）。

――アハハハ！　頭の固い人はジム開いちゃダメですか（笑）。そう考えると高阪さんが練習してるジムのモーリス・スミスは本当に頭が柔らかそうですよね。

TK　もうグニャグニャですよ。柔らかすぎて腹立つときもありますから（笑）。

――アハハハ！　もうちょっと固くなれと（笑）。

TK　もうちょっと、ちゃんとやろうよっていう（笑）。この前もジムのテレビで「格闘技のルーツを探る」とかいう番組をやってたんですよ。ブルース・リーが出てきたり、クリス・ドールマンも出てましたね。

――へー、そんな番組があったんですか。

TK　いろんな格闘技がでてくる番組をやってたんですよ。それで面白そうなんだけど、俺も練習の時間だからリングに上がったんです。そしたらジムのテレビってちょうどリングの向こう側にあるから、モーリスは「邪魔だからどけ」って言うんですよ（笑）。

――アハハハ！

TK　「だけど、俺試合あるし」って言ったら、「こっちのほうが大事だろ！」って言うんですよ（笑）。

――せっかくテレビやってんのに練習なんかするな！（笑）。

TK　しょうがないから一緒にテレビ見ましたけど、ちっとも勉強にならないんですよ。結局「ブルース・リーは偉大だった」という結論で（笑）。

――アハハハ！　ありがちですね（笑）。

TK　それで帰ろうとしたらモーリスに呼び止められて、「TK、考えるんじゃない、感じるんだ」って言うんですよ。感じるにも練習できねえじゃねえか！（笑）。

――すっかりTVに感化されちゃって、いい奴ですね（笑）。

TK　そんな奴なんですよ（笑）。

――そういえば忘れてましたけど、高阪さんは肩の怪我で欠場されたんですよね？

TK　そうですね。怪我しました。

――いつ怪我をしたんですか？

TK　試合中に怪我したんじゃないと思うんですけど、去年の12月の試合（12・22大阪）の後、次の日に朝起きたら痛かったんですよ。試合の後はそこらじゅう筋肉痛になるんで、その一部かなと思って放っておいたんですね。そしたら2ヶ月経っても痛いままなんですよ。

――これはおかしいな、と。

TK　それで診てもらったら、「これはヤバイ」という状況になってたんですよ。聞いたら、ピッチャーと同じ症状だって言うんです。「肩を消耗しすぎだ」って。それから長いリハビリ生活が始まったんですよ。

――リハビリの期間はどれ位だったんですか？

TK　4ヶ月間ですね。その間毎日、子供でも引ける細いチューブをひたすら引くんですよ。

――そんなにひどかったんですか？

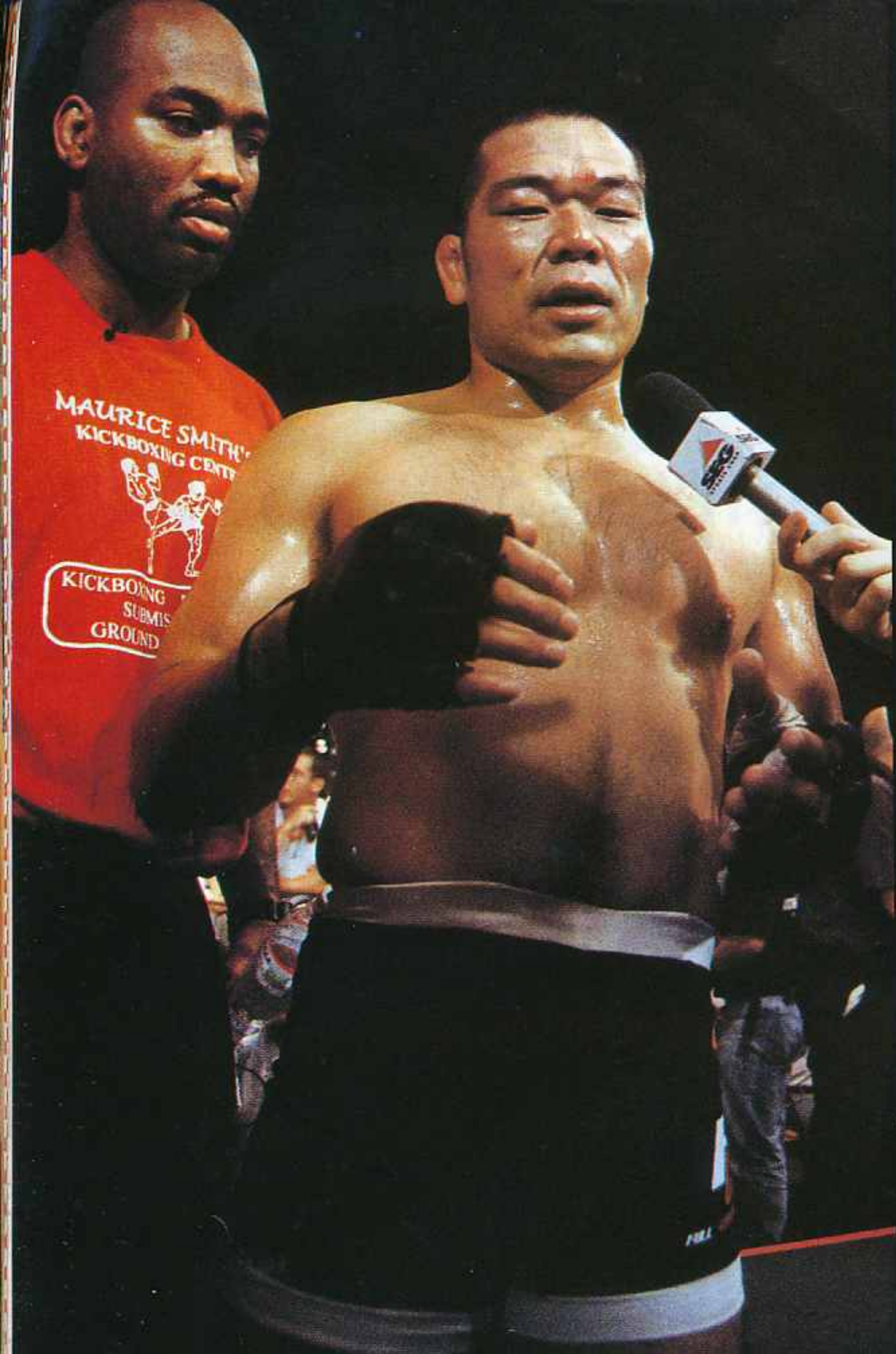
TK　しんどいですよ。それをモーリスはバカにするんですよ。細いチューブを必死に引っ張ってる自分を指さして「あのハードトレーニングを見てみろ、あれが男のワークアウトだ」とかジム生に言ってるんですよ（笑）。

――アハハハ！

TK　「どこで、その屈強なチューブを手に入れたんだ」とか言われながら4ヶ月ですよ（笑）。まぁ、4ヶ月耐えたおかげで肩は良くなりましたけどね。

――リハビリの甲斐あって。

TK　そこで良くならなかったら、「これぞ男のワークアウトだ」って一生言われてましたからね（笑）。だから今年の4月の半ばから5月の頭までウエイト器具なんて一切触れ

リハビリを「これぞ男のワークアウトだ」とモーリスに言われ続けましたから（笑）

TKの盟友モーリス・スミス。彼の明るすぎる性格なくして、いまのアメリカでのTKはなかった。9月にはまたUFCに出場予定。40歳近いはずなのに、どこまで元気なのか。日本でもまたモーリスの試合が見たい。

なかったんですよ。ベンチプレスやると痛くて、頑張っても60キロ位までだったんですよ。

——世界のＴＫが60キロですか！

TK　でもそのときはベンチプレスが触れるようになっただけでも嬉しかったですよ。それまでは、ジッとしてるだけでも痛かったし、何やってても腹が立つ程痛かったですね、猫がいたら蹴飛ばしてましたよ（笑）。

——イライラして猫に当たるほど痛かったんですね（笑）。

TK　本当にイライラしましたね。何とか気を紛らわそうとしたんですけど、練習出来ないイライラもあったし、あれでよく薬に走らなかったと思いますよ（笑）。

——そんなに重症だったとは知りませんでしたよ。ケガの度合いについては全く報道されてませんよね？

TK　とりあえず、治ってから報告しようと思ってたんですよ。話してもこっちも暗くなっちゃうし、聞いてる方も嫌だろうから、言いたくなかったんですよね。今となったら笑い話ですけど、これがもし再発したらまた……。

——これぞ男のワークアウト（笑）。

TK　今度は家でこっそりやりますけどね。2度とモーリスの前ではやりませんよ（笑）。

——ところで、高阪選手が肩の治療で休んでる間に、「ＴＫが新団体設立」なんていう噂がネットを駆けめぐってましたけど（笑）

TK　あれはどこからそんな発想が出てきたんですか？　考えた奴、おもろいですね。スターバックスのマグカップでもあげますよ。

——アハハハ！　なぜマグカップなんだ（笑）。それにしても、一時はこっちまで本気にしちゃいましたよ。

TK　大体、団体の作り方なんて自分が知ってるわけないじゃないですか。前田さんに聞くわけにもいかないだろうし（笑）。

——そりゃそうですよね（笑）。

TK　こっちは「これぞ男のワークアウト」で手一杯だったんだから（笑）。

——でも、そういう噂が出るのは、多くの人が、高阪さんに「いろいろな所に出てほしい」という潜在意識があるからだと思うんですよね。

TK　昔から、それは言われてますけどね。

——高阪さん自身としてはどうなんですか？

TK　いろんなことは、今でもやりたいですよ。ただ、とにかく今は、休んでいた間にいろいろ考えてた試合のやり方とか、休んでる間にしか出来ないことをいろいろやって、今はそれを身体に馴染ませてる状態なんで、それが上手くいったら、何か次のアクションとか起こしたいですね。試合とか、どこかのチームと一緒に練習したりだとか、そういうことはまだ全然わからないですけど、何かしらもうひとつ自分自身に刺激を与えないと、これから先伸びるのが止まっちゃうだろうし、何かが必要になってくるでしょうね。それは、自分でも薄々感づいてるし、ただ、今は行動に移す段階じゃないんですよ。まずは、休んでる間に考えてたことがあるんでひとつずつ整理していきたいですね。

——高阪さんはいまが全盛期なのか、これからが全盛期なのかボクはわからないですけど……。

TK　もう過ぎてたりして（笑）。

——アハハハ！　そんなことないでしょう。その実力的にピークの間に自分の力を広く試したい気持ちは、当然あるわけですよね？

TK　ありますね。終わってから、やっておけばよかったと思うのは、絶対に嫌なんで。終わる前に出来る限りのことはやりたいっていう気持ちはありますね。

——高阪さんは、今30歳でしたよね。少しは引退の時期とか考えることはあるんですか？

TK　終わる日？　沈む日を言えと？（笑）。

——いえ、違いますよ（笑）。そういうことも30歳になると感じてくるのかなと思ったんですけど。

TK　体力的なことは感じないですけど、やっぱり、さすがに30年も生きると、自分のやるべきことと、やってはいけないことがある程度見えてきますね。それと闘いながら、今やってるんですよ。でも実際試合でやることは、ほとんどがやっちゃいけないことなんですけどね（笑）。

——常に骨身を削ってますもんね。

TK　やっちゃいけないことをやらないと、勝てないですから、本当に。でも、そういうのは、それはそれで自分の中では消化してると思ってるんですけど、やっぱり、範囲が絞られてきてることは確かですね。前までは無限にあると思っていたものが、現実が見えてきたことは確かです。

——いくらムチャしても全然平気だったのが、最近は違ってきてるんですか？

TK　例えば、自分は高校時代、「全部食べきったら1万円」とか、そういう店を荒らしてたんですよ。

——アハハハ！　ＴＫ大食い伝説ですね（笑）。

TK　その方面では、自分はプロでしたよ、負け無しでしたから。あげくの果てには、暖簾をたたませた店もありますからね（笑）。

——恐ろしい男だ（笑）。

TK　もうそのころは「自分に食いきれないものはない」と思ってたんですよ。それがある日突然失敗しちゃったんです。餃子が食いきれなかったんですよ。その時に初めて人間の限界が見えたんですね。

——アハハハ！　餃子で人間には限界があるんだと知りましたか（笑）。

TK　それまでは俺には無限の可能性がある

と信じてたんですけど、俺にも出来ないことがあるんだと、そのとき初めて思い知らされました（笑）。

——いや、餃子で思い知らされたというのがすごいですよ（笑）。

TK　そこからですよ、ライク・ア・ローリングストーン人生が始まったのは（笑）。まあ、限界というものが見えてくると、逆に出来ることも見えてくるわけですから。だから出来ることと、やりたいことのバランスを上手くとりながら、やっていきたいですね。

——それじゃあ話は変わりますけど、高阪さんがUFCに出たり、逆にいろんな選手がリングスに出たり、いま"団体"という概念がどんどんなくなってるじゃないですか。高阪さんなんかもそれはやっぱり、格闘技界の必然的な流れだと思いますか。

TK　そうですね。ただその分だけ個人に懸かる責任も多くなるし、逆に甘えられない状況になってきてるとも言えると思うんですよ。自分自身でやらなきゃいけないことが見えてきて、それの責任を取るのは自分でしかないというのが明確になってきたのが、いまの時代なんですよ。

——そんな中で高阪選手がこれからやっていきたいことって、どういったことなんですか？

TK　まずは、今開発中の新しい武器を完成させることですね。これが完成したら、どのルールでも対応できる武器になりえるものなんですよ。

——TKシザースに続く、新たなTK殺法ですか？

TK　「殺法」っていつの時代の言葉ですか（笑）。まあ、ヘビー級の選手の課題のひとつをこの新しい武器で克服しようとしている所なんですよ。まだ4割程度の完成度なんですけどね。

——それは実に楽しみですねぇ。

TK　だてに4ヶ月間「男のワークアウト」をやってませんから（笑）。これが出来るようになれば試合のやり方もガラッと変わるし、自分自身の幅も確実に広がるんですよ。

——その武器があるだけで試合の流れがガラッと変わっちゃうんですか？

TK　変わりますね。ハッキリ言って、「あいつってあんなんだったっけ？」って言う位変わると思いますよ。

——それじゃあ、総合格闘技の技術革命を起こす位の武器を開発中なんですね。

TK　かなり大風呂敷広げてますけど、そんなに大したもんじゃないですよ（笑）。

——でもコロンブスの卵というか、斬新なテクニックって、結構そういうものかもしれませんね。

TK　細かいんだけど、よく考えると凄いよなっていうことなんですよね。これによって総合格闘技のテクニックがまた1回変わる可能性もありますよ。

——いやぁ、次に高阪選手の試合を見るのが俄然楽しみになりましたよ。では最後に9月のUSA決勝トーナメントへの意気込みを聞かせていただきたいんですけど。

TK　まあ単純に、やるからには優勝したいですね。でも単に優勝するだけじゃなくて、もう1個何かがほしいですよね。

——何かがほしいと言いますと？

TK　優勝するにしても、このアメリカという地で「アイツは凄いんだという」観客の評価をもらいつつ優勝したいですね。

——ただ優勝するだけじゃダメなんですね。

TK　ただ優勝するだけだったら、内容なんて考えなくていいんですけど、記録と記憶を両方残したいんですよ。今回のリングスUSAトーナメントはそういうことをやれるチャンスだと思ってますから。

——でも、ボビー・ホフマンみたいなデカくて厄介な相手もいますから、優勝は簡単なことじゃないですよね。

TK　そうですよ。自分が、あの4人の中で1番スモーレストですから（笑）。

——アハハ！　高阪さんはよく考えると、この化け物みたいなアメリカのヘビー級の中にいるんですよね。

TK　だから自分でもたまに思うんですよ。「こんな奴らの中でよくやってるな」って。たまに気を抜くと帰りたくなりますよ（笑）。

——アハハ！　嫌になっちゃいますか！

TK　必死に練習しても、もう生き物としての成り立ちから違う連中が一杯いるんですよ。もうそれは諦めるしかないですよね。ホモサピエンスでも別の分類だと思うしかないですよ（笑）。

——本当にそういう所でよくやってますよね。

TK　ちょっとでも甘えるとダメですね。だから自分に厳しくやってますよ。

——じゃあ、これから出てくる新しい武器に期待してます。

TK　「男のワークアウト」をやりながら頑張って完成させますよ（笑）。

——ぜひ、モーリスからは離れて開発してください（笑）。

【7月23日（現地時間）ハワイ州ホノルル／TKがエレベーターに閉じこめられたホテルのプールサイドにて収録】

KOK2000　開催日程決定！

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT2000
KING of KINGS　1回戦Aブロック

2000年10月9日（月・祝）　国立代々木競技場第二体育館　16：00ゴング！

昨年、格闘技界に旋風を巻き起こしたKOKが今年も開催されることが決定した。参加メンバーはまだ発表されていないが、昨年のKOK成功で世界的知名度が一気に増したリングス。今年は昨年以上のメンバーが集結することは間違いないだろう。なお、本誌では次号で当然のように（なんでやねん？）KOK直前特集を敢行！　お楽しみに！

今後の日程
2000年12月22日　大阪府立体育会館　　2001年２月24日　両国国技館

次号でドドーンと新作が登場!! ということは……!?

紙のプロレスTシャツ

品切間近

旧作はいまのうちにマスト・バイ!!

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉

¥3,500 SorMorL

すっかりおなじみになったプロレスTシャツのNEWスタンダード！ 花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉

¥3,500 SOLD OUT rMorL

最近、某団体も似た色のTシャツを出しましたね。こっちもカッコいいゾ！同じく花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ長ソデ〈赤〉

¥4,500 SorMo SOLD OUT

この春はこれを着てプロレス観戦に出掛けよう！ 花くまゆうさく先生・画。お買いあげの方には、もれなく特製ネックピースもプレゼント！

SS Tシャツ長ソデ〈紺〉

¥4,500 So SOLD OUT SOLD OUT

本誌のモットーであるスーダラ・スタイルを背負ってみよう！ 花くまゆうさく先生・画。お買いあげの方には、もれなく特製ネックピースもプレゼント！

リングおじさんトレーナー

¥5,500 MorL

バックのロゴに見覚えが……!? これからの季節、熱く燃えたい人はトレーナーを着てみよう！

バトTシャツ

¥3,500 SorMorL

バトラーツの全選手が登場している旗揚げ4周年記念Tシャツ!! かわいいので女の子も着よう!!

ジャイ子Tシャツ

¥3,000 MorL
ホワイトorアッシュグレー

完売御礼

通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

紙プロネックピース

¥1,200

首からブラ下げれば、みんなが振り向くこと間違いなし！ こんなにカッコいいネックピースはどこを探しても見当たらないぞ！ 長そでTシャツをお買いあげの方にはもれなくプレゼントします！

通販方法

望商品の代金＋送料¥500（何枚でも：ネックピースだけなら¥300）を現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラーをちゃんと書いてね♥）を明記したメモを必ず同封すること！ これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。隣のページのバトTシャツと一緒に申し込みもOKですよ。通販以外では『チャンピオン東京店＆大阪店』、札幌『リングパレス』、新たに仙台『スクワット』と岐阜県大垣市『バンザイ商会』で販売中なので、こちらもヨロシク！ こちらで買っても長ソデTシャツにネックピースがついてきますので、ご安心あれ。

〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
株式会社ダブルクロス
「買っていいとも!!」係まで

お問い合わせ先
(株)ダブルクロス
TEL03-3403-5188

7/16 ➡ 8/15 マット界の1ヶ月丸わかり

紙の新聞

KAMINO SHINBUN

(毎月22日発行)
発行所:(株)ダブルクロス

8月号

帰ってきたぜ〜、本紙『紙の新聞』の名付け親でもあるユセフ・トルコ(当年とって70歳、おへその下は45歳)が『紙プロ』に帰ってきたぜ〜。そのどさくさにまぎれて、このコーナーもカラーページに帰ってきてみました。では、7月8月のニュースいってみよう!

編集長/堀江ガンツ　　助手/コンドリア水戸(仮)

祝 ユセフ・トルコ復活!!

7/16 【みちのくプロレス】白河市中央体育館
"東北の英雄コンビ"が初タッグ結成。

平のプロレスラーデビュー前から、公開練習で自らトレーニング・パートナーに名乗り出るなど、早くから平の才能と可能性に惚れ込んでいたサスケ。そんな2人がこの日、"東北の英雄師弟コンビ"として初めてタッグを結成。見事、SUWA、アパッチェ組を破った。試合後ご機嫌のサスケは「平さんには、いろんなベルトに挑戦してほしい。ボクのNWA世界ミドルもかけますよぉ〜」と対戦もアピール。

【アルシオン】後楽園・浜田文子がSKYで優勝。
【GAEA】大阪IPMホール・里村が山田をフォール。チーム・クラッシュが勝利
【全女】お台場・ナナモモがラスカチョを破り、WWWAタッグ王座決定トーナメントに優勝。ナナモモ時代が遂に到来!

7/18 【プロレスリング・ノア】
ノアと吉本興業が業務協力

新団体「ノア」が関西のお笑い大国「吉本興業」と業務協力関係を結ぶことになった。これはノア・三沢社長と吉本の木村政雄(ラッシャーではない!)大阪代表の会談で合意に達したもの。全日本時代、新日本と比べると、大阪地区での動員が苦戦していたノア勢にとって、芸能、宣伝活動での吉本の全面バックアップは心強い限り。いずれは合同興行も見られるかも知れないということだが、ノアにSPWFばりに「2部リーグ」ができるという話はいまのところ皆無なのでご安心ください。

【IWA】後楽園・浅野社長生きていた。

7/19 【新日本プロレス】
破壊王、10・8東京ドームで復活か

ドラゴンの執念、遂に実る? 魔の4・12以降、手を変え品を変えながらも、ことごとく裏目に出ていたドラゴンの破壊王復活プロジェクト。その何度目かの"最後通告"がようやく功を奏した。7月8日付けの『東スポ』裏一面に踊った「橋本出ていけ」の大見出しに驚いた破壊王は、大急ぎで新日事務所に駆け付けてきたとのこと(それも情けない話だが)。

7/20 【パンクラス】
パンクラスBSデジタル放送一番乗り決定!

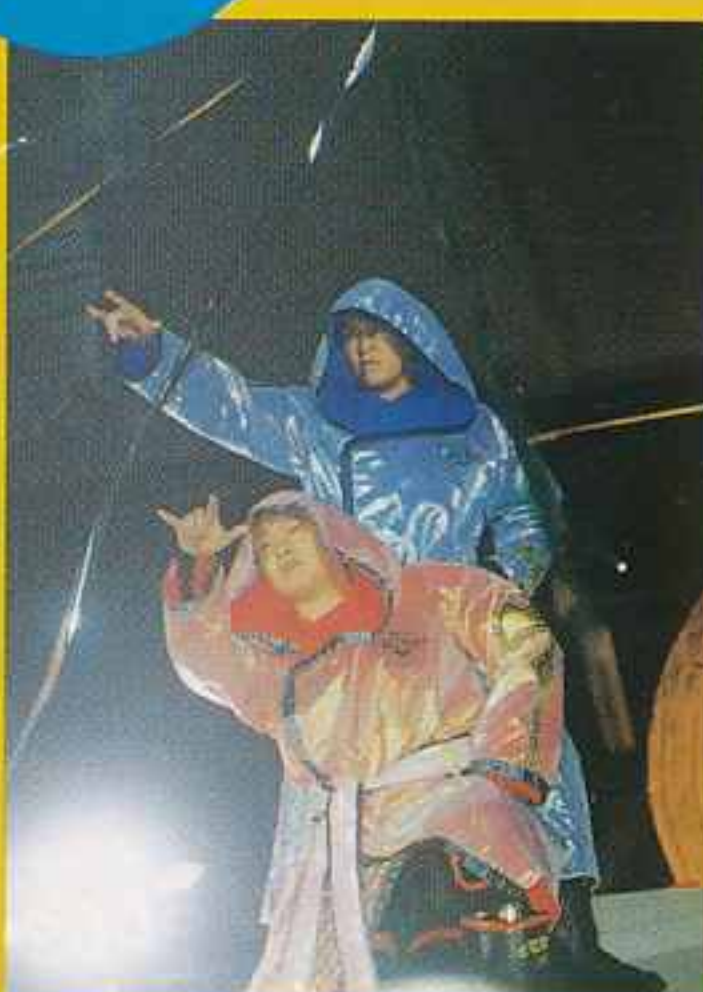
パンクラスが格闘技団体として初めて、次世代メディアBSデジタル放送での放映が決定した。今年12月に本放送が開始されるBS朝日と契約。第1回放送は、パンクラス久々の武道館大会「船木誠勝興業」。その後、2002年3月までパンクラス全体会の無料放送が決定。これは朗報だ。

【新日本】きたえ〜る・IWGPヘビー、ジュニア、タッグのタイトルマッチが開催され、全試合フィニッシュがラリアートの異常事態。【大仁田興行】ディファ　死んだはずのグレート・ニタ(葬式までやった)、またもや復活。

【全日本プロレス】博多スターレーン
一触即発? ノアとウイリアムス

ノアが全日本に参加した全体会をリングサイドで観戦、いつテロに走るかと周囲を心配させていたウイリアムスが、ノア全日ラスト参戦となるこの日、ついに三沢のいるリングに上がった。緊張感が走るリング上、ウイリアムスは三沢に歩み寄ると「いつかまた闘おう」と握手。それに対して三沢は「闘えないっちゅうの」と返答。チャンチャン。

【バト】IPMホール・平直行がカール・マレンコを破り、インディペンデント・ワールド・ジュニア王座を初防衛。"九州の有名人"アステカがjunji.comを破り「博多ライトヘビー級王座」を防衛。

7/22 【GAEA】後楽園ホール
9・15横浜、クラッシュvsアジャ&関西決定!

5・12有明で大熱狂の中、復活を遂げたクラッシュ2000。しかし、それ以降ふたりのタッグは再び封印されていたが、あれから4ヶ月、再びタッグを結成することが決定した。そうなると注目されるのは、その対戦相手。5・12がデビル&北斗という大物コンビだっただけに、下手な相手は選べない。そので浮上してきたのがJWPを離脱したダイナマイト関西とアジャ・コングの"女・超獣コンビ"。ああ見えてアジャも関西もクラッシュに憧れてレスラーになっただけに、気合いの入り方もハンパじゃないだろう。アンダーカードともども、注目の興業であることは間違いない。

7/23 【パンクラス】後楽園ホール
近藤有己、小川戦をブチ上げる!

パンクラスの新エース・近藤有己が、アメリカの強豪(?)セオドアを破り、なんと小川直也戦をブチ挙げた! サウロ・ヒベイロ戦の直後に田村戦をブチ挙げたときは「あれは船木さんが勝つことを想定したもので……」とあっさり前言を撤回し、ファンをズッコケさせた近藤だが、今回は「ヒクソンとの対戦権を賭けて闘いたい。UFOの大会に出てもいい!」と大マジ。しかし、その肝心のUFOの自主興行が『コロシアム2001』より前に開催されるのだろうか……。

【FMW】ディファ・雅央、金丸組が邪道、外道を破る。"新"ハヤブサ、1対10の理不尽マッチに敗れるも、ECWの田中将斗が救出。

7/23
【全日本プロレス】日本武道館
天龍と組んだ川田がフロント批判！

天龍の10年ぶりの復帰で16300人・超満員札止めの観客で溢れかえり、異常な盛り上がりを見せた全日本の武道館大会。特にメインは天龍とハンセンの10年ぶりのライバル対決、やたらとハッスルする新鋭モスマンが大歓声を受ける中、見事ワリを食ったのが川田。エースとなって初の武道館でブーイングまで浴びた川田は試合後、「俺がなぜいまさらタッグを組まなきゃならないのか」会社批判。三沢たちはそれで辞めたのに……。次号、川田とは何か？　続行——ッ!!

7/25
【新日本プロレス】
蝶野、例によって爆言！

長州VS大仁田の4日前、東スポに掲載された蝶野のコメントがあまりにも素晴らしかったので、勝手に紹介したい。「長州は新日本所属レスラーではなく役員。だから長州のセコンドは選手ではなく、あの金に汚い役員どもが全員で務めるべきだ。そして、オレが背後から奴等を電流爆破地獄に突き飛ばしてやる。役員連中の断末魔の叫びをBGMに、オレは放送席のマイクから全国のお茶の間に、役員一人ひとりの悪事を全部バラしていくって寸法だ。まるでハングマンだな」蝶野最高！　……っていうか、東スポの高木圭介記者最高！

【アリストトリスト】蝶野（というかマルティナ夫人）が渋谷にアリストトリストをオープン。　【UFO】オーちゃん、近藤の対戦アピールに「近藤って誰？」とつれない返事。

7/26
【新日本プロレス】
長州vs大仁田「電流爆破」決定！

「絶対に許さん！」「あり得ない！」と社長であるドラゴンが断言すればするほど、逆に実現してしまう、不思議な会社・新日本プロレスリング。今回の電流爆破も当然ドラゴンは断固反対の姿勢を当初から貫いていたが、大方の予想通り社長の主張は無視される形となった。この無念の決定に対してドラゴンは「この件に関しては興行会社として仕方がないと割り切っています……。すべて実行委員長（永島取締役）に任せてあるし……。火薬なんかも大仁田側が用意してくれるんだよね」と、つぶやくばかり。すねるな、ドラゴン!!

【日本相撲協会】充子夫人大喜び！　魁皇、大関昇進決定。

7/28
【PRIDE・10】帝国ホテル
佐竹、アントンに新日勢との対戦を直訴

遂に決定した石沢の「PRIDE」出場。その記者会見がこの日行われたが、そのに乱入したのが佐竹雅昭。佐竹はアントンの前に立つと「猪木さん、佐竹です！　新日本の選手と闘わせて下さい！」と直訴。当然アントンは「やれんのか——ッ!!」と張り手のひとつでも喰らわすと思いきや、突然のことでビックリしたのか「即答は出来ませんけど、確かに聞きました」とまるで素で返答。「やっぱり新日本と言えば猪木さんですから、猪木さんにお願いしました」と、佐竹にも無視されたドラゴン。社長なのに……。

【全日本プロレス】馬場元子夫人が遂に全日社長に！

7/30
【新日本プロレス】横浜アリーナ
長州復活！　邪道終焉？

試合が決定された当初は、盛り上がるのかどうか不安視する意見も少なくなかったのだが、横浜アリーナは18000人来場の超満員札止め。あのアンダーカードからして実質上の1マッチでの観客動員と言えるだろうから凄い話である。その盛り上がりっぷりだけは文句ナシに素晴らしかったことは皆さんもご承知の通りだろう。試合の方は、記録としては長州の大完全勝利となり、ストロングスタイルの恐ろしさを、今さらながらに痛感（いろいろな意味で）した次第である。"2年7カ月ぶりの長州力は、鬼のように怖く、鬼のように強かった。" byGK。

【NEO】後楽園・八木、元気美佐恵を破るも不安を残す内容。田村が京子を破り、8・24アメリカでデビー・マレンコとの対戦が決定。

【全日本キックボクシング】後楽園ホール
レフェリー、力道山ジュニア！

ノアが格闘技と遭遇！　この日、ノアの副社長・百田光雄が全日本キックのヘビー級5回戦・大石亨vs鈴木ミツル戦の特別レフェリーとして登場。これは「ヘビー級を裁くには、がたい負けしないレフェリーが必要」という全日本キックからのオファーがあってのもの。百田が登場するとリングアナは「レフェリー、力道山ジュニアァ～、百田ぁ～みつ～お～」とコール。このわかりやすさには観客からも声援。一部で百田コールまで起こった。

7/31
【新日本プロレス】渋谷・新日本プロレス事務所
ドラゴン、破壊王にG1押しつける

短期間での地獄のシングルマッチ連戦が売りの新日本夏のビッグイベント『G1クライマックス』。そんな過酷なトーナメントに、最近は試合数もめっきり減ったドラゴンが無謀にも出場するとなって注目されていたが、当のドラゴンは突如「橋本が出たいなら、G1出場を譲る」と仰天発言。さらに「G1に出たい」などと一言も言っていない破壊王に「悩むより荒波にもまれろ！」とさらに追い込みをかけた。考えようによっては自らその荒波を回避しているようにも聞こえるが……。

【全日本】渕がG1殴り込み宣言

8/1
【新日本プロレス】新日本プロレス道場
ドラゴン、「藤波、長州vs小川、橋本」をブチ挙げる！

全日本との交流が決まってもいない内から、「橋本が迎えうつ」と勝手に発言するなど、毎度毎度、無防備な先走り発言をしがちなドラゴンが、またもや仰天プランをアピールした。それが「藤波、長州vs小川、橋本」戦である。「元の鞘に納まる」という長州の発言を無視し、「長州の肉体は大仁田用のモノじゃない。出撃準備OKのサインと受け取った」と勝手な解釈をし、「小川と引退する前に闘いたいし、橋本の闘志も確かめたい」と自らの欲望を何の根回しもなく、相変わらず不用意にマスコミに喋るドラゴン。鶴田戦不発の教訓がまるで活かされてない……。

8 2
【新日本プロレス】新日本プロレス道場
健介、渕を迎撃発言「G1に来い!」

健介 渕よ来い!! 両国に来れるものなら

現IWGPヘビー級チャンピオン佐々木健介が、今や全日本のNo.2となった渕に対して「度胸があったらG1に来い」と発言。しかし、元はと言えば、新日の永島取締役企画部長が「7・23武道館を見に来い」という渕からのメッセージを、うやむやにすっぽかした経緯があるだけに何とも理不尽な話である。永島～健介とくれば、当然「現場監督の長州も待っている」(永島・談)だけに、どうやら長州が言っていた「有り得ないことが起こる」とは、これのことだと思われる。蝶野は「やるなら渕vs永島だ!」と素敵な夢のカードを提案。

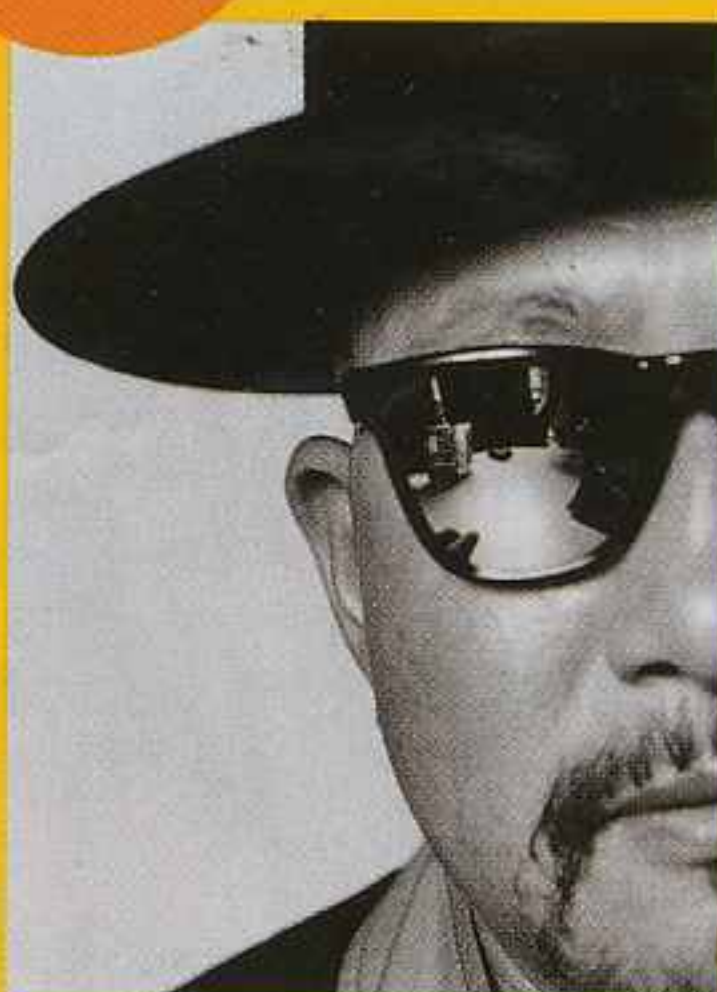
8 3
【UFO】成田・新東京国際空港
アントン、近藤をハエ呼ばわり(?)

この日、ロスに出発したアントンが、マット界の話題を次々とブッタ斬った。まず長州vs大仁田については「意見する気もない」と完全無視し、ドラゴンが提唱した「長州、藤波組vs小川、橋本組」については「何度も言うがピントがズレてるのかな…」と一蹴。そして「小川の周りにハエがブンブン飛んでるようだけど、踏みつぶせばいいんじゃないの。ンムフフフ」と近藤をハエ呼ばわり。これには尾崎社長も「ウチの選手をハエ呼ばわりするなんて……(涙)。命がけで闘っている選手に僕はこれくらいしかしてやれない」と訴訟の準備を開始した……という話はまだない。

8 5.6
【プロレスリング・ノア】ディファ有明
ノア旗揚げ! 主役は秋山準

ノア最強 小橋も失神 秋山

「自由と理想を求めて」ノアが遂に出航した。チケットは即完売、会場の外に急遽大型モニターを配し、その前にも1300人のファンが群がるという最高の船出であった。当日発表となった対戦カードのメインは三沢&田上対小橋&秋山と予想できる範囲内のカードだったが、開始2分で三沢をフロントネックロックで失神させた秋山準の姿は圧巻であった。この男がノアの主役に躍り出たことは一目瞭然であろう。翌日には小橋まで失神させ、今後の秋山の動向にはぜひとも注目したい。会場のライティングやコスチューム、さらには田上の入場テーマが「仁義なき戦い」に変わっていたことが今風だったのかどうかは各自の判断にお任せ。

8 6
【どさんこプロレス道場・元気】
ワカマツが高田との合体を熱望!

「俺の手相はサイババと同じ!」と断言する、宇宙パワーの使い手、将軍KYワカマツこと、北海道芦別市議会議員・若松市政氏が町おこしのために、格闘技選手の夏季の合宿地として、芦別市を売り出すアイデアを思いついた。若松氏は『PRIDE』復帰に向けて北海道合宿を計画している高田をさっそく勧誘。もし、これが実現したらサクラバ・マシンの入場を拡声器を持ったワカマツが先導するという夢のようなシーンも現実味を帯びてくる。高田の英断に期待。

【大阪】村浜がD・東郷にフォール負け。【JWP】後楽園 C・ボリショイが輝優優を破り第7代JWP無差別級王者に。【バンバンビガロ】チョロ、またもやキャットファイト出場

8 8
【新日本プロレス】
ドラゴンがまたもや破壊王にエール

「橋本よ13日G1決勝を両国へ見に来い」 藤波 再度呼びかけ

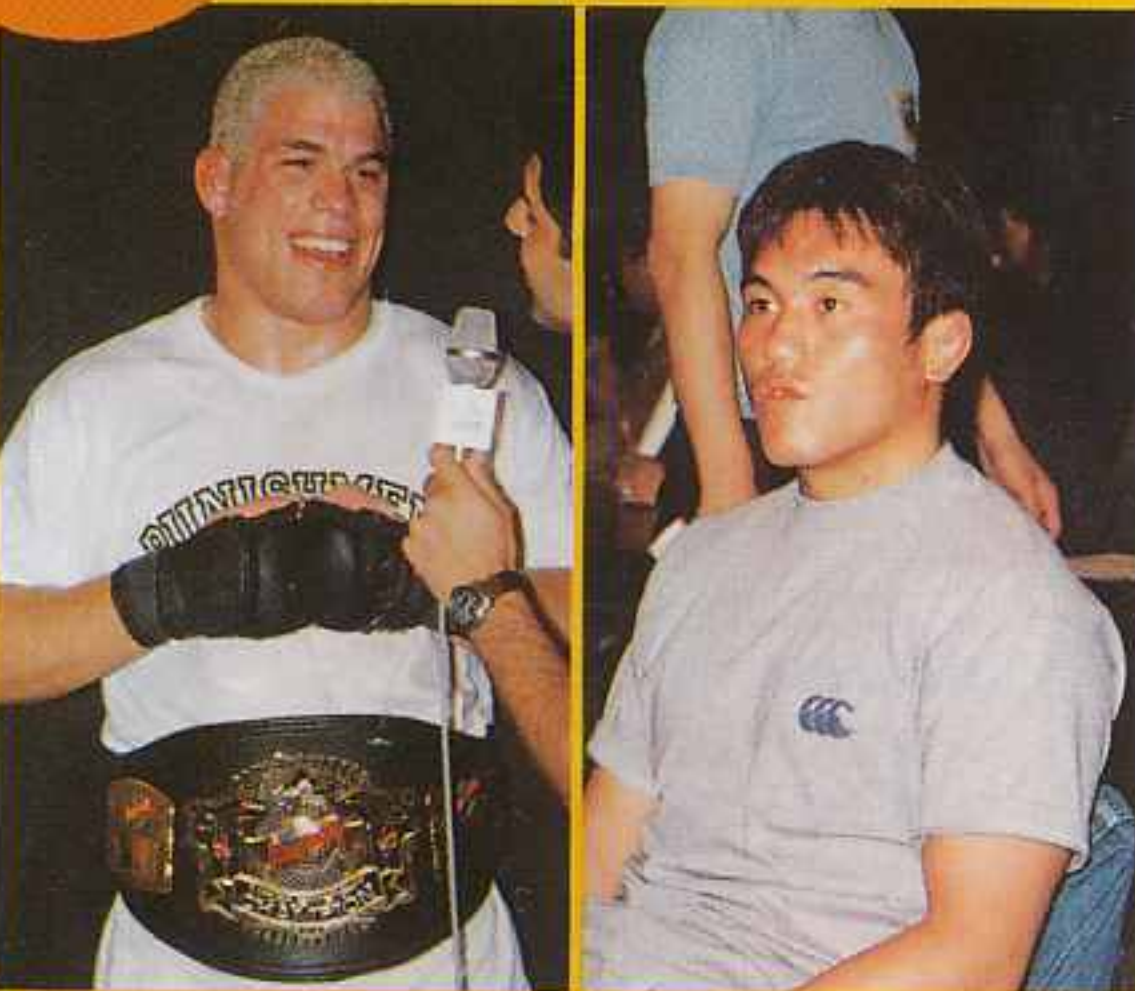
破壊王の復帰が決定しない限り、もはや社長業など何一つ手に付かない状況になっているのではないかと思われるほど、口を開けば破壊王復帰問題しか語らないこのところのドラゴン。これまで数々の復帰大作戦が失敗に終わっているにも関わらず、「アイ・ネバーギブアップ」の精神で、またもや新たなプランをブチ上げた。それは「破壊王のG1観戦」。例によって、闘いの現場を見せて橋本をその気にさせようというものだが、その作戦は『コロシアム2000』で失敗済み。それを忘れたドラゴンではあるまいが……。

【新日本】10・9ドームで永田vs長州実現か!?

【新日本プロレス】
大仁田が長州との全日出場を熱望!

大仁田 長州と全日へ

あの伝説の横浜アリーナから9日後、長州戦でたくさんの傷とともに長州イズムを体に刻み込んだ(本人・談)大仁田が、長州に向けて「オレと組んで全日本に殴り込もうぜ」と何とも奇想天外な考えを暴露した。長州イズムとは何なのか、いまいちピンと来ないのだが、大仁田は長州と2人で猪木イズムを蹴っ飛ばすつもりでいるらしい。長州も試合後に大仁田にエールを送っていただけに、とにかく大仁田と長州が何かを感じ合ったことは確かなようである。大仁田は早期決断を求めているようだが、再び革命戦士が復活してしまうのだろうか。

8 9
【UFC】
近藤がティトのUFCミドル級王座に挑戦か!?

パンクラスの新エース、近藤有己が9月22日に米・ニューオーリンズ、もしくはフィアデルフィアで"UFCの悪童"ティト・オーティズの持つ、UFCミドル級王座へ挑戦することが濃厚となった。ヒクソンの一番弟子であるサウロ・ヒベイロを秒殺KOするなど、実力的にはヒクソン挑戦に充分値するものの、知名度の点で劣る近藤にとってはUFC王者の金看板挑戦は願ってもないチャンス。王者ティトはバイク事故で重傷を負っており、その回復状態が未知数。対戦が中止となる波乱も含んでいるが、実現さえすれば手負いのティトを近藤がKOする可能性は大いにありえる。はたしてどうなるか。

【新日本プロレス】広島サンプラザ
越中宣言!「優勝するって!」

蝶野 不覚

猛暑でも誰よりも熱く、誰よりも元気な我らが越中。今年も優勝候補には例によって優勝候補には全くあげられていないものの、威勢の良さだけは全参加選手ナンバー1であった。そんな越中がこの日、永遠のライバル(と思いこんでいる)蝶野と激突。なんと"やるってボム"で爆勝! 期待通り「優勝するって!」と優勝宣言が飛び出すも、この後とりこぼすのも予想通り。

【新日本】広島・健介、ヒロの場外心中で無念のドロー。

8/10 【新日本プロレス】
破壊王、110万羽の千羽鶴に号泣

スポーツバラエティ番組『スポコン』内で、破壊王ファンの少年ふたりが中心となって進めていた「橋本真也34歳、千羽鶴100万羽集まったら即復帰スペシャル」。それがついにこの日、フィナーレを迎えた。全国から集まった折り鶴約110万羽を目の当たりにした破壊王は号泣。「無責任な発言はできないけれど、ボクの心にしっかりと火がついた」と復帰宣言とも言える発言を行った。これまで何をやっても破壊王の心に弱火ひとつ灯せなかったドラゴンの立場は……。

【PRIDE・10】村上とジャイアンが舌戦

【FMW】太田エースホテル
冬木vsハヤブサの"放電爆破"決定

9月21日札幌・月寒ドーム大会で『15000V放電爆破金網サンダーボルトデスマッチ』で冬木とハヤブサが対戦することが決定した。FMWがまたもや社運を賭けた一戦となるだけに、冬木が昨年の11月の横浜アリーナでの放電金網マッチで田中に敗れ、ゴミ収集車に乗せられてFMWから追放された時以上のインパクトを与えてくれるデスマッチになることだろう。それにしても、本当にこれ以上やったら死ぬんじゃないかと思ってしまう今回の史上最凶デスマッチ決定なのであった。

8/11 【新日本プロレス】両国国技館
渕、出現！ 長州と歴史的握手

以前から宣言していた通り、渕がG1に姿を現した。一瞬、これが渕？ と思えるほどの格好良すぎるアジテーションを披露し（これはぜひとも映像でチェックして頂きたい）、長州と歴史的な握手！ 握手した際には、長州が「やるなら徹底的にやろう」と話していたらしいが、Uインター、邪道デスマッチに続いて、王道スタイルまでストロングスタイルで叩きツブしてしまうのだろうか？ 乱入してきた蝶野と罵りあい、天山に蹴りを見舞う長州を見ていると、ヒクソン戦はどうした！と突っ込みたくなってしまうことしきりなのであった。

【新日本プロレス】
ジョンストン、侍マニアだった

『G1クライマックス』に外国人で唯一参戦したブライアン・ジョンストンが、サムライ・マニアだということが発覚した。親日家で日本の歴史に興味を持つジョンストンは、巡業の合間に城めぐりや、刀を見に行っているという。もちろん新日本で城といえば、我らがドラゴン。当別待遇のごとく来日頻度が高いジョンストンの秘密は、単にドラゴンを趣味が合うからという説は飛躍しすぎだろうか……。（ちなみに刀も好きな彼氏、リングス参戦もあるか？）

8/13 【新日本プロレス】両国国技館
G1クライマックス健介が制す

ストロングスタイルの有力後継者候補である佐々木健介が、10年目のミレニアムサマーとなった今年ののG1クライマックスで優勝。決勝戦となった中西戦は、5分間もチョップのみを打ち合い、さらにはラリアットでの我慢比べを展開するストロングスタイル全開の一戦であった。それにしても、佐々木のG1制覇といい、7月の札幌でもタイトルマッチの3試合全てがラリアットで決着したり、横浜アリーナで長州が復活したりと、ウエイト至上主義が大ブレイクした2000年の新日本プロレスの夏だった。

【紙プロ】山口日昇、「中西vs西村はこの夏のベストバウトだ！」と絶叫。

8/16 【プロレスリング・ノア】
カッキーがノアを電撃退団!!

旗揚げが成功したばかりのノアに激震！ 旗揚げ第2戦を欠場し、その後の行動が注目されていたカッキーの「円満退社」がこの日、明らかになった。いまだ垣原は公の場に姿を現していないが、旗揚げ戦でのグローブ着用を見る限り、格闘系のリングに上がることは明白。はたしてカッキーが次に上がるリングはリングスかパンクラスかプライド、UFCか!?

8月14日【全日本】9・2武道館に「元子シート」設置が決定。
8月15日【新日本】蝶野が渕を9・2武道館で制裁予告。
8月16日【全日本】川田が注目発言「健介と統一戦やってもいい」
8月17日【ノア】旗揚げシリーズ『NAVIGATION』（10・7ディファで開幕）にベイダーの参戦が決定。初のビッグマッチ10・8横浜文体では誰と闘うのか!?
8月17日【大仁田】大仁田厚が嘆願書を片手に、全日本8・26後楽園に来場を予告。

番外編 【上田馬之助氏を支援する会・金狼会】
上田馬之助のホームページがリニューアル

金狼フリークにはたまらない『馬之助ファイトクラブ』リニューアルのお知らせ。以前から開設されていたホームページが、上田馬之助とファンとのふれあいの場、さらには上田馬之助に関する新情報を掲載する場としてリニューアルするというのだから、金狼ファンには感涙もののホームページとなることだろう。是非、一度ご覧下さい。熱狂的ファンが気にして止まない、馬之助VS西濃運輸の情報までも上記HPで確認できてしまいます。
http://www.umanosuke.net

番外編 【パワーオブドリーム】
グラップリング協会設立

ヤマケンの夢が遂に実現。とは言っても、田村戦が決定したわけではなく、『日本グラップリング協会』を設立したことなのだが、その設立を記念して、全ての格闘技を対象とした「第1回全日本グラップリングオープントーナメント」が開催される。判定無しの完全決着、場外落下による失格、グローブ未着用での顔面拳打ありの、超アグレッシブルールを採用し、優勝者には賞金30万円を用意し、参加希望選手を広く募集中。9月29日、フジタヴァンテホール（東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15）にて、午後5時試合開始。お問い合せは、パワーオブドリーム事務局 03-5734-5354（担当、大城）まで。大会当日、ヤマケンの口からビッグプランの発表があるそうなので、期待して待て！

自腹やぞ自腹!!

堀江ガンツ特派員の

ハワイ土産大プレゼント

アロハ～～！（後ろから某格闘家に蹴られプールに転落するガンツ）バシャ～ン！（びしょ濡れになりながら）読者のみなさん、残暑お見舞い申し上げます！ みなさん、今年の夏はどこかへ行きましたか？ ボクは会社のお金でハワイに来てます！（この本が発売される頃には日本だけど）まあ、お土産くらいは買っていかないとバチが当たるので買いましたよ。オモチャ三昧！ すべて自腹やぞ、自腹！ もってけドロ……ハッ、ハッ、ハックション！

ケイン&ストーンコールドキーホルダー

セットで1名様

これはハワイのオモチャ屋さんで買ったキーホルダーというか、キーチェーンです。これはカッコいいです。サイフに付けてもピアスにしてもいいね。でも後ろの商品リストに載っているセイブルとベイダーの方が良かったな。

HAKフィギュア

1名様

(HAK？ つーかお前誰だよ！)

あのサンドマンのWCW時代のキャラ「HAK」フィギュア。HAKはあまりブレイクしなかったらしく、今はECWに出てるそうです。以上、アメプロとノアにはうるさい（イビキも）スモーノブ情報でした。はぁ～、どすこい！

12インチやで!! ストーンゴールド巨大フィギュア

1名様

ハワイのオモチャ屋で定価の半額で買ってきたストーンコールド巨大フィギュア。日本では既にかなりの値が付いてるみたいです。ボタンを押すと「エン・ザッツア・ボトムラァ～イン・コズ・ストーンコールド・セッドソー！（それだけは覚えておけ！ なんたってストーンコールドがそう言ってるんだからな）」とのキメ台詞が鳴り響きます。

某格闘家提供USEDフィギュア

セットで1名様

リングスUSA大会の会場前で開催していたフリーマーケットで入手したフィギュア五体。左からザ・ジャイアント&ビッグ・ボスマン&ハリウッド・ホーガン&リック・スタイナー&ダイヤモンド・ダラス・ペイジです。キズあり、程良い汚れありとハワイキッズによって五体はかなり不満足になってます。それでも欲しいって奴にくれてやる！

レア物をハワイで発掘!! WWFビンテージフィギュア80's

セットで1名様

これもフリマで入手したキマラ&ヨコヅナ、そして今は亡きオーエン・ハートのフィギュア三銃士。今号の『書評の星座』で取り上げている『20世紀プロレス格闘フィギュア大全』にも、このフィギュアは載っていたが、今ではかなりの値段になってるぞ。「ウェルダンよりレアがいい」というアナタに三体まとめてプレゼント！

ジャイアント・キマラ

ヨコヅナ

オーエン・ハート

残念賞

1名様 **パワーウォリアーサインボール**

堀江ガンツのハワイ土産プレゼントに応募してくれた読者で、抽選の結果、残念ながらハズレてしまったアナタに「パワーウォリアー」サインボールを送りつけます！（強制的に）

ハリウッド・ホーガン&ゴールドバーグスキンステッカー

セットで1名様

(いわゆるタトゥーシール)

いまハワイの若者の間ではプロレスラーのタトゥーを入れるのが大流行！（嘘）。勇気がない奴はこのタトゥーシールで我慢しなッ！

誰か訳してクレアラシル！

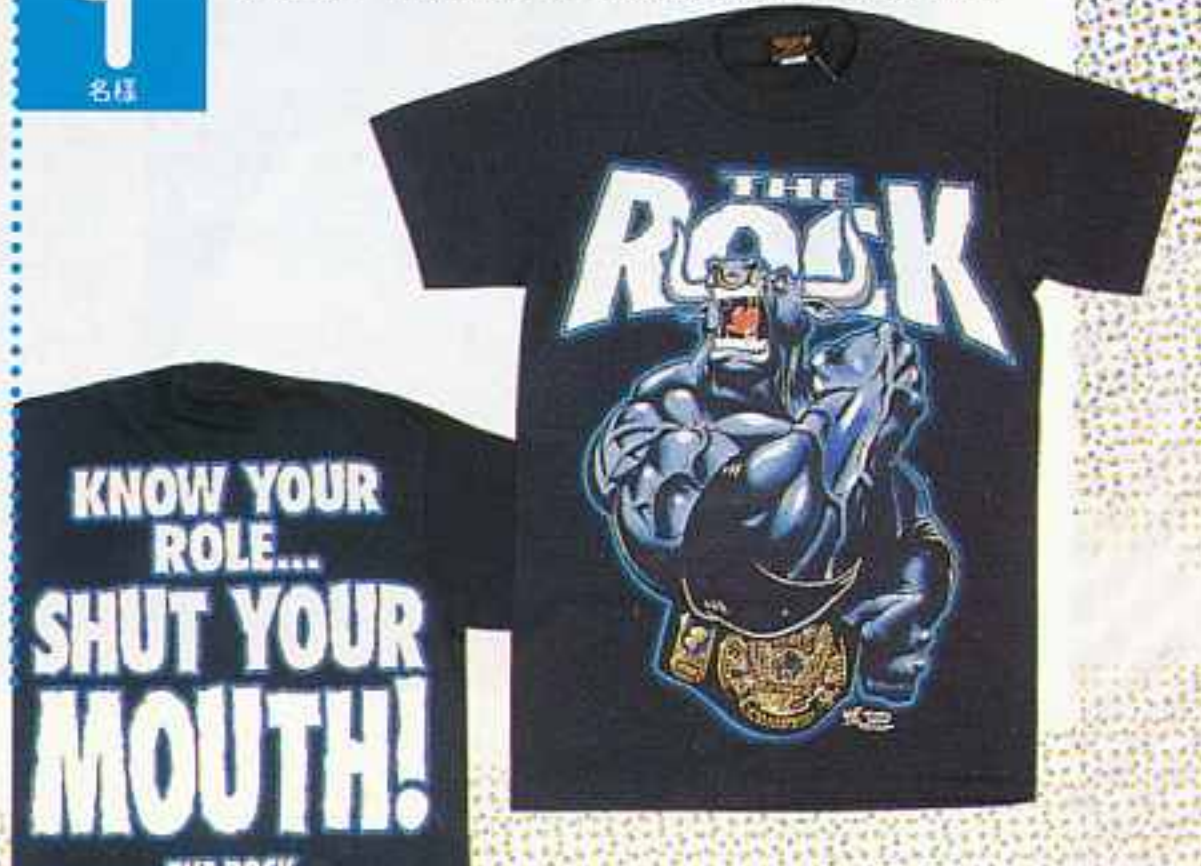
セットで1名様

ハワイで売ってたプロレス&格闘技雑誌を片っ端から買ってきました。向こうの読者イラストはみんなアントニオ文朱級のインパクト！ 『紙プロ』にも投稿してくれハワイアン！

ロック様Tシャツはどう？

1名様

このTシャツはアメプロ好きのスモーノブへのお土産でした。スモーも「メチャかっこいいでごわす」と喜んでくれましたが、やっぱりスモーにはSサイズは無理がありました。

こっちは自腹じゃないのよ、

キラー読者プレゼントーア カマタ

深い意味は全くありませんが、ハワイ繋がりで…

前号の読プレ担当のジャイ子は「有刺鉄線が刺さった」だの「体重が6キロ増えた」だの、しまいには「死にたいです」と、『キム・ドクブレ』ならぬ『キノ・ドクブレ』状態。んなこたぁどーでもいいんだよ！　今回はチョロと新人の水戸泉（仮）の弱小タッグが男臭い『紙プロ』編集部からお送りするアロハ・オエ～な読プレコーナー！

フィギュアは続くよ、どこまでも…。人形大戦争勃発！

WCW4点セットで 1名様

ブレット・ハート
クロスボー・アーセナルとアタック・アロウズが付いてるぜ！

ゴールドバーグ
ナイトロ・パワー・ガウントレット（武器）が付いてるぜ！

スティング
モーフィング・ケーブとスティンガー・ミサイル付きだぜ！

ケビン・ナッシュ
パワーボム・キャノンとジャックナイフ・ミサイル付きだぜ！

WWF6点セットで 1名様

ビリー・ガン
俺の相棒はどこ行った？　ジャパンにいねえか？

ロード・ドッグ
WWFフィギュアに投票しねえ奴は、サックイット！

スティーブ・オースチン
早くこの箱から出してくれ！　窮屈でしょうがねぇ

アル・スノー
俺の額には「ヘルプミー」と書かれてる。助けてぇ！

ビッグ・ボスマン
オイ、俺様がビッグ・ボスマンだぜ！　よろしくな！

ケイン
俺の素顔が見たいんだったら、応募してきやがれ！

WCW 4点セット、WWF 6点セットを各1名・計2名にプレゼント。どちらか希望の団体名を必ず明記して応募して下さい。お問い合せ：埼玉県越谷市越ヶ谷1-16-12吉田ビル２ＦTOTAL TRAING CENTER闘魂ＧＹＭ内『ＳＰＥＡＲ』☎0489-20-3710まで

なんだコノヤロー！

限定 1名様

アントニオ猪木「なんだコノヤロー！」フィギュア
リアルなアントンフィギュアが登場ダーッ！　維震軍ファンのせき詩郎さんではないが、猪木信者なら、ディスプレイ用（未開封＆開封）、保存用、遊び用、携帯用、棺桶用、加工用と最低でも７個は揃えたい逸品。しっかり耳はカリフラワーになってます。どーですか、お客さん？　買いますかーッ！　お問い合せは、ＧＳＰ☎03-5358-2871まで　【ＧＳＰ提供】

8.27『PRIDE.10』サク、ヘンゾ戦5秒前！

各 1名様

桜庭リストバンド カラー／オレンジ・ネイビー・ミントブルー
サクのニューグッズのリストバンドは高田道場とＫＩＮＧのみの限定販売！　価格は3.800円です。高田道場ではグッズ注文専用電話がオープン。ナビダイヤル（0570）008800　携帯電話専用03（5750）5350まで【高田道場提供】

セットで 10名様

サクポスター＆ポストカードセット（非売品）
格闘技テーマパークへようこそ！　見どころ盛り沢山のこのテーマパークで１番高いクオリティを誇るアトラクションは何と言ってもサク！　主役はやっぱりサクしかいないでしょう！　大会記念ポスターとポストカードはどちらも非売品。　西武ドームも思ったほど遠くないので、みんなでサクを見に行け！　【ＤＳＥ提供】

UFOグッズは連鎖する（上から）

このＴシャツを着れば何時でも臨戦体勢！

各 1名様

村上一成NEWＴシャツ（サイズL）
オリャー！『PRIDE』だろうが、新宿プロレスだろうが“何時何時”（いつ何時）臨戦態勢！　やりたい相手は特にナシ！　熱くなれれば相手は誰でも関係ナシ！　けど、ジャイアント落合は眼中になし！　ロックウエストでも絶賛発売中！　軽～いタッチで着て下さい。　オリャー！
【ＵＦＯ村上一成提供】

今しかないぞ！　急げ!!

8・6『ＣＦＧＰ2000』も大成功の『バンバンビガロ』から大会限定Ｔと新作２プラトーンＴをプレゼント。お問い合せ＆ビガロ情報は☎03-3460-1145、ホームページアドレスhttp://www.bambam88.com/まで【バンバンビガロ提供】

2プラトーンＴシャツ（サイズS 1名様）
2プラトーンの合体パイルドライバーを着ろ！　カラーは他にイエローもあるよ。

2プラトーンＴシャツ（サイズL 1名様）
バンバンビガロとPUNK DRUNKERSのダブルネームです。カラーは白もあり。

CFGP2000限定Ｔシャツ（S&L各 1名様）
アッという間に完売のビガロ興行限定Ｔシャツ。クロネコさんも着て下さい。

邪邪邪邪邪邪邪！

長州対大仁田　限定品セット（セットで 2名様）
試合後に殴り合いの喧嘩が起こるなど会場の盛り上がりだけは、文句ナシに素晴らしかった長州対大仁田戦の限定大会パンフと、要望書と嘆願書まで商売にしてしまった邪道魂溢れる２枚組テレカはこれまた限定商品！　セットでどう邪？　【チョロ＆水戸泉（仮）提供】

ペプシなのか？　UWFなのか？　それが問題だ！

スネークピットジャパンＴシャツ（サイズL 1名様）
君も蛇の穴で強くならないか？　高円寺まで通えないとお嘆きの、そんなあなたにプレゼント　【スネークピット・ジャパン提供】

インテリジェンスなアナタに！

デストロイヤーマスク（3名様）
モデルの戸成ぶつぞうＪｒもショッカーみたいと大喜び！　デストロイヤー直筆サイン入りマスクはどうデス？【ザ・デストロイヤー提供】

次は和田良覚Ｔシャツ作りますかーッ？

島田裕二Ｔシャツ（S&L各 1名様）
なんと、あの島田レフェリーのＴシャツが出た！　しかもどっかで見たような？　ロックウエスト＆バト会場で発売中！【島田裕二提供】

着て見て触ってキャミソール！

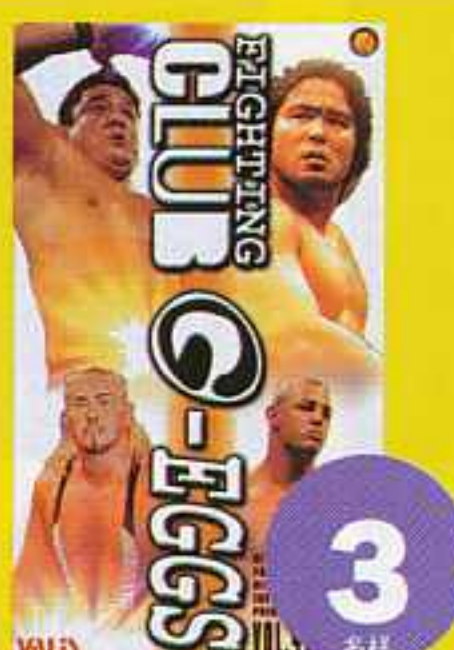
タイガー・ジェット・シンキャミソール（各 2名様）
大人気のジェットシンキャミ魂（ソウル）の新カラーが登場！　ポイントは光り輝くラメッ！　HAOMINGグッズはチャンピオン東京＆渋谷クアトロ内ブレーンバスターで売ってます。
【HAOMING提供】

読書の秋！　水沢アキ！

1・2の三四郎2（1～4巻）（セットで 1名様）
伝説のあのマンガが、講談社より文庫サイズで絶賛発売中！　しかも各巻の巻末で、アレクが三四郎への熱い思いを激白！　絶賛！　断言！　宣言！（各巻帯より）みんなアレクに続けーッ！
【アレクサンダー大塚提供】

『クマと闘ったヒト』（5名様）
『書評の星座』で紹介されているので、読みたい人も多いはず。『ダ・ヴィンチ』で連載していた中島らもとミスター・ヒトのかなり危ない対談本。注釈は吉田豪なのでそれだけでも読む価値あり。　【ダ・ヴィンチ提供】

ここで一句。レンタルを返しそびれて4万円！　ああ悲しきエロ人生（チョロ）

武藤敬司NBM V SPECIAL5&6（セットで 2名様）
試合はもちろん、サムライでお馴染みだったトーク・バトルは見どころ一杯。今やすっかりお馴染みの永島部長、さらにはドラゴン、山ちゃん、小鉄とそれだけでも充分魅力的なメンバーに加えて、なぜかミスター・プライド小路晃と対談したり、どういう訳か寺尾聡と「映画論、役者論」を熱く語ったり、藤村俊二から「生きる術」を伝授されたりと気になりまくりのメンバーと繰り広げられるトーク・バトルは必見！
【ヴァリス提供】

G－EGGS特集（3名様）
永田、中西、吉江、ジョンストンと何かと気になるメンバーを擁する新日対外部隊G－EGGSのこれまでの闘いを一挙収録！　その中でも群を抜いて面白すぎる中西の野性っぷりはもちろん必見！　それだけでもお腹いっぱいになることは確実！
【ヴァリス提供】

『PRIDE.9』（2名様）
断言します！「アイブルは『PRIDE』では勝てません！」という日明兄さんの言葉が現実となった記念碑的１本です！　このビデオに関するお問い合せは、☎03-5469-4880　メディア・ファクトリーカスタマーセンターまで
【メディアファクトリー提供】

ベスト・オブ・ザ・スーパーＪｒ　1&2（セットで 2名様）
史上最高のリーグ戦と言われた今年の「スーパーＪｒ」の好勝負を収録！　現在の新日本の代名詞とも言えるであろうラリアットプロレスを遺憾なく発揮して、見事に優勝を奪取した高岩をはじめ、大谷、金本等がライガー不在でも世界最高峰の新日ジュニア勢を高らかに誇示。バトラーツから田中稔、臼田勝美が、みちプロから藤田穣も参戦。『PRIDE.』参戦で注目のケンドー・カシンの試合も２試合収録
【ヴァリス提供】

TEAM2000スペシャル（3名様）
蝶野が渋谷に自身ブランドのショップをオープン！　このショップのオープンにより、蝶野の年収は１億円（推定）となり、見事『ファイト』の１面を長州対大仁田戦から奪取！　１億円プレイヤー蝶野正洋率いる、黒の軍団の今までとこれからの展望をメンバーが語るインタビュー収録　【ヴァリス提供】

越中ＶＳ高田3大死闘（2名様）
かたや新日魂、後に維新魂、そして維震軍解散。かたやＵＷＦスタイル、後にキングダム・スタイル、そしてキングダム倒産と、あまりにも共通しあう２人の死闘の数々が復刻！　これが本物の格闘プロレスだ！　世界に誇る新日ジュニア勢の原点がここにある！　見ろって！
【東芝ＥＭＩ提供】

紙のプロレス RADICAL
NO.30
2000年9月25日発行
No.31は9月下旬発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
坂井“スモー”ノブ
松澤チョロ
堀江ガンツ
水戸泉（仮）
八木賢太郎（チョロの前歯が見つからないので非番）

スーパーバイザー
吉田豪

広告営業
佐藤恵美

助っ人
中村愚乱
金田謙太郎

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツ（腰痛のため非番）
村松さん
グッチー（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）
海老澤勇（Zero Graphics）
古賀ゆきえ

カメラマン
斉藤ユーリ
遠藤政文
森鷹博
黒田史夫
戸成ぶつぞう
松本崇
吉場正和

試合写真
平工幸雄
乾晋也
片岡正行

お勘定
林ヘックション一枝

悲しきスクールボーイ
中村カタブツ君（37歳）

ジャイ落の妹
ジャイ子

フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社　〒160-8580　東京都新宿区内藤町一番地　TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元●株式会社ダブルクロス　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　TEL.03-3403-5188（編集・制作）

編集内容に関するお問い合せは（株）ダブルクロスにするん邪！　あばよ！

プレゼント応募方法

こんにちは。新人の水戸泉（仮）です。次号から僕が読プレを担当します。どんな読プレが欲しいかハガキに書いて下さい。前向きに検討します。あと、僕の名前はいつまで（仮）が付いてんだ。誰か名付け親になって！

①郵便番号
②住所
③電話番号
④氏名
⑤年齢
⑥職業
⑦希望商品
⑧面白かった記事＆その理由
⑨つまらなかった記事＆その理由
⑩あなたが『紙プロ』を読みはじめたのは何号からですか？（ちっちゃい頃の『紙プロ』も含む）

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
「紙プロRADICAL」編集部
「あなたは常識人？」係まで
※締切は9月20日です

RADICAL 30 応募券

TLINDEX

団体名	電話番号	住所
全日本プロレス	03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
プロレスリング・ノア	03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
新日本プロレス	03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F
リングス	03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202
WAR	03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F
みちのくプロレス	019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル
パンクラス	03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
大日本プロレス	045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
DDT	03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
高田道場	03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワイルドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F
大阪プロレス	06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	078-362-0707	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り5-3-18
ダイプロデュース(大仁田興行)	03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-28-3 ハイラーク五反田505
世界のプロレス	093-203-5170	〒807-0054 福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6
掣圏道	03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607
レッスル夢ファクトリー	03-5828-8494	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11
キングダム・エルガイツ	0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1
国際プロレス	0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
メビウス	03-5382-6991	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15
つぼプロモーション	03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F−E
華☆激	092-522-1901	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302
喧嘩プロレス二瓶組	044-588-2410	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル
ZIPANG	0427-54-8851	〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106
T.A.M.A	042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
栗栖ジム	06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	03-3552-6300	〒104-0033 東京都中央区新川2-3-9 新川第二ビル
K−1事務局	03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	03-3961-2704	〒173-0001 東京都板橋区本町34-4 石田コーポラス501
WK/Network(和術慧舟會、A^3GYM、RJW)	03-5200-3546	〒103-0021 東京都中央区日本橋石町3-3-11 山田ビル5F
シュートボクシング協会	03-3843-1212	〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1〜3F
UFC−J事務局	03-3343-2444	〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30F
怪獣王国	03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム事務局	03-3432-1682	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
LLPW	03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105
GAEA JAPAN	03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F
Jd'	03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-10 国際溜池ビル7F
アルシオン	03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F
NEO	03-5452-0344	〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-2-22-101

♪オレ〜はジャイア〜ン
か〜なりでぶ〜♪

ジャイアン・リサイタル、8・27西武ドームにて決行!!

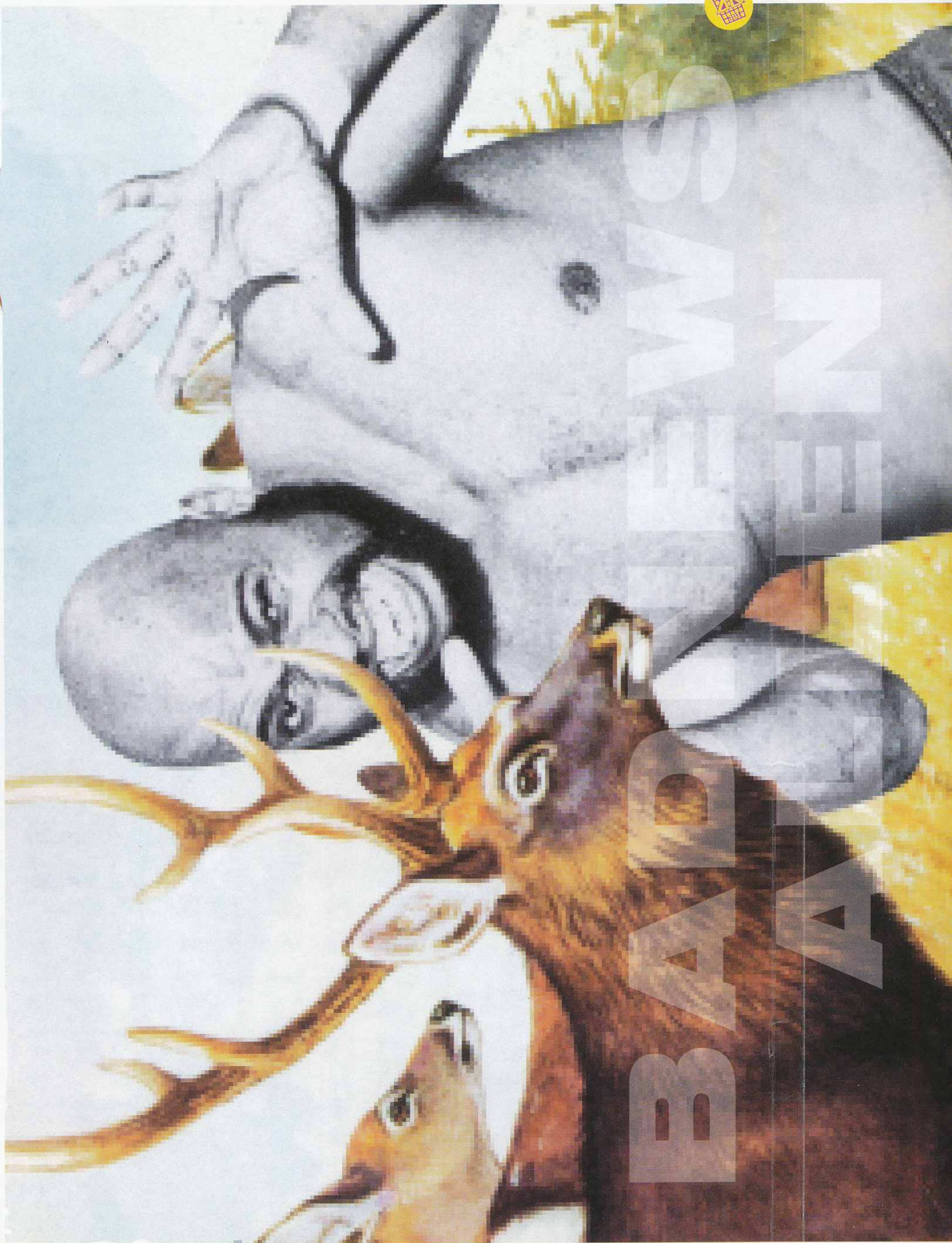
BADNEWS ALLEN A FILM BY DAVID LYNCH

A CIBY 2000/ASYMMETRICAL PRODUCTION A DAVID LYNCH FILM
BADNEWS ALLEN WAHOO MCDANIEL ABDULLAH THE BUTCHER PATRICIA ARQUETTE WITH JOE PESCI AND HEATHER GRAHAM
MUSIC COMPOSED AND CONDUCTED BY ANGELO BADALAMENTI AND HARUOMI HOSONO EDITED BY BEAT TAKASHI PRODUCTION DESIGNER A.D.S DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY MASAYUKI SHIODA
CASTING BY BRET HART C.S.A. AND ROLAND BOCK PRODECED BY DOUBLE CROSS CO,.LTD WRITTEN BY DAVID LYNCH & ANTONIO INOKI DIRECTED BY DAVID LYNCH

DOLBY SYSTEM

"BADNEWS ALLEN" 劇場公開用ポスター 非売品 個人蔵

格闘芸術 劇場版『BADNEWS ALLEN』by Antonio Design Service

BAD NEWS ALLEN

CAL CALENDAR

全女■香川・高松国際ホテル別館大ホール(18:30)
アルシオン■富山・東富山体育館(18:30)

10 SUN.

新日本■静岡・浜松市体育館(15:00)
FMW■埼玉・本川越ペペホール「アトラス」(18:00)
全女■愛媛・銅夢にいはま(18:30)
アルシオン■富山・魚津市総合体育館(13:00)

11 MON.

新日本■新潟・新潟市体育館(18:00)
アルシオン■富山・石川県産業展示館2号館(18:30)

12 TUE.

新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
JWP■東京・東天紅上野店(19:00)

13 WED.

新日本■仙台・宮城県スポーツセンター(18:30)
アルシオン■秋田・秋田市立体育館(18:30)

14 THU.

DDT■東京・北沢タウンホール(19:00)

15 FRI.

新日本■千葉・幕張メッセ国際展示場10ホール(18:00)
バトラーツ■東京・TOKYO　FMホール(13:00)
FMW■埼玉・熊谷市民体育館(17:00)
大日本■東京・後楽園ホール(12:30)
ノア■東京・ディファ有明(18:00)◎
GAEA■神奈川・横浜文化体育館(16:00)◆
修斗■東京・後楽園ホール(18:00)□

16 SAT.

新日本■名古屋・愛知県体育館(18:00)
ノア■東京・ディファ有明(18:00)

17 SUN.

新日本■神奈川・相模原市総合体育館(18:30)
FMW■東京・ディファ有明(18:30)
大日本■神奈川・川崎市体育館(18:00)
レッスル夢ファクトリー■福岡・天神ベストホール(15:00)
T・後藤一派■岩手・北上市和賀田町催事場(15:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール(18:30)

18 MON.

アルシオン■群馬・伊勢崎市民体育館(18:30)

20 WED.

全女■徳島・池田町体育館(18:30)

21 THU.

FMW■札幌・月寒グリーンドーム(18:30)
DDT■東京・渋谷clud　ATOM(19:00)
アルシオン■岩手・北上市和賀多目的催事場(18:30)

22 FRI.

FMW■北海道・旭川大成市民センター体育館(18:30)
NEO■東京・板橋産分ホール(19:00)
掣圏道■大阪・なみはやドーム
WWS■栃木・佐野市運動公園体育館(18:30)
アルシオン■宮城・仙台市体育館第2競技場(18:30)

23 SAT.

バトラーツ■東京・ディファ有明(18:00)★
レッスル夢ファクトリー■東京・板橋産分ホール(17:30)
闘龍門■岐阜・高山マウントエース(18:00)

24 SUN.

パンクラス■神奈川・横浜文化体育館(16:30)
バトラーツ■静岡・アクトシティ浜松(16:00)
ノア■京都・KBSホール(15:00)

25 MON.

バトラーツ■三重・四日市オーストラリア記念館(18:30)
闘龍門■新潟・新潟フェイズ(18:30)
ノア■大阪・大阪府立体育館第二競技場(18:00)

26 TUE.

FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
バトラーツ■兵庫・神戸サンボーホール(18:30)
WWS■富山・高岡市テクノドーム(18:30)

27 WED.

バトラーツ■岡山・卸センターオレンジホール(18:30)

28 THU.

バトラーツ■福岡・アクロス福岡(18:30)
DDT■東京・渋谷club　ATOM(19:00)

30 SAT.

バトラーツ■愛知・名古屋レインボーホール第3競技場(17:00)
全女■東京・後楽園ホール(18:30)
GAEA■埼玉・本川越ペペホール「アトラス」(17:00)
●青空プロレス道場■東京・西武百貨店池袋店イムルス館8F池袋コミュニティカレッジ(18:30)

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモーノブ
♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江
♥ ジャイ子
□ 水戸泉(仮)

格闘芸術ピンナップとは?

「格闘芸術」とは、アントニオ猪木が提唱する、「闘い」を芸術の域にまで高めようという21世紀のプロレスの新コンセプト。格闘が昇華して芸術になるのならば、逆もまた真なり。というわけで、「芸術」を通じて格闘しているアーティストと、その作品を紹介していくのが「格闘芸術ピンナップ」だ!　というわけで、今回は本誌のコラム扉イラストを始め、様々な媒体で活躍中のADS(アントニオ・デザイン・サービス)の登場だ!

ADS(アントニオ・デザイン・サービス)プロフィール■グラフィックデザイナー。フリーペーパー「BOCK」編集長。ファイナル・ホーム、ツモリ・チサト、クラッチ等のお洒落系な仕事多数。キャプテン・ファンク、リトル・クリチャーズ等の今風な仕事多数。某選手のコスチューム、某団体及び某選手のTシャツ、某団体のパンフレット等、紙プロ的にOKな仕事多数。最近、初代総長のゴキータが脱退、現在所属選手はジェリー鵜飼のみ。で、作品の説明は特に無し。何も考えてません、まぁ、こんな映画があったら観たいなぁ。それだけです。

●はイベント情報です。

8 August

24 THU.

大日本■愛知・ニュー武豊ホール(18:30)
DDT■東京・渋谷club　ATOM(19:00)
闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)
●Jd'スポーツ教室■神奈川・Jd'道場(19:00)コーチ:KAZUKI
●島田裕二プロデュース「『PRIDE』とは何か?」■東京・渋谷ロックウエスト(19:00)ゲスト:島田裕二、谷川貞治、山口日昇(入場無料)

25 FRI.

全日本■新潟・長岡市厚生会館(18:30)
大日本■兵庫・名谷天然温泉湯あそびひろば(18:30)
GAEA■東京・後楽園ホール(19:00)

26 SAT.

全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
FMW■宮城・宮城県スポーツセンター(18:00)
大日本■広島・呉広公園(18:30)
アルシオン■埼玉・本川越ペペホール「アトラス」(17:00)
●青空プロレス道場■東京・西武百貨店池袋店イムルス館8F池袋コミュニティカレッジ(18:30)

27 SUN.

全日本■京都・醍醐グランドドーム(17:00)
パンクラス■大阪・梅田ステラホール(16:00)
大日本■岡山・津山鶴山(15:00)
バトラーツ■東京・TOKYO　FMホール(13:00)
DSE『PRIDE10』■埼玉・西武ドーム(16:00)★
掣圏道■仙台・宮城県スポーツセンター(時間不明)
大阪■大阪・岸和田CanCanスポーツドーム(19:00)
T・後藤一派■神奈川県・相模原市インディープロレス道場(14:00)
wws■埼玉・深谷市上柴中央公園(15:00)
修斗■神奈川・横浜文化体育館(16:00)□
JWP■東京・秋葉原駅昭和通り特設リング(14:00)
Jd'■東京・ディファ有明(18:30)
アルシオン■神奈川・横須賀米軍基地THEWGYM(非公開)

28 MON.

FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
●Jd'スポーツ教室■神奈川・Jd'道場(19:00)コーチ:高橋洋子

29 TUE.

全日本■兵庫・神戸サンボーホール(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
バトラーツ■群馬・かまだ屋本店特設リング(18:00)
闘龍門■大阪・ベイサイドジェニー(19:30)
全女■茨城・水戸市民体育館(18:30)
●Jd'スポーツ教室■神奈川・Jd'道場(19:00)コーチ:ザ・フライデー

30 WED.

掣圏道■北海道・帯広市総合体育館(時間不明)
アルシオン■岐阜・サンライフ中津川(18:30)
全日本女子■茨城・取手ふれあい通りセントラルグループ敷地特設会場(19:00)
LLPW■東京・後楽園ホール(19:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)
●Jd'スポーツ教室■神奈川・Jd'道場(19:00)コーチ:ファンク鈴木

31 THU.

全日本■静岡・ツインメッセ静岡(18:30)
栗栖ジム■大阪・大阪府立体育館第二競技場(18:00)
掣圏道■札幌・月寒グリーンドーム(時間不明)
DDT■東京・渋谷club　ATOM(19:00)

9 September

1 FRI.

全日本■千葉・市原市臨海体育館(19:00)
ZIPANG■東京・板橋区立産文ホール(19:00)
アルシオン■愛知・蒲郡市体育センター(18:30)

2 SAT.

全日本■東京・日本武道館(18:00)
キングダム■神奈川・川崎市体育館(17:00)
LLPW■神奈川・横浜文化体育館(18:00)
アルシオン■神奈川・茅ヶ崎青果市場(18:00)

3 SUN.

二瓶組■神奈川・横浜クラブヘブン(17:30)
T.A.M.A.■神奈川・横浜クラブヘブン(13:00)
JWP■東京・後楽園ホール(12:30)
アルシオン■静岡・アクトシティ浜松(13:00)

4 MON.

IWA■東京・後楽園ホール(18:30)

5 TUE.

リングス■東京・後楽園ホール(19:00)◆
UNW■東京・北沢タウンホール(18:30)♠
新宿プロレス■東京・東京大飯店8F大ホール(19:00)

6 WED.

掣圏道■名古屋・愛知県体育館(時間不明)

7 THU.

FMW■福井・福井市体育館(18:30)
バトラーツ■東京・後楽園ホール(18:30)◎
DDT■東京・渋谷club　ATOM(19:00)
アルシオン■石川・七尾総合市民体育館(18:30)

8 FRI.

全女■香川・坂出サティーホール(18:30)
アルシオン■石川・ラ・フォルト4Fダイヤモンドホール(19:00)
●島田裕二プロデュース「『beginning』とは何か?」■東京・渋谷ロックウエスト(19:00)ゲスト:モハメド・ヨネ、日高郁人

9 SAT.

新日本■栃木・黒羽町民体育館(18:30)
FMW■静岡・ツインメッセ静岡(18:00)
全女■香川・
アルシオン■

10 SUN.

新日本■静岡
FMW■埼玉・
全女■愛媛・
アルシオン■

11 MON.

新日本■新潟・
アルシオン■

12 TUE.

新日本■東京・
JWP■東京・

13 WED.

新日本■仙台・
アルシオン■秋

14 THU.

DDT■東京・北

15 FRI.

新日本■千葉・
バトラーツ■東京
FMW■埼玉・熊
大日本■東京・
ノア■東京・ディ
GAEA■神奈川・
修斗■東京・後楽

16 SAT.

新日本■名古屋・
ノア■東京・ディ

17 SUN.

新日本■神奈川・
FMW■東京・ディ
大日本■神奈川・
レッスル夢ファクト
T・後藤一派■岩手
GAEA■東京・後
アルシオン■東京・

18 MON.

アルシオン■群馬・

20 WED.

全女■徳島・池田町

21 THU.

FMW■札幌・月寒
DDT■東京・渋谷cl
アルシオン■岩手・

22 FRI.

FMW■北海道・旭
NEO■東京・板橋産
掣圏道■大阪・なみ
WWS■栃木・佐野市
アルシオン■宮城・